

木古内町

札 蒔 6 遺 跡

— 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

札 蒔 6 遺 跡

— 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1. 調査状況



2. 斜面調査状況

口絵 2



1. 竖穴住居跡（縄文時代中期）



2. 竖穴住居跡（縄文時代後期）



1. 土坑群



2. 土坑断面 (P-70)



3. 土坑断面 (P-69)



4. 土坑 (P-47)



5. 土坑 (P-55)

口絵 4



1. 土製品・石製品



2. 土器（縄文時代前期～後期）

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行う高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成23（2011）年に発掘調査を実施した木古内町札苅6遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、第1調査部第3調査課（平成23年度）が担当した。
3. 整理作業の担当は、阿部である。
4. 現場の写真撮影は土肥・阿部・富永、遺物の写真撮影は第1調査部第1調査課 吉田裕吏洋が行った。
5. 石器などの石材鑑定は、過年度の調査出土遺物などを参照して土肥・阿部・富永が行った。
6. 本書の執筆は、土肥研晶・阿部明義・富永勝也が行い、編集は阿部が担当した。
7. 各種分析・同定は下記に委託した。
 - 黒曜石原材産地分析：(有)遺物材料研究所
 - 炭化種実同定：(株)古環境研究所
 - 放射性炭素¹⁴C年代測定：(株)加速器分析研究所
8. 調査にあたっては、下記の諸機関および人々のご指導、ご協力をいただいた（順不同・敬称略）。
 - 北海道教育庁生涯学習推進局文化財博物館課
 - 木古内町教育委員会 木元 豊
 - 北斗市教育委員会 森 靖裕、三上順之
 - 函館市教育委員会 野村祐一
 - 七飯町教育委員会 山田 央
 - 森・鷲ノ木ストーンサークル研究会 夏坂幸彦
 - 北海道考古学研究所 横山英介

記号等の説明

1. 遺構は以下の記号によって表記し、発掘調査順に番号を付した。

「H」：竪穴住居跡

「HP」：住居跡の土坑・柱穴状小土坑 「HF」：住居跡の炉・焼土

「P」土坑・土坑墓 「SP」：柱穴状小土坑 「F」：焼土

「FC」：フレイクチップ集中

2. 遺構図には方位記号を付した。方位は真北を示す。発掘区の基線（北-南、アルファベットライン）は真北に対して西偏10度52分である。レベルは標高（単位m）を示す。
3. 遺構の規模は、「確認面での長軸×確認面での短軸／底面での長軸×底面での短軸／厚さ（深さ）」の順で記した。一部破壊されているものや不明確なものについては現存長を「（ ）」で、不明のものは「-」で示した。
4. 掲載した遺構図等の縮尺は原則的に以下のとおりとした。また変則的なものについても随時スケールを入れている。

遺構実測図 1：40

遺物出土分布図 1：100 遺物出土詳細図 1：20または1：10

土器実測図・拓影図 1：3 （一部の大型土器は1：4）

剥片石器実測図 1：2 礫石器実測図 1：3 （一部の大型石器等は1：4）

土製品・石製品 1：2

5. 石器実測図中で、敲打痕はV-V、すり痕は|←→|で範囲を表した。
6. 遺物写真の縮尺は原則的に以下のとおりである。
土器 約1：3 剥片石器 約1：2 礫石器 約1：3 土製品・石製品 約1：2
7. 出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に略記号やシンボルマークで示した。
8. 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。
A+B：AとBが同量混じる。 A>B：AにBが少量混じる。
A≫B：AにBが微量混じる。
9. 土層の色調には『新版標準土色帖』19版（小山・竹原1997）を使用し、カラーチャートの番号を付したものがある。また、土層の記述には下記の記号・略称を用いた場合がある。

Ko-d：駒ヶ岳d降下火山灰

B-Tm：白頭山-苦小牧火山灰

目 次

口絵

例言・記号等の説明

目次

挿図目次・表目次・写真図版目次

I 章. 緒言	1
1. 調査要項	
2. 調査体制	
3. 調査に至る経緯	
4. 調査の方法	
(1) 発掘区の設定 (2) 発掘調査の方法 (3) 整理作業の方法	
5. 遺物の分類	
(1) 土器等 (2) 石器等 (3) その他の遺物	
6. 調査結果の概要	
II 章. 遺跡の環境	9
1. 遺跡の立地と環境	
(1) 位置と地名の由来 (2) 遺跡周辺の地形・環境	
(3) 地割れ	
2. 土層	
(1) 土層の区分 (2) 暗赤褐色土層 (Ⅲ層) について	
3. 周辺の遺跡	
III 章. 遺構の調査と出土遺物	19
1. 竪穴住居跡	
2. 土坑	
3. 柱穴状小土坑	
4. 焼土	
5. フレイクチップ集中	
6. 遺物集中	
7. 埋設土器	
8. フローテーション法による微細遺物の調査	
IV 章. 包含層の出土遺物	167
1. 包含層の遺物出土状況	
2. 土器等	
3. 石器等	

V章. 自然科学的分析・鑑定	249
1. 札苺6遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析	
2. 木古内町札苺6遺跡における炭化種実同定	
3. 札苺6遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	
VI章. まとめ	273
1. 遺構と遺跡形成過程	
2. 遺物	
引用・参考文献	
写真図版	279
・現地調査状況	
・出土遺物	

報告書抄録

挿図目次

図 I - 1 遺跡の位置と調査範囲……………	2	図 III - 38 H-13……………	68
図 I - 2 発掘区設定図……………	3	図 III - 39 H-13出土の遺物……………	69
図 I - 3 遺構位置図……………	7	図 III - 40 土坑 (1) P-1 ~ 4……………	92
図 II - 1 地割れ……………	10	図 III - 41 土坑 (2) P-5 ~ 9……………	93
図 II - 2 調査区土層断面 (1)……………	13	図 III - 42 土坑 (3) P-10 ~ 15……………	94
図 II - 3 調査区土層断面 (2)……………	14	図 III - 43 土坑 (4) P-16 ~ 20……………	95
図 II - 4 調査区土層断面 (3)……………	15	図 III - 44 土坑 (5) P-21・29 ~ 32……………	96
図 II - 5 調査区土層断面 (4)……………	16	図 III - 45 土坑 (6) P-22 ~ 28……………	97
図 II - 6 周辺の遺跡……………	18	図 III - 46 土坑 (7) P-33 ~ 36……………	98
図 III - 1 H-1 (1)……………	20	図 III - 47 土坑 (8) P-37 ~ 40……………	99
図 III - 2 H-1 (2)……………	21	図 III - 48 土坑 (9) P-41 ~ 45……………	100
図 III - 3 H-1 出土の遺物 (1)……………	22	図 III - 49 土坑 (10) P-46 ~ 50……………	101
図 III - 4 H-1 出土の遺物 (2)……………	23	図 III - 50 土坑 (11) P-51 ~ 54……………	102
図 III - 5 H-1 出土の遺物 (3)……………	24	図 III - 51 土坑 (12) P-55 ~ 58……………	103
図 III - 6 H-1 出土の遺物 (4)……………	25	図 III - 52 土坑 (13) P-59 ~ 62・64……………	104
図 III - 7 H-2 (1)……………	28	図 III - 53 土坑 (14) P-63・65 ~ 67……………	105
図 III - 8 H-2 (2)……………	29	図 III - 54 土坑 (15) P-68 ~ 71……………	106
図 III - 9 H-2 出土の遺物 (1)……………	30	図 III - 55 土坑出土の遺物 (1)……………	107
図 III - 10 H-2 出土の遺物 (2)……………	31	図 III - 56 土坑出土の遺物 (2)……………	108
図 III - 11 H-2 出土の遺物 (3)……………	32	図 III - 57 土坑出土の遺物 (3)……………	109
図 III - 12 H-2 出土の遺物 (4)……………	33	図 III - 58 土坑出土の遺物 (4)……………	110
図 III - 13 H-2 出土の遺物 (5)……………	34	図 III - 59 土坑出土の遺物 (5)……………	111
図 III - 14 H-3……………	36	図 III - 60 土坑出土の遺物 (6)……………	112
図 III - 15 H-3 出土の遺物……………	37	図 III - 61 柱穴状小土坑 SP-1……………	113
図 III - 16 H-4 (1)……………	39	図 III - 62 焼土 (1) F-1 ~ 4……………	119
図 III - 17 H-4 (2)……………	40	図 III - 63 焼土 (2) F-5 ~ 8……………	120
図 III - 18 H-4 出土の遺物 (1)……………	41	図 III - 64 焼土 (3) F-9 ~ 15……………	121
図 III - 19 H-4 出土の遺物 (2)……………	42	図 III - 65 焼土 (4) F-16 ~ 18……………	122
図 III - 20 H-4 出土の遺物 (3)……………	43	図 III - 66 焼土 (5) F-19・20 焼土出土の遺物……………	123
図 III - 21 H-5……………	45	図 III - 67 フレイクチップ集中出土の遺物…	124
図 III - 22 H-5 出土の遺物……………	46	図 III - 68 フレイクチップ集中FC-1 ~ 3…	125
図 III - 23 H-6……………	48	図 III - 69 遺物集中1……………	127
図 III - 24 H-6 出土の遺物 (1)……………	49	図 III - 70 遺物集中1出土の遺物 (1)……………	128
図 III - 25 H-6 出土の遺物 (2)……………	50	図 III - 71 遺物集中1出土の遺物 (2)……………	129
図 III - 26 H-7 (1)……………	52	図 III - 72 遺物集中1出土の遺物 (3)……………	130
図 III - 27 H-7 (2)・H-7 出土の遺物 (1) ……………	53	図 III - 73 遺物集中2……………	131
図 III - 28 H-7 出土の遺物 (2)……………	54	図 III - 74 遺物集中2出土の遺物……………	132
図 III - 29 H-7 出土の遺物 (3)……………	55	図 III - 75 遺物集中3……………	133
図 III - 30 H-8……………	56	図 III - 76 遺物集中3出土の遺物 (1)……………	134
図 III - 31 H-9……………	58	図 III - 77 遺物集中3出土の遺物 (2)……………	135
図 III - 32 H-10……………	60	図 III - 78 遺物集中4……………	137
図 III - 33 H-10出土の遺物……………	61	図 III - 79 遺物集中4出土の遺物……………	138
図 III - 34 H-11……………	62	図 III - 80 遺物集中5……………	140
図 III - 35 H-12 (1)……………	64	図 III - 81 遺物集中5出土の遺物 (1)……………	141
図 III - 36 H-12 (2)……………	65	図 III - 82 遺物集中5出土の遺物 (2)……………	142
図 III - 37 H-12出土の遺物……………	66	図 III - 83 埋設土器1 ~ 3……………	144
		図 III - 84 埋設土器……………	145

図IV-1	発掘区別遺物出土分布図(1)……	168	図IV-32	包含層出土の石器(1)……	210
図IV-2	発掘区別遺物出土分布図(2)……	169	図IV-33	包含層出土の石器(2)……	211
図IV-3	発掘区別遺物出土分布図(3)……	170	図IV-34	包含層出土の石器(3)……	212
図IV-4	発掘区別遺物出土分布図(4)……	171	図IV-35	包含層出土の石器(4)……	213
図IV-5	発掘区別遺物出土分布図(5)……	172	図IV-36	包含層出土の石器(5)……	214
図IV-6	発掘区別遺物出土分布図(6)……	173	図IV-37	包含層出土の石器(6)……	215
図IV-7	包含層遺物出土状況(1)……	174	図IV-38	包含層出土の石器(7)……	216
図IV-8	包含層遺物出土状況(2)……	175	図IV-39	包含層出土の石器(8)……	217
図IV-9	包含層遺物出土状況(3)……	176	図IV-40	包含層出土の石器(9)……	218
図IV-10	包含層出土の土器(1)……	183	図IV-41	包含層出土の石器(10)……	219
図IV-11	包含層出土の土器(2)……	184	図IV-42	包含層出土の石器(11)……	220
図IV-12	包含層出土の土器(3)……	185	図IV-43	包含層出土の石器(12)……	221
図IV-13	包含層出土の土器(4)……	186	図IV-44	包含層出土の石器(13)……	222
図IV-14	包含層出土の土器(5)……	187	図IV-45	包含層出土の石器(14)……	223
図IV-15	包含層出土の土器(6)……	188	図IV-46	包含層出土の石器(15)……	224
図IV-16	包含層出土の土器(7)……	189	図IV-47	包含層出土の石器(16)……	225
図IV-17	包含層出土の土器(8)……	190	図IV-48	包含層出土の石器(17)……	226
図IV-18	包含層出土の土器(9)……	191	図IV-49	包含層出土の石器(18)……	227
図IV-19	包含層出土の土器(10)……	192	図IV-50	包含層出土の石器(19)……	228
図IV-20	包含層出土の土器(11)……	193	図IV-51	包含層出土の石器(20)……	229
図IV-21	包含層出土の土器(12)……	194	図IV-52	包含層出土の石製品(1)……	230
図IV-22	包含層出土の土器(13)……	195	図IV-53	包含層出土の石製品ほか(2)……	231
図IV-23	包含層出土の土器(14)……	196			
図IV-24	包含層出土の土器(15)……	197	図V-1	日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラス カ州における表V-1使用の石器原材伝播図 ……	257
図IV-25	包含層出土の土器(16)……	198	図V-2	黒曜石原産地……	257
図IV-26	包含層出土の土器(17)……	199	図V-3	黒曜石製石器原材産地分析試料……	264
図IV-27	包含層出土の土器(18)……	200	図V-4	暦年較正年代グラフ……	271
図IV-28	包含層出土の土器(19)……	201			
図IV-29	包含層出土の土器(20)……	202	図VI-1	時期別遺構位置図……	275
図IV-30	包含層出土の土器(21)……	203			
図IV-31	包含層出土の土製品……	204			

表目次

表I-1	遺構数……	8	表III-11	遺構出土掲載土器一覧(2)……	156
表I-2	遺物数……	8	表III-12	遺構出土掲載土器一覧(3)……	157
表II-1	周辺の遺跡……	18	表III-13	遺構出土掲載土器一覧(4)……	158
表III-1	フローテーション結果……	146	表III-14	遺構出土掲載土器一覧(5)……	159
表III-2	遺構一覧(1)……	147	表III-15	遺構出土掲載土器一覧(6)……	160
表III-3	遺構一覧(2)……	148	表III-16	遺構出土掲載土器一覧(7)……	161
表III-4	遺構一覧(3)……	149	表III-17	遺構出土掲載土器一覧(8)……	162
表III-5	遺構出土遺物集計(1)……	150	表III-18	遺構出土掲載土器一覧(9)……	163
表III-6	遺構出土遺物集計(2)……	151	表III-19	遺構出土掲載土製品一覧……	163
表III-7	遺構出土遺物集計(3)……	152	表III-20	遺構出土掲載石器等一覧(1)……	164
表III-8	遺構出土遺物集計(4)……	153	表III-21	遺構出土掲載石器等一覧(2)……	165
表III-9	遺構出土遺物集計(5)……	154	表III-22	遺構出土掲載石器等一覧(3)……	166
表III-10	遺構出土掲載土器一覧(1)……	155	表IV-1	包含層出土遺物集計……	232
			表IV-2	包含層出土掲載土器一覧(1)……	233

表IV-3	包含層出土掲載土器一覧(2)……	234	表V-2	湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-4	包含層出土掲載土器一覧(3)……	235	表V-3	常呂川(中ノ島～北見大橋)から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-5	包含層出土掲載土器一覧(4)……	236	表V-4	サナブチ川から採取した80個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-6	包含層出土掲載土器一覧(5)……	237	表V-5	金華地区から採取した20個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-7	包含層出土掲載土器一覧(6)……	238	表V-6	生田原川支流支線川から採取した19個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-8	包含層出土掲載土器一覧(7)……	239	表V-7	生田原川支流大黒沢川から採取した5個の黒曜石円礫の分類結果……	262
表IV-9	包含層出土掲載土器一覧(8)……	240	表V-8	木古内町札苺6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果……	263
表IV-10	包含層出土掲載土器一覧(9)……	241	表V-9	木古内町札苺6遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果……	263
表IV-11	包含層出土掲載土器一覧(10)……	242	表V-10	試料一覧……	265
表IV-12	包含層出土掲載土製品一覧……	242	表V-11	札苺6遺跡における炭化種実同定結果……	267
表IV-13	包含層出土掲載石器等一覧(1)……	243	表V-12	測定結果……	269
表IV-14	包含層出土掲載石器等一覧(2)……	244	表V-13	暦年較正……	270
表IV-15	包含層出土掲載石器等一覧(3)……	245			
表IV-16	包含層出土掲載石器等一覧(4)……	246			
表IV-17	包含層出土掲載石器等一覧(5)……	247			
表IV-18	包含層出土掲載石器等一覧(6)……	248			
表V-1-1	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値……	258			
表V-1-2					
表V-1-3	黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値……	260			
表V-1-4					

写真図版目次

●口絵

口絵1

1. 調査状況
2. 斜面調査状況

口絵2

1. 竪穴住居跡(縄文時代中期)
2. 竪穴住居跡(縄文時代後期)

口絵3

1. 土坑群
2. 土坑断面(P-70)
3. 土坑断面(P-69)
4. 土坑(P-47)
5. 土坑(P-55)

口絵4

1. 土製品・石製品
2. 土器(縄文時代前期～後期)

●V章 自然科学的分析・鑑定

[V章-1]

図版. 黒曜石製石器原材産地分析試料

[V章-2]

図版. 札苺6遺跡の炭化種実

●図版

図版1

1. 調査状況
2. 包含層遺物出土状況

図版2

1. 調査区南壁土層
2. 20ライン土層
3. 調査区北壁土層
4. 17ライン土層

図版3

1. H-1 調査状況
2. H-1 覆土遺物出土状況
3. H-1 覆土フレイクチップ(FC-2)
4. H-1 東西断面
5. H-1 南北断面

図版4

1. H-1 HF-1 断面
2. H-1 HF-2 断面
3. H-1 HP-1 断面
4. H-1 土器出土状況
5. H-1 完掘

図版5

1. H-2 検出
2. H-2 遺物出土状況

3. H-2 覆土1層遺物出土状況
4. H-2 覆土2層遺物出土状況
5. H-2 南北断面
6. H-2 東西断面

図版6

1. H-2 HF-1 断面
2. H-2 HP-1・2 断面
3. H-2 HP-6 断面
4. H-2 HP-8 断面
5. H-2 完掘

図版7

1. H-3 検出
2. H-3 調査状況
3. H-3 東西断面
4. H-3 南北断面
5. H-3 HP-1 断面
6. H-3 HP-3 断面
7. H-3 完掘

図版8

1. H-4 検出
2. H-4 調査状況
3. H-4 東西断面
4. H-4 南北断面
5. H-4 遺物出土状況
6. H-4 土器出土状況

図版9

1. H-4 床面検出
2. H-4 HF-1 検出
3. H-4 HP-1 断面
4. H-4 HP-5 断面
5. H-4 完掘

図版10

1. H-5 検出
2. H-5 調査状況
3. H-5 断面
4. H-5 HF-1 断面
5. H-5 完掘

図版11

1. H-6 検出
2. H-6 調査状況
3. H-6 東西断面
4. H-6 南北断面
5. H-6 遺物出土状況
6. H-6 HF-1 断面
7. H-6 HP-1 断面
8. H-6 完掘

図版12

1. H-7 検出
2. H-7 調査状況
3. H-7 南北断面
4. H-7 東西断面
5. H-7 遺物出土状況 (1)

6. H-7 遺物出土状況 (2)
7. H-7 HF-1 断面
8. H-7 HP-2 断面
9. H-7 完掘

図版13

1. H-8 断面 (1)
2. H-8 断面 (2)
3. H-8 完掘
4. H-9 南北断面
5. H-9 東西断面
6. H-9 HP調査状況
7. H-9 完掘

図版14

1. H-10 東西断面
2. H-10 南北断面
3. H-10 HF-1 断面
4. H-10 完掘
5. H-11 南北断面
6. H-11 東西断面
7. H-11 HF-1 断面
8. H-11 完掘

図版15

1. H-12 調査状況
2. H-12 土器出土状況
3. H-12 南北断面
4. H-12 東西断面
5. H-12 HF-1 断面
6. H-12 完掘

図版16

1. H-13 調査状況
2. H-13 HF-1 検出
3. H-13 断面 (1)
4. H-13 断面 (2)
5. H-13 完掘

図版17

1. P-1 断面
2. P-2 断面
3. P-1・2 完掘
4. P-3 完掘
5. P-4 断面
6. P-4 完掘
7. P-5・6 検出
8. P-5 断面

図版18

1. P-6 断面
2. P-5・6 完掘
3. P-7 検出
4. P-7 断面
5. P-8 断面
6. P-8 完掘
7. P-9 断面
8. P-9 完掘

图版19

1. P-10·11検出
2. P-10断面
3. P-10完掘
4. P-11断面
5. P-11完掘
6. P-12断面
7. P-12完掘

图版20

1. P-13断面
2. P-14断面
3. P-14完掘
4. P-15断面
5. P-15完掘
6. P-16·17検出
7. P-16断面
8. P-16完掘

图版21

1. P-17断面
2. P-17完掘
3. P-18断面
4. P-19断面
5. P-20断面
6. P-19·20完掘
7. P-21断面
8. P-21完掘

图版22

1. P-22断面
2. P-22完掘
3. P-23断面
4. P-23完掘
5. P-24断面
6. P-24完掘
7. P-25断面
8. P-25完掘

图版23

1. P-26断面
2. P-26完掘
3. P-27断面
4. P-27完掘
5. P-28断面
6. P-28完掘
7. P-29断面
8. P-29完掘

图版24

1. P-30断面
2. P-30完掘
3. P-31断面
4. P-31完掘
5. P-32断面
6. P-32完掘
7. P-33断面

8. P-33完掘

图版25

1. P-34断面
2. P-34完掘
3. P-35断面
4. P-35完掘
5. P-36断面
6. P-36完掘
7. P-37~39検出

图版26

1. P-37断面
2. P-38·39断面
3. P-37~39完掘
4. P-40断面
5. P-40完掘

图版27

1. P-41断面
2. P-42断面
3. P-41·42断面
4. P-43砂岩礫出土状況
5. P-43断面
6. P-43完掘
7. P-44断面
8. P-44完掘

图版28

1. P-45断面
2. P-45完掘
3. P-46断面
4. P-46完掘
5. P-47断面
6. P-48完掘
7. P-49完掘
8. P-50完掘

图版29

1. P-51断面
2. P-51完掘
3. P-52断面
4. P-52完掘
5. P-53断面
6. P-53完掘
7. P-54完掘
8. P-55完掘

图版30

1. P-56断面
2. P-56完掘
3. P-57完掘
4. P-58完掘
5. P-59完掘
6. P-60断面
7. P-61断面
8. P-61完掘

图版31

1. P-62完掘
2. P-63断面
3. P-64断面
4. P-64完掘
5. P-65断面
6. P-65完掘
7. P-66断面
8. P-66完掘

図版32

1. P-67断面
2. P-67完掘
3. P-68断面
4. P-68完掘
5. P-69完掘
6. P-70完掘
7. P-71断面
8. P-71完掘

図版33

1. F-1断面
2. F-2断面
3. F-3断面
4. F-5断面
5. F-7検出
6. F-8検出
7. F-12断面
8. F-13断面

図版34

1. F-14・15検出
2. F-14断面
3. F-15断面
4. F-16検出
5. F-17断面
6. F-18断面
7. F-19断面
8. F-20断面

図版35

1. 遺物集中1検出
2. 土器出土状況
3. 遺物集中1付近断面(1)
4. 遺物集中1付近断面(2)
5. 遺物集中2
6. 遺物集中2付近断面

図版36

1. 遺物集中3検出
2. 遺物集中4検出

図版37

1. 遺物集中5検出
2. 埋設土器1
3. 埋設土器2
4. 埋設土器3(1)
5. 埋設土器3(2)

図版38

1. 土偶出土状況
2. 土製品出土状況
3. 大珠出土状況
4. 石斧出土状況
5. 石槍出土状況
6. 土器底部出土状況
7. 土器出土状況
8. 小型鉢出土状況

図版39

1. H22区土器出土状況
2. J16区遺物出土状況
3. J18区遺物出土状況
4. J21区遺物出土状況
5. M17区土器出土状況
6. N18・19区遺物出土状況
7. P18区遺物出土状況
8. Q18区遺物出土状況

図版40

1. 地割れ
2. 地割れ断面(1)
3. 地割れ断面(2)
4. 完掘

図版41

1. H-1出土の土器(1)

図版42

1. H-1出土の土器(2)
2. H-1出土の土器(3)
3. H-1出土の土器(4)
4. H-1出土の土器(5)

図版43

1. H-1出土の土器(6)
2. H-1出土の土器(7)
3. H-1出土の石器(1)
4. H-1出土の石器(2)

図版44

1. H-2出土の土器(1)

図版45

1. H-2出土の土器(2)

図版46

1. H-2出土の土器(3)
2. H-2出土の土器(4)
3. H-2出土の土器(5)
4. H-2出土の土器(6)
5. H-2出土の土器(7)
6. H-2出土の土製品

図版47

1. H-2出土の石器(1)
2. H-2出土の石器(2)

図版48

1. H-3出土の土器
2. H-3出土の石器(1)

3. H-3 出土の石器 (2)
- 図版49
1. H-4 出土の土器 (1)
- 図版50
1. H-4 出土の土器 (2)
2. H-4 出土の石器 (1)
3. H-4 出土の石器 (2)
- 図版51
1. H-4 出土の石器 (3)
2. H-4 出土の石器 (4)
3. H-5 出土の土器 (1)
4. H-5 出土の土器 (2)
5. H-5 出土の石器 (1)
6. H-5 出土の石器 (2)
- 図版52
1. H-6 出土の土器 (1)
2. H-6 出土の土器 (2)
3. H-6 出土の石器 (1)
4. H-6 出土の石器 (2)
- 図版53
1. H-7 出土の土器 (1)
2. H-7 出土の土器 (2)
3. H-7 出土の石器 (1)
- 図版54
1. H-7 出土の石器 (2)
2. H-7 出土の石器 (3)
3. H-9 出土の石器
- 図版55
1. H-10 出土の土器 (1)
2. H-10 出土の土器 (2)
3. H-10 出土の石器 (1)
4. H-10 出土の石器 (2)
5. H-11 出土の遺物
6. H-12 出土の土器 (1)
- 図版56
1. H-12 出土の土器 (2)
2. H-12 出土の土器 (3)
3. H-12 出土の土器 (4)
4. H-12 出土の石器
5. H-13 出土の土器
6. H-13 出土の石器 (1)
7. H-13 出土の石器 (2)
- 図版57
1. 土坑出土の土器 (1)
- 図版58
1. 土坑出土の土器 (2)
- 図版59
1. 土坑出土の土器 (3)
2. 土坑出土の土器 (4)
3. 土坑出土の土器 (5)
4. 土坑出土の石器 (1)
- 図版60
1. 土坑出土の石器 (2)
- 図版61
1. 土坑出土の石器 (3)
2. 土坑出土の石器 (4)
3. 焼土出土の土器
4. 焼土出土の石器
5. フレイクチップ集中出土の石器等
- 図版62
1. 遺物集中1 出土の土器 (1)
- 図版63
1. 遺物集中1 出土の土器 (2)
2. 遺物集中1 出土の土器 (3)
3. 遺物集中1 出土の土器 (4)
4. 遺物集中1 出土の土器 (5)
5. 遺物集中1 出土の土製品
6. 遺物集中1 出土の石器等 (1)
- 図版64
1. 遺物集中1 出土の石器 (2)
2. 遺物集中2 出土の土器
3. 遺物集中3 出土の土器 (1)
4. 遺物集中3 出土の土器 (2)
- 図版65
1. 遺物集中3 出土の土器 (3)
2. 遺物集中3 出土の土製品
3. 遺物集中3 出土の石器 (1)
4. 遺物集中3 出土の石器 (2)
- 図版66
1. 遺物集中4 出土の土器
2. 遺物集中4 出土の石器
- 図版67
1. 遺物集中5 出土の土器 (1)
- 図版68
1. 遺物集中5 出土の土器 (2)
2. 遺物集中5 出土の土器 (3)
3. 遺物集中5 出土の石器 (1)
4. 遺物集中5 出土の石器 (2)
- 図版69
1. 埋設土器1
2. 埋設土器2
3. 埋設土器3
- 図版70
1. 包含層出土の土器 (1)
2. 包含層出土の土器 (2)
- 図版71
1. 包含層出土の土器 (3)
- 図版72
1. 包含層出土の土器 (4)
- 図版73
1. 包含層出土の土器 (5)
- 図版74
1. 包含層出土の土器 (6)
2. 包含層出土の土器 (7)

3. 包含層出土の土器 (8)
4. 包含層出土の土器 (9)
図版75
1. 包含層出土の土器 (10)
2. 包含層出土の土器 (11)
3. 包含層出土の土器 (12)
4. 包含層出土の土器 (13)
5. 包含層出土の土器 (14)
図版76
1. 包含層出土の土器 (15)
2. 包含層出土の土器 (16)
図版77
1. 包含層出土の土器 (17)
図版78
1. 包含層出土の土器 (18)
2. 包含層出土の土器 (19)
図版79
1. 包含層出土の土器 (20)
図版80
1. 包含層出土の土器 (21)
2. 包含層出土の土器 (22)
3. 包含層出土の土器 (23)
図版81
1. 包含層出土の土器 (24)
図版82
1. 包含層出土の土器 (25)
2. 包含層出土の土器 (26)
3. 包含層出土の土器 (27)
図版83
1. 包含層出土の土器 (28)
2. 包含層出土の土器 (29)
3. 包含層出土の土器 (30)
図版84
1. 包含層出土の土器 (31)
2. 包含層出土の土器 (32)
3. 包含層出土の土器 (33)
図版85
1. 包含層出土の土器 (34)
図版86
1. 包含層出土の土器 (35)
2. 包含層出土の土器 (36)
図版87
1. 包含層出土の土器 (37)
2. 包含層出土の土器 (38)
3. 現代遺物
図版88
1. 包含層出土の土製品
図版89
1. 包含層出土の石器 (1)
図版90
1. 包含層出土の石器 (2)
図版91

1. 包含層出土の石器 (3)
図版92
1. 包含層出土の石器 (4)
図版93
1. 包含層出土の石器 (5)
図版94
1. 包含層出土の石器 (6)
図版95
1. 包含層出土の石器 (7)
図版96
1. 包含層出土の石器 (8)
図版97
1. 包含層出土の石器 (9)
図版98
1. 包含層出土の石器 (10)
図版99
1. 包含層出土の石器 (11)
2. 包含層出土の石器 (12)
3. 包含層出土の石器 (13)
4. 包含層出土の石器 (14)
5. 包含層出土の石器 (15)
図版100
1. 包含層出土の石製品ほか

I 緒言

1. 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査

(札苅5遺跡外) [平成23年度]・

・(釜谷8遺跡外) [平成24年度]

・(大平4遺跡外) [平成25年度]

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

受託者：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：札苅6遺跡(北海道教育委員会登録番号B-05-49)

所在地：上磯郡木古内町字札苅577-2ほか

調査面積：2,758m²

調査期間：平成23年4月1日～平成26年1月31日

(現地調査：平成23年5月9日～10月28日)

2. 調査体制

平成23年度

財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 坂本 均

専務理事 松本 昭一(～平成24年6月7日)

常務理事 畑 宏明(～平成24年6月7日)

第1調査部 部長 千葉 英一

第1調査部第3調査課 課長 土肥 研晶(発掘担当者)

主査 阿部 明義(発掘担当者)

主査 佐藤 剛

主任 富永 勝也

平成24・25年度

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 坂本 均

副理事長 畑 宏明(平成24年6月8日～)

事務局長 中田 仁(平成24年6月8日～)(専務理事兼任)

常務理事 千葉 英一(平成24年6月8日～)(第1調査部長兼任)

第1調査部第3調査課 課長 土肥 研晶

主査 阿部 明義(平成25年度 第2調査部第2調査課)

第2調査部第3調査課 主査 富永 勝也

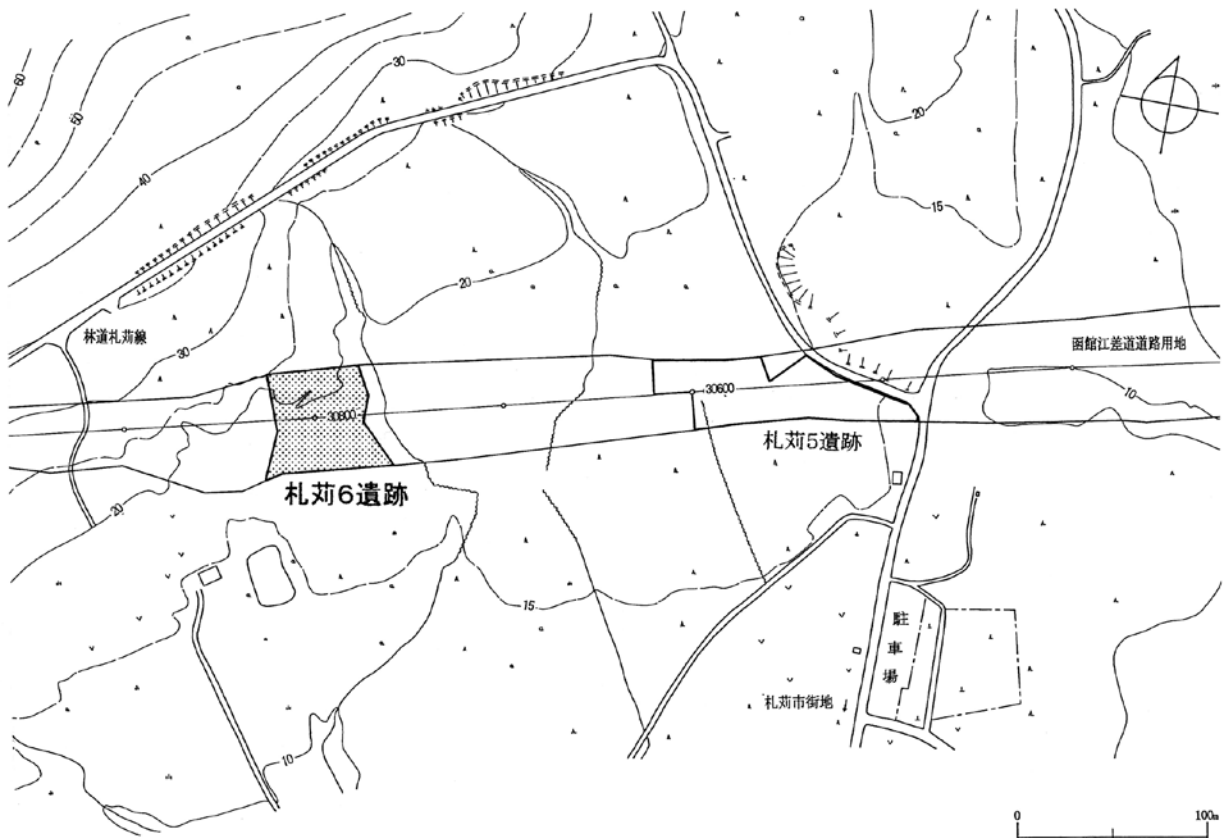
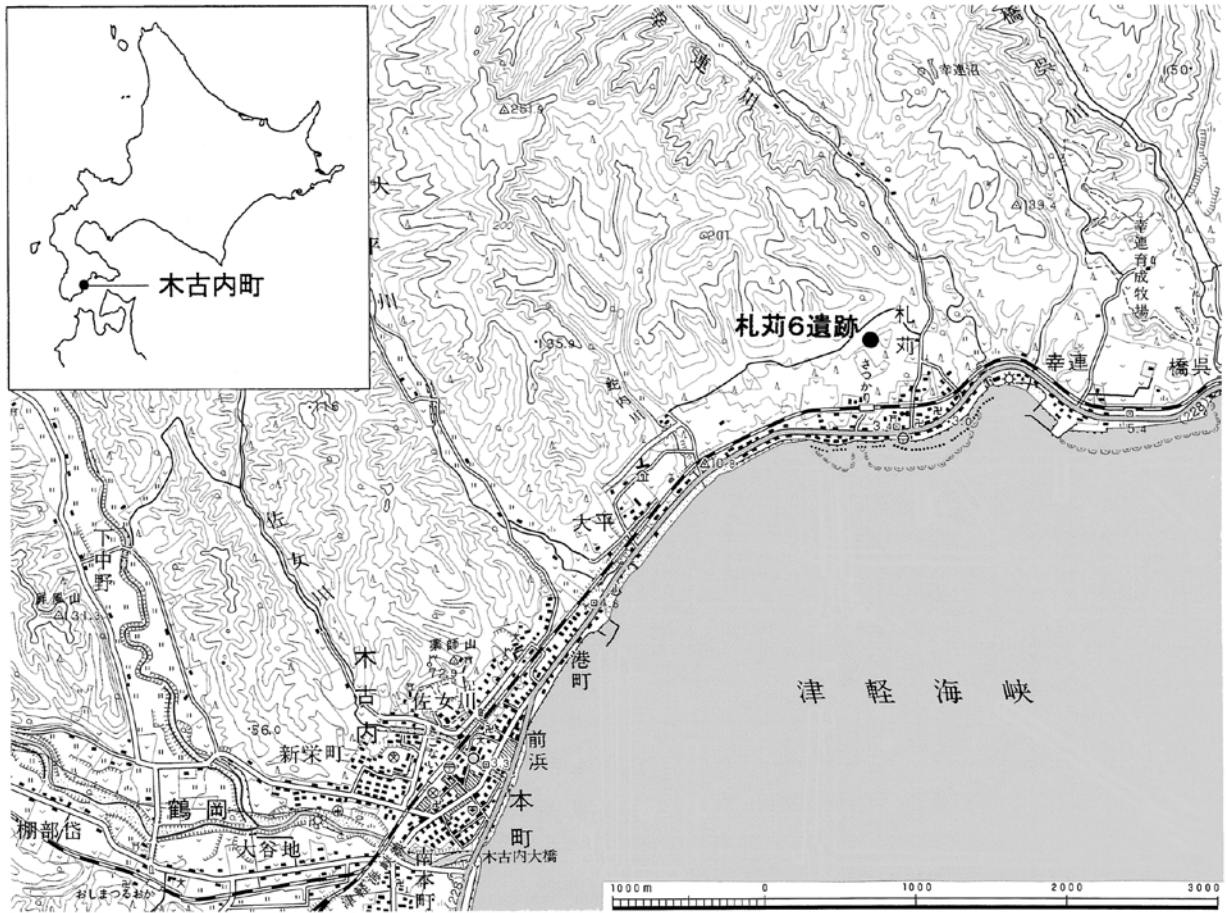


図 I - 1 遺跡の位置と調査範囲

3. 調査に至る経緯

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館市桔梗町を起点とし北斗市・木古内町を経由、江差町に至る延長70kmの一般国道228号の自動車専用道路として、北海道開発局により整備が進められている。渡島西部と函館市街を高速ネットワークで結び、物流の効率化と生活の利便性を向上させることを整備目的としている。並行する国道228号が函館市と渡島西部地域を結ぶ唯一の幹線道路にもかかわらず、天候により通行規制される区間が2.3km含まれ、しばしば通行止めが発生していたが、平成24年3月24日に延伸開通した函館茂辺地道路により、通行規制区間の代替路としての役割も大きくなった。また、現在整備中である「茂辺地木古内道路」が開通すれば、災害時の緊急搬送や物流にさらに大きく貢献するものとみられる。

茂辺地木古内道路の幸連工区にかかる埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、平成21年2月26日付で北海道開発局函館建設部長から北海道教育委員会に事前協議がなされた。これを受けた北海道教育委員会は、平成22年11月10日～11日に試掘調査を実施した。

函館江差自動車道建設予定地のSP30500付近～SP30800付近の約300m間で34か所の試掘穴をあけた結果、SP30500付近で札苺5遺跡、SP30800付近で札苺6遺跡、さらに付近の踏査により試掘実施範囲より約100m西側のSP39000付近で札苺7遺跡が新たに発見された。

札苺6遺跡の範囲内で実施された7か所の試掘穴のうち1か所で竪穴住居跡が検出され、集落跡として北海道教育委員会の遺跡台帳に登載され、7か所の試掘坑すべてを含む2,758㎡が発掘調査必要範囲となった。

(土肥研晶)

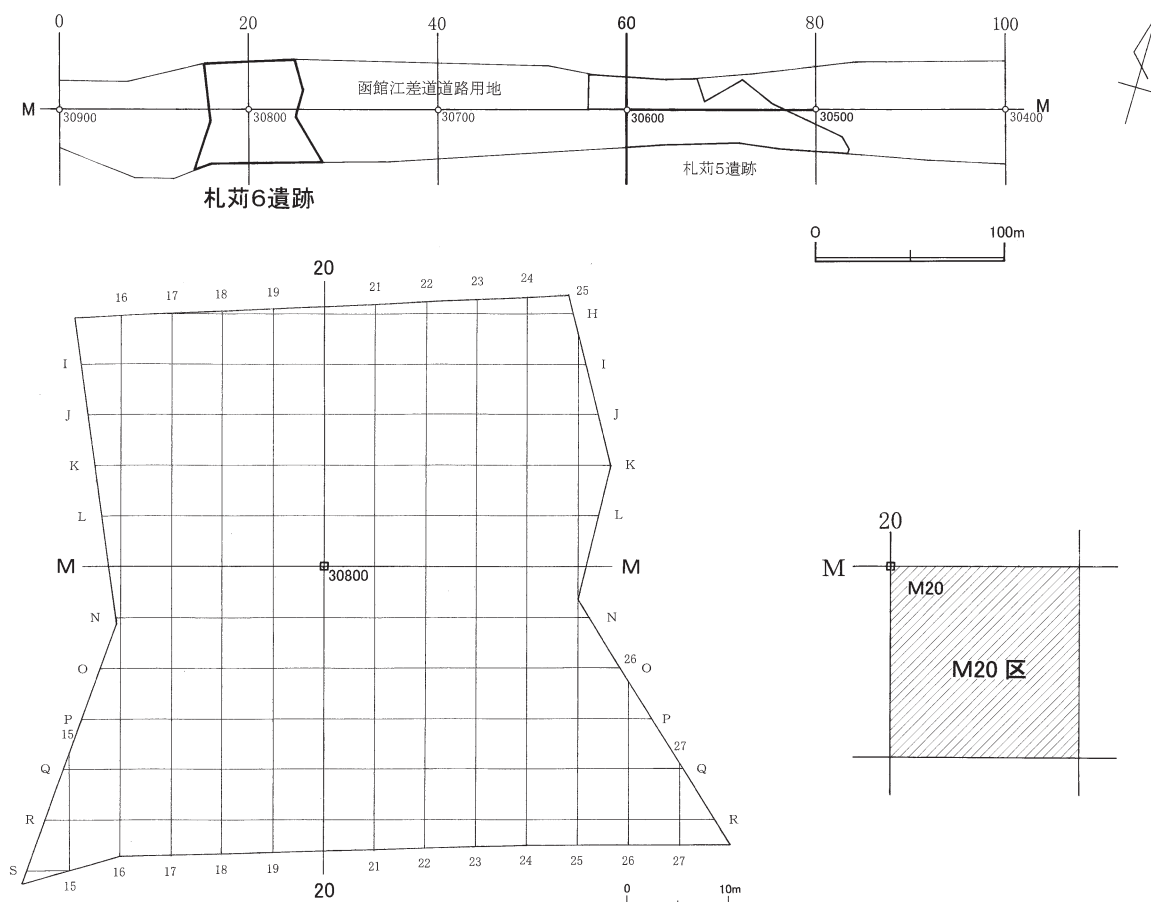


図 I - 2 発掘区設定図

4. 調査の方法

(1) 発掘区の設定 [図I-2]

発掘区の境界となるグリッド線は、札苅5・6遺跡共通のものとした。建設道路のセンターラインにおけるポイント30500・30600（・30700・30800）を直線で結んだ線を基線とした。全調査区域をカバーするよう、調査区内のポイント30800を「M20」とし、5mごとにラインを設けメッシュを組んだ。西から東に向かい15、16、17、18……同じく北から南に向かいH、I、J……、としてアルファベットと算用数字を組み合わせて各交点の名称とした。各交点に杭を打ち、5m×5mで区画された正方形のマスを各発掘区とし、その北西側の交点を発掘区の名称とした。南北のグリッド線は、真北から10° 51' 52" 西側へ傾いている。なお設定に当たっては、周辺の2級基準点を基に3級基準点等を設置し、利用した。

基準杭の座標値の成果は以下に記した（世界測地系）。座標系は平面直角座標系第X I系である。

STA.30700	X=-255,081.899m	Y=18,301.747m
STA.30800 (M20杭)	X=-255,100.748m	Y=18,203.539m
H19-3004 (三級基準点)	X=-255,168.356m	Y=18,509.104m

(2) 発掘調査の方法

調査は、周辺への汚泥流出防止のための沈砂池（濁水処理施設）および側溝掘削のため、調査区南部・東縁・西縁を優先して行った。

重機による抜根・表土除去後、黒色土（Ⅱ層）以下を移植ゴテ等により掘り下げた。遺物の希薄な範囲はスコップを併用した。出土した遺物は、発掘区ごと・層位ごとに取り上げた。検出された遺構は、随時土層観察用のベルトを設けるなどして調査を行った。遺物は、まとまって出土したものは出土状況を図化するなど出土地点を計測した。

記録類

地形測量図・土層断面図・遺構平面図・遺構断面図・遺物出土状況図などを作成した。写真撮影は、リバーサル6×7判、モノクローム6×7判のほか、デジタルカメラを用いた。

(3) 整理作業の方法

一次整理

現地で水洗・分類・遺物注記・遺物台帳作成などを行った。注記は土器小片・石器剥片および礫を除く、すべての土器・石器等に行った。

※遺物注記内容

「遺跡名」, 「遺構名」または「発掘区」, 「層位」(. 「遺物番号」)

例; (遺構) サツ6. H-12. フク土2. 15

(包含層) サツ6. M20. III

一方、採取した土壌サンプルについて、フローテーション法により水洗選別した。そのうち残渣に含まれる微細な土器・石器ほかについては、肉眼による選別により回収した。

二次整理

江別市の北海道埋蔵文化財センター整理作業棟で行った。土器は接合・復元作業を行い、接合データが得られ、33個体の土器を復元した。また600点あまりについて拓本作業を行った。復元された土器の実測作業、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。石器は礫石器、特に扁平打製石器の接合

作業を行い、30点を超える接合データを得た。また分類を見直し、報告書掲載用石器の選び出しを行った。実測・トレースを進め、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。フローテーション法による水洗選別資料は、浮遊物について光学顕微鏡等を用いて種子など微細な遺物を選別回収した。

そのほか遺構図面の作成、遺物の写真撮影、表作成、原稿執筆を行い、報告書編集作業を行った。遺物写真図版作成においては、写真フィルムを高解像度のスキャナーにてデジタル化し、個々の遺物を版面にレイアウトし作成した。

遺物・記録類の保管

整理終了後の遺物は「報告書掲載遺物」と「非掲載遺物」に区分してダンボール箱（復元土器）およびコンテナに収め、「遺物収納台帳」に記載した。本報告書刊行後、北海道教育委員会の指示により移管予定である。写真・図面等の記録類は、当センターで保管される。

5. 遺物の分類

(1) 土器等

I群 縄文時代早期に属する土器群。

a類：貝殻腹縁文・条痕文・沈線文のある土器群。

b類：撚糸文・絡条体圧痕文・短縄文などが施される土器群。東釧路系土器群などに相当するもの。

II群 縄文時代前期に属する土器群。

a類：縄文尖底・丸底土器など。春日町式・石川野式・桔梗野式などに相当するもの。

b類：円筒土器下層式。

III群 縄文時代中期に属する土器群。

a類：円筒土器上層式およびそれに後続するサイベ沢VII式・見晴町式に相当するもの。

b類：榎林式・大安在B式・ノダップII式などに相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属する土器群。

a類：天祐寺式・涌元式・トリサキ式・大津式・白坂3式などに相当するもの。

b類：ウサクマイC式・手稲式・鯨澗式などに相当・併行するもの。

c類：堂林式・三ツ谷式・湯の里3式などに相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属する土器群。

a類：大洞B・BC式とそれに併行する上ノ国式などに相当するもの。

b類：大洞C₁・C₂式などに相当・併行するもの。

c類：大洞A式・A'式などに相当・併行するもの。

VI群 続縄文時代に属する土器群。

土製品

土偶・土製円盤・スタンプ形土製品・ミニチュア土器・(その他)土製品・焼成粘土塊がある。

(2) 石器等

剥片石器

石鏃：素材を細かく扁平加工し、端部に尖頭部を作り出したおおむね5cm以下の石器。

石槍：素材の両面を加工し、尖頭部を作り出した5cm以上の石器。

石錐：素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器。

両面調整石器：素材の両面を加工したもので、石鏃・石槍などに分類されない石器。

ナイフ：素材の両面を細かく加工して刃部を作り出した5 cm以上の石器。

つまみ付きナイフ：素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器。

スクレイパー：素材の鋭い縁辺の一部を残し、他の縁辺に加工を施した石器でナイフ類に分類されないもの。エンドスクレイパーは、素材の端部に連続的な二次加工を施した石器。

ピエスエスキュー（楔形石器）：両極技法による剥離が行われたと考えられる剥片。

Rフレイク：素材に二次加工を施したもので、定形的な石器に分類されない剥片。

Uフレイク：刃部に微細な剥離痕がみられる剥片で、使用したものとみられる剥片。

フレイク：石核・定形的石器などから剥離された不定形な石器片。

石核：石器の素材となる剥片を剥離したと考えられる石器。

礫石器

石斧：打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器。

石のみ：打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した細身で小型の石器。

擦り切り残片：石斧や石のみなどの製作時に、幅広の扁平な素材を分割する際に生じた石器片。

たたき石：礫に潰打痕が観察される石器。

くぼみ石：礫の主面に敲打によるくぼみが観察される石器。

扁平打製石器：扁平な礫を素材とし、長軸端部を打ち欠き、一側面に擦り痕をもつ石器。

すり石：小型礫にすり痕が観察される石器。

北海道式石冠：上面観が楕円形で、側面に持ち手とみられる敲打による溝を作出し、底面に平坦なすり面をもつ独特な形状をもつ石器。

砥石：礫の片面もしくは両面に磨痕が観察される石器。

台石・石皿：平坦面をもつ大型礫に打撃痕や磨痕が観察される石器。

石錘：礫の長軸両端にノッチ状の加工を施した石器。

加工痕ある礫：礫に加工を施したもので、定形的な石器に分類されない石。

礫

有孔礫：礫の中央付近に自然形成とみられる貫通孔のあるもの。

礫：石器の石材として利用されないと考えられる石。

石製品

大珠・三脚石器・(その他の) 石製品・石棒がある。

(3) その他の遺物

現代遺物

陶磁器・鉄製品

自然遺物

骨片・炭化材・炭化種実

6. 調査結果の概要 [図I-3]

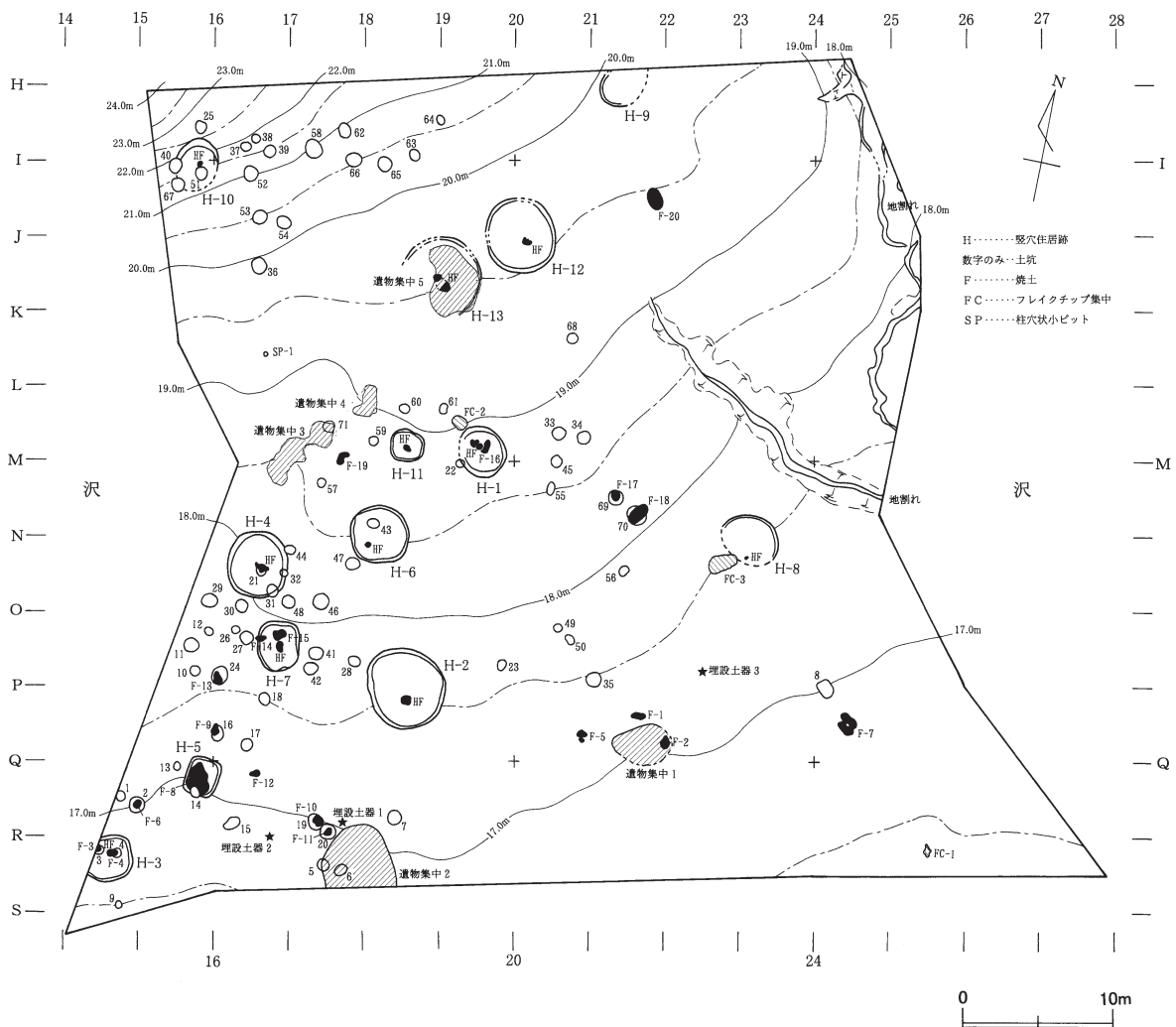
縄文時代中期半ばと後期前葉の集落跡であることを確認した。

遺構は調査区西側を主体に、北西部の斜面にも分布する。竪穴住居跡13軒・土坑71基・焼土20か所・埋設土器3基・遺物集中5か所・フレイクチップ集中3か所が検出された。また調査区東部で縄文時代晩期以降の地割れを検出した。

竪穴住居跡は、縄文中期半ばが6軒、縄文後期前葉が7軒（竪穴状遺構含む）である。土坑の時期は縄文前期～晩期であるが、中期が主体とみられる。埋設土器は、円筒土器下層b式の個体、縄文中期後半の土器の半個体があり、いずれも単独で検出された。遺物集中は、土器・石器・礫の小片が多量混在するもので、特に北西部斜面のふもとにあたる帯状の範囲に多く見られる。

遺物は土器・石器・礫等約20万点が出土した。遺物は調査区のほぼ全域に分布するが、西側～中央部が濃密である。土器は縄文前期～晩期、特に中期半ばと後期前葉のものが多く出土した。石器は各器種出土しているが、特に扁平打製石器の点数が目立つ。また土製品では縄文中期の土偶片が複数みられ、石製品では三脚石器が多数出土したほか大珠が1点出土している。

(阿部明義)



図I-3 遺構位置図

表 I - 1 遺構数

種別	件数
竪穴住居跡	13
土坑	71
柱穴状小土坑	1
焼土	20
フレイクチップ集中	3
遺物集中	5
埋設土器	3

表 I - 2 遺物数

種別	分類	遺構 計	包含層 計	合計	
土器	IIb	529	1402	1931	
	IIIa	3708	15029	18737	
	IIIb	321	1709	2030	
	IVa	8066	33169	41235	
	IVb	713	3026	3739	
	IVc	678	350	1028	
	Va	9	3	12	
	Vb	2481	3616	6097	
	Vc	0	117	117	
	VI	0	72	72	
	不明・その他	2	17	19	
	土製品	土偶	3	6	9
		スタンプ形土製品	0	1	1
土製円盤		2	2	4	
土製品		1	5	6	
ミニチュア土器		0	4	4	
焼成粘土塊		159	137	296	
土器等合計		16672	58665	75337	
石器等	石鏃	15	120	135	
	石槍・ナイフ	1	20	21	
	石錐	5	26	31	
	両面調整石器	2	35	37	
	つまみ付きナイフ	12	45	57	
	スクレイパー	57	307	364	
	石斧類	8	52	60	
	たたき石	18	77	95	
	くぼみ石	5	37	42	
	扁平打製石器	46	322	368	
	すり石	3	27	30	
	北海道式石冠・石冠	3	18	21	
	砥石	34	27	61	
	台石・石皿	17	34	51	
	石錘	2	0	2	
	ピエス・エスキーユ	0	2	2	
	Rフレイク	83	513	596	
	Uフレイク	16	178	194	
	フレイク	10225	18249	28474	
	石核	21	107	128	
	加工痕ある礫	10	75	85	
石製品	大珠	0	1	1	
	三脚石器	2	17	19	
	石製品	0	1	1	
	石棒?	0	1	1	
石器等合計		10585	20291	30876	
礫	有孔礫	1	9	10	
	礫	19241	71142	90383	
礫合計		19242	71151	90393	
遺物合計		46499	150107	196606	

II 遺跡の環境

1. 遺跡の立地 [図 I-1・2]

(1) 位置と地名の由来

札苺6遺跡は、木古内市街地から北東約4kmにあり、JR江差線木古内駅から函館方面へ1駅の札苺駅から北約500mに位置する。

遺跡が所在する木古内町は、北海道南西部、渡島半島の南部、函館市から西方約40kmにある。北東は北斗市、北西側は厚沢部町、西側は上ノ国町、南側は知内町にそれぞれ接している。

「木古内村」は、明治12(1879)年に木古内・札苺・泉沢の3村をもって戸町制度が敷かれて成立した。明治18(1885)年に釜谷を編入し、昭和17(1942)年に町制が施行された。

昭和5(1930)年に国鉄木古内駅が開業し、その後江差方面・松前方面との分岐駅として交通の要衝となり、鉄道関係関連施設が建設され、以来「鉄道のマチ」として発展してきた。さらに昭和63(1988)年青函トンネルが開通し、江差線は本州―北海道の新たな交通の大動脈を担うこととなった。そして北海道新幹線新青森―新函館(仮称)は平成27(2015)年度に開業予定であり、木古内駅は北海道側の最初の停車駅となり、「北の大地の始発駅」として現在駅舎及び駅周辺の整備事業が進行中である。

「きこない」といわれるようになったのは、寛永年間(1624～1644年)に松前藩が領内を巡行した後作らせた地図(「正保御国絵図」)に「キク内」と記されたのが初めとされる。アイヌ語の「リコナイ」(高く昇る源)、または「リロナイ」(潮の差し入る川)から転訛したものといわれる。

遺跡の所在する「札苺(さつかり)」は、「札刈」、「札狩」とも表記されたことがあり、アイヌ語の「シラツツカリ」(岩磯の此方・端)から転訛したものといわれる。札苺付近に海崖磯があり、木古内から知内町涌元付近までは磯がないことからこの地名が付いたとみられている(上原熊次郎1824)。

(2) 遺跡周辺の地形・環境

木古内町域は、その9割近くが海拔100～500mの山岳・丘陵地帯で、南側に津軽海峡が面している。細長く幅の狭い低位の海成段丘が東西約15kmの海岸線に沿って発達しており、海岸線から数百m内陸には高位の海成段丘と北側の山間部から津軽海峡へと注ぐ中小河川により形成された河岸段丘が帯状にみられる。山林の多くはスギの植林地であり、畑地・牧草地として利用されている場所もある。海成段丘上は畑地や宅地などとなり、海岸線に沿う低位の海成段丘上には国道228号が通っており、渡島半島の津軽海峡沿いから日本海側を結ぶ主要道路となっている。

札苺6遺跡は高位の海成段丘面の最奥部にあたる。調査区の南部～中央部～東部は標高約17～20mの海成段丘上の南向き緩斜面で、全体的には平坦である。調査区北西部は標高20～24mの丘陵斜面で崖錐地形になっており、北西端に向かうほど急傾斜となっている。遺跡の東西には丘陵の湧水点から流れる小沢がある。東側の沢は遺跡より丘陵側に湧水点があり、普段の水量は少ない。沢幅は7～8mほどあるが浅く、遺跡の南側には湿地が広がり伏流水となっている。一方西側の沢はやや深い。隣接する札苺7遺跡との間に湧水点がある。調査前の土地利用は杉の植林地が大部分を占め、抜根跡や木根そのものによる攪乱部分も多い。また南部には昭和50年代まで耕作が行われていた畑の畝跡が残る[図II-2南壁]。

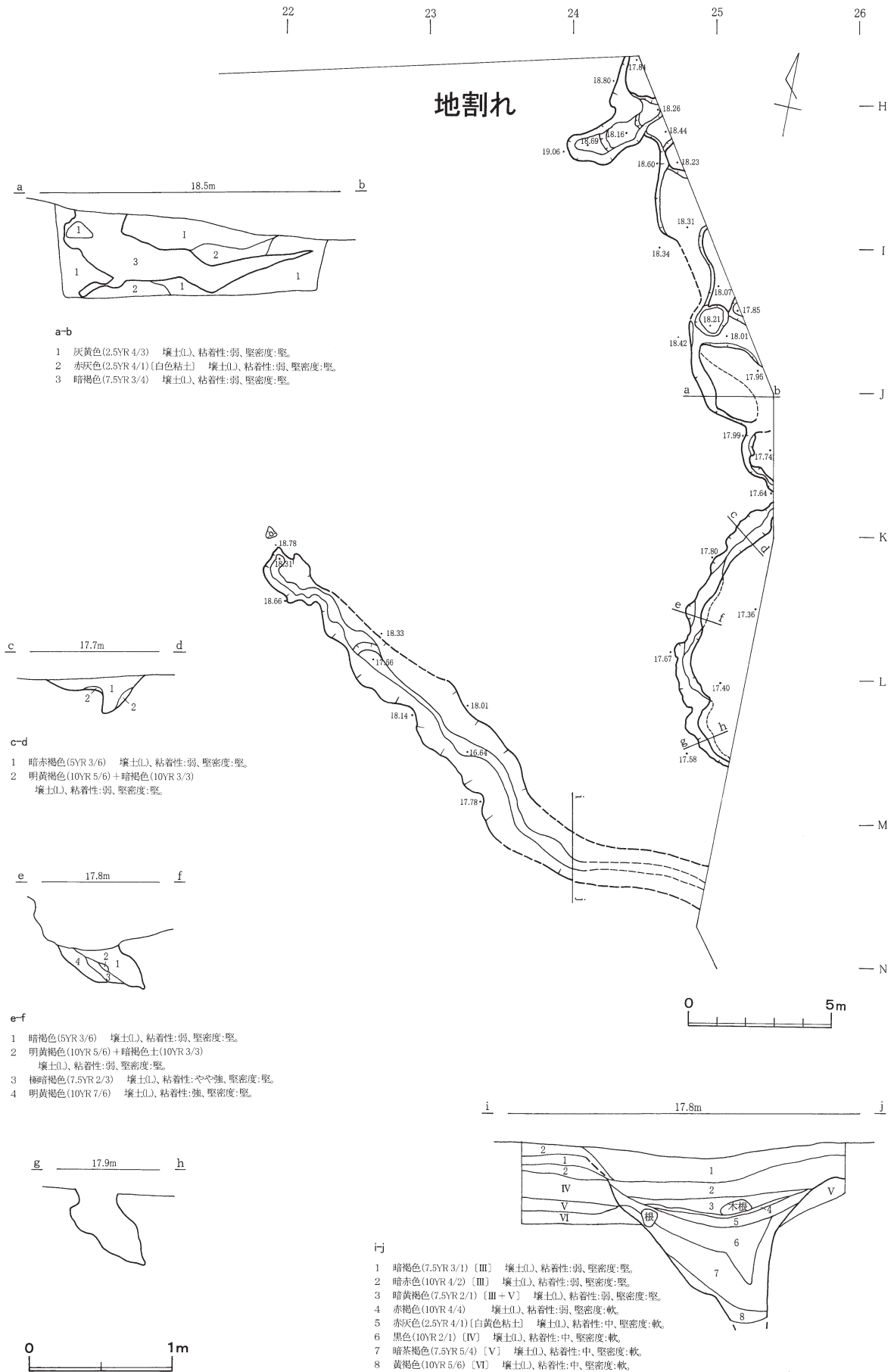


図 II - 1 地割れ

(3) 地割れ〔図Ⅱ-1〕

調査区東部にて包含層調査中、VI層上面付近で色調の異なる筋状の土壌を検出した。断面観察用のベルトを設定し掘り下げたところ、徐々に幅が狭くなりV字状の断面が現れた。下位は東寄りに斜位に落ち込み、オーバーハングする部分も多いことなどから、地割れと判断した。

規模・構造：①K22区-M25区の北西-南東方向で約25m、②G24区-L25区の北-南方向で約20mの、2つの筋状の地割れがある。①は大小の弧線状の単位が連続する。検出面での幅は60cm前後で深度は50cm以上である。断面e-fおよびg-hを見ると、東西に引っ張られるように裂けている。さらに東側の地盤が落ち込んでおり、高低差は最大約40cmである。②は緩やかな曲線状で、検出面での幅は1～2mと広い。北西端から徐々に深くなり、南東の最大深度は1.5m以上(湧水及び狭小のため掘削中断)である。また北東側の地盤がわずかに落ち込んでいる。

堆積層：断面a-b・c-d・e-fは、VI層中にまで裂けた空間に暗褐色～暗茶褐色の土壌が堆積している。Ⅲ層(次項)類似の土層であり、覆土中にV群b類土器およびフレイクを含む。また断面a-bの下位では暗茶褐色土(7層)がV字状の裂け目に落ち込むように堆積している。黒色土(6層)流入後、浅いくぼみとなったところにⅢ層相当(5・4層)・B-Tmを含む層(3層)などが堆積したものと考えられる。

時期：土層の堆積状況や出土遺物から、縄文時代晩期以降～B-Tm堆積の間に生じた地震等による地割れと考えられる。

2. 土層

(1) 土層の区分

基本土層は表土をI層、地山のローム層をVI層とし、色調や堆積物の差により以下の通り区分した。なお基本土層断面図は、調査区南西部の用地境界杭L-22(R16区)で作成した。また南壁・北壁・西壁の一部、南北の17ライン・20ラインの一部の土層断面を図示した(図Ⅱ-2～5)。

I層：表土

黒色～黒褐色(10YR 1.7/1～2/2)の腐植土。層厚は10cm程度であるが、斜面と段丘の境界付近では40cmに達するところもある。植木の杉の根が多量に含まれている。調査区南部では、昭和50年代まで営まれていた畑の畝跡が残っている。攪乱部や試掘坑もI層とした。

II層：黒色土

B-Tm火山灰降下以降の形成層。黒色～黒褐色(10YR 2/2～3/1)を呈する。しまりはやや弱く、粘性は中程度。調査区のほぼ全域に堆積する。層厚は5～20cmである。遺構や木根跡のくぼみなどでは40cmほどに達し、中位にKo-dとみられる火山灰が堆積しており、それを境に「II上」・「II下」と分層した部分がある。下端層界はやや明瞭で、おおむね平坦である。縄文時代の遺物が多量に出土するが本来の包含層ではなく、流れ込みなどによるものと考えられる。

※駒ヶ岳d火山灰〔Ko-d〕

渡島半島東部の駒ヶ岳から1,640年に噴出した、シルト状のテフラ。灰白色(10YR 8/2)で、部分的ににぶい黄褐色(10YR 6/4)を呈する。粒子が非常に細かく、サラサラしている。層厚は1～3cm程度、最大10cm(H-13覆土)である。遺構や木根跡のくぼみのほか、斑状に薄く堆積する部分もみられる。

III層：暗赤褐色土

にぶい赤褐色～暗褐色(5YR 4/4～7.5YR 3/4)を呈する。しまりはやや弱く、粘性は中程度～やや強。

層厚は0～20cmで、北西丘陵側は薄く、南段丘側が厚い。特に南東部は均質的な赤色の厚い層が広がっている。下端層界はやや明瞭である。遺構の覆土・木根跡などでは、上位にB-Tm層が明瞭に観察される。またそれ以外でも、Ⅲ層上位にはB-Tm混じり土とみられる黄色の度合いの強い範囲が観察される。Ⅲ層全体としては、焼土を含む層、あるいは焼土の二次堆積層と考えられる。縄文時代の遺物が多量に出土するものの、流れ込みなどによるものが多いと考えられる。

※白頭山－苫小牧火山灰〔B-Tm〕

朝鮮半島北部の白頭山から10世紀に降下した、シルト状のテフラ。明黄褐色～にぶい黄褐色（10YR 5/6～6/4）を呈する。粒子が非常に細かく、サラサラしている。暗褐色土と混じる部分も多い。層厚は1～5cm程度、最大10cm（H-4覆土）である。

Ⅳ層：黒色土

黒色（10YR 2/1）～暗褐色（7.5YR 3/3）を呈する。しまりはやや弱く、粘性は中程度。調査区全域に分布し、層厚は北西丘陵側が30～40cmと厚く、下位や段丘との境界付近ではⅥ層の凝灰岩礫を多量に含む。南段丘側の層厚は5～30cmと漸遷し、南東部ではⅤ層との境界が不明瞭ある。全体的に下端層界はやや不明瞭で、波状をなす。縄文時代の遺物を多量に含む。本来の遺物包含層である。

Ⅴ層：漸移層

暗褐色～褐色（10YR 3/4～4/6）で不均質である。粘性はやや強く、しまりは中～やや弱。暗褐色土と褐色土が不均質に混じる部分が多い。丘陵と段丘との境界付近ではⅥ層以下の凝灰岩礫が多量に含まれる。層厚は10cm前後。下端層界は漸遷しており、Ⅴ層が確認できない範囲も見られる。

Ⅵ層：ローム層

明黄褐色～黄褐色（10YR 6/6～5/6）のローム層。しまりはやや強く、粘性もやや強い。大小の凝灰岩の礫を含み、丘陵側ではその密度が高い。

（2）暗赤褐色土層（Ⅲ層）について

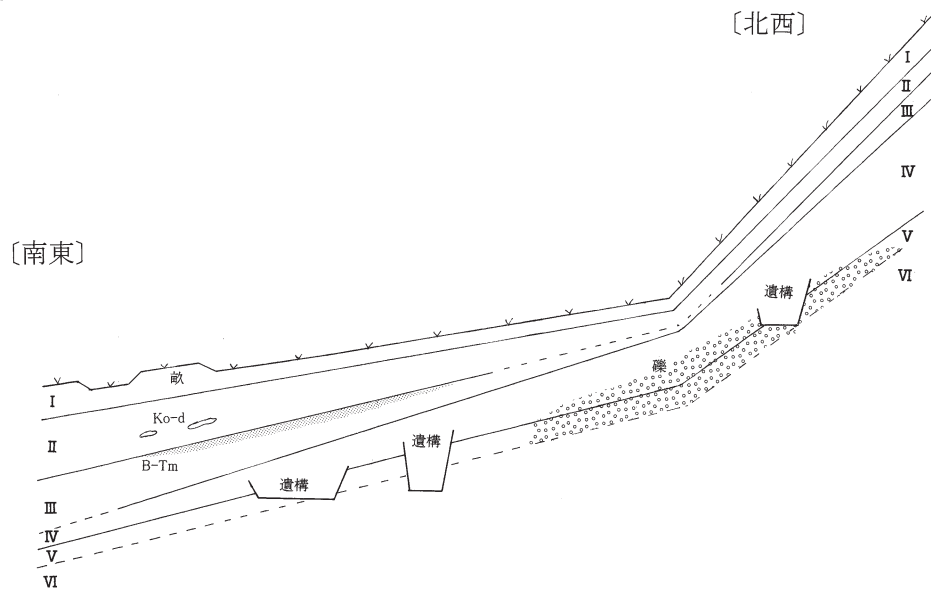
黒色土中、あるいはその上位に堆積する暗赤褐色土層について、近隣の遺跡の例を示す。

まず隣接する札苅5遺跡では、焼土あるいは「焼土様堆積」が断続的に観察されている（北海道埋蔵文化財センター2012）。次に昭和60年（1985年）調査の札苅遺跡では、B-Tmを含むⅡ層の下の黒色土（Ⅲ層）中に「場所によっては焼土を挟む」（道埋文1986）。函館市中野A遺跡の「P.D. 3」（函館市教育委員会1977・道埋文1992）は堅穴住居跡などのくぼみに比較的厚く堆積する赤褐色土である。当初、「銭亀沢層火山灰」と称されたものであったが、当センター花岡正光は堆積状況や土壌分析の結果から、焼土であろうと考えている（道埋文1992）。また、焼土の可能性を残した表現として、木古内町泉沢2遺跡C地点（木古内町教育委員会2004）の「焼土様堆積」がある。近年の北斗市内の函館江差自動車道建設に伴う発掘調査で、暗褐色土の上位にB-Tmを多く含む「Ⅱ層」があり（矢不來6・7・8・11、館野2・4遺跡ほか）、当遺跡の堅穴のくぼみにみられるⅢ層相当の堆積層に類似する（道埋文2006ほか）。

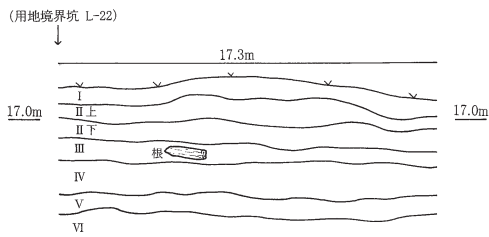
一方これとは別に、北斗市矢不來11遺跡では、上記の「Ⅱ層」の下の黒色土（「Ⅲ層」、当遺跡ではⅣ層相当）中に褐色～赤褐色を呈する部分が斜面下半に分布する。ほとんど遺物がなく炭化物が認められないことから、人為的な焼土ではなく冠水による変色の可能性を想定している（道埋文2006）。

これらの遺跡での暗赤褐色～赤褐色を呈する土壌については、個別に考察する必要がある。当遺跡の「Ⅲ層」は、調査区北西の斜面・中央付近の段丘面・南東の湿地に近い部分まで連続するが、これらの要素が複合的に含まれている可能性がある。

土層模式図



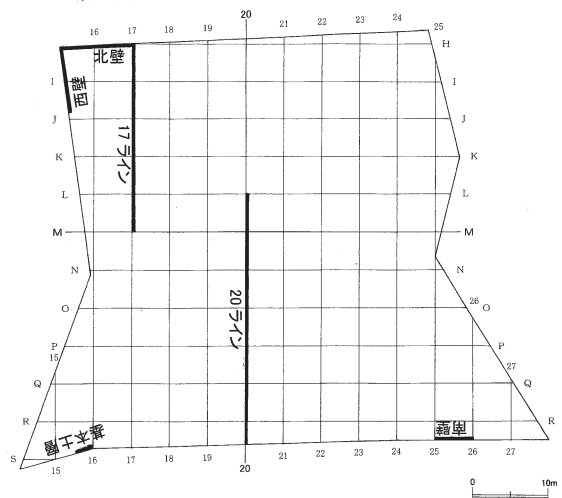
基本土層



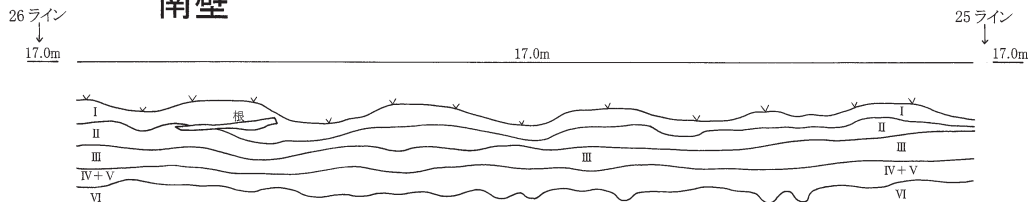
基本土層 L-22

- I [耕作土] しまりなし。
- II上 黒褐色(10YR 3/1) [耕作土] しまり弱、粘性中。※基本土層 南壁 1と同様
- II下 黒色(10YR 2/1) しまりやや弱、粘性中。下端境界明瞭。※基本土層 南壁 IIと同様
- III 褐色～暗褐色(7.5YR 4/4～5/4) しまりやや弱、粘性中。上下境界やや明瞭。漸遷。
- IV 黒色(10YR 2/1) しまりやや弱、粘性中。
- V 暗褐色～褐色(10YR 3/4～4/6) しまりやや強、粘性やや強。漸遷。不均質。
- VI 明黄褐色(10YR 6/6) [ローム] しまりやや強、粘性やや強。

土層断面実測位置



南壁



16.0m

南壁

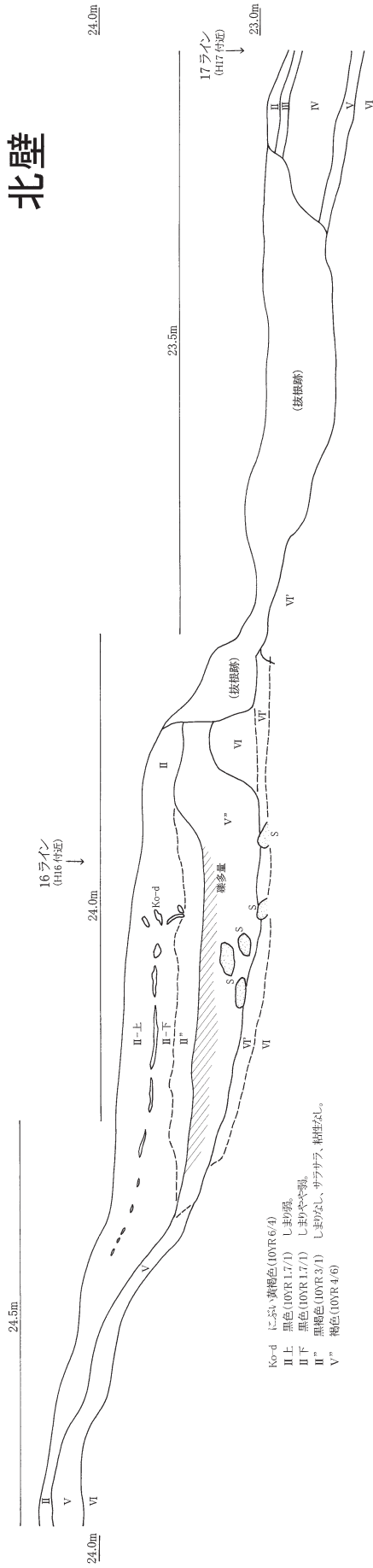
- I 黒褐色(10YR 3/1) [耕作土] しまり弱、粘性中。
- II 黒色(10YR 2/1) しまりやや弱、粘性中。下端境界明瞭。
- III 褐色(7.5YR 4/4)～にぶい赤褐色(5YR 4/4) しまりやや弱、粘性中。漸遷。下端境界不明瞭。
- IV+V 暗褐色(10YR 3/3) しまり中、粘性中。均質的。
- VI 明黄褐色(10YR 6/6) [ローム] しまりやや強、粘性やや強。

16.0m



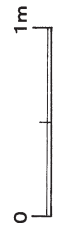
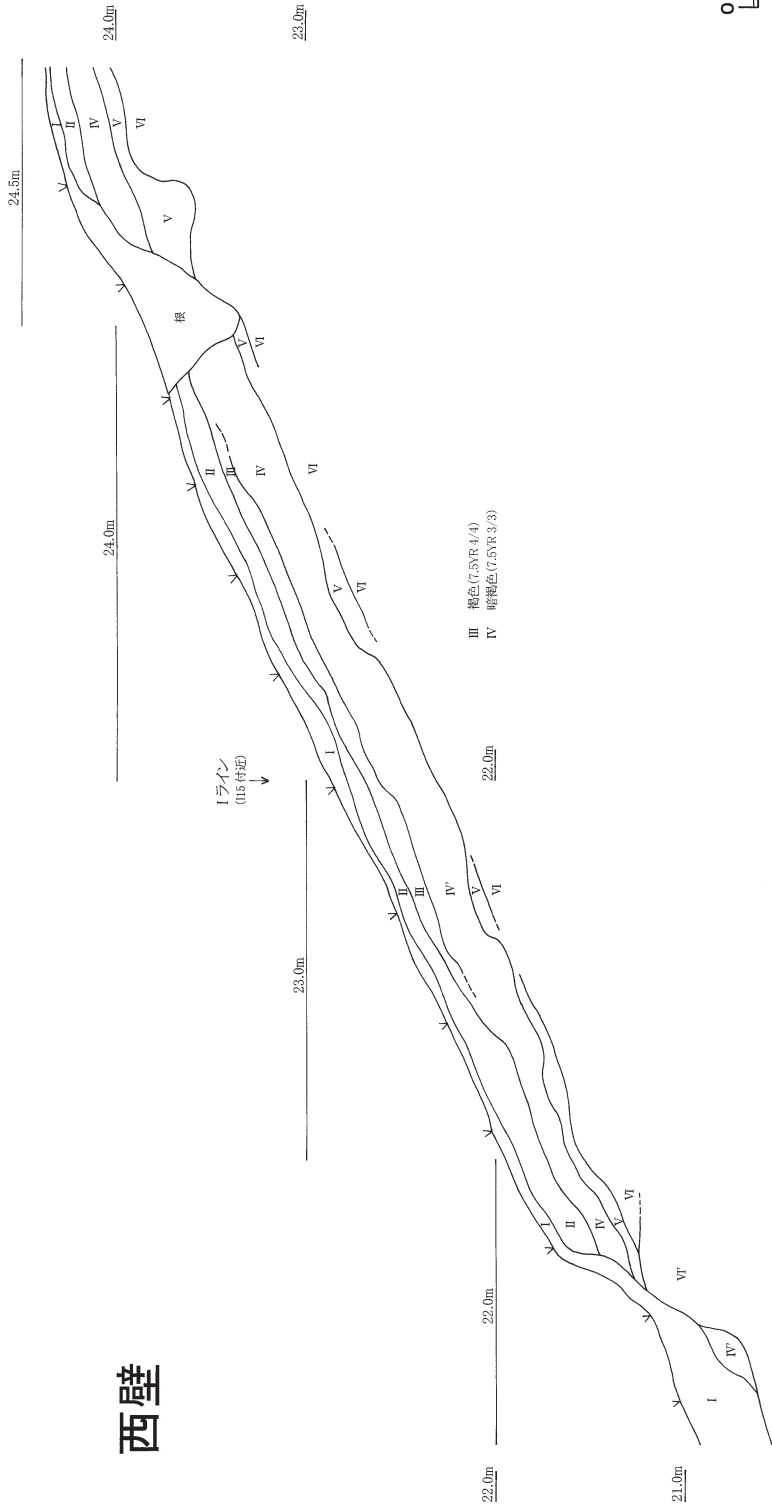
図 II - 2 調査区土層断面(1)

北壁

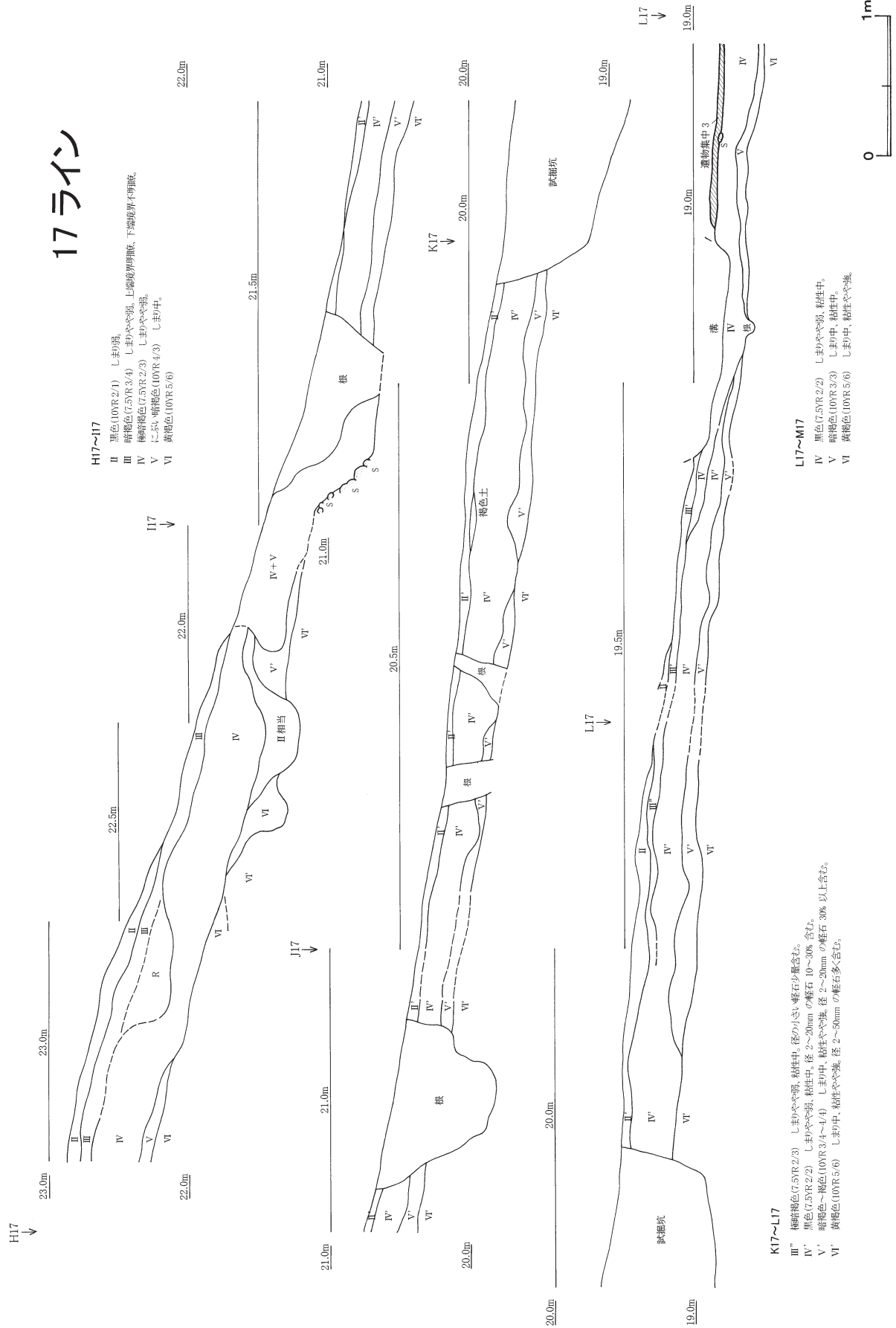


Ko-d にかみ、黄褐色(10YR 6/4)
 II 上 黒色(10YR 1.7/1) し、粗砂。
 II 下 黒色(10YR 1.7/1) し、粗砂や砂。
 II" 黒褐色(10YR 3/1) し、粗砂、ササヤ、粘土。
 V" 褐色(10YR 4/6)

西壁

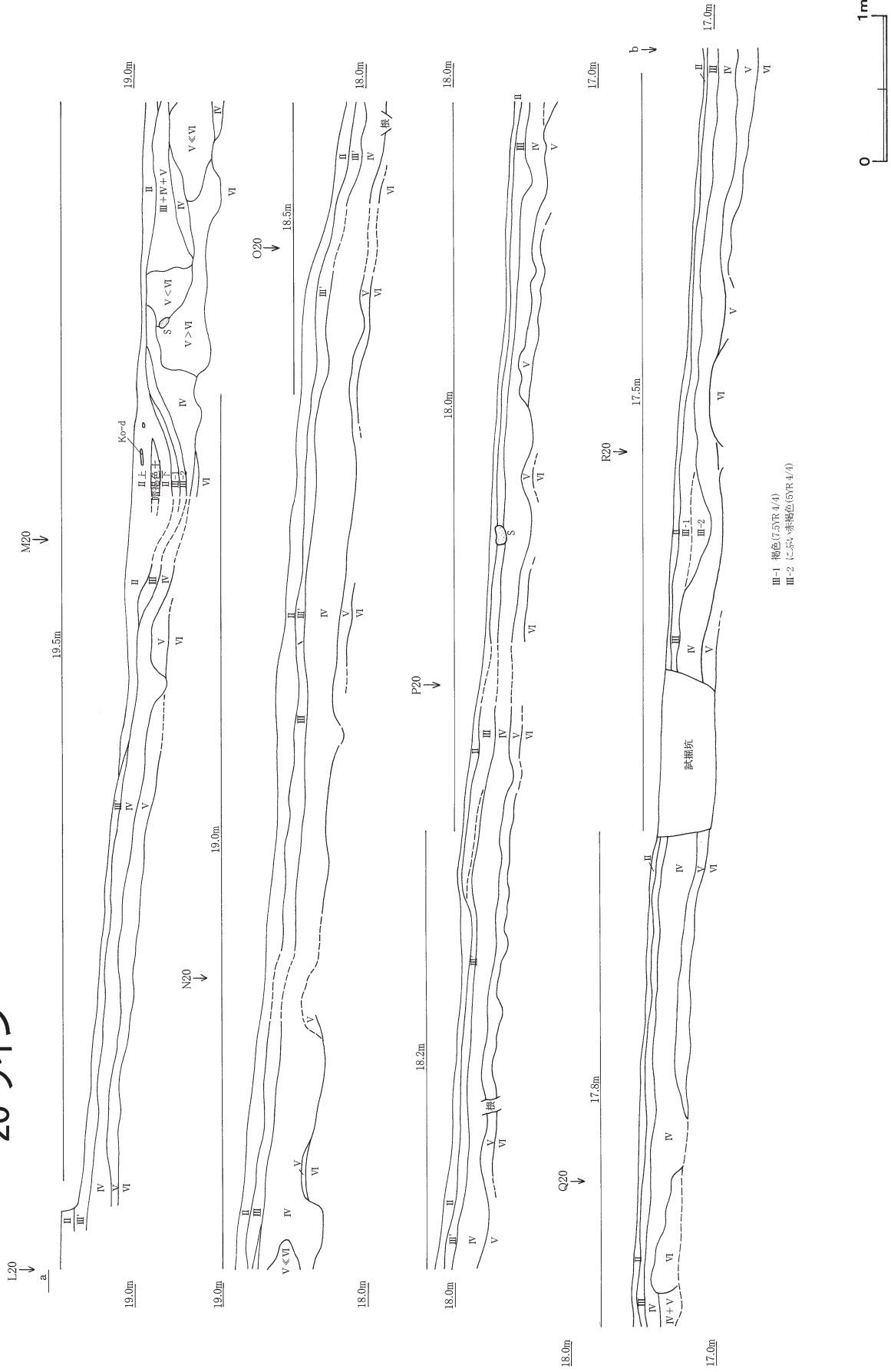


図II-3 調査区土層断面(2)



図II-4 調査区土層断面(3)

20ライン



図II-5 調査区土層断面(4)

3. 周辺の遺跡 [図Ⅱ-6 表Ⅱ-1]

札苺地区にある遺跡について記す〔 〕内の数字は北海道教育委員会の遺跡登録番号。

[4] 札苺遺跡 (集落跡)

札苺集落の木古内寄り、大潤川と無名の沢に挟まれた標高7～11mの低位の海成段丘上に立地する。遺跡は古くから知られており、明治21(1888)年発行の『東京人類学雑誌』に採集された石棒が紹介されている(坪井1888)。発掘調査は、①昭和46～48(1971～1973)年に北海道開拓記念館による学術調査、②昭和48(1973)年に木古内町教育委員会と北海道開拓記念館による国道拡幅工事に伴う調査、③昭和60(1985)年に北海道埋蔵文化財センターによる津軽海峡線関連工事に伴う調査が行われた。面積は合計2,889㎡である。これらの調査(特に①)の結果、竪穴住居跡4軒・土坑99基(うち墓96基)・集石3か所・焼土45か所などの遺構が検出され、縄文時代前期～続縄文時代の数多くの遺物が出土した。主体は縄文晩期中葉で、住居跡・墓域・「広場」など当時の集落の機能がまとまって検出され、亀ヶ岡文化期の集落研究において重要な資料となった。特に土坑墓群はその副葬品の内容が豊富であり、土器は壺形が多く中には全面赤彩のものがみられる。また土偶が17体以上と多数出土したことで知られる。いずれも小型板状のもので、顔面や体部の表現が簡略化・省略されているものも多く出土している。

[30] 札苺2遺跡 (遺物包含地)

標高10m前後の低位の海成段丘上に立地する。未発掘である。

[31] 札苺3遺跡 (遺物包含地)

JR札苺駅の北側、標高10m前後の低位の海成段丘上に立地する。未発掘である。

[32] 札苺4遺跡 (遺物包含地)

標高10m前後の低位の海成段丘上に立地し、幸連川に面する。未発掘である。

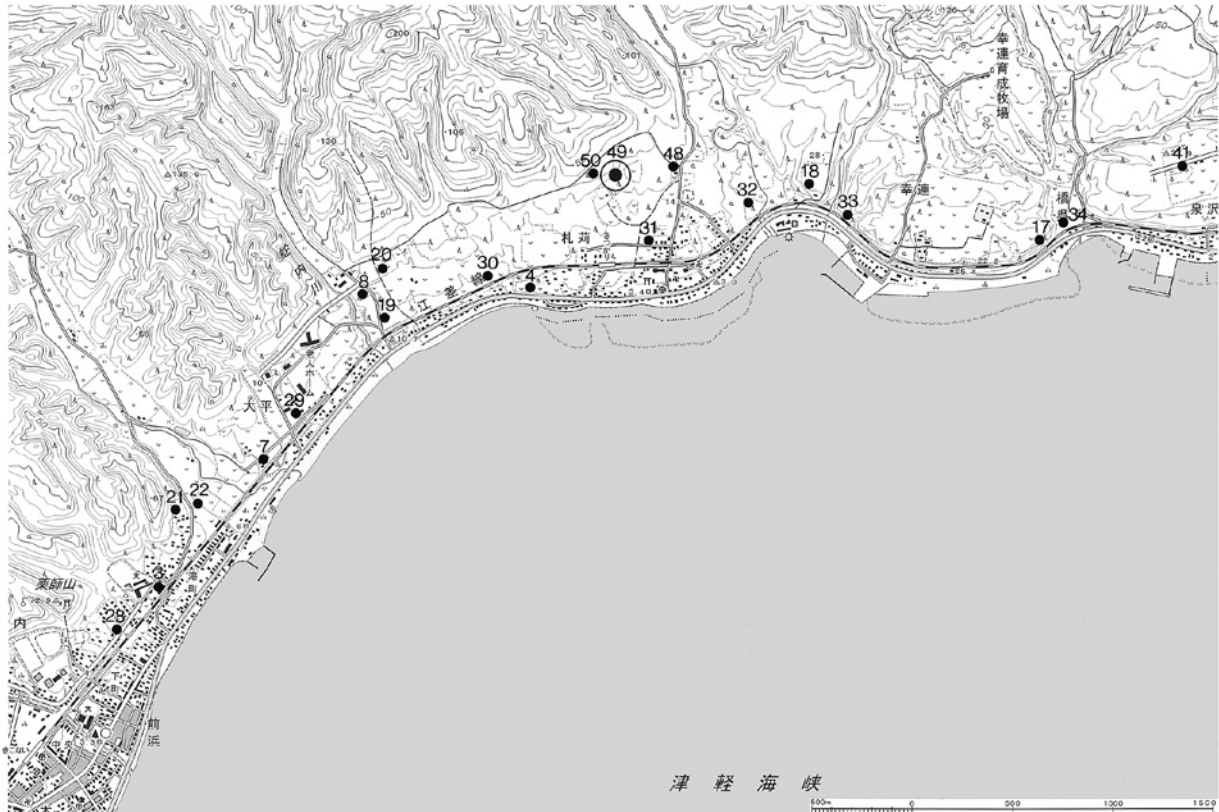
[48] 札苺5遺跡 (集落跡)

札苺6遺跡と同様、高規格道路函館江差自動車道建設工事に伴い発見された遺跡である。標高15～20mの海成段丘の最奥部にあたり、幸連川支流の右岸に立地する。平成23(2011)年、財団法人北海道埋蔵文化財センターが3,393㎡の発掘調査を行った。その結果、縄文時代前期後半を主体とする遺構・遺物と旧石器時代の石器群を検出した。遺構は竪穴住居9軒、Tピット6基、柱穴状小土坑127基、焼土8か所などがあり、幸連川支流の小河川に近い調査区東側に集中している。出土した土器は縄文時代前期を主体とするが、縄文早期～晩期の各時期のものがある。旧石器は美利河型細石刃核を含む石器群で、細石刃・石刃・削器なども出土しており、木古内町新道4遺跡出土の旧石器に類似するものがある。

[50] 札苺7遺跡 (遺物包含地)

札苺5遺跡および札苺6遺跡の試掘調査の際、農地進入路法面に遺構の断面とみられる落ち込みが確認されたほか、遺物が散布していることにより発見された遺跡である。標高20～40mの丘陵緩斜面に立地する。平成25(2013)年より、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている。

(阿部)



図Ⅱ－6 周辺の遺跡

表Ⅱ－1 周辺の遺跡

掲載番号	遺跡名	所在地 (木古内町)	種別	時代	立地	標高 (m)	調査	遺構
3	木古内遺跡	字木古内561ほか	集落跡	縄文早～晩期・擦文・近世	海成段丘	9～11	2010・2011道埋文	竪穴住居跡、フラスコ状土坑、土坑、Tピット、焼土、溝
4	札苅遺跡	字札苅174ほか	集落跡、墓域	縄文晩期・続縄文・近世	海成段丘	10	1971～1973町教委・開拓記念館、1985道埋文	竪穴住居跡、土坑墓、土坑、集石、焼土
7	大平遺跡	字大平631ほか	集落跡、盛土	縄文前・中・後・晩期、擦文	海成段丘	8～11	2009～2011・2013道埋文	竪穴住居跡、フラスコ状土坑、土坑、盛土遺構、焼土
8	蛇内遺跡	字大平601ほか	集落跡	縄文前～後期	蛇内川右岸河岸段丘	20	2000町教委	竪穴住居跡、竪穴跡、土坑、焼土
17	橋呉遺跡	字橋呉321ほか	遺物包蔵地	縄文・続縄文	海成段丘	20		
18	幸連遺跡	字幸連174ほか	遺物包蔵地	縄文	河岸段丘	20		
19	蛇内2遺跡	字札苅508ほか	集落跡	縄文早～後期	海成段丘	8～12	2009～2011道埋文	住居跡、フラスコ状土坑、土坑、Tピット、焼土、集石
20	蛇内3遺跡	字大平2101ほか	遺物包蔵地	縄文	沢沿いの丘陵南麓	20		
21	大平2遺跡	字木古内791ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	11～12		
22	大平3遺跡	字大平30-1	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	5～6		
28	木古内2遺跡	字本町4351ほか	集落跡	縄文前・後期	海成段丘	9	2010・2011道埋文	竪穴住居跡
29	大平4遺跡	字大平601ほか	集落跡	縄文早・前・中・後・晩期	海成段丘	7～13	2009・2010・2012・2013道埋文	竪穴住居跡、土坑、焼土、集石
30	札苅2遺跡	字札苅4771ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	10		
31	札苅3遺跡	字札苅6611ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	10		
32	札苅4遺跡	字札苅2821ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	10		
33	幸連2遺跡	字幸連1751ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	10～20		
34	橋呉2遺跡	字橋呉231ほか	遺物包蔵地	縄文	海成段丘	5		
41	泉沢2遺跡	字泉沢11ほか	集落跡	縄文早～晩期・続縄文・擦文	橋呉川に注ぐ小支流の左岸台地上	5～37	1998～2001町教委	竪穴住居跡、土坑、Tピット、石組炉、集石、広場
48	札苅5遺跡	字札苅6361ほか	集落跡	旧石器、縄文早～後期	海成段丘	10～20	2011道埋文	竪穴住居跡、Tピット、柱穴状小土坑群、焼土
49	札苅6遺跡	字札苅5771ほか	集落跡	縄文前～晩期	海成段丘	15～25	2011道埋文	竪穴住居跡、土坑、焼土
50	札苅7遺跡	字札苅5761ほか	集落跡	縄文中・後・晩期	山稜斜面	23～37	2013道埋文	竪穴住居跡、フラスコ状土坑ほか

Ⅲ 遺構の調査とその遺物

遺構は、竪穴住居跡13軒(H-1～13)・土坑71基(P-1～71)・柱穴状小土坑1基(SP-1)・焼土20か所(F-1～20)が検出され、遺構に準じるものとしてフレイクチップ集中3か所(FC-1～3)・遺物集中5か所・埋設土器3か所が検出され〔図Ⅲ-3〕、この順で記載する。章末に遺構一覧表〔表Ⅲ-2～4〕・遺構出土遺物集計表〔表Ⅲ-5～9〕・遺構出土掲載遺物一覧表〔表Ⅲ-10～22〕を付した。

1 竪穴住居跡

H-1〔図Ⅲ-1～6、図版3・4・41～43〕

位置：L・M19区

平面形：楕円形

規模：343×300／286×258／54cm

長軸方位：N-63° W

確認・調査：平成22年11月に実施された範囲確認調査(B調)で確認された竪穴住居跡である。この遺構が発見されたことにより、本遺跡は集落跡として登録されている。調査当初、試掘坑を掘り返し、断面から竪穴住居跡と焼土2面を確認し1号住居跡(H-1)とした。この試掘坑からは、遺物が329点と最も多く出土した。また住居の壁立ち上がりを確認し、覆土中に堆積する焼土(F-16)や炉跡とみられる焼土(HF-1)が検出された。

調査の進行上、本格的に着手したのは7月になった。調査はまず、試掘では捉えられなかった遺構の規模を確認するため、長方形の試掘穴の北側・東側壁面をそのまま用いた幅30cmの十字のベルトを設定し、それを断面として残しながら周囲の包含層を掘り下げることから始めた。また遺物の多いⅢ層では、出土状況を記録した。

覆土：竪穴住居跡上にやや厚く堆積するⅢ層は、標高の高い北西側から縄文時代後期前葉から中葉の遺物が比較的まとまった状況で流れ込む状況であり、この一部が試掘で検出されたものとみられる。

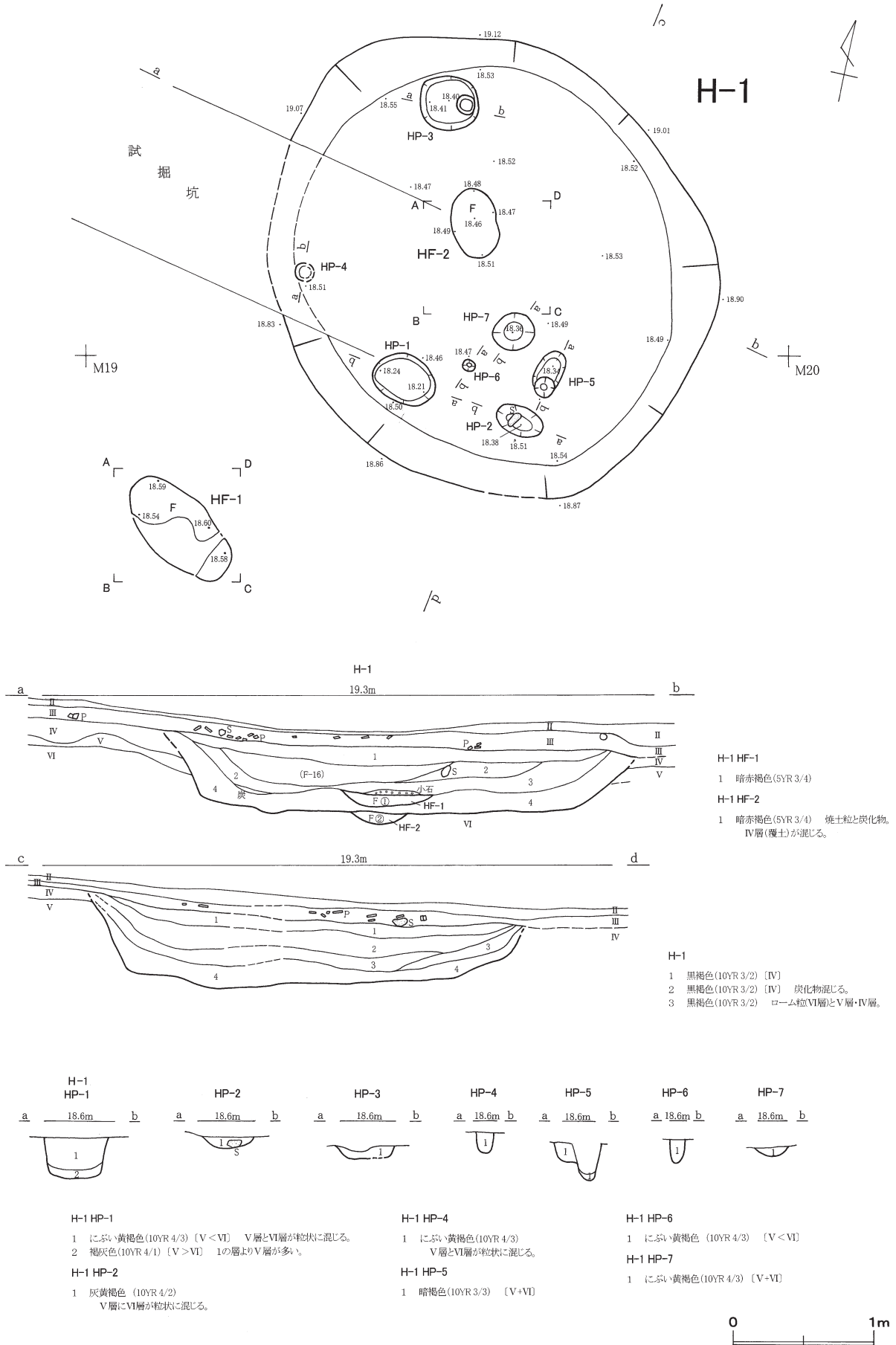
Ⅲ層より下位は、包含層Ⅳ層が落ち込む複数層の堆積であり、本遺構はⅣ層中から掘り込まれたものである。これらの層中にF-16の堆積がみられる。床面直上にはⅤ層とⅥ層の混土層が堆積し、その堆積上面にHF-1がある。HF-1上面には細かい礫の層が薄く堆積していた。

形状：試掘穴で切られている部分が不明瞭ではあるが、長円形～長めの六角形状である。

付属遺構：焼土2か所(HF-1・2)と土坑・柱状小土坑7基(HP-1～7)が検出された。このうち試掘時から確認されていたHF-1は炉跡と考え調査をすすめたが、床面直上に堆積する層上にあることと焼土下には覆土4層があることから、本住居廃絶後の覆土4層上面で焼かれたものとみられる。HF-2はHF-1と平面が一部重なるが、層位的には不連続の床面から検出されている。焼土の下位には炭化物がやや多く含まれる状況であった。床面から検出された土坑のうち、深さがあり底面が平らに掘られているものはHP-1だけで、残りの土坑や小柱穴状もややはっきりしないものである。浅いHP-2からは、すり石(図Ⅲ-6の39)が出土した。

遺物出土状況：出土遺物の総数は2,484点で、このうちⅢ層から1,486点の遺物が出土している。覆土上面の土器はⅣ群a類およびⅣ群b類がほとんどで、覆土中からはⅢ群の土器が多くなり、床面上に堆積する覆土4層からはⅢ群a類が少量出土している。ただし、竪穴住居跡に伴う土器は出土していない。

出土遺物の内容は、土器等が1,000点・石器等が248点・礫が1,236点である。土器等はⅡ群b類1点・Ⅲ群a類85点・Ⅲ群b類17点・Ⅳ群a類740点・Ⅳ群b類150点・焼成粘土塊5点が出土した。石器等

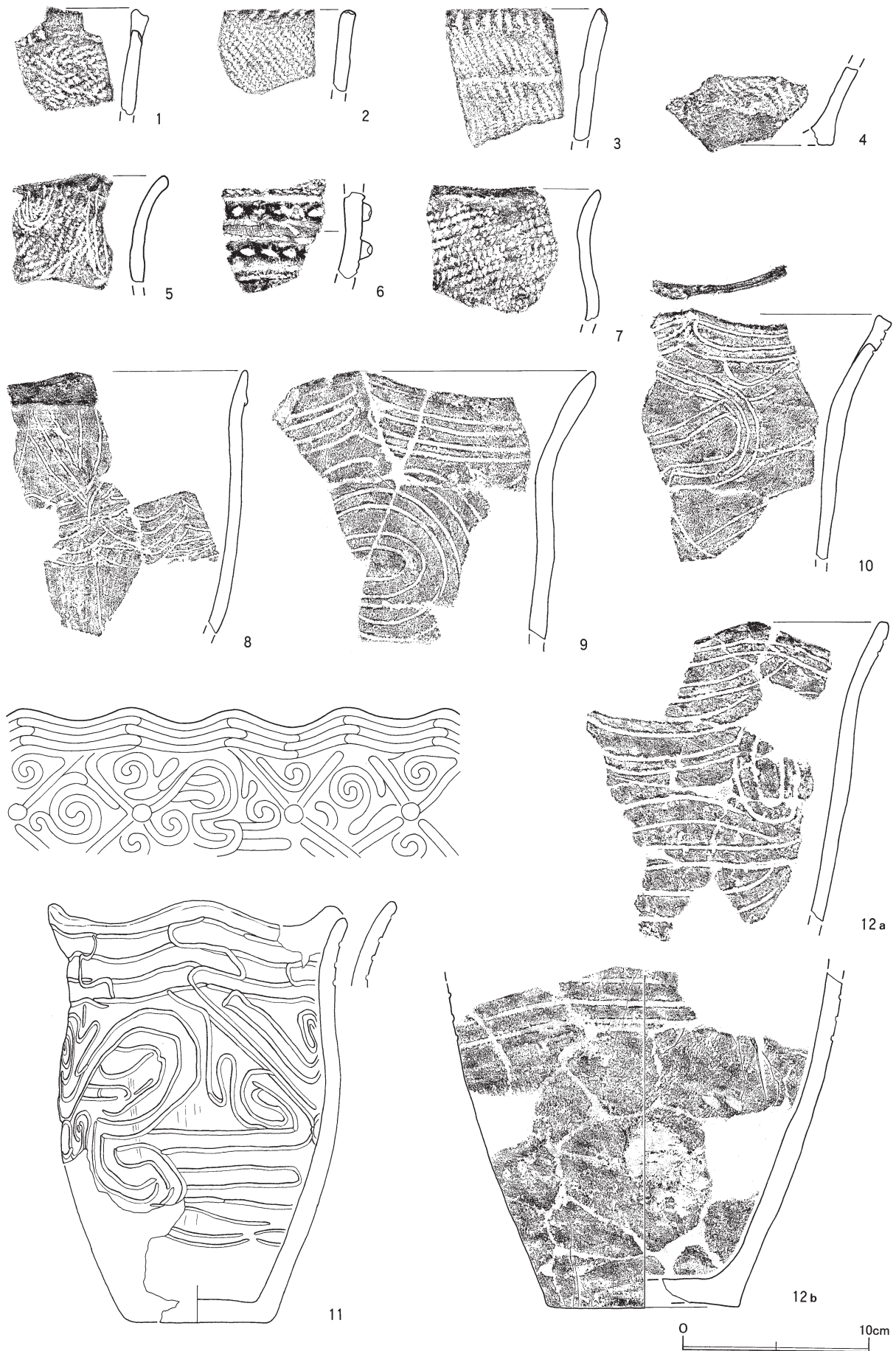


図III-1 H-1(1)

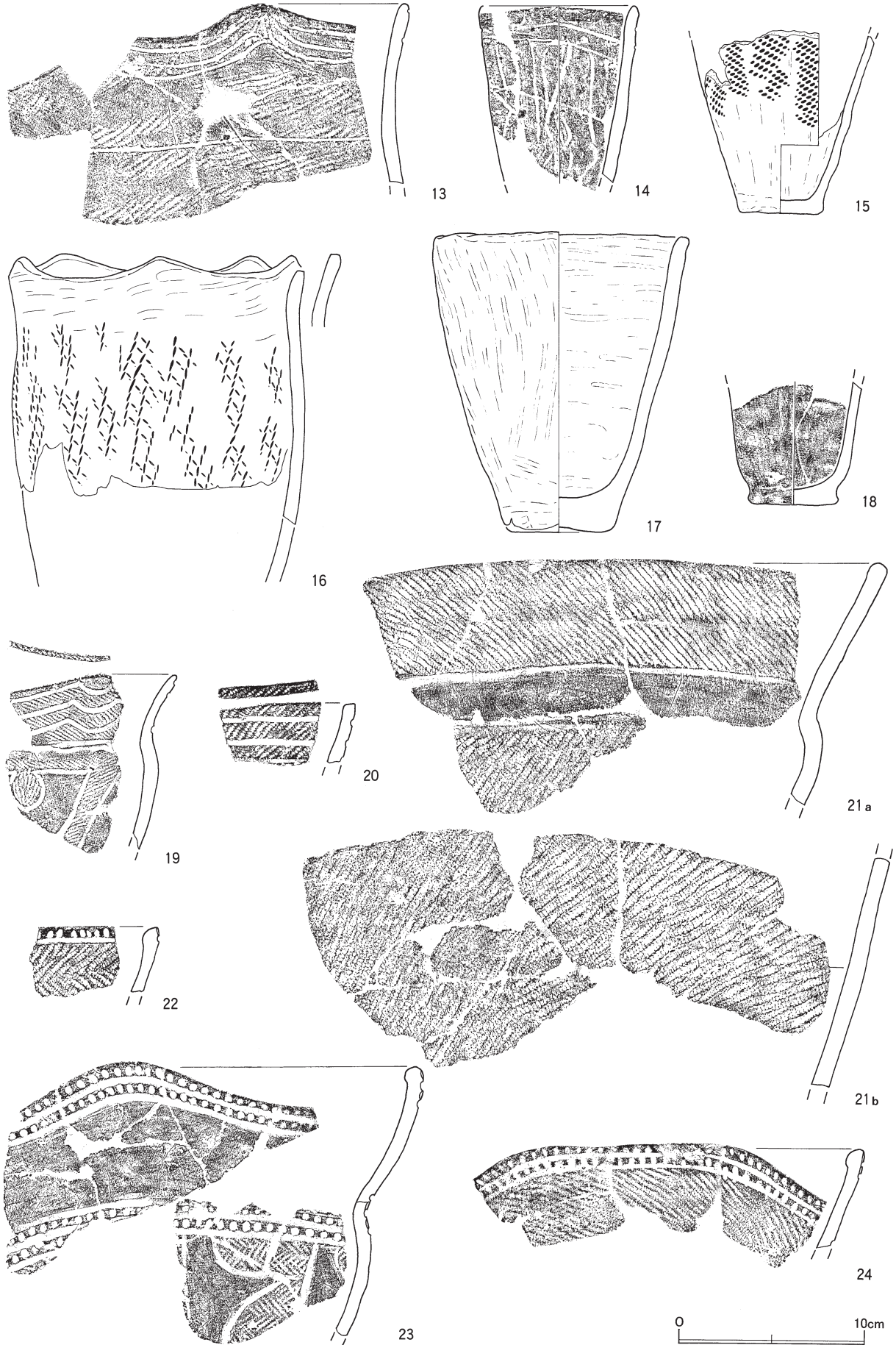
H-1 遺物出土状況



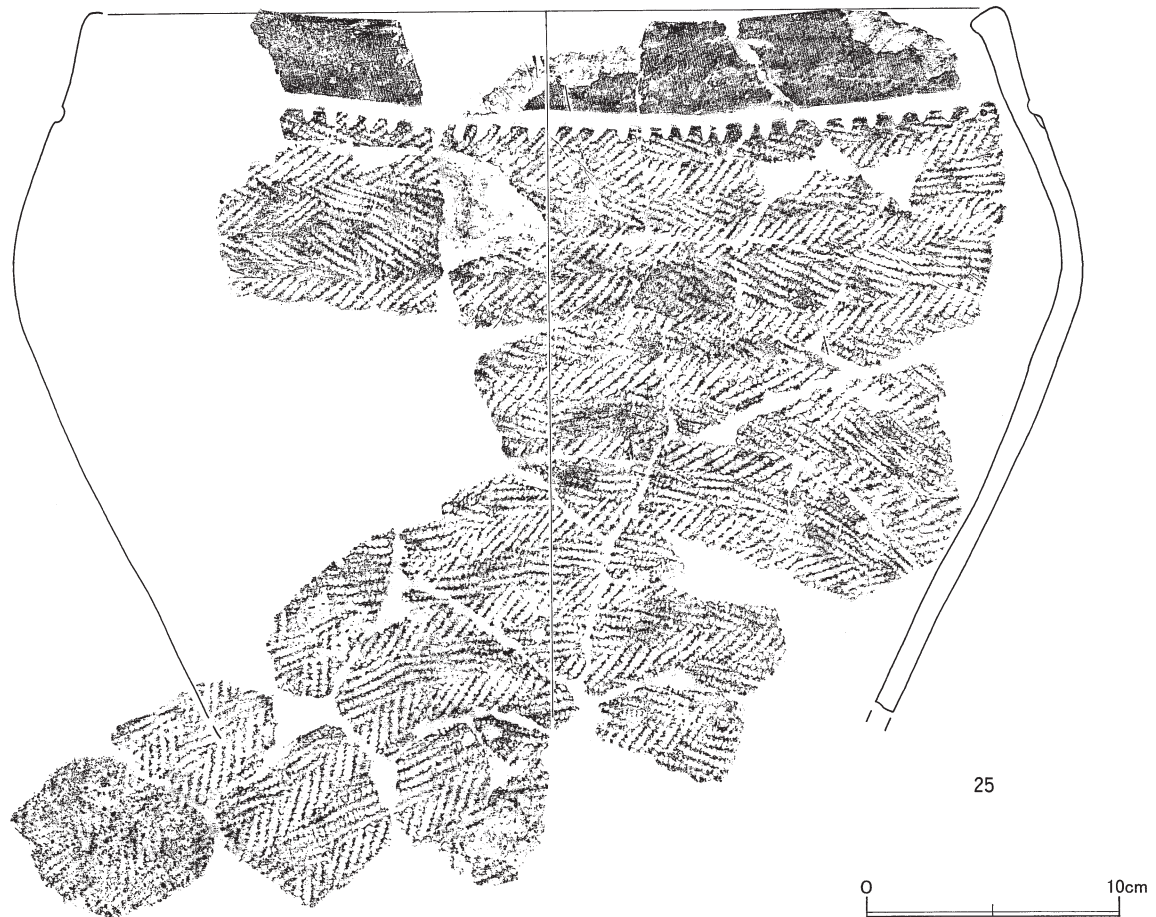
図III-2 H-1(2)



図Ⅲ-3 H-1出土の遺物(1)



図III-4 H-1出土の遺物(2)

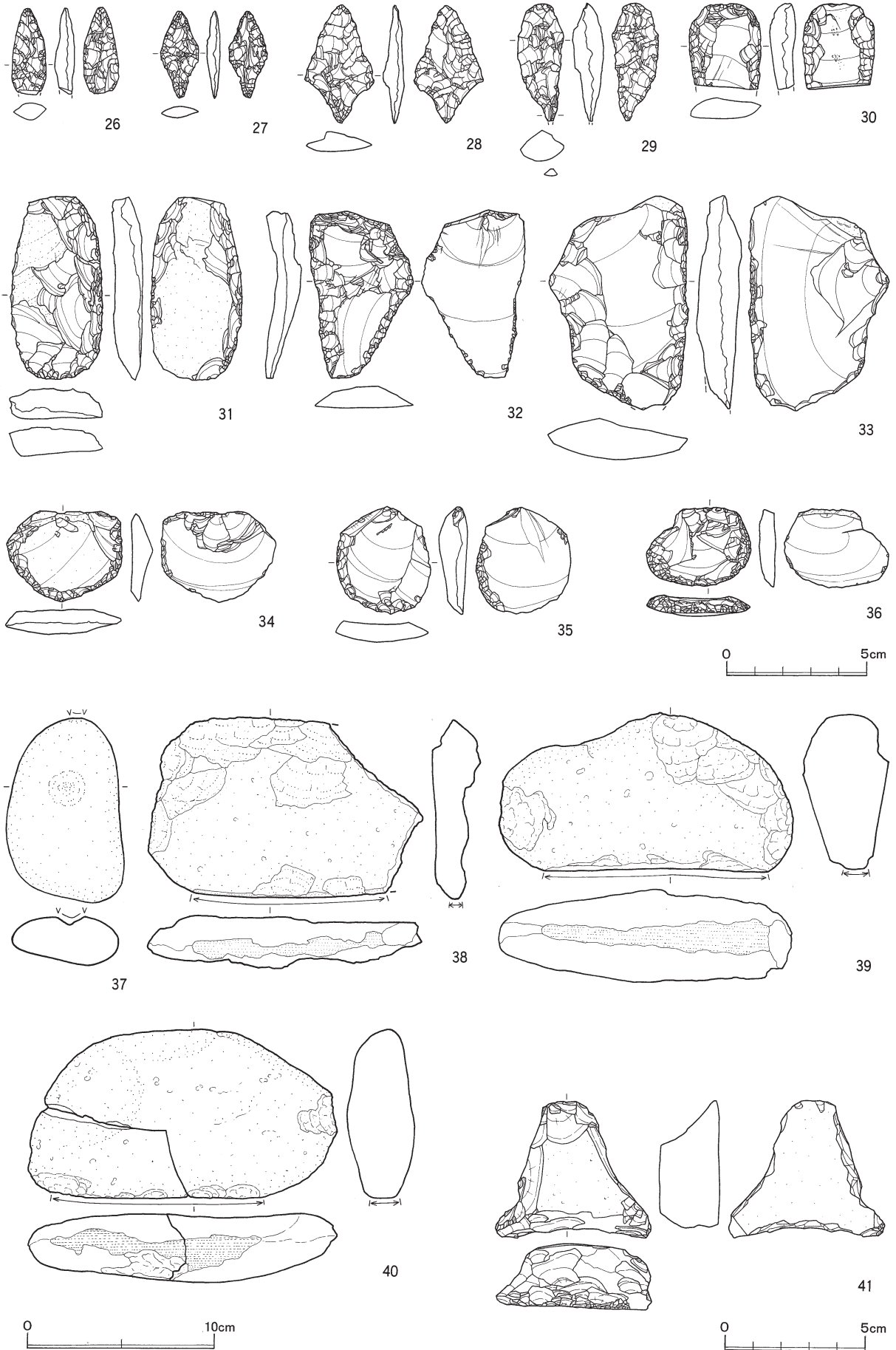


図Ⅲ-5 H-1出土の遺物(3)

は石鏃3点・石錐1点・スクレイパー8点・たたき石1点・くぼみ石1点・扁平打製石器3点・すり石1点・Rフレイク11点・フレイク217点・石核1点・三脚石器1点が出土した。

掲載遺物：1～4はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式・見晴町式。1～3は口唇上に細い撚りの縄文押捺が連続する。1には頂部が平坦な突起がある。4は底部からの立ち上がりが急に外反する。5・6はⅢ群b類。5は口唇下に2本の沈線でU字状文がえがかれる。6は横位の鎖状貼付帯が2本あり、間に縄文押捺がみられる。胎土に砂粒等が少なく軽い。

7～19はⅣ群a類。7はゆるやかに外反する口縁部。やや太いLR縄文が施文されている。8～18はトリサキ式。8は無文の折り返し口縁を有し、胴部は弧線を基調とした文様がえがかれている。9・10は胴部に2本組または3本組沈線で曲線・渦文などがえがかれる。口縁下の横走沈線が波頂部下で連結する。11は5単位の波状口縁で胴部が緩やかに膨らむ深鉢。無文地で、2本または3本一組の沈線で横走、菱文、入組様の渦文などがやや複雑に配置され、胴下部までえがかれている。12a・bは同一個体の大型深鉢。弧線文と波頂部下にU字状文が施文されている。径の大きな平底である。13は口縁下の横走沈線が波頂部下で連結する。14は平縁で胴部が直線的な小型深鉢。胴部にはやや不規則な沈線が見受けられる。15は小型深鉢の底部。LR縄文が胴下部まで施文され、底部付近は縦位の調整痕が目立つ。16は5単位の波状口縁で胴部が緩やかに膨らむ深鉢。無文地で、胴部に網目状の撚糸文が展開する。長さ2～3cmの原体が縦位に回転施文されている。17は平縁で口唇が丸みを持ち、胴部は直線的、平底のやや小型の深鉢である。無文地で縦位の調整痕が残る。18は小型深鉢の無文底部。19は白坂3式。胴部が強くくびれ、口縁が外反する。口縁部の多条沈線が波頂部で弧線となる。胴部



図III-6 H-1出土の遺物(4)

は磨消を伴う帯縄文で区画される。

20～25はIV群b類。20はウサクマイC式。21は手稲式または鮫潤式の大型深鉢。平縁・角形口唇で、胴部くびれ部上方に無文帯をもつ。22～25は鮫潤式。23は口唇下と胴部くびれにそれぞれ2列の刻み列をもつ。胴部は弧線や直線による区画文内に羽状縄文が充填されている。24は鉢、あるいは胴部くびれの強い深鉢と考えられる。2列の刻み列をもち、やや丸みのある口唇となっている。25は短い口縁部が直立し、胴上部で強くくびれる大型深鉢。口縁部無文帯下に、下線区画をもたない刻み列が付されている。

26～28は凸基有茎の石鏃。26は基部を欠く。28は幅広のもの。29は石錐。石鏃転用とも考えられる。30～36はスクレイパー。30はめのう製で、下部を欠く。両側縁に細かい調整が行われている。31はへら状で、両面に原石面をもつ。34～36は半円～円形の剥片を素材とし、側縁から下端部に細かい調整がみられる。36はエンドスクレイパーである。37はくぼみ石。泥岩の扁平楕円礫の片面にくぼみがある。38～40は扁平打製石器。正面観は半円形に近い。38・40は一部を欠き、40はK20区出土の破片と接合した。41は三脚石器。両面に原石面をもつやや厚手の素材である。上部が丸みをもつ三角形を呈する。

重複・時期：床面上の覆土から得られた遺物から、縄文時代中期前半期のものとみられる。

遺構位置図（図I-3）上で縄文時代晩期以降の土坑とみられるP-22と重複するが、浅い土坑なのでH-1との切り合いはない。一方、覆土中に堆積する焼土F-16は窪みに廃棄された焼土の可能性がある。

（土肥）

H-2〔図III-7～13、図版5・6・45～47〕

位置：O・P18・19区

平面形：不整形円形

規模：538×520／504×474／25cm

確認・調査：包含層をⅢ層上面まで掘り下げたところ、黒色土のまとまりを検出した。その範囲の中でトレンチ調査を行ったところ、周辺包含層より明度が高い土壌を確認した。遺構を想定し、黒色土の範囲の中心から十字に設定した土層観察用のベルトを残して掘り下げた。壁の立ち上がりは周辺包含層との判別がやや困難であったが、床面とみられる平坦面を検出し、竪穴住居跡と判断した。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った（Ⅲ章8）。また同焼土で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、3,540±20yB.P.（δ¹³C補正あり）という結果であった（V章3）。

覆土：覆土の上にⅡ層黒色土が落ち込んでおり、層中にKo-dが薄く堆積する。覆土1層はⅢ層に近い土壌が約10cm堆積している。明度が高く火山灰が密な部分を1-1層とした。2層はロームや岩砕を含む黒褐色～暗褐色土が15～20cm堆積している。床面焼土の上は、赤褐色の焼土粒が多く含まれる（2'層）。床面付近のロームを多く含む薄層を3層とした。

床・壁：床面はV層～VI層上面付近であり、周辺地形に緩やかに沿って北側が高く南側が低くなっている。おおむね平坦であるが、北東壁寄りには10cm程度の高まりがある。全体的に硬質で、筋状に黒褐色土が入り込んでいる部分がある。立ち上がりは緩やかで、壁はやや外側へ直線的に開く。構築面はIV層中である。

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑8基（HP-1～8）を検出した。HF-1は竪穴住居跡の中央から南寄りに位置する地床炉である。焼成面は径90cmの円形、被熱層最大9cmである。

上位は暗褐色土にブロック状の焼土が混じり、下位はVI層が被熱し赤褐色を呈する。HP-1・2は円筒形を呈する一方、HP-4・5は下端部が不整形である。HP-6・7・8は壁際付近で検出した、比較的細長いもの。HP-6は径18cm・深さ32cmを測る。

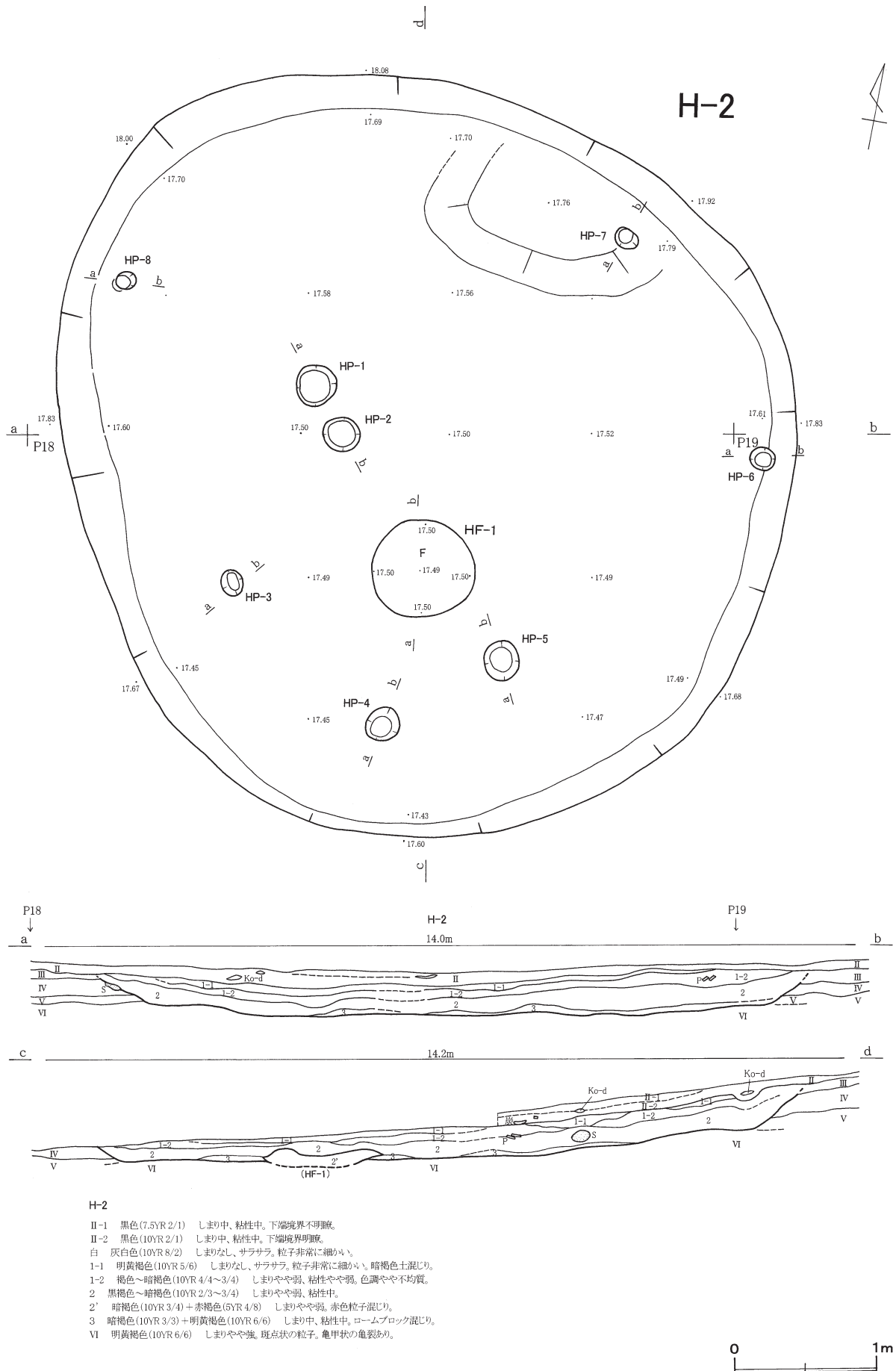
遺物出土状況：出土遺物の総数は5,270点で、覆土1層から1,626点、2層から3,434点と多数の遺物が出土した(図版5の3・4)。土器は覆土1・2層ともIV群a類を主体とする。特に堅穴住居の壁際付近や中央付近では、ブロック状にまとまって出土した遺物がある(図III-8)。またHF-1の被熱層やHP-1～6の覆土から、IV群b類土器などが出土した。

出土遺物の内容は、土器等が2,492点・石器等が756点・礫が2,022点である。土器等はII群b類56点・III群a類352点・III群b類10点・IV群a類1,858点・IV群b類156点・V群b類10点・土製円盤1点・焼成粘土塊49点が出土した。石器等は石鏃6点・石錐3点・両面調整石器2点・つまみ付きナイフ5点・スクレイパー6点・石斧1点・たたき石3点・扁平打製石器4点・砥石1点・台石石皿1点・Rフレイク8点・Uフレイク2点・フレイク713点・石核2点が出土した。

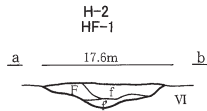
掲載遺物：1・2はII群b類。1は網目状の撚糸文がみられる。2は円筒土器下層d式。細かい撚糸文が施文されている。3～12はIII群a類。3は円筒土器上層b式。口唇及び口縁部に斜行・横位・波状の粘土紐貼付がみられ、半截管状の刺突が連続する。4～12はサイベ沢VII式。4～7は口縁突起。4は台形状突起に多段の細い粘土紐貼付が施される。5・6は肥厚する口唇上にハの字状に刻みを連続させている。6は粘土紐貼付を閉じて突起部を作り出している。7は環状の粘土紐貼付上に縄文押捺がみられる。8～10は口縁部～胴部のもの。口縁部が緩やかに外反し胴部がわずかに膨らむ。口唇上に撚りの細い縄文押捺が連続する。突起は山形(8)・2個一対(9)・筒状(10)がある。9・10には把手が剥離した痕跡がある。11・12は平底。11は結節縄文が多段施文されている。13はIII群b類榎林式。

14～26はIV群a類。14は口縁部に2条の縄線が施文されている。15は無節の細かい縄文が施文されている。16～19はトリサキ式。16は折り返し口縁上にLR縄文が施文されている。口縁部下に横位の貼付帯が施されている。17～19は無文地に2本組み沈線で文様がえがかれている。18は小型深鉢。やや不規則な舌状の文様がえがかれている。外面にスス状の黒色物質が付着している。20・21は大津式。20は帯状文内に櫛描文が充填されている。21は口縁部がやや強くくびれ外反する。胴部は帯状文内に鍵文が連続し、渦文やカニのはさみ状の文様が連結する部分がある。22は無文の平底。23～26は白坂3式。23a・bは同一個体。口縁部には波状の多重沈線、胴部くびれの無文帯以下は帯状文により山形・菱形などに区画されている。24はウサクマイC式に近似する。口縁部は波状の多重沈線と波状沈線文、胴部は波状沈線文と弧線帯状文などがえがかれている。全体的に暗赤褐色を呈し、外面はやや磨滅しざらついている。25a・bは小型深鉢で器壁が薄く、胴部は蛇行沈線が垂下する。26もウサクマイC式に近似する。口縁部が直線的に外に開き、胴上部が弱くくびれる。地文のLR縄文と、間隔のあいた多重沈線が口縁部～胴上半部まで施文されている。多重沈線は一定間隔でZ字状に屈曲する。27～30はウサクマイC式。いずれも口縁部や胴部に鋸歯状の多重沈線を密に施している。27・29a・bには、口唇下に沈線が1本明瞭に横走する。28は胴部くびれ以下が残る。3本組沈線による鋸歯状がめぐる。30a・b・cは同一個体。胴部くびれの無文帯をはさんで上下に鋸歯状の多重沈線を密に施し、胴下部は帯状文・鍵文などがえがかれている。暗赤褐色を呈し、胎土に小石を多量含み、器面がざらつく。

31～33はIV群b類。31・32は手稲式。31は平行沈線に蛇行沈線が垂下し、32は平行沈線に横U字状文が連結する。33は平縁で、胴上部で段をもつ深鉢。口縁部無文帯下および胴下部に下線区画をもたない刻み列が付されている。無文部を伴い、幅広の鍵状文が施文されている。外面に光沢をもつスス

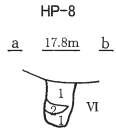
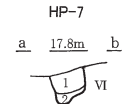
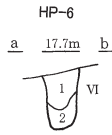
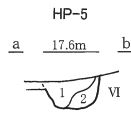
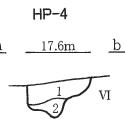
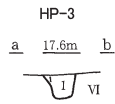
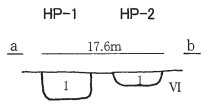


図III-7 H-2(1)



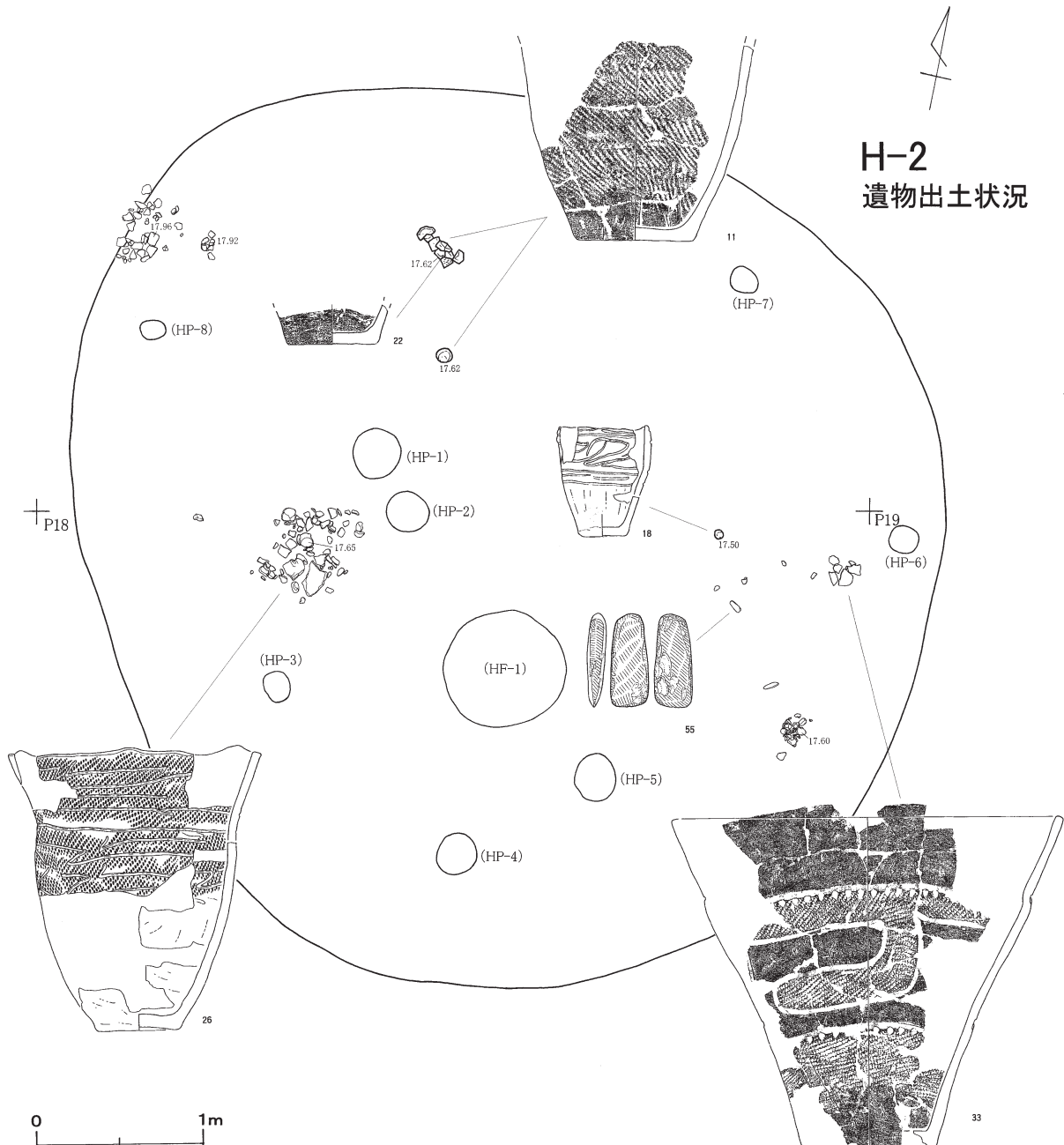
H-2 HF-1

F 暗褐色(7.5YR 3/3) しまり中、粘性中。細かい橙色粒子やや多量含む。
f 赤褐色(5YR 4/8) しまり中、粘性弱。径10mm前後の橙色ロームブロック(塊上)。褐色土混じり。
f' 暗褐色(7.5YR 5/6) しまりやや弱。境界やや不明瞭。ローム粒少量、やや均質的。

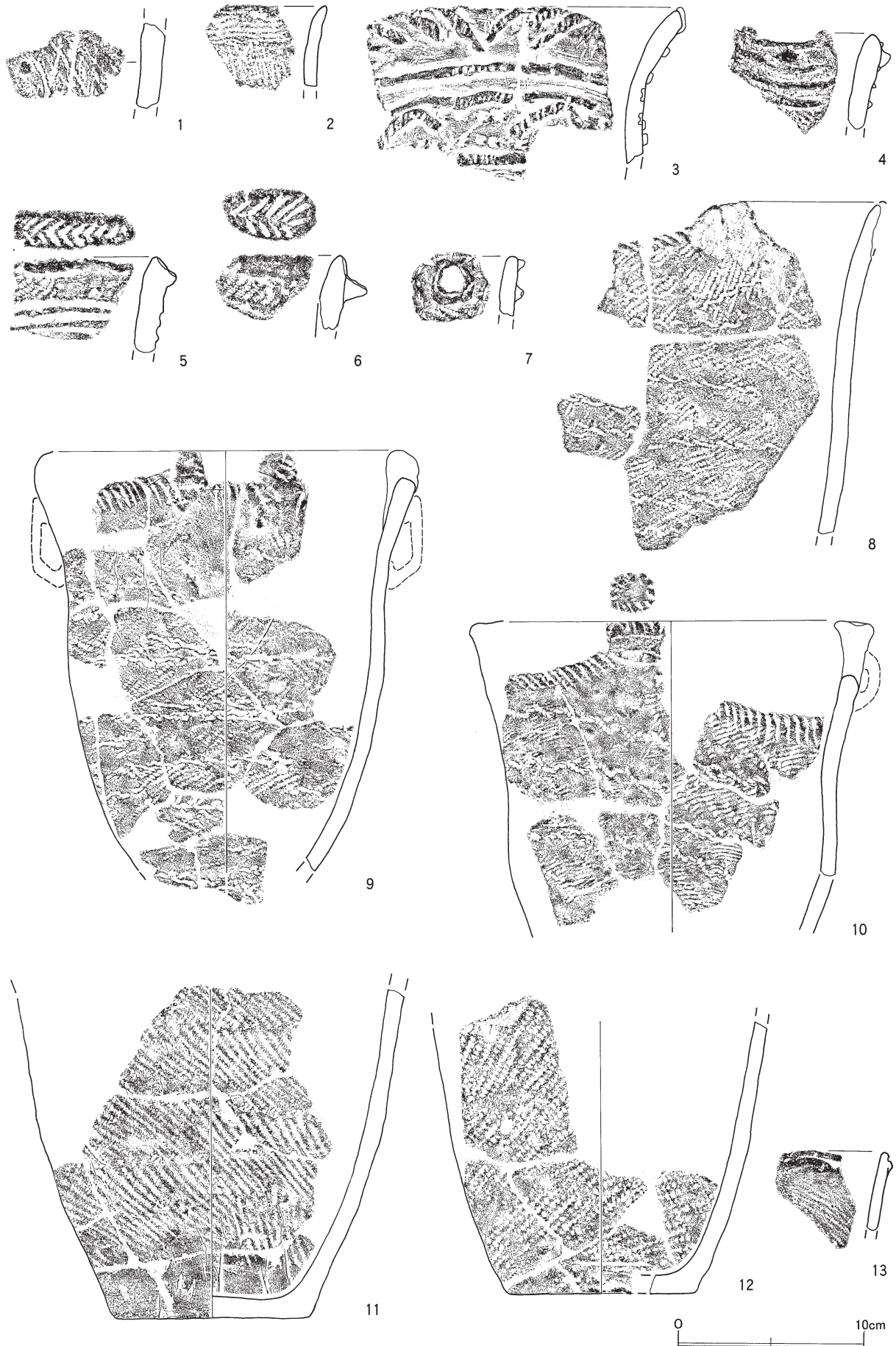


H-2 HP-1~HP-8

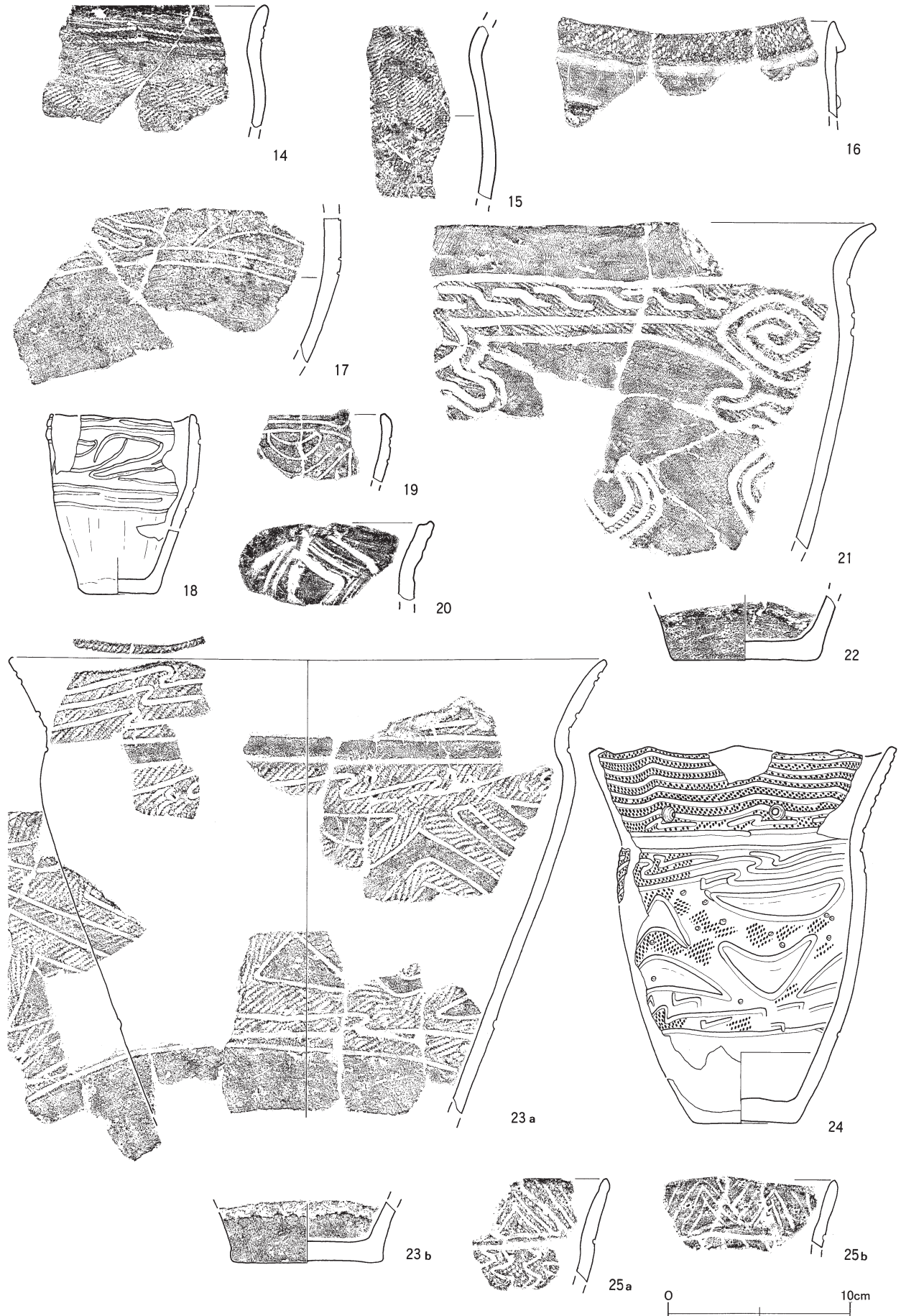
1 暗褐色(10YR 3/3) [IV>VI] しまり中、粘性中。ローム粒、不均質に混じる。
2 にぶい黄褐色(10YR 4/3) [IV<VI] しまりやや強、粘性中。ローム粒、暗褐色土不均質。



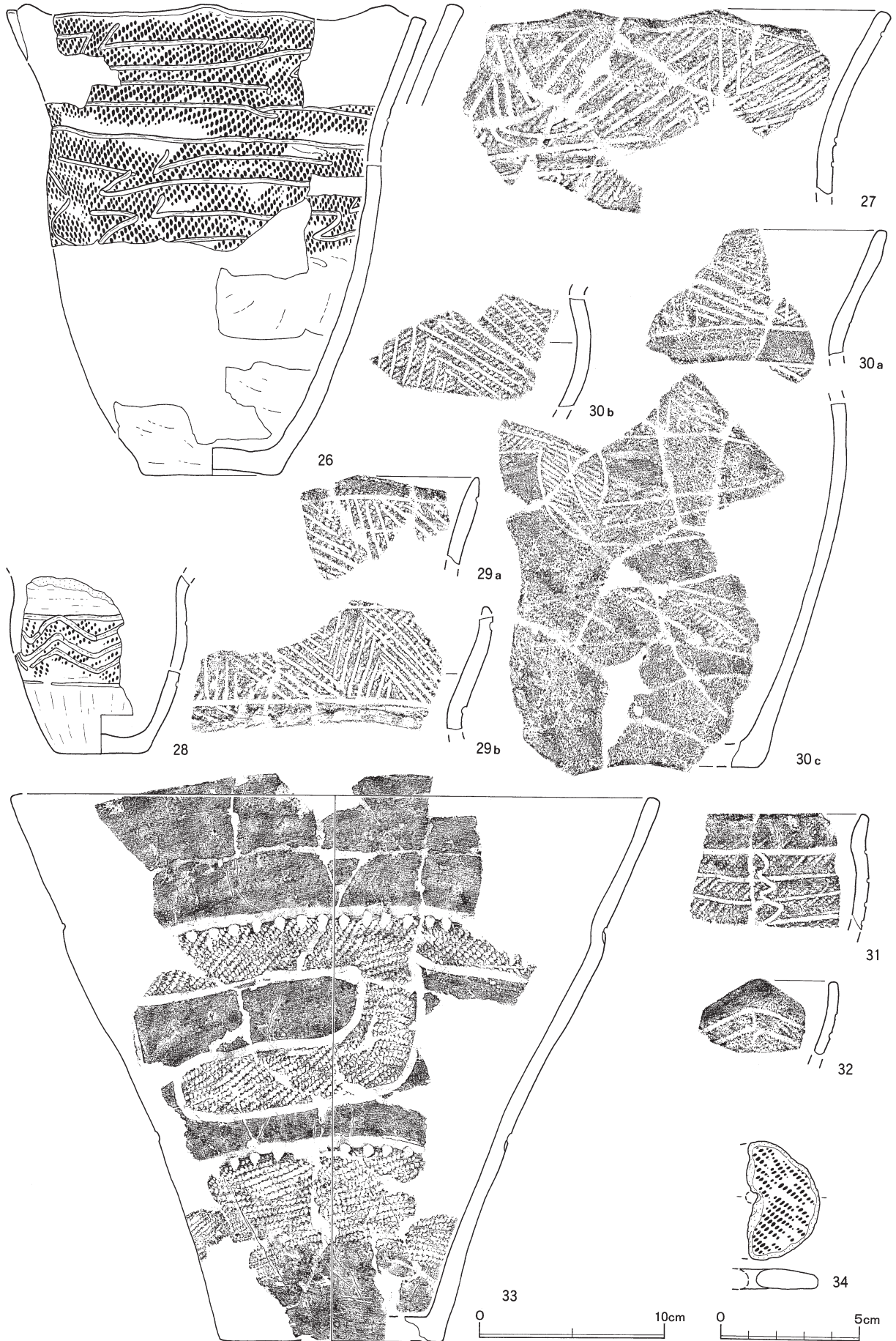
図III-8 H-2(2)



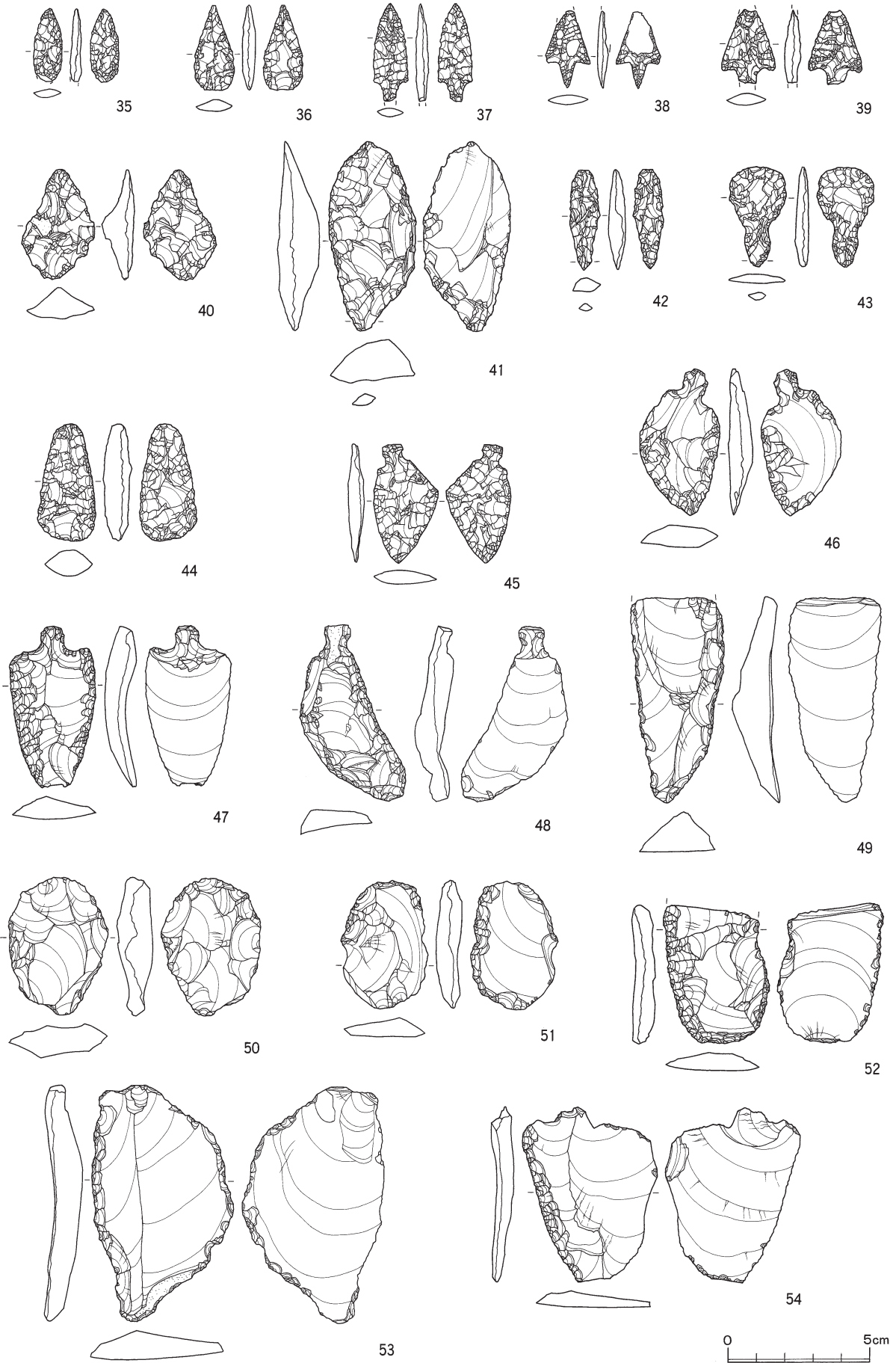
図Ⅲ-9 H-2出土の遺物(1)



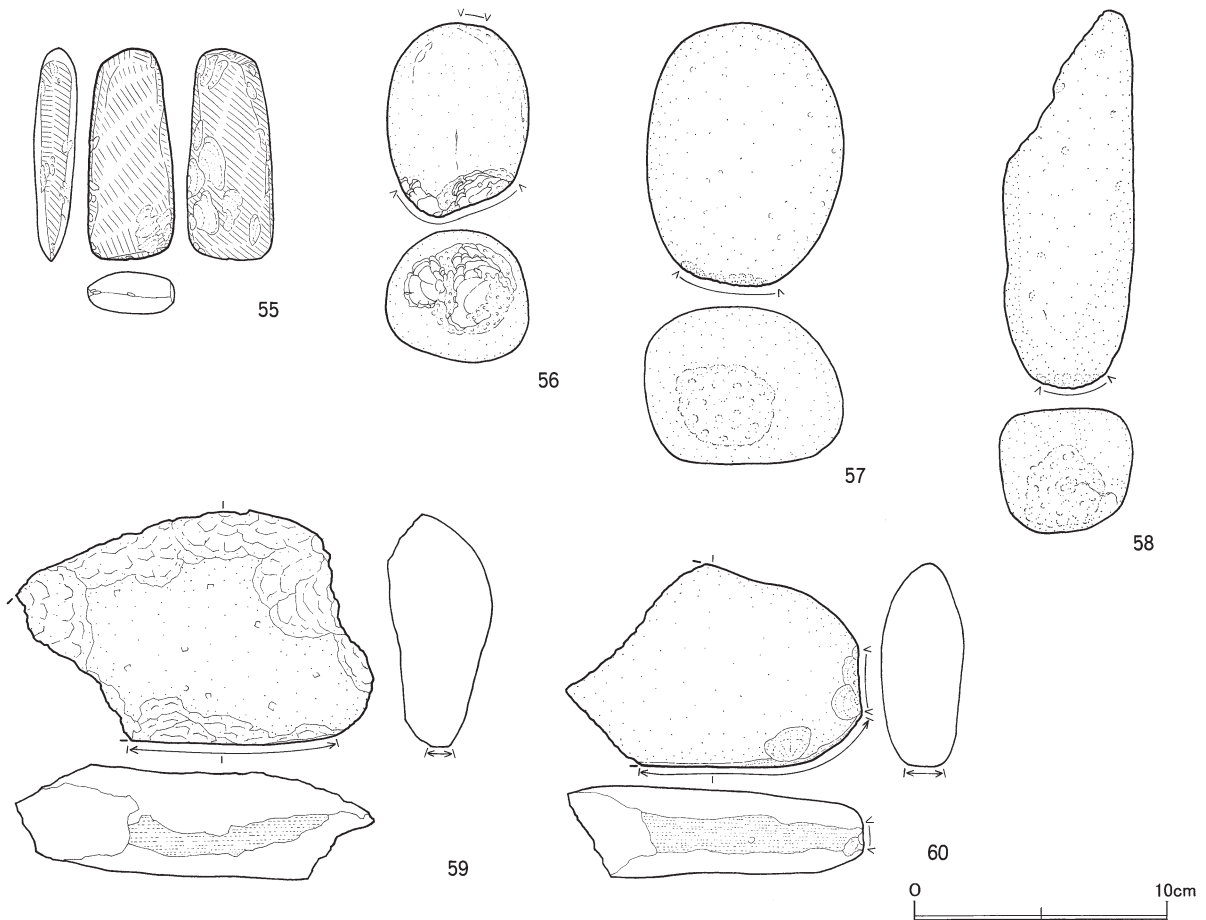
図III-10 H-2出土の遺物(2)



図Ⅲ-11 H-2出土の遺物(3)



図III-12 H-2出土の遺物(4)



図Ⅲ-13 H-2出土の遺物(5)

状の黒色物質が付着している。

34は土製円盤。縄文のみが見られる、比較的薄い土器片が用いられている。中央部の貫通孔を含め半損している。周縁部の加工は比較的ていねいである。

35～40は石鏃。35は柳葉形、36は無茎、37～39は平基有茎のもの。38は両面とも一部剥落している。39は黒曜石製。産地同定を委託したところ、赤井川産という結果であった（V章1）。40は背面中央付近が突出しており、未成品とみられる。41は石槍の未成品を石錐としたものと考えられる。42・43は石錐。42は棒状で、43は円形をつまみ部を作り出している。44は両面調整石器。やや厚身でヘラ状である。45～48はつまみ付きナイフ。45は薄身でていねいに両面調整が行われている。47は下端部を欠き、48は下端部にわずかに原石面が残る。49は上半が欠損するが、（つまみ付き）ナイフと考えられる。50～54はスクレイパー。50・51は小型で楕円形に近いもの。52は両側縁および下端部に調整が連続する。54は片刃のもの。55は緑色泥岩製の石斧。小型の短冊形で、全面研磨されている。56～58はたたき石。56は頁岩の楕円礫、57・58は安山岩の楕円礫・棒状礫の下端に敲打痕がある。59・60は扁平打製石器。59は安山岩、60は砂岩製で、半割されたもの。59は頂部にも敲打痕が連続する。

時期：遺物出土状況から、縄文時代後期前葉とみられる。

（阿部）

H-3 [図III-14・15、図版7・48]

位置：R14区

平面形：隅丸方形

規模：(324) × 305 / 298 × 260 / 38cm

長軸方位：N-66° E

確認・調査：IV層上面付近まで掘り下げたところ、黒色土や黄褐色土の不整形なまとまりを検出した。その範囲の中で細いトレンチ調査を行ったところ、壁の立ち上がりとみられる段を確認した。土層観察用のベルトを残して周辺を掘り下げたところ、焼土(F-3)を検出した。焼土およびその下の土坑(P-3)を調査後さらに掘り下げ、床面と壁を検出し竪穴住居跡と判断した。西側は調査区境にかかっており、沢による浸食を受けている。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った(III章8)。

覆土：上位の1層は明黄褐色～暗褐色を呈し、包含層のIII層に類似する。そのうち、B-Tmとみられる火山灰が密な堆積層を1-1層、不均質な暗褐色土を1-2層とした。中位のうち竪穴の中央部には、1-2層に類似するものやや赤みの強い土壌が堆積しており、「R層」とした。下位の2層は黒色土を主体とするが、北側や壁際付近では若干色調が明るく、区分している(2-1・2-2・2-3層)。いずれも自然堆積と考えられる。

床面付近から焼土(F-3・4)を検出した。

床・壁：床面はVI層を掘り込んでおり、おおむね平坦である。全体的に硬質で、ロームの隙間に黒褐色土が筋状に入り込んでいる。東壁付近には小土坑を伴う浅いくぼみがあり、出入口に関連する可能性がある。北側の壁の立ち上がりは急でやや外側へ直線的に開く。一方南側は不明瞭で、ゆるやかに立ち上がるものと思われる。構築面はIV層中である。

付属遺構：焼土1か所(HF-1)と土坑・柱状小土坑3基(HP-1～3)を検出した。HF-1は竪穴住居跡の中央からやや北東寄りに位置する地床炉である。焼成面は径40cmの円形で、東側は土坑(P-4)に切られている。被熱層は最大6cmで、VI層が被熱し赤褐色を呈する。焼土の西外側に焼土粒や炭化物が薄く広がっている。HP-1～3は東壁付近に位置する柱穴状小土坑である。HP-1は径24cm・深さ20cmを測る。HP-2・3は、前述の浅いくぼみの中にある。

遺物出土状況：出土遺物の総数は940点で、土器等が277点・石器等が134点・礫が529点である。土器等はIII群a類238点・IV群a類31点・V群b類1点・焼成粘土塊7点で、石器等はスクレイパー1点・たたき石2点・扁平打製石器5点・Rフレイク7点・フレイク116点・加工痕ある礫3点が出土した。

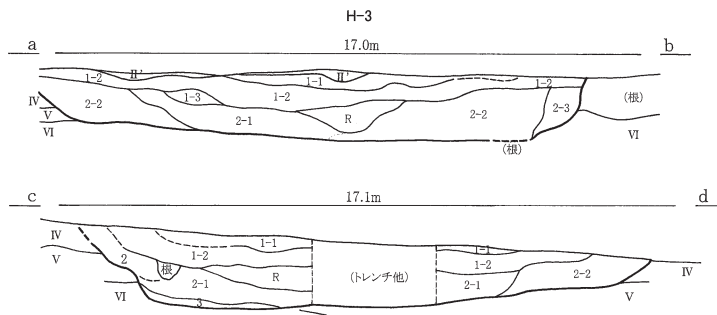
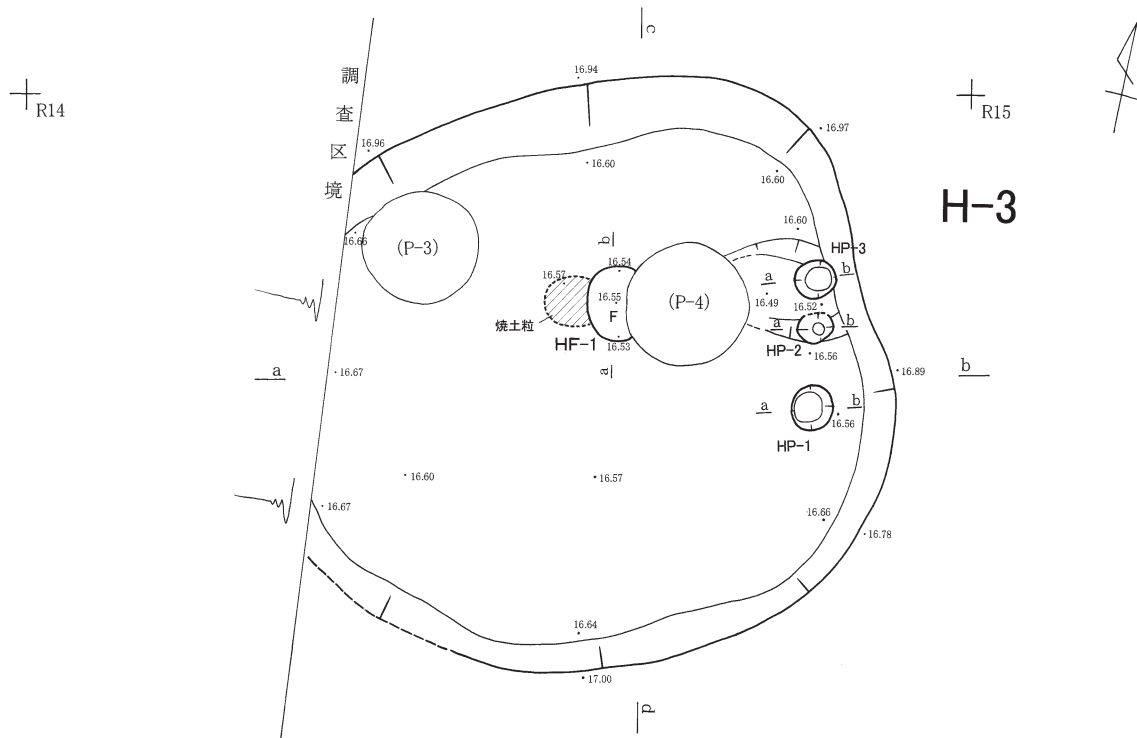
層位別では、覆土1層が528点、R層が154点、覆土2層が256点である。1層中から、泥岩および凝灰岩の小礫が多数出土した。またHP-1の覆土から扁平打製石器片が出土した。

掲載遺物：1～4はIII群a類サイベ沢VII式・見晴町式。1は綾絡文が密に施文されている。口唇上は刻み(刺突)列である。口縁部に把手の痕跡がある。2の口唇上は撚りの細かい縄文押捺である。3は太・細の2種類の原体が用いられている。4はP-1出土の土器と接合している。綾絡文が多段施文されている。5はIII群b類ノダツプII式の底部付近。薄い貼付帯上にLR縄文を深く押捺して回転施文している。縄端部が残る。6はIV群a類。無文の鉢。

7はスクレイパー。右側縁に原石面が残る「かまぼこ形」の剥片を素材とする。8・9はたたき石。8は珪岩製で上下端に敲打痕が広く及ぶ。9は砂岩の楕円礫の下端部が作業面である。10～13は扁平打製石器。10・12・13は安山岩製、11は砂岩製である。半割されたものは11の1点である。10・11は頂部も敲打調整が大きく及ぶ。

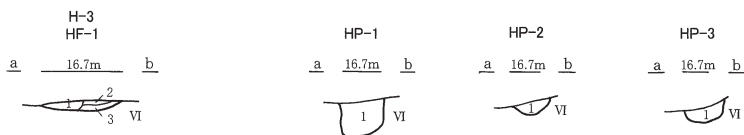
重複・時期：F-3・4およびP-3・4と重複し、当遺構の方が古い。遺物出土状況から、縄文時代中期半ばとみられる。

(阿部)



H-3

- 1-1 明黄褐色～褐色(10YR 6/6～4/4) しまりなし、サラサラ。火山灰。暗褐色土混じり、やや不均質。
- 1-2 褐色～暗褐色(7.5YR 4/4～3/4) しまり弱、粘性やや弱。漸遷。
- R (こぶい) 赤褐色～極暗赤褐色(5YR 4/4～2/4) しまりやや弱、粘性中。漸遷。
- 2-1 極暗褐色(7.5YR 2/3) しまりやや弱、粘性中、やや均質的。
- 2-2 黒褐色(7.5YR 3/2) しまり弱、粘性中、均質的。
- 2-3 暗褐色(10YR 3/4) しまり中、粘性中、やや不均質。
- 3 暗褐色+明黄褐色 しまり中、粘性中、ロームブロック混じり。



H-3 HF-1

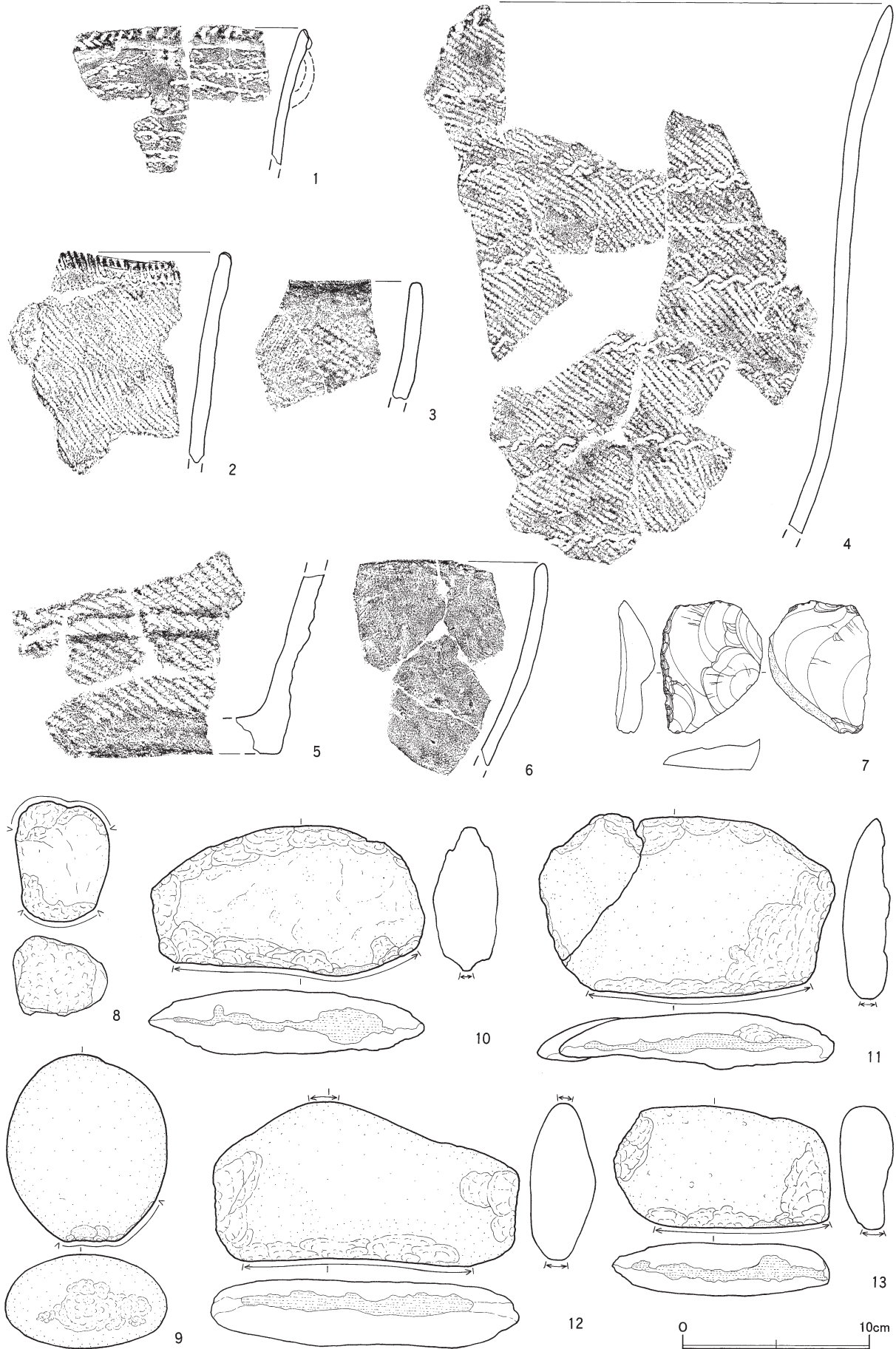
- 1 極暗褐色(7.5YR 2/3) [IV>焼土粒] やや均質。
- 2 暗褐色(7.5YR 3/3)+明赤褐色(5YR 5/6) [IV+焼土粒] やや不均質。
- 3 明褐色(7.5YR 5/6)+明赤褐色(5YR 5/6) [VI+焼土粒] やや不均質。

H-3 HP-1～HP-3

- 1 黒褐色(7.5YR 2/4) しまりやや弱、粘性中。ローム粒少量混じる。



図Ⅲ-14 H-3



図III-15 H-3出土の遺物

H-4 [図Ⅲ-16~20、図版8・9・49~51]

位置：M・N16区

平面形：楕円形

規模：448×394/404×341/22cm

確認・調査：包含層をⅢ層上面まで掘り下げたところ、黒色土のまとまりを検出した。その範囲の中心から十字に設定した土層観察用のベルトを残して掘り下げた。壁の立ち上がりは周辺包含層との判別がやや困難であったが、床面を検出し、竪穴住居跡と判断した。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った（Ⅲ章8）。

覆土：覆土の上にⅡ層黒色土が落ち込んでおり、Kordの堆積が確認できる。覆土1層はⅢ層に近い土壌が約10cm堆積している。明度が高く火山灰が密な部分を1-1層とした。2層はロームや岩砕を含む黒褐色土が堆積している。色調や堅密度などで細分した（2-1・2-2・2-3層）。いずれも自然堆積と考えられる。床面中央付近にロームを多く含む部分を3層とした。

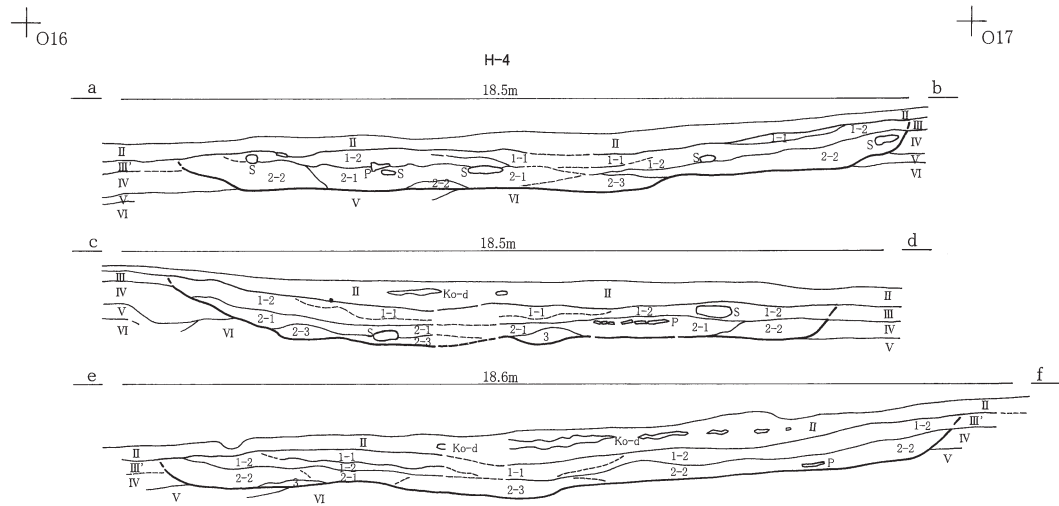
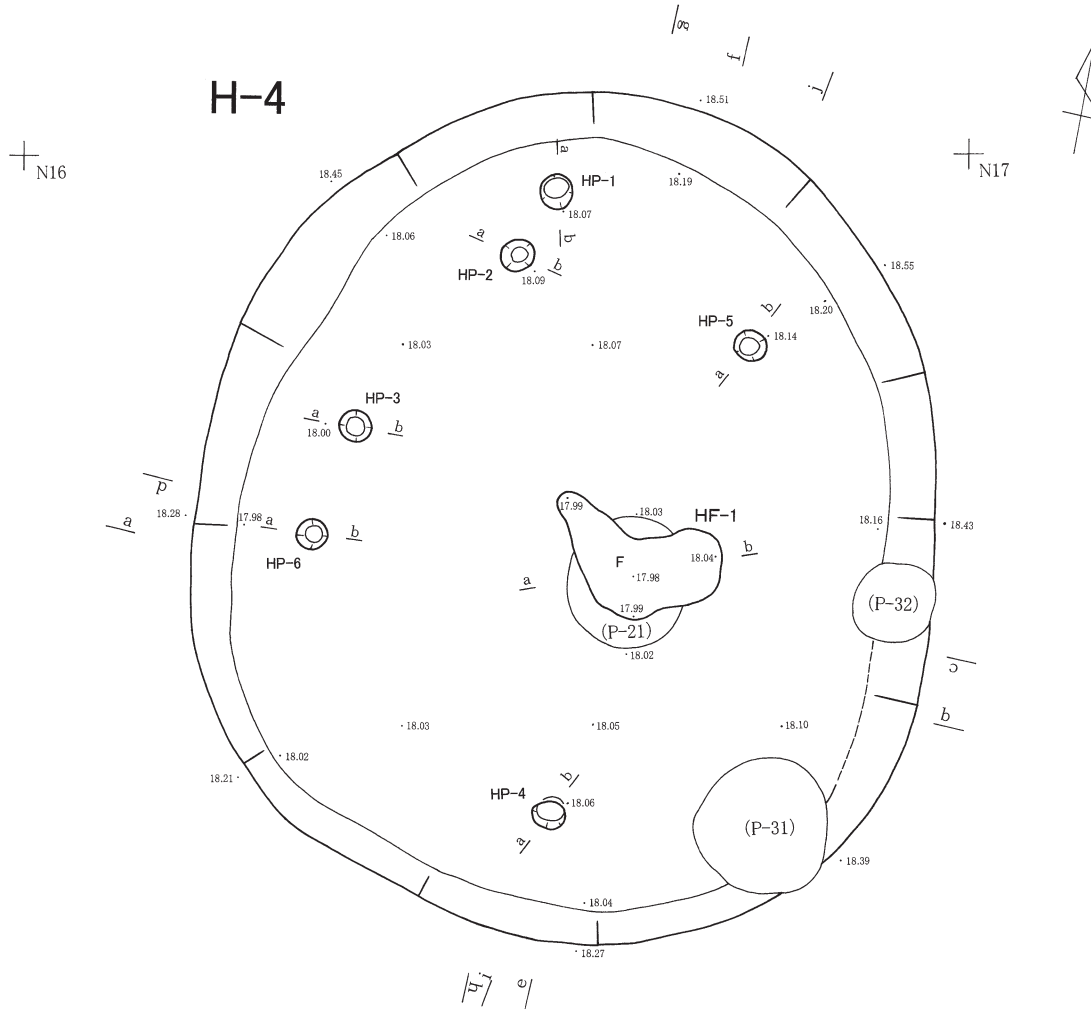
床・壁：床面はⅤ層～Ⅵ層上面付近であり、わずかであるが周辺地形に沿って北側が高く南側が低くなっている。おおむね平坦で、中央部がややくぼむ。床面に筋状に黒褐色土が入り込んでいる部分がある。立ち上がりは緩やかで、壁はやや外側へ直線的に開く。構築面はⅣ層中である。

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑6基（HP-1～6）を検出した。HF-1は、床面からP-21上面にまたがって約1mの範囲で分布する。被熱層は最大12cmで明赤褐色を呈するが、黒色土やロームが混じる。柱状小土坑は特に床面西壁寄りが多く検出した。北側のHP-1・2・5は深さ20cm以上で、南側のHP-3・4・6はそれ以下である。

遺物出土状況：出土遺物の総数は6,696点で、覆土1層・2層とも多数の遺物が出土した。特に、竪穴住居の壁際付近から中央に傾斜してブロック状にまとまって遺物が出土した（図Ⅲ-17）。壁際の覆土上位ではⅤ群b類、中央付近ではⅣ群a類が多い。

出土遺物の内容は、土器等が3,337点・石器等が558点・礫が2,801点である。土器等はⅡ群b類1点・Ⅲ群a類93点・Ⅲ群b類1点・Ⅳ群a類1,767点・Ⅳ群b類8点・Ⅴ群b類1,415点・焼成粘土塊52点が出土した。石器等は石鏃2点・両面調整石器1点・スクレイパー3点・石斧3点・たたき石3点・くぼみ石3点・扁平打製石器6点・台石石皿1点・Rフレイク8点・フレイク517点・石核7点・加工痕ある礫4点が出土した。

掲載遺物：1～3はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。1は粘土紐貼付上に細い縄文が押捺されている。3は2本一組の浅い沈線がみられる。4～19はⅣ群a類。4は胴部が膨らむ。口縁部無文帯に2本の縄線が付されている。5は地紋の縄文がやや強く押捺されている。3本一組の沈線で文様がえがかれる。6～14はトリサキ式。6はやや不規則な沈線がみられる。7は3本一組の細い沈線で曲線文・入組文や山形文などをえがいている。8は口縁突起部が剥落しているが、刻みが入っていた痕跡がある。鎖状貼付文が垂下する。9は口縁に指頭押捺のある低い突起がある。10は胴部の文様帯が2段構成をとり、2本一組の沈線で曲線文・入組文や山形文などをえがいている。11a・bは同一個体。平行沈線とやや不規則な曲沈線がみられる。12はLR縄文施文、13は無文の小型の深鉢で、横位の調整痕が目立つ。14は径がやや小さい底部。15・16は大津式。横走沈線の区画内に小型のクランク状文が連続する。15は胴部が膨らむ。16は胴部に渦文が配される。17はⅣ群b類。胴部に幅広の無文帯が設けられている。18～24はⅤ群b類。18は広口の壺形土器の口縁部。頸部は垂直で、口縁部が強く屈曲する。内面に浅い段を2段有する。19は無文の口縁部および横走沈線で区画された胴部が屈曲する。口縁部内面に沈線がある。20は小型の鉢で、口縁突起を有する。21は覆土1層からまとまって出土したもの。口唇は小波状をなし、口縁部に3条の凹線が横走する。22は口縁部に2条、23は3条の凹線が横走する。

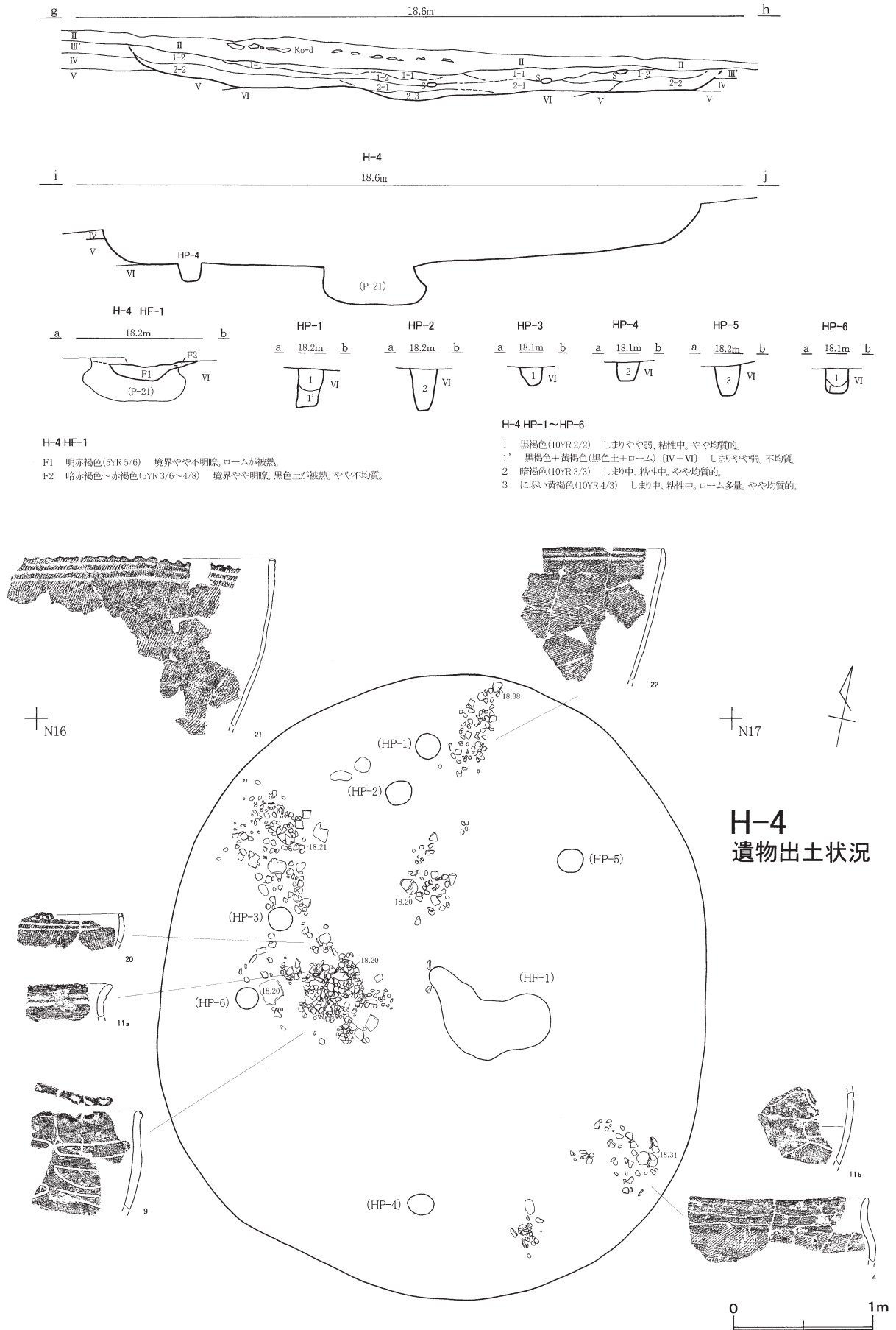


H-4

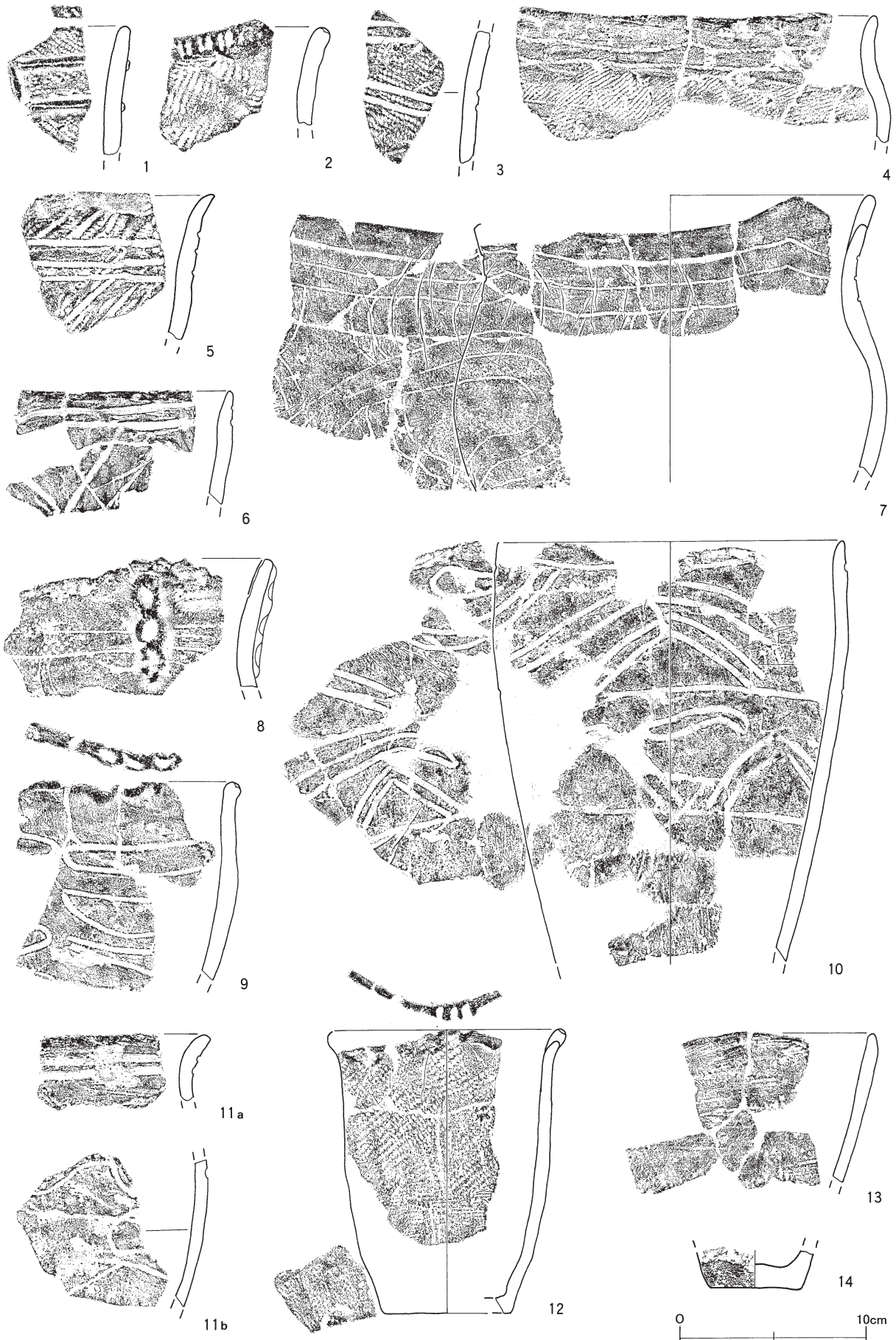
- II 黒色(10YR 2/1) しまり弱、粘性中。
- Ko-d に近い黄褐色(10YR 6/4) サラサラ。同じレベルに斑状に分布。
- 1-1 暗褐色～褐色(10YR 3/4～4/4) しまりやや弱、粘性弱。
黄褐色火山灰混じり、やや不均質。
- 1-2 暗褐色(7.5YR 3/4) しまりやや弱、粘性中。
- 2-1 暗褐色(10YR 3/4) しまり中、粘性中、やや不均質。
- 2-2 黒褐色(10YR 2/3) しまりやや弱～中、粘性中。一部しまり弱ブカフカ。
- 2-3 黒褐色(10YR 2/2) しまり弱、粘性中。
- 3 暗褐色(10YR 3/4)+黄褐色(10YR 5/6) しまり中、粘性やや強、ローム混じり。



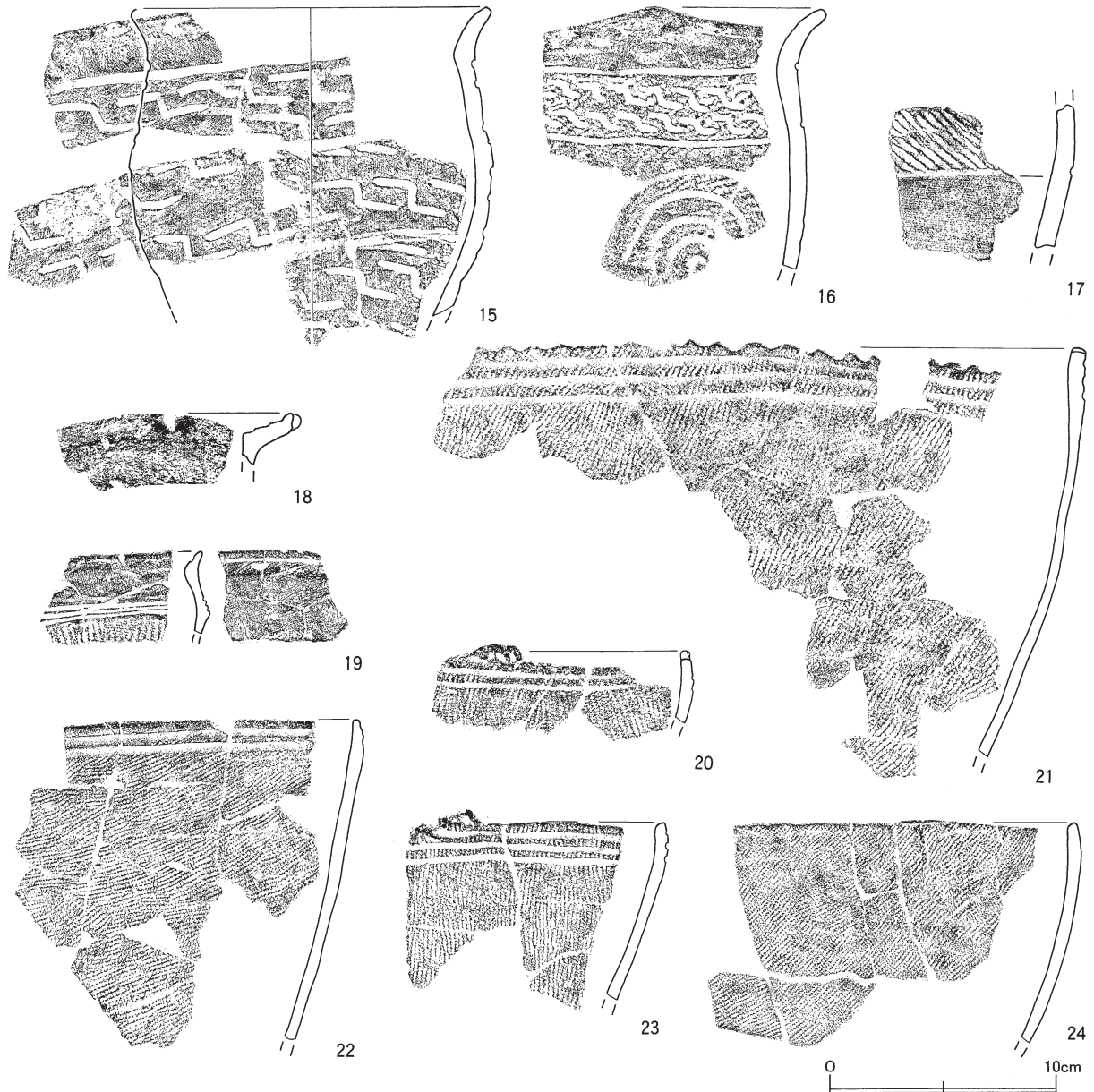
図III-16 H-4(1)



図III-17 H-4(2)



図III-18 H-4出土の遺物(1)

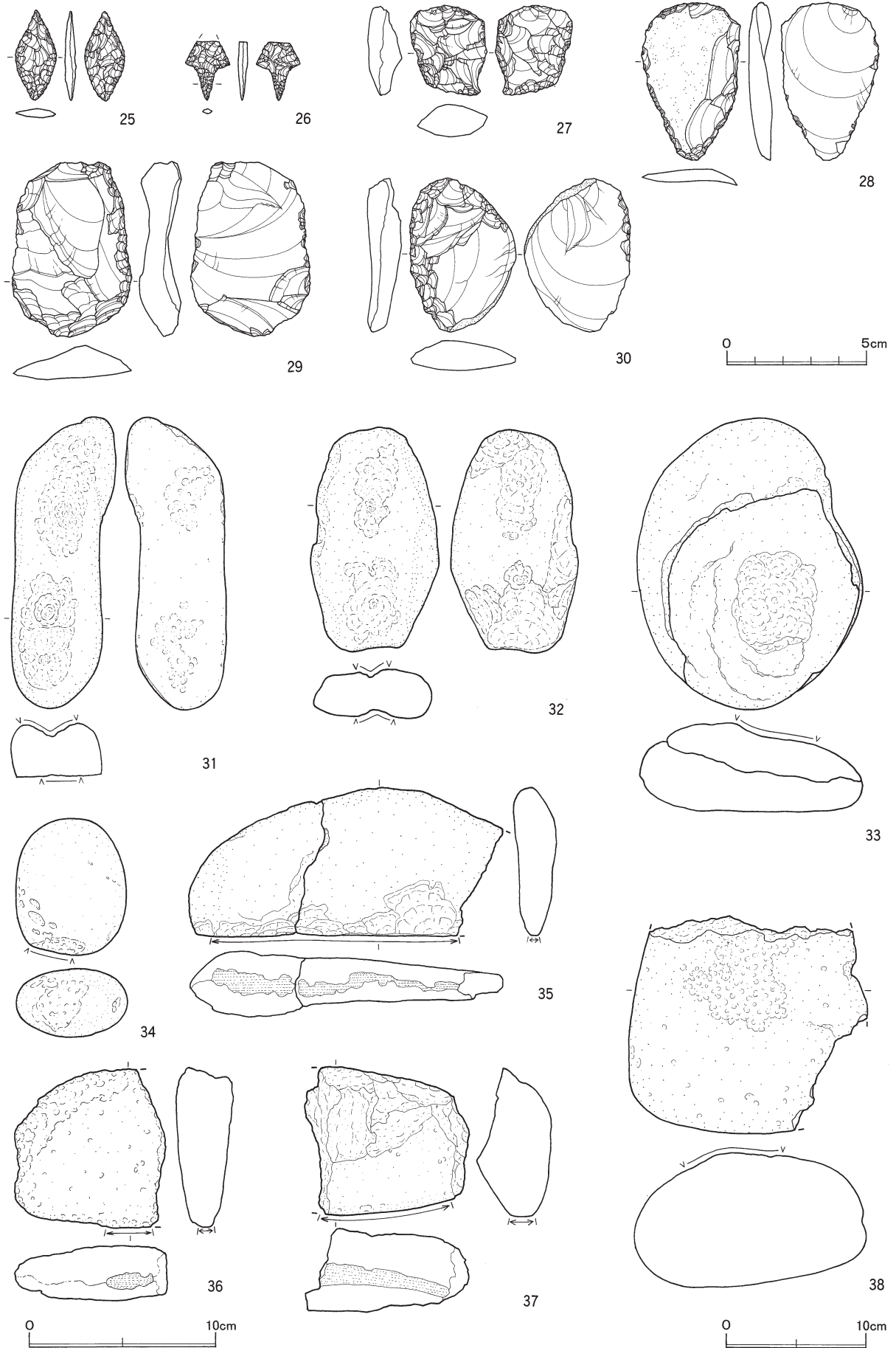


図Ⅲ-19 H-4出土の遺物(2)

19・20・23は地文が縦位の縄文である。24は平縁で角形口唇。

25・26は石鏃。25は片岩製で、尖基のもの。26は平基有茎で、先尖部を欠損する。27は両面調整石器。28～30はスクレイパー。28は背面に原石面が広く残る。29はやや厚手の剥片を素材とし、右側縁に連続調整が入る。30は右側縁に原石面が残る「かまぼこ形」の剥片を素材とする。31・32はくぼみ石。31は泥岩の棒状礫、32は凝灰岩の扁平楕円礫が用いられ、それぞれ両面に複数箇所のくぼみがある。33・34はたたき石とした。33は安山岩製で被熱している。板状に半割している。34は珪岩の楕円礫の下端に敲打痕がみられる。35～37は扁平打製石器。すべて半割されており、35はJ20区出土のものと接合した。38は台石とした。上面に敲打痕がみられる。

重複・時期：P-21・31・32と重複する。当遺構の方がP-21より古いとみられるが、P-21は当遺構に関連し同時期とも考えられる。一方P-31に対しては当遺構の方が新しい。P-32との新旧関係は不明である。当遺構の時期は、遺物出土状況や構造がH-2と類似することから、縄文時代後期前葉とみられる。
(阿部)



図III-20 H-4出土の遺物(3)

H-5 [図Ⅲ-21・22、図版10・51]

位置：P・Q15・16区

平面形：隅丸方形

規模：253×224／227×192／51cm

長軸方位：N-5° E

確認・調査：Q15区を調査中、VI層上面付近まで掘り下げたところ、黒褐色土の落ち込みとその中に焼土の輪郭（F-8）を検出した。黒褐色土の範囲のほぼ中央に設定した土層観察用のベルトを残して焼土上面まで掘り下げた。覆土中位に広く分布する焼土の調査を終えた後、ベルトに沿ってトレンチ調査を行った。床と壁の立ち上がりを検出し、竪穴住居跡と判断した。P・Q17区側は周辺包含層を残し、掘り込み面の検出に努めた。竪穴外部にも小型の黒色土のまとまりが複数検出された。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った（Ⅲ章8）。

覆土：上位の1層は包含層IV層に相当する。中位に焼土（F-8）の厚い被熱層があり、その周囲にロームを少量含む2層がある。下位の3層は多量のローム・岩砕と黒色土が均質的に混じり、暗褐色を呈する。住居廃絶後、比較的短時間に堆積したものと思われる。

床・壁：床面はVI層を掘り込んでおり、おおむね平坦である。全体的に硬質で、筋状に黒褐色土が入り込んでいる。壁の立ち上がりは急で、やや外側へ直線的に開く。構築面はIV層中である。

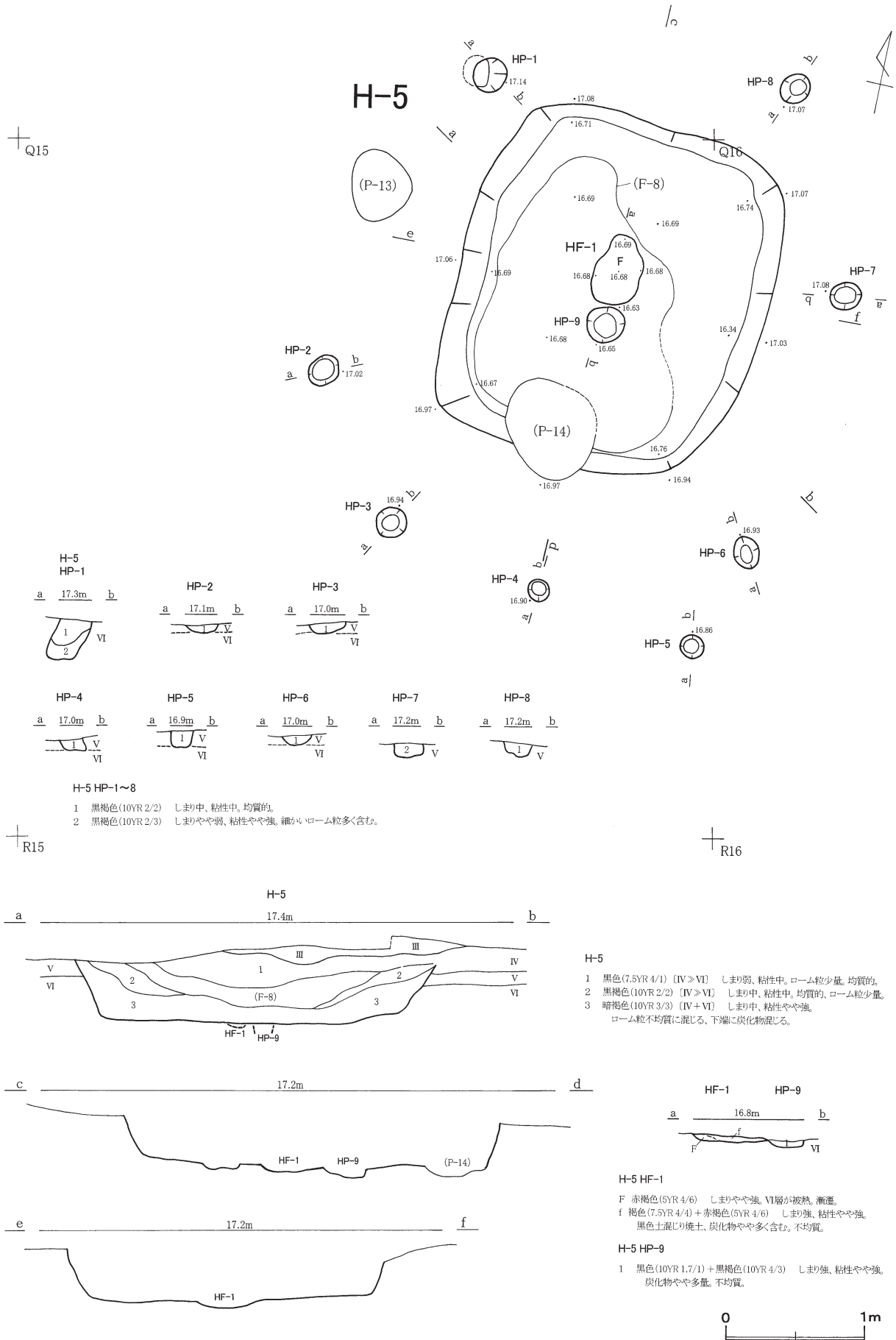
付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑9基（HP-1～9）を検出した。HF-1は竪穴住居跡のほぼ中央に位置する地床炉である。焼成面は長軸50cmの楕円形で、被熱層は最大5cmで、下端は波状の断面になっている。上位は暗赤褐色を呈し焼土粒や炭化物をやや多く含み、北側の下位はVI層が被熱し赤褐色を呈する。HP-1～8は竪穴外部にある柱状小土坑である。住居の補助的な柱穴や、上屋の下端部に関わる窪みなどが想定される。HP-1は竪穴外部北西にあり、径25cm・深さ29cmを測る。竪穴住居跡北壁に向かって傾斜している。HP-2～8はいずれも小型で浅くやや不明瞭であるが、H-5に関連する可能性があるものとして記録した。HP-9は地床炉の南側にある浅い小土坑。覆土に炭化物を多量含む。

遺物出土状況：出土遺物の総数は467点で、土器等が183点・石器等が58点・礫が226点である。土器等はⅡ群b類10点・Ⅲ群a類89点・Ⅲ群b類24点・Ⅳ群a類58点・Ⅳ群b類1点・焼成粘土塊1点で、石器等はスクレイパー2点・石斧1点・Rフレイク3点・フレイク52点が出土している。

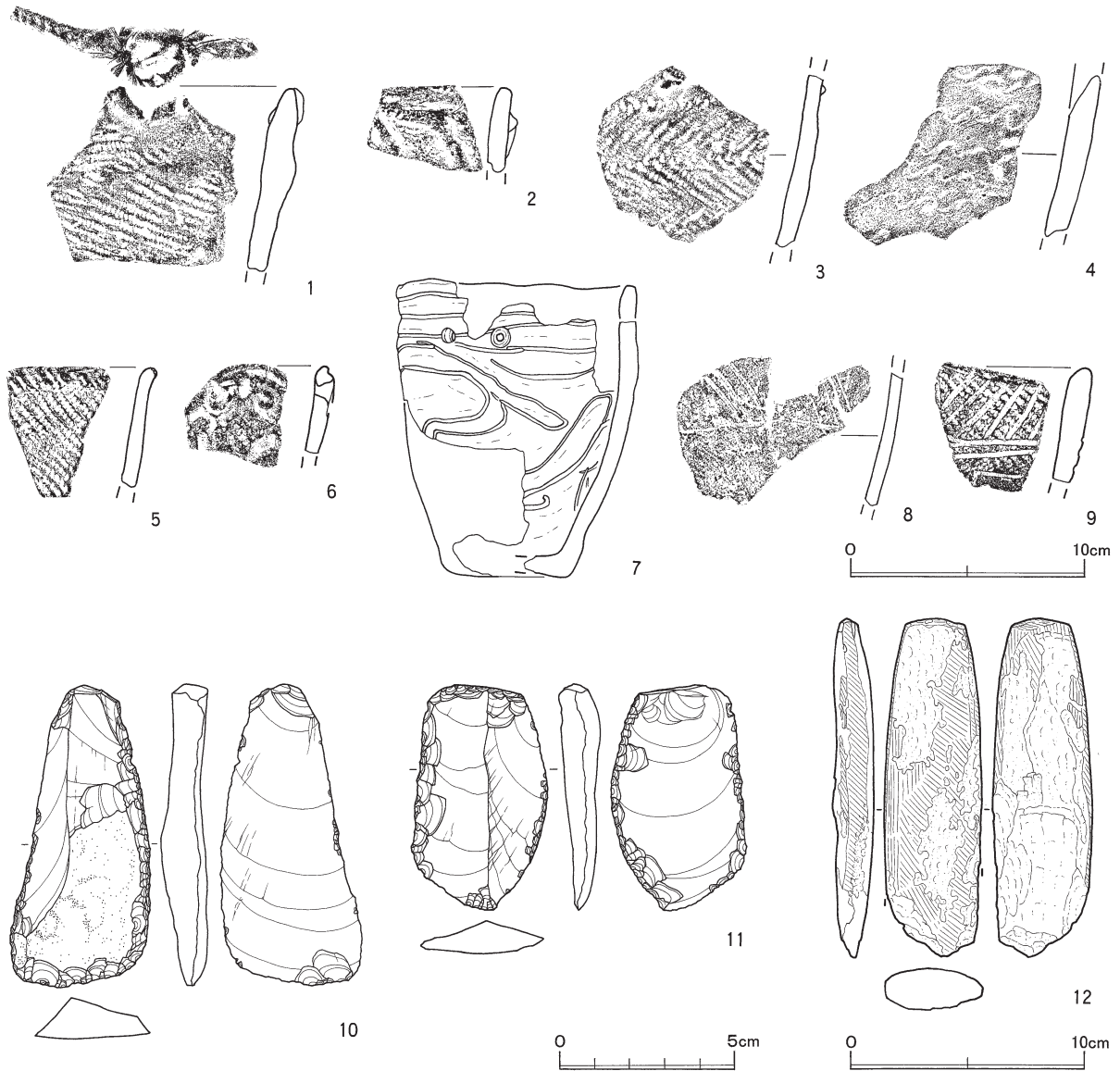
覆土1層の出土点数は305点、焼土を挟んで覆土3層は158点である。土器はⅢ群a類が主体だが、覆土1層はⅣ群a類土器も多い。またHF-1・HP-2・HP-4からⅢ群a類土器、HP-1からⅢ群b類土器がそれぞれ1点出土した。

掲載遺物：1～5はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。1は粘土紐貼付のある突起。2は口唇下に横位・斜位の粘土紐貼付が連結している。3は破片上端部にわずかに貼付粘土がみられる。4は無文地に波状の文様が多段施文されており、単軸絡条体によるものと考えられる。5は丸みを帯びた口唇上に細い縄文押捺が連続する。6はⅢ群b類榎林式の口縁突起。突起中央に貫通孔が穿たれている。7・8はⅣ群a類トリサキ式。7は小型深鉢。平底で胴部がわずかにふくらみ、口縁部下に弱い段をもつ。基本的に2本一組の沈線により直線・曲線・渦文などがえがかれている。外面の大部分に炭化物が付着している。8は深鉢の底部付近。横位の区画沈線より上位に複数の斜行沈線が施文されている。9はⅣ群b類ウサクマイC式。口唇最上部を欠く。横位の区画沈線より上位に鋸歯状の多重沈線、下位にクランク状の文様が施文されている。

10・11はスクレイパー。10は背面に原石面が大きく残存する。10は右側縁と下端部の調整、11は両側縁の調整が行われている。12は片岩製の石斧。短冊形を呈し、刃部は欠損している。裏面は節理に沿って剥落している部分がある。



図III-21 H-5



図Ⅲ-22 H-5

重複・時期：P-14・F-8と重複し、当遺構の方が古い。竪穴住居跡の時期は、遺物出土状況やH-1・3と類似することから、縄文時代中期半ばごろとみられる。

(阿部)

H-6 [図III-23~25、図版11・52]

位置：M・N17・18区

平面形：円形

規模：390×380/356×342/20cm

確認・調査：包含層をⅢ層上面まで掘り下げたところ、黒色土のまとまりを検出した。その範囲の中心から十字に設定した土層観察用のベルトを残して掘り下げた。壁の立ち上がりは周辺包含層との判別がやや困難であったが、床面を検出し、竪穴住居跡と判断した。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った（Ⅲ章8）。

覆土：覆土の上にⅡ層黒色土が落ち込んでいる。覆土1層はⅢ層に近い土壌が約10cm堆積している。火山灰が密な部分を1-1層とした。2層はロームをやや多量含む黒褐色土が厚く堆積している。床面付近にロームを主体とする3層がみられる。

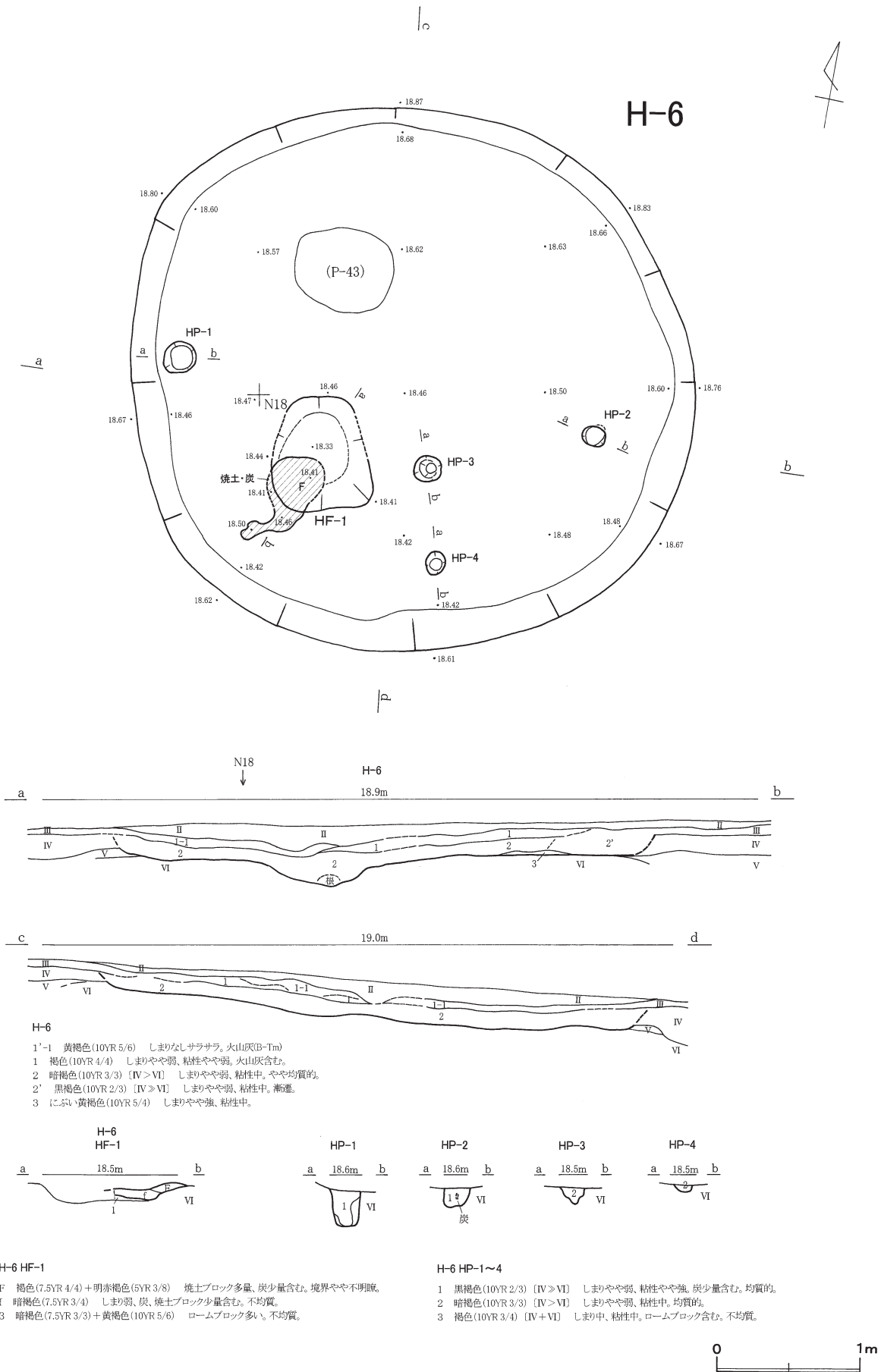
床・壁：床面はⅥ層上面付近であり、わずかであるが周辺地形に沿って北側が高く南側が低くなっている。おおむね平坦で、南東部の炉付近に径約40cmのくぼみがある。立ち上がりは緩やかで、壁はやや外側へ直線的に開く。構築面はⅣ層中である。

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑4基（HP-1~4）を検出した。HF-1は住居跡の南東部に位置する地床炉である。上記のくぼみの南東側に焼土及び炭化物が不整形に分布する。HP-1は床面西部の壁際にあり、径24cm・深さ26cmを測る。対するHP-2は床面東部にあり、深さは14cmである。HP-3・4は形状がやや不明瞭である。

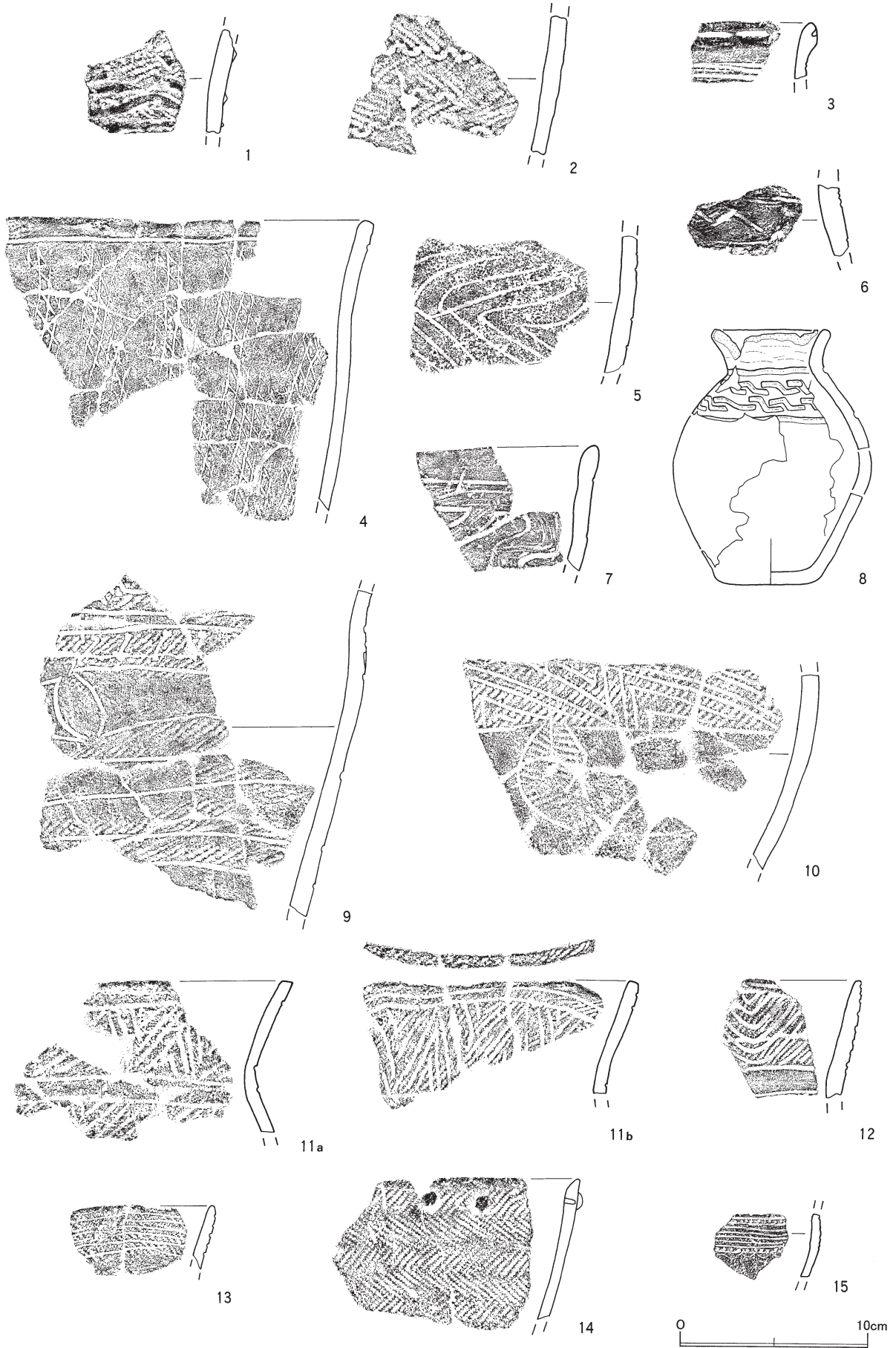
遺物出土状況：出土遺物の総数は1,551点で、土器等が681点・石器等が198点・礫が672点である。土器等はⅢ群a類62点・Ⅲ群b類12点・Ⅳ群a類536点・Ⅳ群b類42点・Ⅳ群c類17点・Ⅴ群b類7点・焼成粘土塊5点で、石器等はスクレイパー3点・扁平打製石器1点・Rフレイク6点・フレイク185点・石角2点・加工痕ある礫1点が出土した。まとまった遺物出土状況ではなく、破片が散在する。覆土1層・2層とも土器はⅣ群a類を主体とするが、Ⅲ群a類も少なからず含まれている。HF-1からⅣ群a類土器1点、HP-4の覆土からⅢ群b類土器1点が出土している。

掲載遺物：1・2はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式で、同一個体の可能性がある。1にはやや細い粘土紐貼付が弧状・横位にみられる。3はⅢ群b類榎林式。口唇肥厚帯に刺突様の短沈線が連続する。4~9はⅣ群a類。4・5はトリサキ式。4は口縁部の横走沈線下に網目状の撚糸文が展開する。長さ3~4cmの原体が縦位に回転施文されている。5はやや間隔のあいた多重沈線により鋸歯状文が施されている。6は大型壺形土器の肩部片とみられる。鋸歯文のほか楡描文が施文されている。外面および内面の一部が赤彩されている。7・8は大津式。7は帯状の区画文内に楡描文が施されている。8は小型壺。胴部が膨らみ、口頸部はやや細く短い。横走沈線で区画された胴上部に雷文に類似するクランク状文が連続する。9は白坂3式。幅広の平行沈線間に、弧線文の区画や斜行する短沈線が施されている。10~13はⅣ群b類ウサクマイC式。多重沈線による鋸歯状文や横走沈線がみられる。10は鋸歯状文下に弧線文で囲まれた文様が垂下する。11a・bは同一個体で、角形口唇上に縄文が施文されている。13は細い平行多重沈線が見られる。14はⅣ群c類堂林式。鋭い切出形口唇である。円形の突瘤文は、刺突の径が小さい。15はⅤ群b類。横走沈線・弧線文・刻みなど、繊細な文様が施されている。

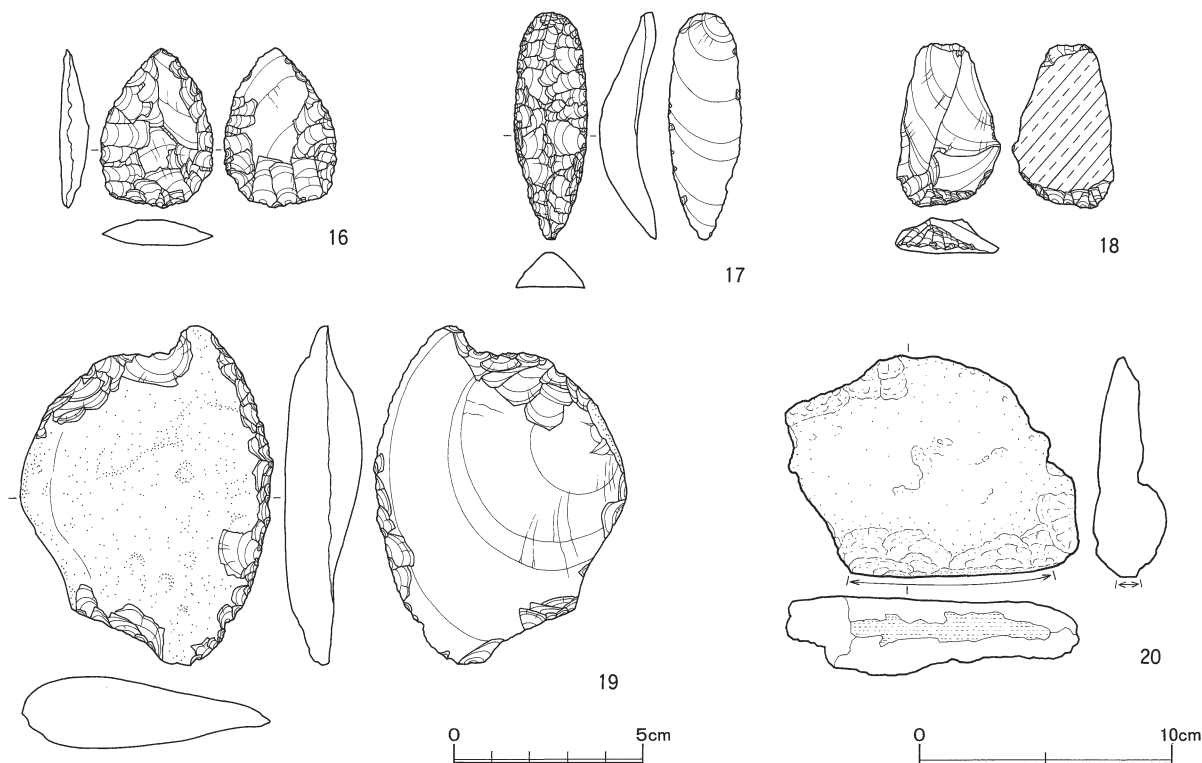
16は石鏃。木葉形に近い平基無茎のもの。背面に母岩の外皮に近い部分が残る。両面周縁部にやや幅広の均一的な調整が行われている。17~19はスクレイパー。17は厚手で縦長の剥片を素材とし、背面のみに調整が行われている。18はエンドスクレイパー。両面とも古い剥離面がみられ、下端部に細かい調整がある。19は背面が原石面である。片側側縁にやや粗い調整が行われている。20はHP-1から出土した扁平打製石器。安山岩製で半割されており、裏面が大きく剥落している。



図III-23 H-6



図III-24 H-6出土の遺物(1)



図Ⅲ-25 H-6出土の遺物(2)

重複・時期：P-43と重複する。P-43の上面が当遺構の床面に近い状況になっていることから、当遺構の方が新しいと考えられる。遺物出土状況や、竪穴住居跡の形状・構造がH-2・4などと類似することから、縄文時代後期前葉とみられる。

(阿部)

H-7 [図Ⅲ-26~29、図版12・53・54]

位置：O16・17区

平面形：隅丸方形

規模：336×286/307×251/30cm

長軸方位：N-11° W

確認・調査：O16区の薄い包含層をVI層上面付近まで掘り下げたところ、焼土2か所(F-14・15)および黒褐色土の落ち込みを検出した。焼土の調査後、黒褐色土の範囲の中心から十字に設定した土層観察用のベルトを残して掘り下げた。O17区側は周辺包含層を残し、掘り込み面の検出に努めた。中央部及び南東部に大きな伐木跡があり、とくに南東部のものは住居外から床面以下まで及んだ。床と壁の立ち上がりを検出し、竪穴住居跡と判断した。

床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。また床面付近で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、4,440±30yB.P.($\delta^{13}C$ 補正あり)という結果であった(Ⅴ章3)。

覆土：上面に焼土(F-15)の被熱層がある。覆土1層は火山灰を含む、Ⅲ層に近い土壌が約10cm堆積している。2層はロームを少量含む、Ⅳ層に相当する黒褐色土がやや厚く堆積している。壁際付近にロームを主体とする3層がみられる。

床・壁：床面はVI層を掘り込んでおり、おおむね平坦であるが凹凸があり、南西側が高くなっている。全体的に硬質で、筋状に黒褐色土が入り込んでいる部分が観察される。壁の立ち上がりは急で、やや

外側へ直線的に開く。周辺地形の傾斜により、北東側の壁が高く南西側が低い。南東側の壁面はやや確認が困難な部分がある。構築面はIV層中である。

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑2基（HP-1～2）を検出した。HF-1は住居跡の中央に位置する地床炉である。焼成面は径74cm×50cmの楕円形で、検出面西側が明度が高い。被熱層は最大14cmで、レンズ状の断面になっている。上位は暗赤褐色を呈し焼土粒や炭化物を含み、下位はVI層が被熱し明赤褐色を呈する。HP-1は床面北西側にある、径約45cmのおおむね円形で浅い皿状の土坑である。HP-2は床面南部にある深さ27cmの柱穴状小土坑である。

遺物出土状況：竪穴住居跡北西縁辺部の覆土2層と北東縁辺部の覆土1層でⅢ群a類土器がまとまって出土した（図Ⅲ-27の1・2）。いずれも住居廃絶後、窪地に廃棄したものと考えられる。床面に近い覆土から、台石・スクレイパーのほか棒状の炭化材が出土した。

出土遺物の総数は1,772点で、土器等が757点・石器等が216点・礫が799点である。土器等はⅡ群b類15点・Ⅲ群a類567点・Ⅲ群b類5点・Ⅳ群a類162点・Ⅳ群b類7点・焼成粘土塊1点で、石器等は石鏃2点・石槍1点・つまみ付きナイフ2点・スクレイパー5点・扁平打製石器8点・すり石2点・台石石皿1点・Rフレイク11点・Uフレイク5点・フレイク179点が出土した。

覆土1層・2層とも土器はⅢ群a類を主体とするが、Ⅳ群a類も相当数含まれている。柱穴HP-2の覆土から、Ⅲ群a類土器3点と礫が出土している。

掲載遺物：1～7はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式および見晴町式。1は口縁～胴部が直線的な深鉢。外面全面にRL縄文が縦位回転施文されている。スス状の黒色物質が口縁部に広く付着している。2a・bは同一個体と思われる。胴部が緩やかに膨らむ。口唇上に斜方向へ縄文押捺が行われている。底部はわずかに張り出す。3は横位および弧状の細い粘土紐貼付がみられる。4・5は2本一組の浅く太い沈線が横走る。6・7は波頂部。6には縦位の細い粘土紐貼付がある。8・9はⅢ群b類榎林式。8は波頂部突起に細い粘土紐による渦文が施されている。10・11はⅣ群a類。いずれも多重沈線が施されている。12・13はⅣ群b類。12はウサクマイC式で、鋸歯状文がみられる。13は上げ底。

14・15は石鏃。14は細身で小型の凸基有茎のもの。腹面がやや内湾する。15は凹基に近い平基有茎のもの。機能部は左右対称な二等辺三角形である。基部および茎部にアスファルト状の黒色物質が付着している。16はつまみ付きナイフ。不定形な剥片が素材で、腹面下辺が内湾する。左側縁に細かな調整が連続する。つまみ部は長軸に対し屈曲する。17は石槍の未成品あるいは両面調整石器。左側縁上方に原石面が残る。18～22はスクレイパー。18は背面下部に原石面が残る。19は左右両側縁とも調整が粗い。20は黒味の強い頁岩の縦長剥片を素材とする。両側縁および下辺に刃部を作出している。左側縁中央部の背面・腹面に光沢が観察される。21は背面左側側に原石面が残る。両側縁および下辺に調整が施されている。22は小型のラウンドスクレイパー。23～29は扁平打製石器。7点中2点(132・133)が半割で、比較的完形（または完形に近い）の率が高い。23は泥岩製。長軸端部はわずかな窪みがある。底面は打ち欠きにより磨り面がない。24は磨り面の幅が狭い。頂部から左側縁に打ち欠きが見られる。25は磨り面が平滑である。26はやや緑色を呈する安山岩製。正面観は長方形で、長軸端部の打ち欠きが大きい。27は正面観が長方形で磨り面の幅が広い。28はO19区出土の半割片と接合した。表面が赤褐色を呈する部分が多く、被熱している可能性がある。29は片岩とみられる石材で、長軸端部に丁寧な打ち欠きが見られる。30は台石。

重複・時期：F-14・F-15と重複し、当遺構の方が古い。竪穴住居跡の時期は、遺物出土状況やH-1・3・5と類似することから、縄文時代中期半ばころとみられる。

（阿部）

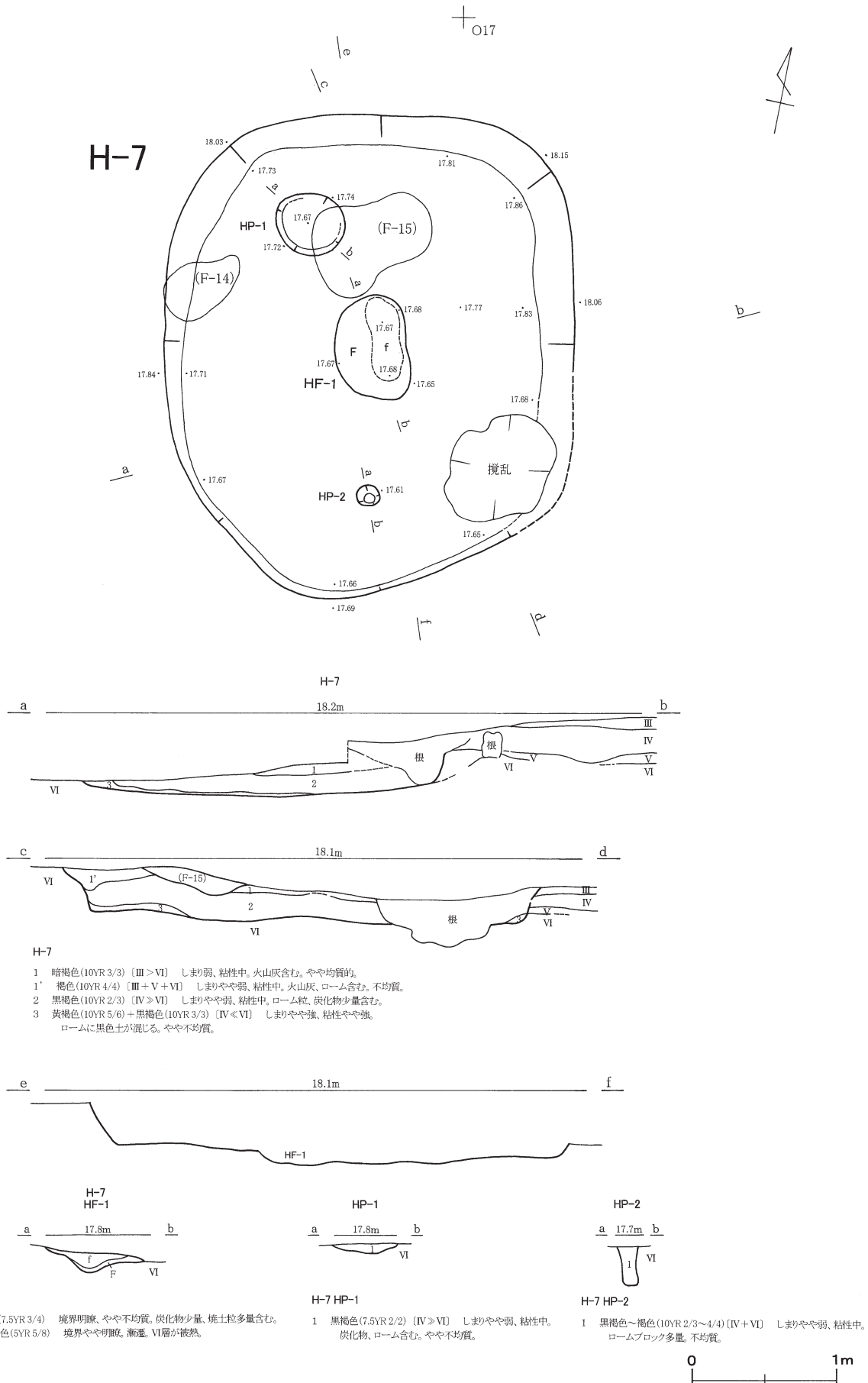
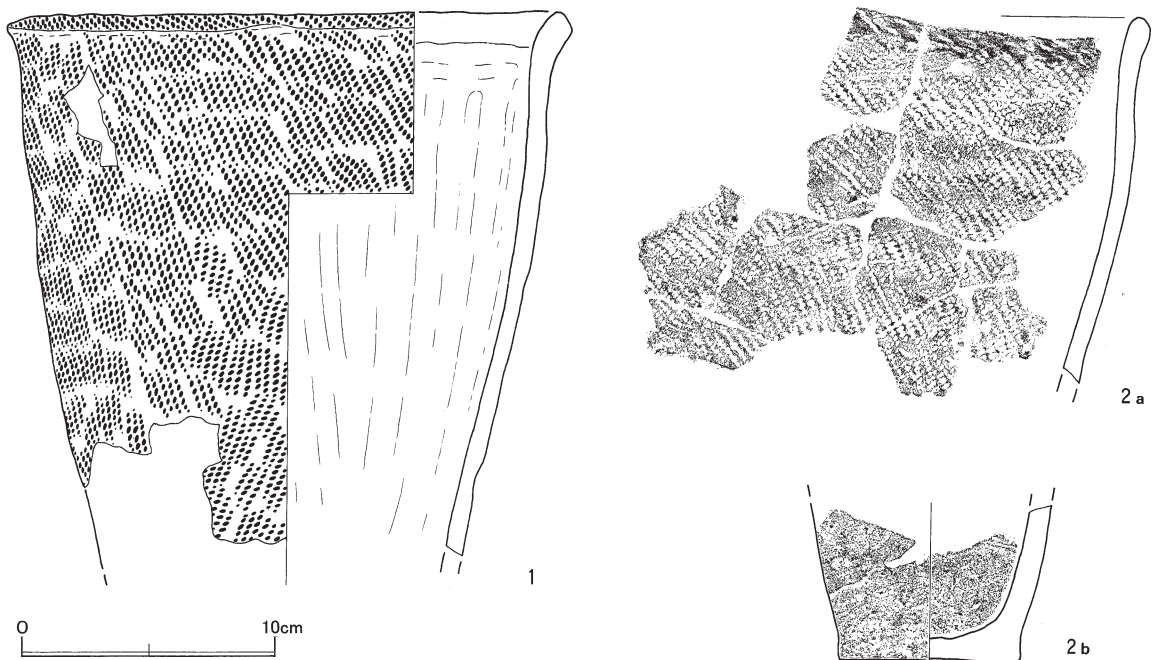
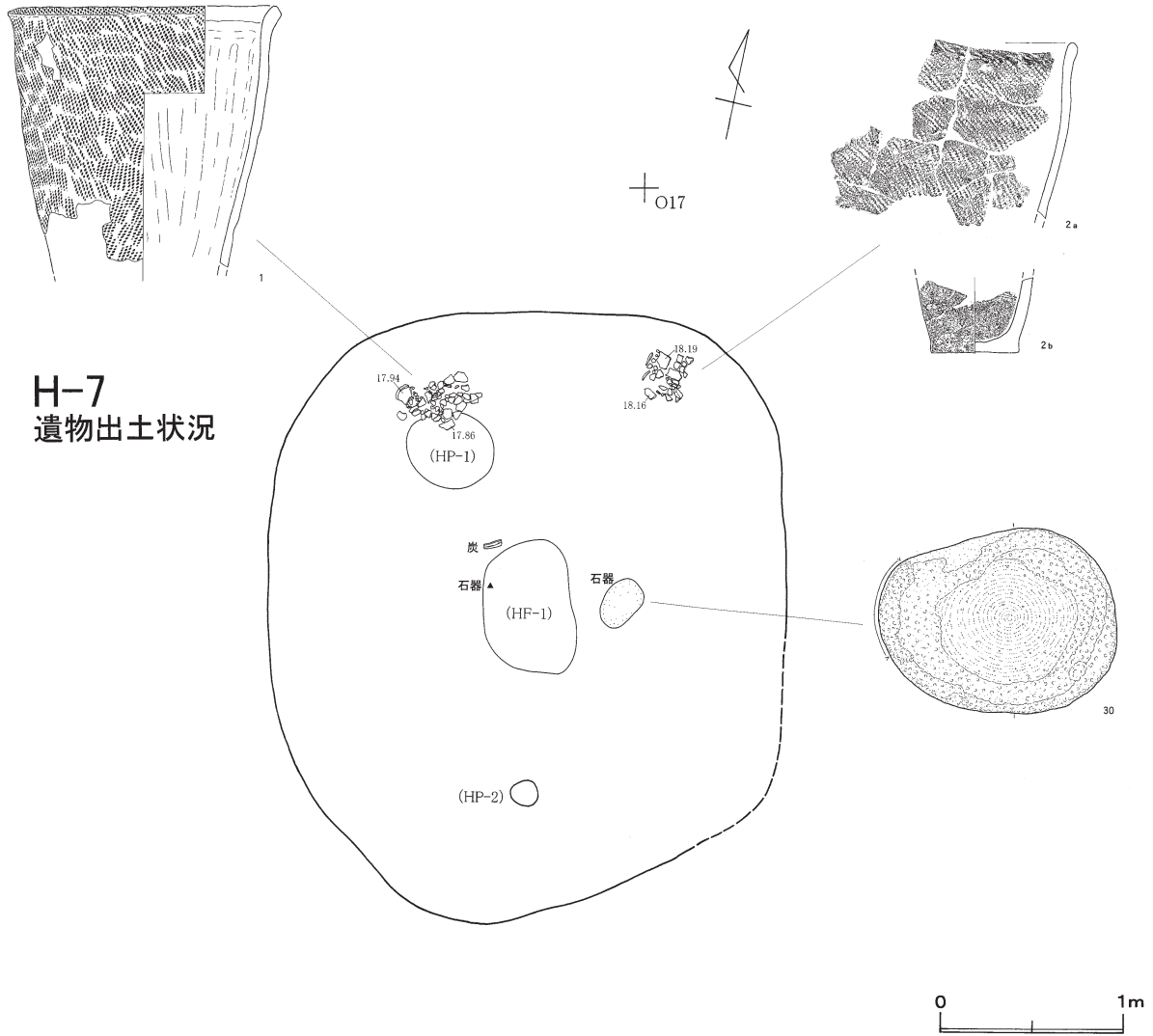
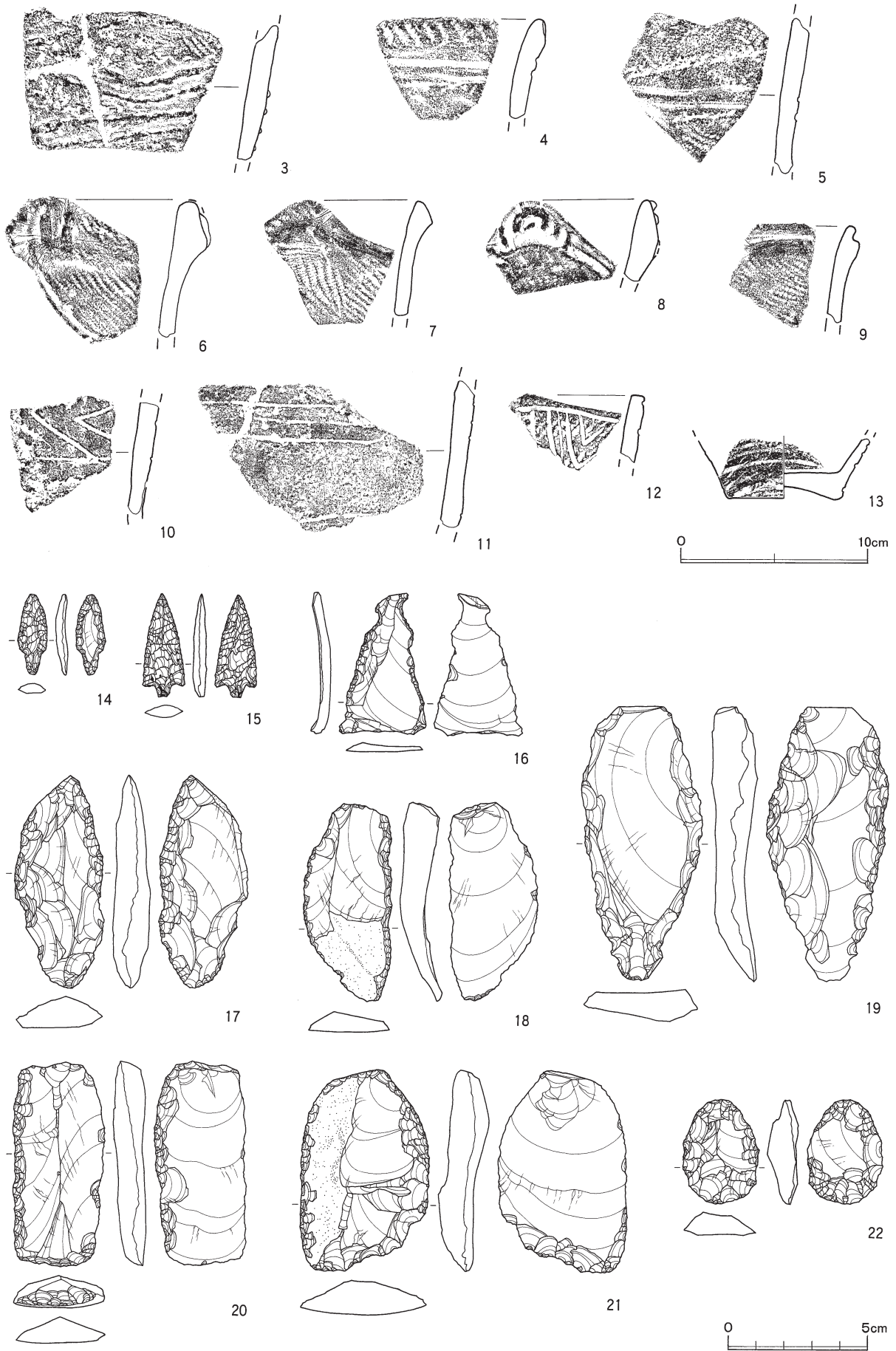


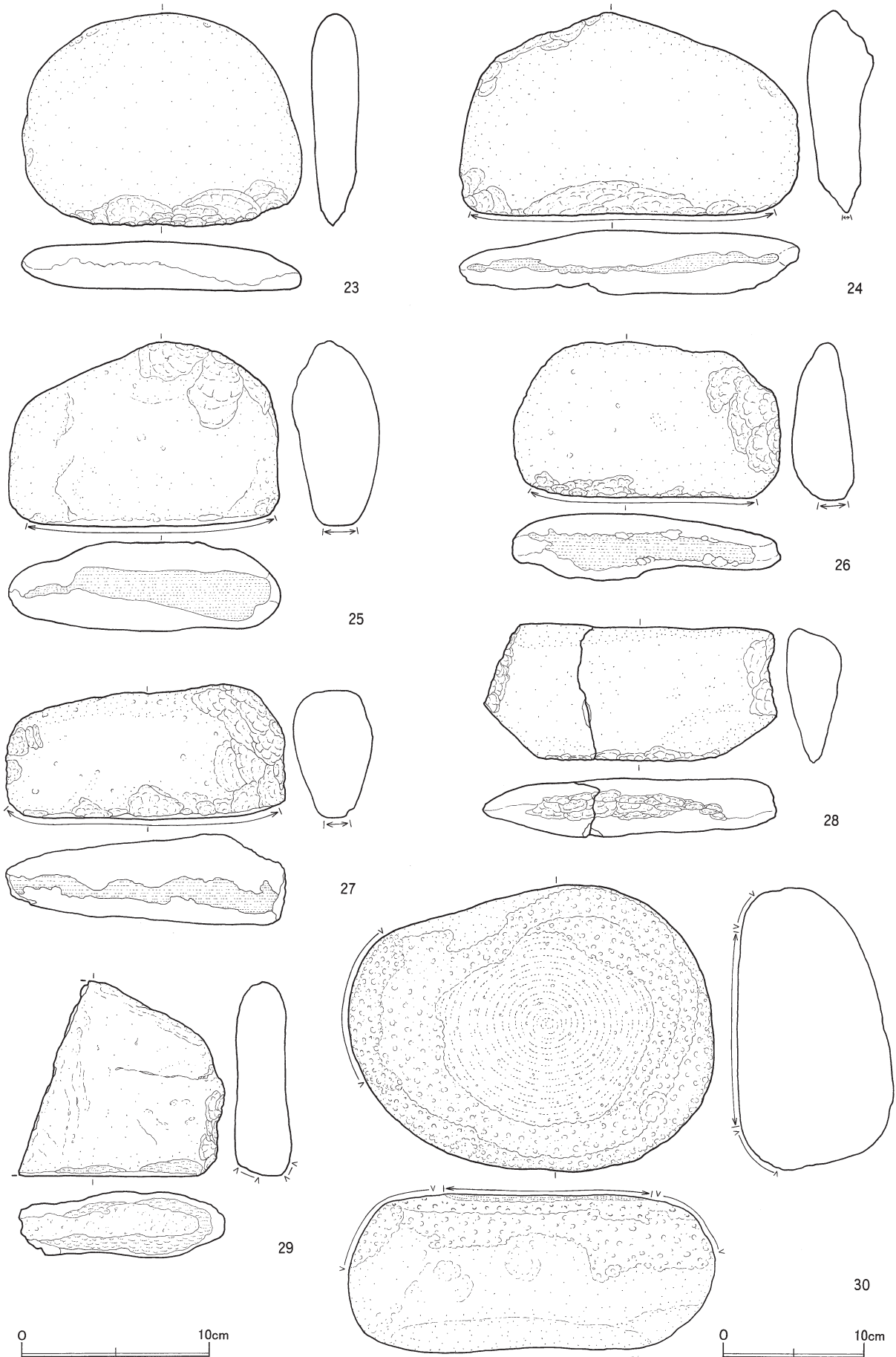
図 III-26 H-7(1)



図III-27 H-7(2)・H-7出土の遺物(1)



図Ⅲ-28 H-7出土の遺物(2)



図III-29 H-7出土の遺物(3)

H-8 [図III-30、図版13]

位置：M・N22・23区

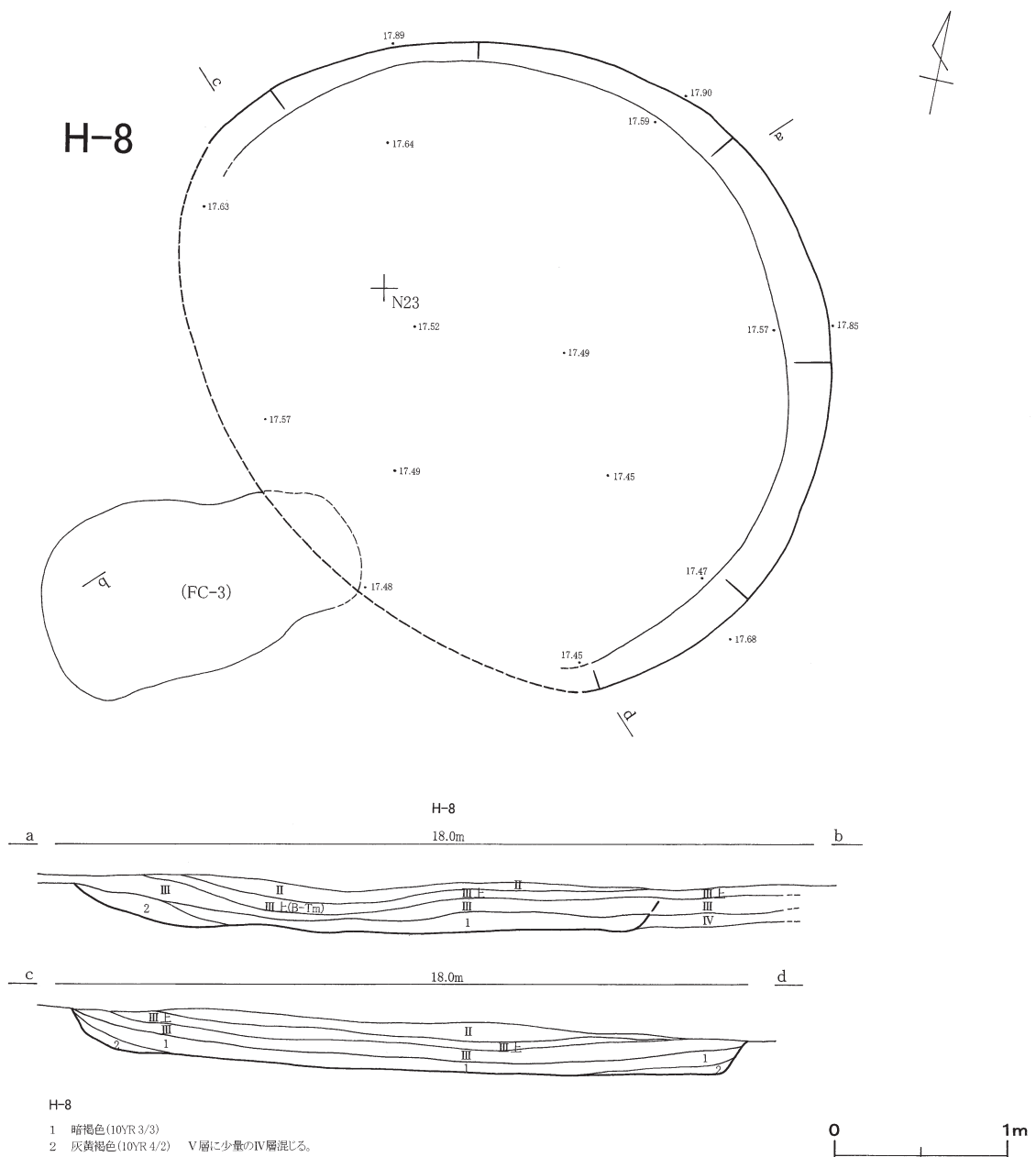
平面形：楕円形

規模：403×(340)／364×(300)／20cm

長軸方位：N-48° W

確認・調査：7月下旬、当該地区の包含層をⅢ層下位まで掘り下げたところ、N23の杭の周辺にⅡ・Ⅲ層が楕円形に落ち込む状況を確認、竪穴住居跡の可能性のあるものとみて調査した。検出面付近のⅢ層には頁岩製のフレイクが集中分布(FC-3)し、その一部が窪みに流れ込むようであった。

調査は、幅40cmの直交する十字のベルトを設定し、断面を残す状態で上位の層から掘り下げた。掘り進めるにつれ、調査当初黒色土の中央にあるとみられた落ち込みの中心が、断面交点より北東に約1mずれていることがわかり、南西側を掘りすぎであることに気付いた。床面からは炉跡や柱穴は見つからなかった。



図III-30 H-8

覆土：遺物包含層のⅡ・Ⅲ層が皿状に落ち込む下位に、Ⅳ層起源の暗褐色土層が全体に堆積し、壁際にはさらに灰黄褐色土層の三角堆積がみられる。落ち込んで堆積するⅢ層の上位は、B-TmとⅢ層の混土層となっているが、部分的にB-Tmのブロック状堆積がみられた。

形状：Ⅲ層が落ち込む状況から縄文時代後期前葉の円形の竪穴を想定し調査を進めたが、一方向を大きく掘りすぎる結果となってしまった。本来は楕円形～長円形の平面形だったとみられる。

遺物出土状況：出土遺物の総数は43点で、Ⅱ群b類土器6点・Ⅳ群a類土器1点・フレイク23点・礫13点が出土した。直接遺構に伴う遺物は出土していない。土器も少量しか出土していないが、覆土から縄文時代後期前葉の破片が1点みついている。頁岩製のフレイクが2層から出土しているが、これはFC-3の続きが流れ込んだものとみられる。

重複・時期：H-8の検出面付近にFC-3があり、その一部は覆土2層上に流れ込んでいるが、本遺構が埋まる過程で包含層の崩落とともに入ってきたものと考えられる。覆土の状況から、縄文時代後期前葉の竪穴状遺構とみられる。

(土肥)

H-9 [図Ⅲ-31、図版13・54]

位置：G・H21区

平面形：楕円形

規模：(306) × (274) / (280) × (244) / 38cm

長軸方位：N-20° E

確認・調査：包含層調査中にⅣ層下位にて検出した。また、近代の側溝跡の土層断面でも黒色土の落ち込みの堆積がみられる為、遺構である可能性を考え、南北にベルトを設定し、調査区壁面にかかる土層堆積状況とクロスチェックしながら、竪穴壁面の立ち上がりを確認しつつ順次掘り下げた。

覆土：a-bセクションでは黒色土の落ち込みが観察された。南側端部は近代の用水路により攪乱をうけている。c-dセクションでは覆土1層とした黒色土の下位に、東側で木根による攪乱がみられた。これは堆積状況から判断すると竪穴廃棄後に埋め戻され、その上に黒色土が堆積する以前の時期の攪乱であろう。

床・壁：竪穴の東壁は攪乱により立ち上がりは不明瞭である。

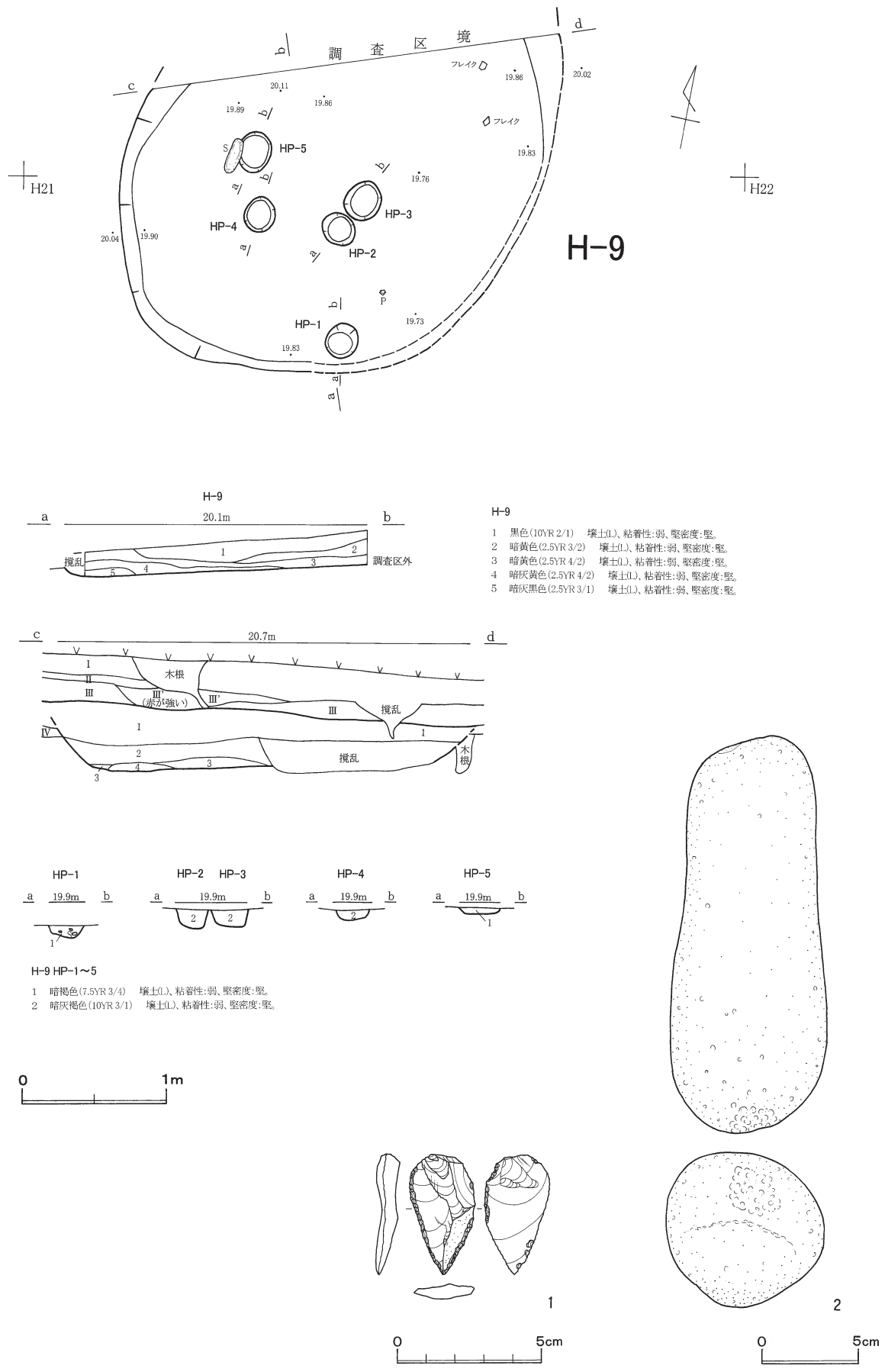
付属遺構：土坑・柱状小土坑5基(HP-1～5)を検出した。柱穴の確認調査は、完掘状況の住居跡の壁と床面、住居跡周辺の検出面を数回掘り下げ、そこで確認された黒色土をすべて半截し、断面形態や覆土の堆積状況から柱穴と判断した。HP-5ではたたき石が掘り込みに沿って検出された。

遺物出土状況：出土遺物の総数は7点で、スクレイパー1点・たたき石1点・フレイク5点が出土した。

掲載遺物：1はスクレイパー。左右両側縁に細かい剥離が連続し、下端はとがっている。2は安山岩の長楕円体の礫の下端に弱い敲打痕がみられる。たたき石としたが、配石など竪穴住居内の施設の一部であったとも考えられる。

時期：竪穴周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉に所属するものと考えられる。

(富永勝也)



- H-9
- 1 黑色(10YR 2/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 - 2 暗黄色(2.5YR 3/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 - 3 暗黄色(2.5YR 4/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 - 4 暗灰黄色(2.5YR 4/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 - 5 暗灰黑色(2.5YR 3/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。

- H-9 HP-1~5
- 1 暗褐色(7.5YR 3/4) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 - 2 暗灰褐色(10YR 3/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。

图Ⅲ-31 H-9

H-10 [図III-32・33、図版14・55]

位置：I・J15区

平面形：(楕円形)

規模：(224) × (308) / (192) × (244) / 83cm

長軸方位：N-4° E

確認・調査：緩斜面の包含層調査中に黒色土の落ち込みを検出した。地形確認の為に設定したベルトの土層断面を観察したところ、明瞭な壁の立ち上がり、トレンチ床面で平坦な貼床の床面が確認されたので遺構と認定した。

覆土：覆土1～3・7層は堅穴の窪みが存在したため、傾斜上の流出土や包含層が堆積したものであろう。4層下位の5・8～11層は堅穴廃棄直後に包含層が落ち込みに堆積したと推定される。6・12層部分は廃棄時の埋め戻し土が堆積したものであろう。

床・壁：北壁の立ち上がりは明瞭である。南壁立ち上がりは斜面に形成される為、土砂の流出等で消失した可能性が高い。床面はテラス状の段差を持ち、中央部は斜面上ながら平坦に近く、その中心付近に小型の焼土がみられた。

付属遺構：焼土1か所(HF-1)を検出した。

遺物出土状況：覆土の上層～中層にかけての部分では、Ⅲ群a類の土器が多く出土しているが、下層付近から床面にかけてはⅢ群b類土器が出土している為、上層から中層にかけての遺物は斜面上より流入した遺物と推測される。

出土遺物の総数は337点で、土器が107点・石器等が97点・礫が133点である。土器はⅢ群a類47点・Ⅲ群b類49点・Ⅳ群a類8点・Ⅴ群b類3点で、石器等はスクレイパー1点・たたき石2点・扁平打製石器1点・Rフレイク1点・フレイク92点が出土した。

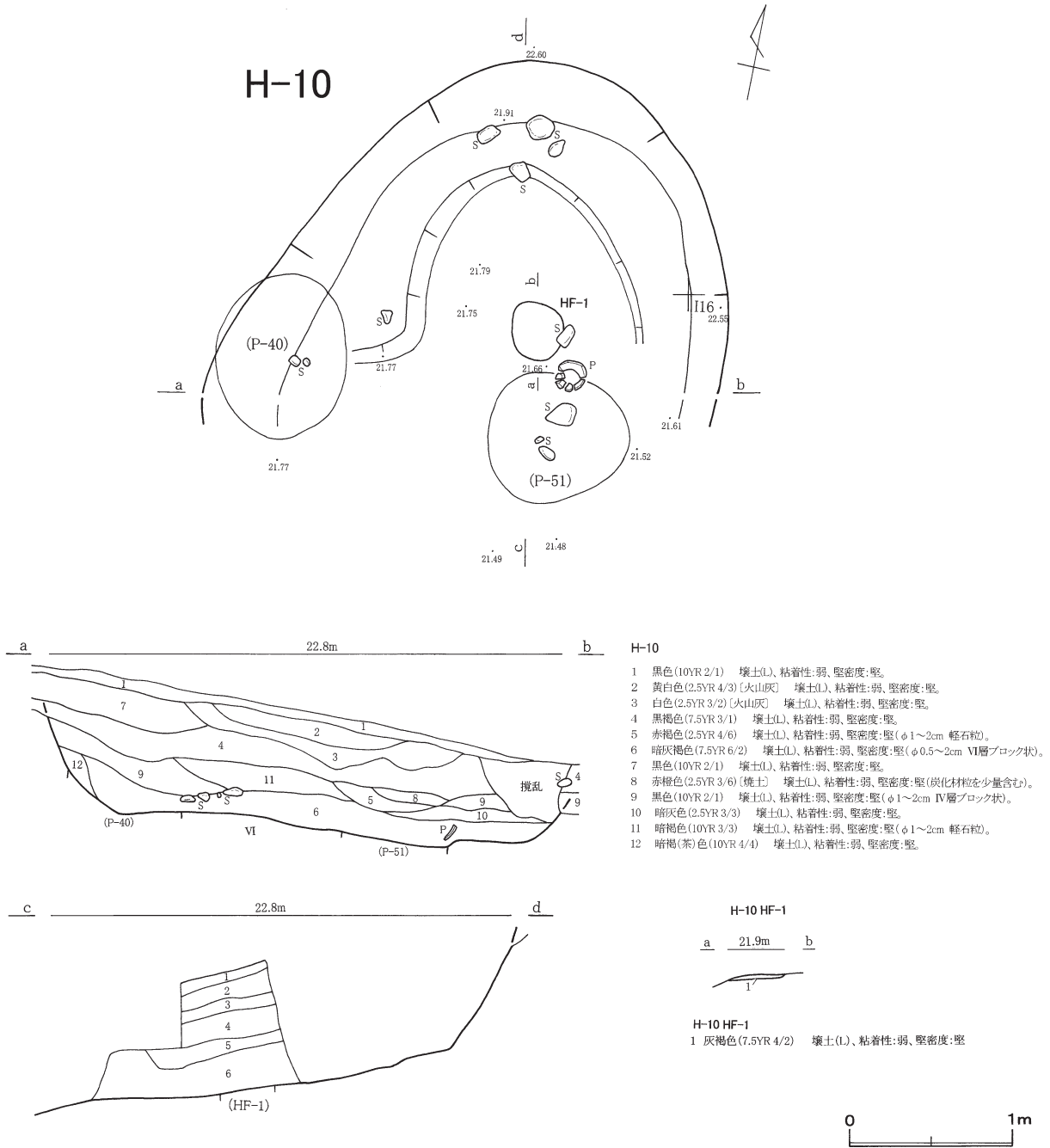
掲載遺物：1～4はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式・見晴町式。1は2個一対の突起。山形に張り出す突起上に細い粘土紐の装飾がみられる。突起をつなぐ2本の弧状の粘土紐上に縄文押捺がみられる。2は斜坑する口唇上に8字状の細い粘土紐貼付が施されている。3は縄の端部の結束羽状縄文が多段施文されている。4は口唇がやや角型である。5～7はⅢ群b類。5は胴上部が大きく屈曲し口縁が外反する。角型口唇上及び口唇直下に円形刺突が連続する。その下に2本の縄線が施文されている。スス状の黒色物質が多量付着している。6は平底の底部付近に長さ約3cmの縦沈線が密に施されている。7は口唇上および口唇下に刺突列、口縁部に2本の縄線が施文されている。大安在B式またはノダツプⅡ式に相当するものと思われる。8はⅤ群b類。3本の凹線が横走する。スス状の黒色物質が多量付着している。

9はスクレイパー。大型の剥片の左右側縁に微細な剥離が連続する。下端部は母岩の外側に近い部分を取り込んでいる。10は砂岩のたたき石とした。下側縁にたたき痕があり、一部すり痕も観察される。11は扁平打製石器。半割されている。正面観は長方形で、長軸端部に打ち欠きがある。底部のすり面は幅が狭い。

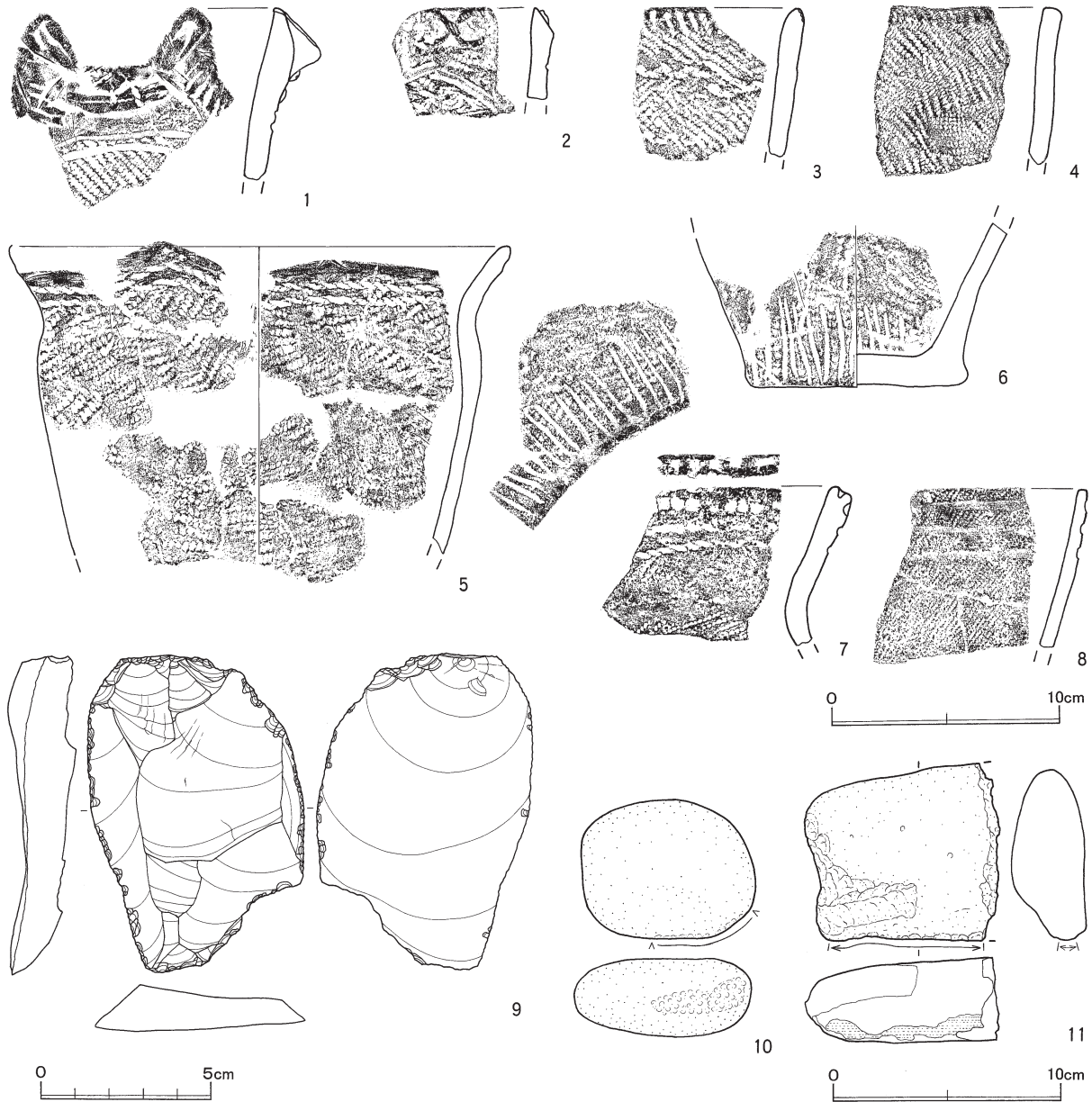
重複・時期：P-40・P-51と重複関係にある。両遺構とも覆土からはⅢ群a類に属する土器が出土するため、H-10よりも古い遺構と推測される。土層の堆積状況からもH-10が新しい。また、堅穴周辺の遺物出土状況から縄文時代中期のⅢ群b類期に所属するものと考えられる。

¹⁴C年代測定結果：床面で検出されたHF-1出土の炭化材片を試料とした。AMS測定法による暦年補正の年代値は4,220±30 (yrBP) の結果を得た。縄文時代中期の年代値といえる。

(富永)



図Ⅲ-32 H-10



図Ⅲ-33 H-10出土の遺物

H-11 [図Ⅲ-34、図版14・55]

位置：L18区

平面形：隅丸方形

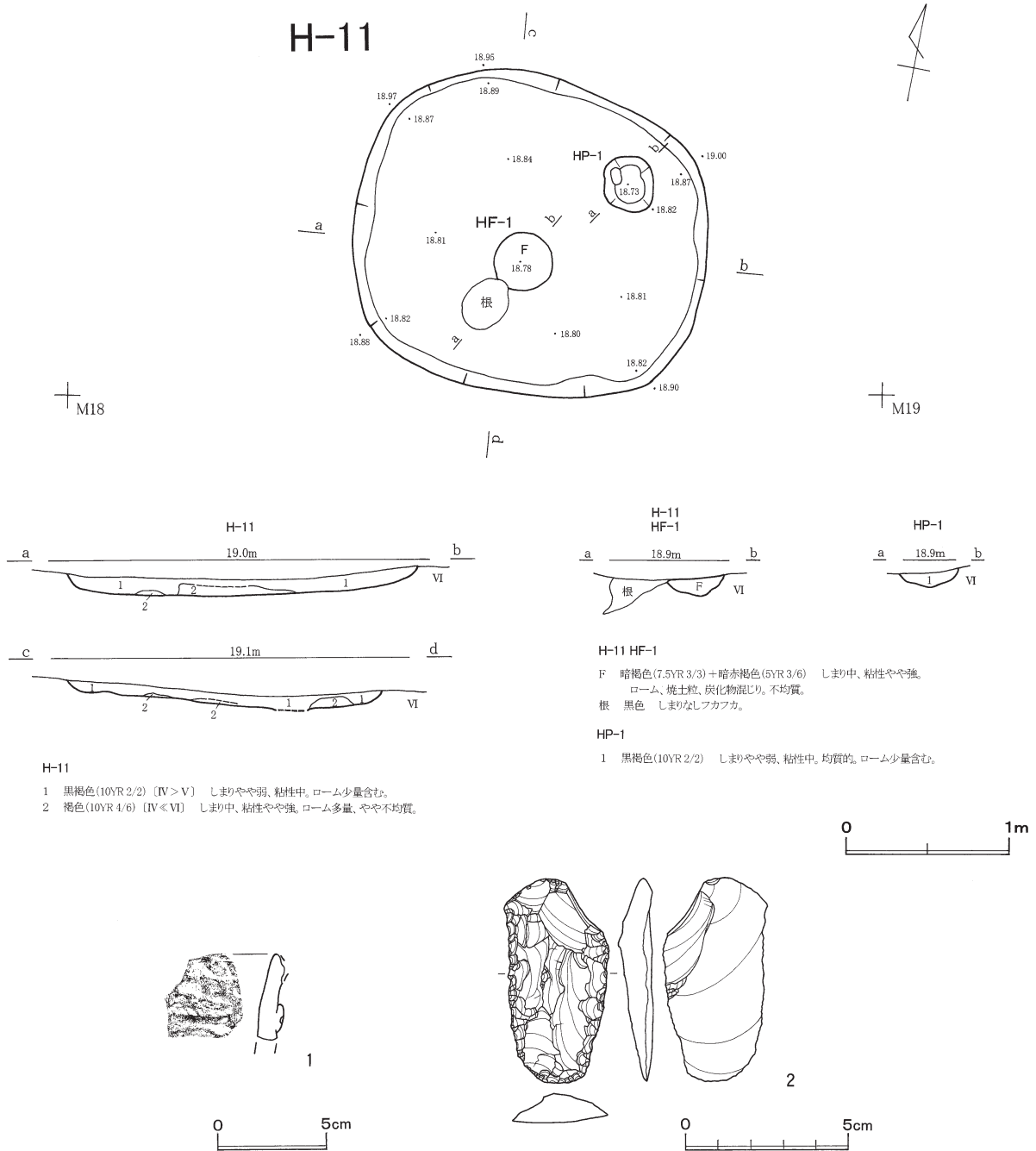
規模：218×196／205×178／10cm

長軸方位：N-88° E

確認・調査：包含層をVI層上面付近まで掘り下げたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。その範囲の中心から十字に設定した土層観察用のベルトを残して掘り下げた。床と壁の立ち上がりを検出し、堅穴住居跡と判断した。また、床面で検出した焼土の土壌を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。

覆土：ロームを少々含む黒褐色土を主体とする。床面付近でわずかにロームがブロック状に堆積する部分がある。木根跡などにより、土層が乱れている部分がある。

床・壁：床面はVI層上位にあり平坦で、立ち上がりはやや緩やかである。床面が検出面から浅いため、壁の状況は確認できなかった。



図Ⅲ-34 H-11

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・柱状小土坑1基（HP-1）を検出した。HF-1は、住居跡の中央やや南寄りに位置する地床炉である。焼成面は径36cmの円形で、被熱層は最大12cmで暗赤褐色の焼土粒や炭化物を少量含む。HP-1は床面北西側にある。径約30cmのおおむね円形で、深さは10cmほどである。坑底は椀状である。覆土は住居跡と同様である。

遺物出土状況：出土遺物の総数は30点で、Ⅱ群b類土器4点・Ⅲ群a類土器6点・スクレイパー1点・Rフレイク1点・礫18点が出土した。うち炉（HF-1）からは、Ⅲ群a類土器1点・スクレイパー1点・礫11点が出土した。

掲載遺物：1はⅢ群a類。波頂部突起で、縄線のほか粘土紐貼付の剥落痕が観察される。2はスクレ

イパー。左右両刃で、下端は丸みをもつ形状である。

時期：出土した土器や竪穴住居跡の形状から、縄文時代中期半ばころと考えられる。

(阿部)

H-12 [図III-35~37、図版15・55・56]

位置：I・J19・20区

平面形：楕円形

規模：512×460／474×122／20cm

長軸方位：N-42° W

確認・調査：調査期間終盤の9月中旬から着手した竪穴住居跡である。確認のきっかけは、本遺構にかかる調査区J19区において遺物集中5（下からH-13検出）の精査中、遺構の覆土らしき土層を検出したことによる。確認のため杭J20を中心にグリッドラインに沿ったトレンチを十字に設定し、VI層付近まで精査を行ったところ、炉跡とみられる焼土を確認したため12号住居跡とした。

その時点で壁の立ち上がりが確認できなかったため、トレンチを伸ばした。東側は風倒木痕に、北・西側は当遺構を貫く溝跡に当たったが、南側の土層は約3m進めたところで明らかな包含層の堆積になったため、付近に壁面があるとみてトレンチ間を平面で広げる作業に切り替えた。出土する遺物は竪穴住居跡上のⅢ層から出土しているが、南側の壁面付近からは当遺構に伴うとみられる後期前葉の土器1個体が立った状態で潰れて出土した。住居跡東半分の壁付近では流れ込みの状態に遺物が出土し、そのことから捉えづらかった西側半分の壁や規模を推測し、ほぼ直径5mの円形に近い竪穴住居跡であると判断した。

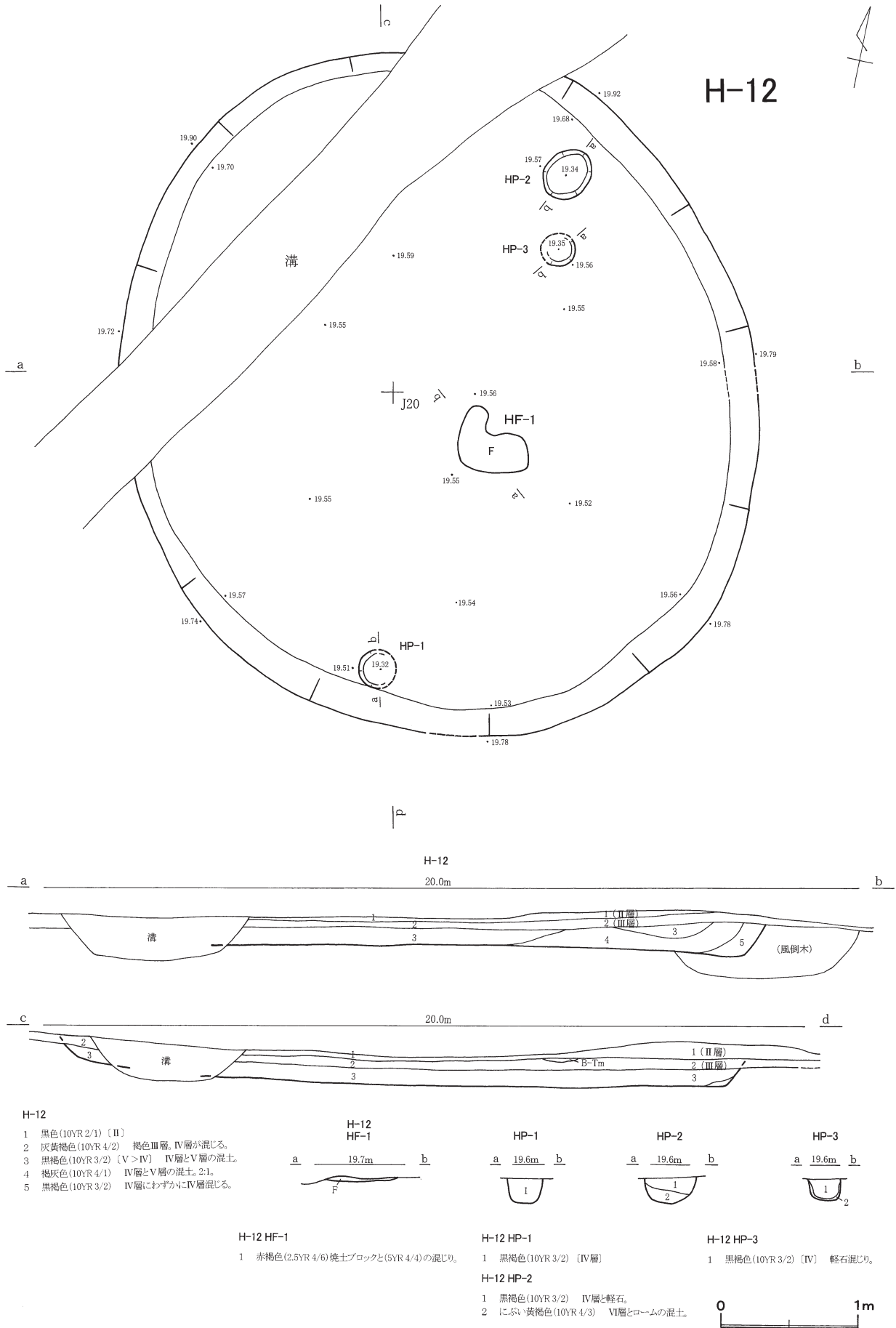
覆土：堆積状況は上部に包含層のⅡ・Ⅲ層が堆積し、その下位に竪穴住居跡の覆土である灰褐色土層が堆積し、壁面の立ち上がり付近に包含層のⅣ層に近い黒褐色土が三角堆積する。

形状：平面形の西半分の壁の立ち上がりは確認しづらく、東側半分からの推測規模となったが、長軸560cm、短軸460cmの楕円形（ほぼ円形に近い）である。

付属遺構：焼土1か所（HF-1）と土坑・小土坑3基（HP-1～3）を検出した。床面中央付近で検出したHF-1はトレンチ調査の時点で一部が検出されており、清掃が繰り返されたため完掘時の平面形がL字型になっているが、本来は隅丸方形であったとみられる。焼土の厚さも薄い。小土坑3基はいずれも南西側に寄って検出された、柱穴状ではない浅い小さな土坑である。HP-1は径2cm・深さ2cmの円形の小土坑で、底部は平らである。HP-2は長径4cmになる長円形で、底はやや丸みをおびる。HP-3は直径25cmほどの円形で、覆土2層の輪郭がやや不鮮明であった。いずれも黒色土か落ち込み、形状から柱穴とは考えづらく、性格は不明である。

遺物出土状況：覆土の上層からは縄文時代後期から晩期の遺物が出土している。南側の壁面では鯨潤式期の注口土器一単位（図III-37の8）が流れ込む状況で出土した。竪穴住居跡に伴うと考えられるものでは、南壁面付近で床面をやや掘り窪めた位置から、高さ約35cmある後期前葉の深鉢一単位（図III-37の7）が立った状態で潰れて検出された。口縁部文様帯直下から潰れ、口縁部片は脇から小数が出土している。器高が竪穴住居跡の深さより高いことから、もともと床面に置かれた状態で、住居の廃絶後に上屋構造と伴って潰れたものと推測される。土器の中には土器の小破片を含む黒色土が入っており、底部には握り拳大の泥岩製の円礫とその上部に小型の無紋土器の破片（図III-37の4）が入っていた。この破片は包含層の破片と接合しており、土器の中はもともと空で、のちに遺物を含む土砂が流入したものとみられる。

出土遺物の総数は1,684点で、土器等が614点・石器等が131点・礫が939点である。土器はⅢ群a類12点・Ⅳ群a類490点・Ⅳ群b類85点・Ⅳ群c類1点・Ⅴ群a類9点・Ⅴ群b類13点・焼成粘土塊4

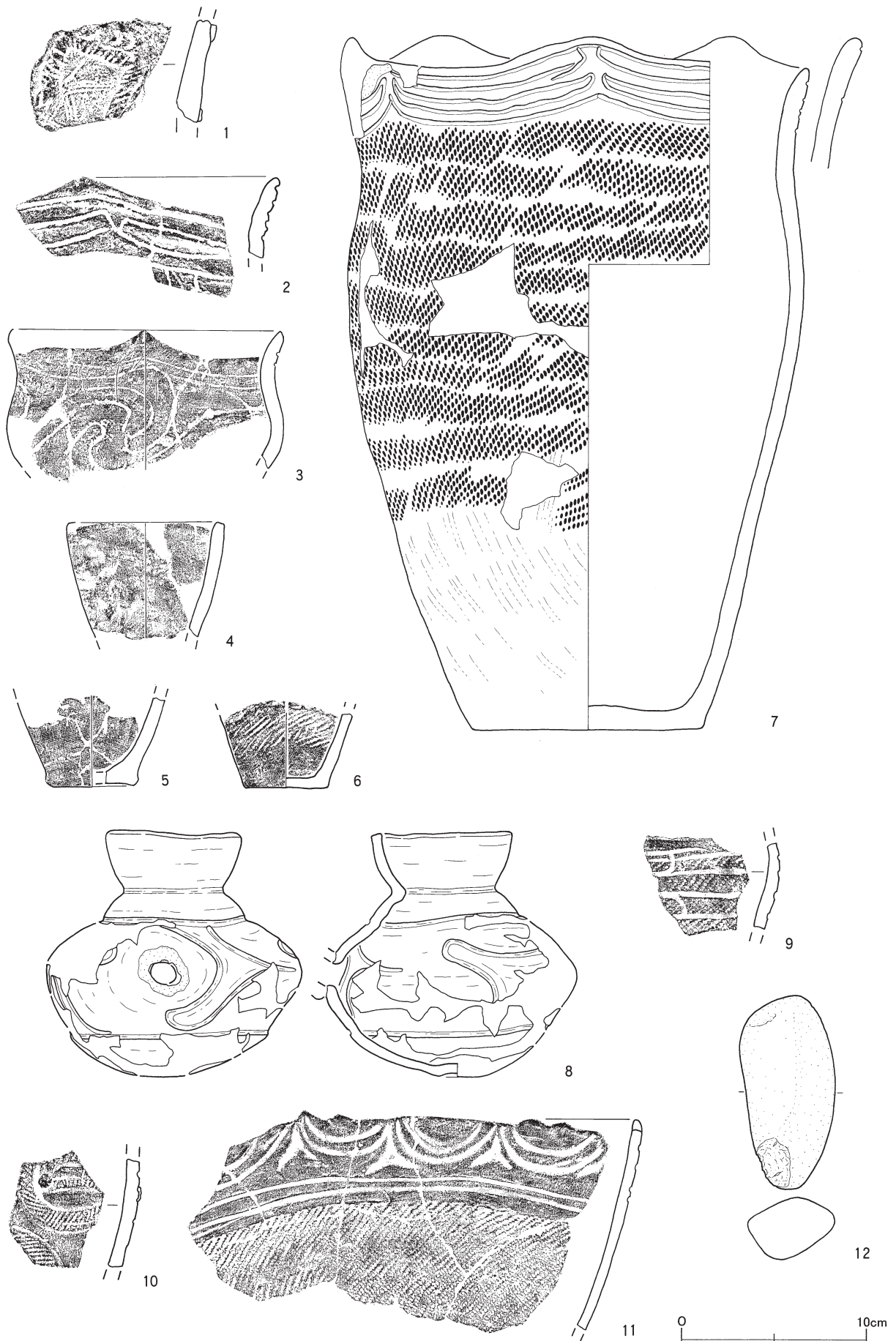


図Ⅲ-35 H-12(1)

H-12 遺物出土状況



図III-36 H-12(2)



図Ⅲ-37 H-12出土の遺物

点で、石器はたたき石2点・Rフレイク3点・フレイク122点・石核4点が出土した。うち床面からは、IV群a類土器65点・フレイク2点・礫9点が出土した。

掲載遺物：1はIII群a類円筒土器上層b式。粘土紐貼付間に3本一組の細い縄文押捺、馬蹄形圧痕が連続する。2～7はIV群a類トリサキ式。2は口縁部に連結沈線が施文されている。3は2本一組の沈線による入組文が展開する。4は無文の小型鉢。7の底部付近内部から出土したもの。5は無文、6は細かい撚りの縄文が施文された小型深鉢の底部。7は大型深鉢。胴部は緩やかに膨らみ、短い口縁部は外反する。5単位の波状口縁と推測される。文様は口縁部に集約され、波頂部を境とした連結沈線がめぐる。胴部は節がやや不明瞭なLR縄文が全面施文されている。8・9はIV群b類。8は十腰内Ⅱ式または手稲式の注口土器。彫刻手法、全面研磨が行われている。口縁部は内湾して立ち上がり、頸部に凸面体をもち、胴部は「く」の字に屈曲する。胴下部で段をもち、底部は極小の上底となっている。注口部（欠損）を中心に曲線・弧状の文様が展開する。9は手稲式。平行沈線に横U字状文が施文される。10はIV群c類十腰内V群。狭小な帯縄文による入組文に小さな貼瘤が付されている。11はV群a類の大型鉢。平縁に3個一組の突起があり、中央の突起が山形のものがある。口縁部は、3本組の浅い連弧文と横走沈線との間に三叉文が彫り込まれる。

12はたたき石。長楕円体の砂岩礫の下端部付近に敲打によるものとみられる剥落部がある。

時期：竪穴住居跡南側の床面に置かれていた土器の時期から、縄文時代後期前葉期とみられる。

(土肥)

H-13 [図III-38・39、図版16・56]

位置：J・K18・19区

平面形：推定円形

規模：538×—/516×—/14cm

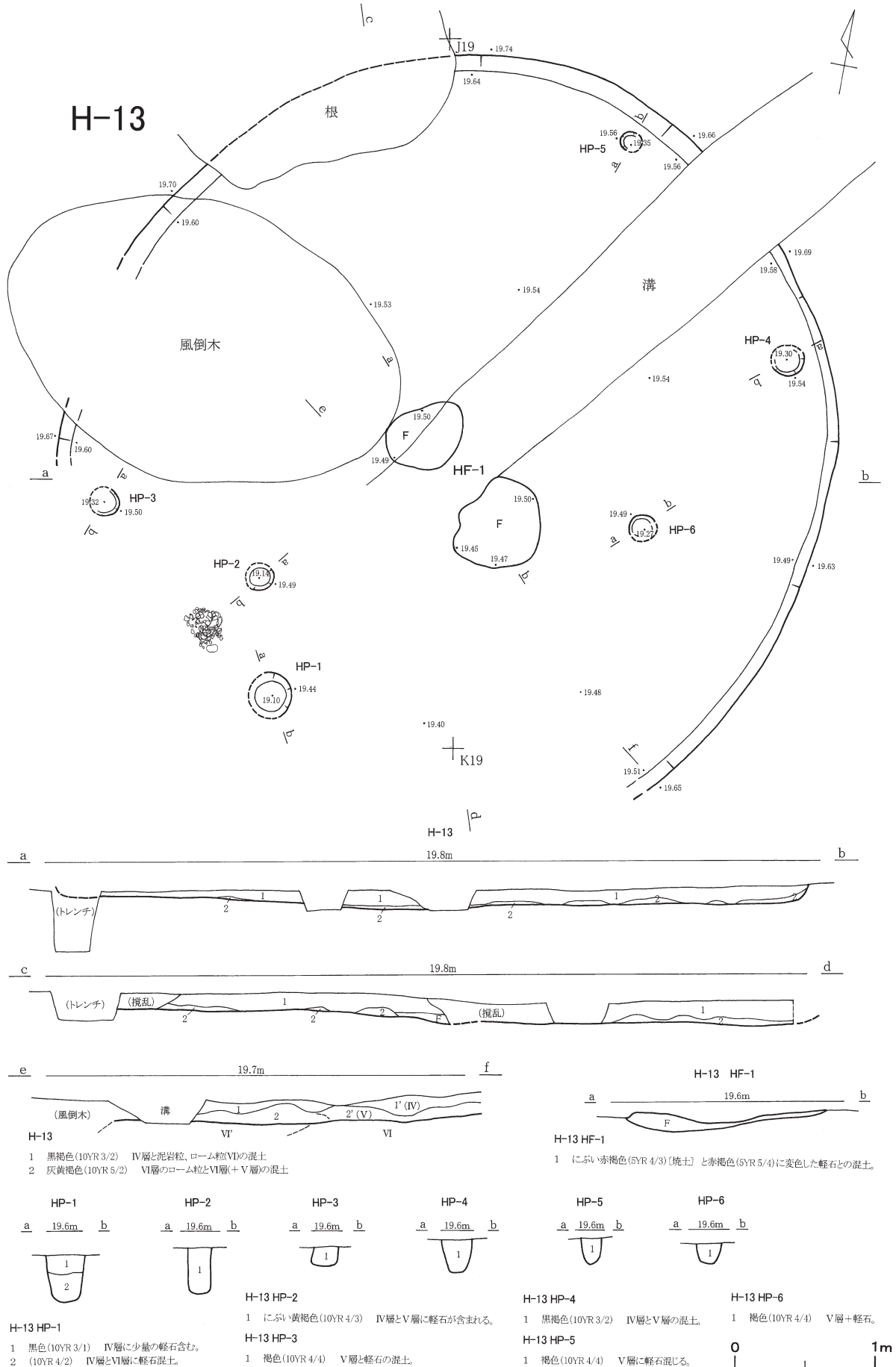
確認・調査：当遺構の平面形と重なる範囲で検出された遺物集中5の調査後に確認された竪穴住居跡である。遺物集中5の確認以前に、J18・K18・K19区の包含層はほぼ調査済みの状況であった。J19区の断面Ⅱ層中にKo-dが10cmほどの厚みで堆積するのがみられ、遺構の可能性があるとみてトレンチ調査を行い断面を観察したが、この時点では竪穴住居跡の確認は出来なかった。付近からは一括性のある土器や多数の礫が出土したため、遺物集中5として調査をすすめた。その後遺物の広がりには包含層が残る範囲で半円形になり、住居内に落ち込む遺物である可能性がより高まったため、ほとんどの遺物を取り上げた10月4日の時点で十字にベルトを残しながら調査を進めると、まもなく炉跡とみられる焼土を検出し、H-13とした。西側半分は抜根の痕や風倒木、さらに包含層調査で失われ、平面のプランは半分が無い状況だった。また、H-12から続く溝で、床面中央付近にある炉跡も二つに分断されていた。確認した時点での竪穴住居跡の深さは約14cm未満であった。

覆土：覆土下位の層が残っていたものとみられ、上位にIV層とVI層起源のローム粒の混じる黒褐色土層、下位にローム粒混じりのVI層が堆積する。

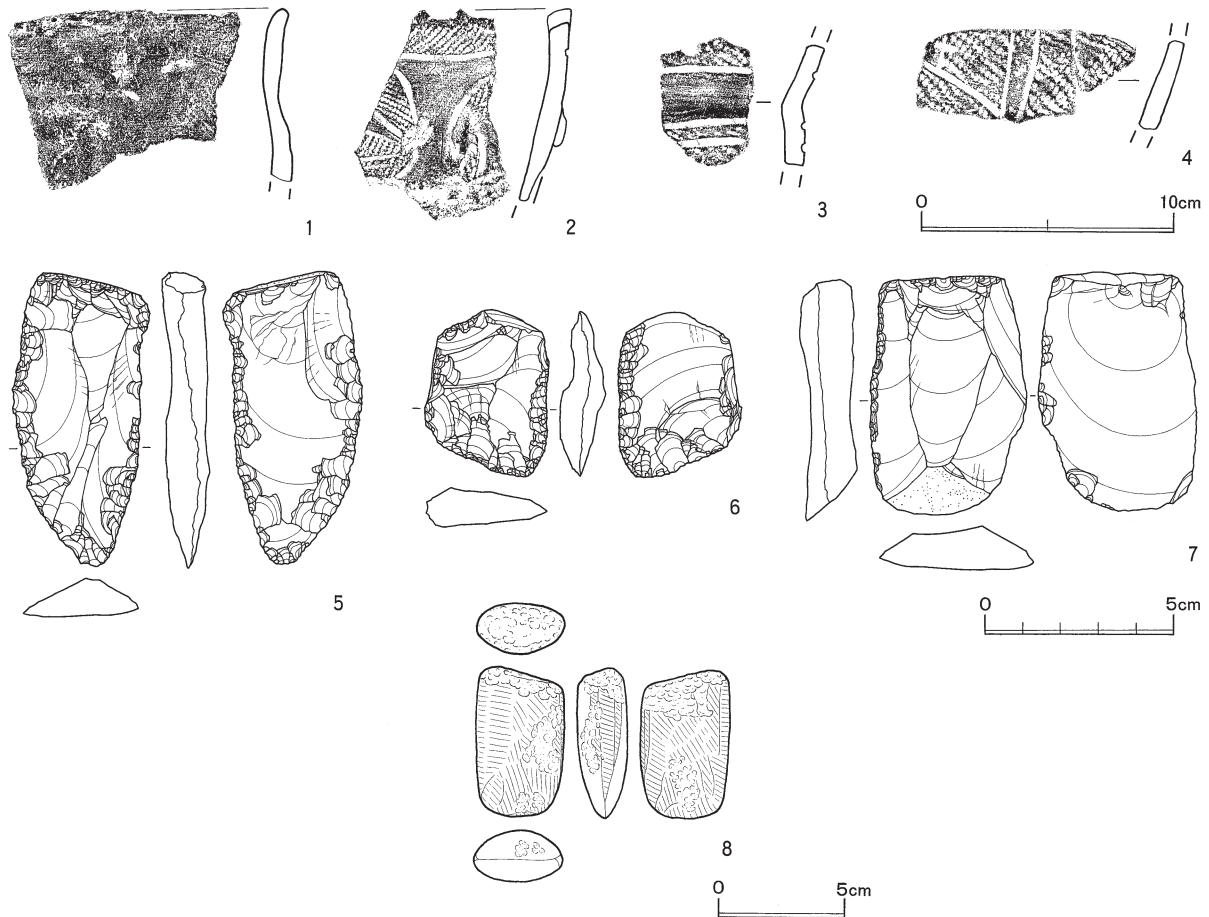
形状：平面プランの半分ほどしかないが、直径約5.2mのほぼ円形に近い形状であったと推測される。

付属遺構：焼土1か所(HF-1)と土坑・柱状小土坑6基(HP-1～6)を検出した。HF-1は凝灰岩粒を含むVI層が被熱したもので、H-13を斜めに貫く溝によって2か所に分断されているが、もとは長径130cmを超える長楕円形の焼土であったものとみられる。HP-1は、径30cm、HP-2は径16cmの柱穴状で、深さ30cmほどある。HP-3～6は、柱穴とするにはやや浅い。

遺物出土状況：覆土上位の竪穴の窪みに流れ込んだとみられる遺物は、遺物集中5として取り上げた。そのうち縄文時代後期後葉堂林式期の一括土器がHF-1と重なる位置から出土したが、炉跡との間



図III-38 H-13



図III-39 H-13出土の遺物

に覆土1層が挟まることから無関係とみられる。また、覆土1層からは後期前葉の遺物に次いで後葉の土器片が多く出土し、竪穴住居跡よりも新しい風倒木跡には後期後葉の破片が多く落ち込んでいた。床面では遺物は少なく、直接伴う遺物は見つかっていない。

出土遺物の総数は904点で、土器が292点・石器が32点・礫が580点である。土器はⅢ群b類8点・Ⅳ群a類140点・Ⅳ群c類128点・Ⅴ群b類5点・焼成粘土塊11点で、石器はスクレイパー3点・石斧1点・Rフレイク1点・Uフレイク1点・フレイク26点が出土した。

掲載遺物：1はⅣ群a類。無文の小型深鉢である。2～4はⅣ群c類。2は弧線文区画による磨消縄文があり、入組文の弧線部に縦長の貼瘤がみられる。十腰内Ⅴ群と思われる。遺物集中5の23(図III-82)及び包含層の277(図IV-28)と同一個体とみられる。3・4は堂林式。3は胴上部の屈曲部で、やや狭い無問題を挟んで沈線が横走する。破片上端に補修孔が観察される。

5～7はスクレイパー。5は左右両刃で、下端がとがる。6は右側縁と下側縁に細かい調整が施されている。背面は古い剥離面である。7は左側縁に微細な剥離痕が連続する。背面下部に原石面が残る。8は砂岩製の石斧類。基部を除き全面磨製で、刃部は鋭利である。基部は平坦で楕円形を呈し、周縁に弱い敲打調整がみられる。石のみとしての利用が考えられる。

重複・時期：竪穴住居跡と重なる風倒木跡はH-13を切るもので、包含層の落ち込み部分には当遺構上にある遺物集中5の遺物が落ち込んでいた。H-13出土の遺物には縄文時代後期後葉の破片が多く含まれるが、ほかの後期の竪穴住居跡から晩期中葉の破片が出土するのと同じ状況と考えられる。遺跡全体からみても、後期後葉の遺物量は居住地と考えるほどの量は出土していないことから、本竪穴住居跡は後期前葉のものと考えられる。(土肥)

2 土坑

P-1 [図Ⅲ-40・55、図版17・57・59]

位置：Q14区

平面形：円形

規模：74×71/55×49/47cm

調査・特徴： 堅穴住居跡の所在確認のため、Q14・15区中央の東西に開けた幅30cmのトレンチで検出した土坑である。トレンチ内の土層をV層まで掘り下げると、土器片などの遺物を含むⅢ・Ⅳ層が推定円形に落ち込む状況を確認し、トレンチの南側壁面をそのまま断面として半割した。断面の位置は土坑の中心をやや逸れたが、覆土上部にⅢ・Ⅳ層が落ち込み、平らに掘られた坑底付近にはⅣ・Ⅴ層の混土層が堆積していた。形状は径70cm強の円形で、Ⅳ層中から掘り込まれているものとみられる。土層の堆積に埋戻しの痕跡はないものとみられる。

遺物出土状況： 覆土に流れ込む土器はすべてⅢ群a類で、69点が出土した。このほかにスクレイパー1点・Rフレイク3点・フレイク20点・礫95点が出土した。

掲載遺物： 1・2はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式または見晴町式。1は斜行する口唇上に縄文押捺が連続する。口唇以下は結束縄文が施されている。H-3出土の4(図Ⅲ-15)と同一個体である。2は口縁波頂部突起に粘土紐貼付が左右辺に施されている。3はスクレイパー。左側面に古い剥離面が残る。

時期： 出土遺物や遺構の掘り込み面から縄文時代中期の土坑とみられる。

P-2 [図Ⅲ-40・55、図版17・57]

位置：Q14・15区

平面形：円形

規模：109×97/64×58/62cm

調査・特徴： Q14・15区に開けたトレンチで、P-1の東側に並んで検出した土坑である。トレンチ内の土層をV層まで掘り下げると、推定円形とみられるⅣ層の落ち込みを検出した。規模を確認するためトレンチ内で見える部分から掘削範囲を広げていくと、土坑内のⅢ層下で焼土(F-6)を検出した。土層断面から、本土坑が埋まりかけた時点で焼かれたものとみられる。土坑の形状は径約100cmの円形で、坑底部は平らに掘られる。坑底上には壁面の崩落堆積とみられるⅣ・Ⅴ層の混土が堆積し、その上にⅣ層が流れ込む。土層の堆積に埋戻しの痕跡はないものとみられる。

遺物出土状況： 検出面上には、礫片が落ち込む状況で、覆土には包含層からの流れ込みとみられる遺物が出土した。覆土上位のF-6下位の層には河川から集めたとみられる泥岩製の小円礫を多数含む層があった。出土した遺物はⅡ群b類土器2点・Ⅲ群a類土器19点・フレイク3点・礫695点である。

掲載遺物： 4はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。横走・山形の貼付文がある。

重複・時期： F-6と重複する。Ⅳ層面から掘られており、出土遺物からも縄文時代中期の土坑とみられる。

(土肥)

P-3 [図Ⅲ-40、図版17]

位置：R14区

平面形：円形

規模：61×59/41×37/35cm

調査・特徴： H-3の掘り下げ中に焼土F-3を検出し、調査後さらに掘り下げたところ、H-3の床面で黒色土の円形のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はおおむね平坦で立ち上がりはやや湾曲し、壁は直線的に外上方向きであり坑口部で

さらに広がる。覆土は大部分が自然堆積とみられる黒色土（1層）で、壁・床付近（2層）は乱れた土壌であり流入土または崩落土とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 4 点・フレイク 1 点・礫 4 点が出土した。

重複・時期：H-3 および F-3 と重複し、当遺構は H-3 より新しく F-3 より古い。縄文時代中期半ば～後半と推定される。

P-4 [図Ⅲ-40・55、図版17・59]

位置：R14区

平面形：円形

規模：66×64/49×40/54cm

調査・特徴：H-3 の床面付近で黒色土の円形のままとりとその中央の焼土 F-4 を検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はおおむね平坦で立ち上がりはやや湾曲し、壁は直線的に外上方向きで、坑口部でさらに広がる。覆土は大部分が自然堆積とみられる黒色土（1層）で、壁・床付近（2層）は乱れた土壌であり流入土または崩落土とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 4 点・焼成粘土塊 1 点・スクレイパー 1 点・フレイク 2 点・礫 26 点が出土した。

掲載遺物：5 はスクレイパー。やや不定形な剥片を素材とし、周縁に細かい調整が施されている。頂部に原石面が残る。

時期：H-3 および F-4 と重複し、当遺構は H-3 より新しく F-4 より古い。縄文時代中期半ば～後半と推定される。

(阿部)

P-5 [図Ⅲ-41、図版17・18]

位置：R17区

平面形：円形

規模：90×78/80×71/23cm

調査・特徴：R17区をⅥ層上面まで掘削した時点で検出した土坑である。覆土上部は土坑掘削時に生じたとみられるⅥ層主体の層が皿状に堆積、その下位にⅣ層主体の層が堆積する。層序的に逆転した堆積であることから埋め戻されているものとみられる。坑底面は平らに掘られ、壁面の立ち上がりは急である。覆土や土坑の形状から墓坑であった可能性がある。

遺物出土状況：覆土からⅣ群 a 類土器 1 点・フレイク 1 点・礫 6 点が出土した。

重複・時期：土坑上の遺物集中 2 と重なるが、関連は不明である。覆土中から出土した縄文時代後期前葉の土器片が近い時期の遺物と考えられる。

P-6 [図Ⅲ-41、図版18]

位置：R17区

平面形：楕円形

規模：82×69/72×57/19cm

調査・特徴：R17区をⅥ層上面まで掘削した時点で、P-5 の東隣で検出した土坑である。覆土上部はⅣ・Ⅴ層の混土が堆積し、Ⅵ層主体の層が皿状に堆積、その下位にⅣ層主体の層が堆積することから、埋め戻されている可能性がある。坑底部はやや丸みをおび、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：出土遺物は少ないが、覆土中からⅣ群 a 類土器 4 点・焼成粘土塊 1 点・フレイク 3 点・礫 5 点が出土した。

重複・時期：遺物集中2の下から検出しているが、関連は不明である。覆土中から出土した土器片の時期から縄文時代後期前葉の土坑とみられる。

(土肥)

P-7 [図Ⅲ-41、図版18]

位置：Q18区

平面形：円形

規模：92×86/75×61/15cm

調査・特徴：Ⅵ層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや凹凸があり、立ち上がりは緩やかである。覆土はややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土から礫5点が出土した。

時期：不明である。

P-8 [図Ⅲ-41・55、図版18・59]

位置：O・P24区

平面形：隅丸方形

規模：115×94/87×61/53cm

調査・特徴：P24区の包含層の掘り下げ中、北側の壁面で黒色土が落ち込む土層断面を確認した。さらにO24区側をⅢ層上面まで掘り下げたところ、黒色土の範囲が検出され、Ⅱ層～Ⅲ層から掘りこまれた土坑であると判断した。平面形が検出面・坑底とも隅丸方形で、立ち上がりは急で壁は直線的に外上方向きである。覆土は、ややロームの混じる黒褐色土の流入土を主体とする。覆土下位から小礫が多量出土した点が大きな特徴である。

遺物出土状況：覆土からⅣ群a類土器5点・つまみ付きナイフ1点・フレイク8点・礫1,015点が出土した。礫は丸みをもち表面が滑らかな小砂利が大部分で、石質が泥岩・砂岩・珪岩・安山岩・頁岩などと多岐にわたっている。

掲載遺物：6はつまみ付きナイフ。機能部が小さく、つまみ部が目立つ。

時期：Ⅲ層より上位で検出されたことから、縄文時代晩期（以降）の可能性が高い。

(阿部)

P-9 [図Ⅲ-41、図版18]

位置：R14区

平面形：楕円形

規模：58×50/46×39/9cm

調査・特徴：R14区をⅥ層まで掘り下げた時点で検出した土坑である。Ⅵ層からの深さは9cm未満であるが、覆土がⅣ層主体の黒色土であることから、Ⅳ層中から掘られていた円形の土坑だったとみられる。

遺物出土状況：覆土から礫2点が出土した。

時期：土器は出土していないが、形状などの特徴が縄文時代中期の土坑と似ていることから、同時期の土坑と考えられる。

(土肥)

P-10 [図Ⅲ-42・55、図版19・57・59]

位置：O15区

平面形：円形

規模：69×64／54×48／50cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや椀状であり、立ち上がりは急で壁は直線的である。西側の壁面は木根跡とみられるくぼみがある。覆土は1・3層が自然堆積（黒色土）で、間の2層および最下位の4層は暗褐色土やロームが混じる流入土とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器4点・Ⅲ群a類土器6点・スクレイパー1点・扁平打製石器1点・フレイク12点・礫81点（凝灰岩の小礫主体）が出土した。

掲載遺物：7はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。波頂部突起に縄文押捺が連続する。口縁部は2本組みの沈線が横位・縦位に施されている。8はスクレイパー。泥岩に近い頁岩が用いられている。左側縁に細かい調整が連続する。

時期：出土遺物や類似の土坑から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-11 [図Ⅲ-42、図版19]

位置：O15区

平面形：円形

規模：102×94／60×51／27cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は椀状であり、立ち上がりは緩やかである。覆土は上位が黒色土、下位がややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・Ⅳ群a類土器10点・フレイク4点・礫18点が出土した。10cm大の砂岩の楕円礫がある。

時期：土坑の形状や周辺出土遺物から、縄文時代中期半ば～後期前葉とみられる。

P-12 [図Ⅲ-42、図版19]

位置：O15区

平面形：円形

規模：60×55／53×48／32cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は直線的である。覆土はややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。壁際にロームを多量に含む土層が堆積している。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器1点・礫4点が出土した。

時期：土坑の形状や周辺出土遺物から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-13 [図Ⅲ-42・55、図版20・57]

位置：Q15区

平面形：不整楕円形

規模：47×47／37×32／16cm

調査・特徴：H-5周辺調査中、V層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや凹凸があり、立ち上がりは緩やかである。覆土はややロームが混じる黒色土で、坑底付近はロームが主体であり、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・Ⅳ群a類土器8店・フレイク2点・礫8点が出土した。

掲載遺物：9はIV群a類白坂3式。緩やかな口縁波頂部を基準に鋸歯状文が密に施されている。スズ状の黒色物質が内外面に付着している。

時期：遺物出土状況などから、縄文時代後期前葉と思われる。

P-14〔図Ⅲ-42・55、図版20・57〕

位置：Q15区

平面形：楕円形

規模：75×(60)／37×27／44cm

調査・特徴：H-5の覆土上面を調査中に土器片がまとまって出土し、H-5の覆土と色調が異なる黒色土を検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は不整形にすぼまっており、立ち上がりは外反し、壁は凹凸がある。覆土はややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からII群b類土器2点・III群a類土器7点・IV群a類土器67点・IV群b類土器3点・Rフレイク1点・フレイク5点・礫16点が出土した。覆土上面でIV群a類の同一個体の土器片がまとまって出土した。

掲載遺物：10はIV群a類。覆土上面でまとまって出土した土器の一片。黄褐色を呈し、全体が磨滅を受けて文様が不明瞭である。11・12はIV群b類手稲式。11は波頂部下で8の字状の沈線が横走沈線に加わる。口唇はやや丸みを帯びる角型である。12は器壁が薄い。

重複・時期：H-5およびF-8と重複し、当遺構の方が新しい。出土遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。

P-15〔図Ⅲ-42・55、図版20・57〕

位置：Q16区

平面形：長楕円形

規模：115×69／93×55／15cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや不整形な長楕円形でおおむね平坦、立ち上がりはやや急である。覆土はわずかにロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からIII群a類土器4点・フレイク1点・礫11点が出土した。

掲載遺物：13はIII群a類サイベ沢VII式。波頂部突起に弧状・ボタン状の粘土紐貼付、口縁部は2本組の沈線が横走る。黒褐色を呈し、胎土に混和材が少なく軽い。

時期：遺物出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-16〔図Ⅲ-43・55、図版20・61〕

位置：P15・16区

平面形：円形

規模：97×79／58×43／56cm

調査・特徴：IV層下位で焼土(F-9)を検出し、周辺を少し掘り下げて精査したところ、黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは湾曲し壁はやや凹凸がある。覆土上面北寄りに焼土層(F-9)があり、覆土上位は黒色土を主体とするが焼土粒が混じる。中位はロームや岩砕が少量混じる黒褐色土で、流入土とみられる。下位はロームを主体とし、比較的短期に堆積したものとみられる。

遺物出土状況：覆土からIII群a類土器18点・砥石1点・フレイク2点・礫6点が出土した。砥石は覆

土中位の壁際から出土した。

掲載遺物：14は砥石。長さ約15cmの角棒状の凝灰岩の表面に弱いすり痕がみられる。

重複・時期：F-9と重複し、当遺構の方が古い。遺物出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-17〔図Ⅲ-43、図版20・21〕

位置：P16区

平面形：円形

規模：81×78／50×44／48cm

調査・特徴：V層で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は外上方に直線的に開く。覆土は上位が黒色土、中位が黒褐色土、下位が暗褐色土と下位に向かってロームが多く混じり、壁際にロームブロックが堆積している。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器67点・Ⅲ群a類土器3点・スクレイパー1点・フレイク5点・礫4点が出土した。Ⅱ群b類土器は覆土上位～中位に散在していた。

時期：遺物出土状況から、縄文時代前期後半～中期半ばとみられる。

P-18〔図Ⅲ-43、図版21〕

位置：P16区

平面形：円形

規模：79×68／55×47／15cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は椀状で、立ち上がりはゆるやかである。覆土はロームが混じる黒褐色土で、流入土であろう。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器1点・Ⅳ群a類土器9点・フレイク1点・礫32点が出土した。礫は凝灰岩の小片が多い。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

P-19〔図Ⅲ-43・55、図版21・60〕

位置：Q17区

平面形：楕円形

規模：114×95／88×59／45cm

調査・特徴：Ⅳ層下位で焼土（F-10）を検出し、半截後さらに掘り下げたところ壁面・坑底面を検出し、土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりはやや急で壁は外上方に広がる。覆土上位の大部分に焼土層（F-10）があり、土坑中央部の覆土中位は黒色土を主体とする。壁寄りや下位はロームを主体とし、比較的短期に堆積したものとみられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器6点・Ⅲ群a類土器27点・扁平打製石器1点・フレイク1点・礫3点が出土した。

掲載遺物：15は半割の扁平打製石器。正面観が長方形に近く、長軸端の打ち欠き、頂部の連続敲打整形が行われている。

重複・時期：F-10と重複し、当遺構の方が古い。土坑の規模・形状や遺物出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-20 [図Ⅲ-43・56、図版21・59]

位置：Q17区

平面形：円形

規模：102×100／87×84／34cm

調査・特徴：R17区をVI層上面まで掘り下げたところ、黒色土のまとまりの一部を検出した。隣接するQ17区ではIV層下位で焼土（F-11）を検出し、周辺を少し掘り下げて精査したところ、黒色土のまとまりの全体を検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは湾曲するが壁は直立的である。覆土上位中央部に焼土層（F-11）があり、覆土上位～中位はロームが少量混じる黒色土で、自然堆積層と考えられる。下位はロームブロックを含む不均質な層で、比較的短期に堆積したものとみられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器16点・Ⅲ群a類土器3点・Ⅲ群b類土器1点・スクレイパー1点・礫2点が出土した。

掲載遺物：16はスクレイパー。片刃で左側縁に母岩の原石面が残る「かまぼこ形」の剥片を素材とする。

時期：F-11と重複し、当遺構の方が古い。出土遺物はⅡ群b類が多いが、P-19と構造が類似することから、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-21 [図Ⅲ-44、図版21]

位置：N16区

平面形：円形

規模：68×64／56×54／32cm

調査・特徴：H-4を床面付近まで掘り下げたところ、焼土（H-4HF-1）および黒色土の円形のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや丸みを帯びており、立ち上がりは湾曲し壁はオーバーハングしており袋状になっている。覆土上面からH-4の床面にかけて薄い被熱層（H-4HF-1）がある。覆土はロームや岩砕を少量含む黒褐色土を主体とし、床面付近はロームを多く含む。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器12点・扁平打製石器1点・礫14点が出土した。

重複・時期：H-4（H-4HF-1含む）と重複し、当遺構の方が古い。遺物出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

（阿部）

P-22 [図Ⅲ-45、図版22]

位置：L・M19区

平面形：円形

規模：55×54／45×44／10cm

調査・特徴：縄文時代中期の竪穴住居跡H-1を調査中にⅢ層上面からⅡ層の落ち込みとして検出された土坑で、Ⅱ層中から掘られた浅い土坑である。覆土はⅡ層の落ち込みである。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器1点・Ⅲ群a類土器1点・Ⅳ群a類土器3点・礫1点が出土した。

時期：H-1と平面は重なるが、竪穴住居跡が完全に埋まってから掘られた土坑で、Ⅱ層中から掘られていることから、縄文時代晩期以降のものと考えられる。

（土肥）

P-23 [図Ⅲ-45、図版22]

位置：O19区

平面形：円形

規模：66×59／49×40／25cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは湾曲する。覆土は上位が黒色土を主体とし、中位～下位はロームや岩砕を多く含む暗褐色土で、壁際にロームブロックが堆積している。

遺物出土状況：覆土から礫6点が出土した。

時期：土坑の規模・形状や周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期とみられる。

P-24 [図Ⅲ-45・56、図版22・60]

位置：O15・16区

平面形：楕円形

規模：114×95／85×71／28cm

調査・特徴：IV層下位で焼土（F-13）を検出し、半截後さらに掘り下げて精査したところ、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは東側が急で西側はゆるやかである。覆土上位の西寄りに焼土層（F-13）がある。覆土はロームや岩砕を少量含む黒色土を主体とし、壁際はロームを主体とする堆積層がみられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器2点・Ⅲ群a類土器4点・扁平打製石器1点・台石または石皿1点・フレイク6点・礫29点が出土した。

掲載遺物：17は半割の扁平打製石器。正面観が半円形のもので、周縁部に連続敲打による整形が行われている。

重複・時期：F-13と重複し、当遺構の方が古い。出土遺物から、縄文時代中期半ばとみられる。

P-25 [図Ⅲ-45、図版22]

位置：H15区

平面形：円形

規模：74×69／82×70／30cm

調査・特徴：調査区北西の斜面上、検出された遺構の中では最も高い標高22～23mに位置する。VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。検出面で20cm以上、坑底で10cm以上の高低差がある。坑底は傾斜があるものの平坦で、立ち上がりは急で、壁は直線状で北側はオーバーハングする。覆土は岩砕を多く含み、黒褐色～暗褐色のやや不均質な色調を呈する。

時期：土坑の規模・形状や周辺出土遺物から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-26 [図Ⅲ-45、図版23]

位置：O16区

平面形：円形

規模：58×54／46×43／24cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁はほぼ直立し、一部オーバーハングする。覆土はロームや岩砕を少量含む黒色土を主体とし、壁際はロームを多く含む。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・Ⅳ群a類土器1点・礫55点が出土した。礫は泥岩の小礫が多い。

時期：覆土や周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-27 [図Ⅲ-45・56、図版23・57]

位置：O16区

平面形：円形

規模：98×86／64×55／64cm

調査・特徴：VI層上面でP-27に隣接した黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。検出面からの深さが60cmを超える。坑底は中央部がやや不整形に窪む。立ち上がりは急で直線的に外に開く。覆土はロームの混じる暗褐色土を主体とする。上面に近い2層にB-Tmとみられる黄褐色の火山灰を含み、壁寄りにはロームを主体とする土壌が堆積している。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器4点・Ⅲ群a類土器3点・Ⅳ群a類土器1点・フレイク1点・礫22点が出土した。礫は泥岩の小礫が多い。

掲載遺物：18はⅡ群b類円筒土器下層d式。細かい撚糸文がみられる。繊維を多量含む。19はⅣ群a類。折り返し口縁で、多条沈線が横走する。

時期：遺物出土状況からは判断できないが、類似する土坑の規模・形状から、縄文時代中期半ばころと思われる。

P-28 [図Ⅲ-45・56、図版23・57・59]

位置：O17区

平面形：円形

規模：79×71／57×52／10cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは湾曲する。覆土はロームを少量含む黒色土である。

遺物出土状況：残存する薄い覆土の坑底付近からⅢ群a類土器4点・焼成粘土塊1点・スクレイパー1点・礫3点が出土した。

掲載遺物：20はⅢ群a類の底部。結節縄文が多段観察される。21はスクレイパー。片刃で、右側縁に原石面が残る剥片を素材とする。

時期：遺物の出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-29 [図Ⅲ-44・56、図版23・57・59]

位置：N15区

平面形：円形

規模：97×86／72×70／28cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや湾曲し、立ち上がりは急で壁は一部オーバーハングする。覆土はロームや岩砕を少量含む黒褐色土を主体とし、坑底～壁際はロームを多く含む層である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器30点・スクレイパー1点・Uフレイク1点・フレイク4点・礫27点が出土した。Ⅲ群a類土器は覆土中位～下位から多く出土している。

掲載遺物：22はⅢ群a類。貼付帯上に押引文が連続し、貼付帯に沿って細い縄文が複数押捺されている。23はスクレイパー。片刃で、左側縁に原石面が残る剥片を素材とする。

時期：遺物の出土状況から、縄文時代中期前半とみられる。

P-30 [図Ⅲ-44・56、図版24・57]

位置：N16区

平面形：円形

規模：82×76／78×76／36cm

調査・特徴：Ⅵ層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは急で壁は直立し一部オーバーハングする。覆土はロームや岩砕を少量含む黒褐色土を主体とし、下位や壁際はロームを多く含む層であり特に下位中央部にブロック状のロームが堆積する。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器2点・Ⅲ群a類土器3点・Ⅳ群a類土器2点・フレイク2点・礫23点が出土した。礫は泥岩の小礫が多い。Ⅳ群a類土器のうち1点は、東壁際の坑底付近から出土した底部である。

掲載遺物：24はⅡ群b類。磨滅しているが、地文の撚糸文と2条の横走沈線が観察される。25はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。丸みを帯びた口唇上に縄文押捺、口縁部に横走沈線がみられる。26は坑底付近から出土したⅣ群a類とみられる底部である。外面は橙色を呈し、磨滅している。平底で立ち上がりは直立気味である。

時期：土坑の規模・形状、遺物の出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-31 [図Ⅲ-44、図版24]

位置：N16区

平面形：円形

規模：72×72／63×56／17cm

調査・特徴：H-4の床面で黒色土のまとまりの一部を検出した。H-4調査後周辺を掘り下げ、半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底はやや凹凸があるものの平坦で、立ち上がりは急である。覆土はロームを少量含む黒褐色土を主体とし、壁際はややロームが多くなる。上面がH-4床面に近い色調をもつ部分がある。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器5点・Ⅳ群a類土器4点・フレイク1点・礫23点が出土した。礫は泥岩の小礫が多い。

重複・時期：H-4と重複し、当遺構の方が古い。土坑の規模・形状、遺物の出土状況から、縄文時代中期半ばころとみられる。

P-32 [図Ⅲ-44、図版24]

位置：N16区

平面形：円形

規模：43×42／38×32／8cm

調査・特徴：H-4の床面で黒色土のまとまりの一部を検出した。H-4調査後周辺を掘り下げ、半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底を検出し土坑と判断した。坑底は凹凸があり湾曲し、立ち上がりはやや急である。覆土は坑底付近のみを確認し、ロームや岩砕を多量含む黒色土である。

遺物出土状況：残存する薄い覆土の坑底付近から、Ⅳ群a類土器13点・フレイク4点・礫6点が出土した。うち1点は10cm大の片岩の楕円礫である。

重複・時期：H-4と重複し、当遺構の方が古い。遺物の出土状況から、縄文時代中期～後期前葉とみられる。

(阿部)

P-33 [図Ⅲ-46・56、図版24・57・60]

位置：L20区

平面形：円形

規模：84×82／68×65／42cm

調査・特徴：L20区をVI層まで下げた時点で検出された土坑である。覆土は上部に礫を多く含む包含層が流れ込み、下位にVI層混じりの黒褐色土が堆積することから、IV層中から掘り込まれた埋め戻しのない土坑とみられる。

遺物出土状況：覆土に落ち込む包含層中からは421点の礫が出土しているのに対し、土器・石器の出土量は少ない。Ⅲ群b類土器5点・Ⅳ群a類土器1点・扁平打製石器1点・Rフレイク1点が出土した。

掲載遺物：27はⅢ群b類榎林式。口唇上に太い凹線の端部がみられる。口縁部は3本組の浅く太い沈線が横走する。28は砂岩製の扁平打製石器。正面観が楕円形に近く、長軸端の打ち欠きがみられる。底面のすり面の幅が比較的広い。

時期：土坑の形状や出土遺物から、縄文時代中期の土坑と考えられる。

P-34 [図Ⅲ-46、図版25]

位置：L20区

平面形：円形

規模：91×89／69×67／39cm

調査・特徴：L20区をVI層まで下げた時点で検出された土坑である。覆土は上部にローム粒を含むⅢ層、その下に凝灰岩の角礫を多く含むIV層が流れ込み、下位にVI層混じりの黒褐色土が堆積する。付近の包含層中に凝灰岩は含まれていないことから、覆土中のものは数グリッド離れた場所から持ち込まれている可能性がある。土層の特徴から埋め戻しのない土坑とみられるが、これらの土坑が埋まる過程で窪んでいる時点で、土砂の捨て場やたき火などに使われている可能性がある。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器3点・Ⅳ群a類土器3点・Uフレイク1点・フレイク3点・礫（小礫）109点が出土した。

時期：覆土中位から下では縄文時代中期の破片が出土していることから、本土坑もそれと近い時期のものと思われる。

P-35 [図Ⅲ-46・56、図版25・57]

位置：O20・21区

平面形：円形

規模：99×93／82×82／32cm

調査・特徴：O21区をVI層面まで掘り下げた時点で検出した土坑である。隣接グリッドと杭P21にプランが広がるものとみて、杭を残しながら周囲を広げ着手した。覆土は全般にしまっており、上部はIV層の落ち込み、下位はV・VI層の混土中にIV層を含む黒褐色土が筋状に堆積することから埋戻されているものとみられる。坑底面は平らで、壁は垂直に立ち上がっている。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器1点・Ⅲ群a類土器11点・フレイク2点・礫12点が出土した。

掲載遺物：29はⅢ群a類円筒土器上層b式。波状および横位の粘土紐貼付、馬蹄形圧痕がある。

時期：坑底面付近で出土した遺物から、縄文時代中期前葉の墓とみられる。

(土肥)

P-36 [図Ⅲ-46・57、図版25・57]

位置：J16区

平面形：円形

規模：116×100/70×62/54cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面で黒褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。上位から下位にかけて礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：遺物は覆土の上層から中層で出土している。覆土からⅢ群 a 類土器27点・Rフレイク1点・フレイク1点・礫6点が出土した。

掲載遺物：30・31はⅢ群 a 類。30はサイベ沢Ⅶ式。波頂部に環状の粘土紐貼付があり、口縁下の横位の粘土紐上には縄文押捺がみられる。31はRL縄文の上の一部斜行する捺糸文が施されている。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-37 [図Ⅲ-47、図版25・26]

位置：H16区

平面形：円形

規模：69×66/52×50/21cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面にて炭化材を含んだ暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面は南東側がほぼ平坦である。上位に礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅣ群 a 類土器1点・台石または石皿1点・礫9点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると縄文時代後期に所属すると考えられる。

¹⁴C年代測定結果：覆土から検出された炭化材片を試料とした。AMS測定法による暦年代補正の年代値は4,480±30 (yrBP) の結果を得た。遺構の想定年代よりも古い縄文時代中期頃の値ではあるが、覆土が遺構落ち込みへの流入土とすれば、理解を得られる年代値である。

P-38 [図Ⅲ-47・57、図版25・26・60]

位置：H16区

平面形：円形

規模：69×62/58×46/24cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面にて暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。上位から下位にかけて礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土から北海道式石冠1点・礫26点が出土した。

掲載遺物：32は北海道式石冠。風化により表面がざらついている。正面観が横長で、右側縁から下部の一部を欠く。頂部や持ち手部の溝の敲打整形がていねいである。底面はほぼ全てがすり面である。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると縄文時代後期に所属すると考えられる。

P-39 [図Ⅲ-47・57、図版25・26・60]

位置：H16区

平面形：円形

規模：84×81/66×66/32cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面にて褐色土をドーナツ状に囲む暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ

平坦である。上位に礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 1 点・たたき石 1 点・礫 7 点が出土した。

掲載遺物：33はたたき石。砂岩の楕円礫の長軸端部に小さな敲き痕がみられる。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-40 [図Ⅲ-47・57、図版26・50・59]

位置：H・I16区

平面形：楕円形

規模：102×82/90×77/27cm

調査・特徴：H-10調査後、緩斜面のVI層最終面にて黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。

覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 6 点・スクレイパー 1 点・フレイク 1 点・礫20点が出土した。

掲載遺物：34はⅢ群 a 類サイベ沢Ⅶ式。波頂部付近の口唇が肥厚する。35はスクレイパー。左側縁に細かい調整が施されている。左辺の腹面側中央に光沢が観察される。

重複・時期：H-10との重複関係からH-10よりも古い遺構である。遺物出土状況から判断すると縄文時代中期に所属すると考えられる。

(富永)

P-41 [図Ⅲ-48・57、図版27・57]

位置：O17区

平面形：円形

規模：98×92/86×82/24cm

調査・特徴：VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は北側が直線的に外上方に開く。覆土はややロームが混じる黒色土を主体とし、北側の壁際から床面付近にかけてロームが多く混じる薄層がある。

遺物出土状況：覆土からⅡ群 b 類土器 9 点・Ⅲ群 a 類土器 8 点・フレイク 3 点・礫22点が出土した。

土器のうちⅡ群 b 類は覆土の下位を主体とし、Ⅲ群 a 類はすべて覆土の上位から出土している。

掲載遺物：36はⅡ群 b 類。細かい撚糸文が縦走する。

時期：遺物出土状況から、縄文時代前期後半とみられる。

P-42 [図Ⅲ-48・57、図版27・57]

位置：O17区

平面形：円形

規模：97×86/66×62/41cm

調査・特徴：P-41に隣接する黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりはやや急で壁は直線的に外上方に開く。覆土は上位が黒色土主体、中位がローム主体、下位が黒色土とロームが不均質に混じる層であり、中位以下は比較的短期に堆積したと思われる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群 b 類土器22点・Ⅲ群 a 類土器12点・礫14点が出土した。土器のうちⅡ群 b 類は覆土下位を主体とし、Ⅲ群 a 類はすべて覆土上位から出土している。

掲載遺物：37~39はⅡ群 b 類。37a・bは同一個体。全体的に磨滅しているが、口縁部の隆帯とやや粗

い撚糸文が観察できる。38は2条の浅い沈線が横走する。40・41はⅢ群a類。40は結節部の目立たない羽状縄文が施文されている。小礫を多く含む。41は外にやや張り出す底部。外面はよく磨かれている。
時期：遺物出土状況から、縄文時代前期後半とみられる。

P-43 [図Ⅲ-48・58、図版27・57]

位置：M18区

平面形：楕円形

規模：72×56／69×69／54cm

調査・特徴：H-6の床面を精査中、やや不鮮明な暗褐色土のまとまりを検出した。半截したところ大型の礫が出土した。土層の堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は直線的であり一部オーバーハングする。覆土はロームと黒褐色土が混じり、暗褐色～褐色を呈した不均質な色調である。大型礫の出土した覆土中位はロームが主体である。埋土とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器3点・礫93点が出土した。うち2点は最大長20cmを超える大型の礫で、土坑中央東寄りの覆土上位から砂岩の板状礫、その3cmほど下の覆土中位から珪岩の楕円礫が出土した。

掲載遺物：42はⅢ群a類円筒土器上層b式。曲線の粘土紐貼付に沿って短縄文圧痕が連続する。

重複・時期：H-6と重複し、当遺構の方が古い。出土遺物や土坑の規模・形状から、縄文時代中期とみられる。

(阿部)

P-44 [図Ⅲ-48・58、図版27・60]

位置：N16・17区

平面形：円形

規模：67×65／68×66／25cm

調査・特徴：H-4調査終了後、周囲の包含層を掘り下げた際にプランの西側半分が検出された土坑である。N17区の包含層を下げた時点でグリッド境を断面に設定し半割した。覆土上位にはIV層が流れ込み、下位にはVI層とIV層の混土が堆積することから、埋戻しのない土坑とみられる。平面形は円形で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器16点・扁平打製石器1点・フレイク6点・礫36点が出土した。出土している礫はほとんどが凝灰岩である。

掲載遺物：43は半割の扁平打製石器。正面観が半円形に近いもので、長軸端部に打ち欠き、周縁部に連続敲打による整形が行われている。すり面の幅は狭い。

時期：出土遺物や覆土の特徴から縄文時代中期の土坑と考えられる。

P-45 [図Ⅲ-48・58、図版28・58]

位置：L・M20区

平面形：円形

規模：74×73／63×54／34cm

調査・特徴：VI層面で検出した土坑である。検出地点の西隣には風倒木跡があり、覆土の上部に入るVI層主体の層はその影響で流れ込んだものとみられる。覆土中位のIV層には、図示した中期前葉の大型の破片（同一個体片）が入る。覆土下位にはIV層とVI層の混土が堆積する。土坑の特徴から、IV層中から掘られた埋戻されていない土坑とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器22点・Ⅳ群 a 類土器1点・フレイク3点が出土した。

掲載遺物：44はⅢ群 a 類見晴町式。胴部がふくらみ、口縁部は緩やかに外反する。口唇上に斜行する刻み列があり、波頂部に指頭押捺が施されている。

時期：覆土の特徴から、縄文時代中期後半の土坑とみられる。

P-46 [図Ⅲ-49・58、図版28・58・60]

位置：N17区

平面形：円形

規模：104×101/64×62/46cm

調査・特徴：N17区をV層付近まで下げた時点で土器や礫が流れ込む状況で検出された土坑である。直径約1mの円形で、付近の土坑の中では比較的大きい。断面図に入る土器片上には、小さな焼土が広がっていた。覆土は、上位にⅣ層主体の包含層が堆積し、下位にⅥ層主体の層が堆積する。坑底面のⅥ層には乾燥して亀裂の入った痕跡がある。これらの状況から、Ⅳ層中から掘り込まれた埋戻しのない土坑とみられる。

遺物出土状況：遺物の大半は覆土2層より上から検出され、Ⅲ群 a 類土器174点・焼成粘土塊1点・たたき石1点・扁平打製石器1点・Rフレイク2点・Uフレイク1点・フレイク9点・礫117点が出土した。

掲載遺物：45～47はⅢ群 a 類。45は見晴町式。波頂部がとがる。46はLR縄文が斜方向に回転され、横位の条が広がる。47はやや撚りの細かいRL縄文が展開する。48はたたき石とした。砂岩の扁平楕円礫の長軸端部に敲き痕がみられる。また側縁の一部にすり痕も観察される。49は扁平打製石器。正面観が楕円形に近いもので、長軸端部に打ち欠きが行われている。すり面の幅は狭い。

時期：土坑の特徴から、縄文時代中期の土坑とみられる。

P-47 [図Ⅲ-49・59、図版28・58～60]

位置：N17区

平面形：円形

規模：89×85/58×56/45cm

調査・特徴：N17区をV層付近まで下げた時点で土器や礫が流れ込む状況で検出された土坑である。直径約85cmの円形で、覆土上位にはⅣ層主体の層、下位にはⅥ層が多く混入する土層が堆積する。坑底面のⅥ層には乾燥して亀裂の入った痕跡が残り、ほぼ等しい大きさの北海道石冠、台石片、礫が3点並んで検出された。覆土の特徴から、Ⅳ層中から掘られた埋戻しのない土坑とみられる。

遺物出土状況：遺物の大半は覆土上位から検出され、Ⅲ群 a 類土器88点・Ⅳ群 a 類6点・スクレイパー1点・扁平打製石器2点・北海道式石冠1点・台石または石皿4点・石錘1点・Uフレイク1点・フレイク16点・礫98点が出土した。

掲載遺物：50・51はⅢ群 a 類見晴町式。50は口唇上を含め全面にRL縄文が施文されている。波頂部はとがる。51はニシンタイプの魚骨回転文が口縁～胴部に施文されている。横方向への回転を基本とするが、口縁波頂部付近などで斜め上方に向かう部分がある。口縁波頂部はとがり、口唇上に細い刻みが連続する。外面の一部にスス状の黒色物質が付着している。52はスクレイパー。片刃で、右側縁に原石面、頂部および下端部に古い剥離面が残る「かまぼこ形」の剥片を素材とする。左辺の腹面側上半に光沢が観察される。53は石錘としたが、たたき石としての利用が行われた可能性がある。表面が平滑な扁平楕円体の頁岩が用いられ、長軸および短軸のそれぞれ両端に打ち欠きが行われている。右側縁には敲打痕がある。54は1/3程度を欠く扁平打製石器。正面観が山形に近い半円形のもの。

すり面の幅は非常に狭い。55は北海道式石冠。左右側面の一部を欠く。持ち手部の溝の敲打整形がていねいである。底面はほぼ全てがすり面である。

時期：土坑の特徴から縄文時代中期の土坑とみられる。

P-48 [図Ⅲ-49・59、図版28・58]

位置：N16・17区

平面形：円形

規模：84×82/72×71/31cm

調査・特徴：H-4調査終了後、周囲の包含層を掘り下げた際にプランの西側半分を検出した土坑である。N17区の包含層を下げた時点でグリッド境を断面に設定し半割した。覆土上位にはIV層が流れ込み、下位にはVI層とIV層の混土が堆積する。平面形は円形で坑底面のVI層には乾燥して亀裂の入った痕跡が残る。これらの状況から、IV層中から掘られた埋戻しのない土坑とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類1点・Ⅲ群a類土器40点・Ⅳ群a類1点・Rフレイク1点・フレイク3点・礫79点が出土した。

掲載遺物：56はⅢ群a類。口縁波頂部下の貫通孔の周囲に粘土紐が廻る。口唇は角形に近く、縄文が施文されている。

時期：土坑の特徴から縄文時代中期の土坑とみられる。

P-49 [図Ⅲ-49、図版28]

位置：O20区

平面形：円形

規模：60×56/52×42/16cm

調査・特徴：O20区をVI層まで下げた時点で検出した円形の土坑である。覆土上位にはIV層が流れ込み、下位にはV層とVI層の混土が堆積する。確認面が下位であったため浅くなったが、本来はIV層中から掘り込まれた土坑とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器3点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

P-50 [図Ⅲ-49・59、図版28・59]

位置：O20区

平面形：楕円形

規模：69×47/61×39/18cm

調査・特徴：O20区をVI層まで下げた時点で検出した楕円形の土坑である。図面にはないが、プラン南側の検出面上では縄文時代前期の土器片がまとまって出土した。覆土上位にはIV層が流れ込み、下位にはIV層とVI層の混土が堆積する。検出面上の土器は一括性があり、本来は形状を留めていた可能性があり、本土坑もIV層中から掘り込まれていたとみられる。

遺物出土状況：検出面よりやや上からⅡ群b類土器の1個体片22点が出土した。

掲載遺物：57はⅡ群b類の小型深鉢形土器。緩やかな上げ底で、立ち上がりは急で直立し、口縁部がわずかに外反する。やや斜行する撚糸文が外面全体に施文されている。器壁は薄く、胎土に細かい繊維を多量含む。2区東の包含層出土片と接合した。

時期：検出面上で出土した土器から、縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

(土肥)

P-51 [図Ⅲ-50、図版29]

位置：I15区

平面形：円形

規模：87×81/73×63/44cm

調査・特徴：H-10調査後、緩斜面のVI層最終面にて灰黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面は南側がやや深い。がほぼ平坦である。上位から中位にかけて礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 1 点・台石石皿 1 点・礫 4 点が出土した。

重複・時期：H-10との重複関係からH-10よりも古い遺構である。遺物出土状況から判断すると縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-52 [図Ⅲ-50・59、図版29・58]

位置：I16区

平面形：円形

規模：99×93/83×78/60cm

調査・特徴：緩斜面のV層包含層調査中に暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面は南西側がやや深い。がほぼ平坦である。上位から中位にかけて礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 3 点・礫 4 点が出土した。

掲載遺物：58はⅢ群 a 類と思われる。口唇上・外面にやや粗い縄文が施されている。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-53 [図Ⅲ-50、図版29]

位置：I16区

平面形：円形

規模：100×100/80×80/44cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面にて灰黒色土を囲むドーナツ状の暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面は南側にかけて緩く傾斜する。北側壁が崩落し覆土4層中に地山の礫が多く含まれる。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 4 点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-54 [図Ⅲ-50、図版29]

位置：I16区

平面形：円形

規模：90×86/70×67/40cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面にて灰黄色土を囲むドーナツ状の暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。下位にて礫が出土する。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 9 点・フレイク 1 点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。（富永）

P-55 [図Ⅲ-51・60、図版29・58・59・61]

位置：M20区

平面形：長楕円形

規模：83×50／76×36／27cm

調査・特徴：M20区のⅣ層中で検出した遺物集中の下から検出された土坑である。遺物集中の取り上げを進めていた際に下から大型の石皿が出土したため、土坑の可能性のあるものとみて遺物の周りをⅤ層まで下げると長楕円形のプランが現れた。覆土は全体にⅣ層で埋まっており、石皿は土坑北側の壁面に立てられた状態で出土、土器は間をおいて、さらに上面に一括で潰れた状態で出土した。土坑の形状や遺物出土状況から、墓坑の可能性があるとみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器742点・Ⅴ群 b 類土器2点・台石1点・フレイク1点・礫27点が出土した。

掲載遺物：59～61はⅢ群 a 類。59a・bは同一個体。口縁～胴部が細いLR縄文、胴下部がやや太いRL縄文により施文されている。底部内面が中央に向かって傾斜しており、剥落が多く不明瞭だが底部中央が大きな貫通孔となっている可能性がある。60はやや丸みを帯びた口唇上にも縄文が施文されている。内外面に等色を呈する部分がみられる。61は凹み底になっている。62は台石。40cm近くに及ぶ扁平な安山岩が用いられている。作業面の縁辺部寄りに敲打痕が多数観察される。裏面や側面の一部は剥落している。

時期：出土遺物より縄文時代中期後半の墓坑である可能性がある。

(土肥)

P-56 [図Ⅲ-51・60、図版30・60]

位置：N21区

平面形：円形

規模：69×64／54×50／29cm

調査・特徴：Ⅵ層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は直線的である。覆土はややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器4点・砥石1点・フレイク1点・礫2点が出土した。

掲載遺物：63は砥石。板状の凝灰岩が用いられている。表面中央部に縦位に溝があり、浅く幅広の溝と、その上から狭く深い溝が形成されている。いずれも屈曲している。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-57 [図Ⅲ-51、図版30]

位置：M17区

平面形：楕円形

規模：62×50／43×38／15cm

調査・特徴：Ⅵ層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は直線的である。覆土はややロームが混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器1点・礫45点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-58 [図Ⅲ-51、図版30]

位置：H17区

平面形：楕円形

規模：134×106／95×84／60cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面に暗灰黄色土と黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。覆土1・2層に細かい礫が多く含まれる。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・礫16点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

(富永)

P-59 [図Ⅲ-52、図版30]

位置：L18区

平面形：円形

規模：65×62／52×48／30cm

調査・特徴：H-11周辺を調査中、VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりはやや急で壁は外上方に直線的に開く。覆土は岩砕を少量含む黒色土を主体とし、壁際にロームを多く含む流入土とみられる土壌が堆積する。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器3点・Rフレイク1点・フレイク2点・礫6点が出土した。

時期：遺物出土状況から、縄文時代中期とみられる。

P-60 [図Ⅲ-52、図版30]

位置：L18区

平面形：円形

規模：70×67／47×46／22cm

調査・特徴：H-11周辺を調査中、VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦だがやや凹凸があり、立ち上がりはゆるやかで壁は外上方に開く。覆土はロームや赤褐色土が少量混じる黒色土を主体とする。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・フレイク49点・礫12点が出土した。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期とみられる。

P-61 [図Ⅲ-52、図版30]

位置：L18・19区

平面形：楕円形

規模：68×58／60×49／10cm

調査・特徴：H-11周辺を調査中、VI層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やかである。覆土はロームや岩砕が少量混じる黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土からフレイク1点が出土した。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期とみられる。

(阿部)

P-62 [図Ⅲ-52、図版31]

位置：H17区

平面形：楕円形

規模：100×77／90×70／29cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面に黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。覆土4層に礫が含まれる。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-63 [図Ⅲ-53、図版31]

位置：H18区

平面形：円形

規模：80×72／68×58／13cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面に黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器1点・礫5点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期後半に所属すると考えられる。

P-64 [図Ⅲ-52、図版31]

位置：H18区

平面形：円形

規模：60×53／50×43／37cm

調査・特徴：緩斜面の包含層調査中にV層上面にてIV層の落ち込みを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からフレイク9点が出土した。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代後期に所属するものと考えられる。

P-65 [図Ⅲ-53、図版31]

位置：H18区

平面形：楕円形

規模：106×94／96×73／38cm

調査・特徴：緩斜面のV層包含層調査中に黒色土と暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面は南東側がやや深い。ほぼ平坦である。覆土2・3・5層に細かい礫が多く含まれる。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器5点・フレイク3点・礫1点が出土した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

P-66 [図Ⅲ-53・66、図版31・58]

位置：H17区

平面形：楕円形

規模：104×87／84×77／49cm

調査・特徴：緩斜面のVI層最終面に黒色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半截し

て調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認した。坑底面はほぼ平坦である。覆土の状況から、一時期に埋め戻されたものと推測される。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 2 点・礫 6 点が出土した。

掲載遺物：64はⅢ群 a 類。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

(富永)

P-67 [図Ⅲ-53、図版32]

位置：I15区

平面形：円形

規模：90×88/91×80/42cm

調査・特徴：調査区北西部の斜面のⅥ層上面で黒色土のまとまりを検出した。半截して堆積状況を観察し、壁面・坑底面を検出し土坑と判断した。坑底は凝灰岩の礫層付近まで掘りこみ、ほぼ平坦である。立ち上がりは急で、斜面上側の壁は直線的でややオーバーハングする。覆土は黒色土が主体で、斜面上側の壁面付近はロームが混じる。自然堆積とみられる。

遺物出土状況：覆土から礫 6 点が出土した。

重複・時期：H-10と重複し、当遺構の方が古い。土坑の形状や周辺の遺物から、縄文時代中期半ばとみられる。

(阿部)

P-68 [図Ⅲ-54、図版32]

位置：K20区

平面形：円形

規模：73×71/52×42/18cm

調査・特徴：K20区をⅥ層まで下げた時点で検出した土坑である。直径約70cmの円形で、覆土は主にⅣ層起源の黒色土である。覆土の特徴から、Ⅳ層中から掘り込まれている土坑とみられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 5 点・Ⅳ群 a 類 1 点フレイク 2 点・礫 3 点が出土した。

時期：縄文時代中期の土坑と考えられる。

P-69 [図Ⅲ-54、図版32]

位置：M21区

平面形：円形

規模：100×99/72×65/50cm

調査・特徴：M21区Ⅴ層面で焼土 (F-17) とともに検出した土坑である。焼土周囲にⅣ層が落ち込む状況であったため、焼土とともに半割した。調査が進むと、土坑の下部壁面がオーバーハングするフラスコ状に掘られていることが判明した。覆土は、上位焼土下にⅣ層主体の黒色土層が皿状に落ち込み、下にⅤ・Ⅵ層が多混じる暗褐色土層が堆積する。これらの特徴から、Ⅳ層から掘り込まれた埋戻しのないフラスコ状土坑で、埋まりかけの窪みで焼土が形成されたものとみられる。また、坑底面付近は地下水が染み出る状況であった。

遺物出土状況：覆土からⅢ群 a 類土器 2 点・焼成粘土塊 1 点・フレイク 4 点・礫29点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期とみられる。

P-70 [図Ⅲ-54・60、図版32・59]

位置：M21区

平面形：楕円形

規模：126×112／72×54／50cm

調査・特徴：M21区V層面で焼土（F-18）とともに検出した土坑である。焼土周囲はP-69ほど顕著にIV層が落ち込む状況ではなかったが、下位に土坑があるとみて、楕円形の焼土長軸で半割した。調査が進むと、土坑の下部壁面がわずかにオーバーハングする。覆土は、上位焼土下にIV層主体の黒色土層が皿状に落ち込み、下位にV・VI層が多混じる暗褐色土層が堆積する。これらの特徴から、IV層から掘り込まれた埋戻しのない土坑で、埋まりかけの窪みで焼土が形成されたものとみられる。また、P-69同様に、坑底面付近は地下水が染み出る状況であった。

遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器5点・IV群a類土器10点・スクレイパー1点・フレイク8点・礫30点が出土した。

掲載遺物：65はスクレイパー。やや不定形な剥片を素材とする。右側縁に連続した調整、左側縁（下半）に微細な剥離痕が連続する。

時期：出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

P-71 [図Ⅲ-54、図版32]

位置：L17区

平面形：円形

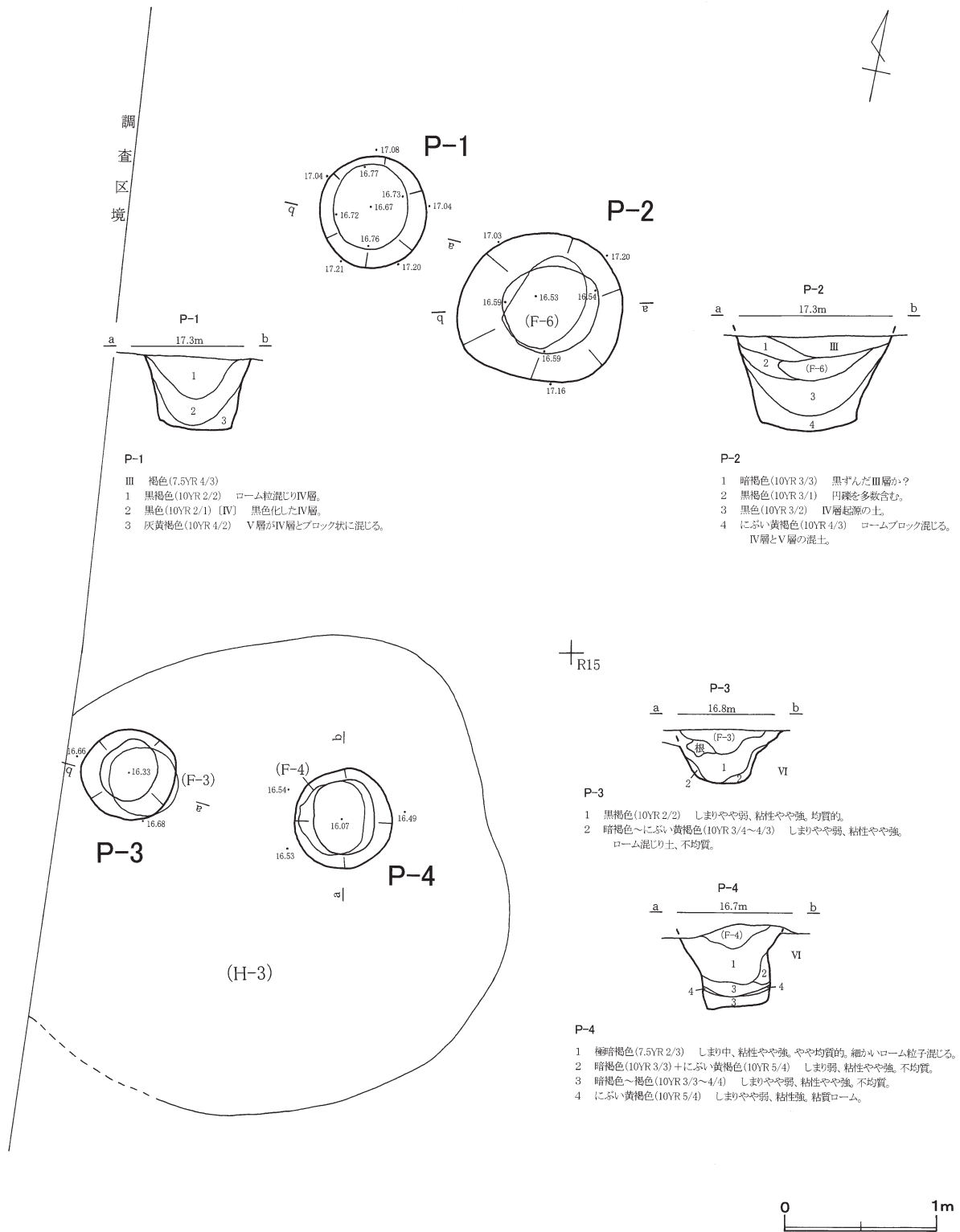
規模：74×69／62×59／34cm

調査・特徴：L17区の遺物集中3の下位V層面で検出した直径約70cmの円形の土坑である。覆土は全般にIV層主体の黒褐色土が落ち込む堆積で、出土遺物も少ない。遺物集中より下位のIV層から掘られている土坑とみられる。

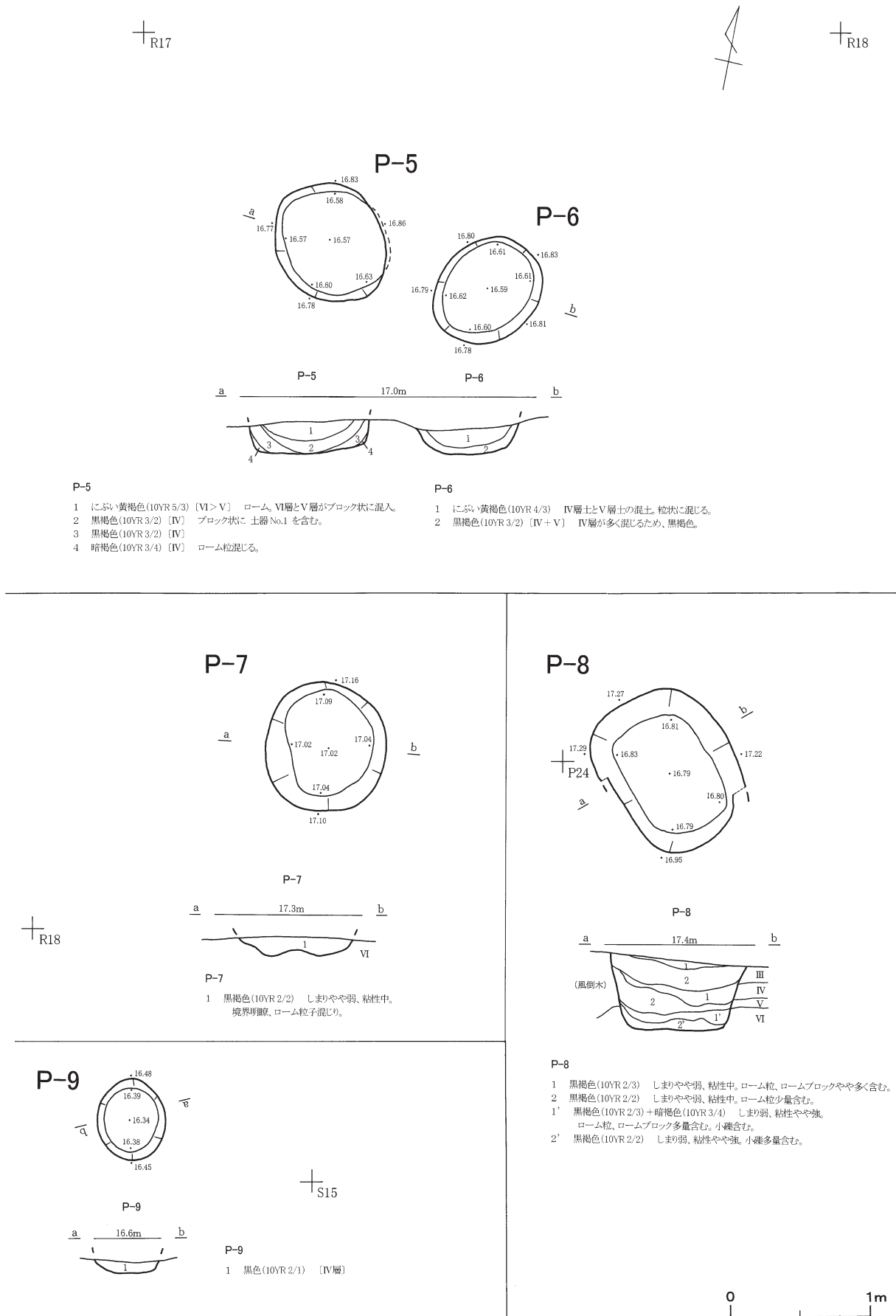
遺物出土状況：覆土からⅢ群a類土器3点・Rフレイク1点・フレイク5点・礫75点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

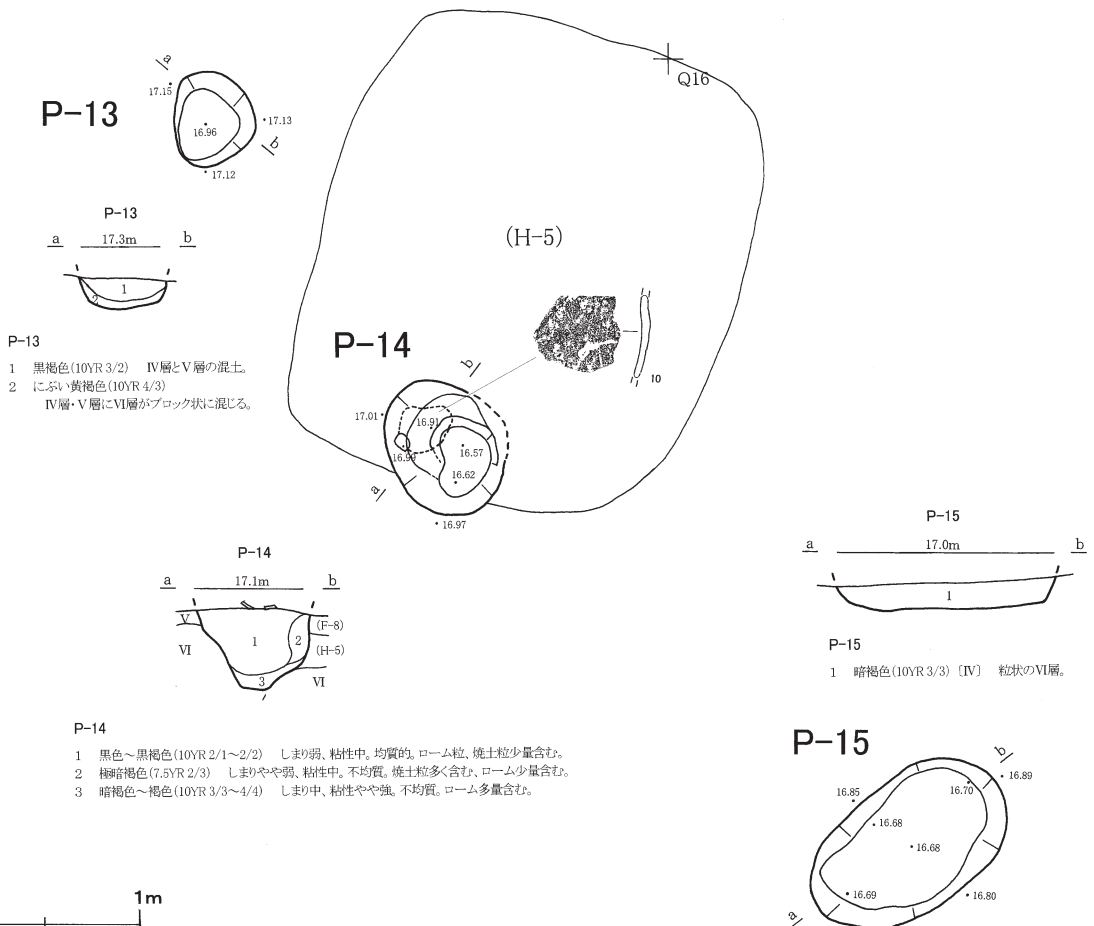
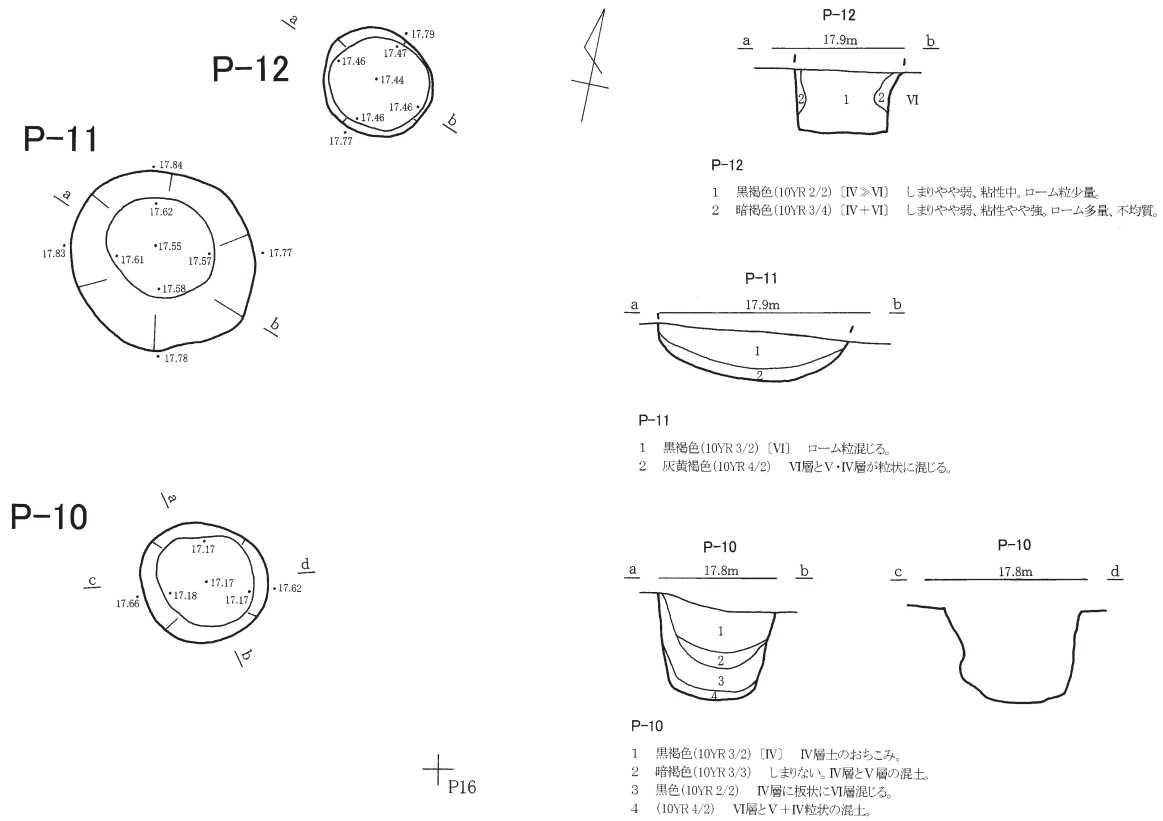
(土肥)



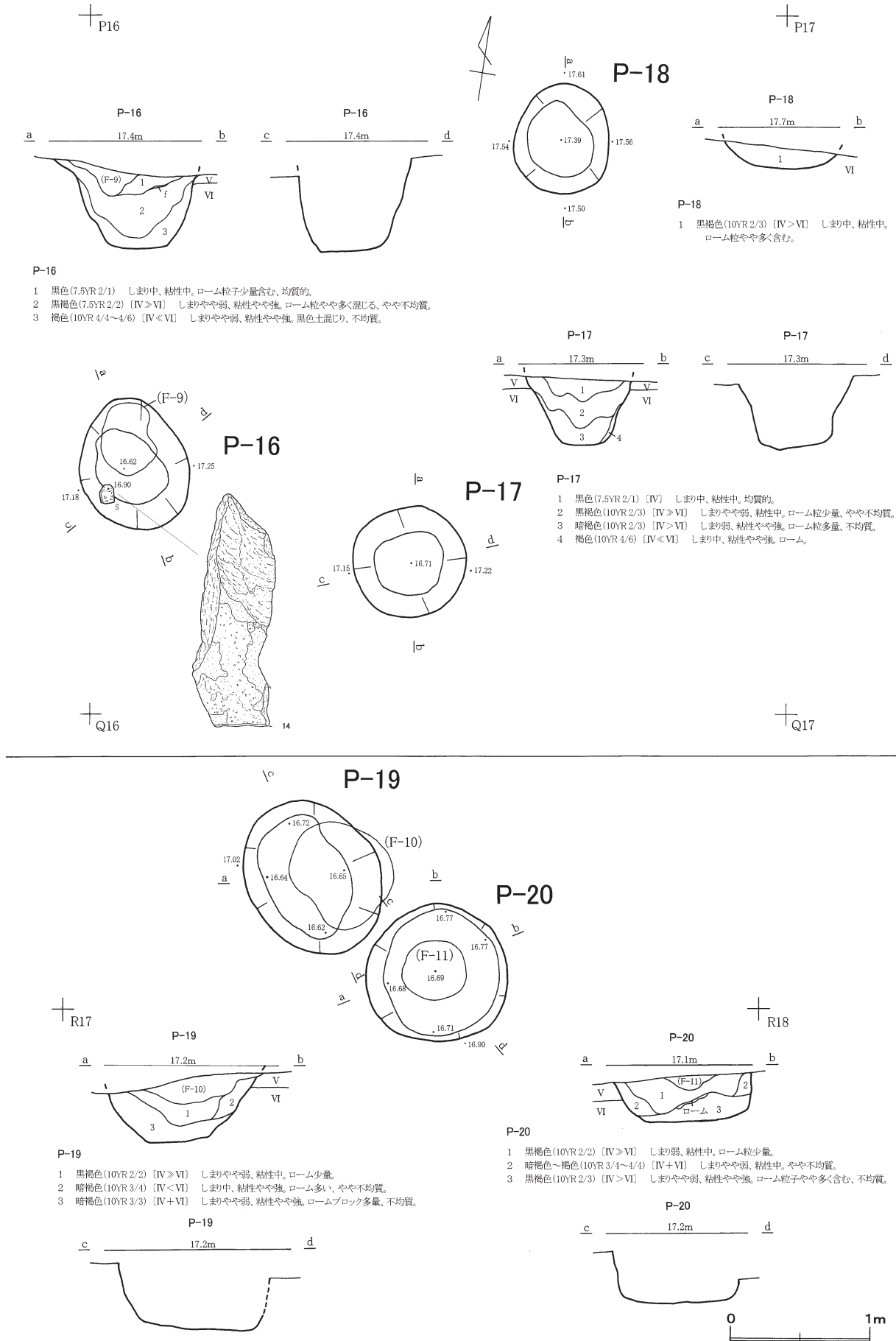
図Ⅲ-40 土坑(1)P-1～4



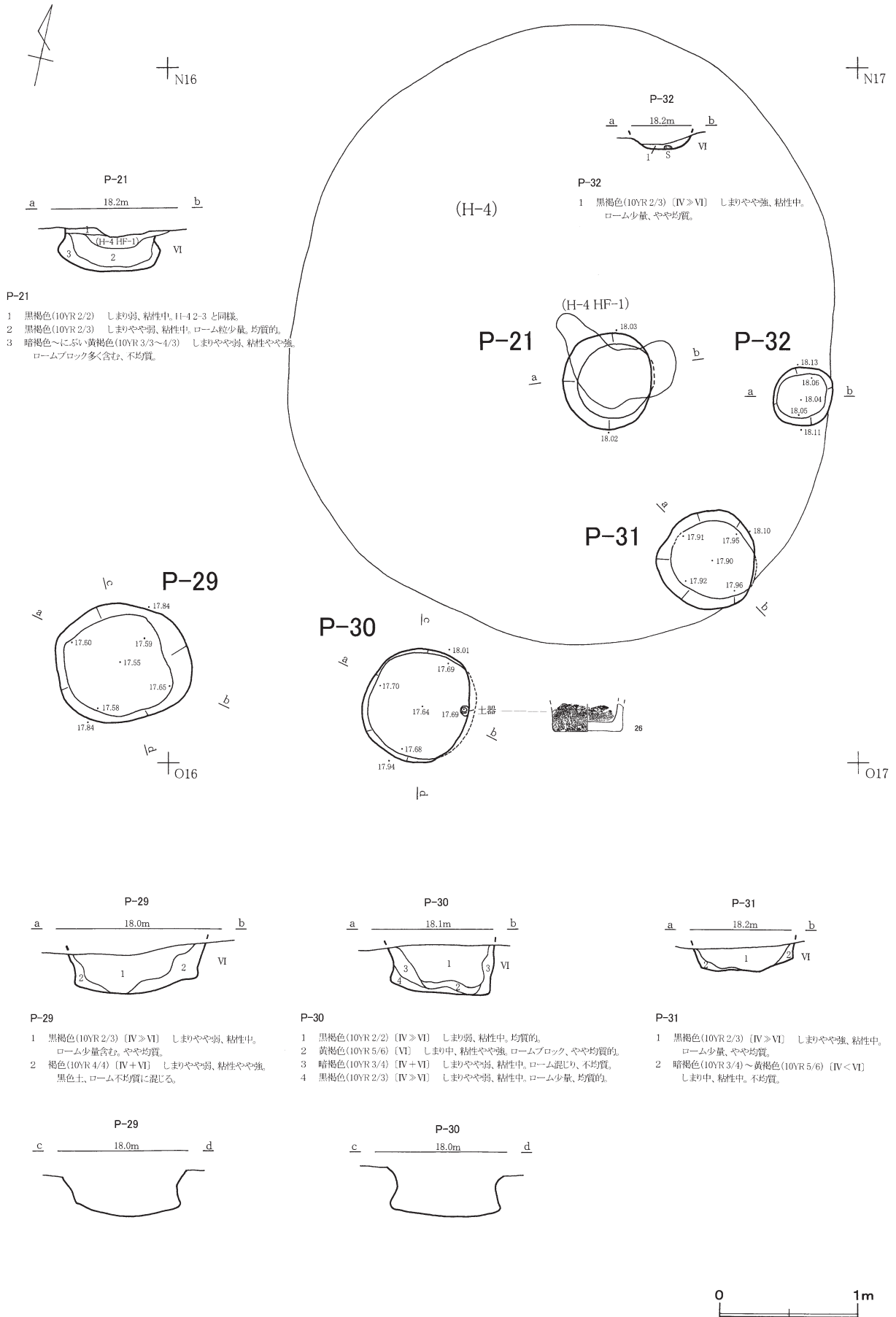
図III-41 土坑(2)P-5~9



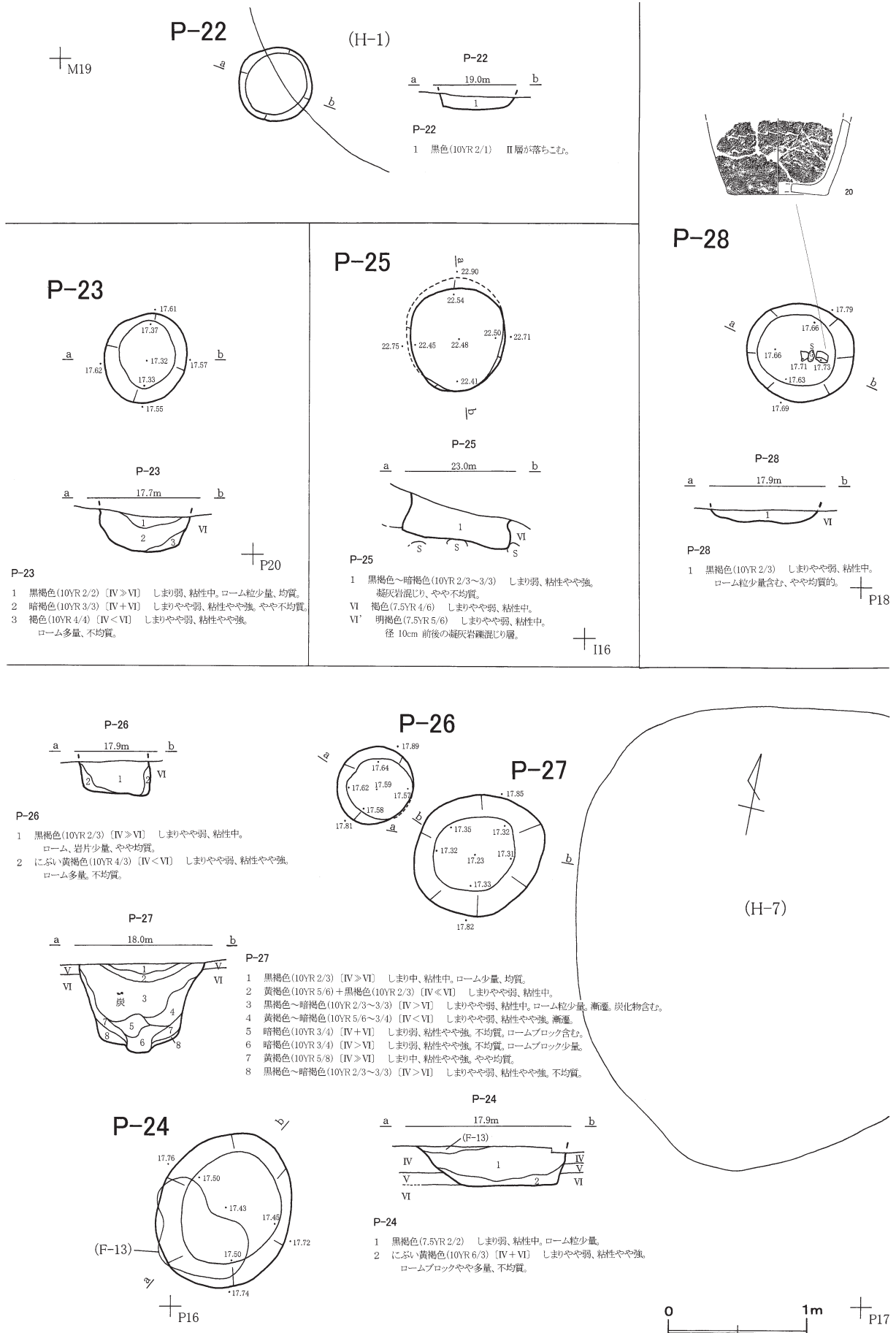
図Ⅲ-42 土坑(3)P-10~15



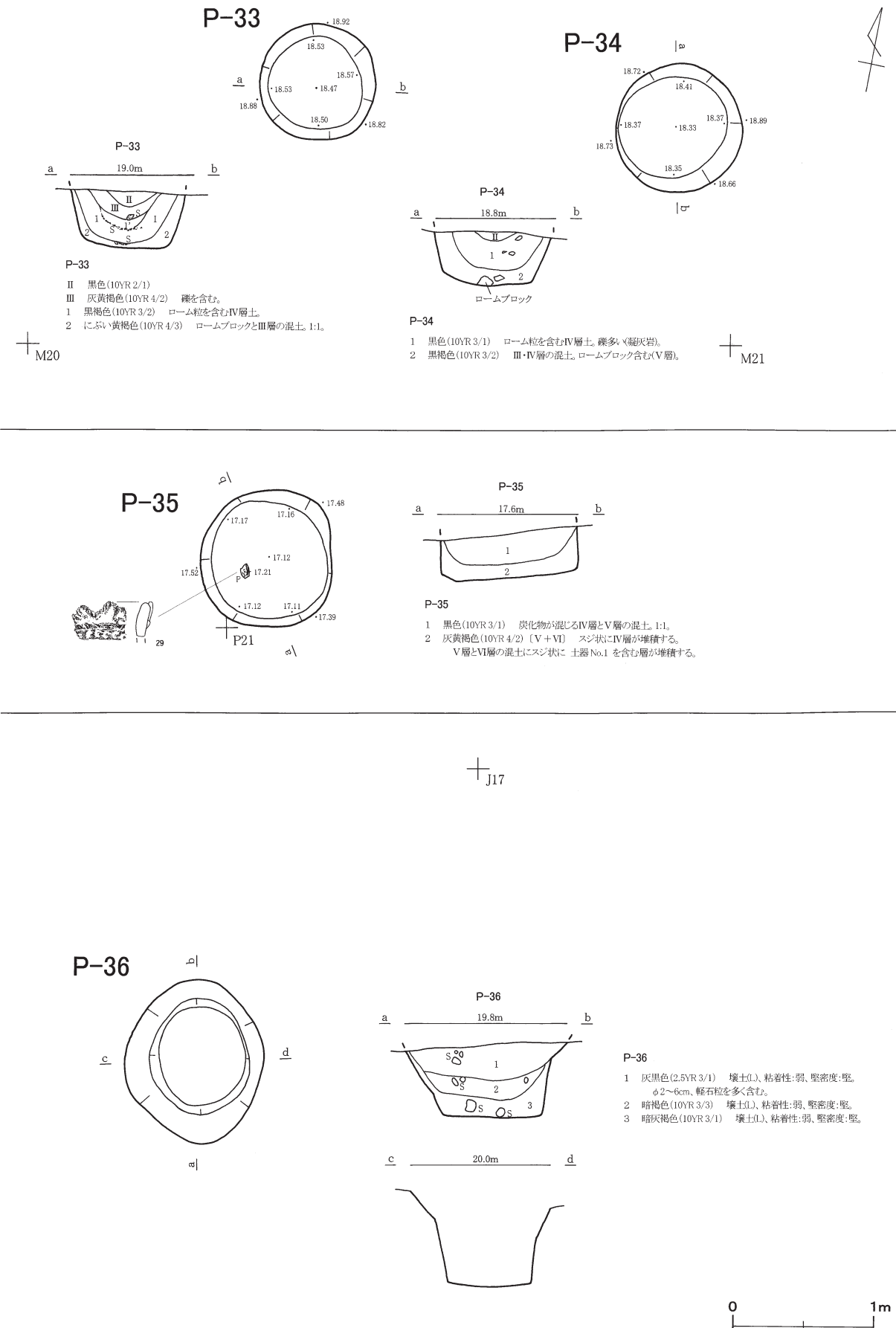
図III-43 土坑(4)P-16~20



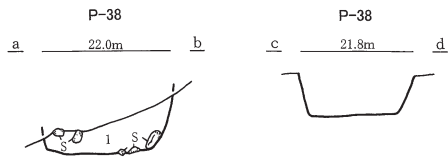
図Ⅲ-44 土坑(5)P-21・29~32



図III-45 土坑(6)P-22~28

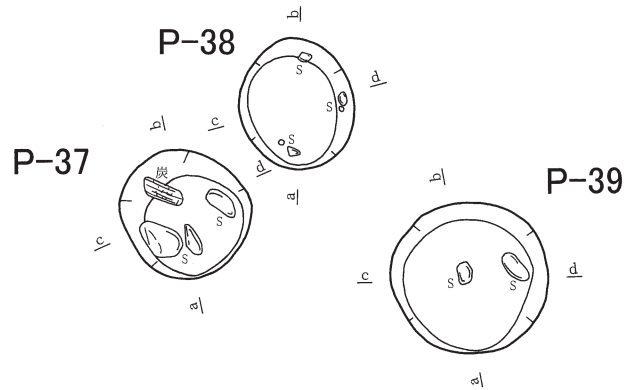


図III-46 土坑(7)P-33~36



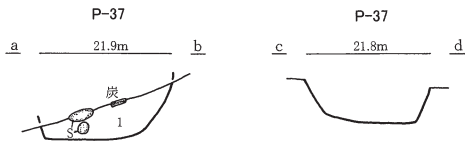
P-38

1 暗褐色(10YR 3/3) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。



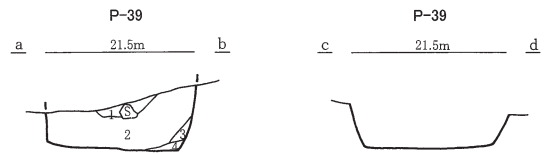
I16

I17



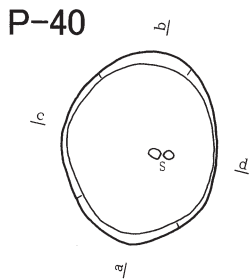
P-37

1 暗褐色(10YR 3/3) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。

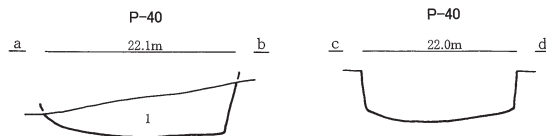


P-39

1 褐色(10YR 4/4) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 2 暗褐色(10YR 3/3) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 3 暗灰黄色(2.5YR 4/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 4 暗褐色(10YR 1/3) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
 φ0.5~2cm VI層ブロック状に混入。



I16

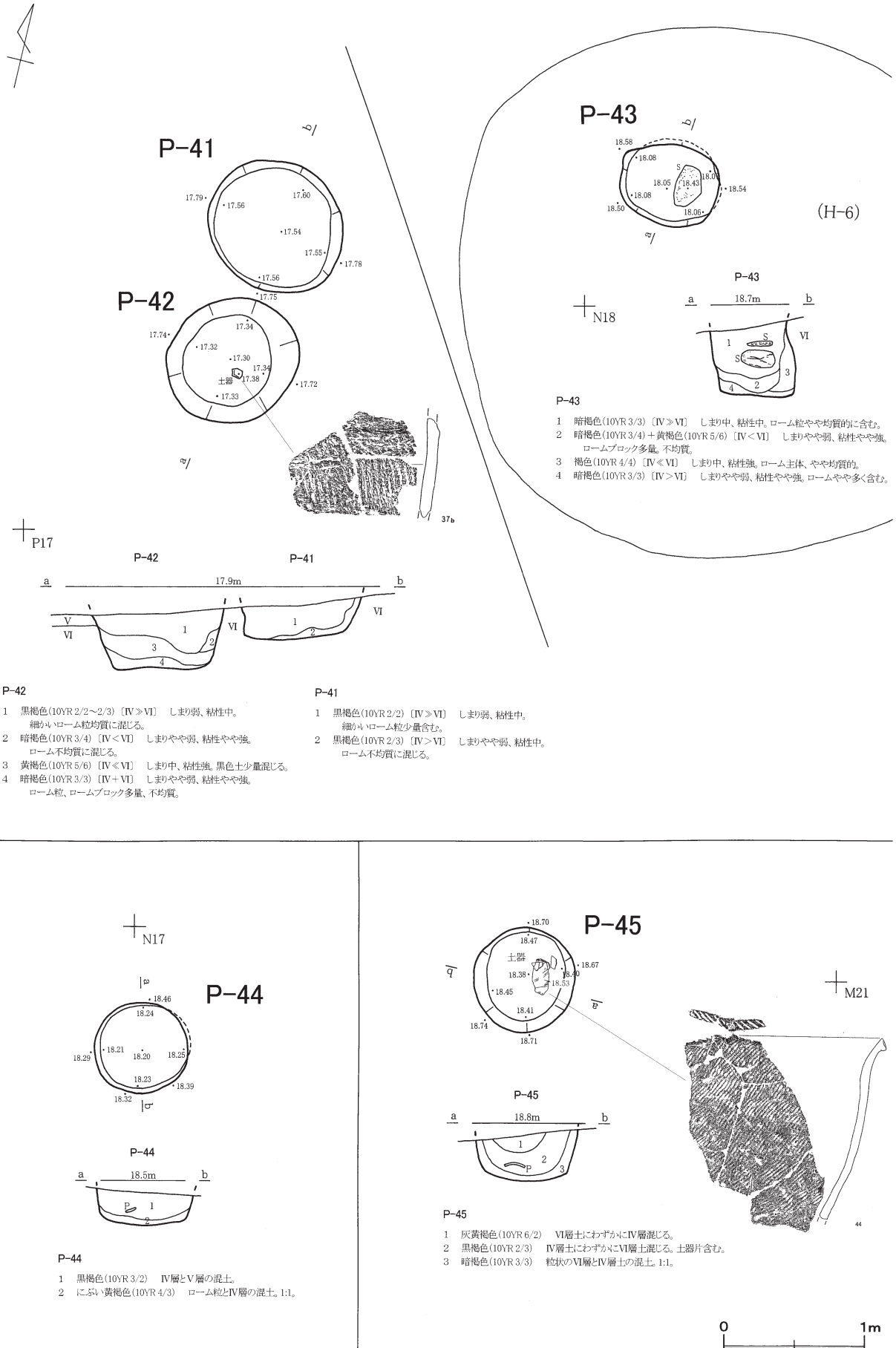


P-40

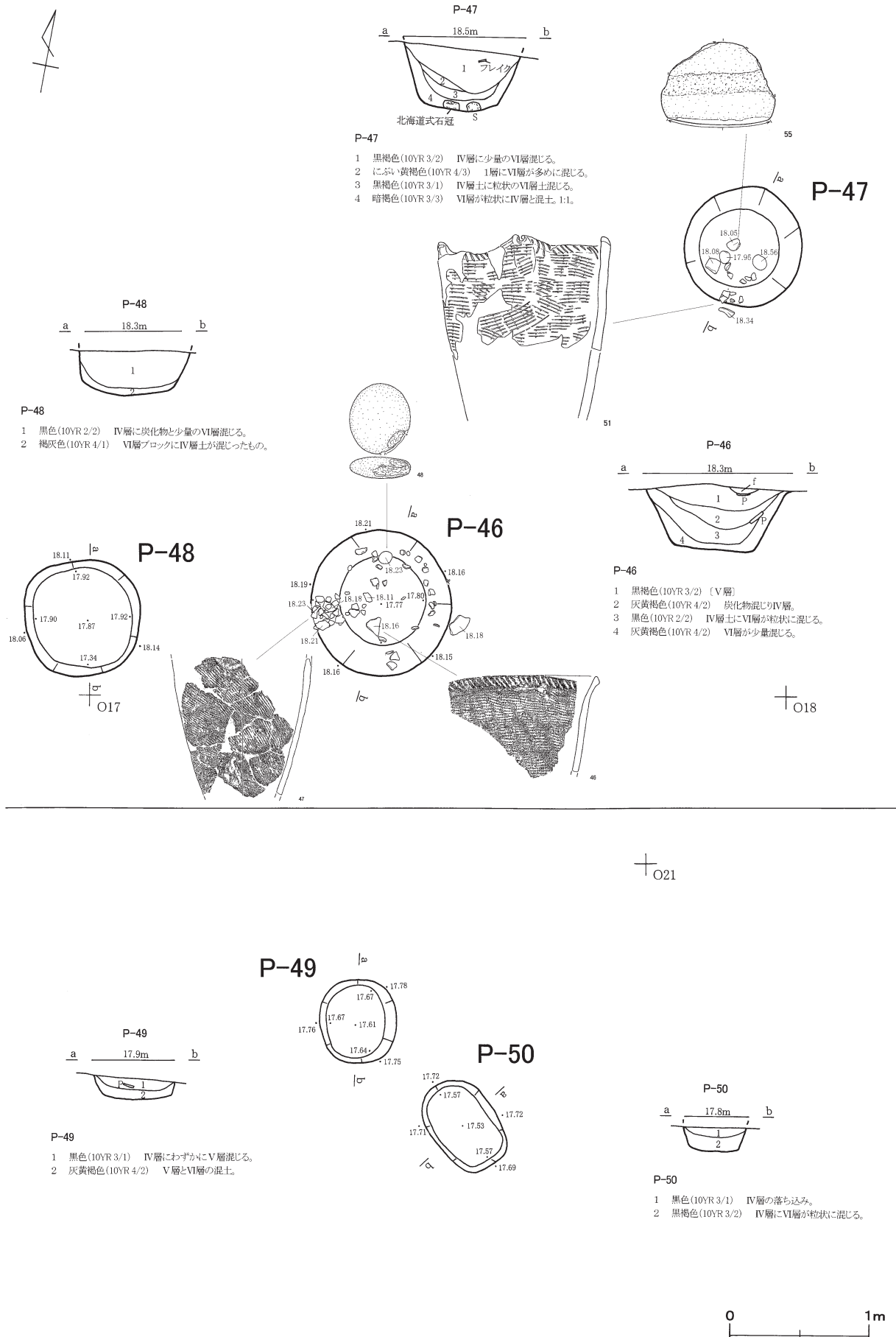
1 黒色(10YR 2/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。



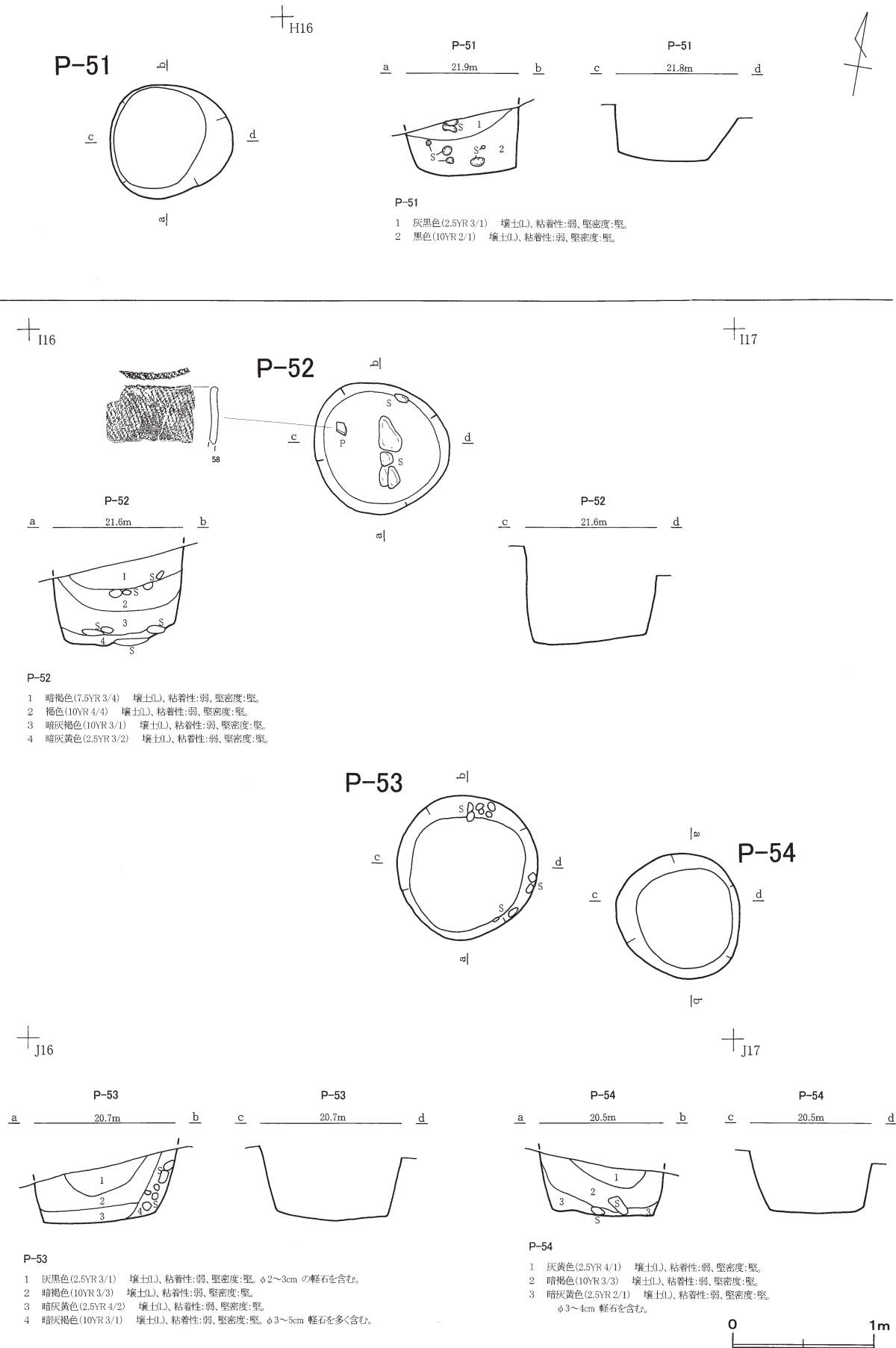
図III-47 土坑(8)P-37~40



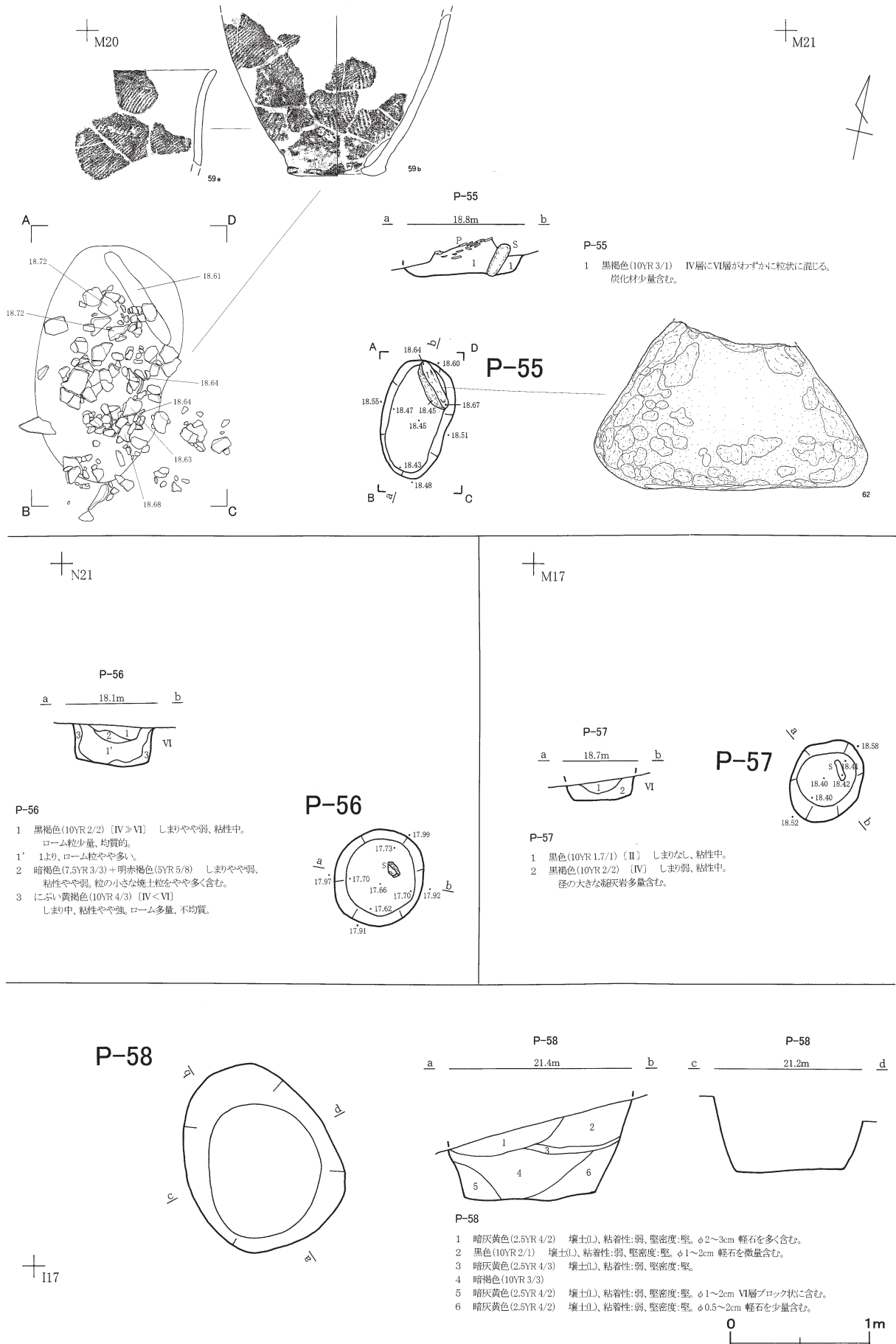
図III-48 土坑(9)P-41~45



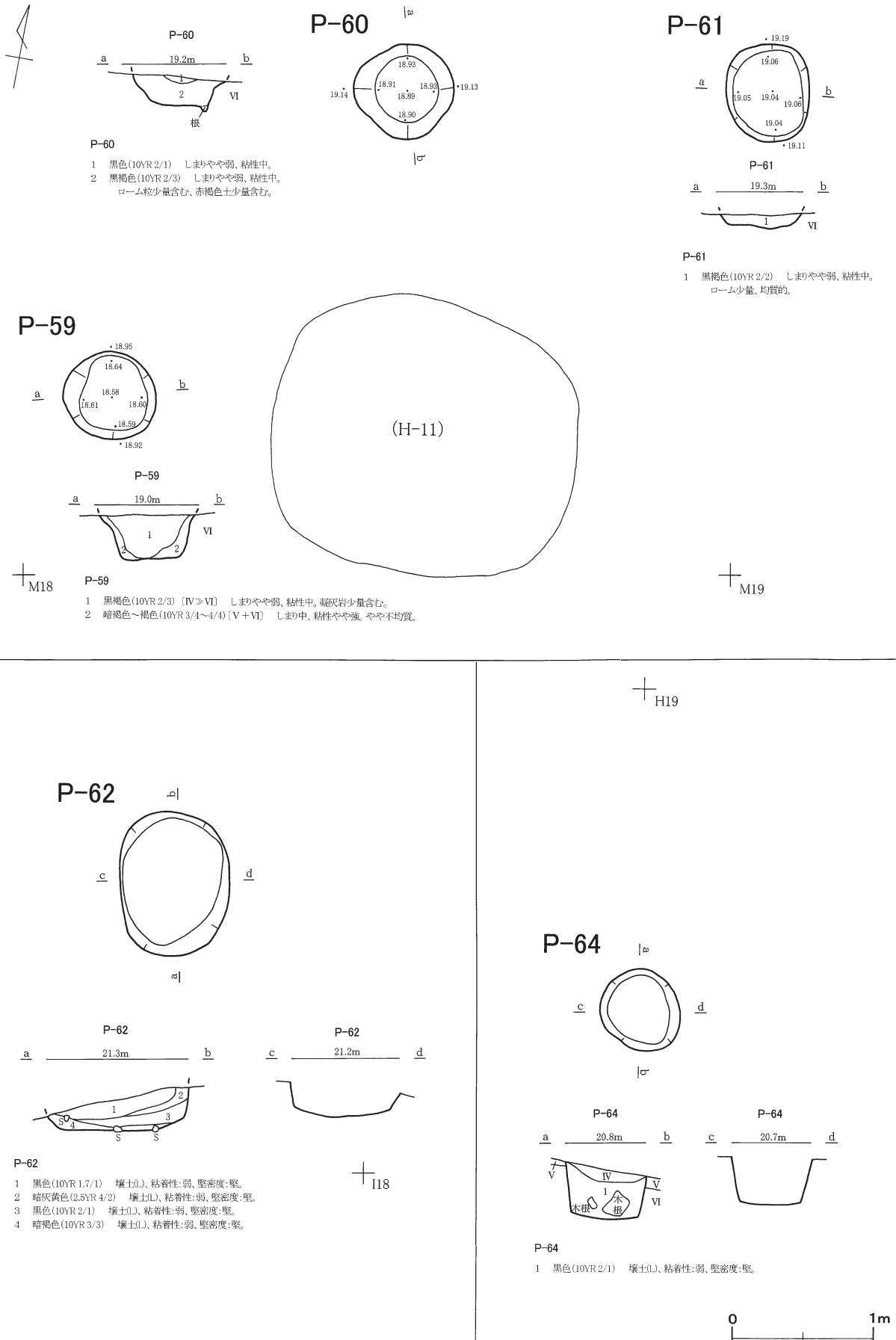
図III-49 土坑(10)P-46~50



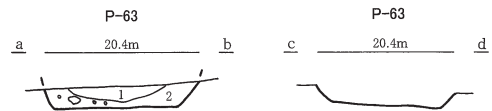
図III-50 土坑(11)P-51~54



図III-51 土坑(12)P-55~58

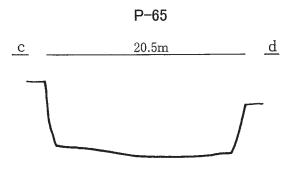
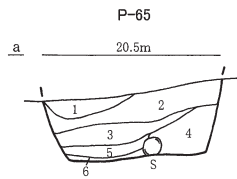
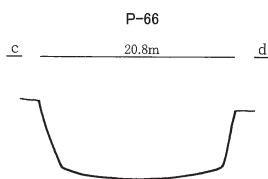
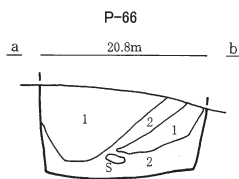
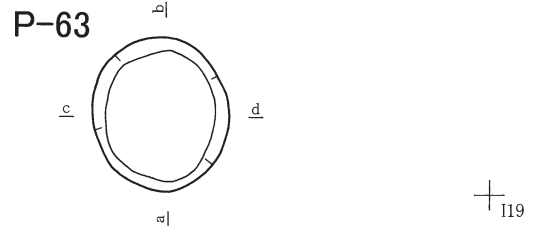
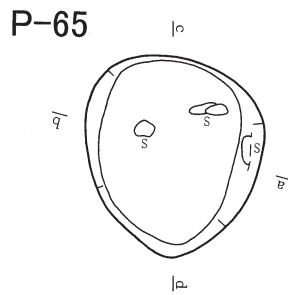
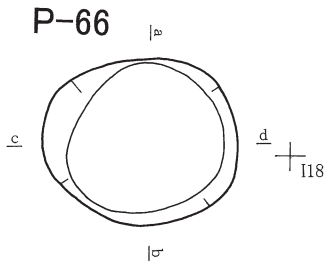


図Ⅲ-52 土坑(13)P-59~62・64



P-63

- 1 黒色(10YR 2/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
- 2 黒色(10YR 2/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
φ1~2cmの軽石粒を少量含む。



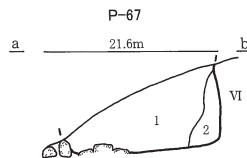
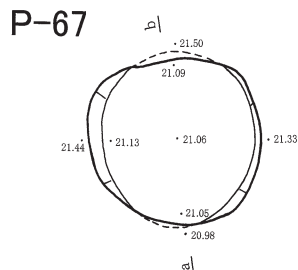
P-66

- 1 黒色(10YR 2/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
- 2 黒色(10YR 2/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。φ1~3cmの軽石を含む。

P-65

- 1 黒色(10YR 2/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
- 2 暗褐色(7.5YR 3/4) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。φ2~3cmの軽石を少量含む。
- 3 暗黄褐色(2.5YR 3/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。φ2~3cmの軽石を微量含む。
- 4 暗灰黄色(2.5YR 4/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。
- 5 暗灰黄色(2.5YR 4/2) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。φ2~6cmの軽石をわずかに含む。
- 6 褐灰色(10YR 4/1) 壤土(L)、粘着性:弱、堅密度:堅。

調査区境

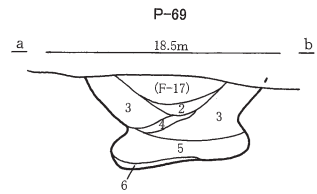
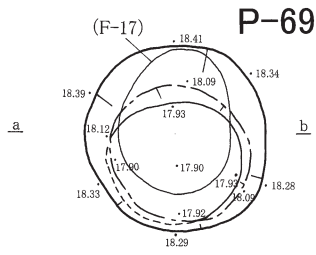


P-67

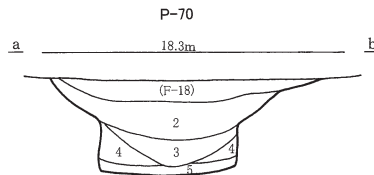
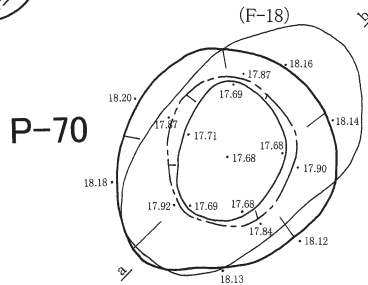
- 1 黒褐色(10YR 2/2) [IV>VI] しまり弱、粘性やや強、凝灰岩少量含む。
- 2 暗褐色~褐色(10YR 3/4~4/4) [IV<VI] しまりやや弱、粘性強、不均質。



図III-53 土坑(14)P-63・65~67



- P-69
- 1 [F-17]
 - 2 黒色(10YR 2/1) VI層土を少量含むIV層土。
 - 3 黒褐色(10YR 3/2) IV層とV層の混土。
 - 4 暗褐色(10YR 3/3) 3層よりV層が多い。
 - 5 灰黄褐色(10YR 4/2) VI層とV層が粒状に混じる。
 - 6 黒色(10YR 3/1) IV層土の堆積。



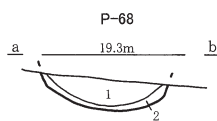
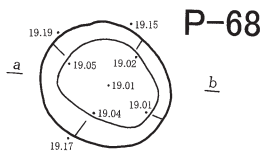
- P-70
- 1 [F-18]
 - 2 黒色(10YR 2/1) IV層土、少量の焼土混じる。
 - 3 暗褐色(10YR 3/3) IV層とV・VI層の混土、2:1:1。
 - 4 黒褐色(10YR 3/2) [IV]+にぶい黄褐色(10YR 4/3) [VI] IV層とVI層が交互に堆積する。
 - 5 黒色(10YR 3/1) IV層にブロック状にVI層が混じる。

N20

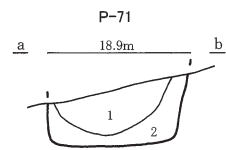
N21

K21

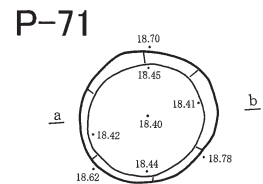
L17



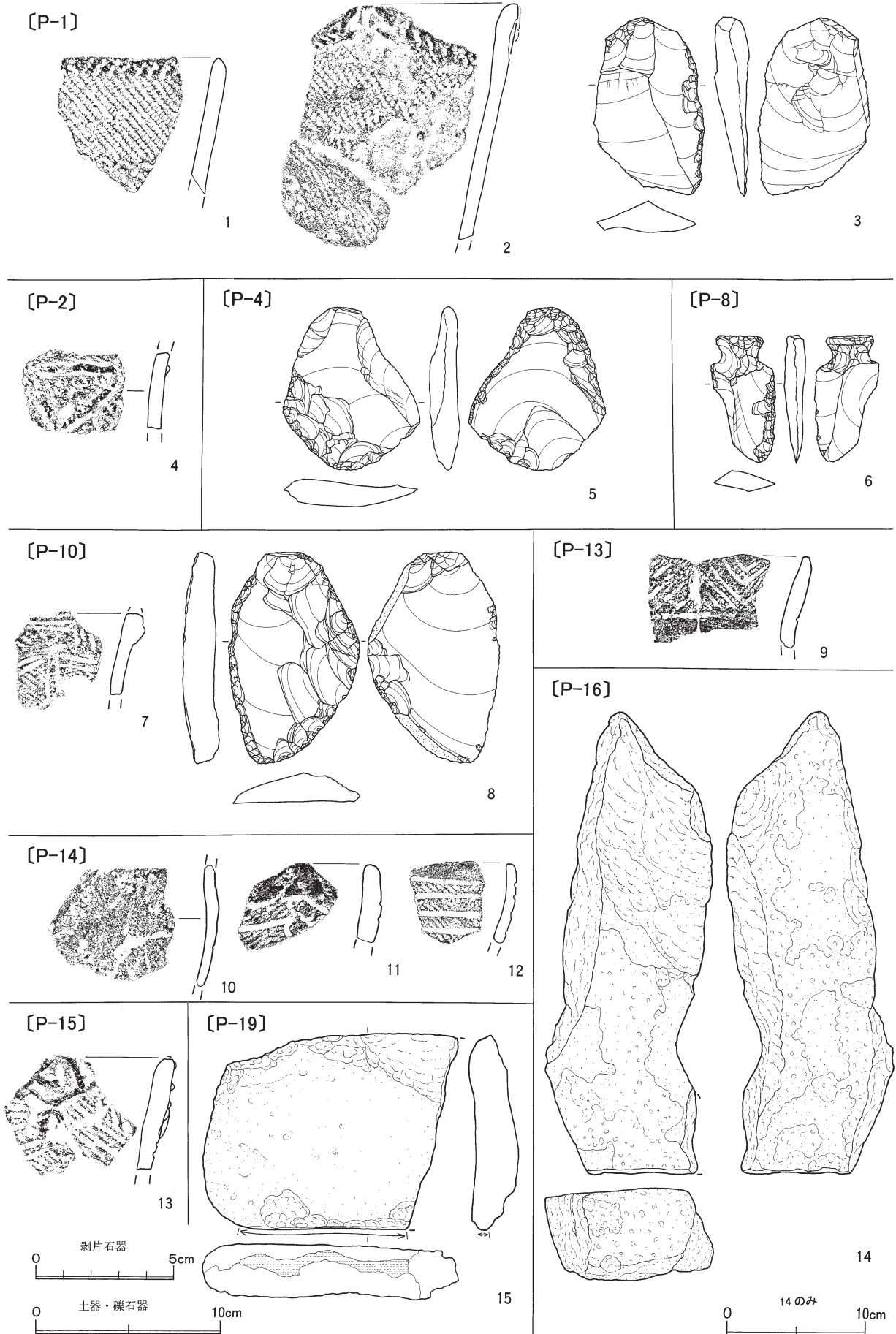
- P-68
- 1 黒色(10YR 2/1) IV層にわずかにVI層混じる。
 - 2 暗褐色(10YR 3/4) V層に少量のIV層混じる。



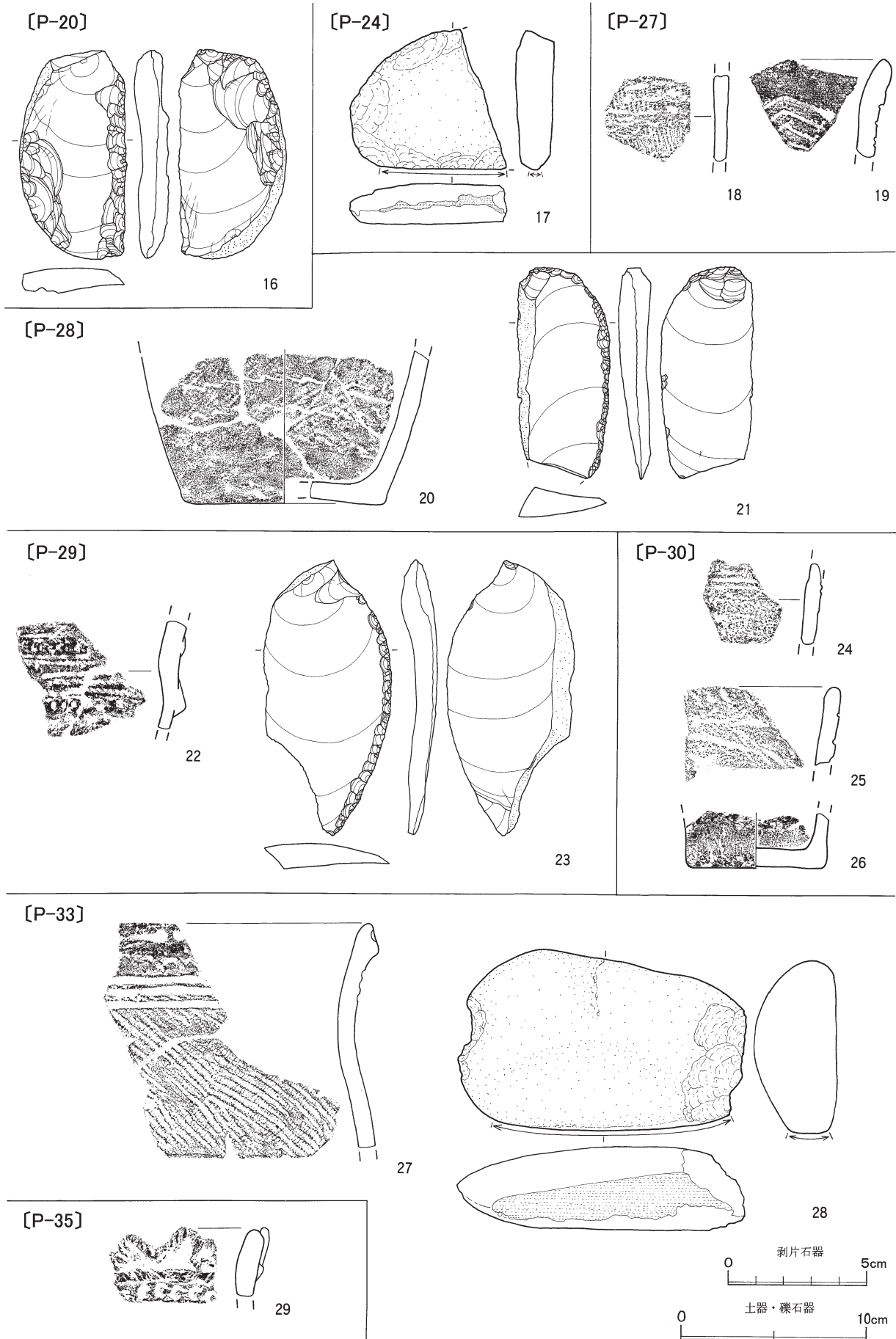
- P-71
- 1 黒色(10YR 3/1) IV層土+V層土に粒状の泥岩粒混じる。
 - 2 黒色(10YR 2/1) IV層土に少量の粒状の泥岩粒混じる。



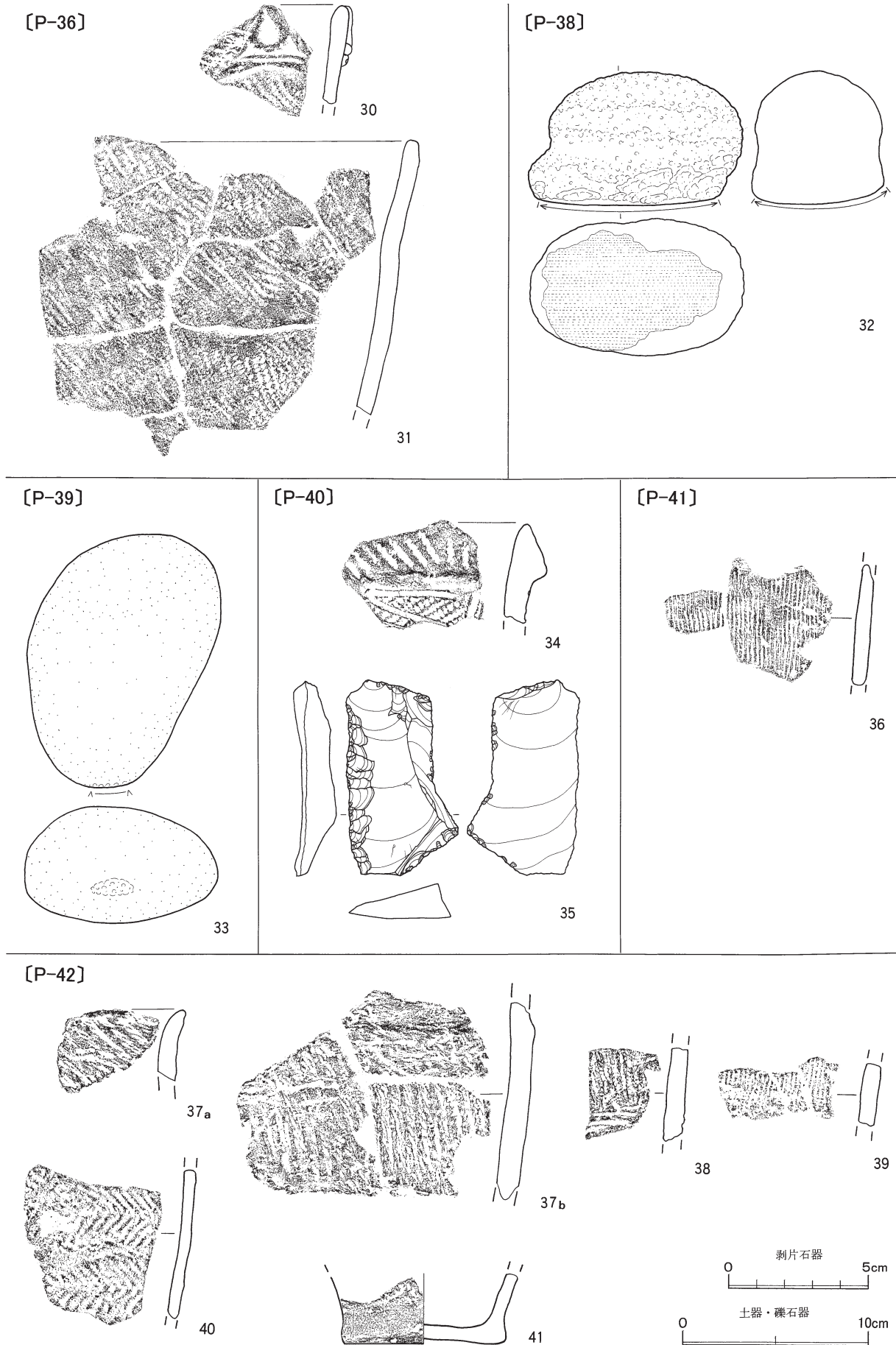
図III-54 土坑(15)P-68~71



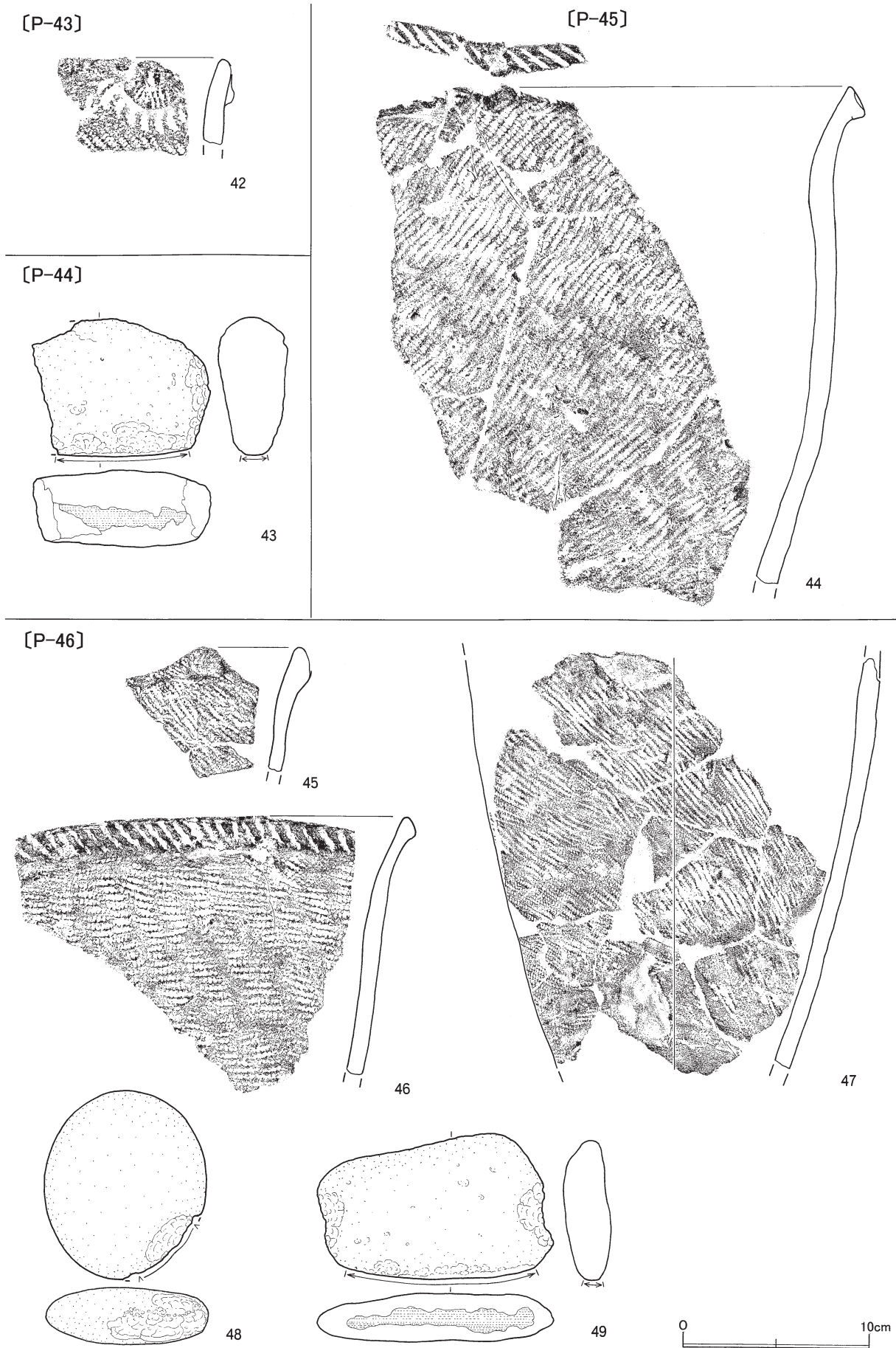
図III-55 土坑出土の遺物(1)



図Ⅲ-56 土坑出土の遺物(2)

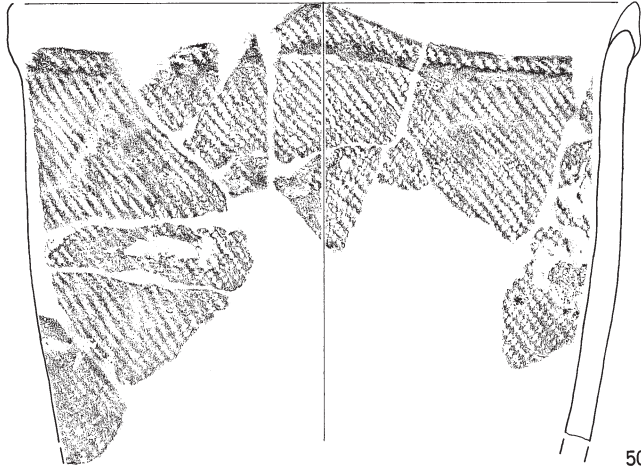


図III-57 土坑出土の遺物(3)

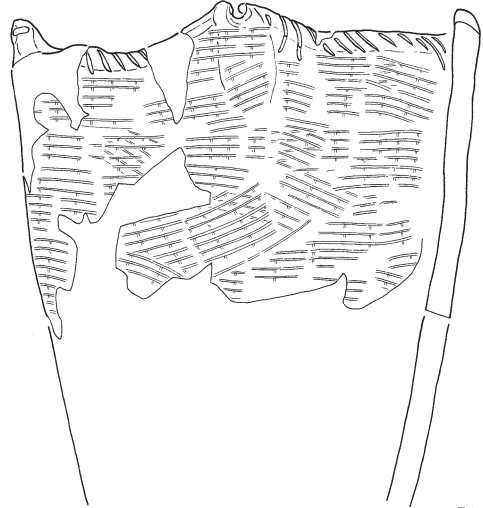


図Ⅲ-58 土坑出土の遺物(4)

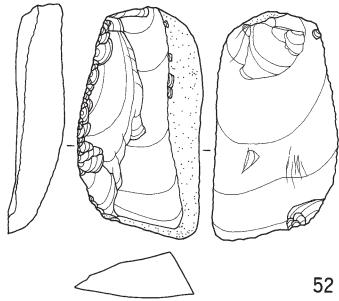
[P-47]



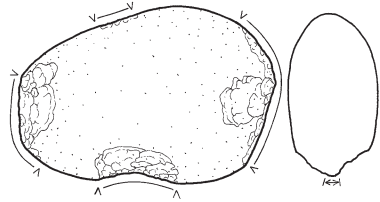
50



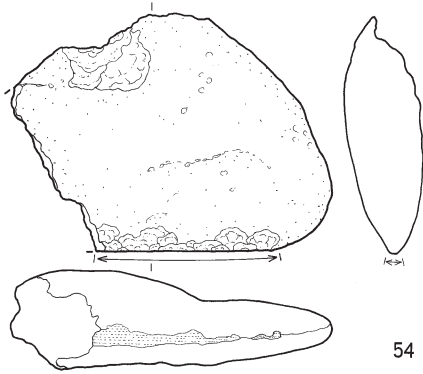
51



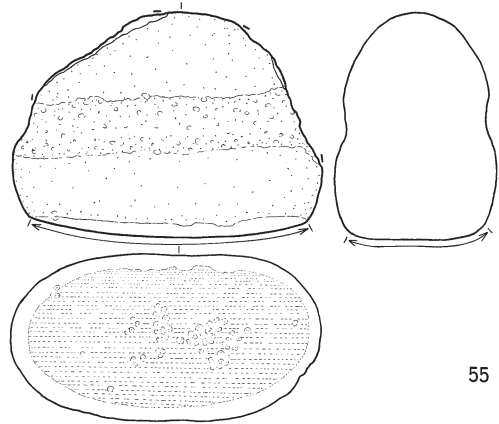
52



53

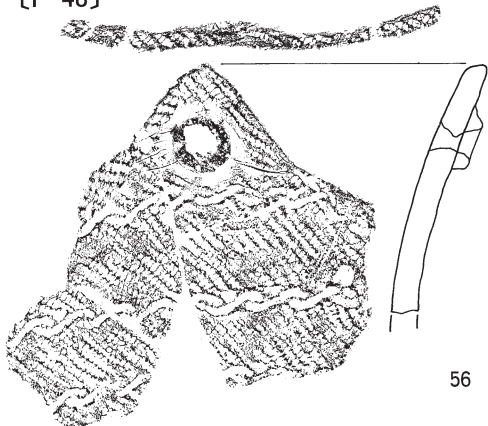


54



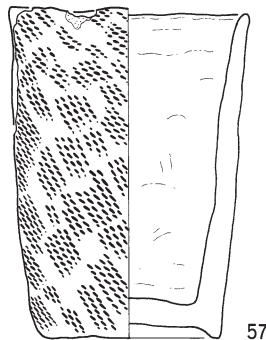
55

[P-48]



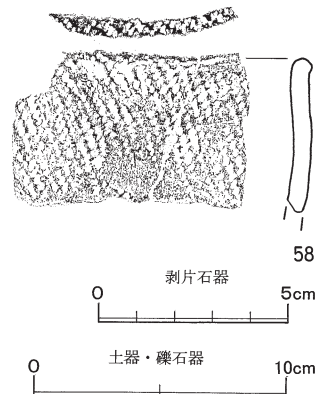
56

[P-50]



57

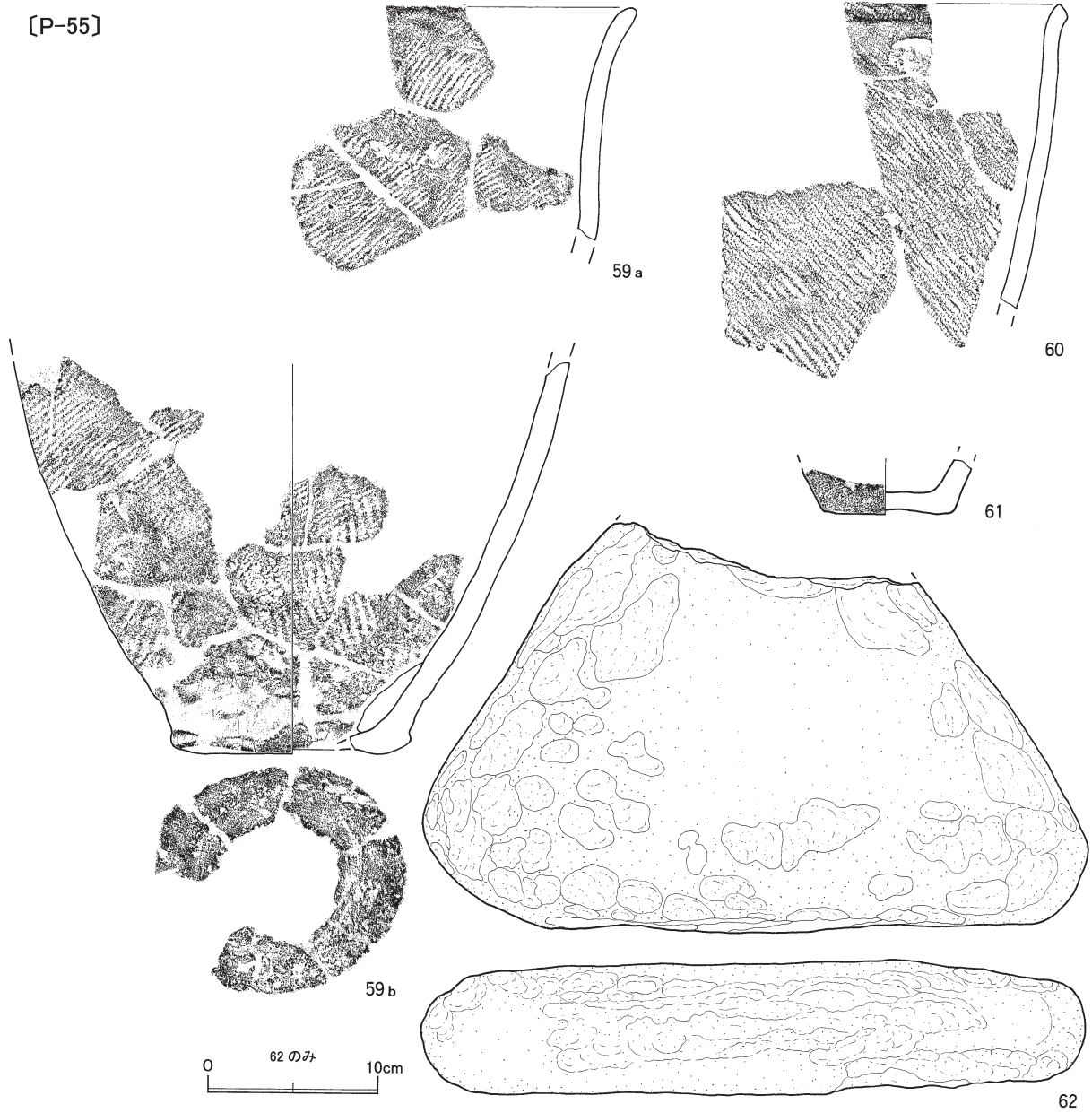
[P-52]



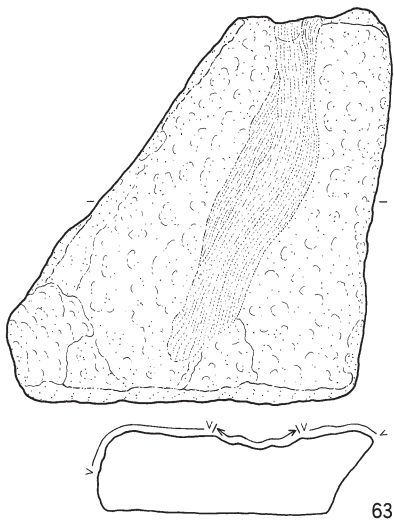
58

図III-59 土坑出土の遺物(5)

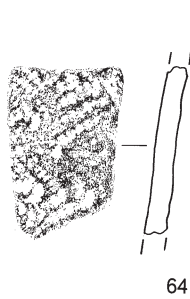
[P-55]



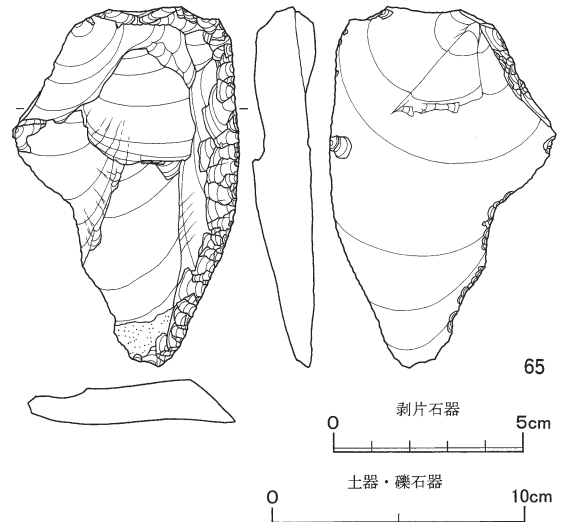
[P-56]



[P-66]



[P-70]



図Ⅲ-60 土坑出土の遺物(6)

3 柱穴状小土坑

SP-1 [図III-61]

位置：K16区

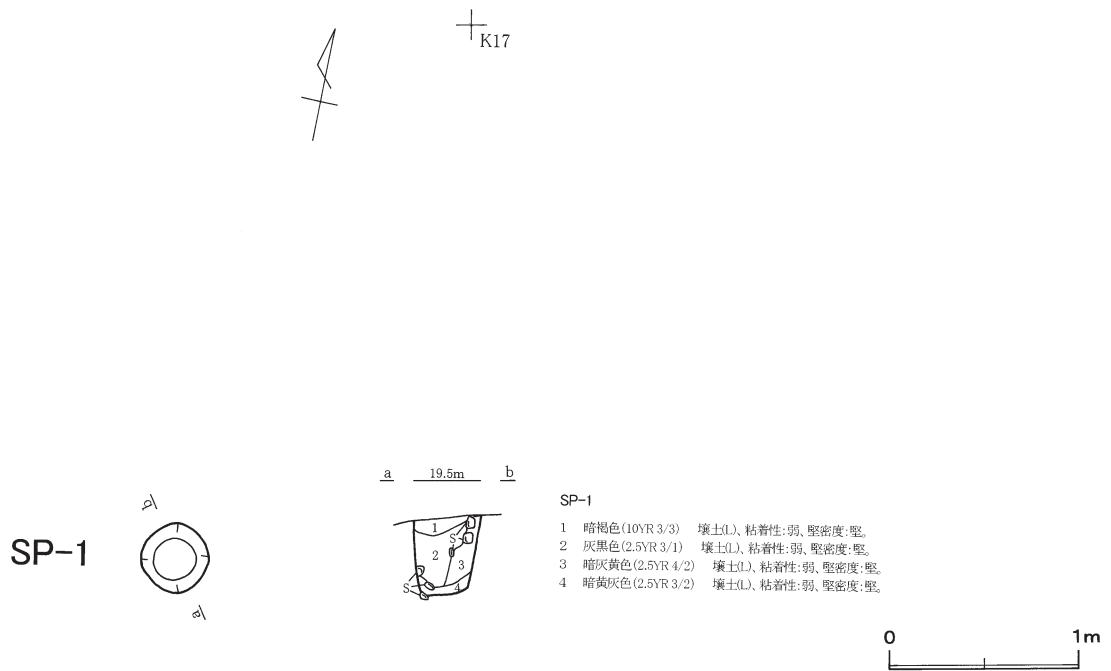
平面形：円形

規模：37×36/22×22/41cm

調査・特徴：包含層調査中に暗褐色土のまとまりを検出した。土層の堆積を観察するため半割して調査した。土層断面から壁の立ち上がりを確認し、覆土1・2の横に落ち込む覆土3の堆積状況から、覆土1・2を木柱跡と判断し、遺構と認定した。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から判断すると、縄文時代中期に所属すると考えられる。

(富永)



図III-61 柱穴状小土坑 SP-1

4 焼土

F-1 [図III-62、図版33]

位置：P21区 規模：97×44／6cm

調査・特徴：遺物集中1周辺のIV層中で検出した。平面形は楕円形で、断面形は皿状である。被熱層は比較的明瞭で、周縁部は漸遷する。

遺物出土状況：焼土中からフレイク1点が出土した。

時期：遺物集中1に関連し、縄文時代中期前半とみられる。

F-2 [図III-62、図版33]

位置：P21・22区 規模：73×65／13cm

調査・特徴：遺物集中1の範囲内を調査中、IV層上面で検出した。平面形はおおむね楕円形で、断面形はレンズ状である。被熱層は比較的明瞭だが、III層の暗褐色土との境界が不明瞭である。赤褐色の焼土粒が散見される。

遺物出土状況：焼土中からIII群a類土器3点・礫4点が出土した。いずれも小片である。

時期：遺物集中1に関連し、縄文時代中期前半とみられる。

F-3 [図III-62、図版33]

位置：R14区 規模：48×45／16cm

調査・特徴：H-3の覆土を掘り下げ中に検出した。平面形は円形で、断面は中央部西側が厚みを増す。被熱層は明瞭で、おおむね均質的である。半截後さらにH-3の覆土を掘り下げたところ、床面で黒色土の落ち込みを検出した。調査の結果、当焼土はH-3の覆土から掘りこまれた土坑(P-3)に形成されたものと判明した。

遺物出土状況：焼土中からIII群a類土器4点・フレイク(めのう)1点・礫6点が出土した。

重複・時期：H-3およびP-3と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期前半以降である。

F-4 [図III-62]

位置：R14区 規模：48×46／17cm

調査・特徴：H-3の覆土を床面付近まで掘り下げたところで黒色土のまとまりを検出し、その内側で焼土を検出した。平面形は円形で、断面形はレンズ状である。被熱層は中心部が明るく、その周囲はやや暗色である。さらに黒色土を掘り下げたところ、当焼土はH-3の覆土から掘りこまれた土坑(P-4)に形成されたものと判明した。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(III章8)。

遺物出土状況：焼土中からIII群a類土器1点・フレイク1点・礫7点が出土した。いずれも小片である。

重複・時期：H-3およびP-4と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期前半以降である。

(阿部)

F-5 [図III-63、図版33]

位置：P20区 規模：90×52／5cm

調査・特徴：IV層上面で大小2つのまとまりの焼土を検出した。平面形はそれぞれおおむね楕円形で、断面は薄いレンズ状である。被熱層は漸遷しておりやや不明瞭で、III層の暗褐色土との境界も不明瞭

である。

時期：検出層位から、縄文時代中期前半と思われる。

F-6〔図Ⅲ-63、図版17〕

位置：Q14・15区 規模：64×44/15cm

調査・特徴：P-2調査中に、土坑内に落ち込むⅢ・Ⅳ層間で検出した焼土。平面形は楕円形で、焼土の脇から下部にかけて泥岩製の細かい川砂利を多く含むⅣ層が堆積していた。土坑の窪みを利用した焼土だが、火を起こす前に川砂利を入れた可能性がある。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器1点・礫16点が出土した。

時期：検出層位から、縄文時代中期前半と思われる。

(土肥)

F-7〔図Ⅲ-63、図版33〕

位置：P24区 規模：153×131/12cm

調査・特徴：V層で検出した大型の焼土。平面形は不整形で、数か所の焼土がまとまった状況である。断面形はレンズ状のものが連結している。被熱層は明度が非常に高い。周辺のⅣ層は薄く、Ⅲ層は厚い暗赤褐色土が堆積しており、境界がやや不明瞭である。

時期：不明である。

F-8〔図Ⅲ-63・66、図版33・61〕

位置：Q15区 規模：211×140/22cm

調査・特徴：H-5覆土中で広い範囲に検出した。平面形はやや不整形である。被熱層はH-5の覆土に沿って椀状であり、厚さは20cmを超える。全体的に赤褐色を呈しており、強く被熱していることがうかがえる。周縁部はやや暗色である。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群b類土器53点・扁平打製石器1点・フレイク8点・礫34点が出土した。

掲載遺物：1はⅢ群b類と思われる。ただし口縁が外反し口縁下で屈曲し、底部は外に張り出すなど、器形はⅢ群a類のものに近い。口縁部に2条の縄線が押捺され、波頂部突起の縄線が直交する。口縁～胴上半に沈線による方形区画と推測される文様の一部がみられる。2はⅢ群b類。貼付帯より上位の無文帯に2条の縄線が押捺されている。図Ⅳ-17の120と同一個体である。

重複・時期：H-5およびP-14と重複し、当遺構の方がH-5より新しくP-14より古い。出土土器から、縄文時代中期後半とみられる。

F-9〔図Ⅲ-64、図版20〕

位置：P15・16区 規模：53×41/20cm

調査・特徴：Ⅳ層の掘り下げ中に検出した。平面形はやや不整形で、被熱層は北側が薄く南側が厚い。半截後さらにⅣ層を掘り下げたところ、Ⅵ層で黒色土の落ち込みを検出した。調査の結果、当焼土はP-16の北寄りの覆土上に形成されたものと判明した。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器4点・Ⅳ群a類土器2点が出土した。

時期：P-16の時期や出土土器から、縄文時代中期前半とみられる。

F-10 [図Ⅲ-64、図版21]

位置：Q17区 規模：79×75／20cm

調査・特徴：IV層の掘り下げ中に検出した。平面形は円形で、被熱層は東側が薄く中央～西側が厚い。中央部は明度が高く、強く被熱していることがうかがえる。周縁部はやや暗色である。さらに焼土下および周辺の黒色土の落ち込みを半截した結果、当焼土はP-19の東寄りの覆土上（一部覆土外）に形成されたものと判明した。

遺物出土状況：焼土中からⅡ群b類土器2点が出土した。

重複・時期：P-19と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期半ば～後期前葉である。

F-11 [図Ⅲ-64、図版21]

位置：Q17区 規模：47×45／11cm

調査・特徴：IV層の掘り下げ中にF-10の南東側で検出した。平面形は円形で、断面形はレンズ状である。被熱層はやや暗色である。さらに焼土下および周辺の黒色土の落ち込みを半截した結果、当焼土はP-20の覆土上中央に形成されたものと判明した。

重複・時期：P-20と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期半ば～後期前葉である。

F-12 [図Ⅲ-64、図版33]

位置：Q16区 規模：50×42／3cm

調査・特徴：V層で検出した。平面形は楕円形で、断面形は薄いレンズ状である。被熱層の中央部は明度が高いが、やや黒色土が混じる。

時期：不明である。

F-13 [図Ⅲ-64、図版33]

位置：O15・16区 規模：80×53／6cm

調査・特徴：IV層の掘り下げ中に検出した。平面形は不整形で、断面形はやや波状を呈している。被熱層は明度が高いが、周縁部は漸遷し境界が不明瞭である。さらに焼土下および周辺の黒色土の落ち込みを半截した結果、当焼土はP-24の南西寄りの覆土上（一部覆土外）に形成されたものと判明した。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器4点・フレイク2点・礫4点が出土した。いずれも小片である。

重複・時期：P-24と重複し、当遺構が新しい。縄文時代前期後半以降である。

F-14 [図Ⅲ64、図版34]

位置：O16区 規模：60×36／9cm

調査・特徴：H-7の検出作業中に覆土上で確認した。平面形は不整形で、断面形はレンズ状である。被熱層は暗色で、境界が不明瞭である。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器3点・フレイク15点・礫13点が出土した。H-7の覆土に含まれていたものとみられる。

重複・時期：H-7と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期半ば～後期前葉である。

F-15 [図Ⅲ-64、図版34]

位置：O16区 規模：86×66／18cm

調査・特徴：H-7の検出作業中に覆土上で確認した。F-14の東側に位置する。平面形は不整形で、断面形はレンズ状である。被熱層は中央部が厚いがやや暗色で、周縁部は境界が不明瞭である。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器6点・Ⅲ群b類土器17点・Ⅳ群a類土器11点・フレイク4点・礫35点の計73点の遺物が出土した。ほとんどの遺物はH-7の覆土に含まれていたものとみられる。

重複・時期：H-7と重複し、当遺構が新しい。縄文時代中期半ば～後期前葉である。

(阿部)

F-16 [図Ⅲ-65・66、図版34・61]

位置：L19区

規模：166×(76)／19cm

調査・特徴：試掘で検出された縄文時代中期の堅穴住居H-1の覆土中で確認した焼土である。プランの半分近くは試掘穴で失われているが、標高の高い方ほど焼土は厚く堆積していた。全体的に赤褐色で、強く被熱していることがうかがえる。平面形は不整形だが、住居跡の窪みを利用した規模の大きい焼土とみられる。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器3点・扁平打製石器1点・フレイク2点・礫17点が出土した。

掲載遺物：3は扁平打製石器。安山岩製である。正面観は楕円形と半円形の間隔的な形状で、右側1／3程度を欠き、裏面の大部分が剥落している。長軸端部の打ち欠きは見られないが、頂部は連続した打ち欠きがみられる。

重複・時期：縄文時代中期のH-1に流れ込むⅣ層起源の黒色土層中にあり、覆土上に広がる縄文時代後期前・中葉の遺物集中よりも古いため、縄文時代中期中葉の焼土とみられる。

F-17 [図Ⅲ-65・66、図版34・61]

位置：M21区

規模：78×59／15cm

調査・特徴：V層で検出した縄文時代中期の土坑P-69のプラン中央に重なって見つかった焼土である。土坑の窪みを利用した焼土で、覆土上部に落ち込むⅣ層上が被熱したものである。平面は楕円形で、焼土中央の厚さは15cmである。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。検出した種子の同定を委託したところ、スゲ属1点が同定された(V章2)。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器5点・フレイク1点・礫17点が出土した。

掲載遺物：4はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。縦位および斜行する沈線がみられる。

重複・時期：P-69より新しいが、土坑との時期差は少ない縄文時代中期のものとみられる。

F-18 [図Ⅲ-65・66、図版34・61]

位置：M21区

規模：150×90／11cm

調査・特徴：V層で検出した縄文時代中期の土坑P-69のプラン中央に重なって見つかった焼土である。土坑の窪みを利用した焼土で、覆土上部に落ち込むⅣ層上が被熱したものである。平面は長楕円形で、焼土中央の厚さは11cmである。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。検出した種子の同定を委託したところ、カヤツリグサ科1点が同定された(V章2)。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器3点・たたき石1点・フレイク6点・礫2点が出土した。

掲載遺物：5はⅢ群a類。口唇上に縄文圧痕が2条みられる。6はたたき石。頁岩の楕円礫が利用されており、表面に光沢がある。長軸・短軸それぞれ両端に敲打痕がある。

重複・時期：P-70より新しいが、土坑との時期差は少ない縄文時代中期のものとみられる。

(土肥)

F-19 [図Ⅲ-66、図版34]

位置：L・M17区 規模：98×44／4cm

調査・特徴：V層中で検出した。平面形は不整形で、被熱層の下端は波状である。全体的に暗色で、炭化物や焼土粒が散在する。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(Ⅲ章8)。

遺物出土状況：礫1点が出土した。

時期：不明である。

(阿部)

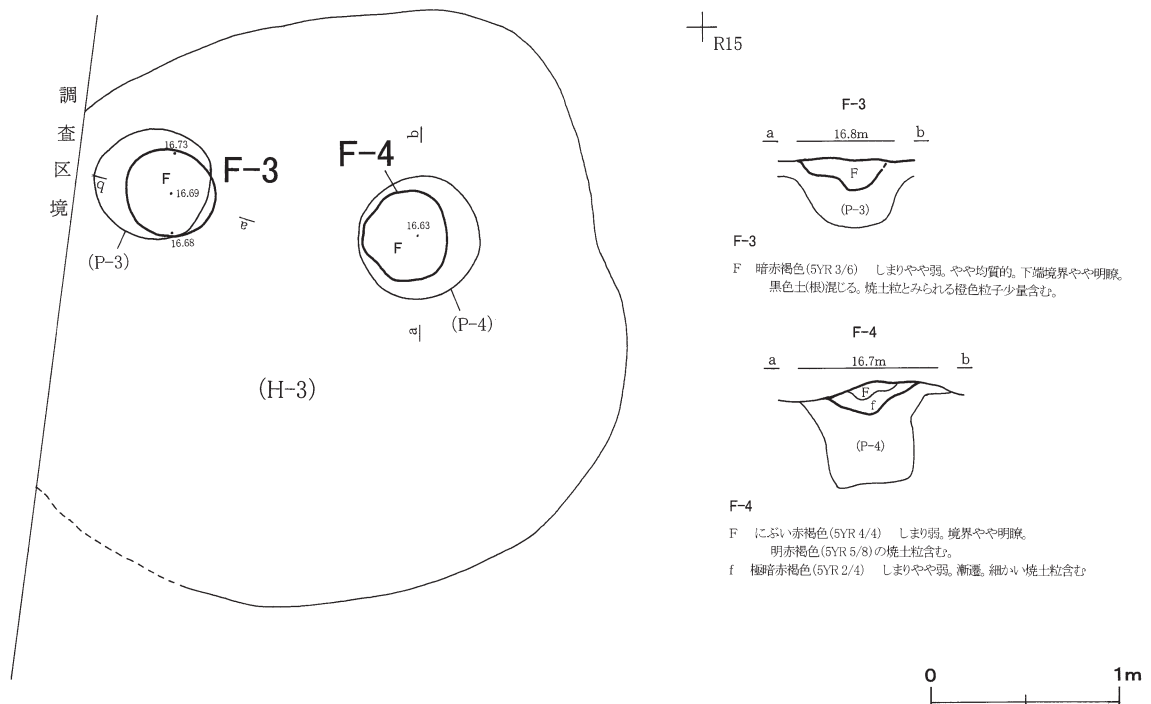
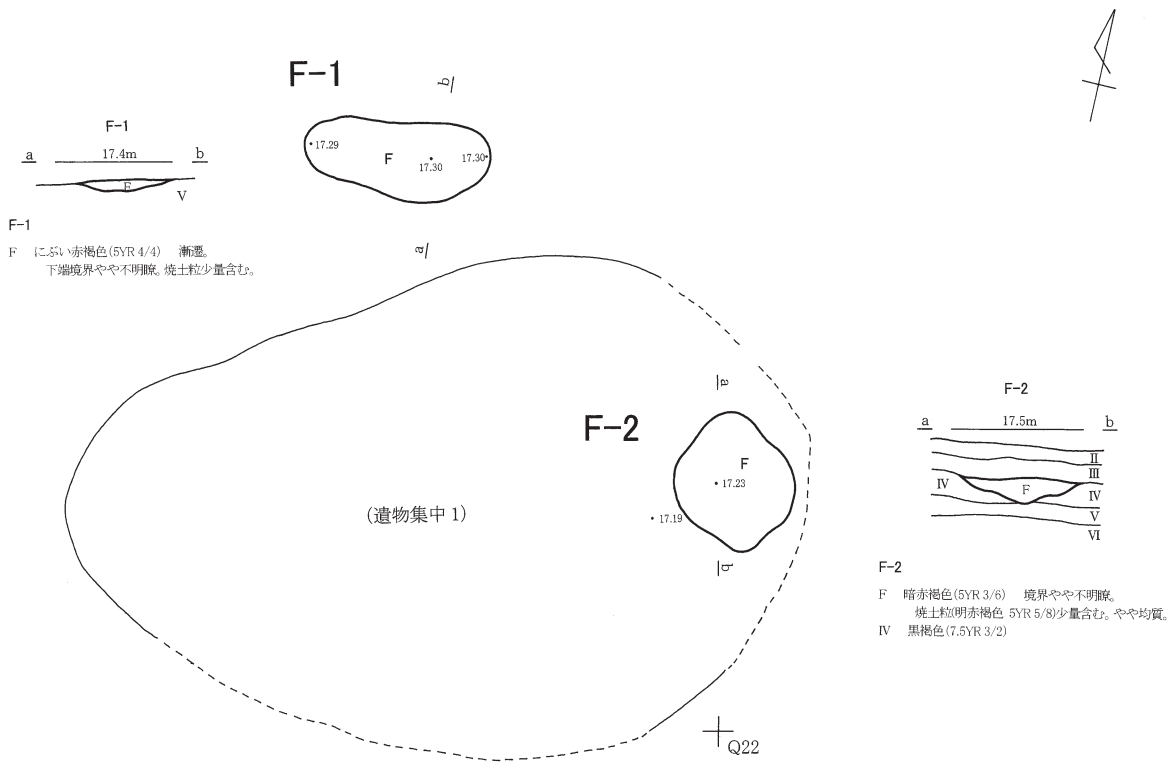
F-20 [図Ⅲ-66、図版34]

位置：I21区 規模：154×94／10cm

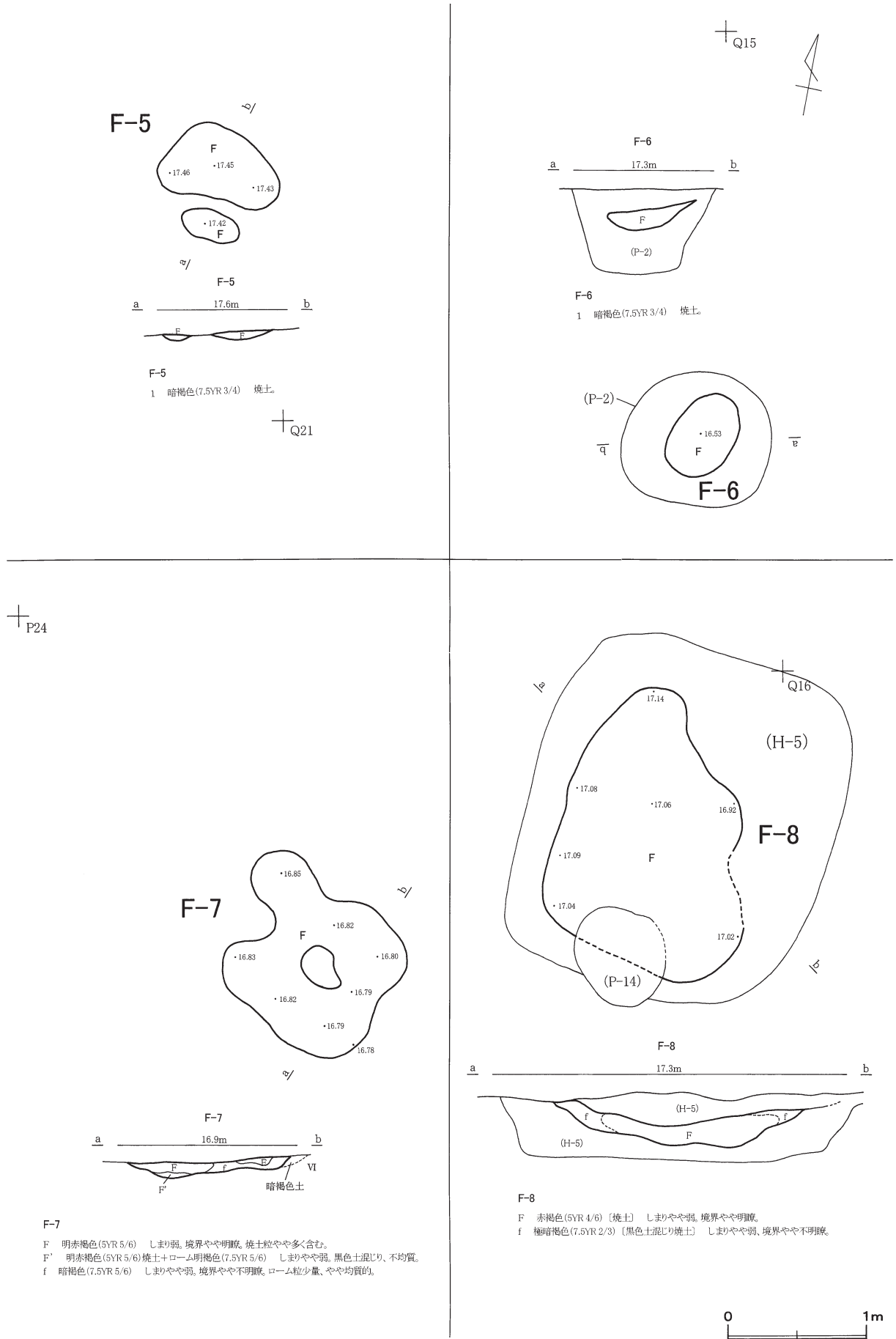
調査・特徴：試掘溝に隣接したV層上面で検出した。中央の赤橙色を囲んでドーナツ状に暗褐色土がみられる。炭化物や焼土粒が散在する。

時期：遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代中期に属するものと考えられる。

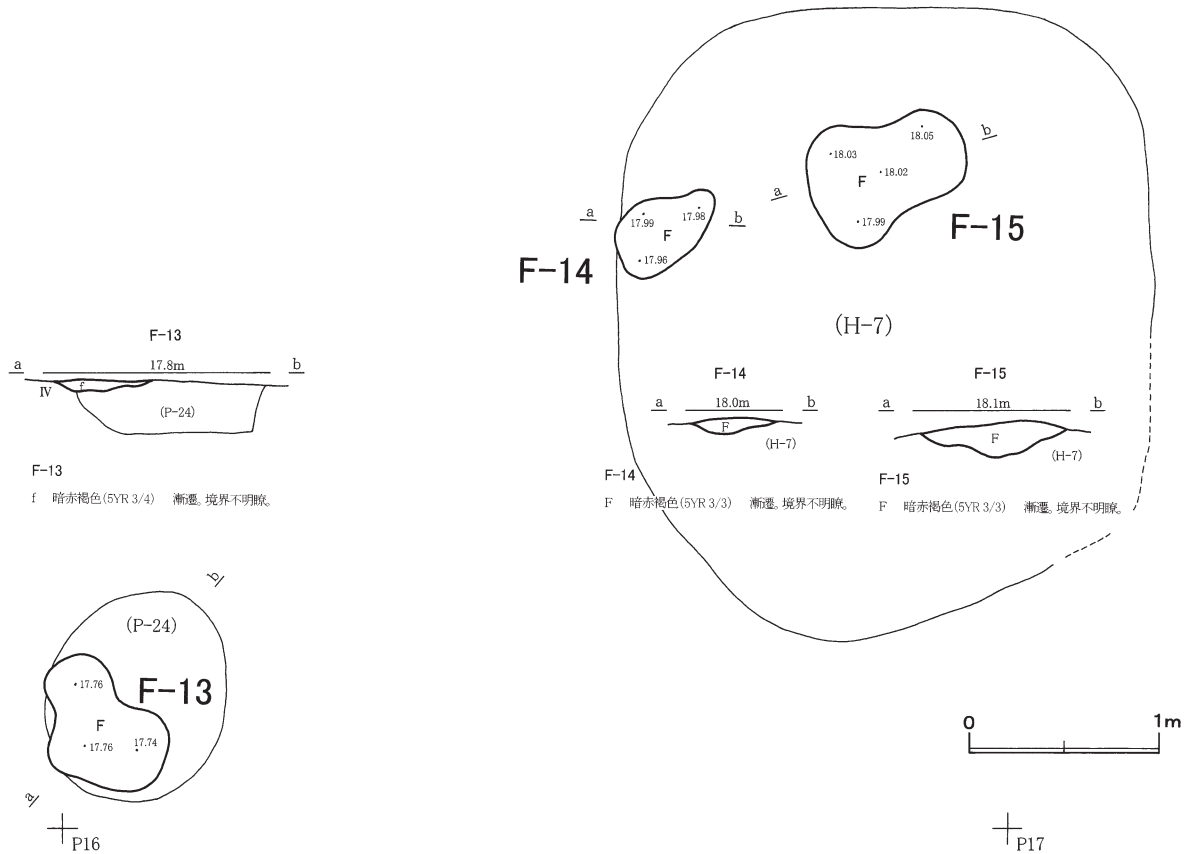
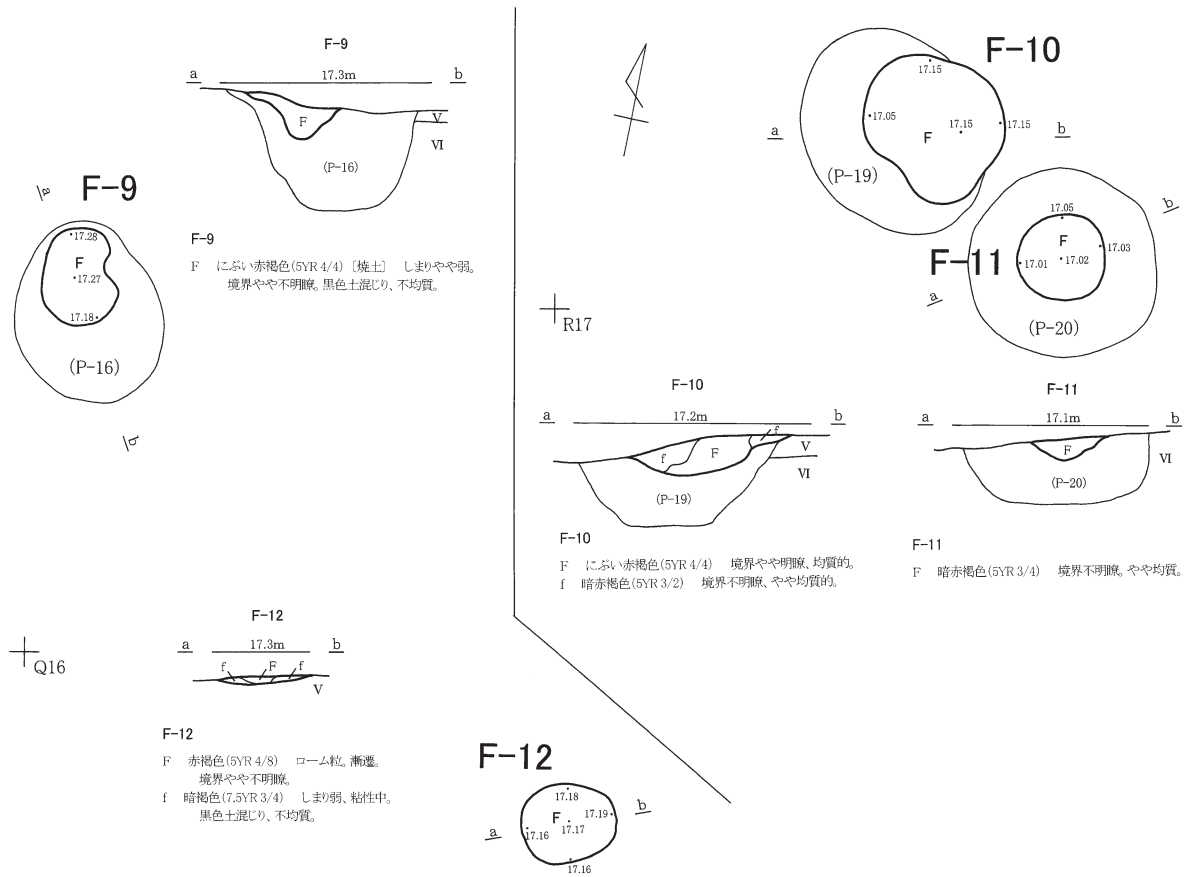
(富永)



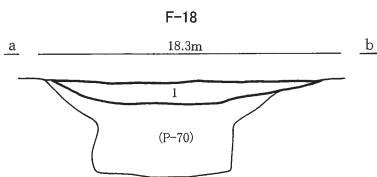
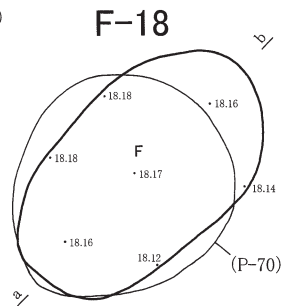
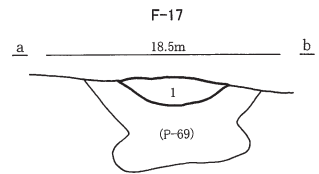
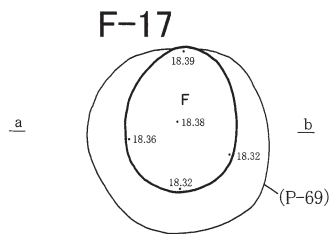
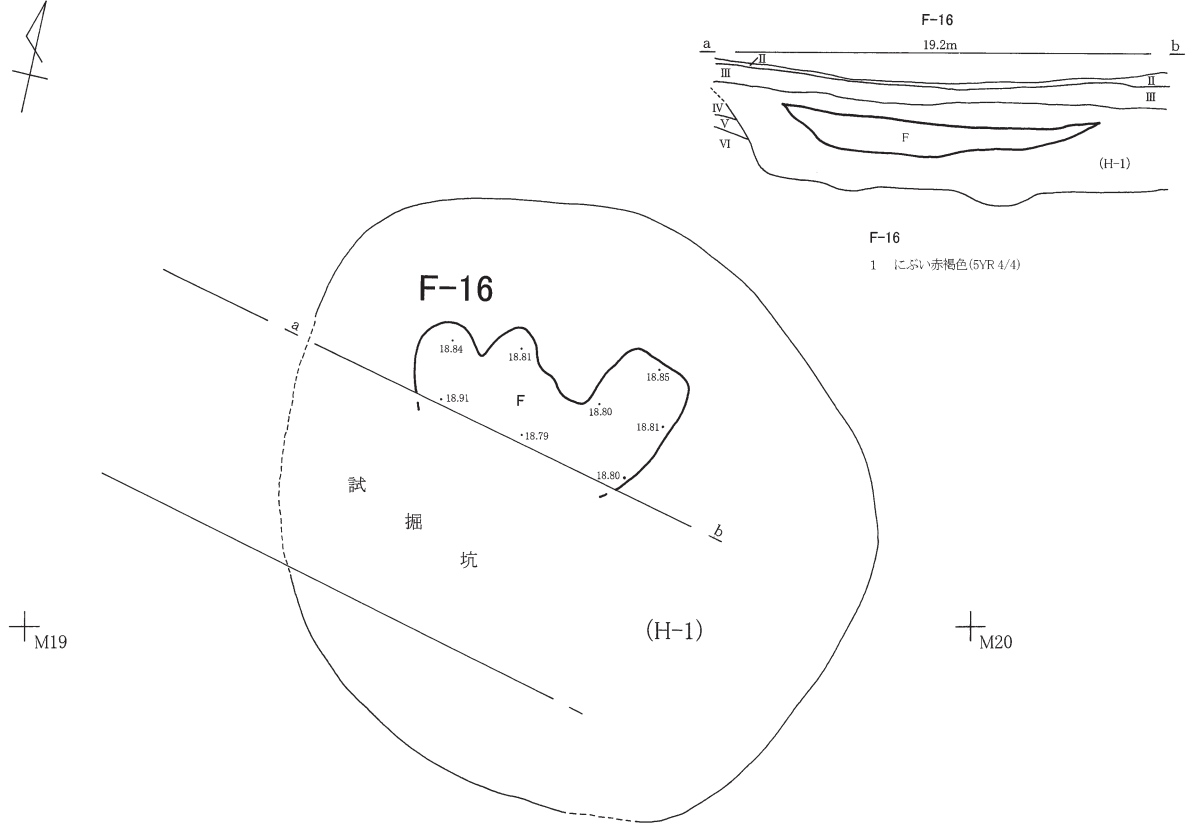
図III-62 焼土(1)F-1~4



図III-63 焼土(2)F-5~8



図III-64 焼土(3)F-9~15

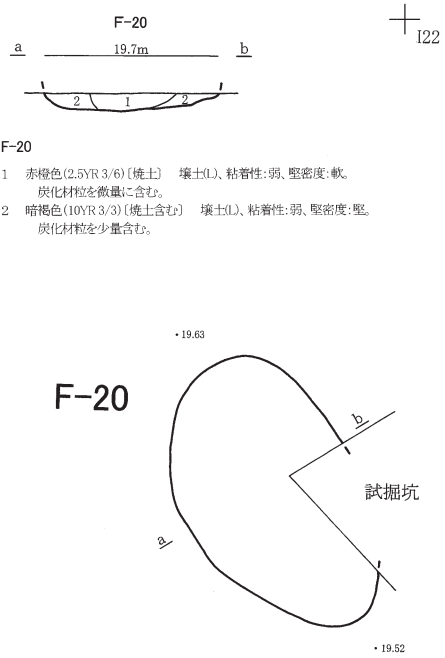
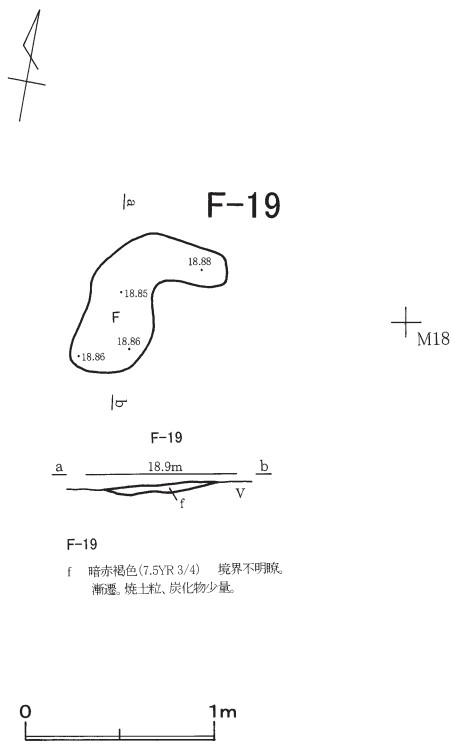


F-17
1 にぶい赤褐色(5YR 4/4) (焼土)

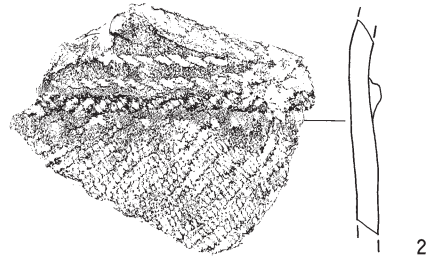
F-18
1 にぶい赤褐色(5YR 4/4) (焼土)



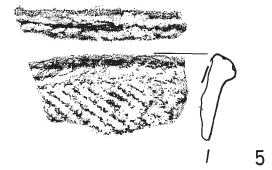
図Ⅲ-65 焼土(4)F-16~18



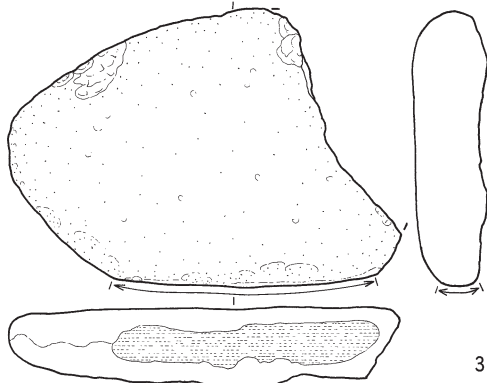
[F-8]



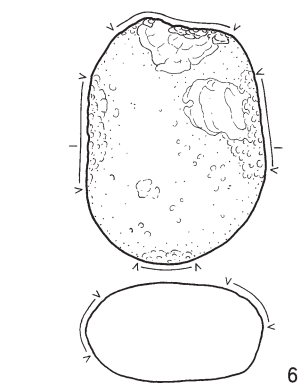
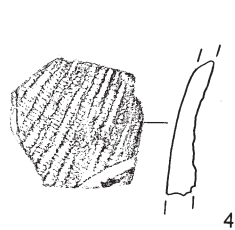
[F-18]



[F-16]



[F-17]



0 10cm

図III-66 焼土(5)F-19・20・焼土出土の遺物

5 フレイクチップ集中

FC-1 [図Ⅲ-68]

位置：R25区

規模：90×44cm

調査・特徴：Ⅲ層中で検出した。遺物総数は少ないものの、周辺包含層は遺物が希薄な範囲であることから、フレイクチップ集中とした。出土した石器の内容はフレイク165点である。そのほかにⅡ群b類土器1点・礫1点が出土している。

時期：不明である。

(阿部)

FC-2 [図Ⅲ-68、図版3]

位置：L19区

規模：92×88cm

調査・特徴：H-1覆土上面のⅢ層で検出した。周囲からは縄文時代後期前葉～中葉の土器が比較的まとまって出土しており、その間で直径約90cmの円形の範囲で1,967点の剥片類および石核1点が出土された。出土した剥片には、同一母岩の原石面が残るものが多く含まれているが、まとまった分布の状況からは持ち込まれたものと推測される。

時期：周辺出土の土器から、縄文時代後期前葉と思われる。

FC-3 [図Ⅲ-67・68、図版61]

位置：N22区

規模：(185) ×106cm

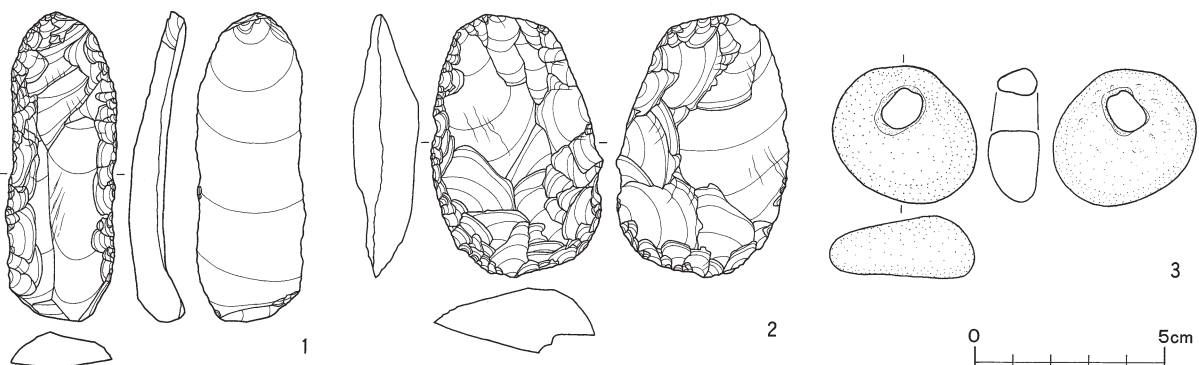
調査・特徴：H-8周辺のⅢ層中で検出した。出土した石器の内容は、スクレイパー2点・フレイク5,168点である。フレイクは微細なものがほとんどで、土壌とともに取り上げ水洗して回収した。石材は、泥岩17点のほかはすべて頁岩である。そのほかにⅡ群b類土器6点・Ⅲ群a類土器8点・Ⅳ群b類土器31点・有孔礫1点・礫42点が出土している。

掲載遺物：1・2は頁岩製のスクレイパー。1は下端が内湾する縦長の素材の両側縁に刃部を作り出している。2は楕円形に形状を整え、ほぼ全周に調整を加えている。3は泥岩の有孔礫。中央より上位に1cm程度の穴が貫通している。

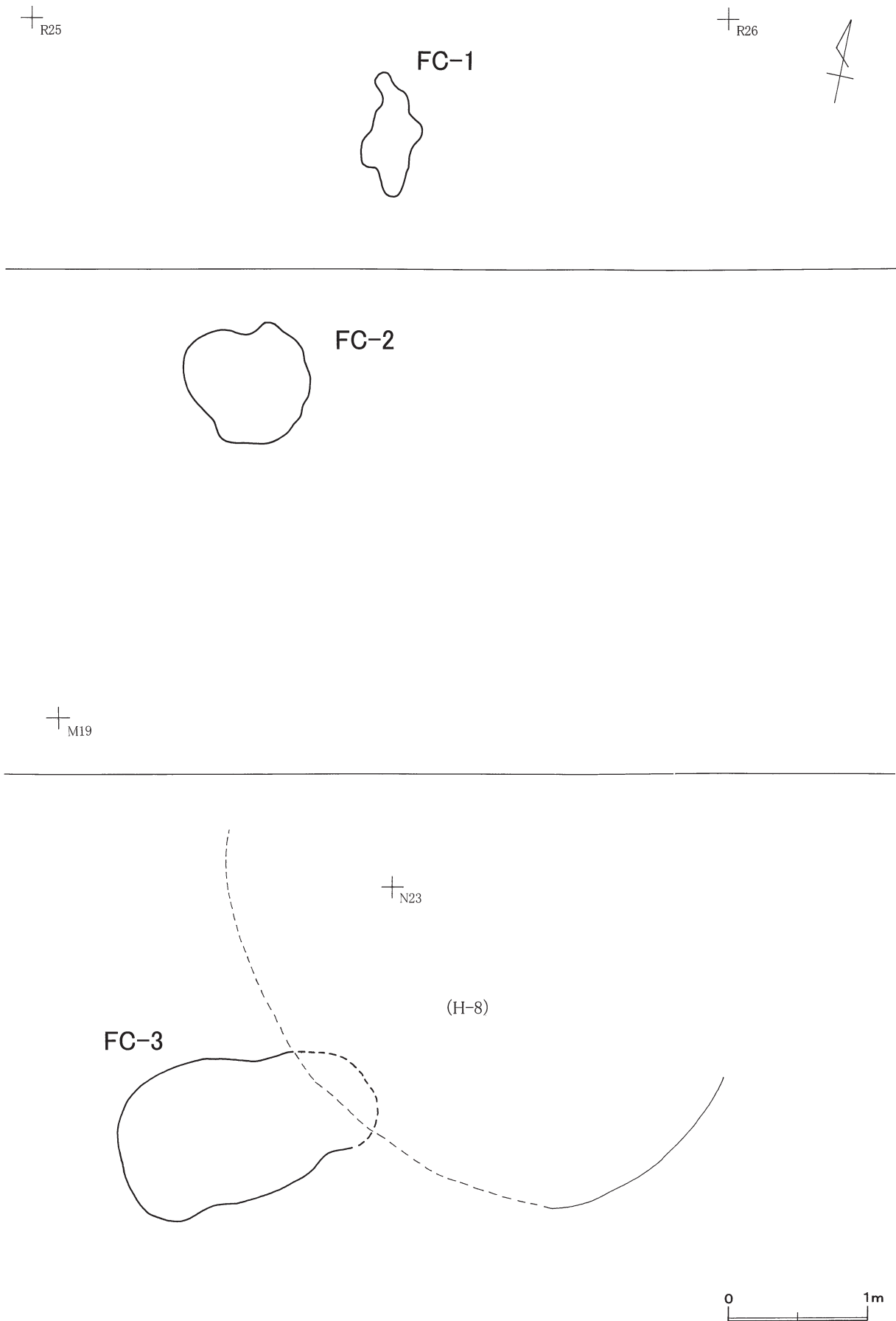
時期：出土土器やFC-2の例から、縄文時代後期前葉と思われる。

(土肥)

[FC-3]



図Ⅲ-67 フレイクチップ集中出土の遺物



図III-68 フレイクチップ集中FC-1~3

6 遺物集中

遺物集中1〔図Ⅲ-69～72、図版35・62～64〕

位置：P21・22、Q21区

規模：(390) × (266) cm

調査・特徴：Ⅲ層調査中、遺物の出土密度が高い範囲を検出した。その中央付近では、3個体の土器がつぶれた状態で出土した。遺物集中域は、Ⅲ層～Ⅳ層の深さ5～20cm程度にわたり、おおむね楕円形の範囲に収まる。

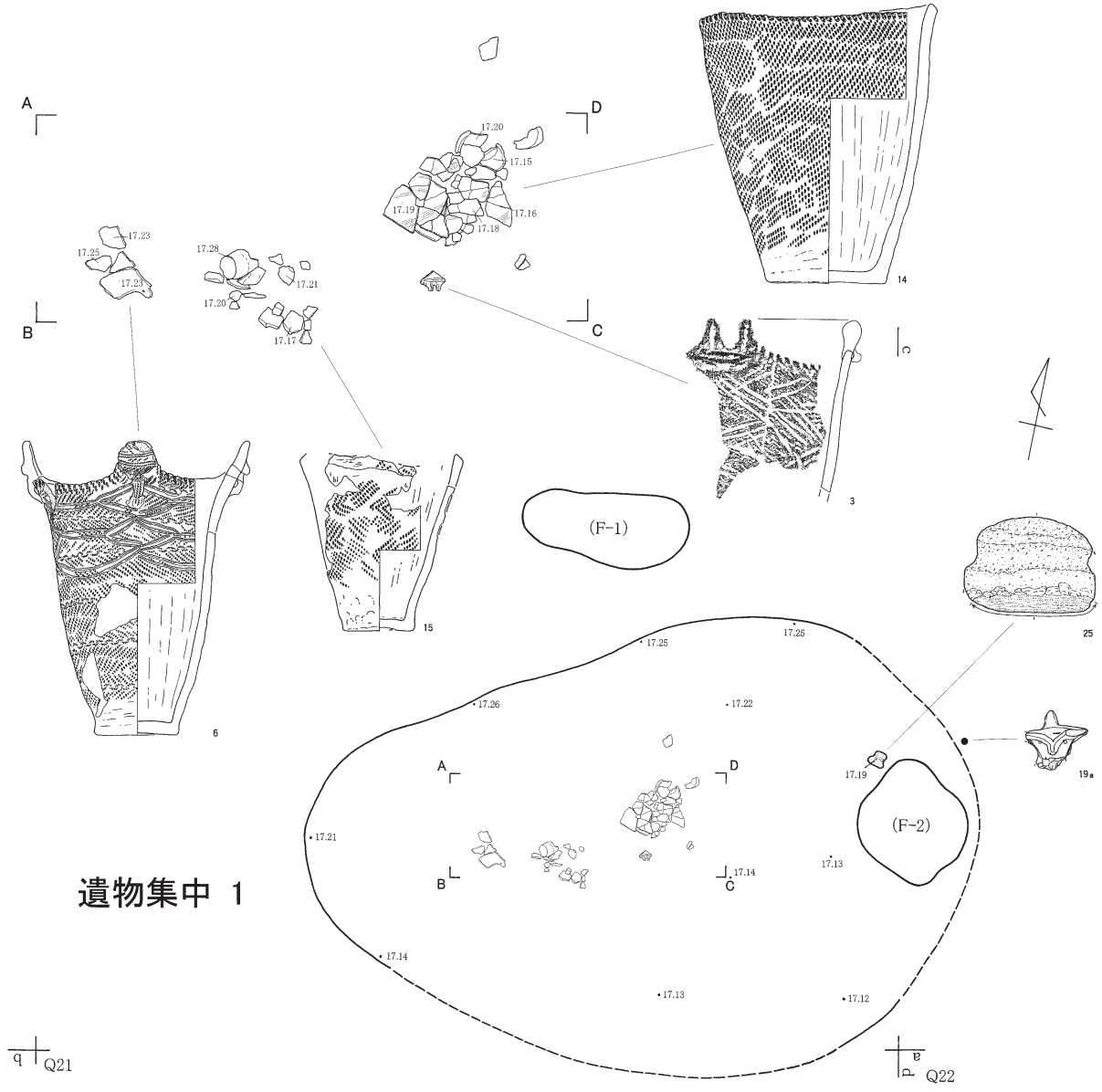
出土した遺物は、土器等534点・石器等47点・礫183点である。内訳は、土器等がⅢ群a類520点・Ⅳ群a類4点・土偶片3点・土製品1点・焼成粘土塊8点、石器等がスクレイパー4点・扁平打製石器4点・北海道式石冠1点・砥石1点・Rフレイク1点・Uフレイク1点・フレイク34点・三脚石器1点である。土偶片は、つぶれた状態の個体土器付近から2点、東側の断面観察用のベルトから1点出土した。

掲載遺物：1～17はⅢ群a類サイベ沢Ⅶ式。1・2は口縁突起。1は台形状で、粘土紐貼付・細い縄文押捺が内外面に施される。突起下に貫通孔が穿たれている。2はやや大型の台形状で太い沈線が密に施文されている。3は縄文押捺のある2個突起。その下に把手状の横位の粘土紐貼付がある。3本組沈線で鋸歯状の文様がえがかれ、連結している。4は2本組沈線で弧線文などがえがかれている。5は波頂部突起が欠損する。3本組の弧線文が連結している。6は中央付近で出土した個体土器。成形・文様施文・調整ともいねいな深鉢である。4単位の波状口縁で、口縁部は緩やかに外反し、底部はわずかに張り出す。突起は山形で円盤状の平坦面をもち、LR縄文地に細い縄文押捺がみられる。突起下に縦位の把手を付し、突起との間に貫通孔を穿つ。胴部は明瞭な綾線文が5列観察され、2本組沈線で連結する弧線文を深くえがいている。7はやや小型の深鉢。口縁突起は、大きな貫通孔を有するものと、小さな2個突起がある。前者は頂部の平坦面に楕円形の沈線と刺突を施している。後者は細い粘土紐貼付で装飾されている。文様は、突起部下に2本組沈線で菱文をえがき、その間は二組の2本沈線が3本沈線に収束している。8～10は口縁波頂部の突起。8は把手が付され、9は波頂部に平坦部がある。10はニシンタイプの魚骨回転文がみられる。突起の中央部の押捺も魚骨によるものとみられる。11は肥厚する口唇上にLR縄文が施文されている。12a・bは同一個体。折り返し口縁様の肥厚する口唇上に縄文押捺が連続する。13は上端部の粘土を少々押し下げて口唇部を形成している。地文は結束羽状縄文である。14・15は中央付近で出土した個体土器。14は平縁・平底で、断面が直線的である。口唇部には縄文押捺が連続する。15は小型の深鉢。口縁部は緩やかに外反し、底部がわずかに張り出す。口唇に突起の痕跡がみられる。胴部には結束羽状縄文が浅く施文されているが、図の反対側には無文部も多くみられる。16は綾線文が多段観察される。17は把手付鉢形土器。全体的に歪みが大きい。楕円形の平底で、胴部は緩やかにふくらみ、口縁波緩やかに外反する。LR縄文が浅く施文されている。

18はⅣ群a類トリサキ式。口唇上は指頭押捺が連続する。

19a・bは土偶で、同一個体。脚なしの立身像で、胸～肩～腕部を欠く。頭部は頂部および後頭部に装飾や鬘を想起させる突起が設けられている。顔面には鼻から眉にかけての粘土紐貼付があり、鼻や目が小さな刺突で表現されている。体部中央に突起があり、胸部にも同様の突起が2か所あったものと考えられる。無文地に2本組の沈線で正中線・両側線がえがかれている。脚部は膨らみをもち、底面は平坦である。細い多条沈線がめぐる。形状から、縄文中期半ばころのものと思われる。

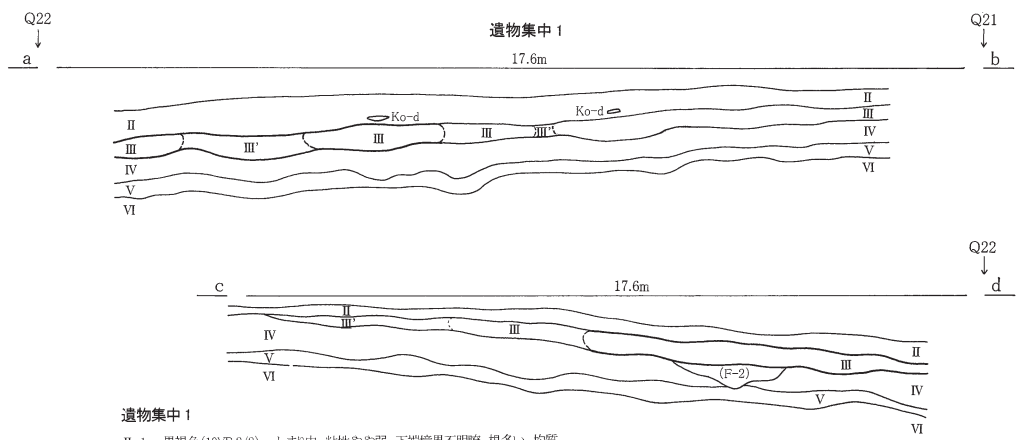
20～22はスクレイパー。20は頁岩の母岩の原石面を含む「かまぼこ形」の剥片を素材としている。



遺物集中 1

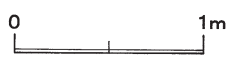
Q21

Q22

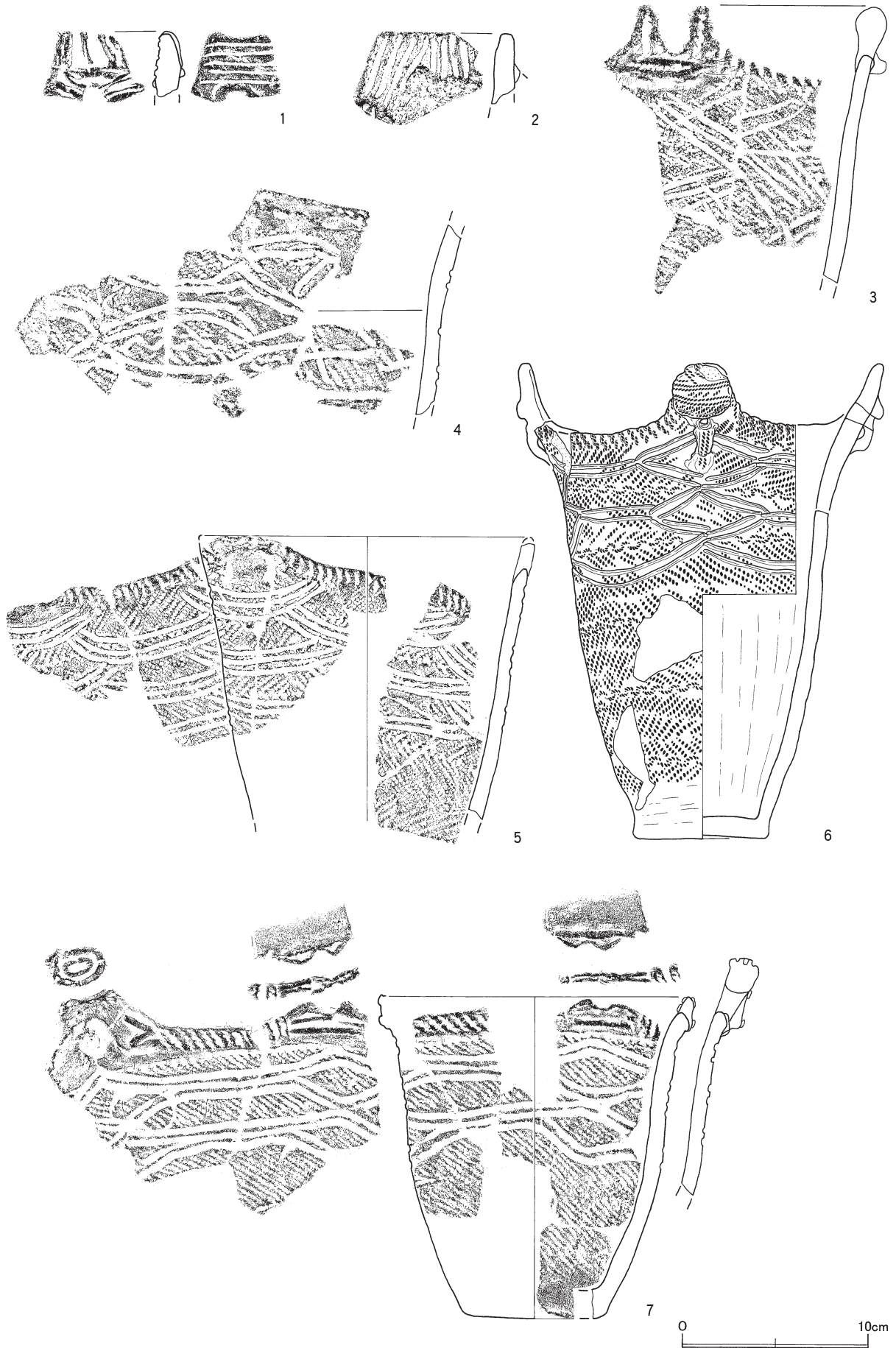


遺物集中 1

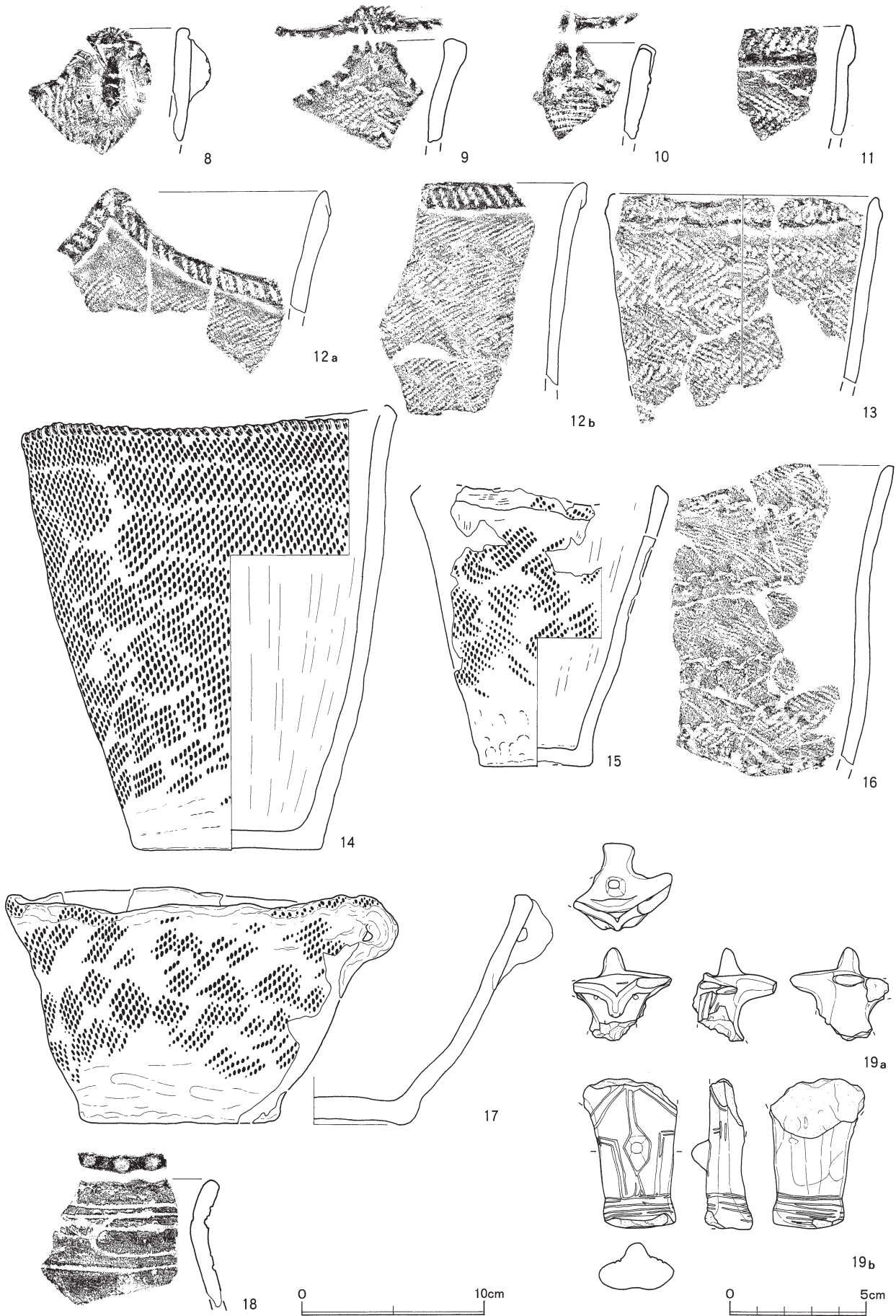
- II-1 黒褐色(10YR 2/2) しまり中、粘性やや弱、下端境界不明瞭、根多い、均質。
- II-2 黒色(7.5YR 2/1)〔縄文後期〕 しまり中、粘性やや弱、下端境界明瞭、根多い、均質。
- III 褐色～暗褐色(7.5YR 4/4～3/4)〔縄文中期〕 しまり弱、粘性やや弱、漸遷。
- III' 暗褐色～極暗褐色(7.5YR 3/3～2/3) しまり弱、粘性やや弱、漸遷。
- IV 黒色(7.5YR 2/2)〔縄文中期多い〕 しまりやや弱、粘性中、下端境界やや不明瞭。
- V 暗褐色～こぶい黄褐色(10YR 3/3～4/3) しまり中、粘性やや強、漸遷。
- VI 黄褐色(10YR 5/6～5/8) しまり中、粘性強。



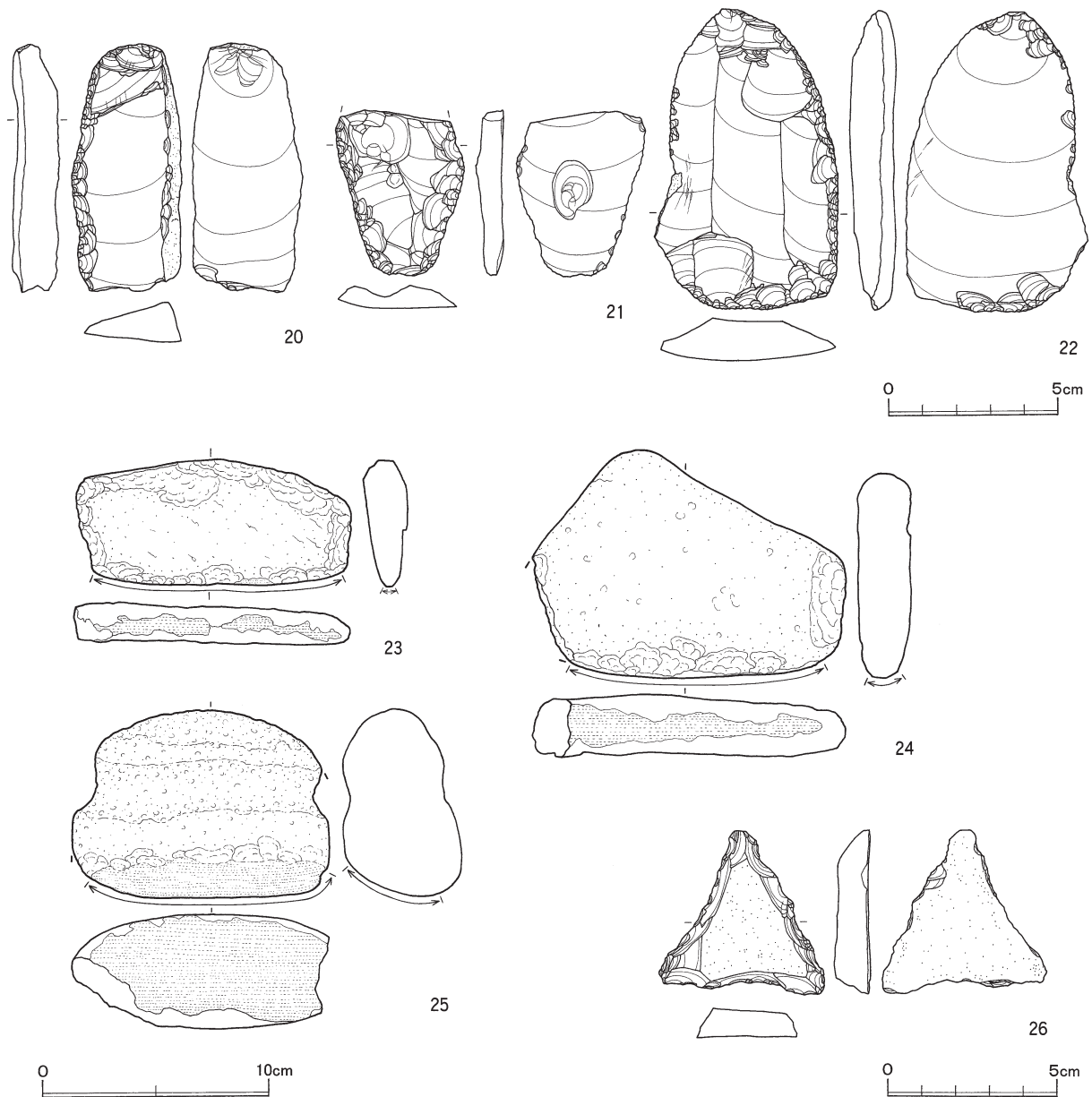
図III-69 遺物集中 1



図Ⅲ-70 遺物集中1出土の遺物(1)



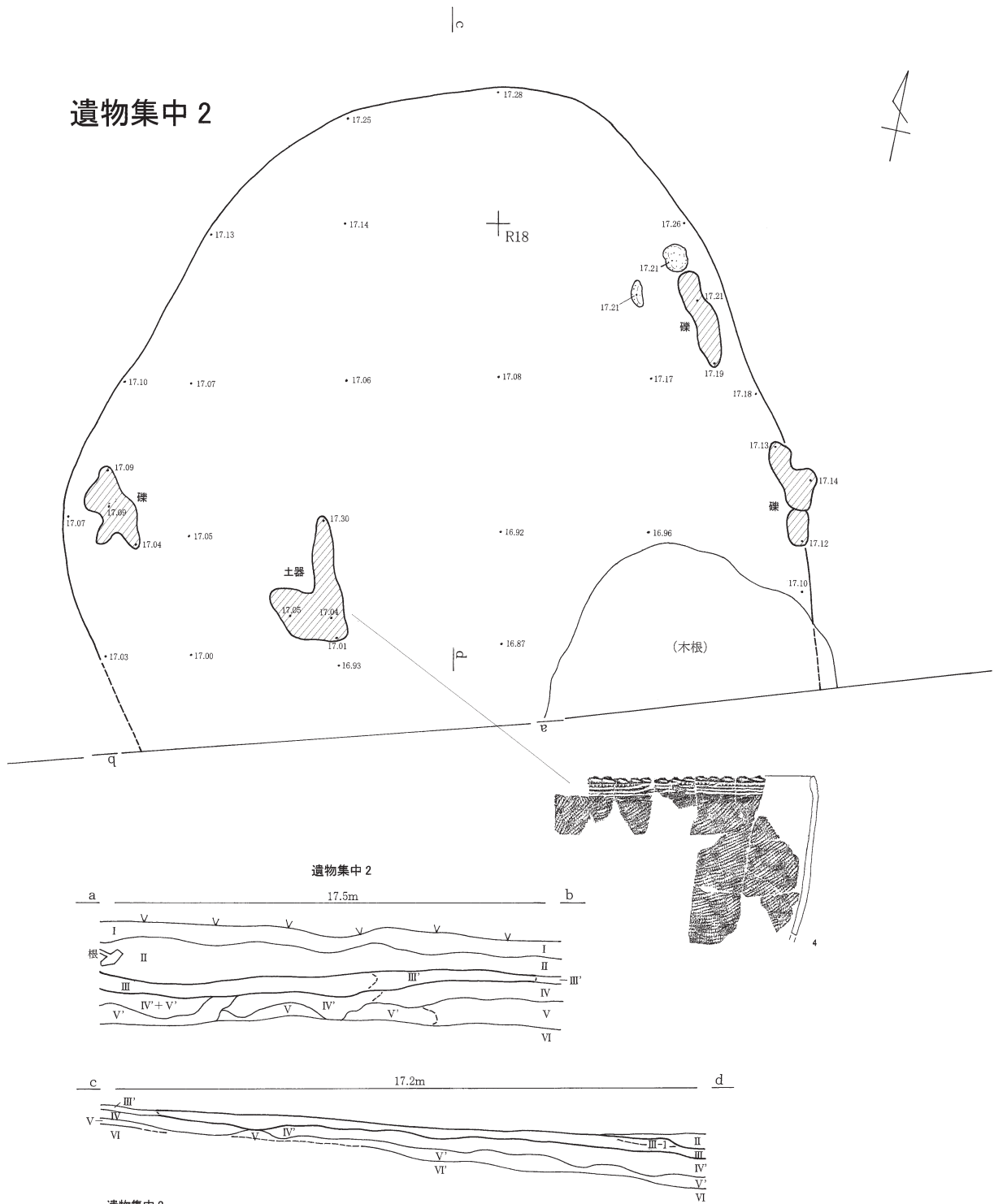
図III-71 遺物集中1出土の遺物(2)



図Ⅲ-72 遺物集中1出土の遺物(3)

頂部に古い剥離面が残る。21は縦長剥片の下半部を素材とする。背面に暗赤褐色の原石面が残る。22は背面に並行する2本の稜をもつ、幅広の縦長剥片を素材とする。背面右側縁および下端部に細かい剥離痕がある。腹面左刃部寄りに光沢がみられる。23・24は安山岩製の扁平打製石器。23は正面観が山形に近い半円形をなす。長軸両端の打ち欠きがあり、底部に敲打調整およびすり面がある。24は正面観が長方形で、全周に敲打調整が施されている。25は安山岩製の北海道式石冠。側面に原石面が残る。底面のすり面はやや丸みをもつ。26は泥岩製の三脚石器。表裏面とも原石面である。正三角形に近い。

重複・時期：F-2と重複し、遺物集中1とほぼ同時期に形成されたものとみられる。また北側のF-1も関連があるものと思われる。遺物集中1の形成時期は、出土遺物の内容から縄文時代中期前半サイベ沢Ⅶ式期に限定できる。



遺物集中 2

- III-1 黄褐色(10YR 5/6) しまりなし、サラサラ、火山灰。
- III' 褐色(10YR 4/4) しまりやや弱、粘性中。やや不均質。
- IV' 暗褐色(10YR 3/4) しまり中、粘性中。ローム粒混じり、やや不均質。
- V' にぶい黄褐色(10YR 4/3) しまり中、粘性中。褐色粒子混じり、ローム混じり。
- IV' + V' 褐色～にぶい黄褐色(10YR 4/4～5/4) ロームブロックやや多い、不均質。
- V 暗褐色(10YR 3/4) しまり中、粘性やや強、潮遷。



図III-73 遺物集中 2

遺物集中2 [図Ⅲ-73・74、図版35・64]

位置：Q・R17・18区

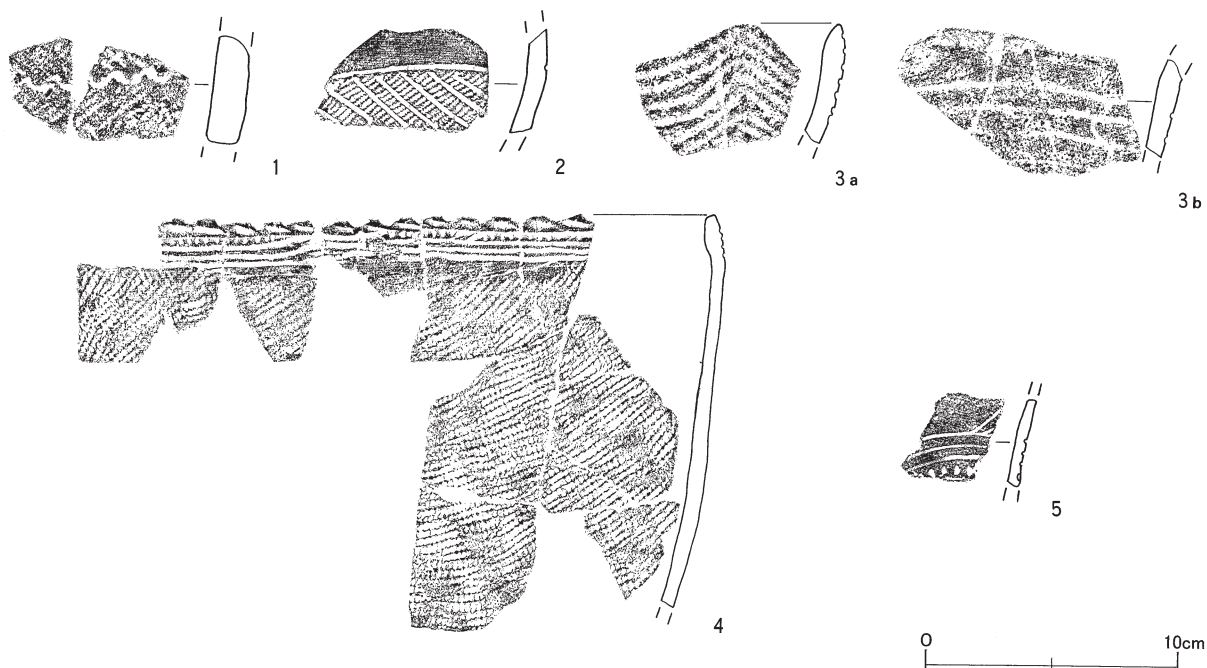
規模：(412) × 485cm

調査・特徴：Ⅲ層調査中、おおむね円形の範囲に広がるやや暗色の土壌を検出した。また遺物が多く出土し、土器（V群b類）および礫（凝灰岩ほか）がまとまっているところもみられた。竪穴住居跡を想定して調査を行った。土層断面ではⅣ層以下はⅣ層～Ⅵ層の混じる土壌であるが、壁や床面に相当する面を確認できず、遺物集中2とした。南側の調査区外におよぶ。

出土した遺物は、土器等392点・石器等51点・礫222点である。内訳は、土器等がⅢ群a類9点・Ⅳ群a類57点・Ⅳ群b類33点・Ⅴ群b類293点、石器等がRフレイク1点・フレイク50点である。

掲載遺物：1はⅢ群a類。綾絡文がみられる。2はⅣ群a類白坂3式。鍵の手状の多重沈線が施文されている。3a・bはⅣ群b類で同一個体。全体的に磨滅している。口縁部には多重沈線、胴部には平行沈線に蛇行沈線が垂下する。4・5はⅤ群b類。4は大洞C₂式併行。幅の狭い口縁部文様帯に羊歯状文が集約されている。5は大洞C₁式併行と思われる。平行線化した羊歯状文がみられる。

時期：出土した土器から、縄文時代後期～晩期に形成されたものである。



図Ⅲ-74 遺物集中2出土の遺物

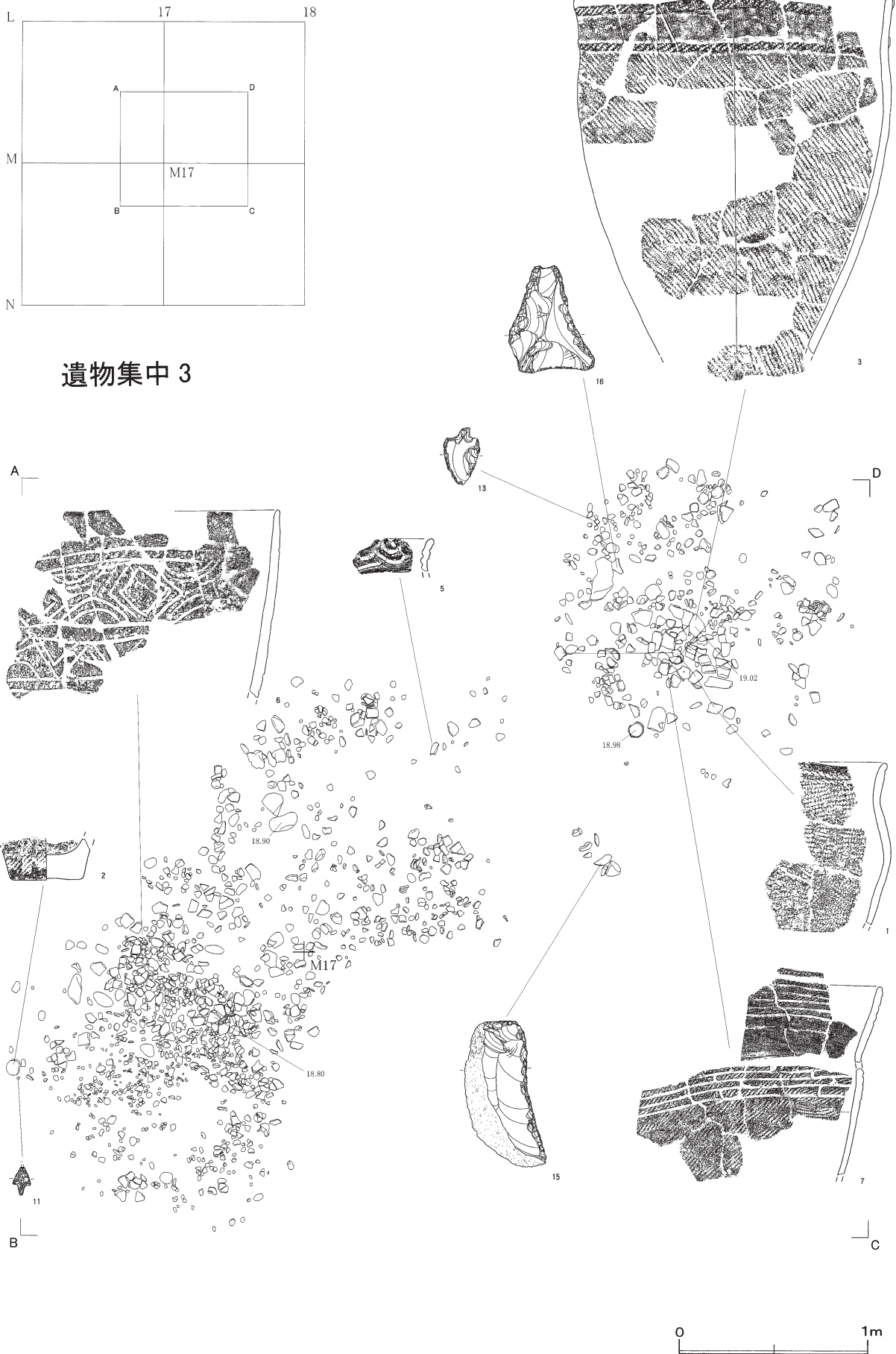
遺物集中3 [図Ⅲ-75～77、図版36・64・65]

位置：L・M16・17区

規模：540 × 180cm

調査・特徴：Ⅲ層調査中、遺物の出土密度が高い範囲を検出した。調査区北西側の斜面部と南東側の段丘面との境界付近に、帯状に分布する。大きく3つのブロックにまとまり、これらが連続している。それぞれのブロックは160～180cmの円形まとまりである。個体土器などはみられず、土器の小片や礫片が密集している。

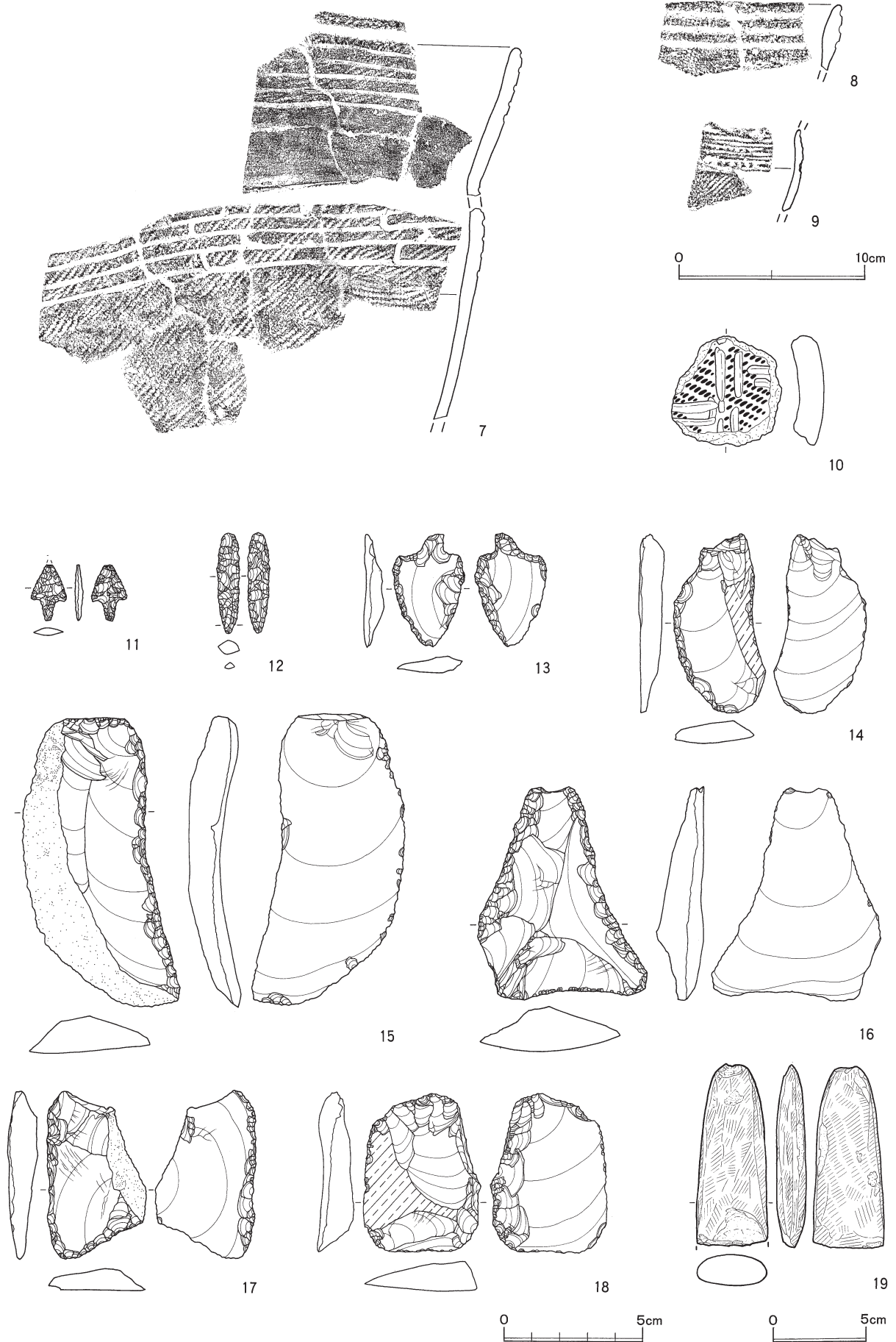
出土した遺物は、土器等1,701点・石器199点・礫1,970点である。内訳は、土器等がⅡ群b類7点・Ⅲ群a類4点・Ⅲ群b類28点・Ⅳ群a類947点・Ⅳ群b類104点・Ⅴ群b類608点・土製円盤1点・焼成粘土塊2点、石器等が石鏃1点・石錐1点・つまみ付きナイフ2点・スクレイパー4点・石斧1点・



図III-75 遺物集中 3



図Ⅲ-76 遺物集中3出土の遺物(1)



図III-77 遺物集中3出土の遺物(2)

扁平打製石器1点・砥石30点・台石石皿2点・Rフレイク5点・フレイク151点・石核1点である。

掲載遺物：1・2はⅢ群b類と思われる。1は胴部が膨らみ口縁部がゆるやかに外反する。口縁部に2条の縄線が施文されている。2は平底で、25mmの厚さを測る。3～6はⅣ群a類。3は天祐寺式の大形深鉢。口縁部に2本の貼付帯が廻り、その上にLR縄文を施文している。貼付帯間は無文帯としている。胴部はLR縄文が縦位回転により全面施文されている。4はトリサキ式。平行沈線から口縁波頂部に沿う沈線が派生する。5・6は大津式。5は口縁下で強くくびれる鉢とみられる。弧線と粘土紐貼付が内外面に施され、口縁突起部が設けられている。6は口唇下に無紋帯を設け、以下に粗いLR縄文が地文として施されている。2本組み沈線で平行・菱文・弧線文などの文様を配している。7はⅣ群b類手稲式。口縁部と胴部くびれ下に平行沈線がめぐり、蛇行沈線が垂下する。8・9はⅤ群b類。8は3本の浅い平行沈線がみられる。9は大洞C₂式併行。細密な沈線に羊歯状文が施されている。10はⅢ群a類土器片を再加工した土製円盤。深鉢口縁下の外反する部分が用いられている。周縁部の加工はやや粗い。

11は小型で平基有茎の石鏃。12は珪岩製の石錘。棒状で、両面とも細かな調整が行われている。13はつまみ付きナイフとしたが、石鏃未成品の可能性もある。周縁部に細かな調整がみられる。つまみ部は細く、欠損している。14～18はスクレイパー。14・17・18は側面に古い剥離面が残る。15は黒味の強い頁岩の縦長剥片を素材とする。背面に原石面が残る。右辺側の腹面に光沢が観察される。一方16は灰白色の頁岩の不定形剥片を素材としている。19は緑色泥岩製の石斧。刃部は剥落している。

時期：出土した土器から、縄文時代後期～晩期に形成されたものである。

遺物集中4〔図Ⅲ-78・79、図版36・66〕

位置：L17・18区

規模：240×150cm

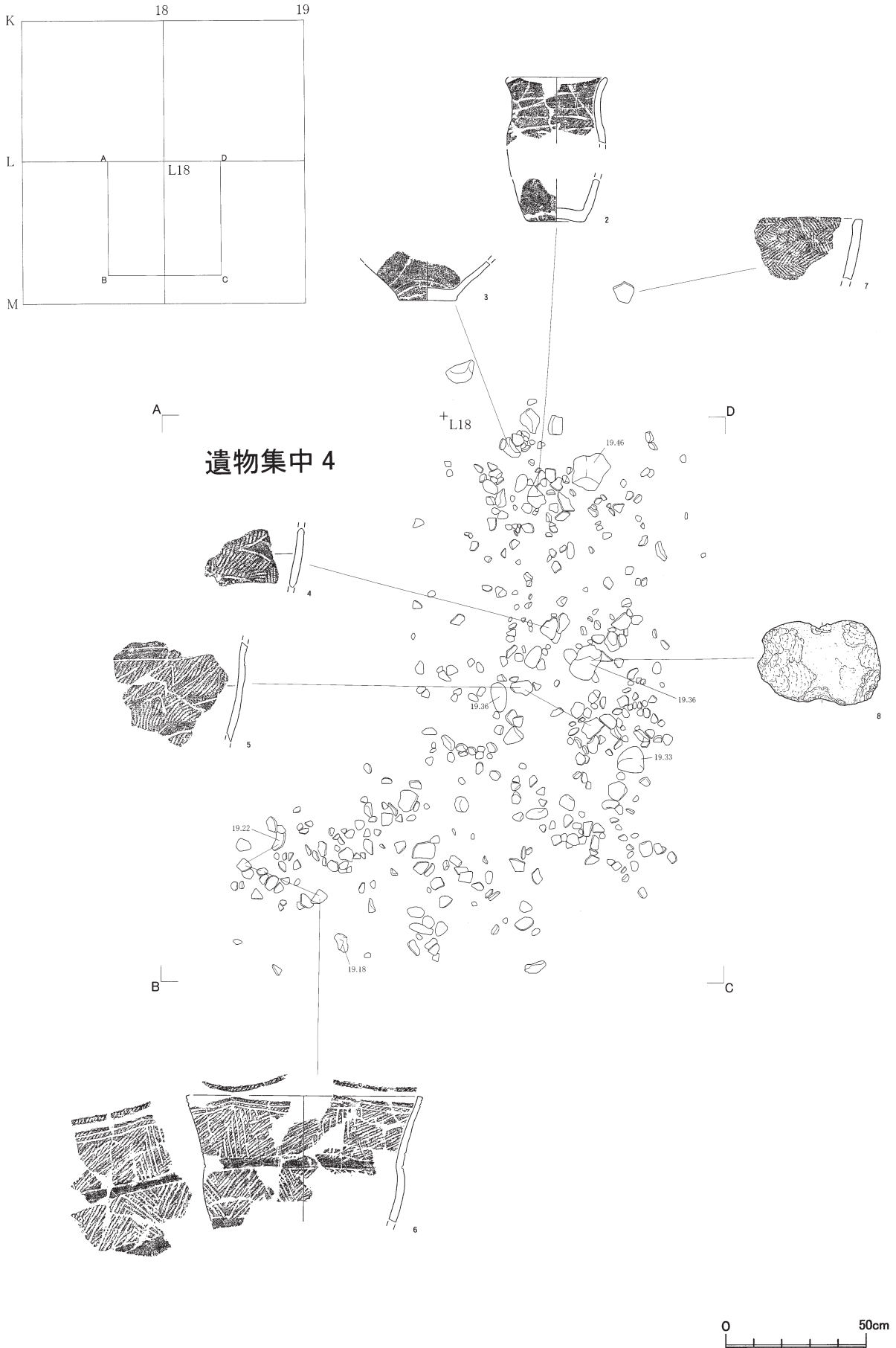
調査・特徴：Ⅲ層調査中、遺物集中3の北東延長方向で遺物の出土密度が高い範囲を検出した。調査区北西側の斜面部と南東側の段丘面との境界付近に、帯状に分布する。個体土器などはみられず、土器の小片や礫片が密集している。

遺物は、土器等339点・石器等51点・礫792点が出土した。内訳は、土器等がⅡ群b類3点・Ⅲ群a類29点・Ⅲ群b類21点・Ⅳ群a類234点・Ⅳ群b類45点・Ⅴ群b類7点、石器等が扁平打製石器2点・台石石皿4点・石錘1点・Uフレイク1点・フレイク41点・石核1点・加工痕ある石器1点である。

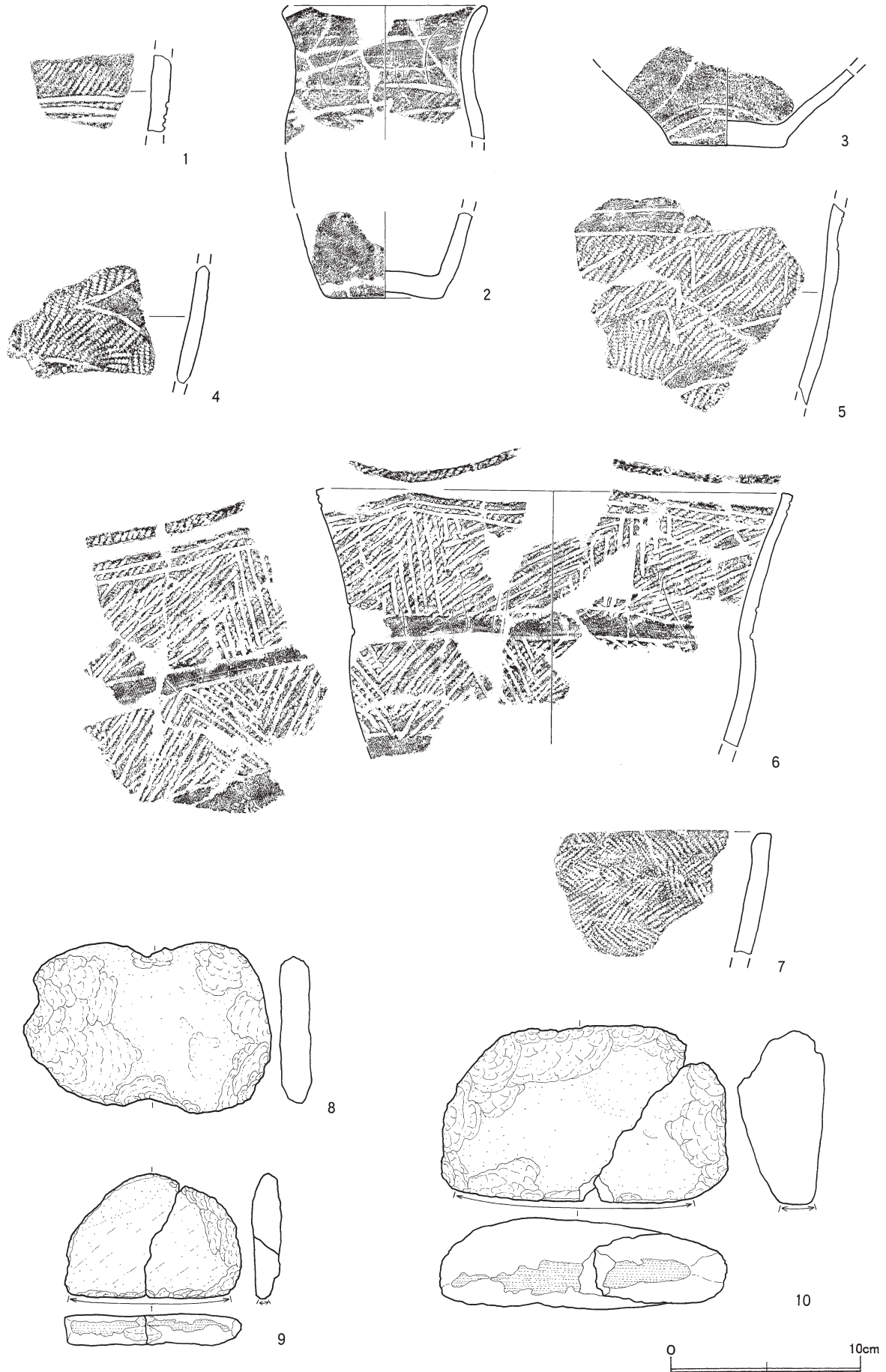
掲載遺物：1はⅢ群b類サイベ沢Ⅶ式。2～5はⅣ群a類。2は小型深鉢で、図上復元したもの。口縁部は4単位の波頂部をもつ。胴部くびれ以下に横走・鋸歯状・弧状の沈線がみられる。3は鉢の底部。間隔の狭い2本の沈線に横U字の連結沈線が底部付近に見られる。4は帯状文にLR縄文が充填されている。5はLR縄文地に鋸歯状沈線がやや不規則に展開する。6・7はⅣ群b類。6はウサクマイC式。鋸歯状の多重沈線が密に施され、胴くびれ部などに細い無文帯を配している。7は平縁で、細かい羽状縄文が地文である。

8は石錘。扁平な安山岩の長軸・短軸両端に打ち欠きがみられる。9・10は扁平打製石器。9は正面観が半円形のもので、10は長方形のもの。9は付近の包含層出土のものと、10は約15m離れたN15区出土のものと、いずれも半割されたものが接合した。

時期：縄文時代後期に形成されたものである。



図III-78 遺物集中4



図Ⅲ-79 遺物集中4出土の遺物

遺物集中5 [図III-80~82、図版37・67・68]

位置：J18・19区

規模：545×330cm

調査・特徴：Ⅲ層調査中、遺物集中4の北東延長方向で遺物の出土密度が高い範囲を検出した。調査区北西側の斜面部と南東側の段丘面との境界付近に近年の営農時に設けられた排水用の溝跡があり、主にその南東側に遺物集中個所が分布する。土器の小片や礫片が密集しており、部分的にまとまりをもつ。周辺の調査を進めると、当遺物集中はH-13の覆土上にあることが確認できた。

出土した遺物は、土器等1,690点・石器等158点・礫2,320点である。内訳は、土器等がⅡ群b類1点・Ⅲ群a類113点・Ⅳ群a類884点・Ⅳ群b類34点・Ⅳ群c類532点・Ⅴ群b類117点・焼成粘土塊9点、石器等が石鏃1点・つまみ付きナイフ2点・スクレイパー3点・石斧1点・たたき石1点・くぼみ石1点・Rフレイク4点・Uフレイク2点・フレイク140点・石核2点・加工痕ある石器1点である。

掲載遺物：1~11はⅣ群a類。1~7はトリサキ式。1は2本組み沈線が連結している。波頂部下に、連結したU字状文を伴う縦位の3本組み沈線で区画が行われている。2は4本組みの沈線による直線・曲線文様を重ねている。3は小型の鉢で、横位の沈線を基本とするが、波頂部下の縦位の区画の一部がみられる。5a・bは同一個体で、格子目状沈線が胴部に施文されている。6は大型深鉢。口縁下に2本の沈線が横走り、以下は無文部が広く、2本組みの曲沈線やLR縄文がわずかに観察される。7はひねりを伴う環状の粘土紐貼付が波頂部から下に施されている。8・9は大津式。8は口縁突起の内外面に弧線状の粘土紐貼付がみられる。9は口縁下で屈曲し、胴上部が膨らみ底部がすぼむ深鉢。櫛描文が充填された帯状文で文様が構成されている。3本の平行区画文内に、縦位の長楕円形の文様が連続する。10は壺形で、無文地に2本組み沈線による施文がみられる。十腰内I式に相当すると思われる。11は平底。12は口縁部に多重細沈線が横走り、波頂部下に把手状の粘土紐貼付がみられる。

13~17はⅣ群b類。13はウサクマイC式。口縁波頂部下で弧状となる多重沈線が密に施されている。14~17は手稲式。14~16は平行沈線に垂下する蛇行沈線がみられる。16は小型の深鉢で、平行沈線が密に施されている。17は鉢形で、口縁部下が屈曲する。18~25はⅣ群c類堂林式および十腰内Ⅳ・Ⅴ群。18は幅広の帯縄文。19・20・21aは切出形口唇。21a・bは細かい撚りの羽状縄文が地文である20は口唇上に2個組の小突起が付されている。22は弧線の帯縄文に沿って磨り消しが行われている。23は入組帯縄文に縦長の貼瘤が付される。24a・bは注口土器。貼瘤を起点に細長い木葉文が展開する。丸底で、小型の凹み底を有する。25は平底だが、わずかに台状の作り出しがある。

26はⅤ群b類。口唇上に細かく刺突を連続させている。胴部は縦位の縄文。

27は石鏃。やや厚手で菱形を呈する。28は黒曜石製のつまみ付きナイフとした。スクレイパーの端部付近に弱い抉りを設けている。背面に原石面が残る。29は頁岩製のつまみ付ナイフ。素材の形を活かし、細かい調整はえぐり部のみにもみられる。30~32はスクレイパー。30は縦長剥片、31は不定形な剥片が素材である。32は打瘤が大きく残る剥片が用いられている。頂部付近の最も薄い部分に小さな貫通孔がある。33は楕円体の泥岩を用いたくぼみ石。表裏両面中央付近に敲打痕がみられる。長軸両端は欠損している。

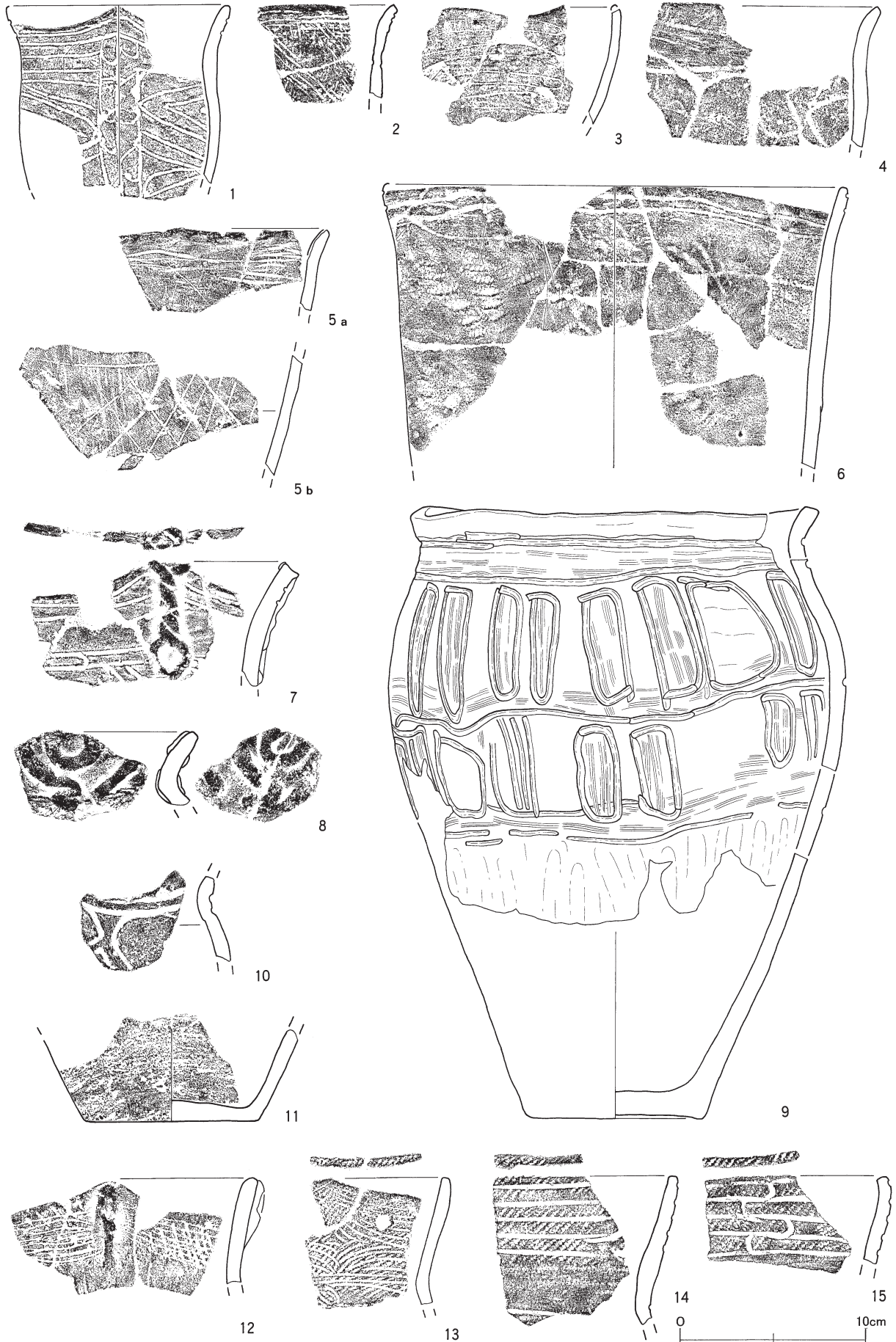
時期：H-13の構築時期や出土した土器から、縄文時代後期~晩期に形成されたものと考えられる。

(阿部)

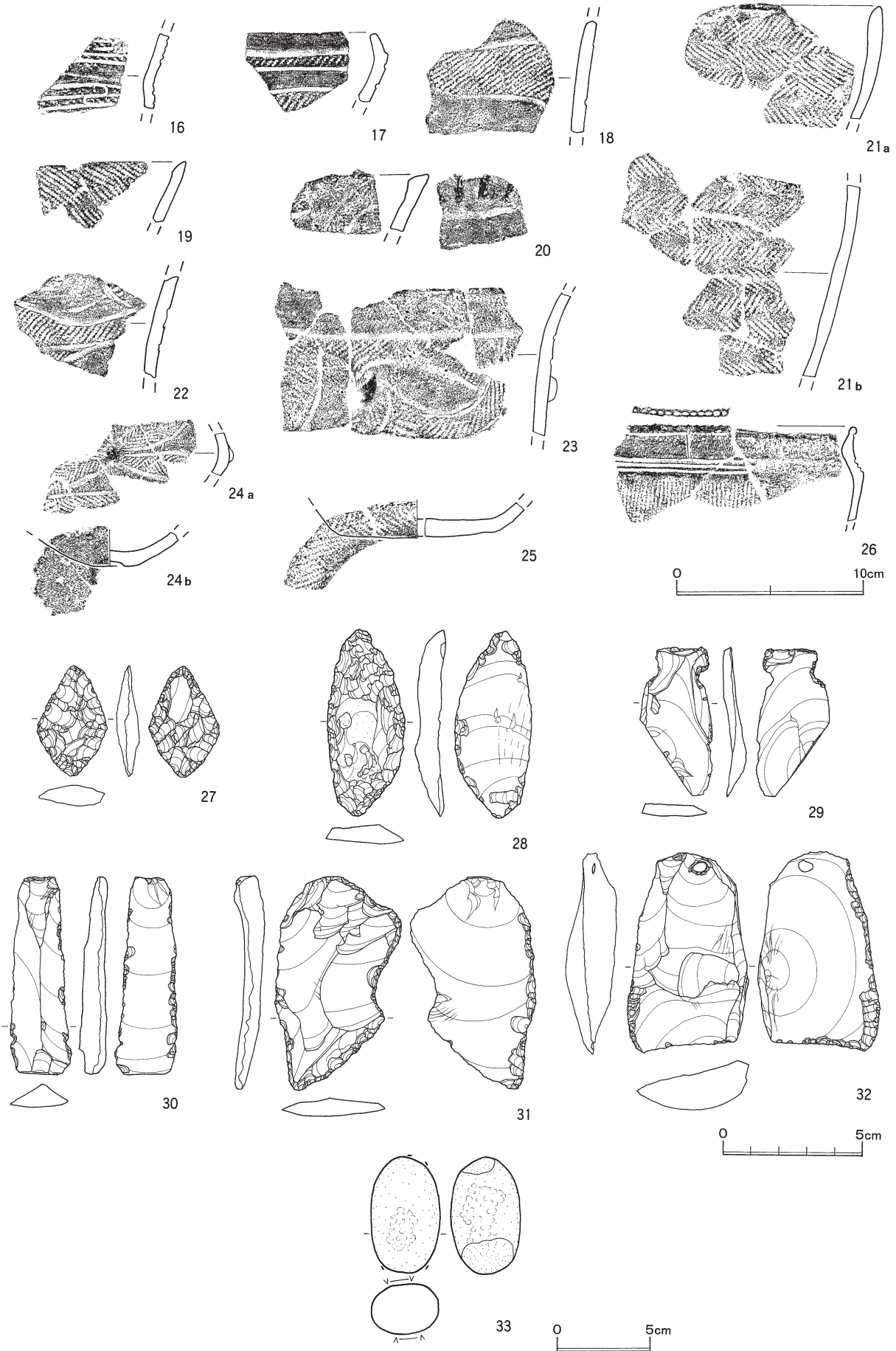
遺物集中 5



图III-80 遺物集中 5



図III-81 遺物集中5出土の遺物(1)



図Ⅲ-82 遺物集中5出土の遺物(2)

7 埋設土器

埋設土器 1〔図Ⅲ-83・84、図版37・69〕

位置：Q17区

規模：24×19／17cm

調査・特徴：Ⅳ層調査中、個体土器の上半部が倒立した状態で出土した。破片（38点）であるが、個体形状をほぼ保って出土した。周囲を調査した結果、堅穴住居跡などの遺構は検出されず、単独の埋設土器とした。

掲載遺物：1はⅢ群b類土器。広口壺に近い深鉢形で、口縁～胴上半部が残存する。平縁で口唇部はよく磨かれている。口縁部にスス状の黒色物質が付着している。胴部が大きく膨らみ、口縁の径より大きくなる。口縁部に浅い3条の平行沈線を巡らせ、縦位にも7単位にわたり同文様が施され杵状の文様がえがかれている。大安在B式またはノダップⅡ式に相当するが、器形では最花式にも関連があるものと思われる。

時期：縄文時代中期後半である。

埋設土器 2〔図Ⅲ-83・84、図版37・69〕

位置：Q16区

規模：20×15／25cm

調査・特徴：Ⅳ層調査中、Ⅲ群b類の個体土器の一部が正立した状態で出土した。残り3／4程度は木根等による攪乱により不明であり、破片点数は32点である。Ⅳ～Ⅵ層上面付近にあり、土器の周囲はやや暗色の土壌である。周囲を調査した結果、堅穴住居跡などの遺構は検出されず、単独の埋設土器とした。ただし個体土器が放置されたものである可能性がある。

掲載遺物：2はⅢ群b類榎林式。肥厚する口唇上に太く深い凹線がめぐり、波頂部に渦文を施している。以下はRL縄文が全面に施文されている。

時期：縄文時代中期後半である。

(阿部)

埋設土器 3〔図Ⅲ-83・84、図版37・69〕

位置：O22区

規模：26×25／38cm

調査・特徴：包含層調査中にⅣ層上部で狭い範囲に土器片がまとまって出土したため確認した。

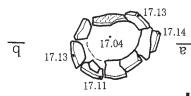
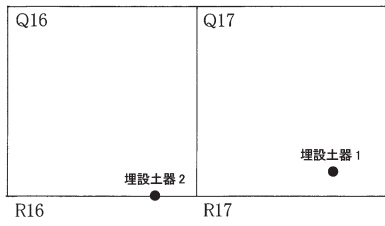
検出地点の周辺は遺構・遺物が少ないため、小規模な破片集中とみて土器の周囲を包含層ごとに残し、グリッドの包含層調査を終えた後に着手した。包含層を掘り下げ、土器片を検出させると、形状を留めた円筒土器の埋設土器であることが判明し、この時点で残っている包含層部分ごと断面調査した。

現地で出土した土器の高さは約35cmで、Ⅵ層を15cm掘り込んだ小ピットに埋設されていた。Ⅳ層中では20～30cmほど埋まっていたものと推定されるが、この個体を復元した際の器高が57cmあるため、もともとは地面から口縁部が出ている状態で埋設されていたものとみられる。土器を半割すると、内部からは土器片が出土したが、口縁部片は底部付近で折り重なって出土した。出土した破片は全部でⅡ群b類土器片253点で、ほぼ1個体分の破片は揃っているとみられる。

掲載遺物：3はⅡ群b類円筒土器下層b式またはc式の深鉢形土器。細長い円筒形で、高さは68cmに達する。口唇下約5cmにやや幅広で薄い隆帯を巡らせ、浅い刺突を連続させている。口縁部は不整な撚糸文、胴部～底部は縦位の撚糸文が密に施文されている。繊維を多量含む。

時期：出土した土器は縄文時代前期後半である。

(土肥)



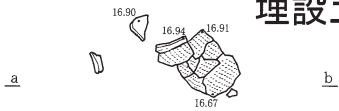
埋設土器 1

a 17.1m b



R18

埋設土器 2

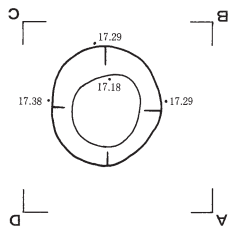
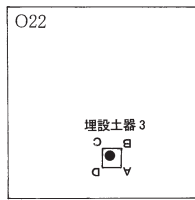


a 17.0m b

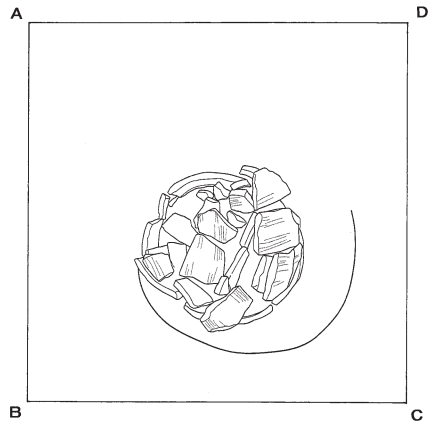


R17

0 50cm

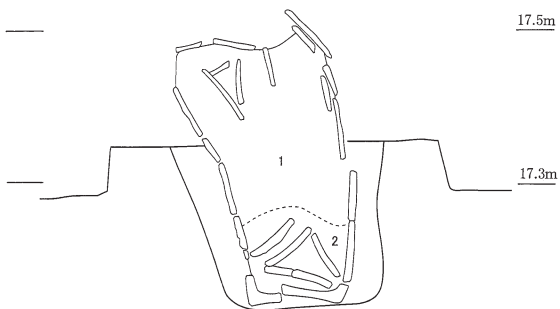


埋設土器 3
(埋設坑)



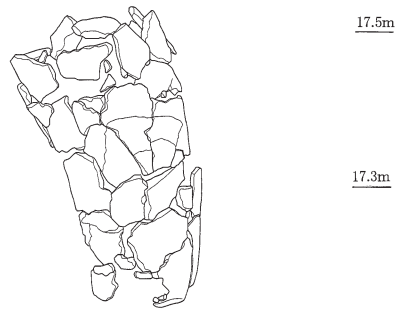
a

b



17.5m

17.3m



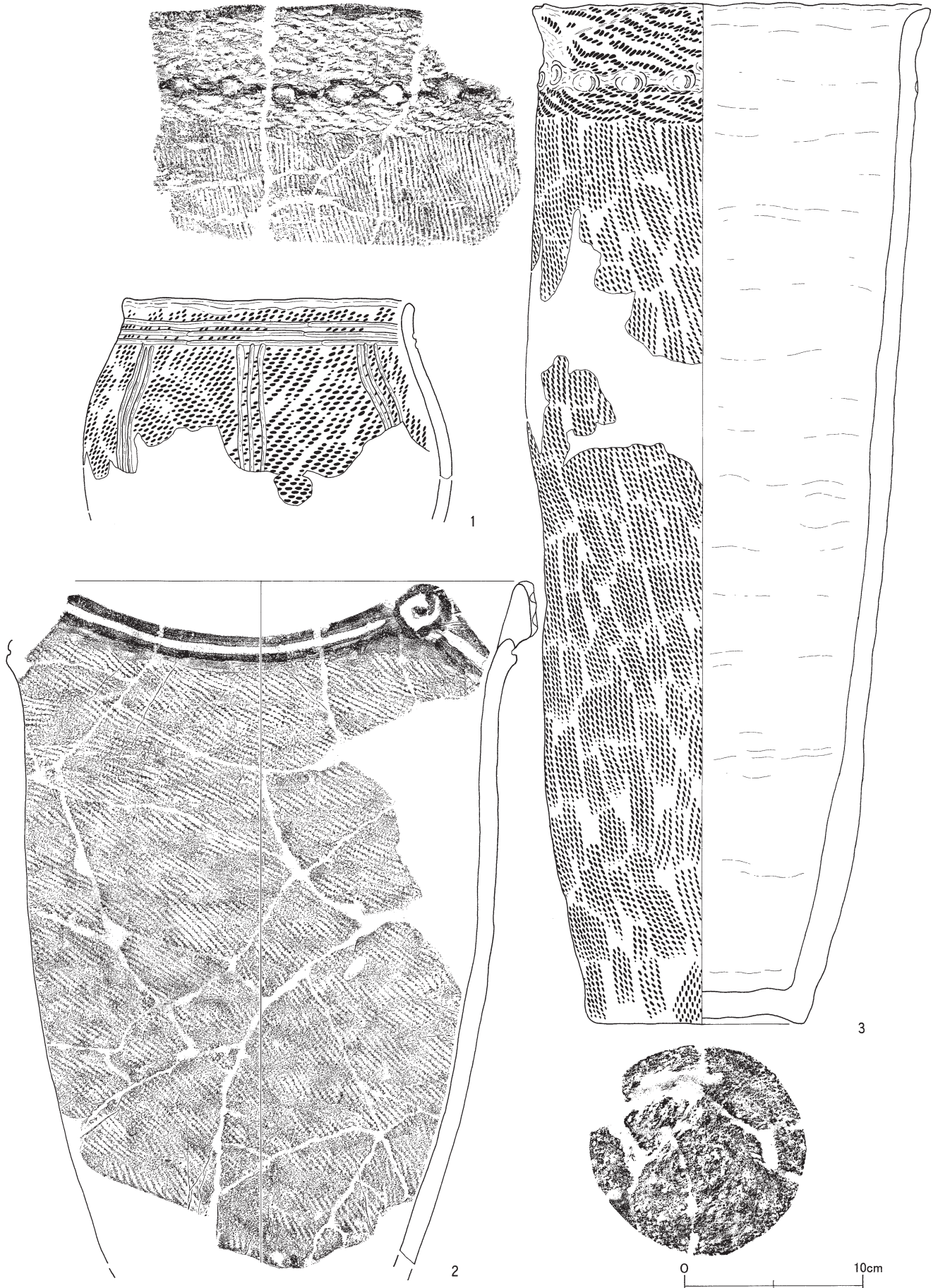
17.5m

17.3m

- 1 黒褐色(10YR 3/1) IV層に少量のVI層がブロック状に混じる。
- 2 黒褐色(10YR 3/2) やや赤みのあるIV層。

0 20cm

図Ⅲ-83 埋設土器 1 ~ 3



図III-84 埋設土器

8 フローテーション法による微細遺物の調査

竪穴住居跡や土坑などでは、炭化材片や種子、骨片等が含まれているものが時々見受けられる。これらの微細な自然遺物の内容を把握するため、フローテーション法を用いて水洗選別した。対象とした土壌は、竪穴住居では炭化物を含むとみられる炉跡や柱穴の覆土、土坑では炭化物を含む覆土や坑底、その他焼土、埋設土器の内部の土壌、といった試料である。33サンプルを採取し、同一地点・層位の試料をまとめて29サンプルとした。対象土壌の総量は、約154kg・約214リットルである。

結果（表Ⅲ-1）、自然遺物では炭化物が計約10g回収された。人工遺物としては、土器の碎片が計39点、微細な剥片が計8点検出された。炭化物が回収された遺構・層位は、H-1・2・3・5・6・7・10の各炉跡（HF）、P-37・39の覆土である。炭化種子の一次選別を行い、検出した種子の同定を委託した（V章2）。また一部を放射性炭素年代測定試料（V章3）とした。

炭化種実同定の結果（V章2）、H-10HF-1からアカザ属、F-17からスゲ属、F-18からカヤツリグサ科の種子が同定された。湿地や草地といった、周辺の環境を反映している。

表Ⅲ-1 フローテーション結果

試料番号	遺構	層位	採取量		回収量(g)			回収遺物				備考
			重量(g)	体積(ml)	残渣	浮遊物 (2.0mm)	浮遊物 (0.425mm)	土器 (点)	石器 (点)	炭化物 (g)	炭化種 子(粒)	
フ-15・16	H-1 HF-1	焼土	4,590	5,600	216.3	0.3	0.7		1		1	
フ-17	H-1 HF-2	焼土	1,450	2,000	40.0	0.6	1.0	1		0.29		
フ-1	H-2 HF-1	焼土上面	590	700	23.9	0.1	0.2	1		0.12		
フ-2	H-2 HF-1	焼土	1,610	1,800	59.6	0.1	0.3					
フ-3	H-2 HF-1	焼土1層	4,360	5,400	76.1	3.3	30.9			0.15		
フ-4	H-2 HF-2	焼土2層	1,120	1,500	9.6	0.1	0.4					
フ-5	H-3 HF-1	焼土上面	350	400	8.8	0.1	0.1			0.12	3	
フ-6	H-4 HF-1	焼土	4,570	6,900	159.7	12.3	4.7					
フ-7	H-5 HF-1	焼土	3,100	4,500	16.5	6.1	4.5			2.94		
フ-11	H-6 HF-1	焼土	5,810	8,000	179.6	10.6	4.2			0.64		
フ-12	H-7 HF-1	焼土	3,010	3,200	67.0	0.7	1.0			0.17		
フ-13	H-7 HF-2	焼土	2,670	3,000	50.1	0.8	1.0					
フ-14	H-7 HP-1	覆土	3,260	3,700	26.0	3.0	2.7			1.93		
フ-23	H-10 HF-1	覆土	1,480	1,900	55.0	1.0	2.0				1	
フ-22	H-10 HF-1	焼土	3,300	4,300	10.9	6.0	5.0			1.01		
フ-28・29	H-11 HF-1	焼土	3,092	4,150	40.7	4.7	3.8			1.54	1	
フ-31	H-12 HF-1	焼土	4,580	5,500	106.0	2.0	3.0					
フ-33	H-12	覆土	2,330	2,700	78.0	2.0	3.0					土器No. 1
フ-32	H-13 HF-1	焼土	4,370	5,100	990.0	7.0	7.0					
フ-19	P-37	覆土	5,740	7,600	445.0	6.1	5.1			0.39		
フ-20	P-38	覆土	5,270	7,000	347.3	4.5	4.7				2	
フ-21	P-39	覆土	6,310	9,300	397.3	2.8	2.9			0.16	1	
フ-8	F-4	焼土	710	1,100	7.3	0.8	0.7					
フ-9	F-8	焼土	8,510	15,700	71.9	5.2	6.8	2	2		1	
フ-10	F-16	焼土	7,170	9,600	98.1	10.0	2.0					
フ-25・26	F-17	焼土	23,540	34,710	160.0	51.0	14.0	1			2	
フ-24・27	F-18	焼土	27,820	38,100	148.0	47.0	18.0		5		1	
フ-30	F-19	焼土	10,070	15,600	28.0	20.0	15.0					
フ-18	埋設土器3	IV	3,460	4,650	92.0	10.3	2.8	34				土器中
	合計		154,242	213,710	4008.7	218.5	147.5	39	8	9.46	13	

表Ⅲ-2 遺構一覧(1)

遺構名	掲載		検出位置		平面形	規模(cm)					時期	備考
	挿図	写真図版	発掘区	層位		検出面		底面		高さ		
						長径	短径	長径	短径			
H-1	図Ⅲ-1・2	図版3・4	L・M19	(Ⅲ)IV	楕円形	343	300	286	258	54	縄文時代中期前半	N-63° W
HF-1			L19	H-1覆土	長楕円形	90	48			9		
HF-2			L19	VI	楕円形	49	33			9		
HP-1			M19	VI	楕円形	46	34	39	27	29		
HP-2			M19	VI	楕円形	35	21	20	10	9		
HP-3			L19	VI	楕円形	41	38	35	30	9		
HP-4			L19	VI	円形	13	(13)	8	8	15		
HP-5			M19	VI	楕円形	34	19			27		
HP-6			M19	VI	円形	10	10	4	4	17		
HP-7			L19	VI	円形	30	26	13	13	7		
H-2	図Ⅲ-7・8	図版5・6	O・P18・19	(Ⅲ)IV	不整形円形	538	520	504	474	25	縄文時代後期前葉	(N-11° W)
HF-1			P18	VI	円形	73	68			14		
HP-1			O18	VI	円形	29	28	23	21	15		
HP-2			O・P18	VI	円形	27	25	20	18	7		
HP-3			P18	VI	円形	19	16	13	7	13		
HP-4			P18	VI	円形	25	24	15	14	20		
HP-5			P18	VI	円形	28	25	17	15	17		
HP-6			P19	VI	円形	18	16	11	10	32		
HP-7			O18	VI	円形	18	13	10	10	18		
HP-8			O18	VI	円形	14	12	12	10	25		
H-3	図Ⅲ-14	図版7	R14	IV	隅丸方形	(324)	305	298	260	38	縄文時代中期半ば	N-66° E
HF-1			R14	VI	楕円形	40	(35)			6		
HP-1			R14	VI	円形	24	22	16	15	20		
HP-2			R14	VI	円形	19	(15)	6	6	9		
HP-3			R14	VI	円形	22	21	13	12	12		
H-4	図Ⅲ-16・17	図版8・9	M・N16	(Ⅲ)IV	楕円形	448	394	404	341	22	縄文時代後期前葉	(N-0°)
HF-1			N16	VI	不整形	96	56			12		
HP-1			N16	V	円形	18	17	14	10	29		
HP-2			N16	V	円形	18	16	9	8	31		
HP-3			N16	V	円形	17	17	9	9	14		
HP-4			N16	VI	円形	18	15	15	13	14		
HP-5			N16	VI	円形	18	16	10	9	23		
HP-6			N16	V	円形	17	16	9	9	18		
H-5	図Ⅲ-21	図版10	P・Q15・16	V	隅丸方形	253	224	227	192	51	縄文時代中期半ば	N-5° E
HF-1			Q15	VI	不整形楕円形	50	34			5		
HP-1			P15	VI	円形	25	24	22	18	29		
HP-2			Q15	V	円形	24	20	17	14	6		
HP-3			Q15	V	円形	23	23	13	11	7		
HP-4			Q15	V	円形	16	16	10	10	9		
HP-5			Q15	V	円形	17	17	11	10	12		
HP-6			Q16	V	楕円形	24	18	13	8	7		
HP-7			Q16	V	円形	24	20	15	12	10		
HP-8			P16	V	円形	23	20	12	11	11		
HP-9	Q15	VI	円形	27	25	17	16	5				
H-6	図Ⅲ-23	図版11	M・N17・18	(Ⅲ)IV	円形	390	380	356	342	20	縄文時代後期前葉	(N-78° E) 焼土・炭範囲
HF-1			N17・18	VI	不整形	75	37			12		
HP-1			M17	VI	円形	24	22	16	15	26		
HP-2			N18	VI	円形	17	14	15	13	14		
HP-3			N18	VI	円形	21	20	7	6	12		
HP-4			N18	VI	円形	16	14	8	8	5		
H-7	図Ⅲ-26・27	図版12	O16・17	Ⅲ	隅丸方形	336	286	307	251	30	縄文時代中期半ば	N-11° W
HF-1			O16	VI	楕円形	74	50			14		
HP-1			O16	VI	円形	48	43	40	(33)	7		
HP-2			O16	VI	円形	16	15	7	6	27		
H-8	図Ⅲ-30	図版13	M・N22・23	(Ⅲ)IV	楕円形	403	(340)	364	(300)	20	縄文時代後期前葉	N-48° W
H-9	図Ⅲ-31	図版13	G・H21	IV	楕円形	(306)	(274)	(280)	(244)	38	縄文時代後期前葉	N-20° E
HP-1			H21	VI	円形	24	22	16	16	9		
HP-2			H21	VI	円形	24	21	17	16	13		
HP-3			H21	VI	円形	27	25	21	17	12		
HP-4			H21	VI	円形	24	22	18	16	7		
HP-5			G21	VI	円形	29	25	22	20	4		
H-10	図Ⅲ-32	図版14	I・J15	IV	(楕円形)	(224)	(308)	(192)	(244)	83	縄文時代中期後半	N-4° E
HF-1			I15	VI	楕円形	36	31			3		
H-11	図Ⅲ-34	図版14	L18	V	隅丸方形	218	196	205	178	10	縄文時代中期半ば	N-88° E
HF-1			L18	VI	円形	36	36			12		
HP-1			L18	VI	楕円形	34	30	23	18	10		

表Ⅲ-3 遺構一覽(2)

遺構名	掲載		検出位置		平面形	規模(cm)					時期	備考
	挿図	写真図版	発掘区	層位		検出面		底面		深さ		
						長径	短径	長径	短径			
H-12	図Ⅲ-35・36	図版15	I・J19・20	(Ⅲ)Ⅳ	楕円形	512	460	474	422	20	縄文時代後期前葉	N-42° W
HF-1			J20	Ⅵ	不整形	60	44			4		
HP-1			J19	Ⅵ	円形	28	(28)	23	(20)	18		
HP-2			I20	Ⅵ	楕円形	40	33	34	26	19		
HP-3			I20	Ⅵ	円形	25	(25)	18	(18)	16		
H-13	図Ⅲ-38	図版16	J・K18・19	V	円形	538	—	516		14	縄文時代後期前葉	
HF-1			J18・19	Ⅵ	不整形	138	69			13		
HP-1			J18	Ⅵ	円形	33	21	(32)	22	33		
HP-2			J18	Ⅵ	円形	21	(20)	15	14	33		
HP-3			J18	Ⅵ	円形	21	(21)	16		14		
HP-4			J19	Ⅵ	円形	24	(23)	18		23		
HP-5			J19	Ⅵ	円形	14	(14)	10		18		
HP-6			J19	Ⅵ	円形	20	(20)	14		14		
P-1	図Ⅲ-40	図版17	Q14	(Ⅲ)Ⅳ	円形	74	71	55	49	47	縄文時代中期	Ⅲa
P-2	図Ⅲ-40	図版17	Q14・15	(Ⅲ)Ⅳ	円形	109	97	64	58	62	縄文時代中期	覆土上位にF-6
P-3	図Ⅲ-40	図版17	R14	H-3覆土	円形	61	59	41	37	35	縄文時代中期	覆土上位にF-3
P-4	図Ⅲ-40	図版17	R14	H-3覆土	円形	66	64	49	40	54	縄文時代中期	覆土上位にF-4
P-5	図Ⅲ-41	図版17・18	R17	Ⅵ	円形	90	78	80	71	23	縄文時代後期前葉	
P-6	図Ⅲ-41	図版18	R17	Ⅵ	楕円形	82	69	72	57	19	縄文時代後期前葉	
P-7	図Ⅲ-41	図版18	Q18	Ⅵ	円形	92	86	75	61	15	縄文時代	
P-8	図Ⅲ-41	図版18	O・P24	Ⅲ	隅丸方形	115	94	87	61	53	縄文時代晩期以降	覆土下層に小礫多量、N-39° W
P-9	図Ⅲ-41	図版18	R14	Ⅵ	楕円形	58	50	46	39	9	縄文時代中期	
P-10	図Ⅲ-42	図版19	O15	Ⅵ	円形	69	64	54	48	50	縄文時代中期半ば	Ⅲa
P-11	図Ⅲ-42	図版19	O15	Ⅵ	円形	102	94	60	51	27	縄文時代中期～後期	
P-12	図Ⅲ-42	図版19	O15	Ⅵ	円形	60	55	53	48	32	縄文時代中期半ば	
P-13	図Ⅲ-42	図版20	Q15	Ⅵ	不整形楕円形	47	47	37	32	16	縄文時代後期前葉	Ⅳa多い
P-14	図Ⅲ-42	図版20	Q15	Ⅵ	楕円形	75	(60)	37	27	44	縄文時代後期前葉	Ⅳa多い
P-15	図Ⅲ-42	図版20	Q16	Ⅵ	長楕円形	115	69	93	55	15	縄文時代中期半ば	Ⅲa少数、N-39° E
P-16	図Ⅲ-43	図版20	P15・16	Ⅵ	円形	97	79	58	43	56	縄文時代中期半ば	大型砥石、覆土上位にF-9
P-17	図Ⅲ-43	図版20・21	P16	Ⅵ	円形	81	78	50	44	48	縄文時代前期～中期	
P-18	図Ⅲ-43	図版21	P16	Ⅵ	円形	79	68	55	47	15	縄文時代後期前葉	
P-19	図Ⅲ-43	図版21	Q17	Ⅵ	楕円形	114	95	88	59	45	縄文時代中期半ば	覆土上位にF-10
P-20	図Ⅲ-43	図版21	Q17	Ⅵ	円形	102	100	87	84	34	縄文時代中期半ば	覆土上位にF-11
P-21	図Ⅲ-44	図版21	N16	H-4覆土	円形	68	64	56	54	32	縄文時代中期半ば	
P-22	図Ⅲ-45	図版22	L・M19	Ⅲ	円形	55	54	45	44	10	縄文時代晩期以降	
P-23	図Ⅲ-45	図版22	O19	Ⅵ	円形	66	59	49	40	25	縄文時代中期	
P-24	図Ⅲ-45	図版22	O15・16	Ⅵ	楕円形	114	95	85	71	28	縄文時代前期～中期	覆土上位にF-13
P-25	図Ⅲ-45	図版22	H15	Ⅵ	円形	74	69	82	70	30	縄文時代中期半ば	
P-26	図Ⅲ-45	図版23	O16	Ⅵ	円形	58	54	46	43	24	縄文時代中期半ば	
P-27	図Ⅲ-45	図版23	O16	Ⅵ	円形	98	86	64	55	64	縄文時代中期半ば	
P-28	図Ⅲ-45	図版23	O17	Ⅵ	円形	79	71	57	52	10	縄文時代中期半ば	
P-29	図Ⅲ-44	図版23	N15	Ⅵ	円形	97	86	72	70	28	縄文時代中期前半	
P-30	図Ⅲ-44	図版24	N16	Ⅵ	円形	82	76	78	76	36	縄文時代中期半ば	
P-31	図Ⅲ-44	図版24	N16	Ⅵ	円形	72	72	63	56	17	縄文時代中期半ば	
P-32	図Ⅲ-44	図版24	N16	Ⅵ	円形	43	42	38	32	8	縄文時代中期～後期	
P-33	図Ⅲ-46	図版24	L20	Ⅵ	円形	84	82	68	65	42	縄文時代中期	
P-34	図Ⅲ-46	図版25	L20	Ⅵ	円形	91	89	69	67	39	縄文時代中期	
P-35	図Ⅲ-46	図版25	O20・21	Ⅵ	円形	99	93	82	82	32	縄文時代中期前半	墓の可能性
P-36	図Ⅲ-46	図版25	J16	Ⅵ	円形	116	100	70	62	54	縄文時代中期	
P-37	図Ⅲ-47	図版25・26	H16	Ⅵ	円形	69	66	52	50	21	縄文時代後期	
P-38	図Ⅲ-47	図版25・26	H16	Ⅵ	円形	69	62	58	46	24	縄文時代後期	
P-39	図Ⅲ-47	図版25・26	H16	Ⅵ	円形	84	81	66	66	32	縄文時代中期	
P-40	図Ⅲ-47	図版26	H・I16	Ⅵ	楕円形	102	82	90	77	27	縄文時代中期	
P-41	図Ⅲ-48	図版27	O17	Ⅵ	円形	98	92	86	82	24	縄文時代前期後半	
P-42	図Ⅲ-48	図版27	O17	Ⅵ	円形	97	86	66	62	41	縄文時代前期後半	円筒下層b式土器
P-43	図Ⅲ-48	図版27	M18	Ⅵ	楕円形	72	56	69	69	54	縄文時代中期	H-6内、大型礫(珪岩・砂岩)
P-44	図Ⅲ-48	図版27	N16・17	Ⅳ	円形	67	65	68	66	25	縄文時代中期	
P-45	図Ⅲ-48	図版28	L・M20	Ⅳ	円形	74	73	63	54	34	縄文時代中期後半	大型土器片
P-46	図Ⅲ-49	図版28	N17	Ⅵ	円形	104	101	64	62	46	縄文時代中期	
P-47	図Ⅲ-49	図版28	N17	V	円形	89	85	58	56	45	縄文時代中期	
P-48	図Ⅲ-49	図版28	N16・17	Ⅵ	円形	84	82	72	71	31	縄文時代中期	
P-49	図Ⅲ-49	図版28	O20	Ⅵ	円形	60	56	52	42	16	縄文時代中期	
P-50	図Ⅲ-49	図版28	O20	Ⅵ	楕円形	69	47	61	39	18	縄文時代前期後半	N-47° W
P-51	図Ⅲ-49	図版29	I15	Ⅵ	円形	87	81	73	63	44	縄文時代中期	
P-52	図Ⅲ-50	図版29	I16	Ⅳ	円形	99	93	83	78	60	縄文時代中期	
P-53	図Ⅲ-50	図版29	I16	Ⅳ	円形	100	100	80	80	44	縄文時代中期	
P-54	図Ⅲ-50	図版29	I16	Ⅳ	円形	90	86	70	67	40	縄文時代中期	

表Ⅲ-4 遺構一覧(3)

遺構名	掲載		検出位置		平面形	規模(cm)					時期	備考
	挿図	写真図版	発掘区	層位		検出面		底面		深さ		
						長径	短径	長径	短径			
P-55	図Ⅲ-51	図版29	M20	Ⅵ	長楕円形	83	50	76	36	27	縄文時代中期後半	遺物多数、大型礫、N-1° E
P-56	図Ⅲ-51	図版30	N21	Ⅵ	円形	69	64	54	50	29	縄文時代中期	
P-57	図Ⅲ-51	図版30	M17	Ⅵ	楕円形	62	50	43	38	15	縄文時代中期	
P-58	図Ⅲ-51	図版30	H17	Ⅵ	楕円形	134	106	95	84	60	縄文時代中期	
P-59	図Ⅲ-52	図版30	L18	Ⅵ	円形	65	62	52	48	30	縄文時代中期	
P-60	図Ⅲ-52	図版30	L18	Ⅵ	円形	70	67	47	46	22	縄文時代中期	
P-61	図Ⅲ-52	図版30	L18・19	Ⅵ	楕円形	68	58	60	49	10	縄文時代中期	
P-62	図Ⅲ-52	図版31	H17	Ⅵ	楕円形	100	77	90	70	29	縄文時代中期	
P-63	図Ⅲ-53	図版31	H18	Ⅵ	円形	80	72	68	58	13	縄文時代中期後半	
P-64	図Ⅲ-52	図版31	H18	Ⅵ	円形	60	53	50	43	37	縄文時代後期	
P-65	図Ⅲ-53	図版31	H18	Ⅵ	楕円形	106	94	96	73	38	縄文時代中期	
P-66	図Ⅲ-53	図版31	I17	Ⅵ	楕円形	104	87	84	77	49	縄文時代中期	
P-67	図Ⅲ-53	図版32	I15	Ⅵ	円形	90	88	91	80	42	縄文時代中期半ば	礫層を掘り抜く
P-68	図Ⅲ-54	図版32	K20	Ⅳ	円形	73	71	52	42	18	縄文時代中期	上面にF-17
P-69	図Ⅲ-54	図版32	M21	Ⅳ下	円形	100	99	72	65	50	縄文時代中期	上面にF-18
P-70	図Ⅲ-54	図版32	M21	Ⅳ下	楕円形	126	112	72	54	50	縄文時代中期	
P-71	図Ⅲ-54	図版32	L17	V	円形	74	69	62	59	34	縄文時代中期	遺物集中3の下位
SP-1	図Ⅲ-61		K16	Ⅳ	円形	37	36	22	22	41	縄文時代中期	
F-1	図Ⅲ-62	図版33	P21	Ⅳ	楕円形	97	44			6	縄文時代中期前半	遺物集中1付近
F-2	図Ⅲ-62	図版33	P21・22	Ⅳ	楕円形	73	65			13	縄文時代中期前半	遺物集中1内
F-3	図Ⅲ-62	図版33	R14	H-3覆土	円形	48	45			16	縄文時代中期前半～	P-3覆土上位
F-4	図Ⅲ-62		R14	H-3覆土	円形	48	46			17	縄文時代中期前半～	P-4覆土上位
F-5	図Ⅲ-63	図版33	P20	Ⅳ	楕円形	90	52			5	縄文時代中期前半	
F-6	図Ⅲ-63	図版17	Q14・15	P-2覆土	楕円形	64	44			15	縄文時代中期前半	P-2覆土上位
F-7	図Ⅲ-63	図版33	P24	V	不整形	153	131			12	縄文時代	赤褐色土の落ち込み
F-8	図Ⅲ-63	図版33	Q15	H-5覆土	不整形	211	140			22	縄文時代中期後半	H-5、大安在B
F-9	図Ⅲ-64	図版20	P15・16	P-16覆土	不整形	53	41			20	縄文時代中期前半	P-16覆土上位
F-10	図Ⅲ-64	図版21	Q17	P-19覆土	円形	79	75			20	縄文時代中期～後期	P-19覆土上位
F-11	図Ⅲ-64	図版21	Q17	P-20覆土	円形	47	45			11	縄文時代中期～後期	P-20覆土上位
F-12	図Ⅲ-64	図版33	Q16	Ⅳ	楕円形	50	42			3	縄文時代	
F-13	図Ⅲ-64	図版33	O15・16	P-24覆土	不整形	80	53			6	縄文時代前期後半～	P-24覆土上位
F-14	図Ⅲ-64	図版34	O16	H-7覆土	不整形	60	36			9	縄文時代中期～後期	H-7
F-15	図Ⅲ-64	図版34	O16	H-7覆土	不整形	86	66			18	縄文時代中期～後期	H-7
F-16	図Ⅲ-65	図版34	L19	H-1覆土	不整形	166	(76)			19	縄文時代中期半ば	H-1
F-17	図Ⅲ-65	図版34	M21	P-69覆土	楕円形	78	59			15	縄文時代中期	P-69検出面と重なる
F-18	図Ⅲ-65	図版34	M21	P-70覆土	楕円形	150	90			11	縄文時代中期	P-70検出面と重なる
F-19	図Ⅲ-66	図版34	L・M17	V	不整形	98	44			4	縄文時代	
F-20	図Ⅲ-66	図版34	I21	Ⅵ	楕円形	154	94			10	縄文時代中期	
FC-1	図Ⅲ-68		R25	Ⅲ		90	44				縄文時代	
FC-2	図Ⅲ-68	図版3	L19	Ⅲ		92	88				縄文時代後期前葉	H-1周辺
FC-3	図Ⅲ-68		N22	Ⅲ		(185)	106				縄文時代後期前葉	
遺物集中1	図Ⅲ-69	図版35	P21・22、Q21	Ⅲ		(390)	(266)				縄文時代中期前半	サイベ沢Ⅶ、土偶あり
遺物集中2	図Ⅲ-73	図版35	Q・R17・18	Ⅲ		(412)	485				縄文時代後期～晩期	
遺物集中3	図Ⅲ-75	図版36	L・M16・17	Ⅲ		540	180				縄文時代後期～晩期	
遺物集中4	図Ⅲ-78	図版36	L17・18	Ⅲ		240	150				縄文時代後期	
遺物集中5	図Ⅲ-80	図版37	J18・19	Ⅲ		545	330				縄文時代後期～晩期	
埋設土器1	図Ⅲ-83	図版37	Q17	Ⅳ		24	19			17	縄文時代中期後半	胴部のみ
埋設土器2	図Ⅲ-83	図版37	Q16	Ⅳ		20	15			25	縄文時代中期後半	榎林式
埋設土器3	図Ⅲ-83	図版37	O22	Ⅳ		26	25			38	縄文時代前期後半	円筒下層c式

表Ⅲ-10 遺構出土掲載土器一覧(1)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体番号
						片	計					
図Ⅲ-3	1	図版41	H-1	覆土			1	Ⅲa	深鉢	口縁		531
図Ⅲ-3	2	図版41	H-1	覆土1			1	Ⅲa	深鉢	口縁		532
図Ⅲ-3	3	図版41	H-1	覆土1			2	Ⅲa	深鉢	口縁		533
図Ⅲ-3	4	図版41	H-1	覆土			1	Ⅲa	深鉢	底		534
図Ⅲ-3	5	図版41	H-1	覆土1			1	Ⅲb	深鉢	口縁		651
図Ⅲ-3	6	図版41	H-1	覆土1			1	Ⅲb	深鉢	胴		652
図Ⅲ-3	7	図版41	H-1	覆土			1	Ⅳa	深鉢	口縁		701
図Ⅲ-3	8	図版41	H-1	覆土上	13	2	5	Ⅳa	深鉢	口~胴		206
			H-1	(試掘)		2						
			M19	Ⅱ		1						
図Ⅲ-3	9	図版41	H-1	覆土上		3	6	Ⅳa	深鉢	口~胴		200
			H-4	覆土2		2						
			M16	Ⅱ		1						
図Ⅲ-3	10	図版41	H-1	覆土上	13	1	7	Ⅳa	深鉢	口~胴		203
			H-1	覆土上	15	5						
			H-1	覆土		1						
図Ⅲ-3	11	図版42	H-1	覆土上	11	44	46	Ⅳa	深鉢	口~底	口径16.0cm・底径7.3cm・器高22.5cm	11
			H-1	覆土上	13	2						
図Ⅲ-3	12a	図版41	H-1	覆土上	4	7	10	Ⅳa	深鉢	口~胴		201①
			H-1	覆土上	13	2						
			M19	Ⅲ		1						
図Ⅲ-3	12b	図版42	H-1	覆土上	5	14	29	Ⅳa	深鉢	胴~底		201②
			H-1	覆土上	9	2						
			H-1	覆土		4						
			H-1	覆土1		2						
			L19	Ⅱ		4						
			M19	Ⅲ		2						
M20	Ⅲ		1									
図Ⅲ-4	13	図版41	H-1	覆土	3	1	6	Ⅳa	深鉢	口~胴		204
			H-1	覆土	13	1						
			H-1	覆土		4						
図Ⅲ-4	14	図版41	H-1	覆土上	15	1	6	Ⅳa	小型深鉢	口~胴		205
			H-1	覆土		3						
			L19	Ⅲ		1						
			M19	Ⅱ		1						
図Ⅲ-4	15	図版42	H-1	覆土上	7		1	Ⅳa	小型深鉢	胴~底	底径4.5cm・器高(9.7)cm	12
図Ⅲ-4	16	図版43	H-1	覆土上	5	1	24	Ⅳa	深鉢	口~胴		13
			H-1	覆土上	11	19						
			H-1	覆土上	13	3						
			K19	Ⅱ		1						
図Ⅲ-4	17	図版43	H-1	覆土上	15		19	Ⅳa	深鉢	口~底	口径13.8cm・底径5.5cm・器高16.1cm	14
図Ⅲ-4	18	図版41	H-1	覆土上	11	1	5	Ⅳa	小型深鉢	胴~底		207
			H-1	覆土上	13	1						
			H-1	覆土		3						
図Ⅲ-4	19	図版41	H-1	覆土上	15	2	3	Ⅳa	小型深鉢	口~胴		208
			K17	Ⅲ		1						
図Ⅲ-4	20	図版41	H-1	覆土上	3		1	Ⅳb	深鉢	口縁		801
図Ⅲ-4	21a	図版41	H-1	覆土上		4	6	Ⅳb	大型深鉢	口~胴		321①
			H-1	(試掘)		2						
図Ⅲ-4	21b	図版41	H-1	(試掘)	3		9	Ⅳb	深鉢	胴		321②
図Ⅲ-4	22	図版41	H-1	覆土上			1	Ⅳb	深鉢	口縁		802

表Ⅲ-11 遺構出土掲載土器一覧(2)

図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号			
						片	計								
Ⅲ-4	23	図版42	H-1	覆土上	6	1	9	IVb	深鉢	口縁		323①			
			H-1	覆土上	9	6									
			H-1	覆土上	15	1									
			L19	II		1									
		図版42	H-1	覆土上	9	1				4				胴	323②
			H-1	覆土上	11	2									
		L19	II		1										
Ⅲ-4	24	図版42	H-1	覆土上	2	2	4	IVb	深鉢	口縁		324			
			H-1	覆土上	9	1									
			L19	II		1									
Ⅲ-5	25	図版42	H-1	覆土上		35	36	IVb	大型深鉢	口~胴		322			
			M21	II		1									
Ⅲ-9	1	図版44	H-2	覆土2			2	IIb	深鉢	胴		502			
Ⅲ-9	2	図版44	H-2	覆土2			1	IIb	深鉢	口縁		501			
Ⅲ-9	3	図版44	H-2	覆土2		1	3	IIIa	深鉢	口縁		110			
			H-6	覆土2		1									
			M17	IV		1									
Ⅲ-9	4	図版44	H-2	覆土2			1	IIIa	深鉢	口縁(突起)		537			
Ⅲ-9	5	図版44	H-2	覆土1			1	IIIa	深鉢	口縁		536			
Ⅲ-9	6	図版44	H-2	覆土1			1	IIIa	深鉢	口縁		535			
Ⅲ-9	7	図版44	H-2	覆土2			1	IIIa	深鉢	口縁(突起)		538			
Ⅲ-9	8	図版44	H-2	覆土1		1	6	IIIa	深鉢	口~胴	図IV-14の61と同一個体	106②			
			H-2	覆土2		2									
			O18	IV		3									
Ⅲ-9	9	図版44	H-2	覆土1		3	15	IIIa	深鉢	口~胴		108			
			H-2	覆土2		6									
			N19	IV		1									
			O18	III		3									
			O18	IV		1									
			O19	III		1									
Ⅲ-9	10	図版44	H-2	覆土1		3	10	IIIa	深鉢	口~胴		107			
			H-2	覆土2		5									
			O18	III		2									
Ⅲ-9	11	図版46	H-2	床面直上	9	11	19	IIIa	深鉢	胴~底		81			
			H-2	覆土2		8									
Ⅲ-9	12	図版44	H-2	覆土2		5	6	IIIa	深鉢	胴~底		109			
			O18	III		1									
Ⅲ-9	13	図版44	H-2	覆土2			1	IIIb	深鉢	口縁		654			
Ⅲ-10	14	図版44	H-2	覆土2			2	IVa	深鉢	口縁		653			
Ⅲ-10	15	図版44	H-2	覆土2			1	IVa	深鉢	胴		702			
Ⅲ-10	16	図版44	H-2	覆土1		1	3	IVa	深鉢	口縁		209			
			O18	IV		1									
			P19	III		1									
Ⅲ-10	17	図版44	H-2	覆土1		1	3	IVa	深鉢	胴		213			
			H-2	覆土2		2									
Ⅲ-10	18	図版46	H-2	床面直上	8	1	4	IVa	小型深鉢	口~底	口径8.0cm・底径4.4cm・ 器高9.8cm	24			
			N20	III		3									
Ⅲ-10	19	図版44	H-2	覆土1		1	2	IVa	深鉢	口縁		704			
			H-2	覆土2		1									
Ⅲ-10	20	図版44	H-2	覆土1			1	IVa	深鉢	口縁		703			
Ⅲ-10	21	図版44	H-2	覆土1		1	7	IVa	深鉢	口~胴		211①			
			H-2	覆土2		6									
Ⅲ-10	22	図版44	H-2	覆土2	7		1	IVa	深鉢	底		706			

表Ⅲ-12 遺構出土掲載土器一覧(3)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号	
						片	計						
図Ⅲ-10	23a	図版45	H-2	覆土2		2	3	Ⅳa	深鉢	口縁		218①	
			O18	Ⅲ		1							
			図版45	H-2	覆土2		1			6		洞	218②
				H-6	覆土2		4						
				O18	Ⅲ		1						
図版45	H-2	覆土1		2	14	洞	218③						
	H-2	覆土2		12									
図Ⅲ-10	23b	図版45	H-2	覆土1		1	2			底		218④	
			H-2	覆土2		1							
図Ⅲ-10	24	図版46	H-2	覆土2		17	20	Ⅳa	深鉢	口～底	口径16.8cm・底径5.5cm・ 器高20.6cm	33	
			H-2HP-4	覆土		3							
図Ⅲ-10	25a	図版45	H-2	覆土2			3	Ⅳa	小型深鉢	口～胴		212①	
図Ⅲ-10	25b	図版45	H-2	覆土1			3			口縁		212②	
図Ⅲ-11	26	図版46	H-2	覆土1		5	59	Ⅳa	深鉢	口～底	口径22.6cm・底径7.4cm・ 器高25.3cm	15	
			H-2	覆土2	2	31							
			H-2	覆土2		23							
図Ⅲ-11	27	図版45	H-2	覆土1		6	9	Ⅳb	深鉢	口～胴		216	
			H-2	覆土2	1	2							
			H-6	覆土2		1							
図Ⅲ-11	28	図版46	H-2	覆土1		1	9	Ⅳb	小型深鉢	胴～底	底径5.0cm・ 器高(9.5)cm	25	
			H-2	覆土2	2	4							
			H-2	覆土2		2							
			N19	Ⅲ		2							
図Ⅲ-11	29a	図版45	H-2	覆土2		2	4	Ⅳb	深鉢	口縁		217①	
			H-2	覆土2		1							
			O16	Ⅱ		1							
図Ⅲ-11	29b	図版45	H-2	覆土1		2	3			口縁		217②	
			O17	Ⅲ		1							
図Ⅲ-11	30a	図版45	H-2	覆土2			3	Ⅳb	深鉢	口縁		210②	
図Ⅲ-11	30b	図版45	H-1	覆土上	15	1	2			洞		210③	
			H-2	覆土2	2	1							
図Ⅲ-11	30c	図版45	H-2	覆土1		6	14			胴～底		210①	
			H-2	覆土2	2	3							
			H-2	覆土2		5							
図Ⅲ-11	31	図版45	H-2	覆土2			2	Ⅳb	深鉢	口縁		326	
図Ⅲ-11	32	図版45	H-2	覆土2			1	Ⅳb	深鉢	口縁		804	
図Ⅲ-11	33	図版45	H-2	覆土2	4	7	29	Ⅳb	深鉢	口～底		325	
			H-2	覆土1		22							
図Ⅲ-15	1	図版48	H-3	覆土1		2	7	Ⅲa	深鉢	口縁		112	
			P-1	覆土1		1							
			P-1	覆土2		4							
図Ⅲ-15	2	図版48	H-3	覆土2			2	Ⅲa	深鉢	口縁		540	
図Ⅲ-15	3	図版48	H-3	覆土1			2	Ⅲa	深鉢	口縁		541	
図Ⅲ-15	4	図版48	H-3	覆土R		2	14	Ⅲa	深鉢	口～胴	図Ⅲ-55の1と同一個体	111②	
			H-3	覆土2		11							
			P-1	覆土2		1							
図Ⅲ-15	5	図版48	H-3	覆土R			4	Ⅲb	深鉢	底		171	
図Ⅲ-15	6	図版48	H-3	覆土2			4	Ⅳa	深鉢	口～胴		219	
図Ⅲ-18	1	図版49	H-4	覆土1			1	Ⅲa	深鉢	口縁		544	
図Ⅲ-18	2	図版49	H-4	覆土2			1	Ⅲa	深鉢	口縁		543	
図Ⅲ-18	3	図版49	H-4	覆土2			1	Ⅲa	深鉢	洞		545	
図Ⅲ-18	4	図版49	H-4	覆土1	5	4	7	Ⅳa	深鉢	口縁		221	
			H-4	覆土1		3							

表Ⅲ-13 遺構出土掲載土器一覽(4)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図Ⅲ-18	5	図版49	H-4	覆土2			1	IVa	深鉢	口縁		708
図Ⅲ-18	6	図版49	H-4	覆土1		3	5	IVa	深鉢	口縁		229
			M16	II		1						
			M16	IV		1						
図Ⅲ-18	7	図版49	H-4	覆土1		2	9	IVa	深鉢	口~胴		227
			O15	III		6						
			P15	III		1						
図Ⅲ-18	8	図版49	H-4	覆土2			2	IVa	大型深鉢	口縁		220
図Ⅲ-18	9	図版49	H-4	覆土	7		4	IVa	深鉢	口~胴		223
図Ⅲ-18	10	図版49	H-4	覆土1	4	4	33	IVa	深鉢	口~胴		224
			H-4	覆土2		29						
図Ⅲ-18	11a	図版49	H-4	覆土1	2		1	IVa	深鉢	口縁		228①
図Ⅲ-18	11b	図版49	H-4	覆土1	5		2			胴		228②
図Ⅲ-18	12	図版49	H-4	覆土1		3	4	IVa	小型深鉢	口~底		222①
			O16	III		1						
		図版49	O16	III		2	4			口~胴		222②
			O16	IV		2						
図Ⅲ-18	13	図版49	H-4	覆土1		1	5	IVa	小型深鉢	口~胴		230
			N16	II		4						
図Ⅲ-18	14	図版49	H-4	覆土1			1	IVa	小型深鉢	底		709
図Ⅲ-19	15	図版49	N19	II		1	2	IVa	深鉢	口~胴		226①
			N19	IV	1-3	1						
		図版49	H-4	覆土1		5	6			胴		226②
			N16	II		1						
図Ⅲ-19	16	図版49	H-4	覆土1	1	1	3	IVa	深鉢	口~胴		225
			H-4	覆土1		2						
図Ⅲ-19	17	図版50	H-4	覆土1			1	IVb	深鉢	胴		805
図Ⅲ-19	18	図版50	H-4	覆土2			1	Vb	壺	口縁		861
図Ⅲ-19	19	図版50	H-4	覆土1			4	Vb	鉢	口縁		378
図Ⅲ-19	20	図版50	H-4	覆土1	2		3	Vb	鉢	口縁		376
図Ⅲ-19	21	図版50	H-4	覆土1	1	4	18	Vb	深鉢	口~胴		373
			H-4	覆土1		13						
			H-4	覆土2		1						
図Ⅲ-19	22	図版50	H-4	覆土1	4		12	Vb	深鉢	口~胴		374
図Ⅲ-19	23	図版50	H-4	覆土1		4	5	Vb	深鉢	口縁		375
			H-4	覆土2		1						
図Ⅲ-19	24	図版50	H-4	覆土1		5	8	Vb	深鉢	口~胴		372
			H-4	覆土2		3						
図Ⅲ-22	1	図版51	H-5	覆土1			1	IIIa	深鉢	口縁		546
図Ⅲ-22	2	図版51	H-5	覆土3			1	IIIa	深鉢	口縁		547
図Ⅲ-22	3	図版51	H-5	覆土3			1	IIIa	深鉢	胴		549
図Ⅲ-22	4	図版51	H-5	覆土3			1	IIIa	深鉢	胴		550
図Ⅲ-22	5	図版51	H-5	覆土3			1	IIIa	深鉢	口縁		548
図Ⅲ-22	6	図版51	H-5	覆土3			1	IIIb	深鉢	口縁		655
図Ⅲ-22	7	図版51	H-5	覆土1		1	15	IVa	小型深鉢	口~胴	口径10.2cm・底径5.3cm・ 器高12.5cm	22
			H-5	覆土3		1						
			P15	II		1						
			P15	III		8						
			Q15	III		2						
			Q16	IV		2						
図Ⅲ-22	8	図版51	H-5	覆土1			4	IVa	小型深鉢	胴		231
図Ⅲ-22	9	図版51	H-5	覆土1			1	IVb	深鉢	口縁		711
図Ⅲ-24	1	図版52	H-6	覆土2			1	IIIa	深鉢	胴		551

表Ⅲ-14 遺構出土掲載土器一覧(5)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体番号
						片	計					
図Ⅲ-24	2	図版52	H-6	覆土2			2	Ⅲa	深鉢	胴		552
図Ⅲ-24	3	図版52	H-6	覆土2			1	Ⅲb	深鉢	口縁		656
図Ⅲ-24	4	図版52	H-6	覆土1		3	15	Ⅳa	深鉢	口~胴		233
			H-6	覆土2		4						
			L18	Ⅱ		2						
			L18	Ⅲ		6						
図Ⅲ-24	5	図版52	H-6	覆土1			1	Ⅳa	深鉢	胴		714
図Ⅲ-24	6	図版52	H-6	覆土2			1	Ⅳa	壺	胴	赤彩	91
図Ⅲ-24	7	図版52	H-6	覆土1		1	2	Ⅳa	深鉢	口縁		713
			H-6	覆土2		1						
図Ⅲ-24	8	図版52	H-6	覆土2			23	Ⅳa	小型壺	口~底	口径6.3cm・底径5.5cm・器高13.6cm	16
図Ⅲ-24	9	図版52	H-6	覆土2			10	Ⅳa	深鉢	胴		234
図Ⅲ-24	10	図版52	H-6	覆土2			9	Ⅳb	深鉢	胴		235
図Ⅲ-24	11a	図版52	H-6	覆土2			6	Ⅳb	深鉢	口~胴		236②
図Ⅲ-24	11b	図版52	H-6	覆土2		2	3			口縁		236①
			O18	Ⅲ		1						
図Ⅲ-24	12	図版52	H-6	覆土1		1	2	Ⅳb	深鉢	口縁		806
			H-6	覆土2		1						
図Ⅲ-24	13	図版52	H-6	覆土1		1	2	Ⅳb	鉢	口縁		232
			H-6	覆土2		1						
図Ⅲ-24	14	図版52	H-6	Ⅲ			2	Ⅳc	深鉢	口~胴		361
図Ⅲ-24	15	図版52	H-6	覆土1			1	Ⅴb	鉢	胴		862
図Ⅲ-27	1	図版53	H-7	覆土2	2	82	90	Ⅲa	深鉢	口~胴	口径22.3cm・器高(22.2)cm	3
			H-7	覆土2		8						
図Ⅲ-27	2a	図版53	H-7	覆土1	1		11	Ⅲa	深鉢	口~胴		113①
図Ⅲ-27	2b	図版53	H-7	覆土1	1		6			底		113②
図Ⅲ-28	3	図版53	H-7	覆土2			3	Ⅲa	深鉢	胴		557
図Ⅲ-28	4	図版53	H-7	覆土2	2		1	Ⅲa	深鉢	口縁		555
図Ⅲ-28	5	図版53	H-7	覆土2	2		1	Ⅲa	深鉢	胴		558
図Ⅲ-28	6	図版53	H-7	覆土2			1	Ⅲa	深鉢	口縁		553
図Ⅲ-28	7	図版53	H-7	覆土1			1	Ⅲa	深鉢	口縁		554
図Ⅲ-28	8	図版53	H-7	覆土2			1	Ⅲb	深鉢	口縁		657
図Ⅲ-28	9	図版53	H-7	覆土2			1	Ⅲb	深鉢	口縁		658
図Ⅲ-28	10	図版53	H-7	覆土2			1	Ⅳa	深鉢	胴		716
図Ⅲ-28	11	図版53	H-7	覆土1	1		2	Ⅳa	深鉢	胴		717
図Ⅲ-28	12	図版53	H-7	覆土2			1	Ⅳb	深鉢	口縁		715
図Ⅲ-28	13	図版53	H-7	覆土2			2	Ⅳb	深鉢	底		718
図Ⅲ-33	1	図版55	H-10	覆土中			2	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		559
図Ⅲ-33	2	図版55	H-10	覆土下			1	Ⅲa	深鉢	口縁		560
図Ⅲ-33	3	図版55	H-10	覆土1	1		1	Ⅲa	深鉢	口縁		561
図Ⅲ-33	4	図版55	H-10	覆土中			1	Ⅲa	深鉢	口縁		562
図Ⅲ-33	5	図版55	H-10	覆土下			15	Ⅲb	深鉢	口~胴		173
図Ⅲ-33	6	図版55	H-10	床面		11	12	Ⅲb	深鉢	胴~底		172
			H-10	覆土下		1						
図Ⅲ-33	7	図版55	H-10	覆土中			1	Ⅲb	深鉢	口縁		659
図Ⅲ-33	8	図版55	H-10	覆土上			3	Ⅴb	深鉢	口縁		863
図Ⅲ-34	1	図版55	H-11	覆土			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		563
図Ⅲ-37	1	図版55	H-12	覆土1	2		1	Ⅲa	深鉢	胴		564
図Ⅲ-37	2	図版55	H-12	覆土1	1	1	3	Ⅳa	深鉢	口縁		719
			H-12	覆土1		2						
図Ⅲ-37	3	図版55	H-12	覆土1	1	5	8	Ⅳa	深鉢	口~胴		238
			H-12	覆土1	2	1						

表Ⅲ-15 遺構出土掲載土器一覧(6)

図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
			K19	覆土		2						
図Ⅲ-37	4	図版55	H-12	覆土2	土器1	1	2	IVa	小型深鉢	口~胴		237
			K21	IV		1						
図Ⅲ-37	5	図版55	H-12	覆土1	2	4	IVa	小型深鉢	胴~底		328	
図Ⅲ-37	6	図版55	H-12	覆土1		2	IVa	小型深鉢	底		720	
図Ⅲ-37	7	図版55	H-12	床面		25	100	IVa	大型深鉢	口~胴	口径25.2cm・底径12.5cm・ 器高37.2cm	17
			H-12	床面	土器1	33						
			H-12	覆土2		36						
			J20	II		6						
図Ⅲ-37	8	図版55	H-12	覆土1	1	1	54	IVb	注口	口~胴	口径7.5cm・底径2.3cm・ 器高13.2cm	26
			H-12	覆土2	2	52						
			H-12	覆土2		1						
図Ⅲ-37	9	図版55	H-12	覆土1	2	1	IVb	深鉢	胴		807	
図Ⅲ-37	10	図版55	H-12	覆土1	4	1	IVc	壺	胴		831	
図Ⅲ-37	11	図版56	H-12	覆土1	1	9	Va	深鉢	口~胴		371	
図Ⅲ-39	1	図版56	H-13	覆土1		1	IVa	深鉢	口縁		721	
図Ⅲ-39	2	図版56	H-13	覆土1	4	1	IVc	鉢	口縁		832	
図Ⅲ-39	3	図版56	H-13	風倒木	4	1	IVc	深鉢	胴		833	
図Ⅲ-39	4	図版56	H-13	風倒木	4	2	IVc	深鉢	胴		834	
図Ⅲ-55	1	図版57	P-1	覆土2		1	IIIa	深鉢	口縁	図Ⅲ-15の4と同一個体	111①	
図Ⅲ-55	2	図版57	P-1	覆土		4	IIIa	深鉢	口縁		114	
図Ⅲ-55	4	図版57	P-2	覆土4		1	IIIa	深鉢	胴		565	
図Ⅲ-55	7	図版57	P-10	覆土1		1	IIIa	深鉢	口縁		566	
図Ⅲ-55	9	図版57	P-13	覆土		2	IVa	深鉢	口縁		722	
図Ⅲ-55	10	図版57	P-14	覆土1	1	1	IVa	深鉢	胴		725	
図Ⅲ-55	11	図版57	P-14	覆土		1	IVb	深鉢	口縁		723	
図Ⅲ-55	12	図版57	P-14	覆土		1	IVb	深鉢	口縁		808	
図Ⅲ-55	13	図版57	P-15	覆土		3	IIIa	深鉢	口縁		567	
図Ⅲ-56	18	図版57	P-27	覆土		1	IIb	深鉢	胴		507	
図Ⅲ-56	19	図版57	P-27	覆土		1	IVa	深鉢	口縁		727	
図Ⅲ-56	20	図版57	P-28	覆土		4	5	IIIa	深鉢	胴~底		116
			O17	IV		1						
図Ⅲ-56	22	図版57	P-29	覆土		4	IIIb	深鉢	胴		660	
図Ⅲ-56	24	図版57	P-30	覆土		1	IIb	深鉢	胴		508	
図Ⅲ-56	25	図版57	P-30	覆土		1	IIIa	深鉢	口縁		568	
図Ⅲ-56	26	図版57	P-30	覆土	1	1	IVa	深鉢	底		728	
図Ⅲ-56	27	図版57	P-33	覆土		2	IIIb	深鉢	口~胴	図Ⅳ-16の97と同一個体	175②	
図Ⅲ-56	29	図版57	P-35	覆土1		1	IIIa	深鉢	口縁		569	
図Ⅲ-57	30	図版57	P-36	覆土		1	IIIa	深鉢	口縁		570	
図Ⅲ-57	31	図版57	P-36	覆土		11	IIIa	深鉢	口~胴		117	
図Ⅲ-57	34	図版57	P-40	覆土		1	IIIa	深鉢	口縁		571	
図Ⅲ-57	36	図版57	P-41	覆土		2	IIb	深鉢	胴		509	
図Ⅲ-57	37a	図版57	P-42	覆土		1	IIb	深鉢	口縁		101①	
図Ⅲ-57	37b	図版57	P-42	覆土3	1	2	5		胴			101②
			P-42	覆土3		2						
			P-42	覆土		1						
図Ⅲ-57	38	図版57	P-42	覆土3		1	IIb	深鉢	胴		510	
図Ⅲ-57	39	図版57	P-42	覆土		3	IIb	深鉢	胴		511	
図Ⅲ-57	40	図版57	P-42	覆土3		1	IIIa	深鉢	胴		572	
図Ⅲ-57	41	図版57	P-42	覆土		2	IIIa	深鉢	底		573	
図Ⅲ-58	42	図版57	P-43	覆土		2	IIIa	深鉢	口縁		574	
図Ⅲ-58	44	図版58	P-45	覆土2		9	IIIa	深鉢	口~胴		118	
図Ⅲ-58	45	図版58	P-46	覆土	2	2	IIIa	深鉢	口縁		576	

表Ⅲ-16 遺構出土掲載土器一覧(7)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図Ⅲ-58	46	図版58	P-46	覆土	2		1	Ⅲa	深鉢	口～胴		575
図Ⅲ-58	47	図版58	P-46	覆土1			13	Ⅲa	深鉢	胴		119
図Ⅲ-59	50	図版58	P-47	覆土		10	14	Ⅲa	深鉢	口～胴		120
			N17	IV		4						
図Ⅲ-59	51	図版59	P-47	覆土上		7	29	Ⅲa	深鉢	口～胴	口径18.5cm・ 器高(19.7)cm	4
			N16	IV		1						
			N17	Ⅲ		1						
			N17	IV		18						
			O17	Ⅲ		1						
			O17	IV		1						
図Ⅲ-59	56	図版58	P-48	覆土1		2	4	Ⅲa	深鉢	口縁		121
			O17	Ⅲ		2						
図Ⅲ-59	57	図版59	P-50	IV		20	22	Ⅱb	小型深鉢	口～胴	口径9.5cm・底径7.0cm・ 器高13.0cm	2
			O22	IV		2						
図Ⅲ-59	58	図版58	P-52	覆土		2	3	Ⅲa	深鉢	口縁		578
			H17	IV		1						
図Ⅲ-60	59a	図版58	P-55	覆土1	1		5	Ⅲa	深鉢	口縁		83①
図Ⅲ-60	59b	図版59	P-55	覆土1	1	4	16			底		83②
			M19	Ⅲ		11						
			M20	IV		1						
図Ⅲ-60	60	図版58	P-55	覆土1			5	Ⅲa	深鉢	口～胴		176
図Ⅲ-60	61	図版58	P-55	覆土1	1		1	Ⅲa	深鉢	底		579
図Ⅲ-60	64	図版58	P-66	覆土			1	Ⅲa	深鉢	胴		582
図Ⅲ-66	1	図版61	F-8	焼土			3	Ⅲb	深鉢	口縁		177①
		図版61	F-8	焼土			4			胴		177②
		図版61	F-8	焼土			2			底		177③
図Ⅲ-66	2	図版61	F-8	焼土			1	Ⅲb	深鉢	胴		178②
図Ⅲ-66	4	図版61	F-17	焼土			1	Ⅲa	深鉢	胴		583
図Ⅲ-66	5	図版61	F-18	焼土			1	Ⅲa	深鉢	口縁		584
図Ⅲ-70	1	図版62	遺物集中1	IV			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		585
図Ⅲ-70	2	図版62	遺物集中1	IV			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		586
図Ⅲ-70	3	図版62	遺物集中1	IV		1	6	Ⅲa	深鉢	口～胴		128
			P19	IV		3						
			P20	Ⅱ		1						
			P20	Ⅲ		1						
図Ⅲ-70	4	図版62	遺物集中1	Ⅲ		4	8	Ⅲa	深鉢	胴		127
			P21	Ⅱ		4						
図Ⅲ-70	5	図版62	遺物集中1	Ⅲ		5	6	Ⅲa	深鉢	口～胴		125①
			遺物集中1	IV		1						
			図版62	遺物集中1	Ⅲ							
図Ⅲ-70	6	図版63	遺物集中1	IV	1	5	19	Ⅲa	深鉢	口～底	口径(19.5)cm・底径7.3cm・ 器高25.3cm	5
			遺物集中1	IV		3						
			遺物集中1	Ⅲ		7						
			P21	Ⅱ		4						
図Ⅲ-70	7	図版62	遺物集中1	Ⅲ			6	Ⅲa	深鉢	口～胴		123①
		図版62	遺物集中1	Ⅲ			10			口～底		123②
図Ⅲ-71	8	図版62	遺物集中1	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		587
図Ⅲ-71	9	図版62	遺物集中1	IV			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		588
図Ⅲ-71	10	図版62	遺物集中1	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		589
図Ⅲ-71	11	図版62	遺物集中1	Ⅲ			2	Ⅲa	深鉢	口縁		729
図Ⅲ-71	12a	図版62	遺物集中1	IV		2	3	Ⅲa	深鉢	口縁		126①
			P21	Ⅱ		1						
図Ⅲ-71	12b	図版62	遺物集中1	Ⅲ		1	2	Ⅲa	深鉢	口～胴		126②

表Ⅲ-17 遺構出土掲載土器一覽(8)

図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号				
						片	計									
			遺物集中1	IV		1										
Ⅲ-71	13	図版62	遺物集中1	Ⅲ			9	Ⅲa	深鉢	口~胴		122				
Ⅲ-71	14	図版63	遺物集中1	IV	3		83	Ⅲa	深鉢	口~底	口径20.5cm・底径10.3cm・ 器高24.0cm	6				
Ⅲ-71	15	図版63	遺物集中1	IV			19	Ⅲa	小型深鉢	口~底	口径(13.4)cm・底径6.1cm・ 器高(15.3)cm	7				
Ⅲ-71	16	図版62	遺物集中1	IV			11	Ⅲa	深鉢	口~胴		124				
Ⅲ-71	17	図版63	遺物集中1	Ⅲ		19	35	Ⅲa	鉢	口~底	口径20.5cm・底径10.8cm・ 器高12.8cm、把手付き	8				
			遺物集中1	IV		16										
Ⅲ-71	18	図版62	遺物集中1	Ⅲ			2	IVa	深鉢	口縁		730				
Ⅲ-74	1	図版64	遺物集中2	Ⅲ			2	Ⅲa	深鉢	胴		592				
Ⅲ-74	2	図版64	遺物集中2	Ⅲ			1	IVa	深鉢	胴		731				
Ⅲ-74	3a	図版64	遺物集中2	Ⅲ			2	IVb	深鉢	口縁		329①				
Ⅲ-74	3b	図版64	遺物集中2	Ⅲ		3	胴				329②					
Ⅲ-74	4	図版64	遺物集中2	Ⅲ		1	20	Vb	深鉢	口~胴		379				
			R17	II		19										
Ⅲ-74	5	図版64	遺物集中2	Ⅲ			1	Vb	鉢	胴		864				
Ⅲ-76	1	図版64	遺物集中3	Ⅲ			5	Ⅲb	深鉢	口~胴		179				
Ⅲ-76	2	図版64	遺物集中3	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	底		661				
Ⅲ-76	3	図版64	遺物集中3	Ⅲ	1	20	34	IVa	大型深鉢	口~胴		240				
			遺物集中3	Ⅲ		1										
			L17	Ⅲ		4										
			L17	IV		9										
Ⅲ-76	4	図版64	遺物集中3	Ⅲ	2	1	2	IVa	深鉢	口縁		241				
			M16	IV		1										
Ⅲ-76	5	図版64	遺物集中3	Ⅲ	4		1	IVa	鉢	口縁		732				
Ⅲ-76	6	図版65	遺物集中3	Ⅲ	2	19	24	IVa	深鉢	口~胴		239				
			M16	IV		5										
Ⅲ-77	7	図版65	遺物集中3	Ⅲ	1		6	IVb	深鉢	口縁		331①				
			遺物集中3	Ⅲ	1	7				8	胴		331②			
			L17	Ⅲ		1										
Ⅲ-77	8	図版65	遺物集中3	Ⅲ	2	1	2	Vb	深鉢	口縁		380				
			遺物集中3	Ⅲ		1										
Ⅲ-77	9	図版65	遺物集中3	Ⅲ	3		1	Vb	鉢	胴		873				
Ⅲ-79	1	図版66	遺物集中4	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	胴		593				
Ⅲ-79	2	図版66	遺物集中4	Ⅲ			12	IVa	小型深鉢	口~胴		243①				
			遺物集中4	Ⅲ			4			底		243②				
Ⅲ-79	3	図版66	遺物集中4	Ⅲ			3	IVa	鉢	底		332				
Ⅲ-79	4	図版66	遺物集中4	Ⅲ	1		1	IVa	深鉢	胴		733				
Ⅲ-79	5	図版66	遺物集中4	Ⅲ			4	IVa	深鉢	胴		244				
Ⅲ-79	6	図版66	遺物集中4	Ⅲ		9	21	IVb	深鉢	口~胴		333①				
			L17	II		2										
			L17	Ⅲ		10										
			遺物集中4	Ⅲ		9							11	口~胴		333②
			L17	Ⅲ		2										
Ⅲ-79	7	図版66	遺物集中4	Ⅲ			2	IVb	深鉢	口縁		809				
Ⅲ-81	1	図版67	遺物集中5	Ⅲ	3	1	3	IVa	深鉢	口~胴		250				
			遺物集中5	Ⅲ		2										
Ⅲ-81	2	図版67	遺物集中5	Ⅲ			2	IVa	深鉢	口縁		735				
Ⅲ-81	3	図版67	遺物集中5	Ⅲ		2	3	IVa	鉢	口~胴		248				
			J18	II		1										
Ⅲ-81	4	図版67	遺物集中5	Ⅲ	3		5	IVa	深鉢	口縁		245				
Ⅲ-81	5a	図版67	遺物集中5	Ⅲ	3	1	2	IVa	深鉢	口縁		251①				

表III-18 遺構出土掲載土器一覧(9)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体番号
						片	計					
			J17	II		1						
図III-81	5b	図版67	J17	II			3			胴		251②
図III-81	6	図版67	遺物集中5	III	3	3	20	IVa	深鉢	口~胴		252
			遺物集中5	III		10						
			J19	III		1						
			K19	III		5						
			K19	IV		1						
図III-81	7	図版67	遺物集中5	III	3	3	5	IVa	深鉢	口縁		249
			遺物集中5	III		2						
図III-81	8	図版67	遺物集中5	III	3		2	IVa	鉢	口縁		734
図III-81	9	図版68	遺物集中5	II		2	85	IVa	深鉢	口~胴	口径21.8cm・底径9.5cm・器高32.8cm	18
			遺物集中5	III	3	76						
			遺物集中5	III		5						
			J18	II		2						
図III-82	10	図版67	遺物集中5	III			1	IVa	壺	胴		813
図III-81	11	図版67	遺物集中5	III		1	2	IVa	深鉢	底		738
			遺物集中5	III	4	1						
図III-81	12	図版67	遺物集中5	III	3	1	3	IVa	深鉢	口縁		246
			J18	IV		2						
図III-81	13	図版67	遺物集中5	III	4	1	2	IVb	深鉢	口縁		247
			遺物集中5	III		1						
図III-81	14	図版67	遺物集中5	III	2		1	IVb	深鉢	口縁		811
図III-81	15	図版67	遺物集中5	III	2		1	IVb	深鉢	口縁		810
図III-81	16	図版67	遺物集中5	III	5		2	IVb	深鉢	胴		815
図III-82	17	図版67	遺物集中5	III			1	IVb	鉢	口縁		812
図III-82	18	図版67	遺物集中5	III	6		1	IVc	深鉢	胴		814
図III-82	19	図版67	遺物集中5	III	2		3	IVc	鉢	口縁		835
図III-82	20	図版67	遺物集中5	III	5		1	IVc	鉢	口縁		836
図III-82	21a	図版67	遺物集中5	III	2		3	IVc	深鉢	口縁		365①
図III-82	21b	図版67	遺物集中5	III	2		8			胴		365②
図III-82	22	図版67	遺物集中5	III			1	IVc	深鉢	胴		837
図III-82	23	図版67	遺物集中5	III		5	6	IVc	深鉢	胴		363
			遺物集中5	III	5	1						
図III-82	24a	図版68	遺物集中5	III	2		6	IVc	注口	胴		362①
図III-82	24b	図版68	遺物集中5	III	2		3			底		362②
図III-82	25	図版68	遺物集中5	III	2		4	IVc	深鉢	底		364
図III-82	26	図版68	遺物集中5	III	5	1	3	Vb	鉢	口縁		381
			遺物集中5	III	6	1						
			J19	III		1						
図III-84	1	図版69	埋設土器1	IV		34	39	IIIb	深鉢	口~胴	口径16.3cm・器高(12.3)cm	10
			Q17	IV		5						
図III-84	2	図版69	埋設土器2	IV		28	29	IIIb	深鉢	口~胴	約2/3欠損	180
			N17	IV		1						
図III-84	3	図版69	埋設土器3	IV			165	IIb	深鉢	口~底	口径22.3cm・底径12.2cm・器高57.0cm	1

表III-19 遺構出土掲載土製品一覧

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図III-11	34	図版46	H-2	覆土		1	土製円盤	4.3	(2.6)	0.7	8.3	半損	60
図III-71	19a	図版46	遺物集中1	III		1	土偶	(3.4)	3.6	3.1	12.9	頭部	52①
図III-71	19b	図版46	遺物集中1	III		1		(5.5)	(3.5)	1.9	27.2	体部	52②
図III-77	10	図版65	遺物集中3	III		1	土製円盤	4.0	4.0	1.0	15.9		61

表Ⅲ-20 遺構出土掲載石器等一覧(1)

挿図番号	掲載番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	実測 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-6	26	図版43	H-1	覆土1		石鏃	頁岩	(3.1)	1.2	0.7	2.4		3
図Ⅲ-6	27	図版43	H-1HP-1	覆土		石鏃	頁岩	3.1	1.4	0.5	1.4		1
図Ⅲ-6	28	図版43	H-1	覆土上面(Ⅲ)	3	石鏃	頁岩	4.2	2.5	0.7	4.4	L19区	2
図Ⅲ-6	29	図版43	H-1	覆土3		石錐	頁岩	(4.2)	1.7	1.1	5.6		4
図Ⅲ-6	30	図版43	H-1	覆土2		スクレイパー	めのう	3.1	2.6	0.8	8.4		10
図Ⅲ-6	31	図版43	H-1	(B調)		スクレイパー	頁岩	6.5	3.3	1.1	30.4	SP30800C	11
図Ⅲ-6	32	図版43	H-1	覆土上面(Ⅲ)	2	スクレイパー	頁岩	6.0	3.6	0.9	15.2	L19区	5
図Ⅲ-6	33	図版43	H-1	覆土2		スクレイパー	頁岩	7.6	4.9	1.5	53.6		9
図Ⅲ-6	34	図版43	H-1	覆土1		スクレイパー	頁岩	3.2	4.1	0.9	10.5		7
図Ⅲ-6	35	図版43	H-1	覆土1		スクレイパー	頁岩	3.8	3.4	1.5	10.9		8
図Ⅲ-6	36	図版43	H-1	覆土1		スクレイパー	頁岩	2.8	3.7	0.6	8.1		6
図Ⅲ-6	37	図版43	H-1	覆土上面(Ⅲ)	4	くぼみ石	泥岩	19.8	6.3	2.6	1455.0	L19区	101
図Ⅲ-6	38	図版43	H-1	覆土上面(Ⅲ)		扁平打製石器	安山岩	9.5	14.6	2.8	403.0	L19区	103
図Ⅲ-6	39	図版43	H-1HP-2	覆土1		扁平打製石器	安山岩	8.5	15.7	5.0	742.0		104
図Ⅲ-6	40	図版43	H-1	覆土3		扁平打製石器	安山岩	9.0	16.5	3.7	698.0		102
			K20	IV									
図Ⅲ-6	41	図版43	H-1	覆土		三脚石器	泥岩	4.9	5.6	2.1	48.0	未成品	12
図Ⅲ-12	35	図版47	H-2	覆土2		石鏃	頁岩	2.6	1.0	0.4	0.9		13
図Ⅲ-12	36	図版47	H-2	覆土2		石鏃	頁岩	3.0	1.41	0.5	1.6		14
図Ⅲ-12	37	図版47	H-2	覆土1		石鏃	頁岩	3.4	1.2	0.5	1.4		15
図Ⅲ-12	38	図版47	H-2	覆土2		石鏃	頁岩	(2.7)	1.6	0.4	0.7		16
図Ⅲ-12	39	図版47	H-2	覆土1		石鏃	黒曜石	(2.6)	1.9	0.5	1.7	産地同定	17
図Ⅲ-12	40	図版47	H-2	覆土2		石鏃	頁岩	3.9	2.6	1.1	6.0	未成品	18
図Ⅲ-12	41	図版47	H-2	覆土2		石錐	頁岩	6.7	3.1	1.4	27.1	石槍未成品?	19
図Ⅲ-12	42	図版47	H-2	覆土2		石錐	頁岩	3.5	1.1	0.5	2.0		20
図Ⅲ-12	43	図版47	H-2HP-4	覆土		石錐	頁岩	3.5	2.0	0.4	2.6		21
図Ⅲ-12	44	図版47	H-2	覆土1		両面調整石器	頁岩	4.1	2.1	1.0	7.7		22
図Ⅲ-12	45	図版47	H-2	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	4.2	2.3	0.5	3.9		23
図Ⅲ-12	46	図版47	H-2	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	5.2	2.8	0.8	10.1		24
図Ⅲ-12	47	図版47	H-2	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	5.7	3.1	0.8	13.5		25
図Ⅲ-12	48	図版47	H-2	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	6.6	2.6	0.7	13.7		26
図Ⅲ-12	49	図版47	H-2	覆土2		ナイフ	頁岩	7.3	3.3	1.4	25.9		27
図Ⅲ-12	50	図版47	H-2	覆土1		スクレイパー	頁岩	4.9	3.6	1.1	19.2		28
図Ⅲ-12	51	図版47	H-2	覆土2		スクレイパー	頁岩	4.6	3.0	0.7	11.8		29
図Ⅲ-12	52	図版47	H-2	覆土1		スクレイパー	頁岩	4.9	3.5	0.7	15.2		30
図Ⅲ-12	53	図版47	H-2	覆土2		スクレイパー	頁岩	8.4	5.0	1.0	37.8		32
図Ⅲ-12	54	図版47	H-2	覆土2		スクレイパー	頁岩	6.2	4.6	0.6	14.2		31
図Ⅲ-13	55	図版47	H-2	覆土2	6	石斧	緑色片岩	8.3	3.4	1.2	72.3		105
図Ⅲ-13	56	図版47	H-2	覆土(根)		たたき石	頁岩	7.6	5.6	5.1	309.0		106
図Ⅲ-13	57	図版47	H-2	覆土2		たたき石	安山岩	10.3	7.8	6.2	730.0		107
図Ⅲ-13	58	図版47	H-2	覆土2		たたき石	安山岩	15.8	5.3	4.9	499.0		108
図Ⅲ-13	59	図版47	H-2	覆土2		扁平打製石器	安山岩	9.2	14.1	4.5	600.0		110
図Ⅲ-13	60	図版47	H-2	覆土1		扁平打製石器	砂岩	7.9	11.6	3.6	418.0		109
図Ⅲ-15	7	図版48	H-3	覆土R		スクレイパー	頁岩	7.0	5.4	1.6	55.1		33
図Ⅲ-15	8	図版48	H-3	覆土1		たたき石	珪岩	6.4	5.1	4.2	196.6		111
図Ⅲ-15	9	図版48	H-3	覆土R		たたき石	砂岩	10.0	8.6	4.9	574.0		112
図Ⅲ-15	10	図版48	H-3	覆土1		扁平打製石器	砂岩	9.7	15.8	3.1	514.0		113
			S14	IV									
図Ⅲ-15	11	図版48	H-3	覆土2		扁平打製石器	安山岩	8.7	16.3	3.5	594.0		114
図Ⅲ-15	12	図版48	H-3	覆土1		扁平打製石器	安山岩	8.0	14.6	3.5	461.0		115
図Ⅲ-15	13	図版48	H-3HP-1	覆土		扁平打製石器	安山岩	6.5	11.6	2.8	291.0		116
図Ⅲ-20	25	図版50	H-4	覆土2		石鏃	片岩	3.2	1.5	0.3	1.2		34
図Ⅲ-20	26	図版50	H-4	覆土1		石鏃	頁岩	(2.1)	1.6	0.3	0.7		35
図Ⅲ-20	27	図版50	H-4	覆土1		両面調整石器	頁岩	3.2	2.7	1.2	10.1		36

表Ⅲ-21 遺構出土掲載石器等一覧(2)

挿図番号	掲載番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	実測 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-20	28	図版50	H-4	覆土2		スクレイパー	頁岩	5.6	3.5	0.4	12.1		37
図Ⅲ-20	29	図版50	H-4	覆土1		スクレイパー	頁岩	6.3	4.3	1.2	29.6		38
図Ⅲ-20	30	図版50	H-4	覆土1		スクレイパー	頁岩	5.5	3.8	1.1	23.4		39
図Ⅲ-20	31	図版50	H-4	覆土1		くぼみ石	泥岩	15.5	4.8	2.8	271.0		119
図Ⅲ-20	32	図版50	H-4	覆土2		くぼみ石	凝灰岩	11.9	6.9	2.8	220.0		120
図Ⅲ-20	33	図版50	H-4	覆土1		たたき石	安山岩	15.5	12.0	4.5	942.0	被熱	118
図Ⅲ-20	34	図版50	H-4	覆土2		たたき石	珪岩	7.2	6.0	3.4	228.0		117
図Ⅲ-20	35	図版51	H-4	覆土2		扁平打製石器	安山岩	7.9	11.4	2.3	278.0		121
			J20	Ⅲ									
図Ⅲ-20	36	図版51	H-4	覆土2		扁平打製石器	安山岩	8.5	8.1	2.9	252.0		122
図Ⅲ-20	37	図版51	H-4	覆土2		扁平打製石器	安山岩	8.0	8.8	4.4	293.0		123
図Ⅲ-20	38	図版51	H-4	覆土2		台石	安山岩	25.5	27.1	9.5	3660.0		124
図Ⅲ-22	10	図版51	H-5	覆土3		スクレイパー	頁岩	6.4	3.7	1.0	23.6		40
図Ⅲ-22	11	図版51	H-5	覆土3		スクレイパー	頁岩	8.6	3.9	1.2	38.9		41
図Ⅲ-22	12	図版51	H-5	覆土1		石斧	片岩	14.3	4.2	1.8	174.0		125
図Ⅲ-25	16	図版52	H-6	覆土2		石鏃	頁岩	4.2	3.0	0.7	8.4		42
図Ⅲ-25	17	図版52	H-6	覆土1		スクレイパー	頁岩	6.0	1.9	0.9	10.5		43
図Ⅲ-25	18	図版52	H-6	覆土2		スクレイパー	頁岩	4.3	2.6	0.9	9.6		44
図Ⅲ-25	19	図版52	H-6	覆土2		スクレイパー	頁岩	8.9	6.7	1.9	103.1		45
図Ⅲ-25	20	図版52	H-6HP-1	覆土		扁平打製石器	安山岩	8.7	11.5	2.9	306.0		126
図Ⅲ-28	14	図版53	H-7	覆土2		石鏃	頁岩	2.9	1.0	0.4	1.0		46
図Ⅲ-28	15	図版53	H-7	覆土2		石鏃	頁岩	3.7	1.5	0.4	1.9		47
図Ⅲ-28	16	図版53	H-7	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	5.0	3.1	0.3	5.4	未成品	49
図Ⅲ-28	17	図版53	H-7	覆土2		石槍	頁岩	7.6	3.2	1.1	25.8	未成品	48
図Ⅲ-28	18	図版53	H-7	覆土2		スクレイパー	頁岩	7.1	3.2	0.8	20.0		51
図Ⅲ-28	19	図版53	H-7	覆土2		スクレイパー	頁岩	9.8	4.2	1.1	55.1		50
図Ⅲ-28	20	図版53	H-7	覆土2		スクレイパー	頁岩	7.3	3.2	1.2	30.6		52
図Ⅲ-28	21	図版53	H-7	覆土2		スクレイパー	頁岩	7.2	4.6	1.2	46.3		53
図Ⅲ-28	22	図版53	H-7	覆土2		スクレイパー	頁岩	3.7	2.7	0.8	9.3		54
図Ⅲ-29	23	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	泥岩	11.2	14.8	2.4	459.0		127
図Ⅲ-29	24	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	安山岩	10.7	18.0	3.4	738.0		130
図Ⅲ-29	25	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	安山岩	10.1	14.4	4.8	934.0		129
図Ⅲ-29	26	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	安山岩	8.2	14.2	3.4	520.0		128
図Ⅲ-29	27	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	安山岩	7.2	14.9	4.9	630.0		131
図Ⅲ-29	28	図版54	H-7	覆土		扁平打製石器	安山岩	7.2	15.6	3.2	416.0		133
			O19	Ⅳ									
図Ⅲ-29	29	図版54	H-7	覆土2		扁平打製石器	片岩	10.4	10.9	3.3	493.0		132
図Ⅲ-29	30	図版54	H-7	覆土2	3	台石・石皿	安山岩	26.1	20.3	11.1	8950.0		134
図Ⅲ-31	1	図版54	H-9	床面直上		スクレイパー	頁岩	4.1	2.2	0.5	5.6		55
図Ⅲ-31	2	図版54	H-9	床面		たたき石	安山岩	20.4	8.2	7.9	1880.0	配石	135
図Ⅲ-33	9	図版55	H-10	覆土中		スクレイパー	頁岩	9.3	7.3	1.4	86.5		56
図Ⅲ-33	10	図版55	H-10	覆土下		たたき石	砂岩	6.1	7.7	3.4	226.0		136
図Ⅲ-33	11	図版55	H-10	覆土中		扁平打製石器	安山岩	7.8	8.6	3.6	310.0		137
図Ⅲ-34	2	図版55	H-11HF-1	焼土		スクレイパー	頁岩	6.3	3.1	0.9	16.4		57
図Ⅲ-37	12	図版56	H-12	覆土1		たたき石	砂岩	10.4	5.2	3.2	196.0	I20区	138
図Ⅲ-39	5	図版56	H-13	風倒木	4	スクレイパー	頁岩	7.7	3.4	1.1	27.6		58
図Ⅲ-39	6	図版56	H-13	風倒木	4	スクレイパー	頁岩	4.4	3.2	1.0	14.0		59
図Ⅲ-39	7	図版56	H-13HP-1	覆土1		スクレイパー	頁岩	6.3	4.2	1.2	35.9		60
図Ⅲ-39	8	図版56	H-13	床面	4	石斧	砂岩	5.9	3.5	2.0	58.4		139
図Ⅲ-55	3	図版59	P-1	覆土1		スクレイパー	頁岩	6.4	4.0	1.1	24.2		61
図Ⅲ-55	5	図版59	P-4	覆土		スクレイパー	頁岩	5.9	4.9	0.9	25.5		62
図Ⅲ-55	6	図版59	P-8	覆土2		つまみ付きナイフ	頁岩	4.5	2.3	0.7	5.8		63
図Ⅲ-55	8	図版59	P-10	覆土		スクレイパー	泥岩	7.6	4.8	1.1	23.8		64
図Ⅲ-55	14	図版61	P-16	覆土		砥石	凝灰岩	33.3	12.2	6.6	2000.0		140

表Ⅲ-22 遺構出土掲載石器等一覧(3)

挿図番号	掲載番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	実測 番号
								長さ	幅	厚さ			
図Ⅲ-55	15	図版60	P-19	覆土		扁平打製石器	安山岩	10.5	13.8	2.7	532.0		141
図Ⅲ-56	16	図版59	P-20	覆土		スクレイパー	頁岩	7.5	3.9	0.9	33.3		65
図Ⅲ-56	17	図版60	P-24	覆土		扁平打製石器	安山岩	7.5	8.4	2.1	159.0		142
図Ⅲ-56	21	図版59	P-28	覆土		スクレイパー	頁岩	7.6	3.3	1.1	26.3		66
図Ⅲ-56	23	図版59	P-29	覆土		スクレイパー	頁岩	9.9	4.5	0.9	37.9		67
図Ⅲ-56	28	図版60	P-33	覆土		扁平打製石器	砂岩	9.7	15.5	4.4	912.0		143
図Ⅲ-57	32	図版60	P-38	覆土		北海道式石冠	安山岩	7.2	11.5	7.2	786.0		144
図Ⅲ-57	33	図版60	P-39	覆土		たたき石	砂岩	13.6	10.3	6.4	1100.0		145
図Ⅲ-57	35	図版59	P-40	覆土		スクレイパー	頁岩	7.0	4.0	1.2	29.0		68
図Ⅲ-58	43	図版60	P-44	覆土		扁平打製石器	安山岩	7.3	9.5	3.7	360.0		146
図Ⅲ-58	48	図版60	P-46	覆土		たたき石	砂岩	10.0	8.7	3.0	359.0	すり石	147
図Ⅲ-58	49	図版60	P-46	覆土		扁平打製石器	安山岩	7.7	12.6	2.5	341.0		148
図Ⅲ-59	52	図版59	P-47	覆土		スクレイパー	頁岩	6.1	3.2	1.2	27.0		69
図Ⅲ-59	53	図版60	P-47	覆土1		扁平打製石器	安山岩	9.4	12.7	3.9	419.0		149
図Ⅲ-59	54	図版60	P-47	覆土4		北海道式石冠	閃緑岩	8.9	12.2	6.5	1080.0		150
図Ⅲ-59	55	図版60	P-47	覆土1		石錘	頁岩	7.0	10.2	3.5	345.0		151
図Ⅲ-60	62	図版61	P-55	覆土		台石	安山岩	24.1	39.1	8.1	11300.0		152
図Ⅲ-60	63	図版60	P-56	覆土		砥石	凝灰岩	15.6	14.5	3.1	608.0		153
図Ⅲ-60	65	図版59	P-70	覆土		スクレイパー	頁岩	9.5	6.0	1.1	63.3		70
図Ⅲ-66	3	図版61	F-16	焼土		扁平打製石器	安山岩	10.9	15.3	2.9	640.0		154
図Ⅲ-66	6	図版61	F-18	焼土		たたき石	頁岩	7.1	9.7	5.0	385.0		155
図Ⅲ-67	1	図版61	FC-3	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	8.1	2.8	0.9	23.8		71
図Ⅲ-67	2	図版61	FC-3	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	6.9	4.5	1.7	40.6		72
図Ⅲ-67	3	図版61	FC-3	Ⅲ		有孔礫	泥岩	3.9	3.9	1.7	19.9	自然孔	156
図Ⅲ-72	20	図版63	遺物集中1	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	7.3	3.3	1.2	33.8		73
図Ⅲ-72	21	図版63	遺物集中1	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	4.9	3.7	0.7	13.3		74
図Ⅲ-72	22	図版63	遺物集中1	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	8.8	5.4	1.3	69.4		75
図Ⅲ-72	23	図版64	遺物集中1	Ⅲ		扁平打製石器	安山岩	5.5	12.1	1.8	185.0		158
図Ⅲ-72	24	図版64	遺物集中1	Ⅲ		扁平打製石器	安山岩	10.0	13.7	2.7	458.0		157
図Ⅲ-72	25	図版64	遺物集中1	Ⅲ		北海道式石冠	安山岩	8.2	11.3	5.1	676.0		159
図Ⅲ-72	26	図版63	遺物集中1	Ⅲ		三脚石器	泥岩	4.6	4.9	0.9	17.5		76
図Ⅲ-77	11	図版65	遺物集中3	Ⅲ	2	石鏃	頁岩	(2.0)	1.3	0.3	0.5		78
図Ⅲ-77	12	図版65	遺物集中3	Ⅲ	2	石錐	珪岩	3.6	0.8	0.5	1.4		79
図Ⅲ-77	13	図版65	遺物集中3	Ⅲ	1	つまみ付きナイフ	頁岩	4.0	2.6	0.6	5.6	L17区2回目	77
図Ⅲ-77	14	図版65	遺物集中3	Ⅲ	2	つまみ付きナイフ	頁岩	6.4	2.9	0.8	17.5	未成品	80
図Ⅲ-77	15	図版65	遺物集中3	Ⅲ	4	スクレイパー	頁岩	10.4	4.5	1.3	70.2		83
図Ⅲ-77	16	図版65	遺物集中3	Ⅲ	1	スクレイパー	頁岩	7.6	5.5	1.6	41.2	L17区2回目	82
図Ⅲ-77	17	図版65	遺物集中3	Ⅲ	1	スクレイパー	頁岩	6.0	3.6	0.8	18.1	L17区2回目	81
図Ⅲ-77	18	図版65	遺物集中3	Ⅲ	1	スクレイパー	頁岩	5.7	4.2	1.1	31.3		84
図Ⅲ-77	19	図版65	遺物集中3	Ⅲ	12	石斧	緑色泥岩	9.7	3.8	1.6	92.2		160
図Ⅲ-79	8	図版66	遺物集中4	Ⅲ		石錘	安山岩	9.0	13.0	2.0	218.0	L18区	161
図Ⅲ-79	9	図版66	遺物集中4	Ⅲ		扁平打製石器	安山岩	6.6	9.3	1.7	123.0		163
			N15	Ⅳ									
図Ⅲ-79	10	図版66	遺物集中4	Ⅲ		扁平打製石器	安山岩	9.3	15.1	4.8	832.0		162
			L17	Ⅳ									
図Ⅲ-82	27	図版68	遺物集中5	Ⅲ	3	石鏃	頁岩	3.9	2.5	0.7	6.1		85
図Ⅲ-82	28	図版68	遺物集中5	Ⅲ	5	つまみ付きナイフ	黒曜石	6.7	2.8	1.1	14.4	産地同定	90
図Ⅲ-82	29	図版68	遺物集中5	Ⅲ	3	つまみ付きナイフ	頁岩	5.3	2.6	0.4	6.5		86
図Ⅲ-82	30	図版68	遺物集中5	Ⅲ	3	スクレイパー	頁岩	7.1	2.2	0.8	11.8	J18区2回目	88
図Ⅲ-82	31	図版68	遺物集中5	Ⅲ		スクレイパー	頁岩	7.6	4.3	0.7	23.6	J19区	89
図Ⅲ-82	32	図版68	遺物集中5	Ⅲ	6	スクレイパー	頁岩	7.0	4.2	1.5	43.1		87
図Ⅲ-82	33	図版68	遺物集中5	Ⅲ	3	くぼみ石	泥岩	6.2	3.8	2.8	73.2	J18区1回目	164

IV 包含層の出土遺物

1. 包含層の遺物出土状況〔図IV-1～9、表IV-1、図版1・38・39〕

包含層の出土遺物総点数は150,107点で、土器等が58,665点、石器が20,291点、礫が71,151点である。ほかに陶器など近～現代遺物が少数出土している。

発掘区別の出土点数分布図を作成した（図IV-1～6）。ただし遺構分は含まれず、包含層のみの出土数である点に注意が必要である。全体的に調査区南西部が濃密で、中央部の一部も点数が多いが、東部は粗である。まとめて出土した遺物は図化した（図IV-7～9）。

土器等

層位別出土点数は、Ⅱ層が20,519点、Ⅲ層が22,076点、Ⅳ層が15,438点、Ⅴ層が9点、その他（Ⅰ層など）が623点で、Ⅱ～Ⅳ層から多量に出土している。分類別では、Ⅱ群b類1,402点、Ⅲ群a類15,029点、Ⅲ群b類1,709点、Ⅳ群a類33,169点、Ⅳ群b類3,026点、Ⅳ群c類350点、Ⅴ群a類3点、Ⅴ群b類3,616点、Ⅴ群c類117点、Ⅵ群72点ほかである。多い順では、Ⅳ群a類（土器等の56.5%）、Ⅲ群a類（25.6%）、Ⅴ群b類（6.2%）、Ⅳ群b類（5.2%）となっている。Ⅱ層中ではⅣ群・Ⅴ群が目立つ。

土製品は、土偶6点・土製円盤2点、スタンプ形土製品1点、ミニチュア土器4点、焼成粘土塊137点、その他土製品5点が出土している。

分類別に発掘区別の出土点数分布図をみると、Ⅲ群a類およびⅣ群a類は調査区全域から出土し、南西部が濃密で、中央部の一部も点数が多いが、東部は粗である。またⅢ群b類も点数は少ないものの同様の傾向であるが、北西部丘陵側の出土点数が比較的多い。一方Ⅱ群b類・Ⅴ群b類は東部や西部に集中箇所が部分的にみられる。またⅣ群b類・Ⅳ群c類は、丘陵から海成段丘面の地形変換点に当たる西部～中央北部付近に、帯状に集中域がみられる。土製品は主に調査区中央部～南西部から出土している。

石器等

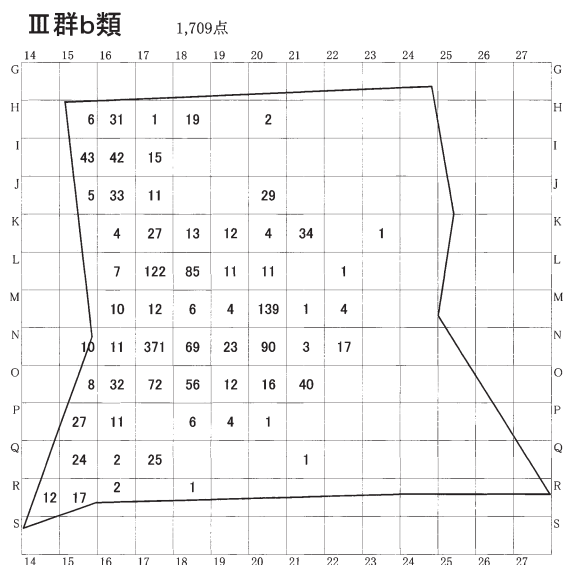
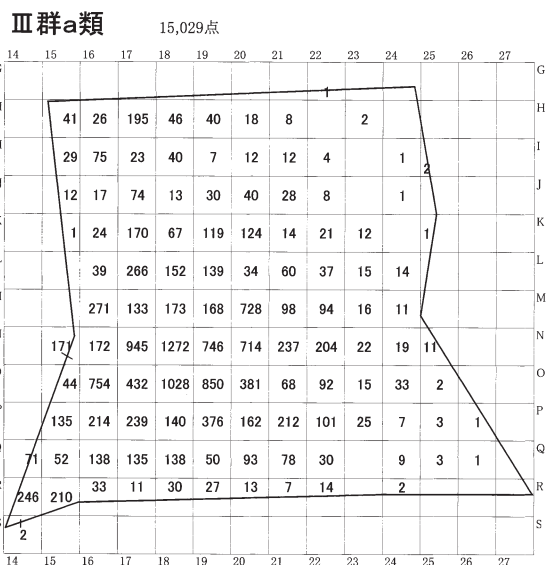
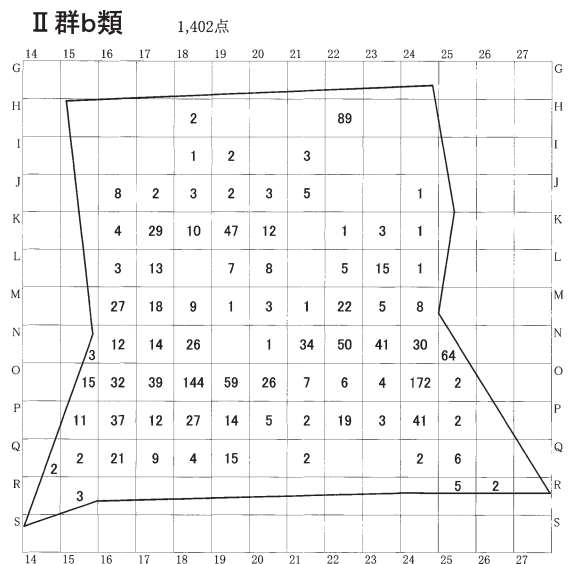
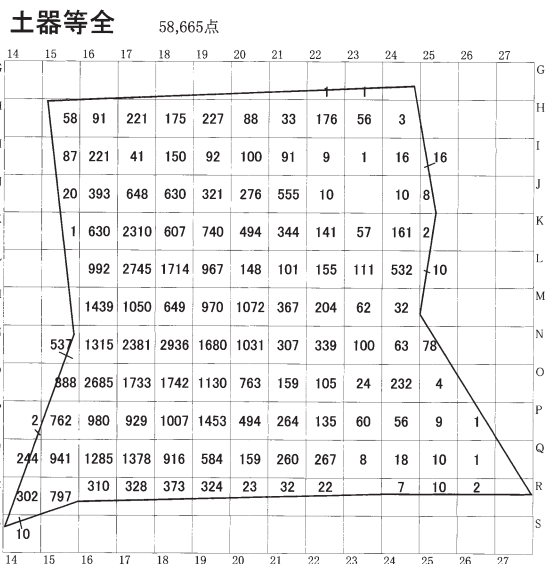
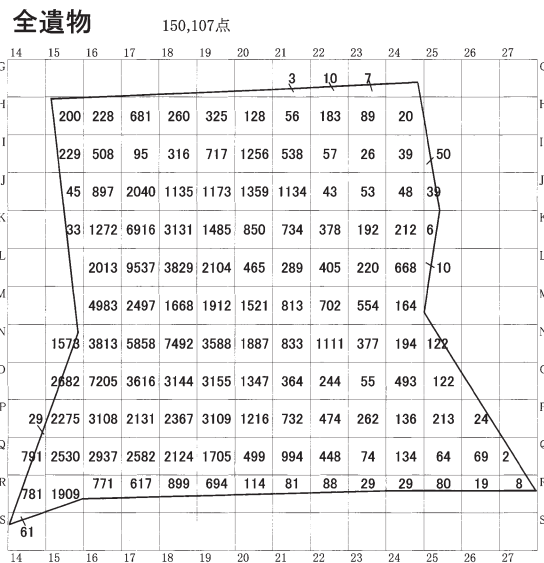
層位別出土点数は、Ⅱ層が8,220点、Ⅲ層が7,136点、Ⅳ層が4,595点、Ⅴ層が50点、その他（Ⅰ層など）が290点で、土器と同様にⅡ～Ⅳ層から多量に出土している。分類別では、定形的な剥片石器が313点、定形的な礫石器が692点、二次加工のある剥片などが877点あり、剥片が18,249点（石器全体の89.9%）と大部分を占めている。

定形的な剥片石器には、石鏃120点、石槍（またはナイフ）20点、石錐26点、両面調整石器35点、つまみ付きナイフ45点、スクレイパー類307点などがある。定形的な礫石器には、石斧48点、石のみ2点、たたき石77点、くぼみ石37点、扁平打製石器322点、すり石27点、北海道式石冠・石冠18点、砥石片27点、台石・石皿34点がある。

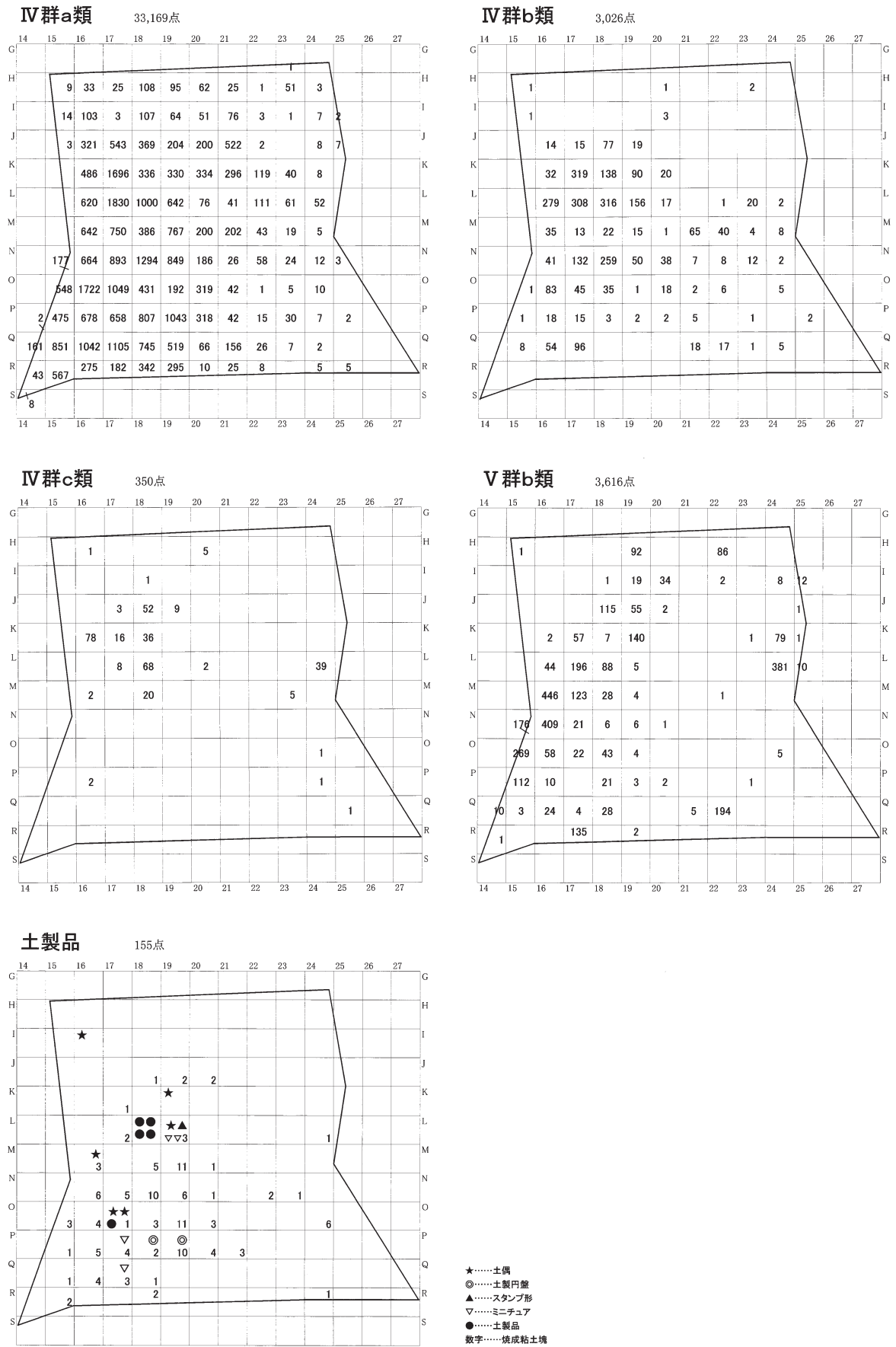
石材は、黒曜石、頁岩、珪岩、片岩、緑色泥岩、泥岩、砂岩、凝灰岩、安山岩などが用いられている。剥片石器は圧倒的に頁岩が主体で、19,347点で95.3%を占める。礫石器は泥岩173点、砂岩85点、安山岩が398点などである。

各器種ごとの分布では、点数は少ないものの土器の出土密度に沿っているものがほとんどである。石製品は、調査区中央西部を主体に、南部・北部から少数出土している。また礫は沢寄りの中央西部～南西部から多量出土している。

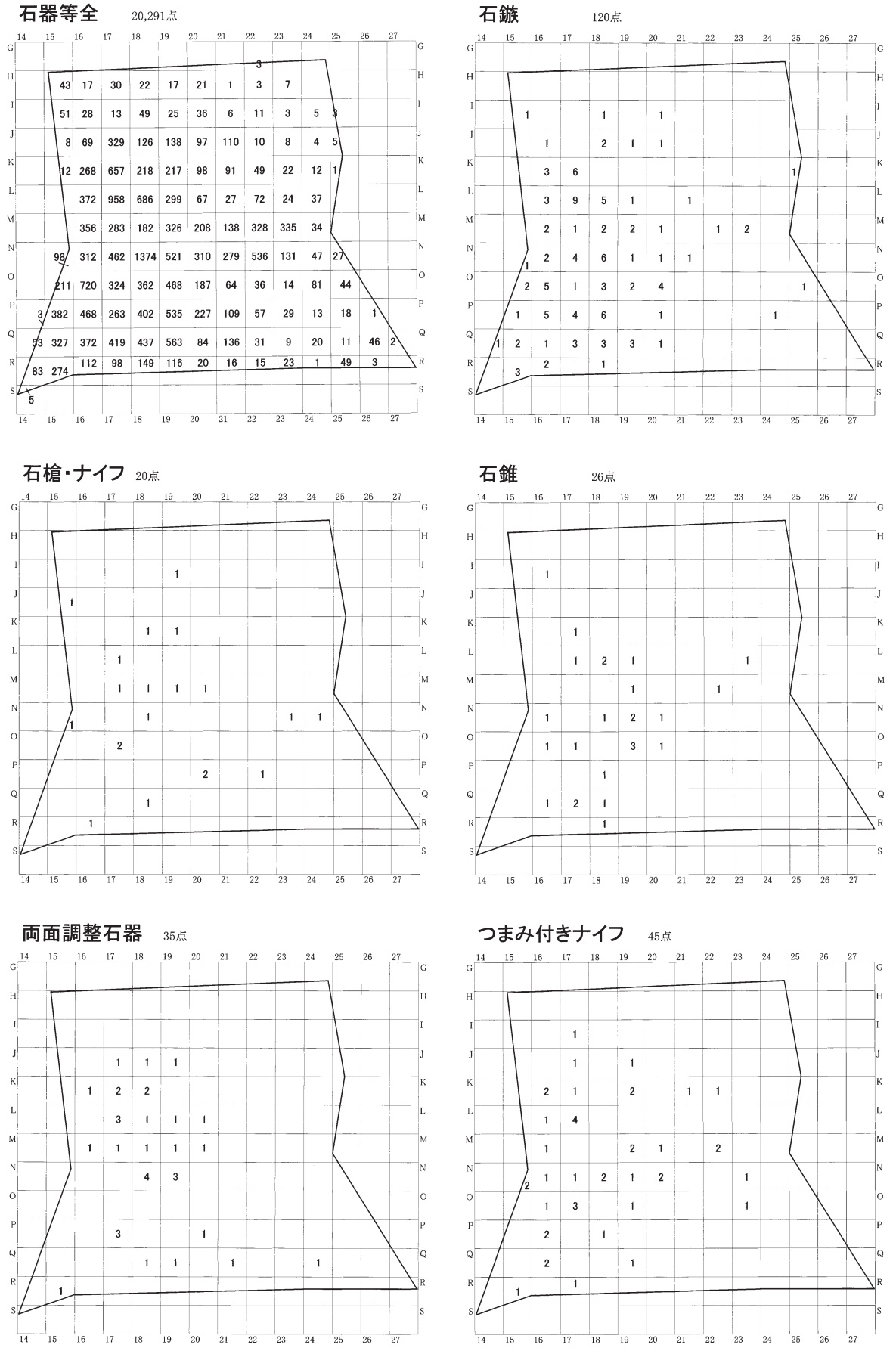
（阿部）



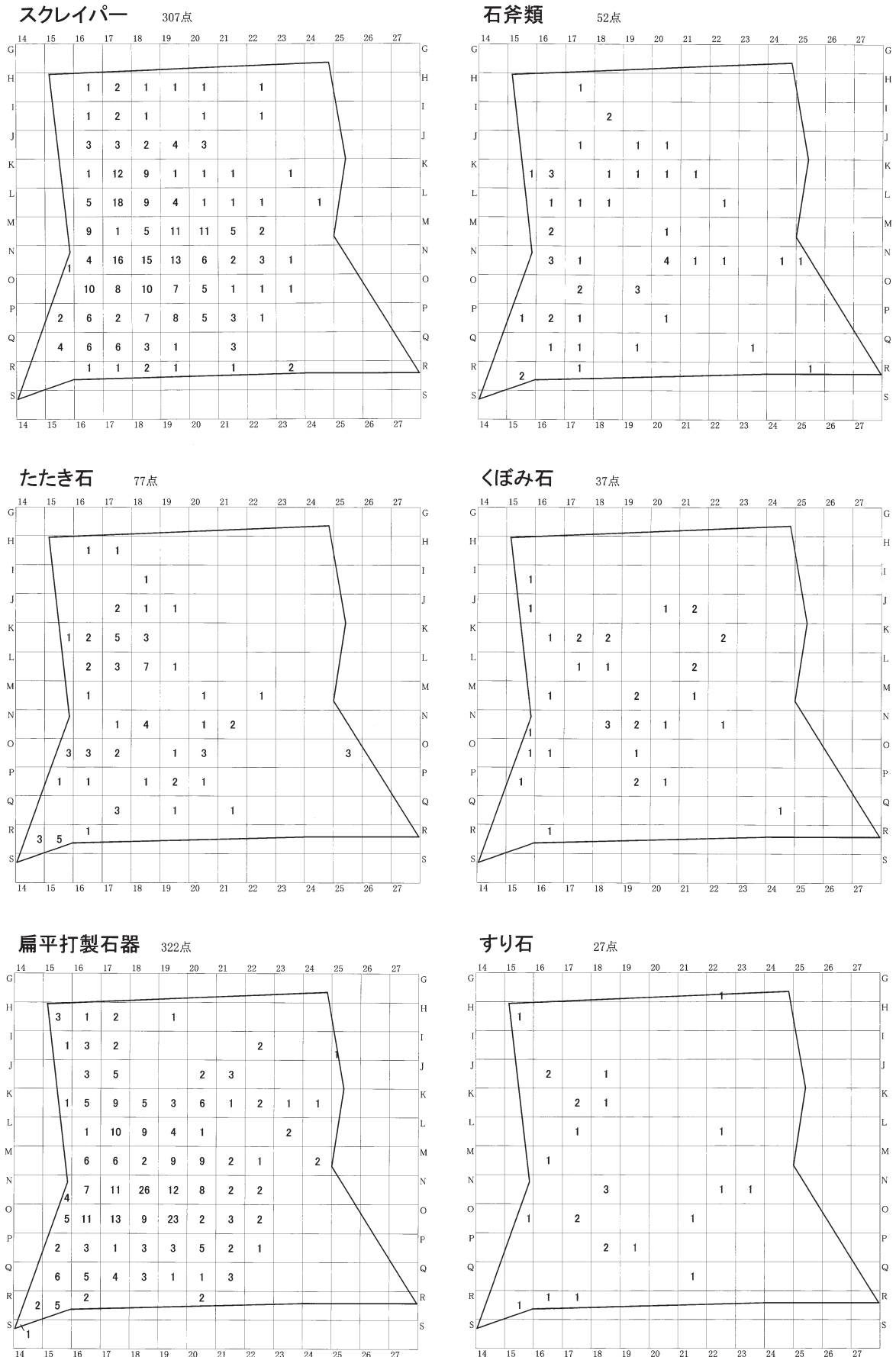
図Ⅳ-1 発掘区別遺物出土分布図(1)



図IV-2 発掘区別遺物出土分布図(2)

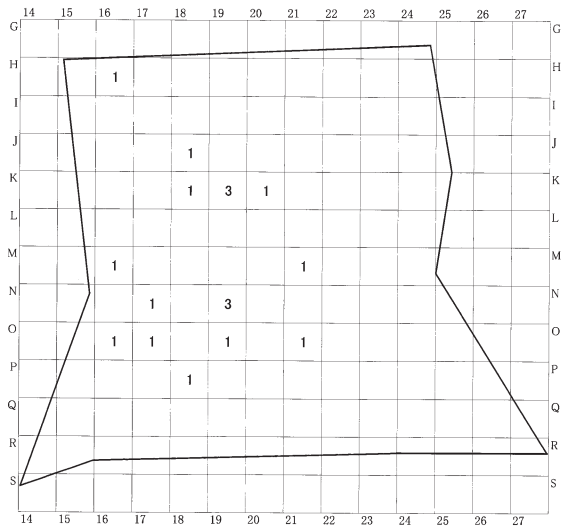


図IV-3 発掘区別遺物出土分布図(3)

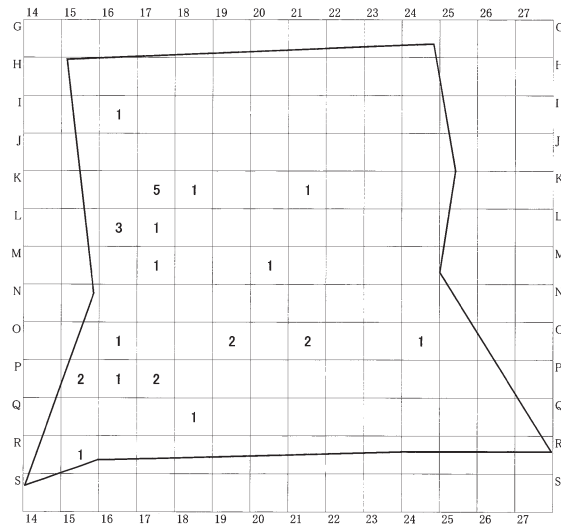


図IV-4 発掘区別遺物出土分布図(4)

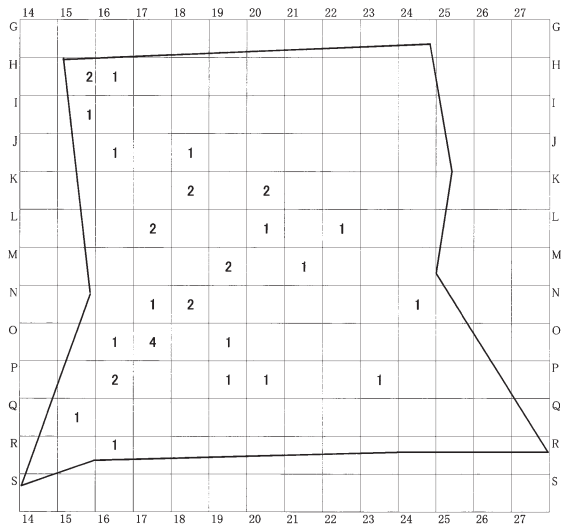
北海道式石冠 18点



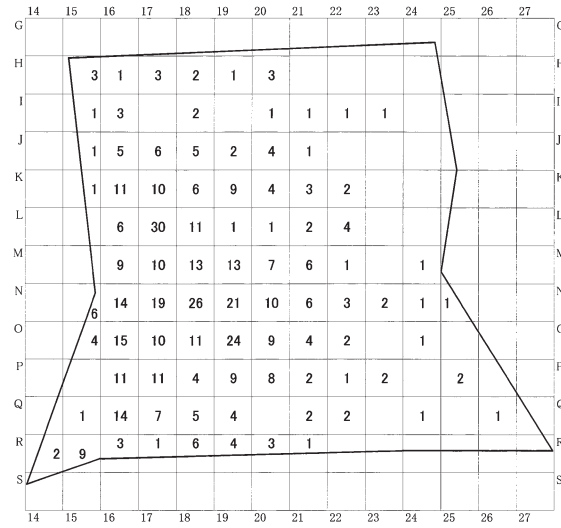
砥石 27点



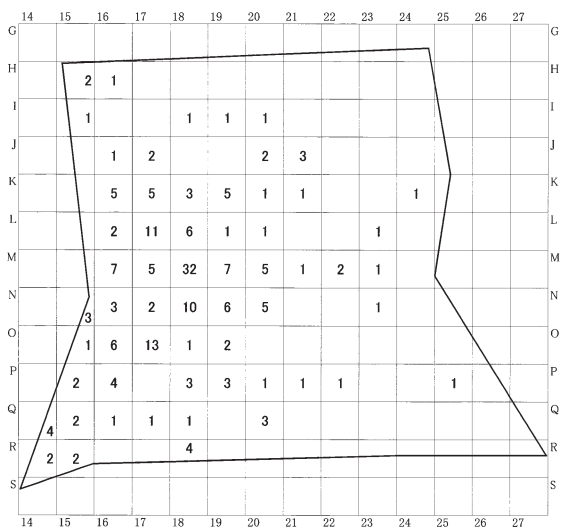
台石・石皿 34点



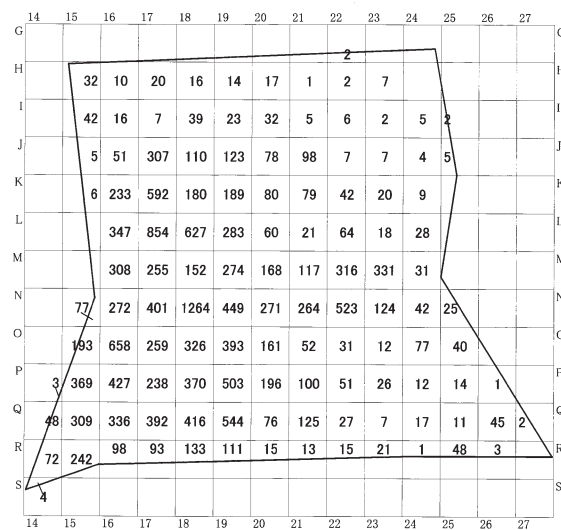
Rフレイク 513点



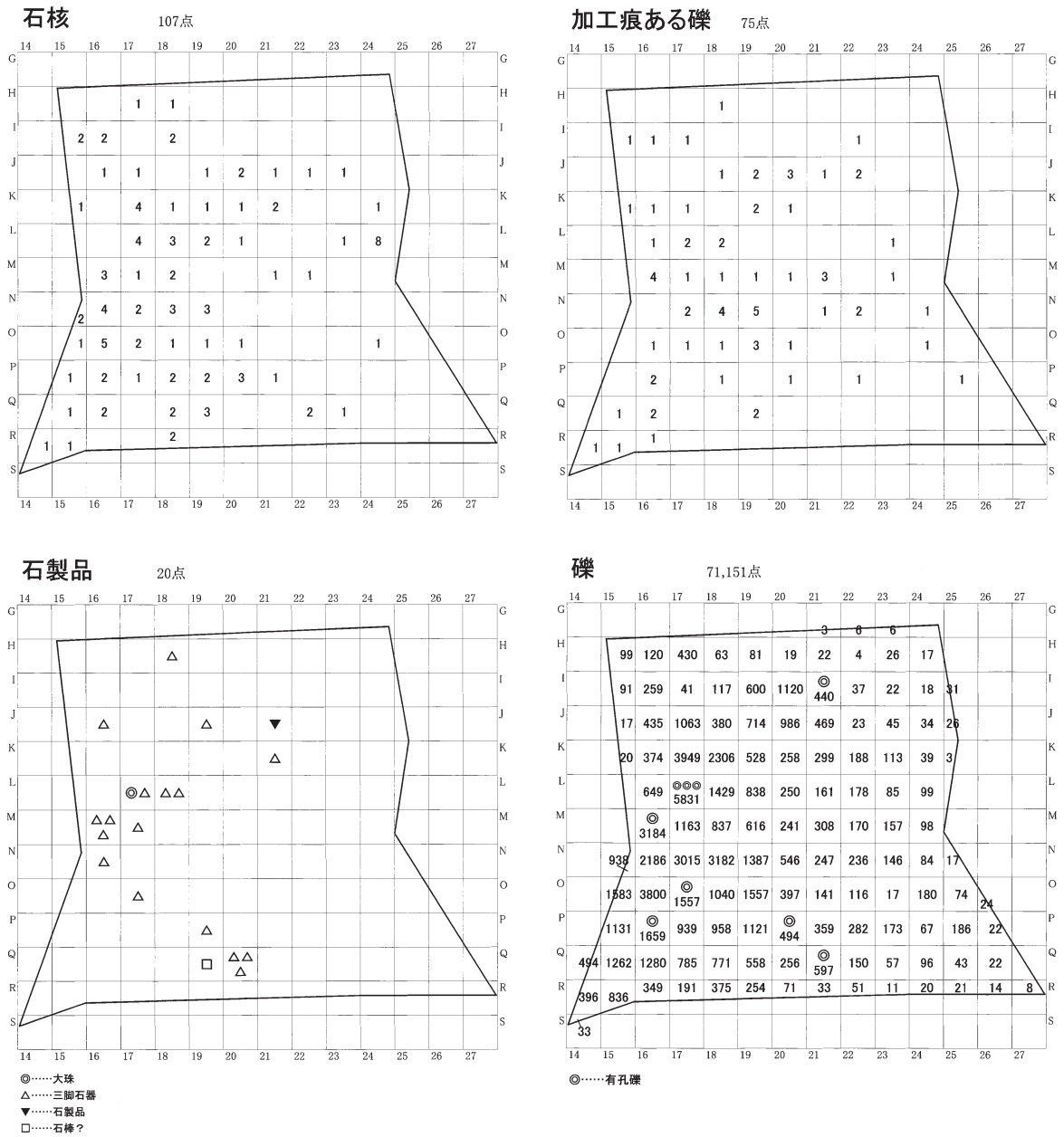
Uフレイク 178点



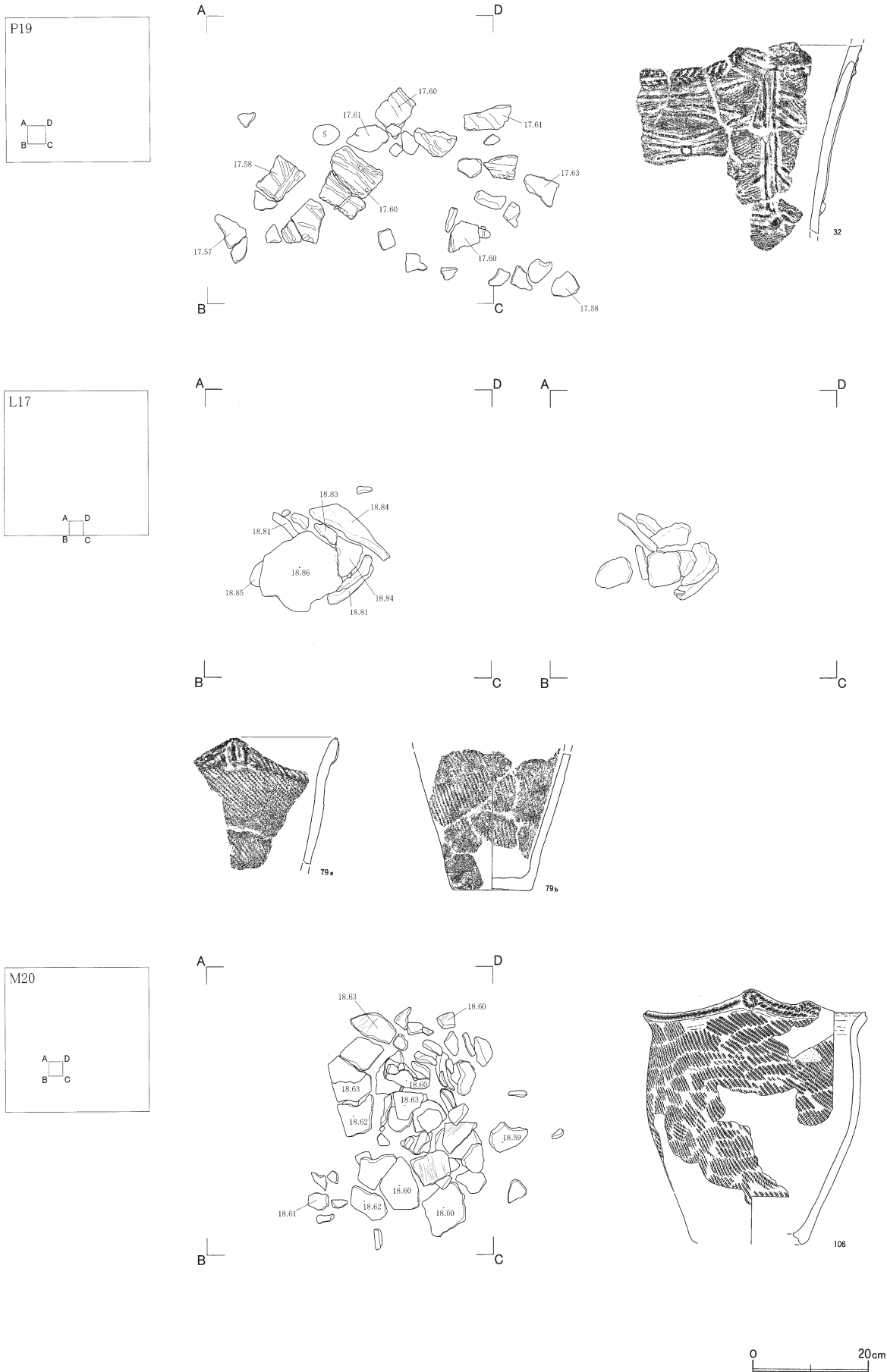
フレイク 18,249点



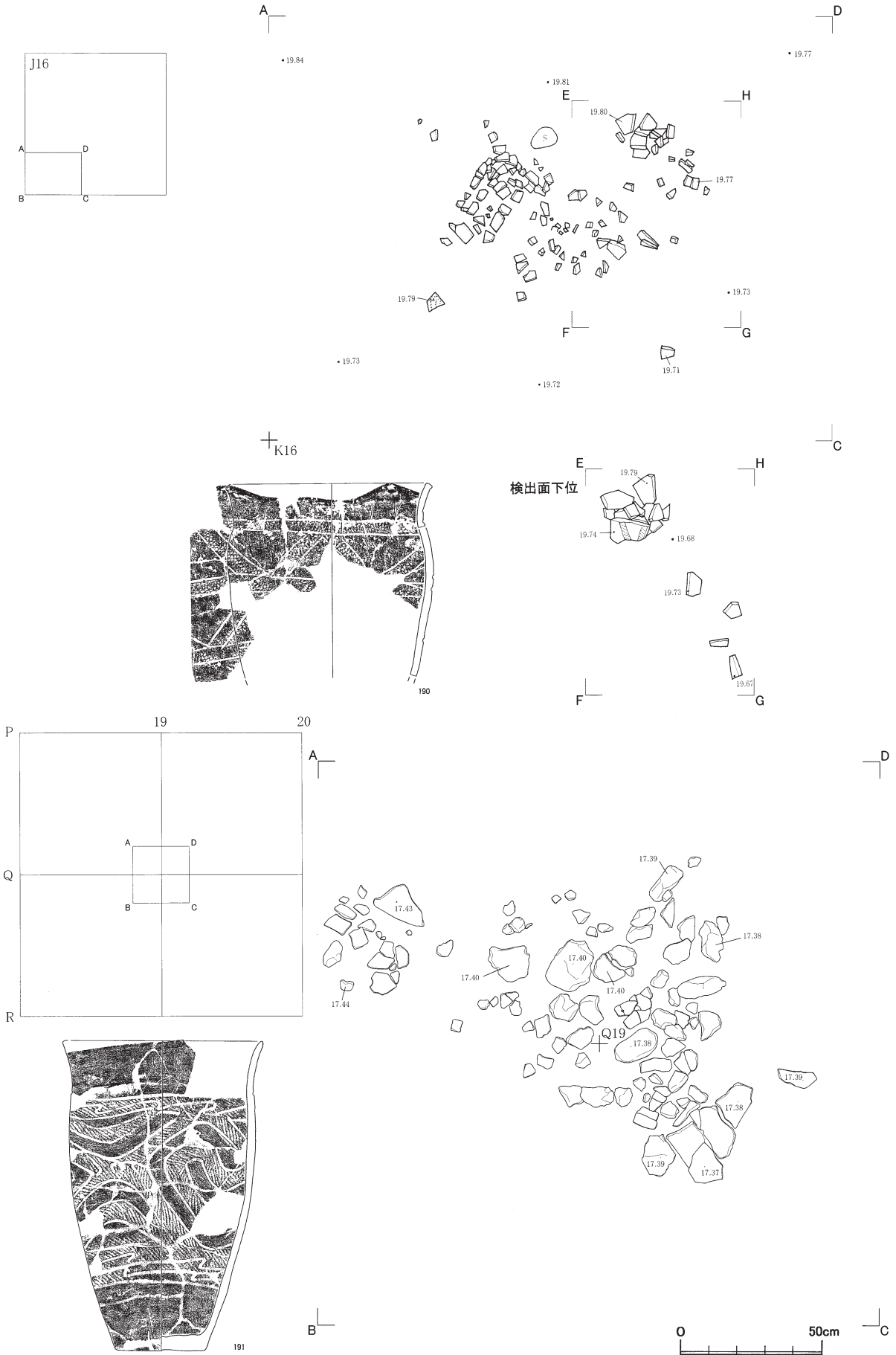
図IV-5 発掘区別遺物出土分布図(5)



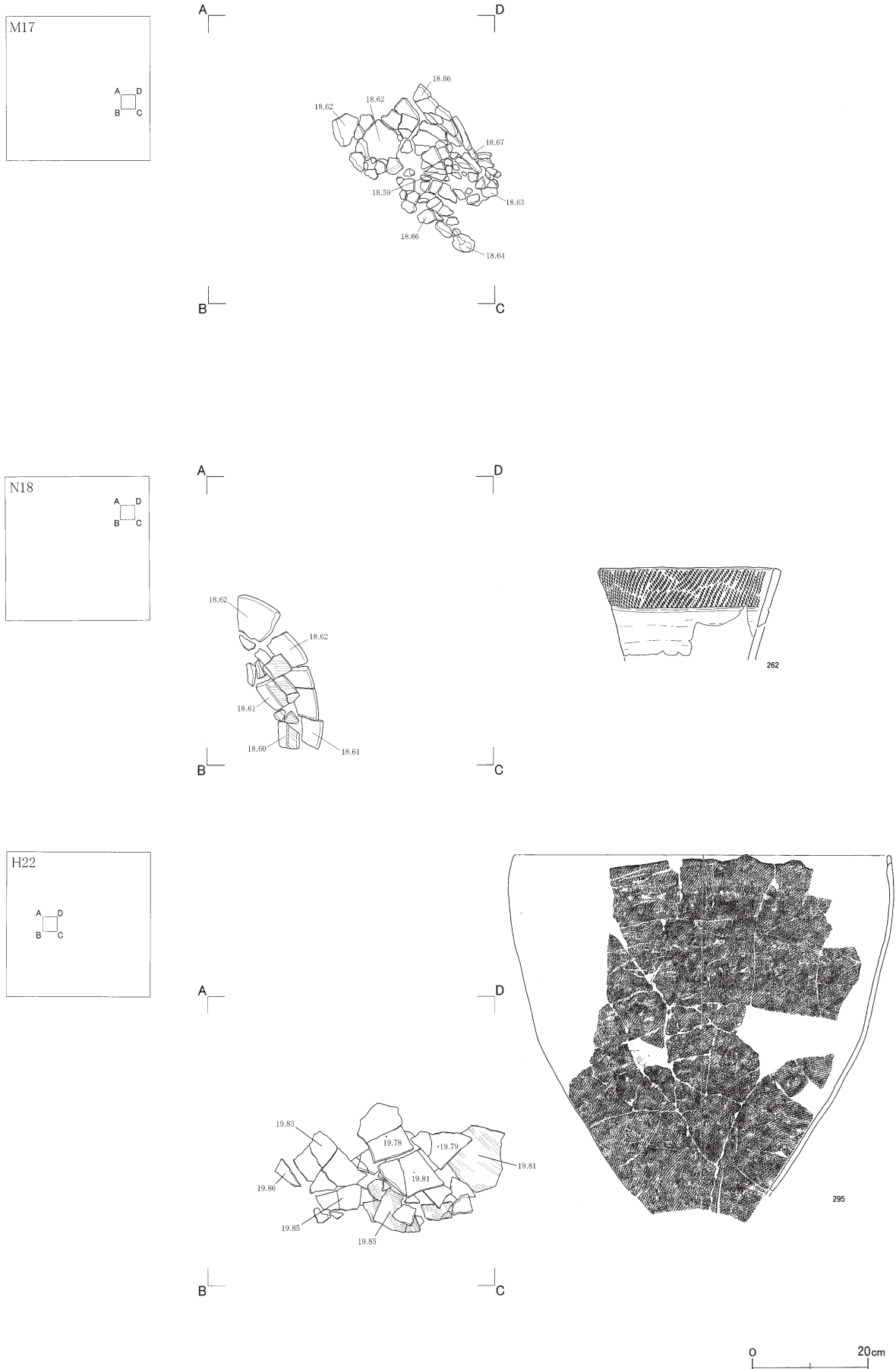
図IV-6 発掘区別遺物出土分布図(6)



图IV-7 包含層遺物出土状况(1)



図IV-8 包含層遺物出土状況(2)



図IV-9 包含層遺物出土状況(3)

2. 土器等 [図IV-10~31、表IV-2~12、図版70~88]

縄文時代前期後半の土器 (Ⅱ群b類) [図IV-10、図版70]

1~5は円筒土器下層b式。繊維を多量に含み、表面がやや剥落・磨滅しているものがある。口縁部下位に隆帯をもつ。1・2は隆帯がやや高く、幅が比較的狭い。口縁部に不整な縄文施文がみられる。4は橙色を呈し、器壁が厚く繊維の混入が比較的少ない。5は隆帯が低くなだらかになっている。

6~13は円筒土器下層b式またはc式。繊維をやや多く含む。口縁部(6~8)は緩やかに外反している。6a・b、8a・bはそれぞれ同一個体。6・8の口縁部には不整な縄文、6・8・10・12は胴部にやや粗い網目状の撚糸文が施文されている。7は不整な撚糸文、9・13はやや斜方向への撚糸文が施文されている。11は平底の底面のみ。多方向への縄文・撚糸文の粗い施文である。

14・15は円筒土器下層d式。14は口縁部がやや強く外反する。横走・山形の細い撚糸文がみられる。内面が磨かれている。15は口唇下に浅い沈線が平行し、以下は縦位の細かい撚糸文である。

縄文時代中期前半の土器 (Ⅲ群a類) [図IV-11~15、図版70~74]

16~26は円筒土器上層b式。やや大型の深鉢が多く、粘土紐貼付による装飾が行われている。細かい撚糸文が付される。口縁突起は2個一対のM字状のもの(16・18)、山形のもの(17)、台形のもの(22・23)がある。粘土紐貼付に沿って馬蹄形の縄文圧痕が連続するものが多い。

16は突起に沿うM字状および弧状の粘土紐貼付、馬蹄形圧痕があり、地文は結束羽状縄文である。胎土に小礫を多く含み、内面がざらつく。17はL・R・Rの3本組みの細かい撚りの縄文押捺が粘土紐貼付におおむね沿う。18はM字状の突起下に外面に張り出す突起がみられる。「馬蹄形」に相当する弧状の圧痕が連続する。19は平行する粘土紐貼付上の撚糸文施文が異方向に行われている。20は連結する粘土紐貼付、馬蹄形圧痕、3本異方向組みの細かい縄文押捺、結束羽状縄文などがみられる。21は「馬蹄形圧痕」に相当する部分が半截管状工具端部による連続刺突になっている。22はやや大型の深鉢で、口縁が外反し突起がやや起き上がる。突起付近は弧状・直線・曲線の粘土紐貼付がみられ、縦位および横位に縄端部による円形刺突が連続する。23は口唇上に鋸歯状の粘土紐貼付が連続する。24は台形状突起に貫通孔のあるもの。25は口唇上に鋸歯状の粘土紐貼付と馬蹄形圧痕、口縁部に弧状の粘土紐貼付と3本組の細かい撚りの縄文押捺が施されている。26はL19区のほか、H-1や遺物集中4出土の破片も接合している。口唇上に鋸歯状、口縁部に斜格子状の粘土紐貼付が付され、3本組の細かい撚りの縄文押捺および馬蹄形圧痕がそれに沿う。2本の平行する粘土紐貼付で胴部と区画する。胴部には結束縄文が施文されている。27は粘土紐貼付上に刻みが連続する。

28~58はサイベ沢Ⅶ式で、うち28~34が古段階、35~58が新段階と分類した。

28~34は細い粘土紐貼付による文様が特徴である。28は外側に切り出す口唇上に鋸歯状の薄い粘土紐貼付がある。29は肥厚する口唇上に鋸歯状に縄文が押捺されている。30は口唇上に粘土紐を環状に収束させて突起を設けている。31は幅広の台形突起。中央部に貫通孔がある。32は2本一組の細い粘土紐貼付が口縁~胴部に展開する。口縁突起下を基準として方形区画が配され、その中对向する弧線文様がそれぞれ粘土紐貼付により施されている。P-19区でややまとまって出土した(図IV-7)。33も2本一組の細い粘土紐貼付による弧線文がみられる。34は多方向の粘土紐貼付が交差している。

35~55は2本または3本一組の沈線による文様が特徴である。35は2個組の突起に横位の橋状把手が連絡し、刻みが付されている。36は肥厚する口唇上および口縁部に斜格子状の幅広の沈線が施されている。37は口縁部に幅広でV字(Y字)状の橋状把手が付されている。口縁~胴中央部に幅広の浅い沈線により弧線文などがえがかれている。38~40は突起下を基準として方形区画し、弧線文が配さ

れているもの。39a・bは地文の綾線文が明瞭である。40は山形突起に多重の横位沈線が施文され、縦位の把手が付されている。口唇上と把手上に細かい撚りの縄文押捺が連続する。41は40同様の口縁突起であるが、弧線文を主体とする。42は貫通孔のある口縁突起部。口唇部や貫通孔付近に細い粘土紐貼付がある。43～50は口縁突起部。43は2個組の山形突起で、弧状の粘土紐貼付がある。44は山形突起で口唇上に斜方向への細かい刻みが連続する。45・46は突起下に縦位の粘土紐貼付があり、その上に45は刺突、46は刻みが連続する。46は突起頂部に円形刺突がある。47・48は横位の粘土紐貼付上に細かい撚りの縄文が押捺される。49は頂部が丸みをもつ。粘土紐貼付上に回転縄文施文がみられる。51は表面が磨滅・剥落している。やや不整形な縦位の把手が付され、太い沈線が垂下する。52は肥厚する口唇上にハの字状の刻みが施されている。53a・bは3本組沈線による方形区画の結節点に貼付文が付される。54は2段の屈曲がみられ、キャリパー形を呈し、東北地方の土器の影響を受けた可能性がある。横U字状の粘土紐貼付上に刻みが連続する。55は成形・文様施文等、ていねいに作られている。山形突起の頂部に3本の粘土紐貼付を巻き込み、突起下に縦位の橋状把手を付し、その上にそれぞれ細かい撚りの縄文を押捺している。口縁～胴部はやや細かい撚りの結束羽状縄文を地文とし、細い3本組沈線で突起下の縦位沈線を基準として対向弧線文がえがかれている。

56～58は魚骨回転文が施文されているもの。すべてニシンタイプとみられる。56a・bは山形突起上および口唇上に原体の側面を用いた刻み様の文様が連続する。突起下に横位の粘土紐貼付がある。魚骨回転文は1.0～1.5cmでの単位が観察できる。57も同様のものと思われる。58はやや大きな椎骨が用いられている。口唇上は刻みが連続する。

59～92はサイベ沢Ⅶ式新段階または見晴町式。59～70は口唇上に細かい撚りの縄文押捺または刻みが連続する。59・60は平縁に瘤状の突起が設けられ、縄文が押捺されている。59は貼付文上にも縄文が押捺されている。61は突起下位の横位の縄文押捺が観察される。62・63は山形突起下に横位の短い粘土紐貼付がある。64は30同様、口唇上に粘土紐を環状に収束させて突起を設けている。ハの字状の刻みが連続する。65は地文の条が横方向になっている。P-55出土の土器(図Ⅲ-58の46)と同一個体とみられる。66は外面が磨滅しているが、橋状把手の剥落部が観察される。68は49と同様の円形の平面をもつ突起。72～75は地文が縄文で、粘土紐貼付による装飾のある突起部。72は粘土紐貼付が内面に及ぶ。73～75には独特の輪状の粘土紐貼付がみられる。76～79は口縁波頂部が尖り、縦位の短い粘土紐貼付がみられる。79a・bはL17区でまとまって出土した(図Ⅳ-7)。平底で、張り出しはなく斜め上位に直線的に立ち上がる。80～91は縄文のみがみられるもの。80・82は結束羽状縄文、85・90は綾線文が地文である。85a・bは節が大きく、綾線文のみが施文されたと考えられる。84は小型の鉢と考えられる。丸底気味で、底面付近まで縄文が施文されている。86～91は底部。87・88はやや張り出す。91は小型の深鉢。92は台付鉢の台部。やや細く、内部は空洞である。

縄文時代中期後半の土器(Ⅲ群b類)〔図Ⅳ-16～18、図版74～76〕

93～107は榎林式。93～103は肥厚する口唇上に凹線が施されているもの。うち93～96は口縁波頂部の突起。93・94は沈線(凹線)による曲線文が頂部に施される。95・96は粘土紐貼付による渦文がみられる。96は口縁部に浅く太い平行沈線が2+3本施文されている。97・99・104・105は3本組の沈線が横走する。97は口唇上の凹線に一旦端部を設けている。P-33出土の土器(図Ⅲ-56の27)と同一個体。98・99・101は口唇上の凹線が破線となっている。102は口唇下に地文縄文の端部が観察される。103は器壁が薄く、凹線が細い。105は広口壺。胴部が丸みをもち、頸部がくびれ、口縁がわずかに外反する。浅い3本組沈線で頸部に横走沈線、胴部に縦位区画文・曲線文がえがかれている。器形・

文様に東北北部の影響がうかがえる。106はM20区でまとまって出土した深鉢（図IV-7）。口縁部がやや強く外反する。主要な口縁波頂部突起からやや離れた位置に弱い波頂部がある。肥厚する口唇上および波頂部の渦文も凹線ではなく縄文押捺が行われている。107はやや厚みのある平底で、わずかに張り出す。胴部はふくらみ口縁部が緩やかに外反する。推定3単位の口縁波頂部がある。

108～111はⅢ群 a 類または b 類のもの。108は撚糸文が粗く施文されている。109は外面が橙色を呈し、剥落が目立つ。110は平底で底部が張り出し、胴部がややふくらみ口縁は平縁で外反する。口縁～胴部は横位の縄文が多く、一部重複している。

112～121は大安在b式。112a・bは平縁角形口唇で、沈線による方形区画文などが施されている。113にも方形区画文がみられる。114～116・118・119・121は刺突列による鎖状の貼付帯があり、117・120は貼付帯上およびそれに沿う縄文押捺のあるもの。114は大型深鉢の口縁部に間隔の開いた縄文押捺が多方向に観察される。115は鎖状の貼付帯が突起下に弧状にも付され、それに沿うものや垂下する刺突列が施されている。116は口唇上にも刺突が連続する。117は2個組の突起下に貼付帯がハの字状に付されている。120はやや強く外反する口縁部付近。横位の貼付帯上には回転縄文が施文されている。F-8出土の土器（図66-2）と同一個体。121は軽い素材が用いられている。

122～126は大安在b式またはノダップⅡ式。刺突列が特徴である。122は口唇上および口縁部に円形刺突が連続し、2条の縄線が付されている。123は口縁部に2列の刺突列、124は口縁下のくびれ部に2条の縄線間に刺突が連続する。125・126は胴部の薄い貼付帯上に3列の刺突列が施されている。

127～133は縄線が施文された、ノダップⅡ式とみられるもの。127・128は口縁部に横位2条、129～131は加えて縦位にも施文されている。132は2条の縄線間に刺突が連続する。133は大型深鉢。平底で、胴部のふくらみは弱く、口縁部は直立気味である。太い縄線で区画された口縁部文様帯に2列の刺突列が縦位に施される。胴部～底部付近はやや撚りの細かいLR縄文が横位に回転施文されている。約5cmごとに縦位の浅い沈線が観察でき、縄文施文の目安・単位となっているものと考えられる。

縄文時代後期前葉の土器 [IV群 a 類] [図IV-19～25、図版77～83]

134～162はトリサキ式（十腰内Ⅰ式含む）。地文は無文を基本とし、2本一組の沈線で横走・山形などの直線的文様や弧線・渦文などの曲線的文様がえがかれる。外面にスス状の黒色物質が付着しているものが多い。134～138は比較的古い要素を含むもの。134・136は大型深鉢。口縁波頂部を基準とした縦長の渦文は、涌元Ⅱ式の要素からつながるものである。134は波頂部下に瘤が付されている。口縁部に幅広の無文帯が設けられている。135a・b・137は不規則な縦位の2本組沈線が施されている。138は2本および3本組沈線による曲線・弧線などが連結している。139・140には2本組の蛇行沈線が垂下する。140は壺形で、2本組沈線が細く間隔が狭い。141～143は2本組沈線で横走・山形などの直線的文様をえがくもの。141・142は折り返し口縁をもち、2本組沈線内に縄文が浅く施文されている。143は山形文が連続する。139・143～147は胴部文様帯が2段構成をなす。144・145は規則的な文様構成をもつ。144は胴部に最大径をもつ深鉢。口縁部は3単位の波頂部をもつ。口縁部に2本組×2の横走沈線に連結弧線文が各所に配されている。胴部は楕円文などがえがかれ、弧線文が連結している。145は胴部文様が山形文と弧線文の組み合わせによる。146・147は弧線文を主体とし、それぞれ連結・重複している。148～151はやや不規則な曲線的文様がえがかれるもの。149は区画文予定範囲に細かい撚糸文を粗く施文した後に2本組沈線により渦文などをえがいている。151は口唇下の横走沈線を伴わずに渦文がえがかれている。152～154は斜行沈線を主体とするもの。155は器面調整やスス状の炭化物で横走沈線などが細くなっている。156は鉢で、浅い沈線がわずかに観察される。

157は鉢。口縁部に粘土紐貼付による凸線が平行し、8字状の突起を設けている。胴部は2本組沈線により楕円文などをえがいている。158は胴下部に段をもつ鉢。159～162は十腰内I式の影響の強いもの。159は蓋の一部と考えられる。上面に縁辺に沿う沈線があり、側面に杵状文がえがかれている。160は渦文に多数の弧線文が連結しているものとみられる。161a・bは器壁が薄く、外面が黄褐色～橙色を呈する。横走沈線や杵状文に横U字の連結弧線文が配されている。162は口縁部付近でくびれて外反する鉢。2本組み沈線により口縁部に平行沈線、胴部に渦文などがえがかれる。

163～165はトリサキ式または大津式。やや太い2本組沈線で曲線文や舌状の文様がえがかれている。163は胴部が2段構成の文様をもつ。164・165は口縁部に連続指頭押捺を伴う突起を有する。

166～194は大津式。小型深鉢や鉢が多い。沈線区画に縄文や櫛歯状文などが充填され、帯状文として直線的・曲線的文様がえがかれているものが多い。口縁部に粘土紐貼付や刺突・刻みなどによる突起を有するものがある。166～169・173は横位平行や曲線の帯状文がみられる。167は口縁部の内外面にまたがる粘土紐貼付による2個組の突起がある。168は刻みを伴う波頂部下で、帯状文の連結弧線文がみられる。169は口縁部の粘土紐貼付上に縄文が施文されている。171・172は口縁部内外面に粘土紐貼付がまたがる。171は小波状で、172はやや複雑な曲線文様である。171の胴部には沈線区画外にも細かい撚りのLR縄文が施文されている。174～177はいわゆる「カニの挟み状」あるいはそれに類する帯状文がみられる。177は無文地である。178は鉢で、浅い沈線による縦位の鋸歯状文が並ぶ。179・180クランク状（鍵状）文が連続する。170・181～185は櫛歯状沈線あるいは幅広の多重沈線で充填された帯状文がえがかれるもの。170・182は曲線、181・184はクランク状、183・185は直線的な帯状文が配されている。182は壺で、器壁が薄く調整がていねいである。186～189は帯状文区画内に（または区画に沿う）円形刺突が連続するもの。186は胴上部で強くくびれる。斜位の凹面をもつ楕円形の突起下にボタン状の貼付文がある。口縁部の低い貼付帯上に円形刺突列を密に多段施している。くびれ部下や、胴部の連携弧線文区画に沿って円形刺突列がみられる。187a・bは山形文などに沿う円形刺突列が施されている。189は帯状文に円形刺突が密に充填されている。190は4単位の突起をもつ深鉢。2段構成の区画をもち、山形文が帯状文でえがかれる。帯状文内は細い涙状の文様が充填されており、オオバコあるいはそれに類する植物の穂の回転施文とみられる（「オオバコ文」）。北西斜面のK16区から出土した（図IV-8）。191は胴部くびれや口縁部の外反がゆるやかな深鉢。口縁部は無文帯で、胴部は曲線・弧状の帯状文による複雑な文様構成をとっている。Z字状の屈曲沈線が挿入されている。外面上位と内面下位にスズ状の炭化物が多く付着している。Q19区付近から出土した（図IV-8）。192は壺の肩部。鏝状の隆帯が付されている。沈線が充填された帯状文に赤色顔料が一部付着している。十腰内I式の影響を受けたものと考えられる。193は細沈線で充填された帯状文がある小型の深鉢底部。194は大型深鉢の胴部。無文帯をはさみ、鍵状文と鋸歯状文が充填されている。

195～210は白坂3式。Z字状に屈曲する沈線、沈線の多重化などがみられる。195・196は大型深鉢の胴部。弧線文が連携する。196は下部の帯状文に多重の鋸歯状沈線がみられる。197は胴部くびれの細い無文帯を挟み、渦文を連携する多重沈線が施文されている。198にも胴部くびれの細い無文帯があり、胴部にはLR縄文地に2本組沈線による直線・曲線文様が配されている。200a・bは小型の壺。胴部は3本組沈線による波状文に弧線文などが加わっている。201a・bは角形口唇上に縄文が施文され、口縁部はLR縄文地にZ字状の屈曲する多重沈線で満たされている。胴部は幅広の帯状文により横位区画文や連携弧線文がえがかれている。外面がていねいに磨かれている。202は口縁部の3本組横走沈線が、波頂部付近で弧線となっている。203・204は口縁部が縄文地で、区画文内に円文（203）や三角文（204）を配し、隙間に鋸歯状文などを充填している。206a・bは角形口唇をもつ深鉢。粘土

紐を反転させた小突起が付されている。横位区画文内にやや幅広で浅い鋸歯状の多重沈線が展開する。207は多段構成で、鋸歯状文と「く」の字状文がみられる。208は下部に鋸歯状の多重沈線がみられる。209・210は底部。横位・曲線などの帯状文が底面付近まで施文されている。

211は格子目状沈線、212・213は格子目状撚糸文が施されたIV群a類。トリサキ式に相当する。

214～223は縄文のみがみられるIV群a類。214・215・218は折り返し口縁。216は口唇が丸みを持ち、間隔のあいた粗い縄文施文である。217は胴上位でくびれる。218は波頂部に貼瘤をもつ。LR縄文が密に施文されている。219は角形口唇で、口縁部が緩やかに外反する。221は広口の小型壺。縄文の撚りが細かい。222は平底・平縁の鉢。223は小型深鉢の底部。

224～239は無文のもの。大部分がトリサキ式に属する。224・225は折り返し口縁をもつ。225は小型の深鉢。口縁下に補修孔が穿たれている。内外面ともケズリ・ミガキ調整痕が明瞭である。一方226は大型の深鉢。砂粒を多く含む。227は器壁が薄く、調整がていねいである。外面にスス状の黒色物質が多量に付着している。228は口唇上に刻みが連続する。229～236は大小深鉢の底部。平底であるが、231は台状の作り出しがある。また236の底面には葉脈痕に類似する沈線がある。229・232は一部横走沈線がみられる。237・238は台付鉢の台部。細身で中実である。239は特殊な器形の鉢の口縁部あるいは台の一部と考えられるが、土製品の可能性もある。

縄文時代後期中葉の土器 (IV群b類) [図IV-26～28、図版84・85]

240～247はウサクマイC式。口縁下に横走沈線を持ち、多重沈線による鋸歯状文・弧線文などが密に施される点が特徴である。緩い波状口縁で角形口唇上に縄文が施文されるものが多い。240～245は胴くびれ部に幅の狭い無文帯を有する。240は鍵状文、241は弧線文が多重に施文されている。242・243は波頂部を中心とした多重沈線による弧線文が密に施されている。243は胴部のくびれが強い。胴部は鋸歯状文や紡錘状の多重沈線が密である。244は胴部のくびれがやや弱く、口縁部が外反する。口縁部は鋸歯状の多重沈線、胴部はクランク状文などが配されている。245は口縁部・胴部とも鋸歯状の多重沈線である。246a・b・cは、247とともに鋸歯状の細い多重沈線が密に施されている。地文も細かい撚りの原体である。一方246cの胴下部は、1本の沈線による楕円文が配されるのみである。

248～254は手稲式。角形口唇下に狭い無文帯を設け、平行線に横U字文を加えているものが多い。249は平行沈線間に4本の縦位の沈線を充填しており、船泊上層式の文様構成に類似する。250・251・253は平行沈線施文後に横U字文を加えている。251は口縁部に緩やかな波状の多重沈線が横走する。胴部は大きく蛇行する帯状文が配されている。胴上部が「く」の字に屈曲する。252は刻みの入った山形突起をもつ。口縁部は無文帯の下が地文のみとなっており、胴部は平行沈線に蛇行沈線が垂下する。254は波頂部で口縁上部の平行沈線が上昇し交差する。

255～263は手稲式または鯪澗式。縄文施文のものを主体に掲載した。255は弧線のやや太い多重沈線が突起を基準に施文されており、文様構成はIV群a類に同様であるが、口唇形状や器壁、胎土などから分類を判断した。256a・bは大型の深鉢。N18区でa・bが重なって出土した(図IV-9)。器壁は比較的薄く、胴部くびれは緩やかである。256・258は口縁部が無文部としている。257はくびれ部を含め、全面縄文施文である。259は口唇が丸みを持ち内面に張り出し、口縁部が羽状縄文であり、刻み列はないが鯪澗式の要素をもつ。260a・bは鉢で、口縁部が無文部となっている。261は小型深鉢または鉢の底部。262・263は「口唇部」がやや丸みをもつことから深鉢の口縁部として図示したが、大型の台付鉢の台部の可能性もある。「口縁部」に沈線で区画された縄文施文部がある。

264～270は注口土器。264は頸部・注口部・底部片で図上復元した。全面研磨で彫刻手法による文

様が施されている。丸底で、極小の上げ底をなしている。265は壺または注口土器の頸部。研磨された外面に磨消縄文を伴う入組文の一部がみられる。内面に輪積み痕が残る。266は大型の注口部。研磨されている。267は注口土器の口頸部。LR縄文地に平行沈線と横U字文がえがかれ、沈線間に刺突列が連続する。268a・b・cは同一個体で鯨潤式の注口土器。口縁部および注口部の周囲に刻み列が施されている。全面研磨され、一部に赤色顔料が付着している。269は口縁部に刻み列（刺突列）や楕円文などがみられる。270は壺または注口土器の胴部。彫刻手法がとられている。

縄文時代後期後葉の土器（IV群c類）〔図IV-28、図版86〕

271～281は堂林式で、うち276・277・280は東北地方の影響が強いもの。271～274はI→Oの突瘤があるもの。切出形口唇をもつ。273は突瘤の周囲に浅い沈線が複数観察される。275は縄文地の鉢の口縁部。276a・bは小粒の貼瘤が口縁部および胴部の帯状文に付されている。三ツ谷式に近い。277は横長の入組文が施文され、波頂部に貼瘤を有する。278は切出形口唇上に刻みがある。279は注口土器、280は壺の胴部。弧線の帯状文上に小粒の貼瘤が付されている。281は細身の注口部。一部に細かい撚りの縄文が施文されている。282～284は湯の里3式など後期末のもの。282a・b・cは同一個体とみられる。爪形文に近い刻みが連続し、口縁部の文様帯に2本組沈線による対向弧線文がえがかれている。282c・283・284は浅い台状の作り出しがあり上げ底となっている。

縄文時代晩期の土器（V群）〔図IV-29・30、図版86・87〕

285・286はV群a類上ノ国式。285は小波状の口唇下に2列の刺突列がある。286は鉢で底部の最下部に1列の爪形文に近い刻み列が施されている。

287～294はV群b類大洞C₂式または並行するもの。地文の縄文は撚りが細かく、斜行縄文のほか縦走するものが現れる（289・290・291）。287は口唇上に細かい刻みが連続する。288～292は鉢。口縁下で内面側に屈曲し、外反する。288・289は口縁の屈曲部下にB状突起が付されている。288・290は口縁部に磨消帯をもつ。290は屈曲部下に、291・292は口唇下に列点が施されている。

293～298はV群b類またはc類のもの。293は壺の口頸部。口縁にM字状の小突起を有する。内面口唇下に2本の沈線がめぐり、口縁部に3本のやや太い沈線が横走し、A状突起が付されている。頸部下には2本の細い帯状文上に小型のB状突起が付されている。胴上部に浮彫状の工字文に近い連携入組文が展開する。294a・bは器壁が薄い。平底で胴上部が膨らみ口縁部が内湾する。口唇下に沈線で区画された斜位の刻み列が施されている。295は最大径約40cmを測る大型深鉢。器壁が5mmと薄く、胴部が若干ゆがむ。平口縁で、2個一組の小突起を有する。撚りの細かいLR縄文が全面施文されている。ケズリ調整痕や細い茎状の繊維痕が多数観察される。296も縄文のみのもの。外面にスス状の炭化物が多量に付着している。297は縦走する縄文地で口縁部に3本の浅い平行沈線が施されている。

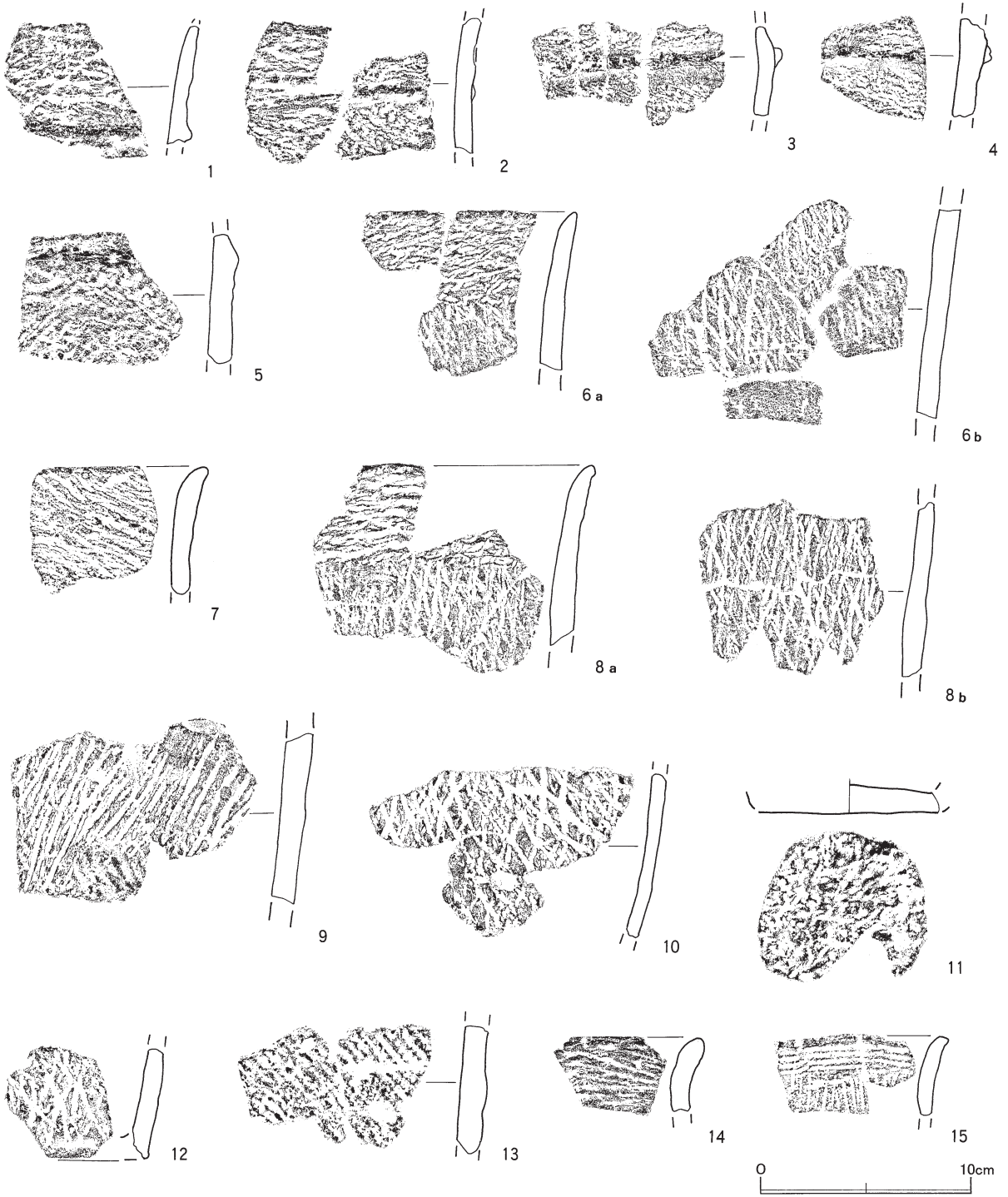
299・300はV群c類大洞A式に並行するもの。胴上部で弱く屈曲し、口縁が緩やかに外反する。口縁部に浅く太い3本の平行沈線がめぐり、その下の2本の浮線にA状突起とB状突起を交互に配している。299は黒褐色を呈し、口縁部のミガキ調整がていねいである。

続縄文時代の土器（VI群）〔図IV-30、図版87〕

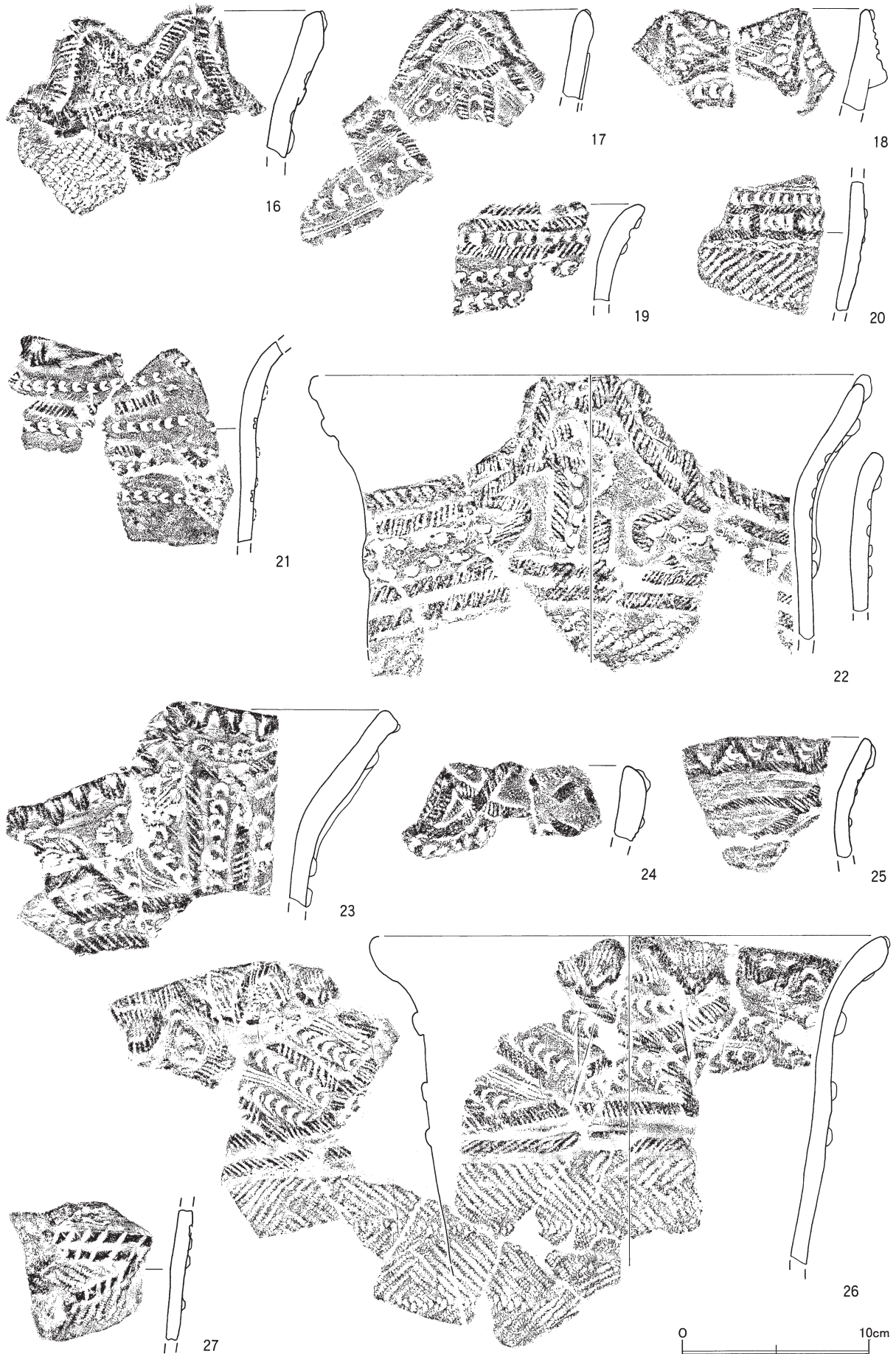
301・302は恵山式の壺形土器。301a・bは外面の口縁部中ほどと内面口縁部にやや深い多重沈線が横走する。302a・b・c・dはやや広口の壺。頸部は直立し、口縁が外反する。口唇下に刻み列を有し、口縁部および胴上部にやや深い多重沈線が横走し、胴下部は縄文が縦走する。

その他の土器〔図IV-30、図版87〕

303は唐津焼の甕とみられる近代～現代の陶器。



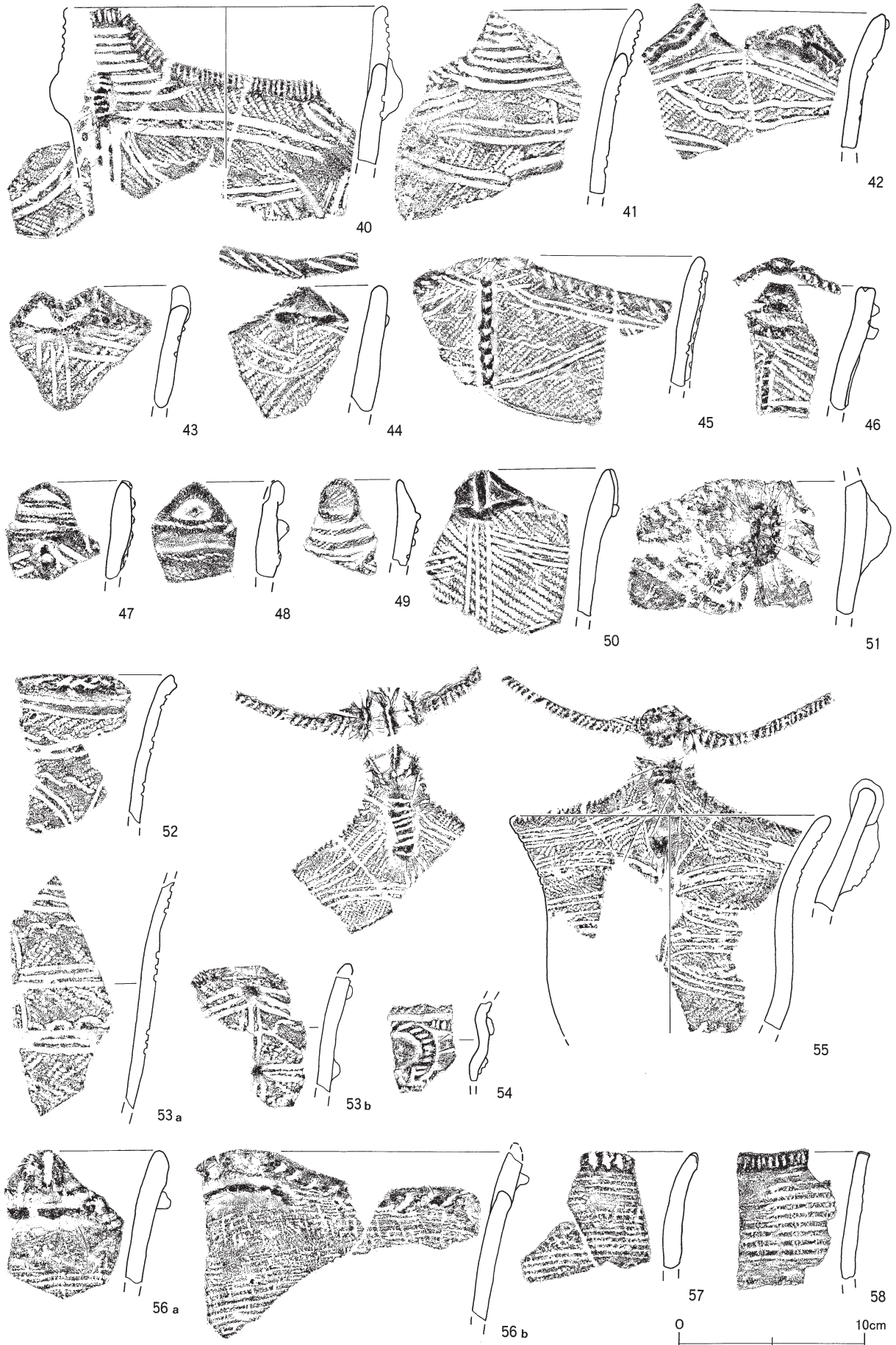
図IV-10 包含層出土の土器(1)



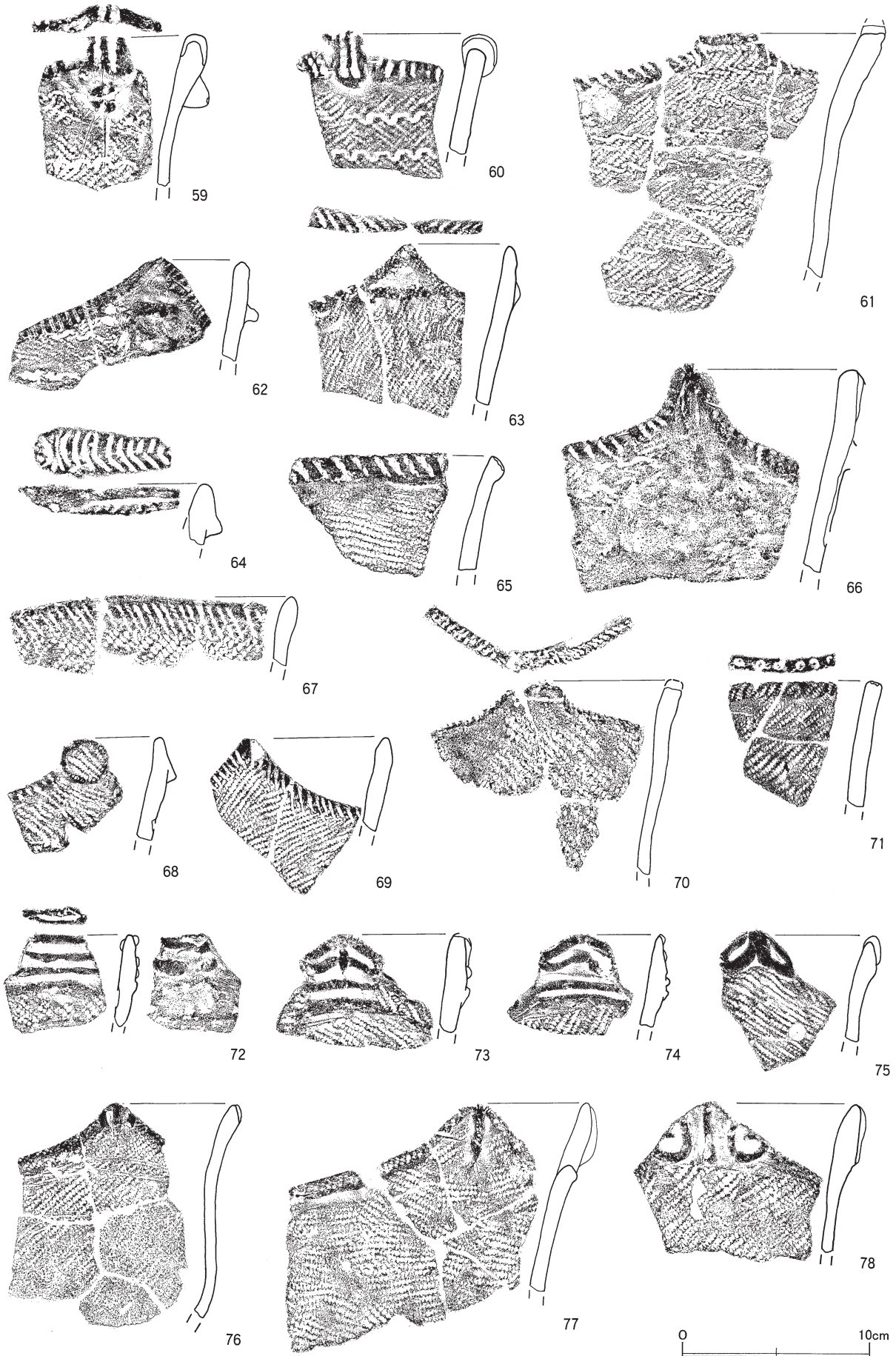
図IV-11 包含層出土の土器(2)



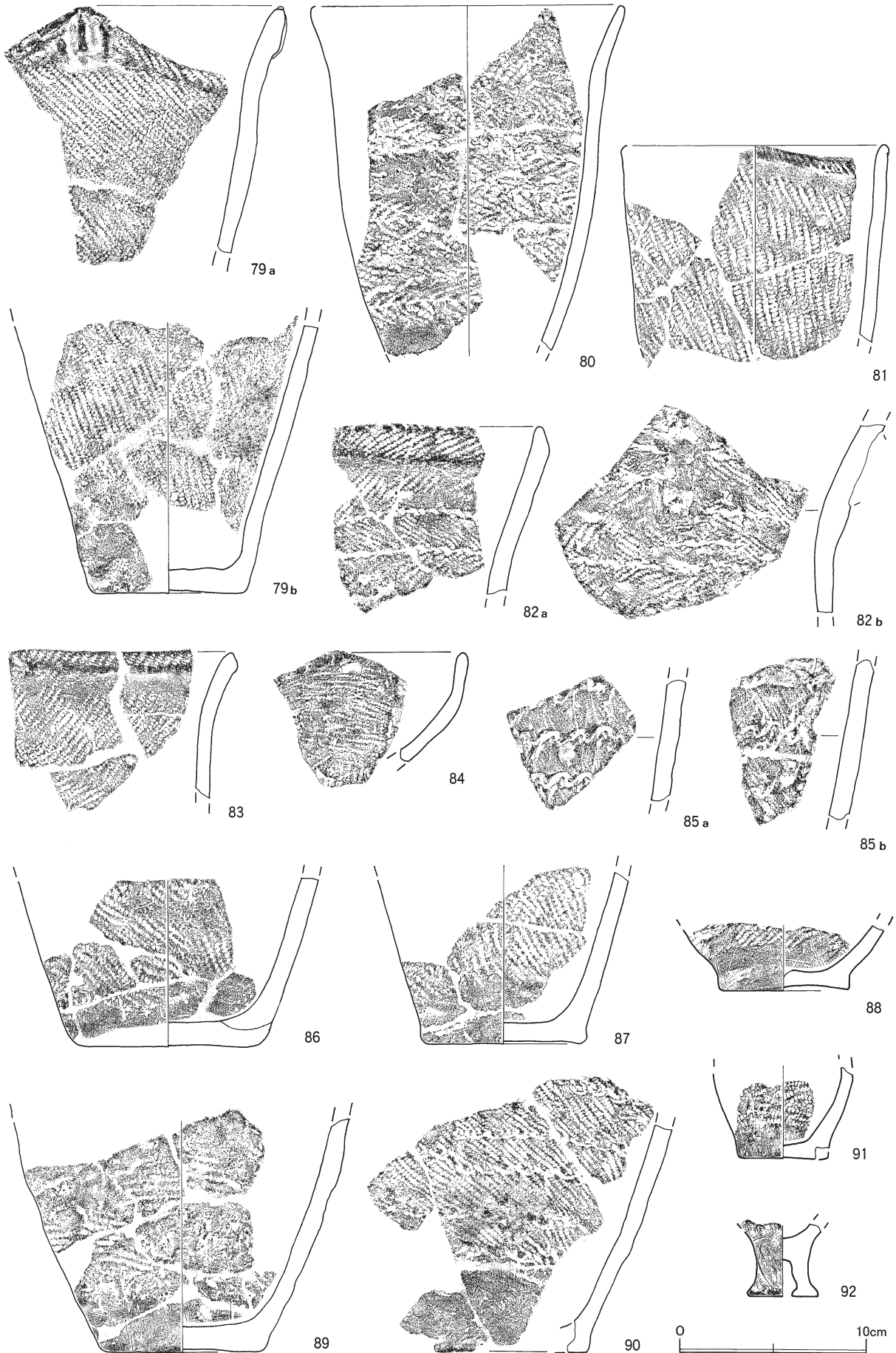
図IV-12 包含層出土の土器(3)



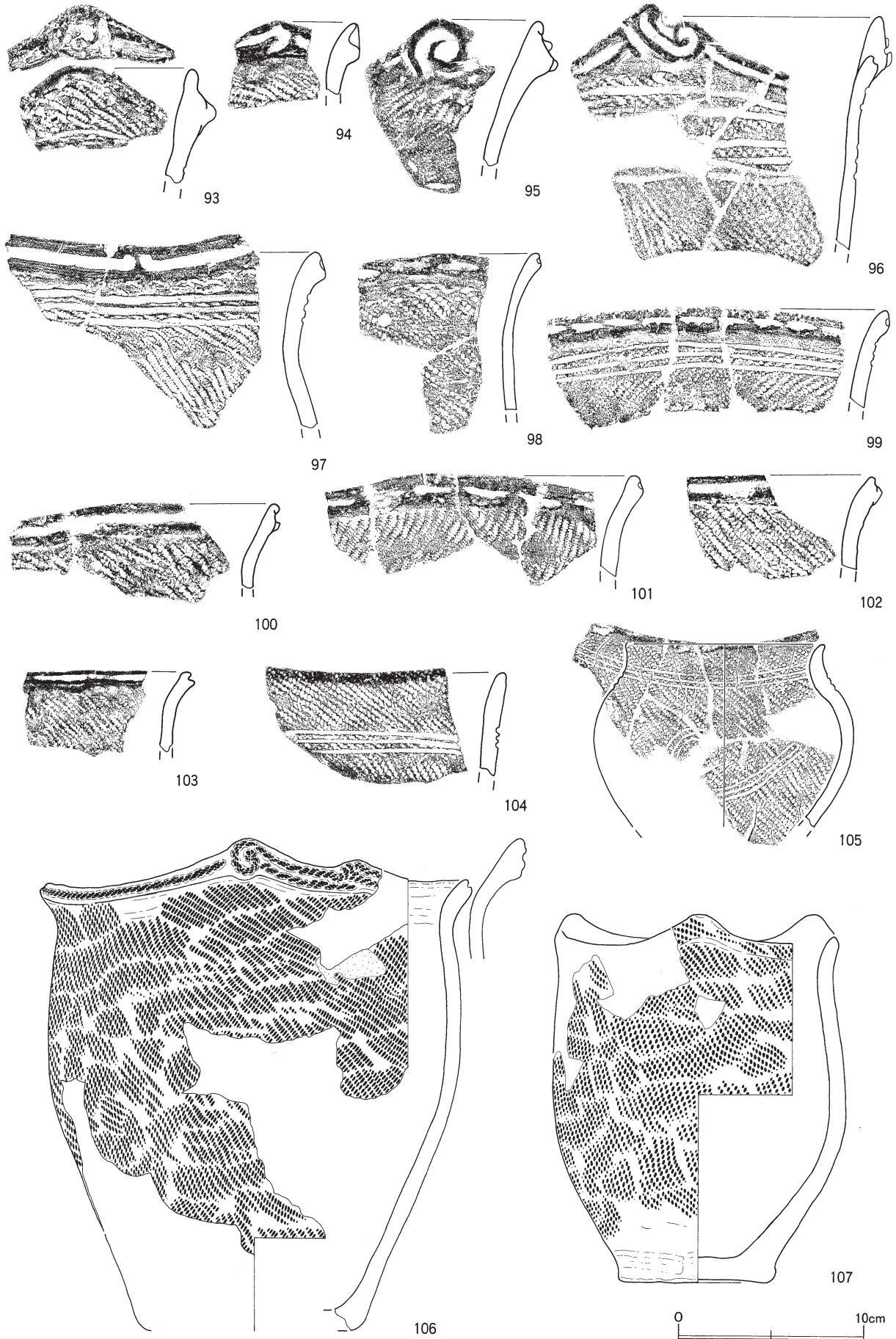
図IV-13 包含層出土の土器(4)



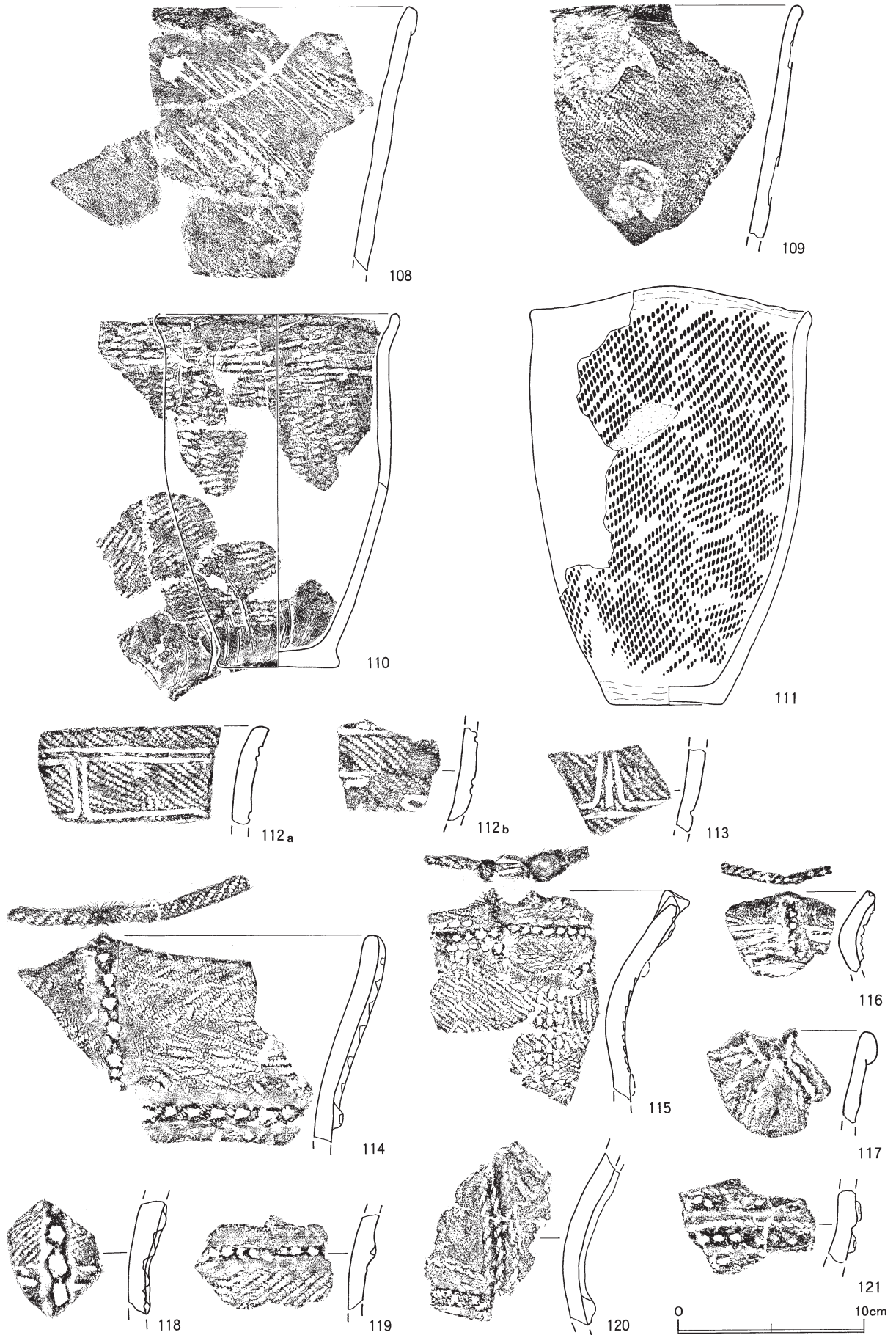
図IV-14 包含層出土の土器(5)



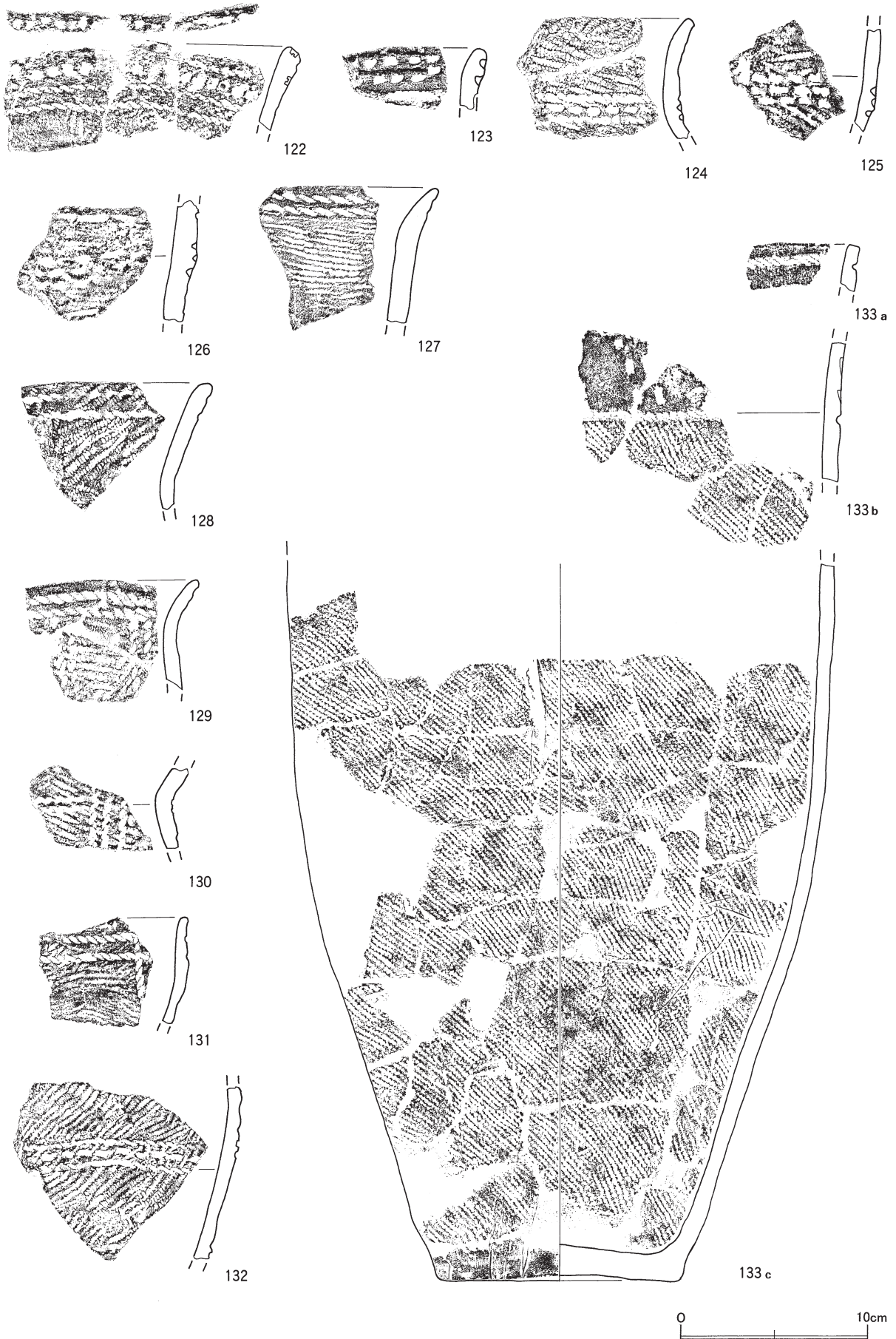
図IV-15 包含層出土の土器(6)



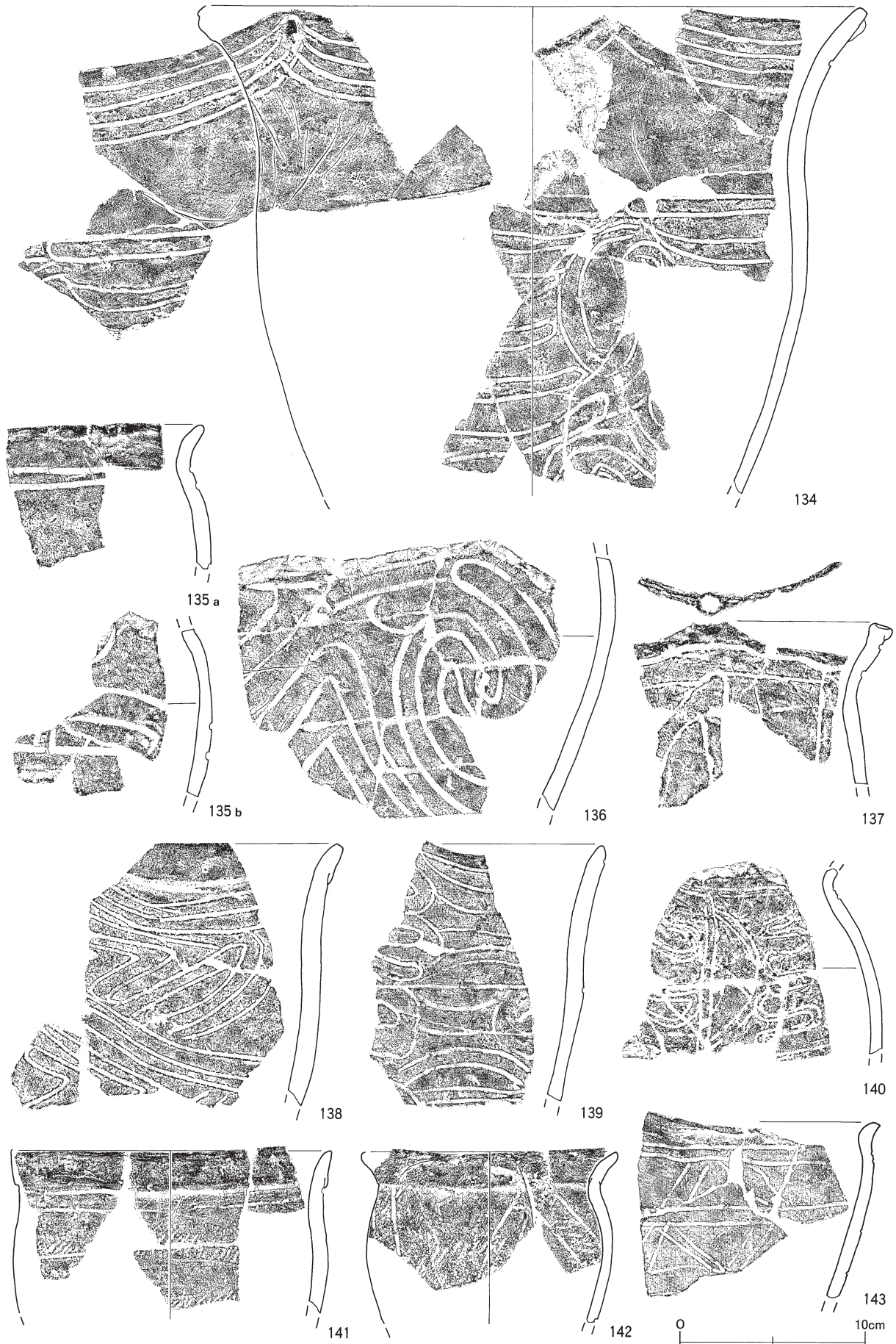
図IV-16 包含層出土の土器(7)



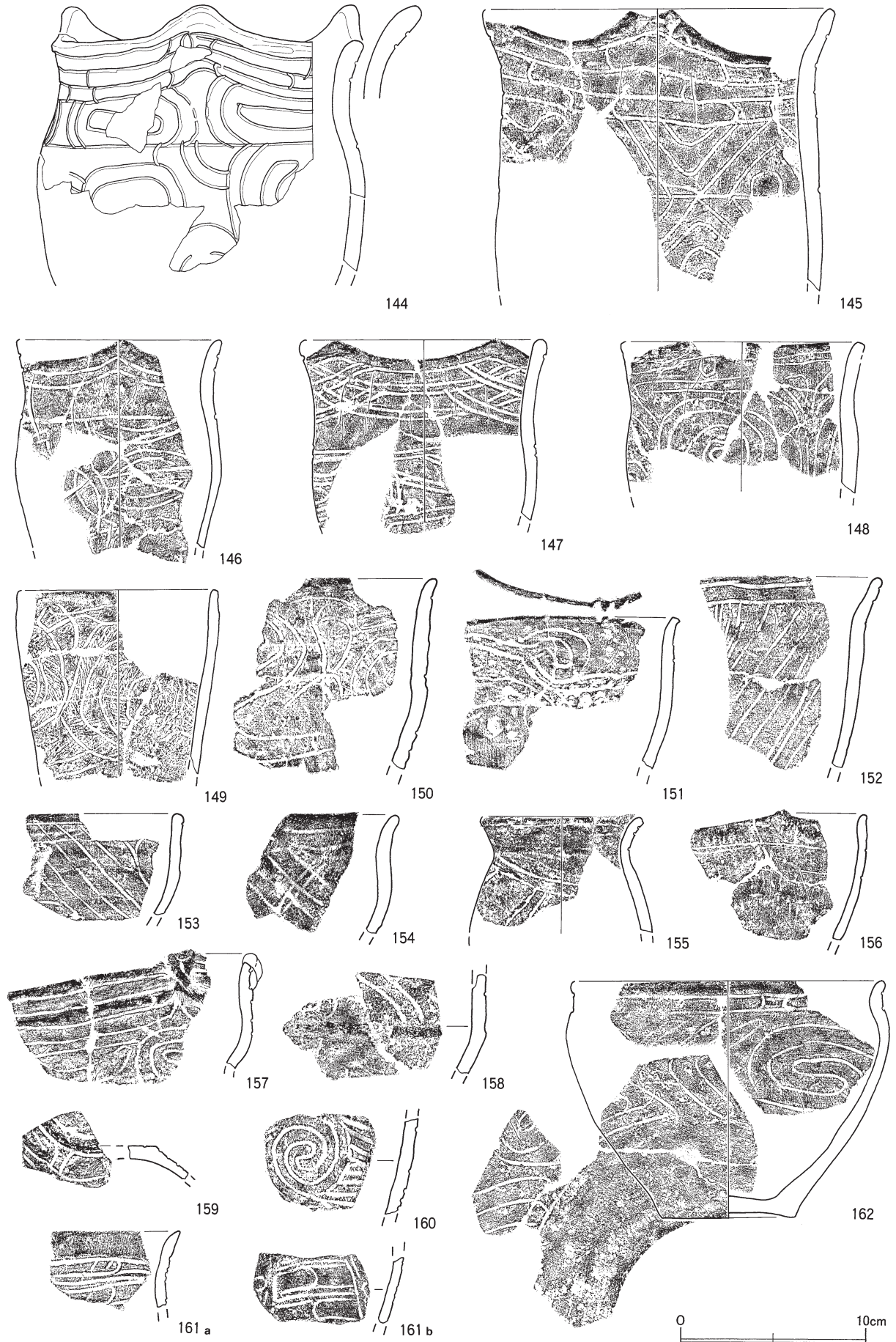
図IV-17 包含層出土の土器(8)



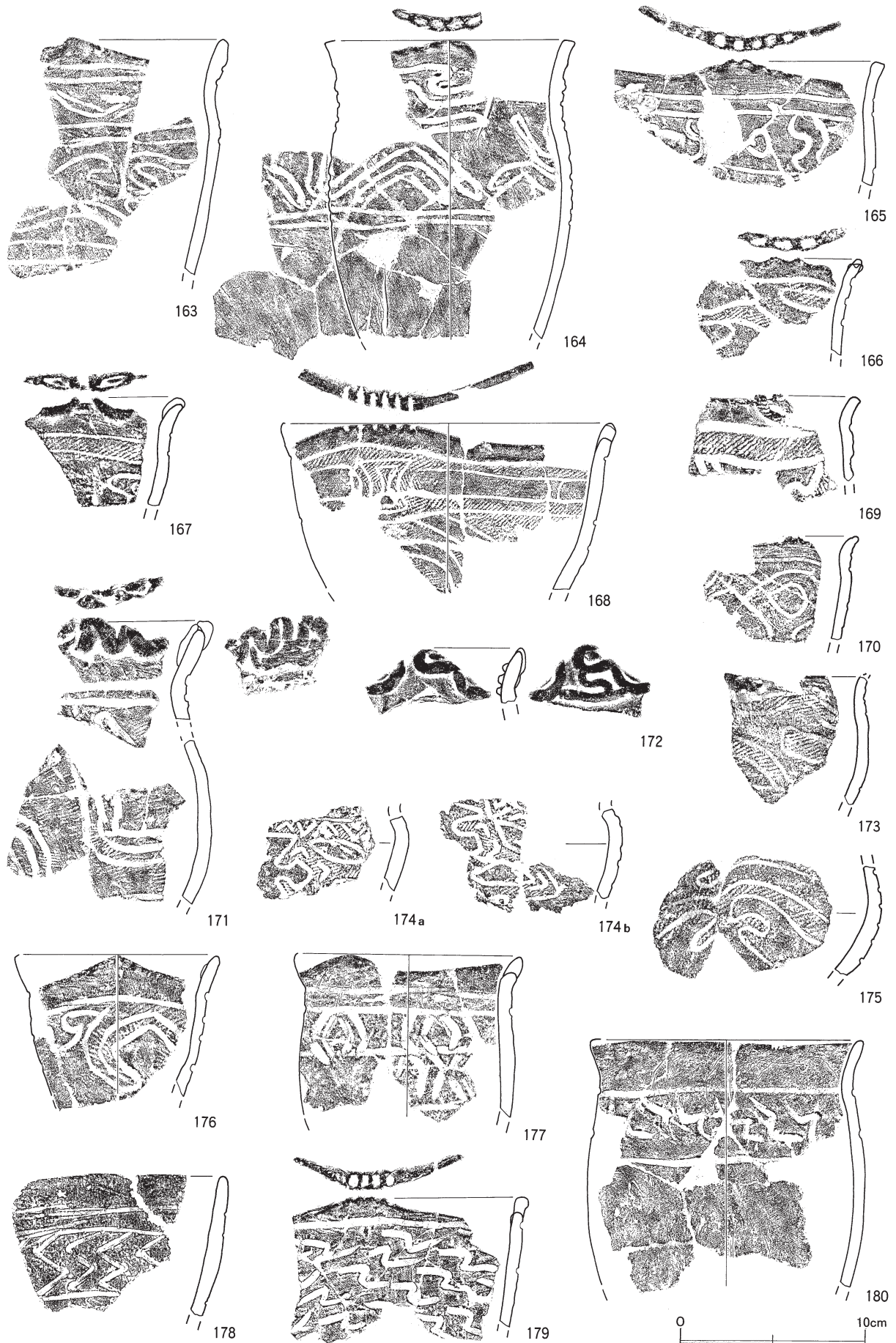
図IV-18 包含層出土の土器(9)



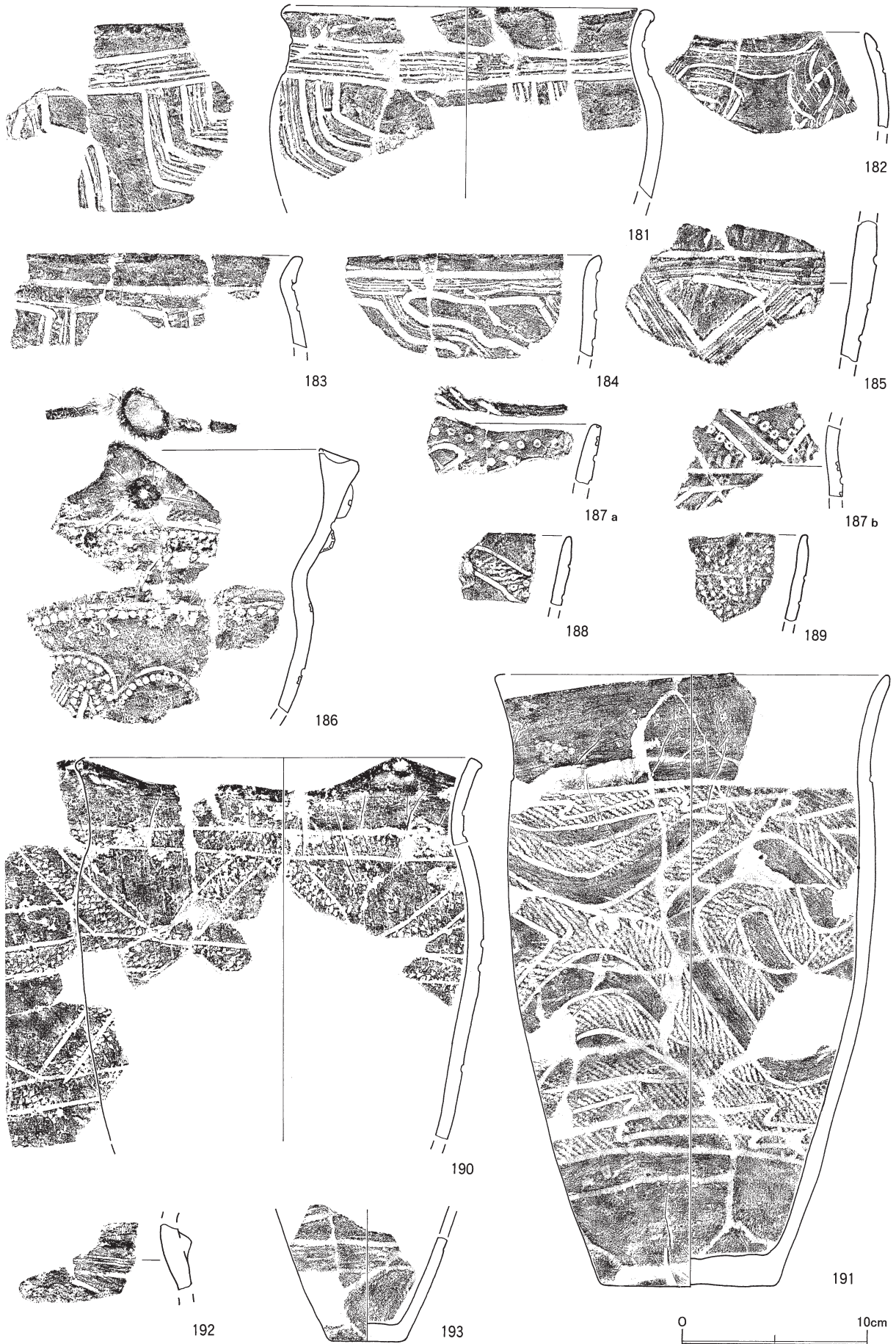
図IV-19 包含層出土の土器(10)



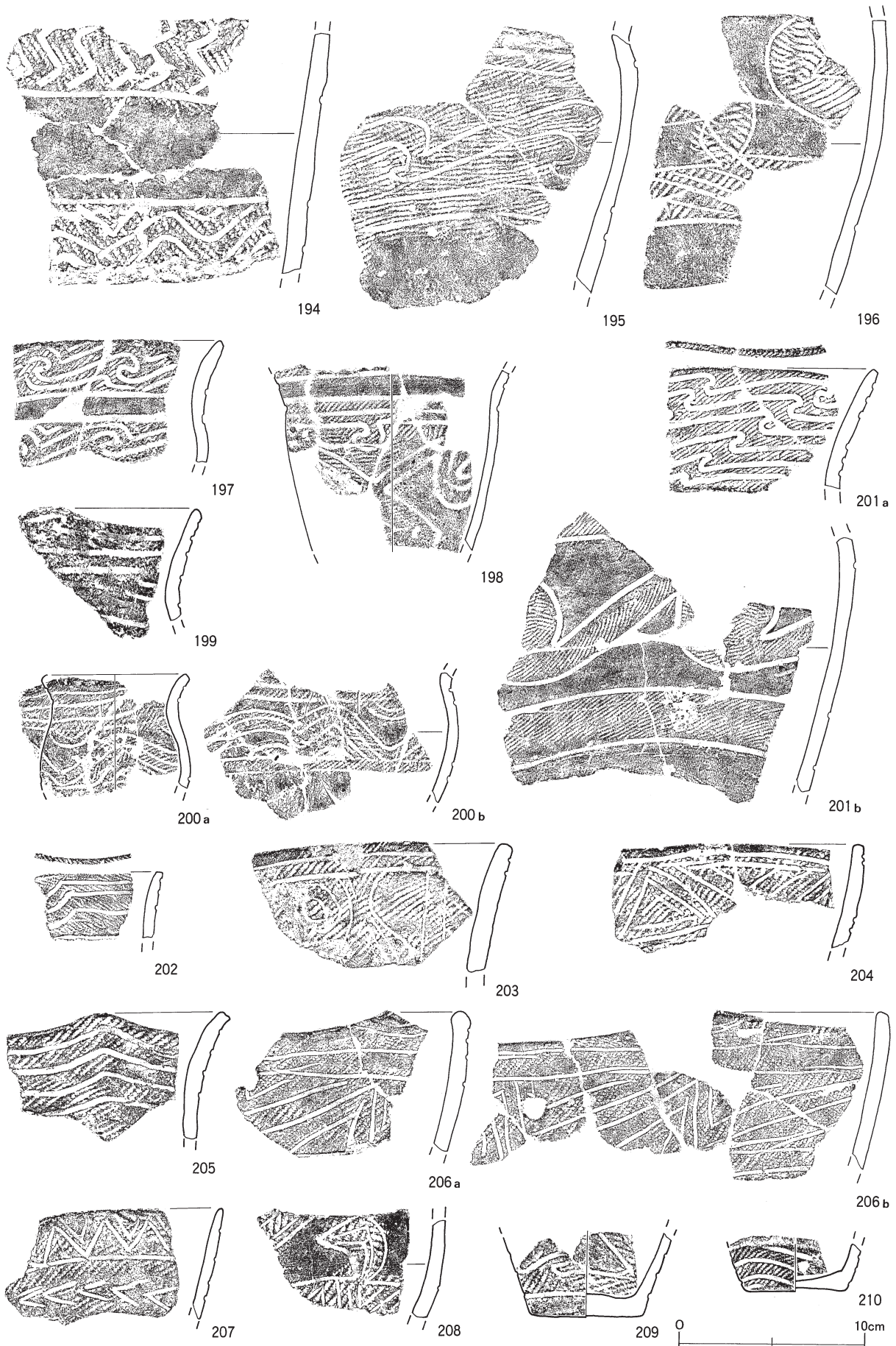
図IV-20 包含層出土の土器(11)



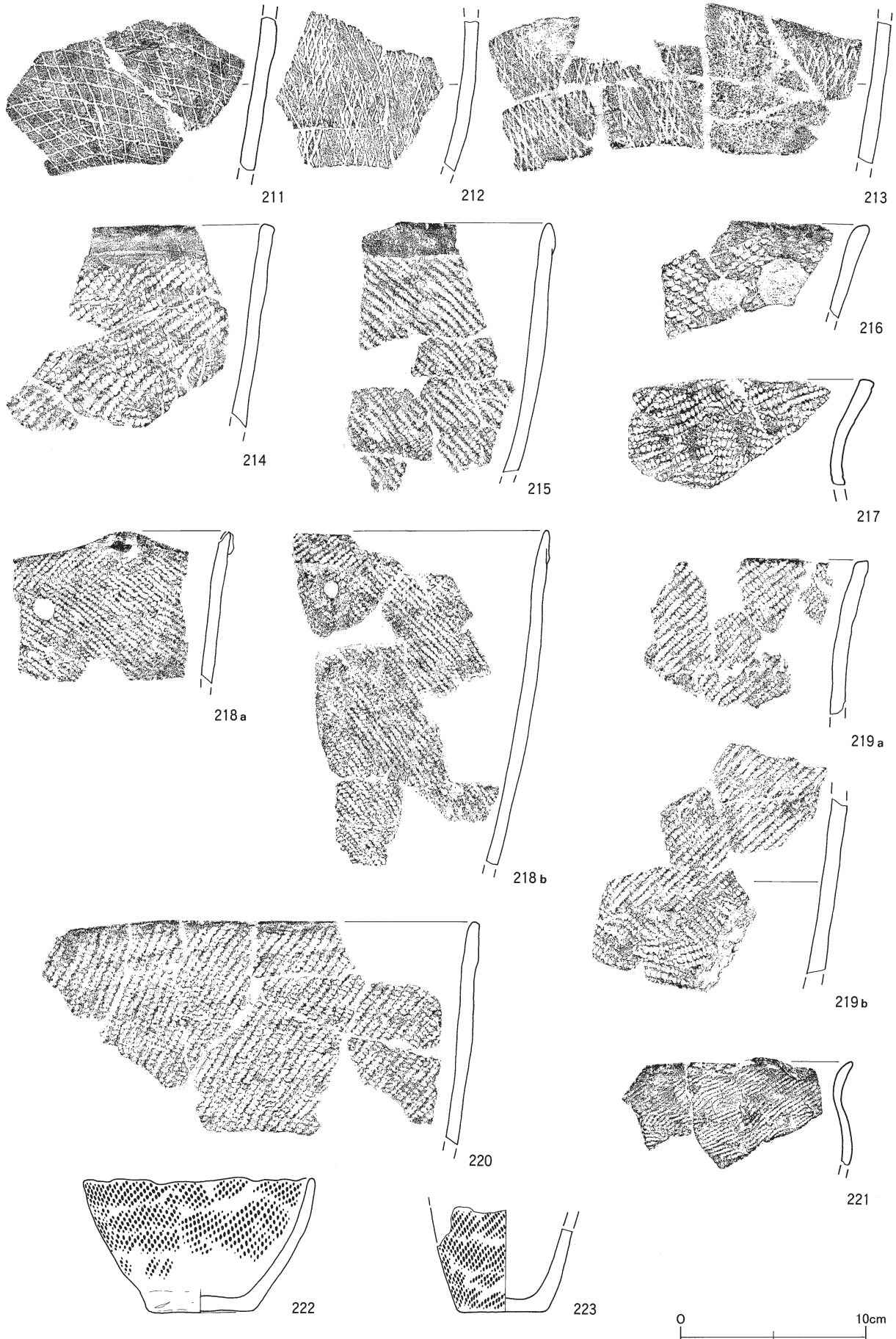
図IV-21 包含層出土の土器(12)



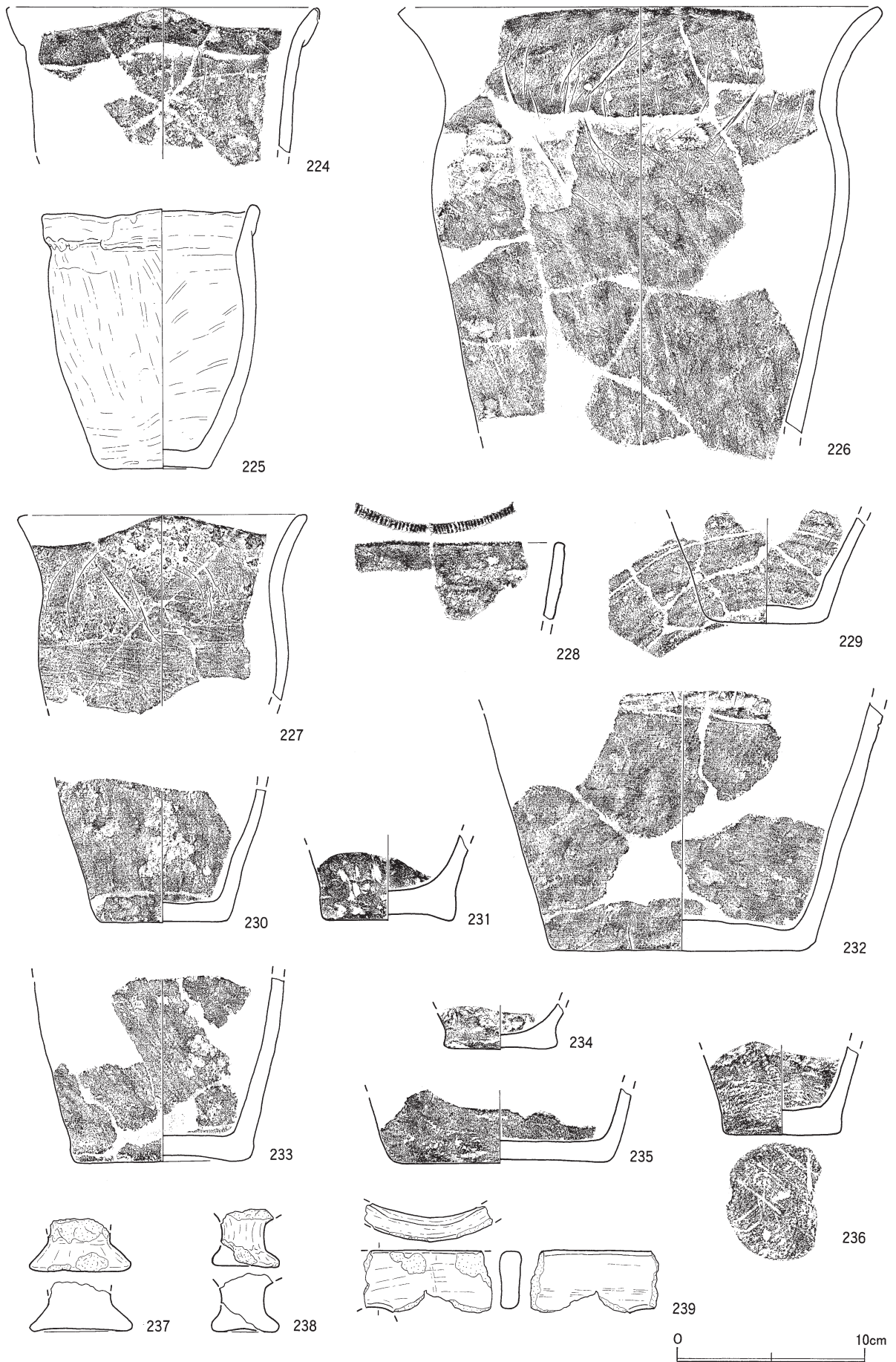
図IV-22 包含層出土の土器(13)



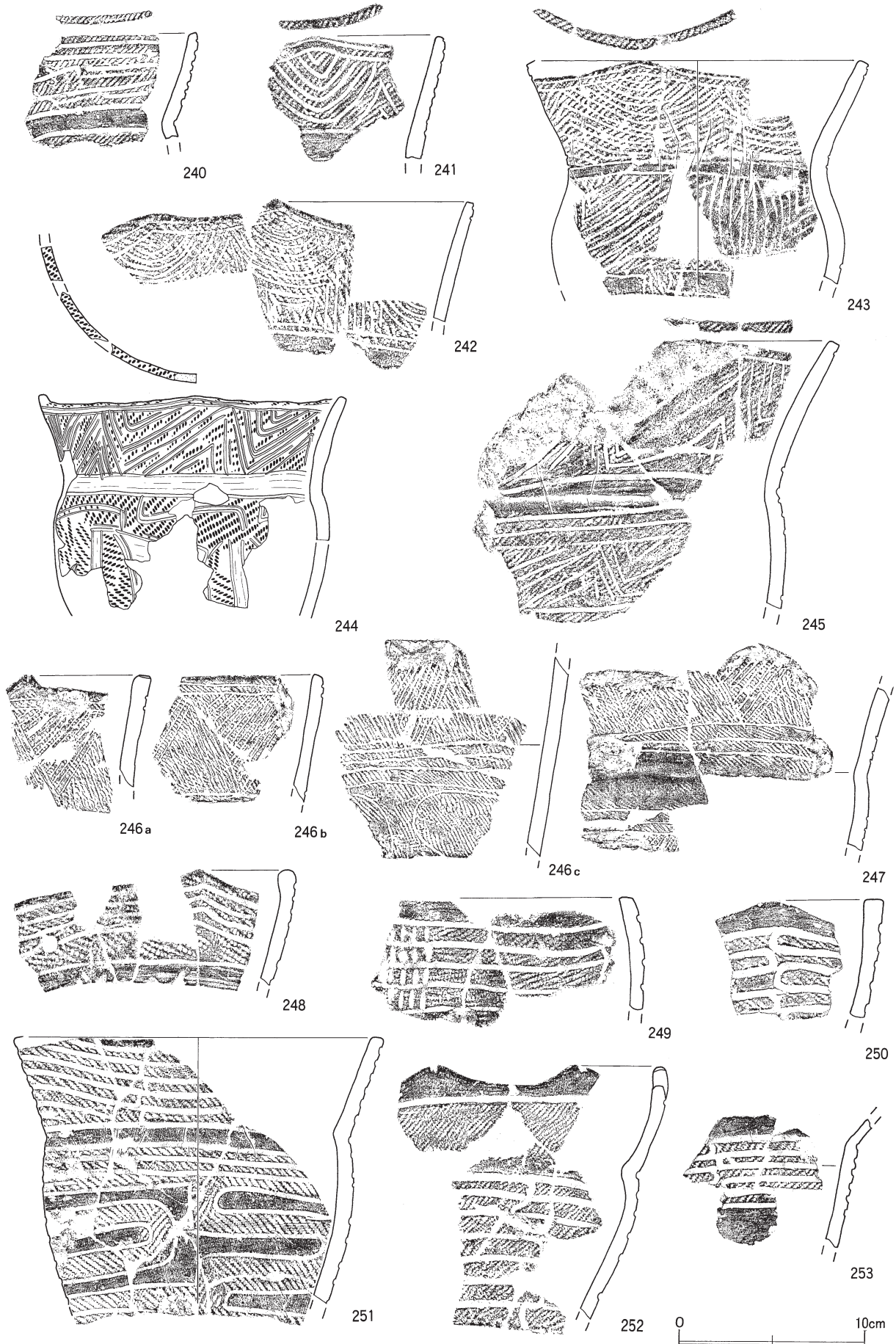
図IV-23 包含層出土の土器(14)



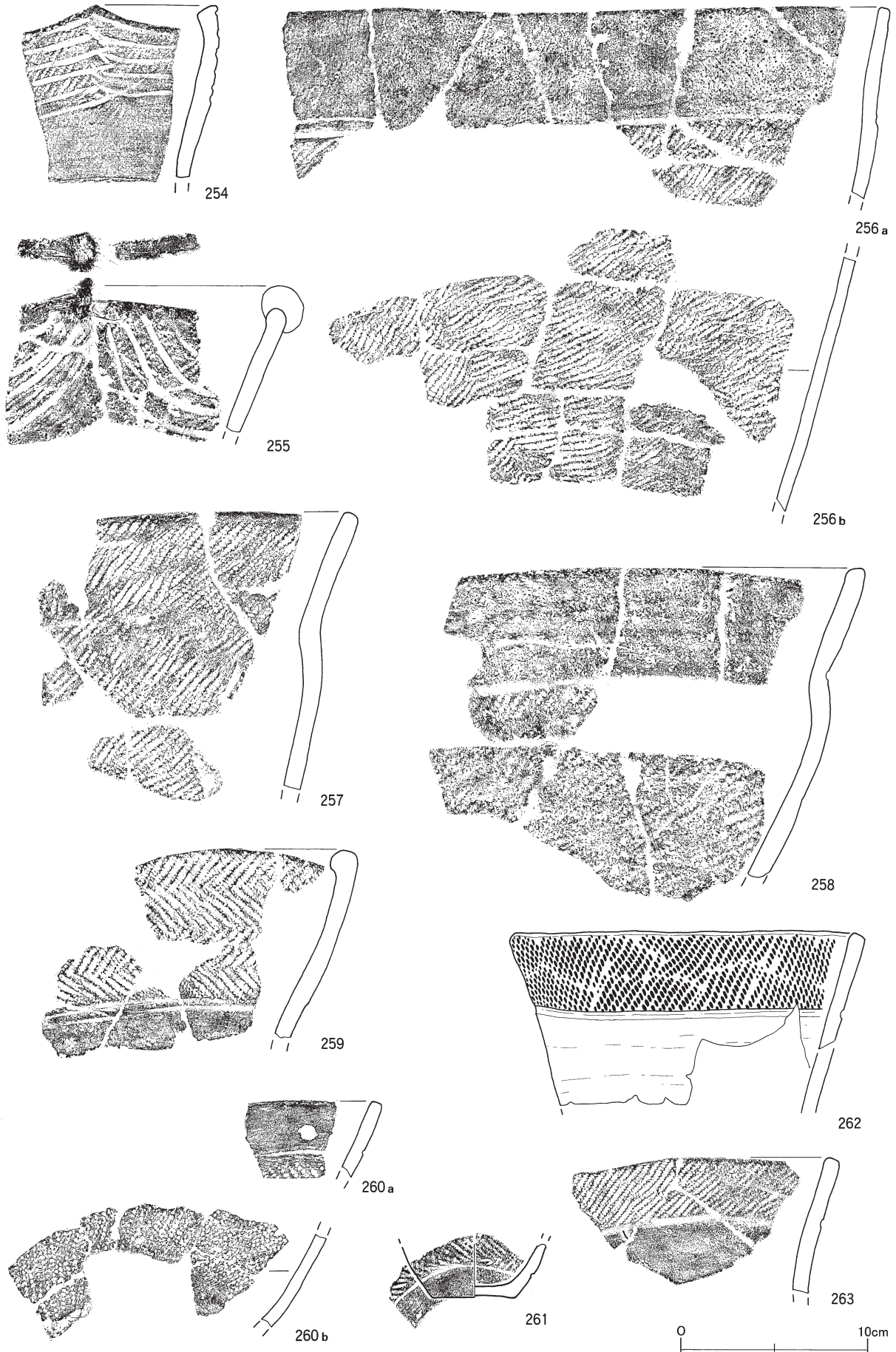
図IV-24 包含層出土の土器(15)



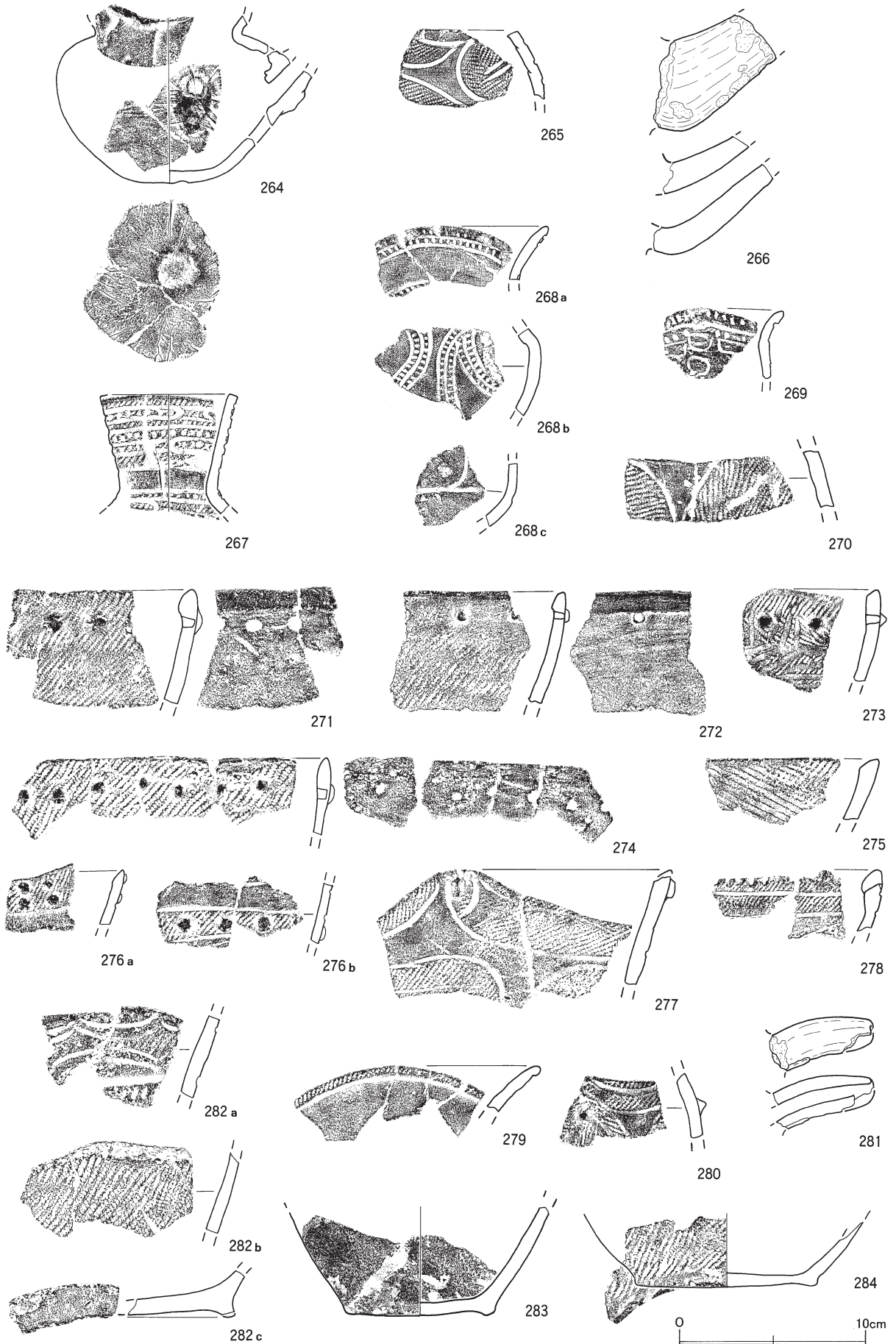
図IV-25 包含層出土の土器(16)



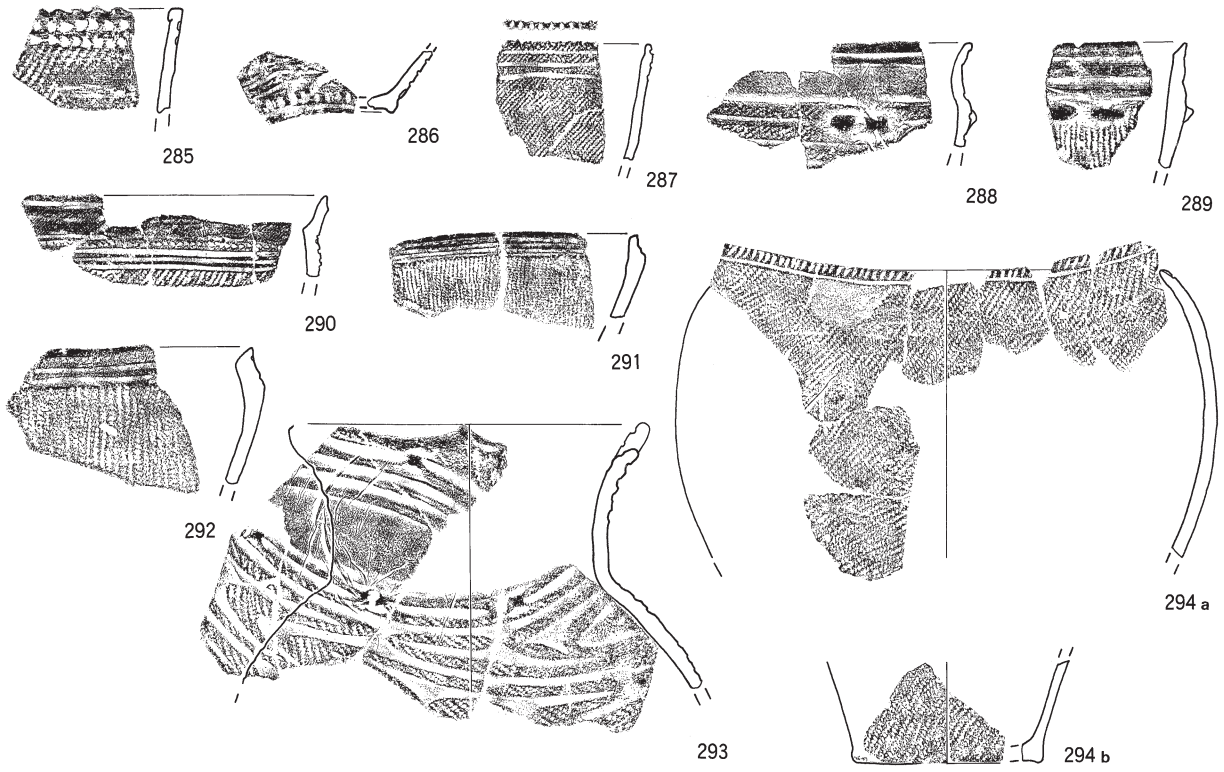
図IV-26 包含層出土の土器(17)



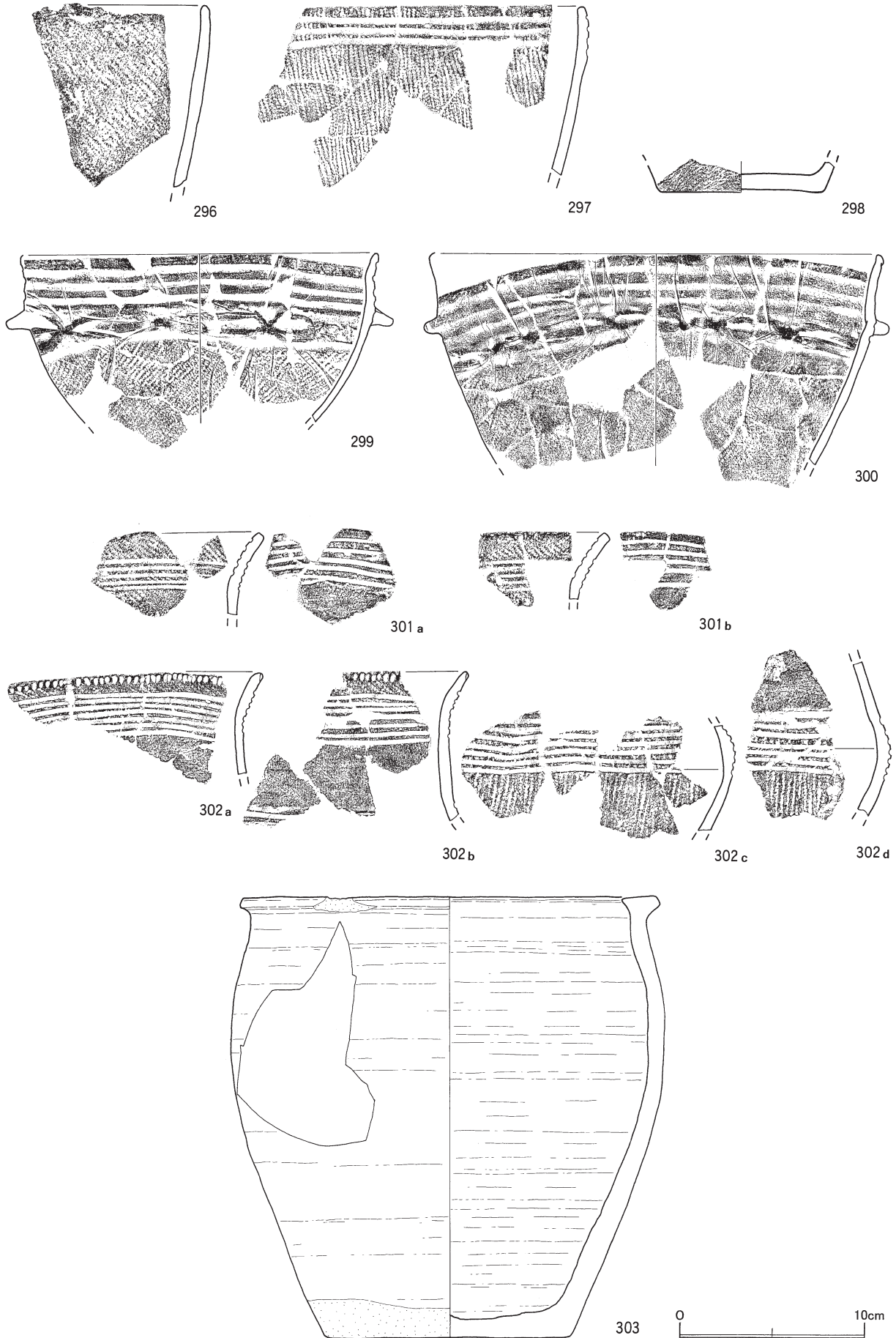
図IV-27 包含層出土の土器(18)



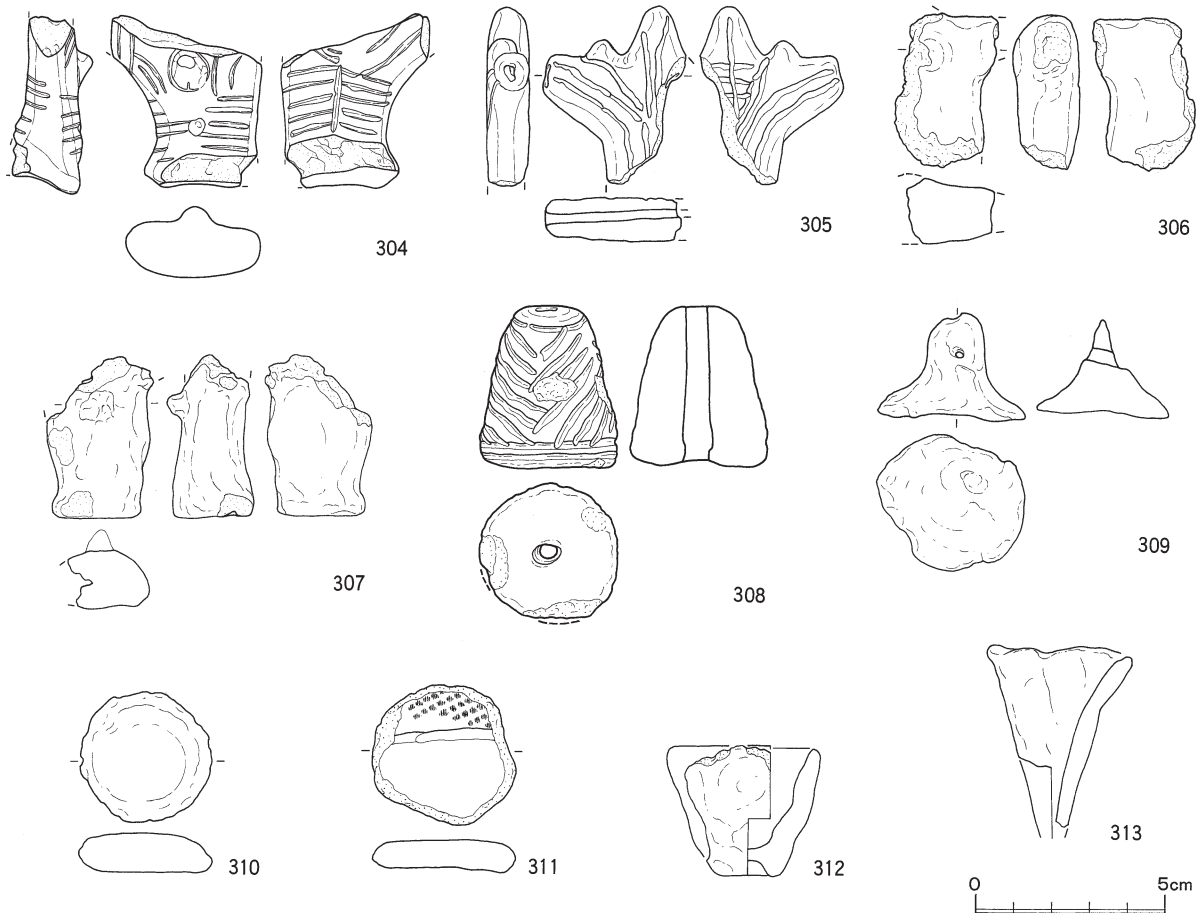
図IV-28 包含層出土の土器(19)



図IV-29 包含層出土の土器(20)



図IV-30 包含層出土の土器(21)



図IV-31 包含層出土の土製品

土製品〔図IV-31、図版88〕

304～307は土偶。形状や文様から、いずれも縄文中期半ばころのものと思われる。304は脚なしの立身像。左肩部から脚部が残存する。胸部に貼瘤が1つ、腹部に小さな刺突が1つ施されている。背面は正中線を基準とし、腹面とともに横位の沈線が多段施文されている。305は板状土偶とみられるが、それ以外の土製品の可能性もある。頭部～左腕部～胴部の一部が残存する。肩部に小さな山形の突起が付される。左腕部から右腕部方向に貫通孔がある。文様は、顔面表現は見られず、頭部および腕部から腹部へ複数の沈線がえがかれている。背面には正中線と横位の多重沈線がみられる。306・307は脚なしの立身像。いずれも無文で、肩部の一部～脚部が残存する。胸部～腹部に貼瘤が付される。

308は錐台形の土製品。上面は丸みをもち、底面はおおむね平らである。上下方向に貫通孔がある。区画沈線内に右傾・左傾の多重沈線が施されている。「イモガイ形土製品」(青森県三内丸山遺跡例など)に類似する。309はスタンプ形土製品。全体が剥落・磨滅を受けている。版面はおおむね円形の凹面で、つまみ部に貫通孔がある。310・311は土製円盤。いずれもIV群a類とみられる土器片が加工されている。310は表面が磨滅している。側面の調整がていねいに行われ、正円形に近い。311はやや不整形である。外面に帯状文の一部がみられる。312は鉢形土器のミニチュア。手づくね様に成形されているが、底部の上げ底はていねいに作り出されている。313は「ろうと」状の土製品。

(阿部)

3. 石器等 [図IV-14~26 表IV-6~9 図版98~103]

石鏃 [図IV-32の1~53、図版89]

53点図示した。2が珪岩またはめのう製、24~29・38が黒曜石製で、それ以外は頁岩製である。15・18・46の茎部にはアスファルトとみられる黒色物質が付着している。

1は凹基無茎のもの。尖頭部が欠損する。側縁は微細な調整により鋸歯状となっている。2・3は平基無茎のもの。3は木葉形に近い。4~9は尖基のもの。4は腹面・背面とも素材の背腹面が残る。10~32は凸基有茎のもの。12は茎部が細い。15は厚身のもので、尖端部を欠く。黒色物質はかえしに最もよく残っている。20は平基に近い。23は石材の色調が、尖端部側は黒色、茎部側は乳白色と明瞭に異なっている。茎下端部を平らに調整している。24・25は細かい球彫、27は青みのある筋、28は透明度のやや高い黒曜石が用いられている。28~32は菱形に近い形状である。28・31・32は薄身で、30は厚みがある。32は素材の背腹面が広く残る。33~53は平基有茎のもの。34~37は幅広のもの。35の茎部は薄身で短い。36はやや厚身である。38は正三角形に近く、茎部を欠く。42は長身のもの。かえしが尖る。47は尖端部側が細く、使用後に再調整した可能性がある。48~53はかえしが急で凹基に近い。48・49はやや厚みで、52・53は薄身で両面とも平坦に近い。茎部が細長い。

石槍（またはナイフ） [図IV-33の54~63、図版89]

10点図示した。60が黒曜石製で、それ以外は頁岩製である。54・55は比較的薄身で木葉形のもの。形状・大きさが近似するが、厚さ・石材の色調から別個体の欠損品とみられる。56は厚身で有茎のもの。かえしのえぐりは弱い。57は平基有茎のもの。58は厚身で棒状のもの。59は菱形に近い形状のもの。60は木葉形のもので、尖頭部を欠く。61は尖頭部が尖らず、基部側が膨らみ下端が丸みをもつ形状である。ナイフとしての利用も考えられる。62・63はナイフとしたもの。62は下端部が尖る。63は腹面の中央付近に素材剥片のバルブを残して調整している。

石錐 [図IV-33の64~74、図版90]

11点図示した。すべて頁岩製である。全体的に機能部の磨耗痕がわずかである。64~66は棒状のもの。64・65は先端が尖る。67は素材の背腹面を残す。67は尖基、68は平基有茎の石鏃を転用したものと考えられる。68~70・73は薄身で幅広のつまみ部を作り出したもの。73は機能部も扁平である。71・72・74はつまみ部が厚みをもつもの。74は平坦面をもつ。

両面調整石器 [図IV-34の75~85、図版90]

11点図示した。80が黒曜石製で、それ以外は頁岩製である。両面のおおむね全面に細かい調整が行われている。ナイフなどの用途が考えられる。75~80は小型で楕円形に近い形状のもの。76~80は刃部が鋭い。80は尖頭部が尖り、右側縁は古い剥離面を残す。81はやや大型で木葉形のもの。82は撥形のもの。83は方形で厚身であり、上部部に弱いえぐりを有する。84・85はヘラ状に近い。84の上部部は古い剥離面の平坦部をもつ。

つまみ付きナイフ [図IV-34・35の86~107、図版90]

20点図示した。86・106は黒曜石製で、それ以外はすべて頁岩製である。

86~88は両面調整のもの。86・87はおおむね左右均衡。86は深いえぐりを入れつまみ部を作り出している。88は幅広のもので、素材の背腹面を大きく残し、周縁部に細かい調整が連続する。つまみ部

が右側縁側に寄っている。

89～104は基本的に片面調整のもの。89～91は長身で右側縁が内湾する。89・91は周縁部の身に細かい調整が連続する一方、90は背面全面に調整が施されている。91は上端部を薄身に調整してつまみ部を作り出している。92～97はおおむね左右均衡のもの。特に92・94は均整がとれている。94のつまみのえぐり部にはアスファルトとみられる黒色物質が明瞭に残存している。95の背面には原石面が残る。96・97は背面中央部に主要剥離面を広く残す。98～101は左右が不均衡のもの。98・99は左側縁、100は右側縁に直線的な刃部をもち、101は右側縁がやや内湾する。98・100はつまみ部が右側縁側に寄る。101は全面的に光沢をもつ石質であるが、特に腹面中央部が顕著である。102・103は幅広のもの。102は背面右側縁側に原石面が残る。103はえぐりが弱く幅広のつまみ部を作り出している。104は不整形なL字形に得られた剥片をそのまま用いてつまみ部を作り出したもの。

105～107は横長のもの。105・106はつまみ部が左側縁側に寄る。107はつまみ部がやや大きく、上端に平坦面をもつ。

スクレイパー〔図IV-36～39の108～158、図版91・92〕

51点図示した。122は珪質頁岩製とみられ、それ以外はすべて頁岩製である。長さ7cm前後、幅4cm前後で、楕円形や短冊形の剥片を素材とし、側縁加工を施したものが多い。115・118・120・124・131・143・148・152・155・157は全面的に光沢をもつ石質である。またこれとは別に、一部(127・135・149・150・153)を除きすべてのものについて、腹面の刃部側縁中央部または側縁に沿って光沢が観察される。特に126・130・132・133・140は顕著である。また116・118・121・133・144などは背面側の刃部側縁にも光沢をもつ。

108・109はへら状のもの。下端部にも二次調整がていねいに行われ、刃部を作り出している。108は右側縁に直線的な刃部をもつ。110～122は楕円形もしくは半月形に近い規格性のある形状のもの。片刃のものがほとんどで、110・111・114・118～120は右側縁に刃部をもち、113・115～117・121・122は左側縁に刃部をもつ。112は両刃のもので、背面両側縁に微細な剥離調整が連続する。121・122はやや不定形。123～136は短冊形に近い形状のものを主体とする。一側縁～三側縁に原石面を残した剥片を素材としたものが多い。123・124・126～129・131・135・136は右側縁に刃部をもち、125・130・132～134は左側縁に刃部をもつ。123は腹面下部が内湾し、端部に原石面が残る。133は刃部が内湾する。137～146は縦長の剥片を素材とするもの。137・143は左側縁、144・145は右側縁、138～142は両側縁を刃部とするもの。137は背面右半に原石面を残す。下端部にも微細な調整が及ぶ。138は腹面下部が内湾し、端部に原石面が残る。139・142は背面に原石広く残す。145は下半部が細く、背面左側縁に原石面がある。146～153はやや不定形のもの。146は厚身のもの。147・148は下部がV字状の剥片を素材とし、両側縁を刃部とする。147・148は背腹両面の左側縁に調整が行われている。151は上端に原石面を残す半円形の剥片を素材とし、周縁部に調整が行われている。154～158はエンドスクレイパー。下端部において刃部に対し60°前後の角度をもつ調整が行われている。154は三辺に調整が行われている。155・156は短冊形に近い剥片、157・158は楕円形の剥片を素材とする。158は背面に原石面や古い剥離面を残す。

ピース・エスキュー〔図IV-40の159・160、図版92〕

2点図示した。石材は頁岩である。159は上端につぶれ痕とみられる面があり、下部が欠損するが両極打法による打撃が加えられたと考えられる剥片。左右側縁に剥離痕がある。160はくさびの形状

をもつ剥片。側縁に微細な剥離痕がある。

石核〔図IV-40の161・162、図版93〕

2点図示した。石材は頁岩である。剥片をとるための打ち欠きが連続する。161は大型の楕円体の礫の上端部～両側縁にかけて大型の剥離痕が連続する。上端部が尖った状態で残存する。162は先端がやや尖る大型の角棒状の礫が用いられている。三側面から剥片を得ており、微細な剥離痕が連続して観察される。

石斧〔図IV-41・42の163～181、図版93〕

19点図示した。石材は163～165・168～170・175・176・178～180が緑色泥岩、166・174が安山岩、167・172・181が片岩、171が泥岩、173が緑色凝灰岩、177が閃緑岩とみられるものであり、種類が多く色調も多様である。

163～174は完形または完形に近いもの。入念に全面研磨が行われたものが多い。一部片刃に近いものがあるが、すべて両刃である。163～166は扁平な自然礫を素材とする。163は短冊形を呈する。刃部が剥落している。164は研磨による稜が比較的顕著に観察される。基部に平坦面をもつ。165は撥形のもの。166は小型のもので、敲打調整後、主に刃部および側面を研磨している。167～174は縦長で断面が楕円形の自然礫を素材とする。167は左側面に自然面が残る。刃部に微細な剥離痕がある。168はほぼ全面に光沢をもつ。169～171は基部に敲打痕が顕著に見られ、くさびとしての用途も考えられる。170は刃部の潰れや剥落がやや大きく、171は刃部に微細な剥離痕が連続する。173は敲打調整痕が広く観察できる。173・174は中央部が膨らみ、左右対称に整えられている。174の刃部は剥落が多い。175・176は刃部側を大きく欠く。175は大型のもので、基部はていねいに整えられている。176は側面に磨り切り痕が明瞭に残る。177～179は基部側を半損する。180は小型で完形のもの。基部に敲打痕が顕著に見られる。181はさらに小型で扁平である。刃部は剥落が大きく、つぶれている。

石のみ〔図IV-42の182、図版93〕

182は約20m（N16区とO19区）離れて出土した2片が接合した。片岩とみられる緑色の石材が用いられている。長身であり、両側縁に磨り切り痕が明瞭に残る。

たたき石〔図IV-42の183～193、図版94〕

11点図示した。石材は183～185・190が砂岩、186・192が安山岩、187・191・193が珪岩、188・189が頁岩である。珪岩のうち187・193は乳白色でめのう質、191は暗褐色を呈する。

183はやや扁平な楕円礫、184～187は棒状または長楕円形の自然礫を素材とするもの。183・184は上下両端に敲打痕が広く及ぶ一方、185はわずかな痕跡である。186は角柱状に近い礫の上下端に、敲打痕が明瞭に残る。187～191は楕円体の礫を素材とする。187・191は上下両端に敲打痕が広く及ぶ。188～190は下端部を主な機能部とし、上端側は小さな敲打痕が複数観察される。192・193は円礫を素材とする。193は周縁に敲打痕が広く観察される。

くぼみ石〔図IV-43の194～202、図版94〕

9点図示した。石材は194が凝灰岩、195・196・198～201が泥岩、197が安山岩、202が砂岩である。194・197は楕円礫、195・196は扁平で楕円形を呈する礫、198～201は角棒状の礫、202は三角柱状の

礫を素材とする。194は2か所のくぼみにくの字状の細かい敲打痕が多数観察される。195・197は片面、196・198～201は表裏両面にそれぞれ敲打による複数のくぼみがみられる。特に196・199～201はくぼみが表面長軸中央に連続する。また197は上下端部に敲打痕が観察され、たたき石の特徴も有する。202は三角錐状で、その下面に相当する平面に2か所のくぼみが見られる。石冠に類する。

扁平打製石器〔図IV-43～48の203～248、図版94～97〕

46点図示した。石材は236～238が砂岩、248が片岩で、それ以外はすべて安山岩である。安山岩製のうち、235・243～246は緑色を呈する。扁平な楕円形の礫を素材とし、長軸両端を打ち書き、下縁長軸方向に幅の狭いすり面をもつことを基本とする。

当遺跡では、半割された状態で出土するものが多いことが特徴である。出土点数の半数以上にのぼり、図示したものでは46点中33点（約72%）、破片点数では79点中66点（約84%）が半割されたものである。また離れた地点で接合するものも多く、接合距離が20m以上のものを挙げると、約20mが205（N20区とO16区）・213（N18区とQ20区）、230（M20区とM24区）、約25mが234（I25区・K21区）、約30mが231（K18区とP19区）、30m以上が220（K17区とO22区）、約50mが207（L17区とN26区）である。

203～235は半割されたものが接合したものの。203・204は表面の一部が赤褐色を呈する板状の礫を素材とする。他のものと異なり、半割後にそれぞれ周縁に敲打調整を行い下縁に筋状のすり面を設けている。205～214は長楕円形の扁平礫を素材とする。213・214は上縁が不整形である。205・208～214は長軸両端に打ち欠きが行われている。207・210・213は裏面が大きく剥落する。

215～235は正面観が半月形のものと同形状のものについて、大きさや形状に近いものの順に図示した。215～217は小型のもので、216・217は3分割されている。216の下縁は原石面のままである。220は左下部が小片として分割されている。221は左側縁部を欠き、3分割以上となっている。223は側縁の敲打痕が大きく、下縁は比較的広いすり面をもつ。226～229は表面が暗赤褐色を呈する板状の礫を素材とする。下縁に極めて幅の狭いすり面をもつ。上縁にも敲打調整が行われている。232～235は上縁の敲打調整や好打による剥落・欠損が顕著なもの。下縁は比較的幅の広いすり面をもつ。

236～248は完形あるいは完形に近いもの。236～239は正面観が楕円形のもの。下縁の中央付近にすり面がある。241～244は正面観が半円形のもの。240・245・246は正面観が長方形に近いもの。245～248は上縁の敲打調整が顕著である。247・248はやや不整形のもの。下縁は敲打調整によりすり面の幅が狭い。

すり石〔図IV-48の249～255、図版97〕

7点図示した。石材は249・250が砂岩、251～255が安山岩である。249～251は扁平な楕円形の礫が用いられ、下縁に幅の狭い長軸方向のすり面をもつ。252は大型礫の幅のやや狭い側縁をすり面としている。253は三角柱状の礫の下縁にやや幅の広いすり面を設けている。254は楕円体の礫を用い、丸みをもつ下縁の一部をすり面としている。正面や側面の一部に敲打痕が見られる。255は楕円体の礫の側面全周を研磨しすり面としている。正面中央には円形の敲打痕がある。

北海道式石冠・石冠〔図IV-49・50の256～267、図版98〕

12点図示した。すべて安山岩製であり、うち257・258・261・267は緑色を呈する。上面は丸みもち、中央部に持ち手のくぼみがめぐり、下縁は平坦でほぼ全面をすり面とする。256～260は横長のもの

の。256・258は持ち手部分のくぼみが顕著である。256～258は頂部に敲打痕がみられる。すり面は正面側から裏面側へ傾斜している。259・260は大型で、右側縁の一部を欠く。持ち手のくぼみはやや深い。259はすり面が右側縁に向かって反る。261～264は高さと同程度のもの。261は小型のもの。多孔質の石材で、すり面は不明瞭である。262は持ち手のくぼみが左側縁まで及ばない。263・264は持ち手側がやや大きい。上面の敲打調整が顕著に見られ、正面下部に敲打による剥離痕が連続する。すり面が丸みをもつ。265～267は長楕円体の礫の礫を素材とする。265は石冠とした半損品。長軸端部を打ち欠き、側面および上面に筋状のくぼみをめぐらせ、下面は丸みをもつ全面である。266・267は同発掘区と同層位から出土した。266は敲打および研磨により下面中央部を平坦面とし、側面にくぼみをめぐらせている。267は研磨により下面全面を平坦面とし、側面にくぼみをめぐらせ、上面に長軸方向に1本と×印状に交差する筋状のくぼみを設けている。入念な調整が行われている。

砥石〔図IV-51の268～270、図版99〕

3点図示した。268・269は砂岩製でもろい。270は凝灰岩製。268は左側縁を残し平滑な面が観察される。269・270は表面がやや凹面となっている。269は破片表面全体が平滑である。

石皿・台石〔図IV-51の271～273、図版99〕

3点図示した。安山岩製である。271は暗赤褐色を呈する多孔質の楕円形の礫が用いられている。上面全面に平坦面をもち、すり痕がわずかに観察される。側縁の縁辺部に敲打調整が行われている。272は下面とした方が山形の高まりをもつ大型礫が用いられている。273は扁平な楕円形の礫の上面にくぼみがあり、すり痕が観察される。

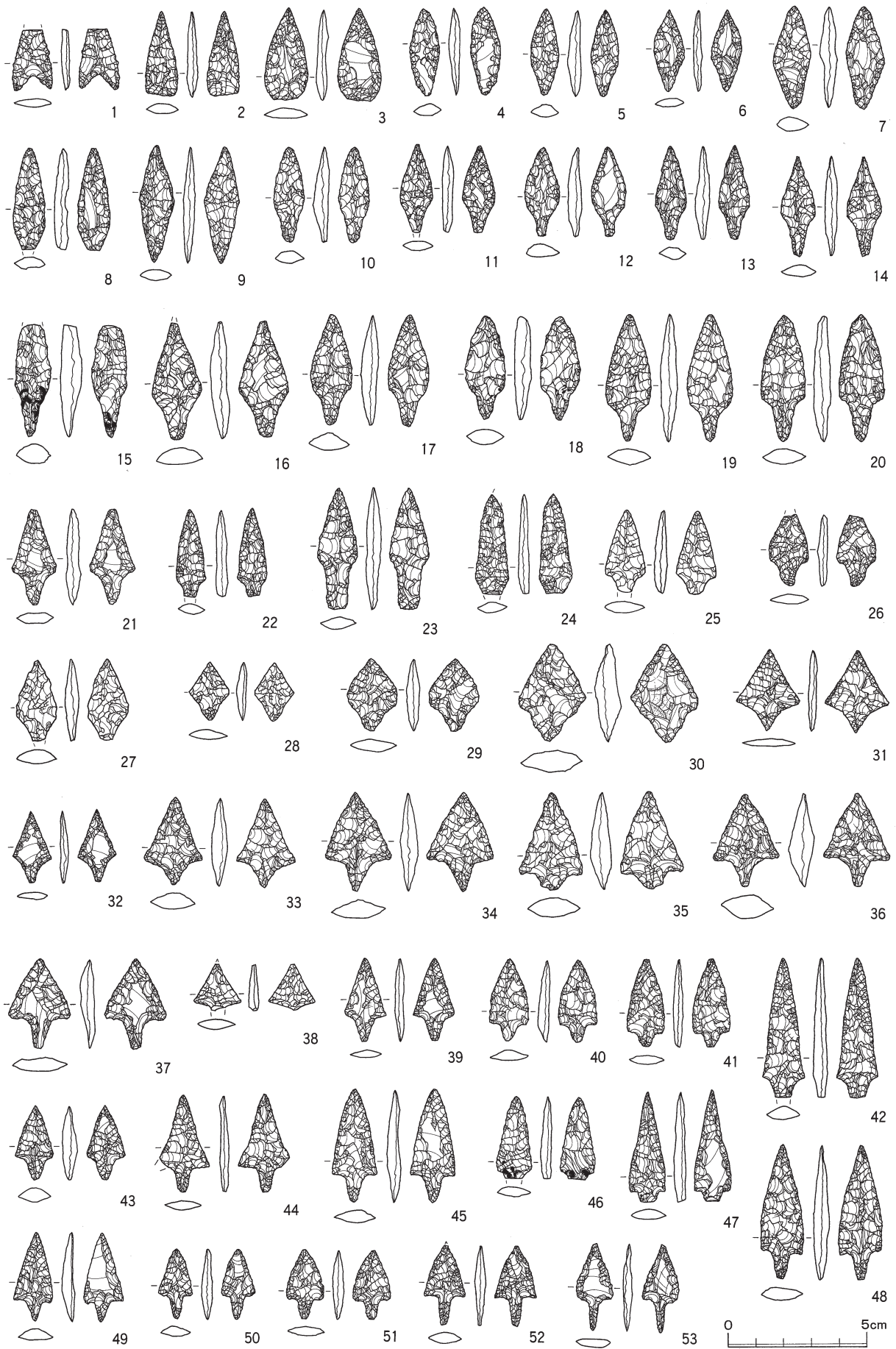
石製品〔図IV-52・53の274～291、図版100〕

274は大珠。直径5cm・厚さ3cmを超える大型のもので、中央が膨らむやや扁平な円柱形を呈する。全面研磨が行き届き、穿孔部内も磨かれている。石材は、緑色の鉱物を主体とし黒雲母や乳白色の鉱物が含まれており、蛇紋岩や緑泥石岩などに類する。275は三角形の石製品。泥岩製で、側面を含め全面に擦痕・研磨痕が残る。無文であるが、岩偶の可能性も考えられる。276～291は三脚石器としたもの。すべて泥岩製。正三角形あるいは二等辺三角形に近い形状で、上下両面とも原石面を残し側面を加工している。上面が平坦で下面がわずかに内湾するものが多い。276・278・280・281・290は上面の一部に加工が及ぶ。276・278・279・281・287は端部が丸みをもつ。278・279・283は下辺がわずかに内湾する。288・290は縦長の二等辺三角形に近い形状で、三片がそれぞれやや内湾する。291は横長の二等辺三角形を呈する。

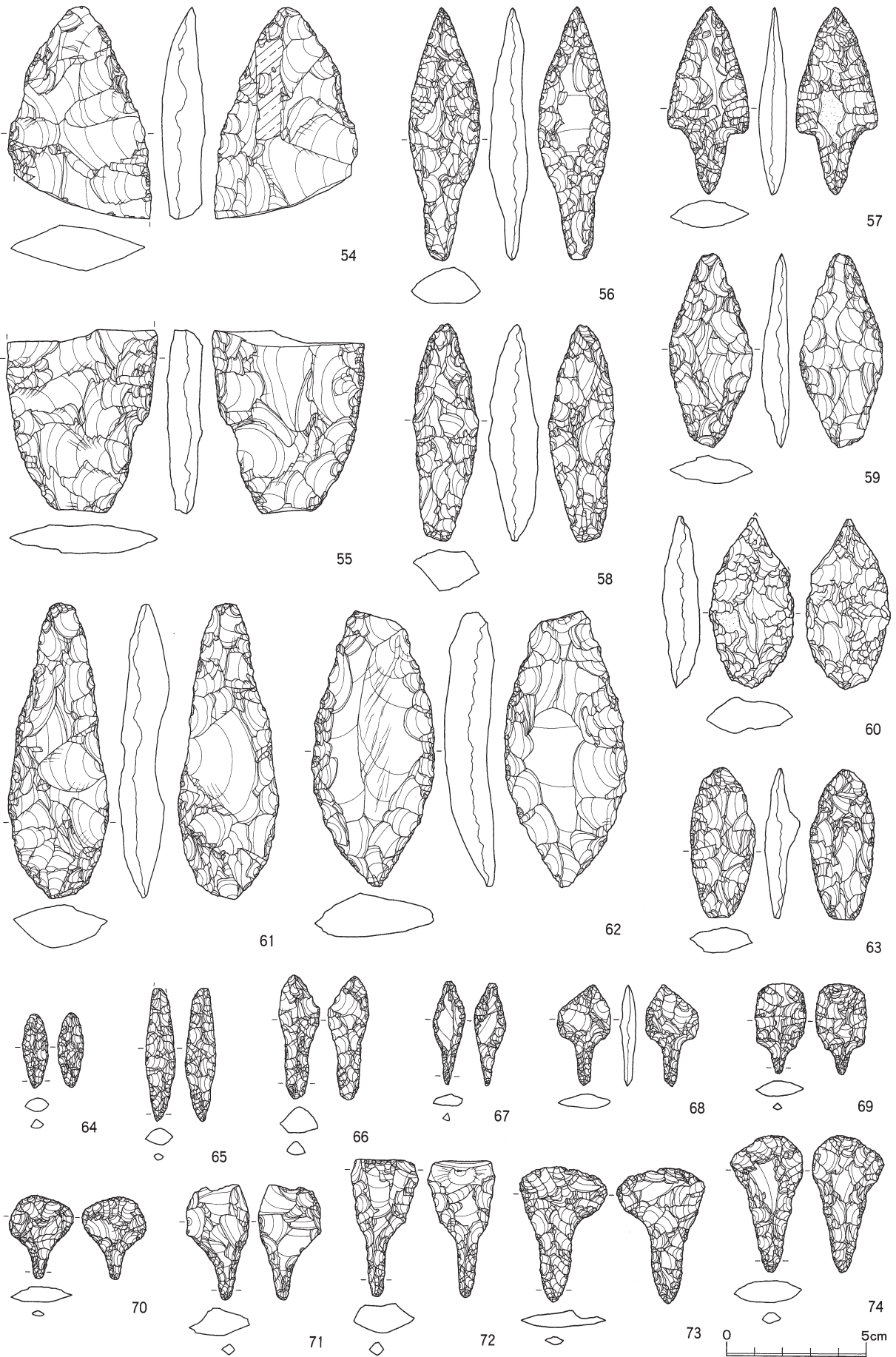
その他〔図IV-53の292～295、図版100〕

292は小型で管状の生物化石を多数含む礫。化石は海綿動物のマキヤマチタニイとみられる。293・294は有孔礫。不整形な円柱形を呈する。中央付近に自然孔とみられる貫通孔があり、側面は研磨した可能性もある。295は石棒としたもの。端部が丸みのある太い棒状の礫を研磨したものと考えられ、線刻や彫刻などの装飾は施されていない。

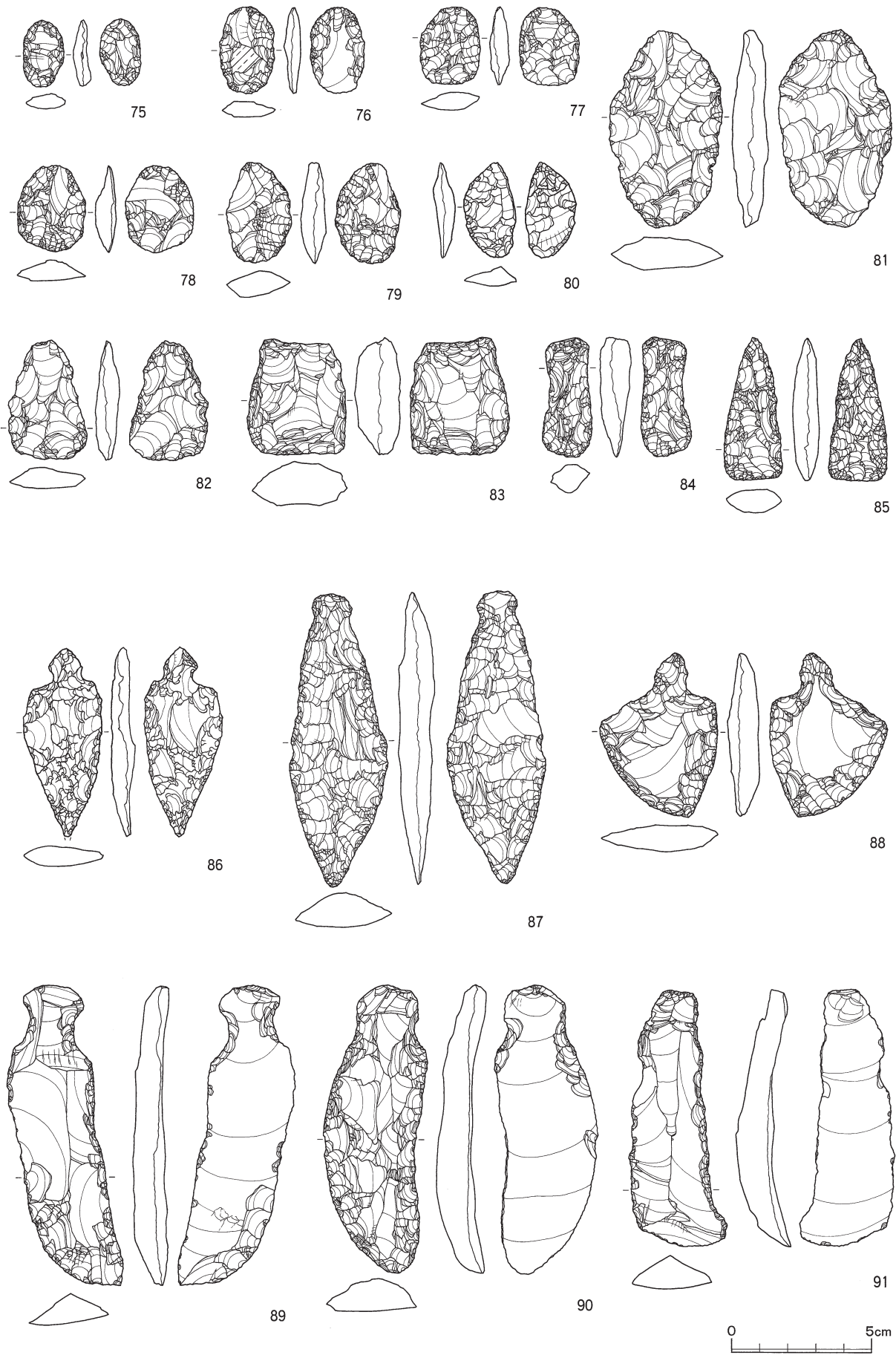
(阿部)



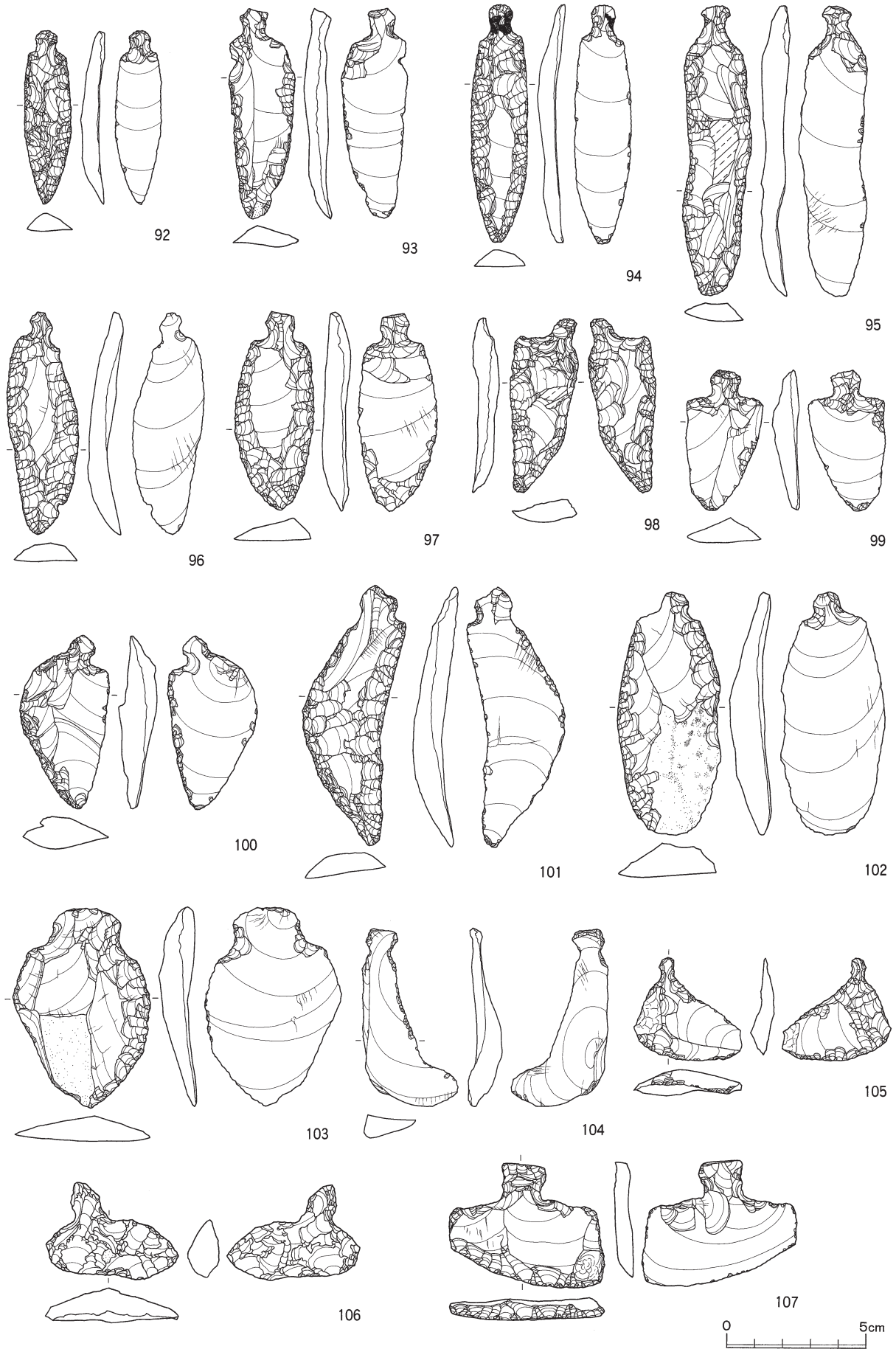
図IV-32 包含層出土の石器(1)



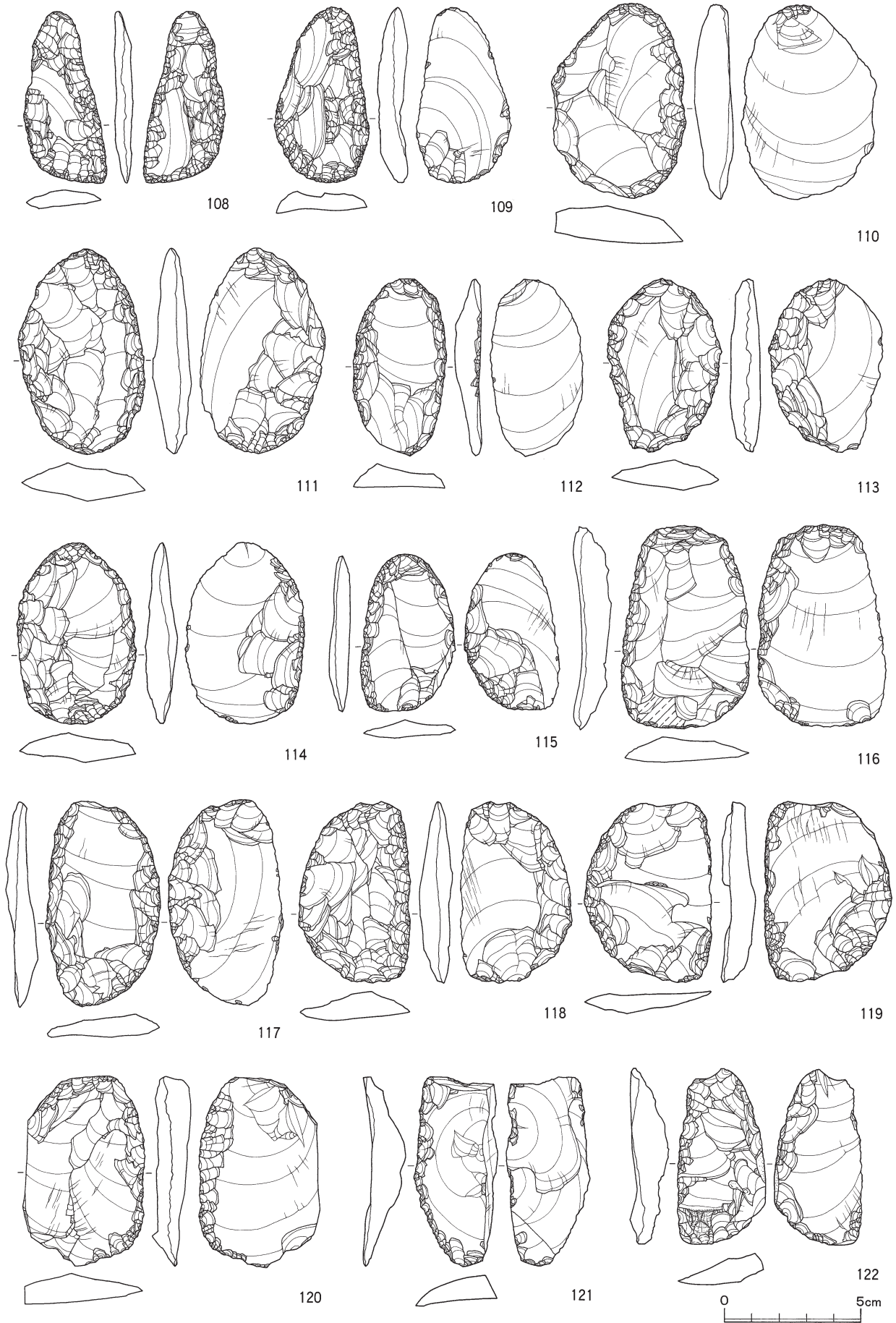
図IV-33 包含層出土の石器(2)



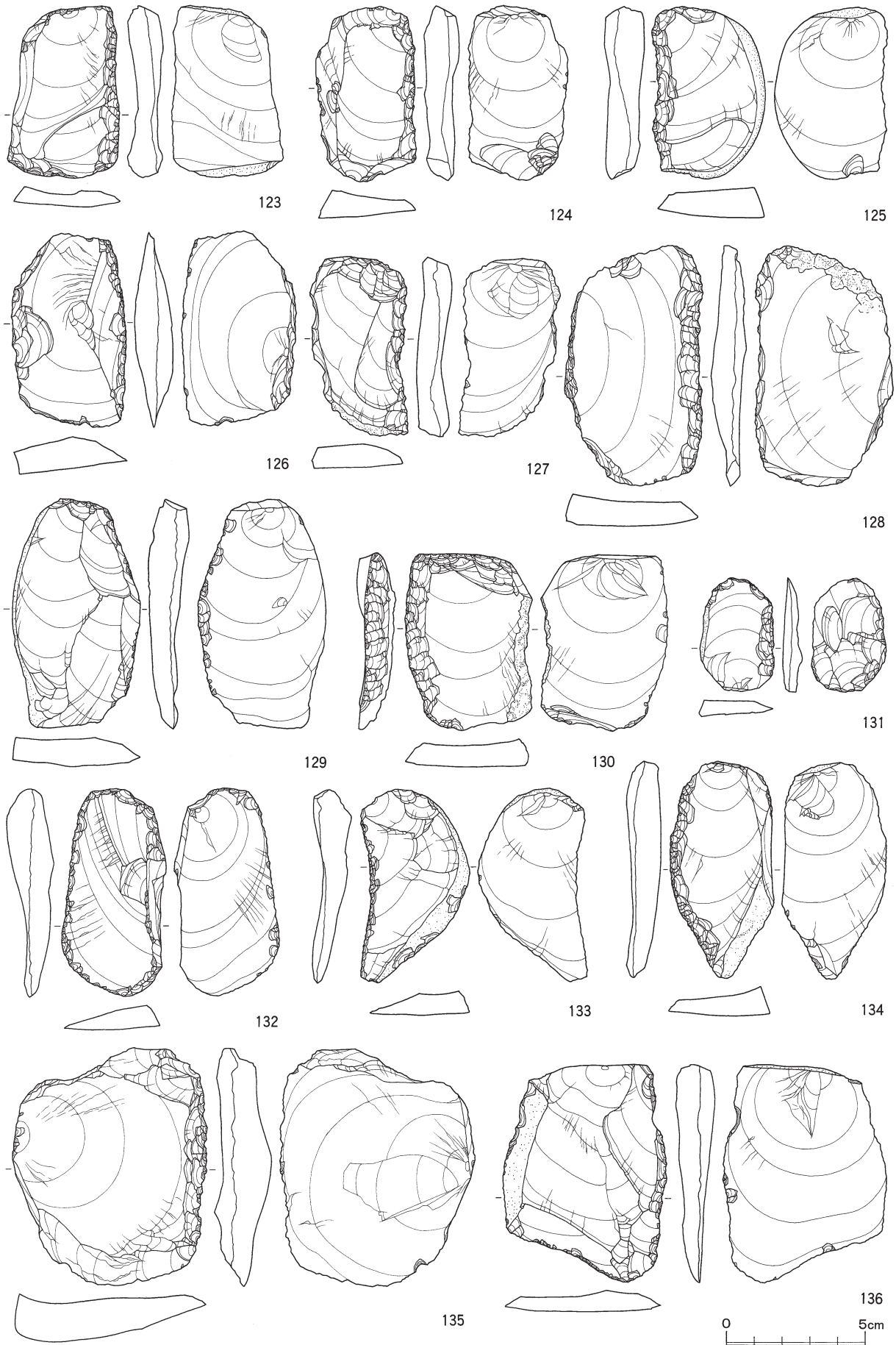
図IV-34 包含層出土の石器(3)



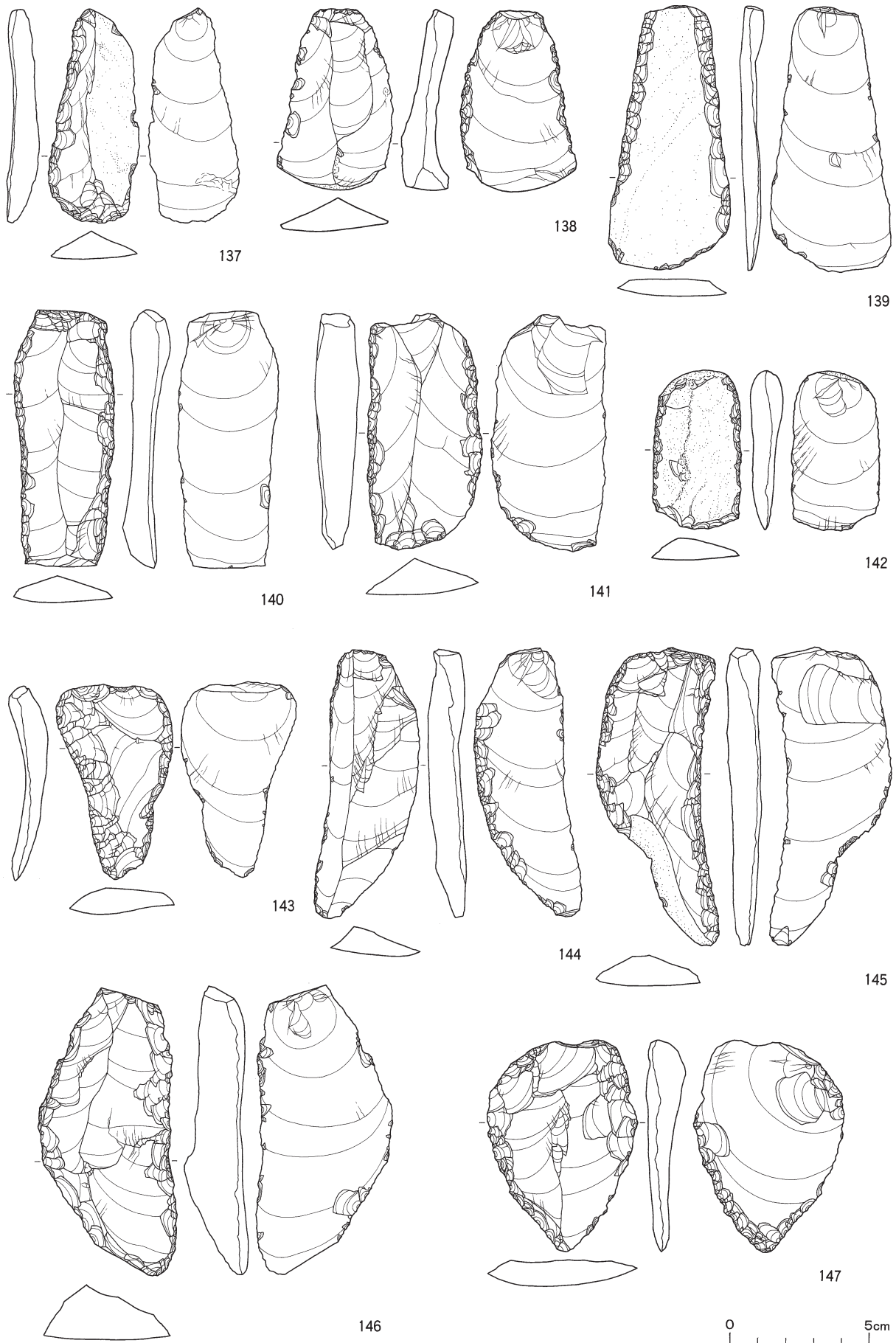
図IV-35 包含層出土の石器(4)



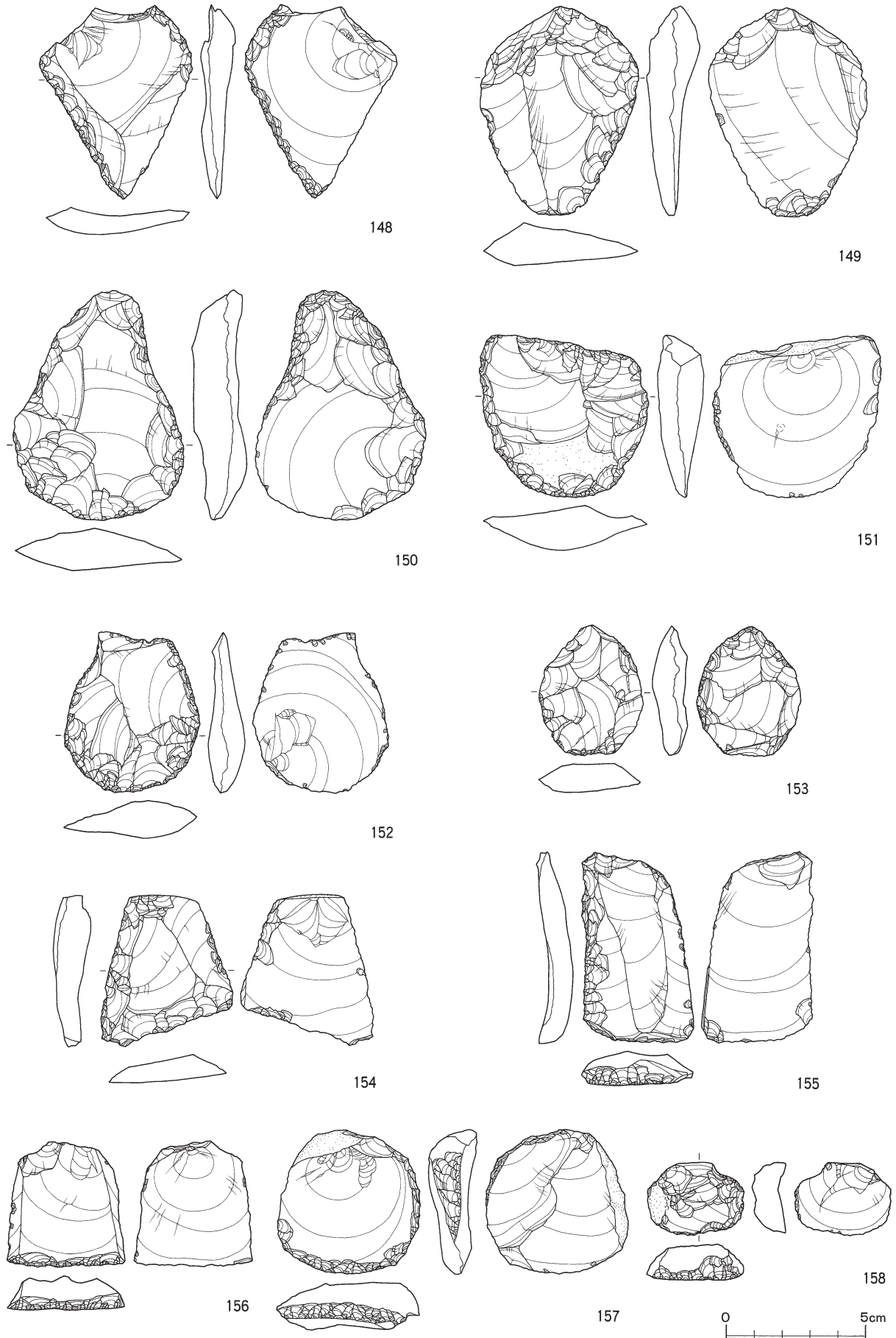
図IV-36 包含層出土の石器(5)



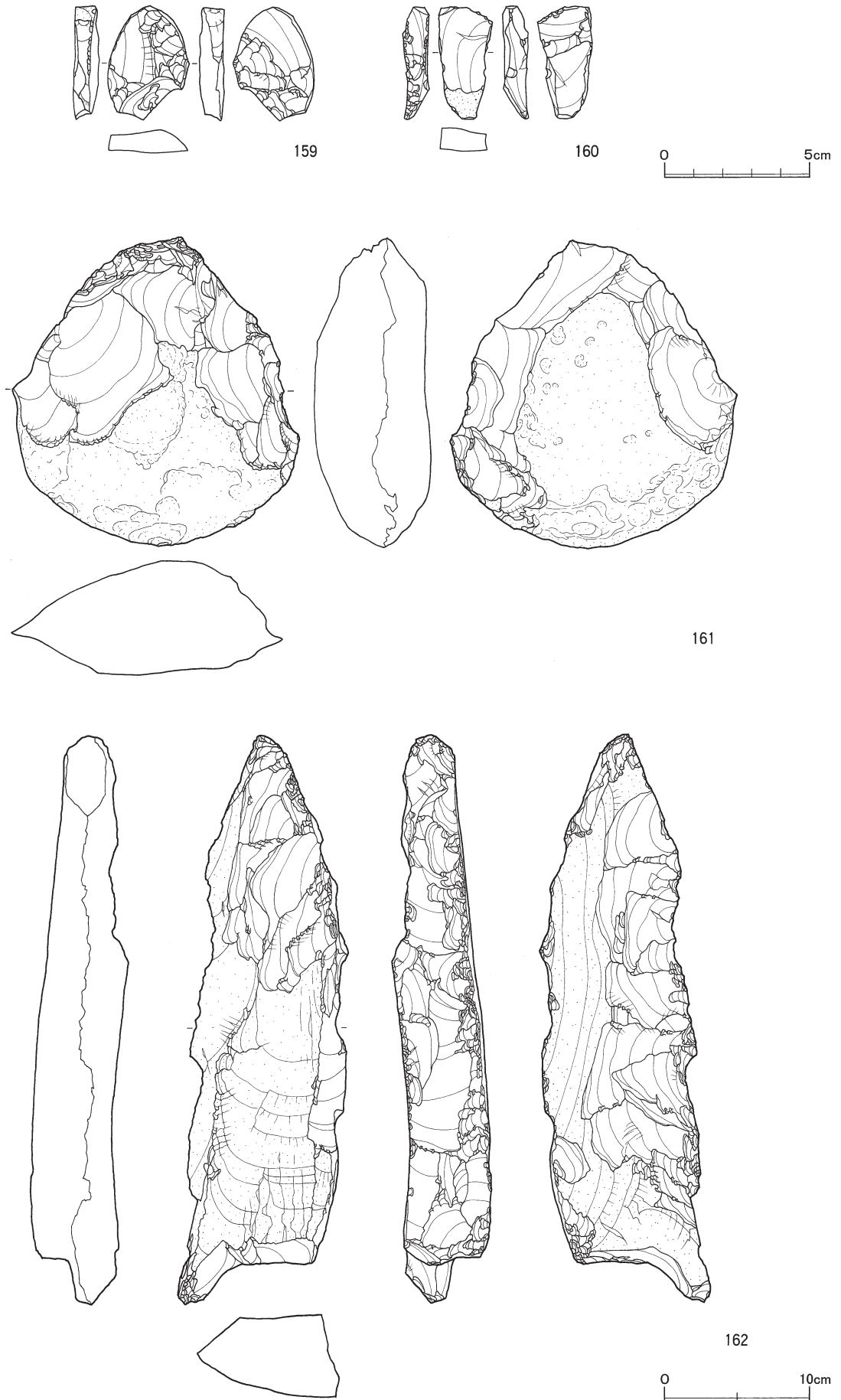
図IV-37 包含層出土の石器(6)



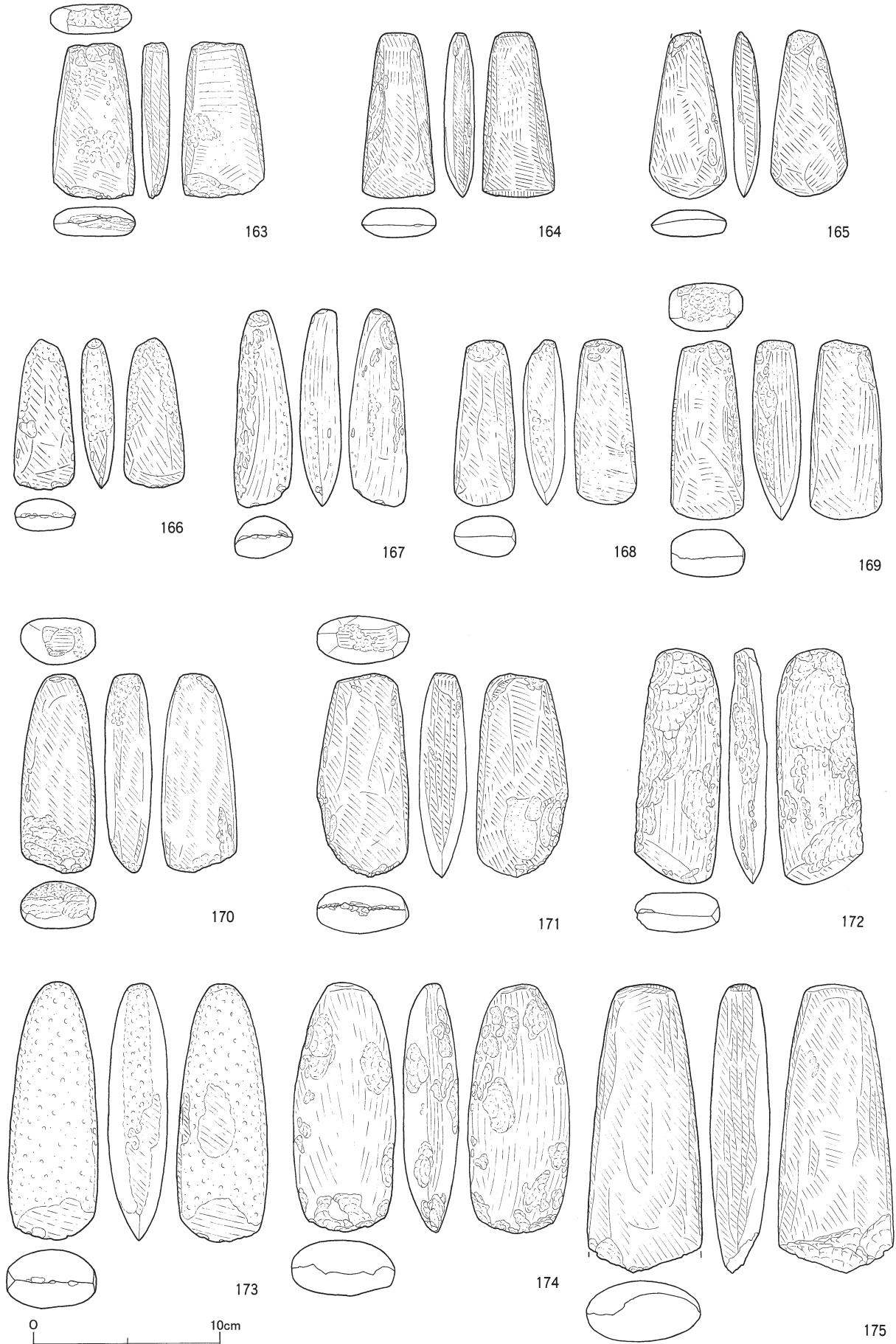
図IV-38 包含層出土の石器(7)



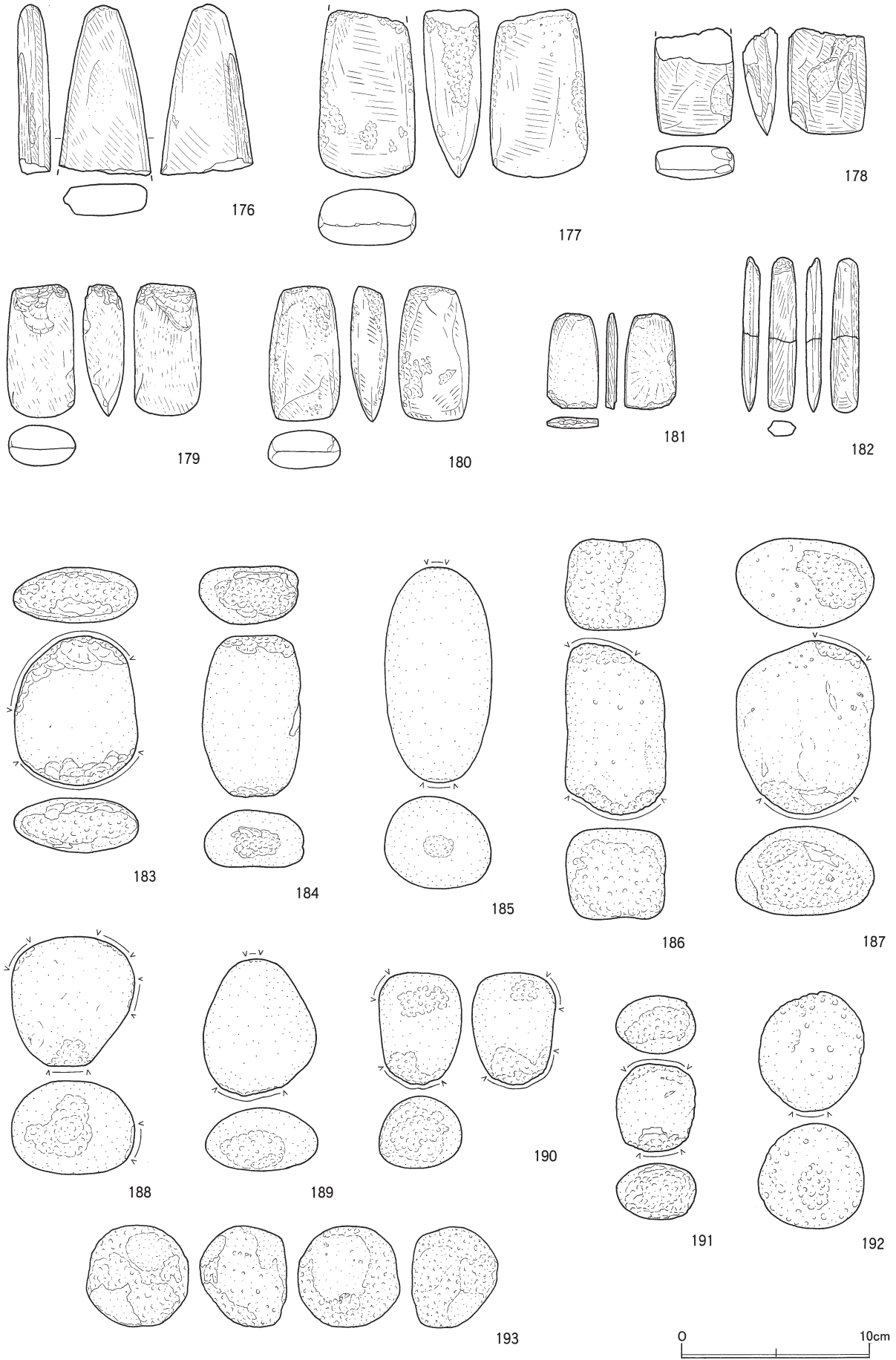
図IV-39 包含層出土の石器(8)



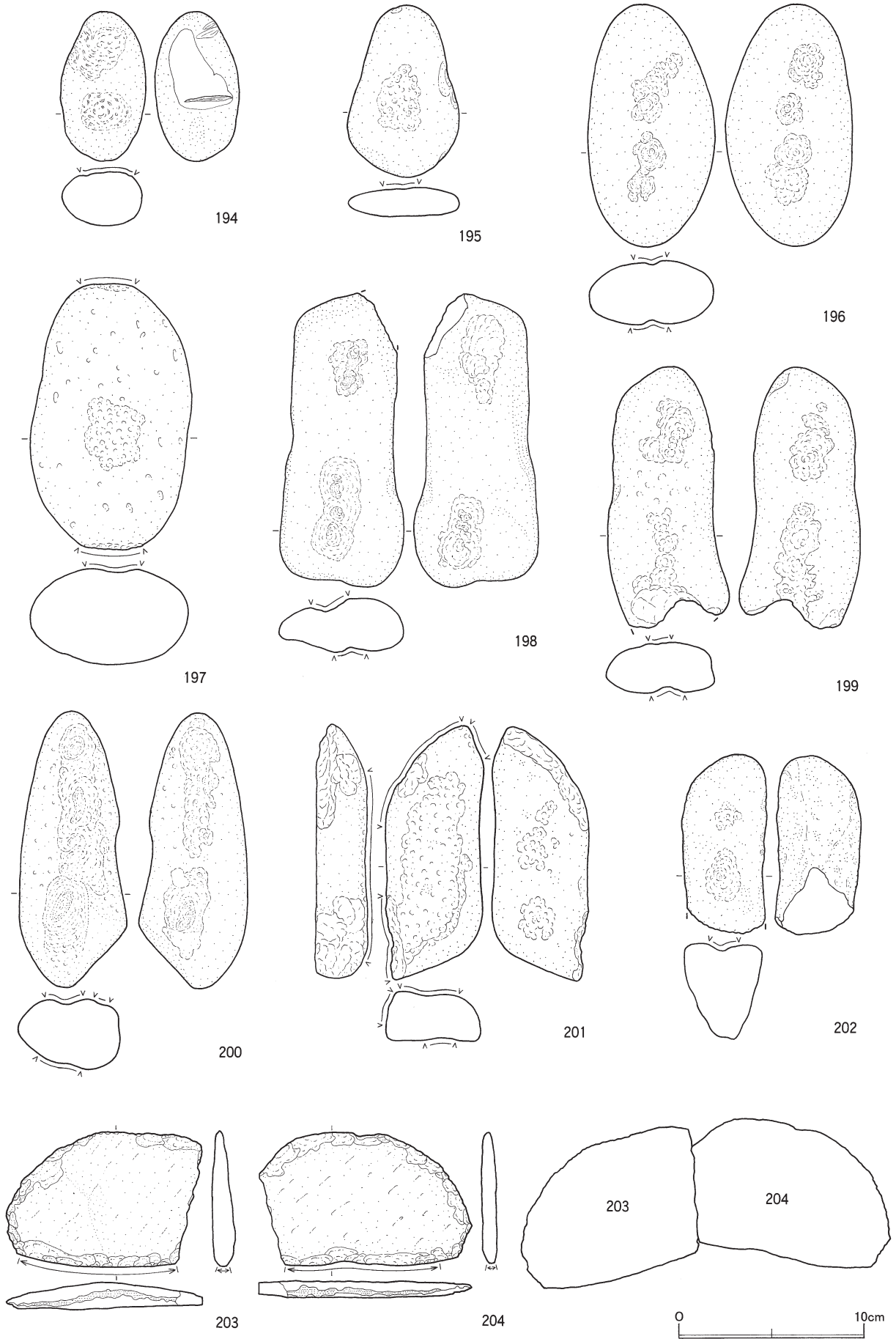
図IV-40 包含層出土の石器(9)



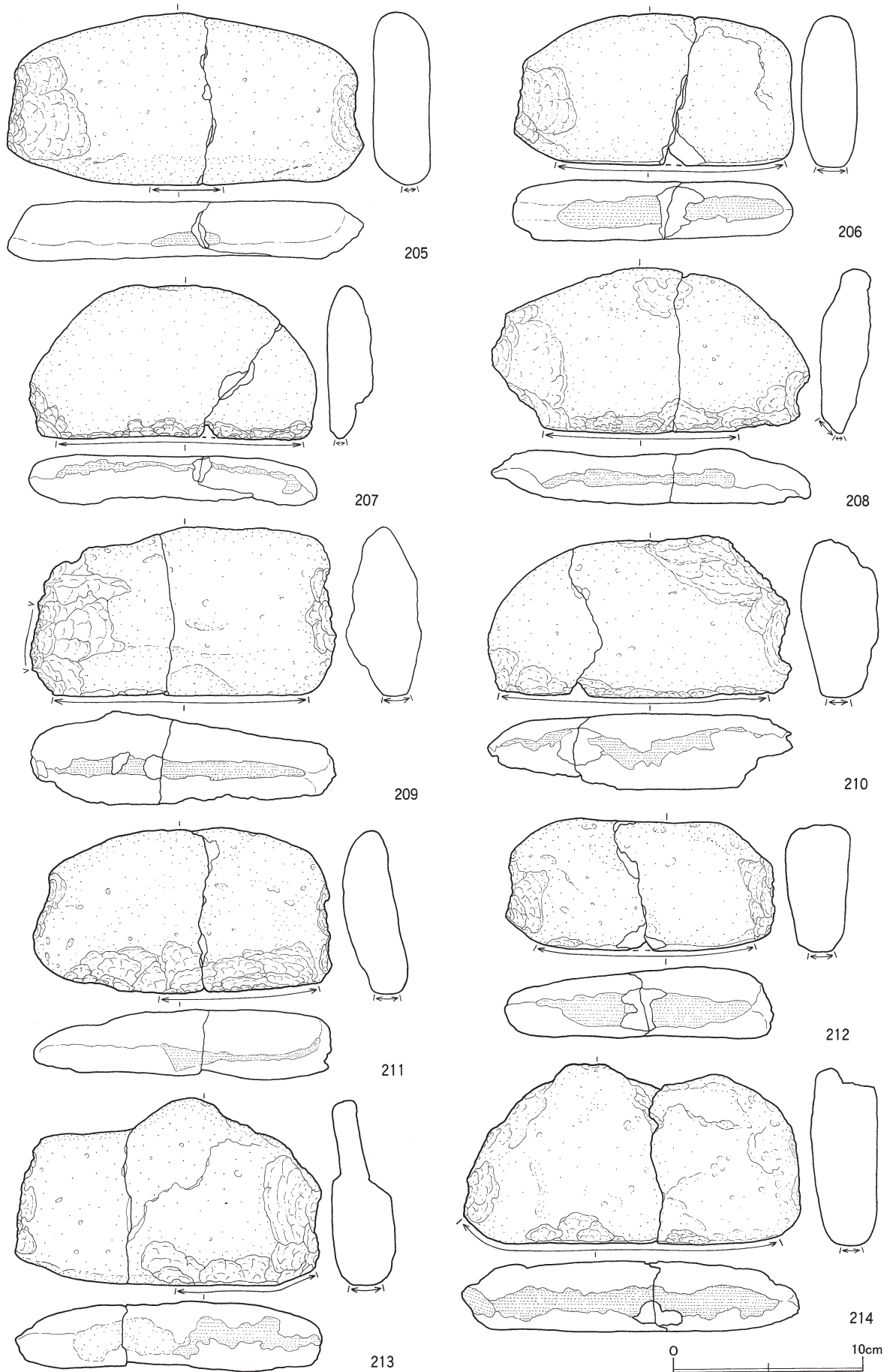
図IV-41 包含層出土の石器(10)



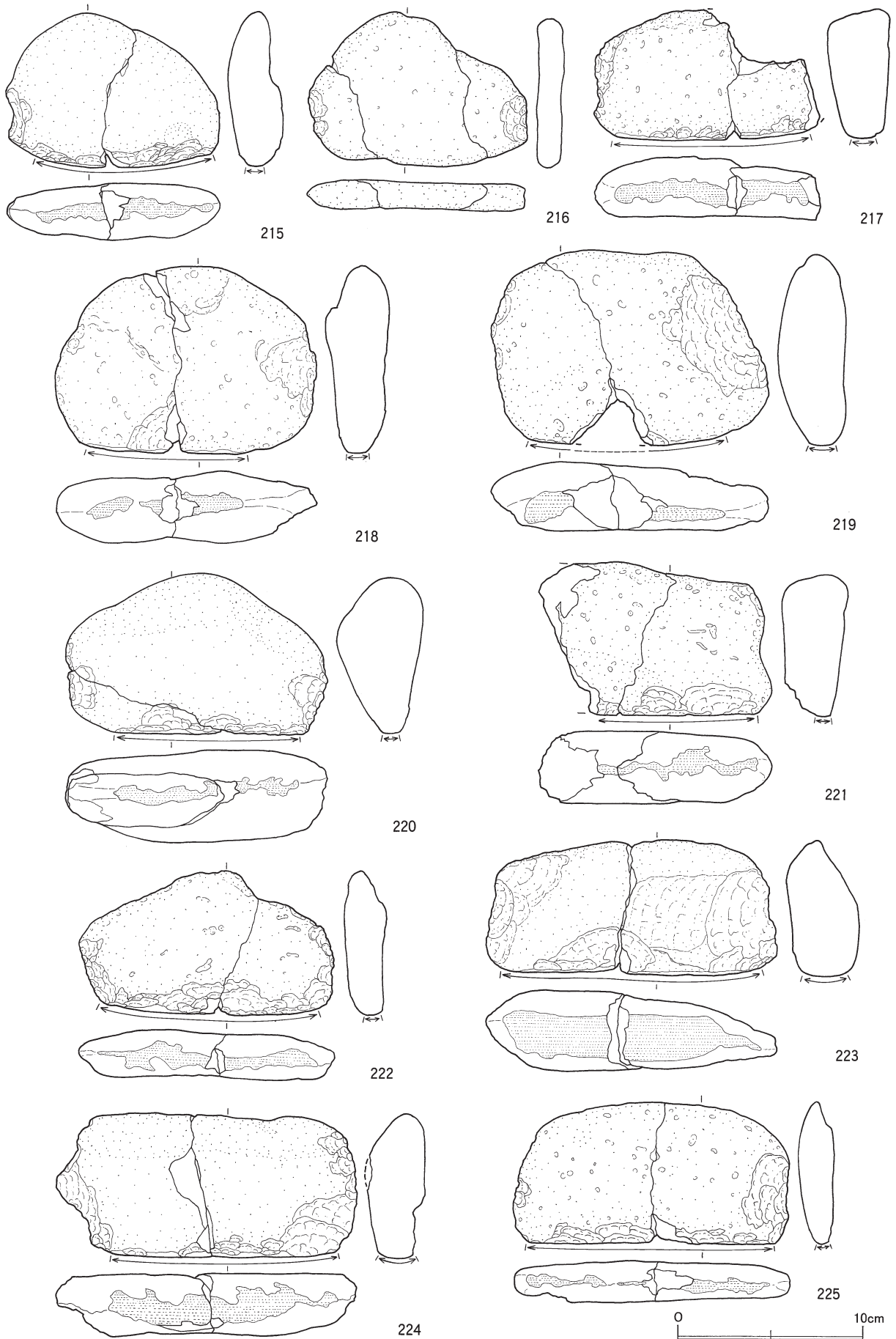
図IV-42 包含層出土の石器(11)



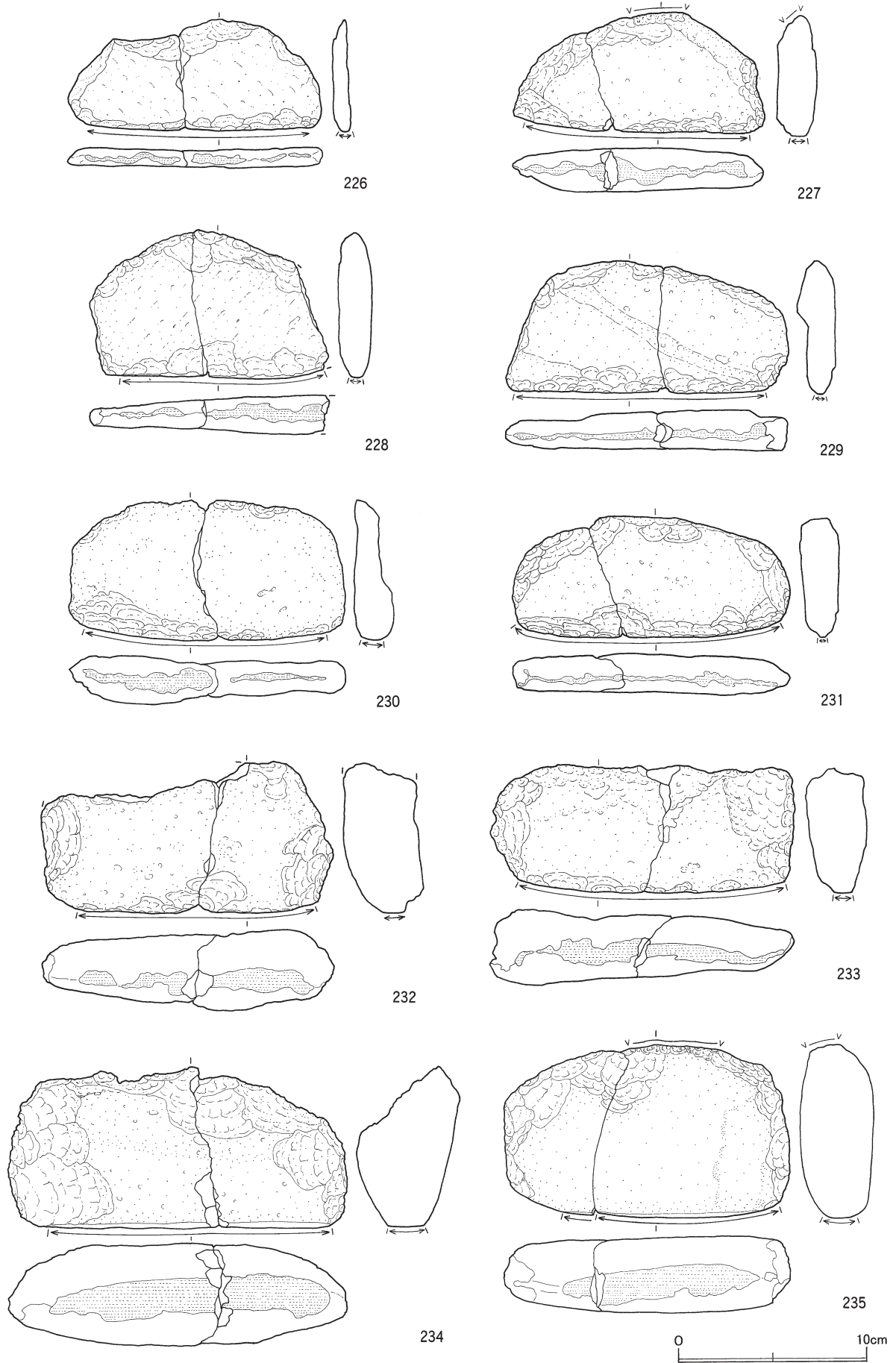
図IV-43 包含層出土の石器(12)



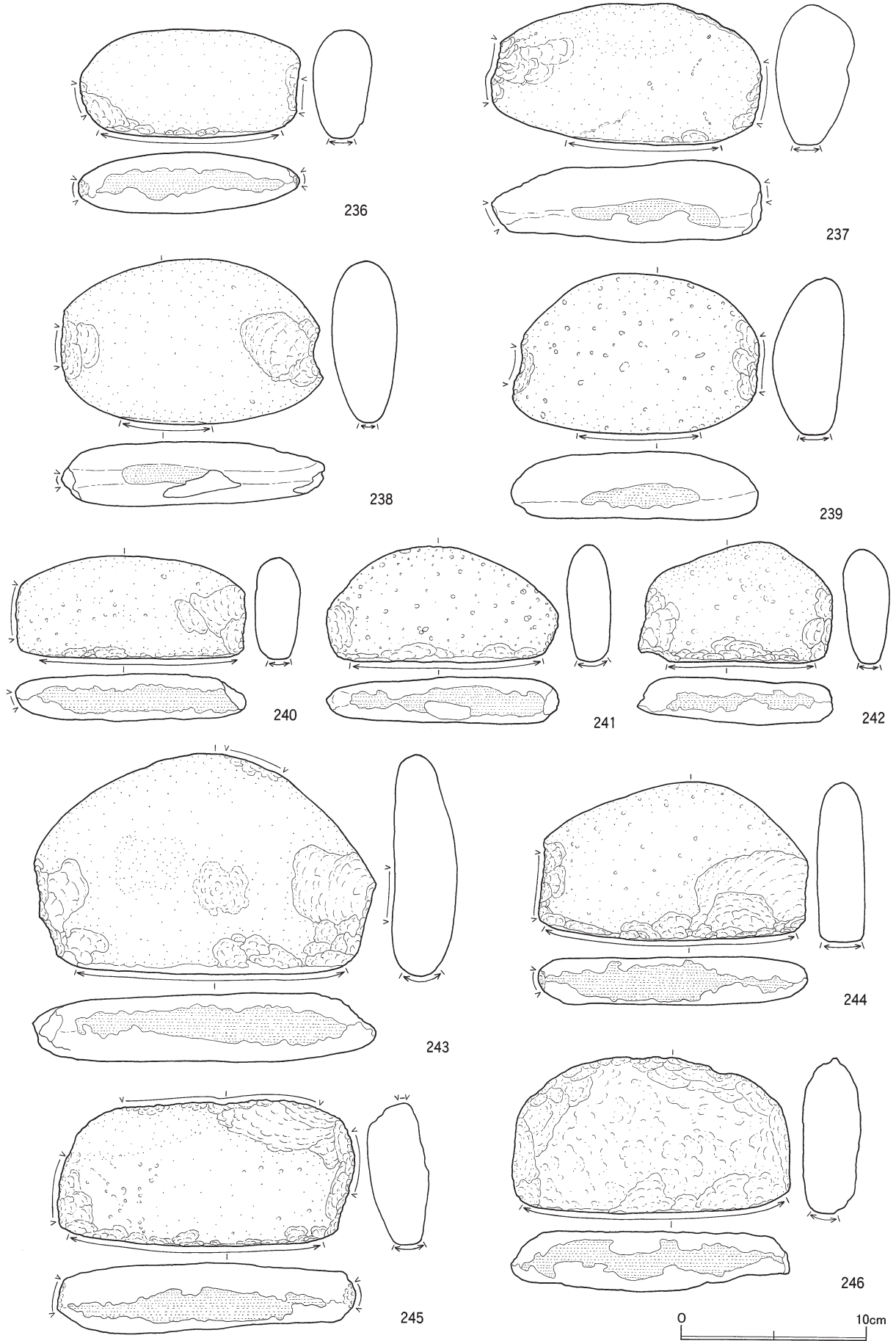
図IV-44 包含層出土の石器(13)



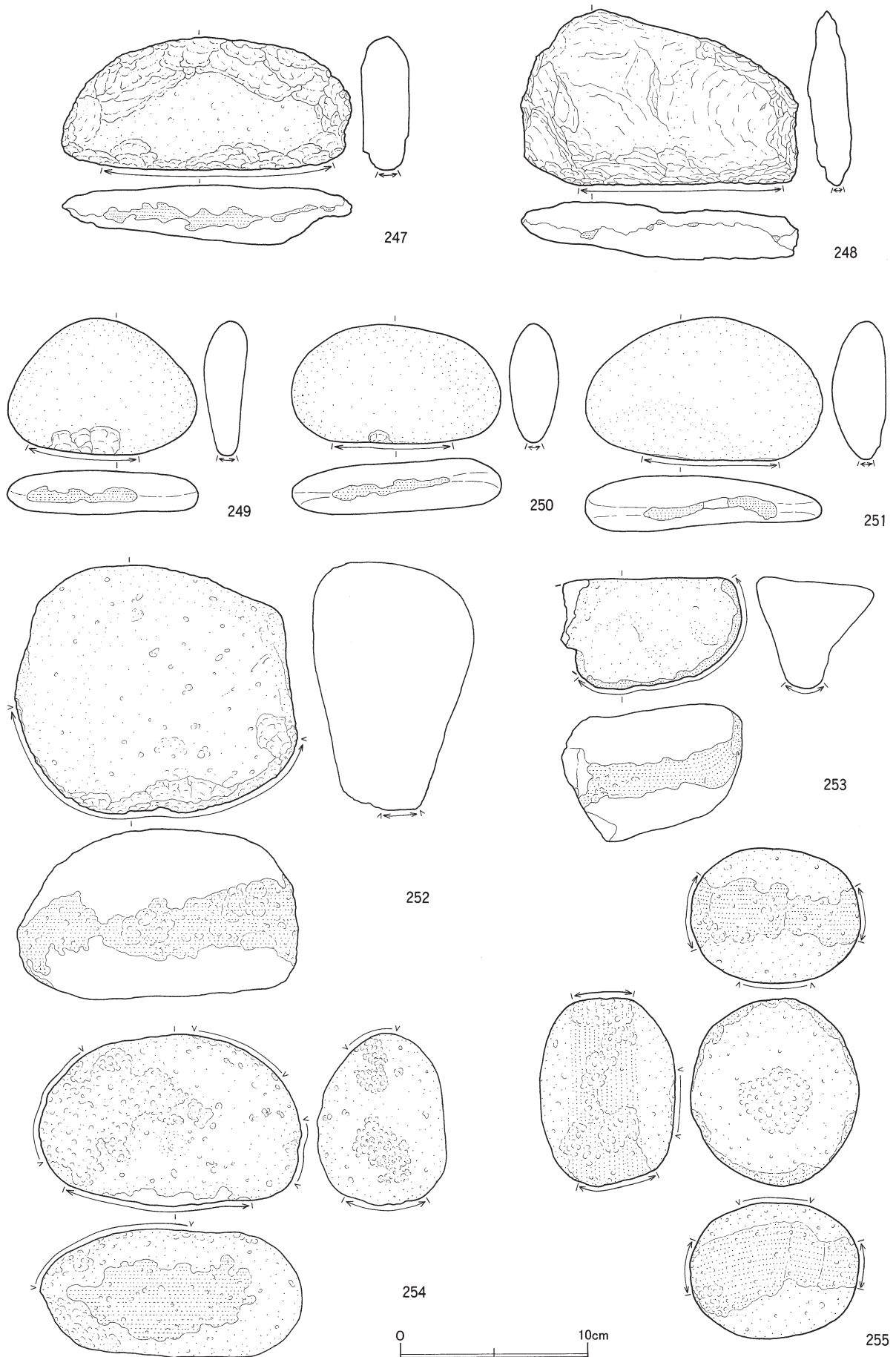
図IV-45 包含層出土の石器(14)



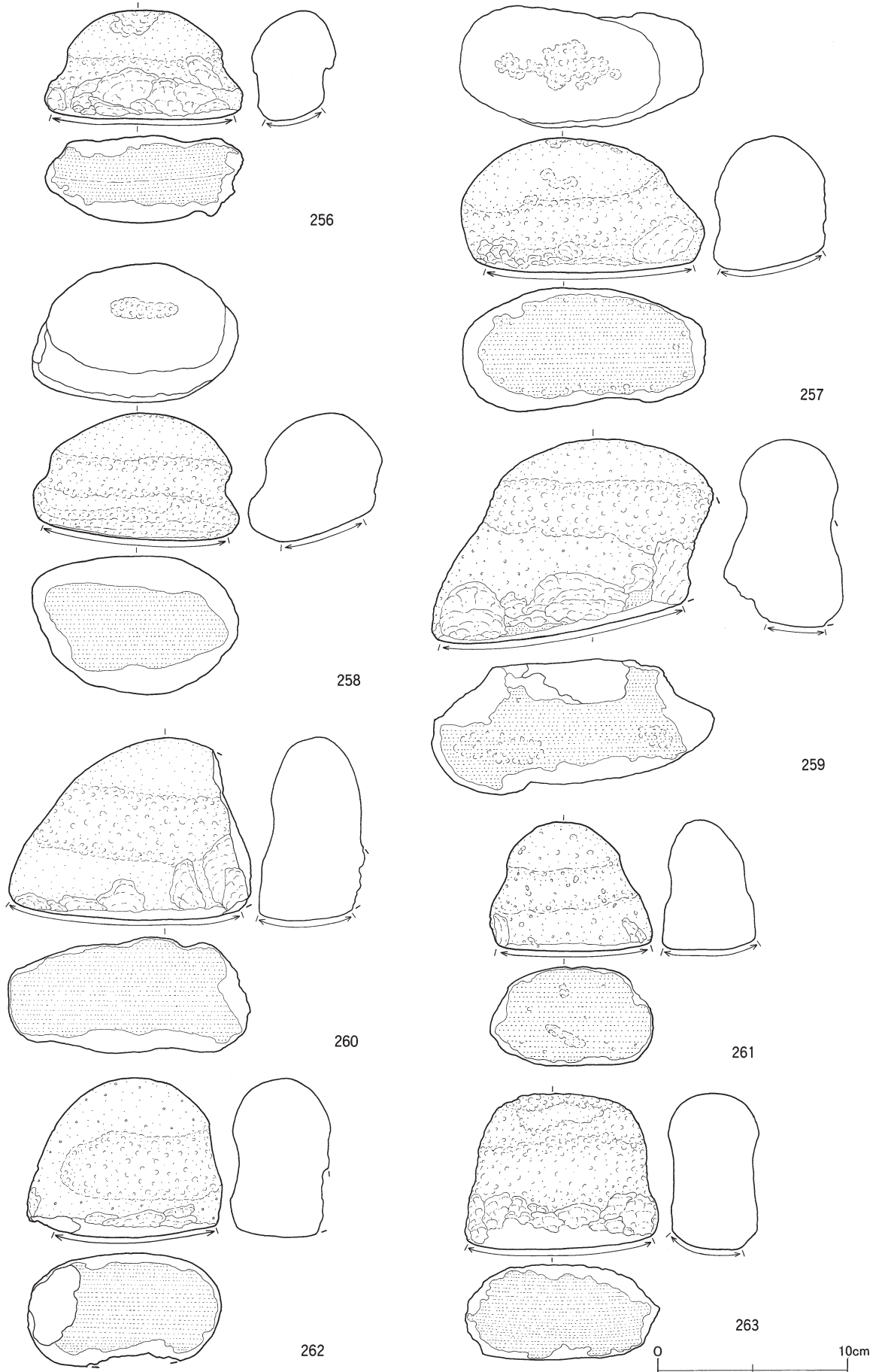
図IV-46 包含層出土の石器(15)



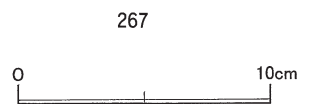
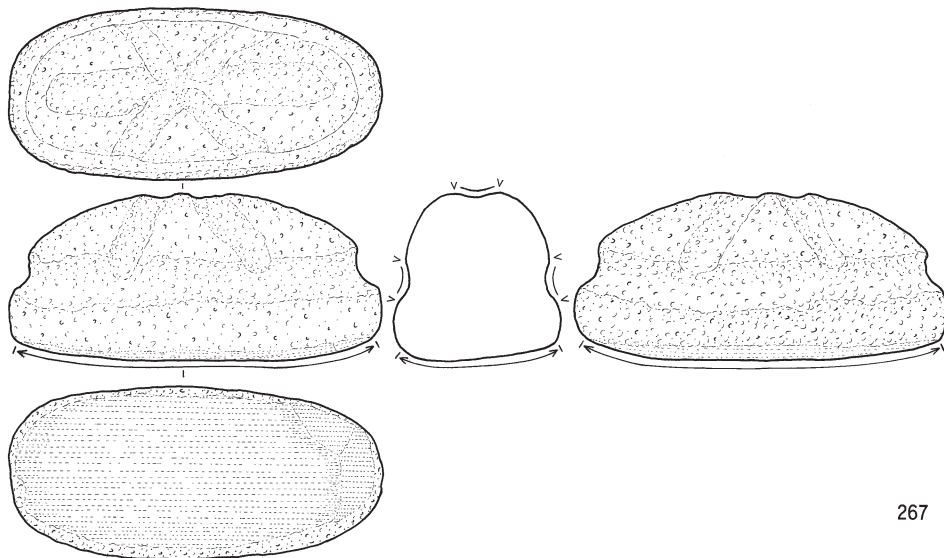
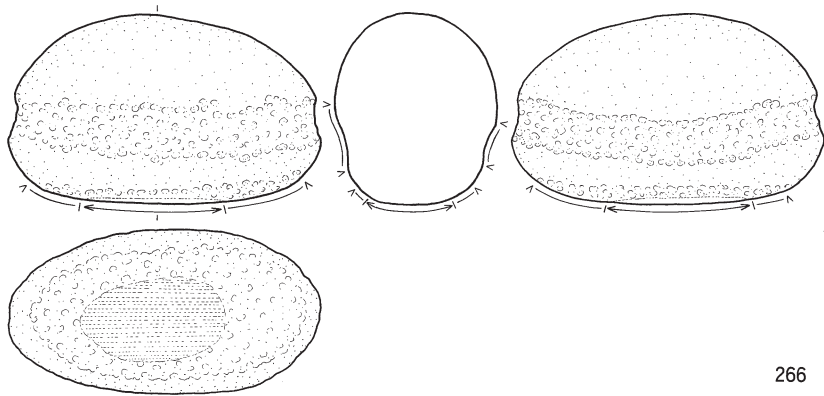
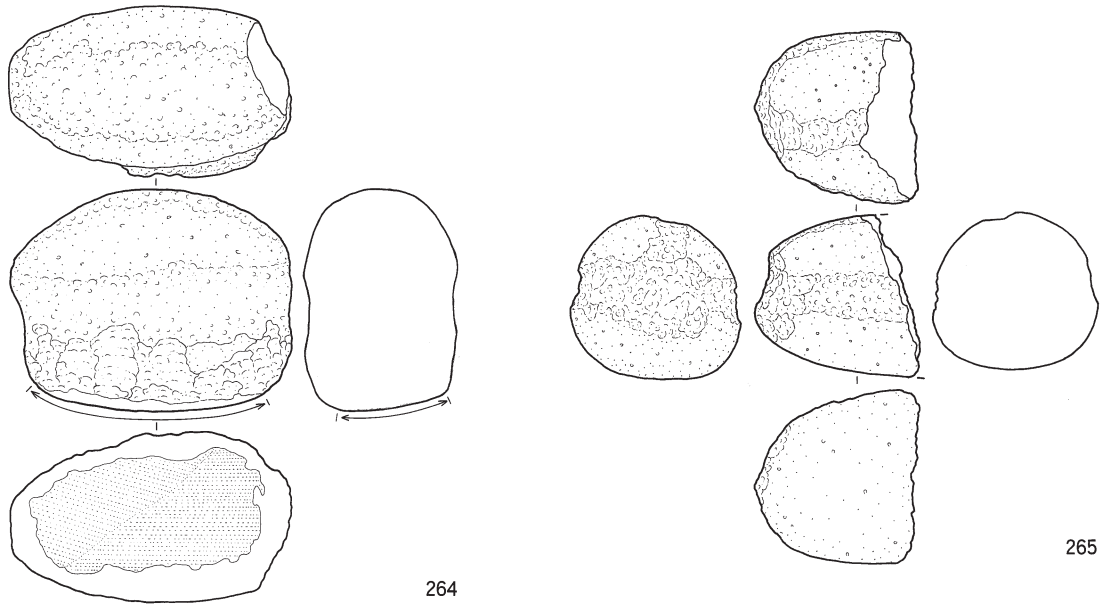
図IV-47 包含層出土の石器(16)



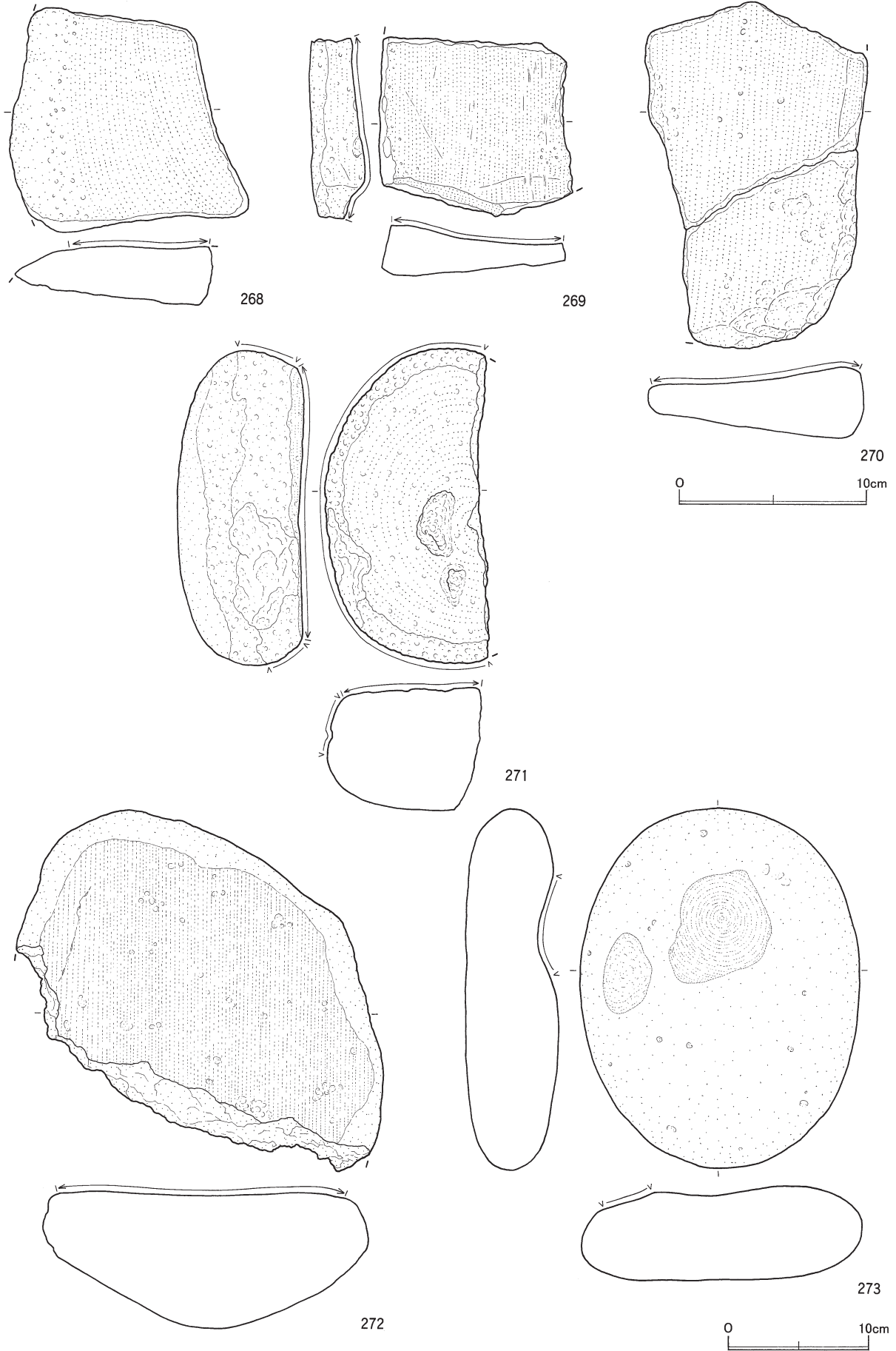
図IV-48 包含層出土の石器(17)



図IV-49 包含層出土の石器(18)



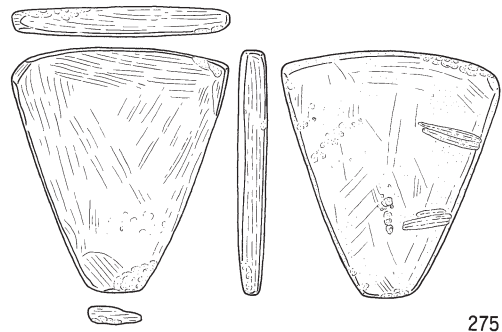
図IV-50 包含層出土の石器(19)



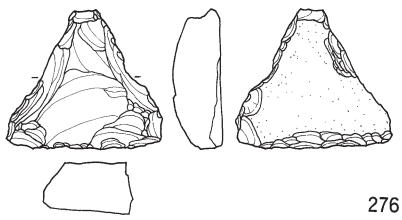
図IV-51 包含層出土の石器(20)



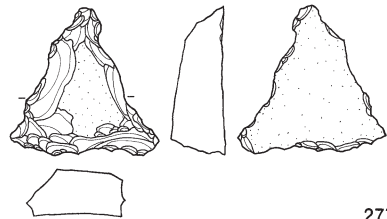
274



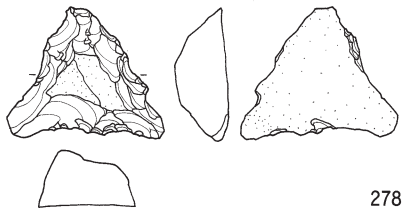
275



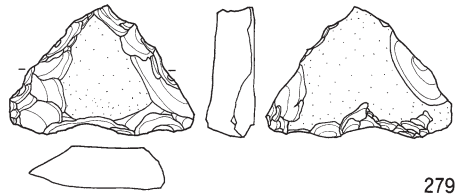
276



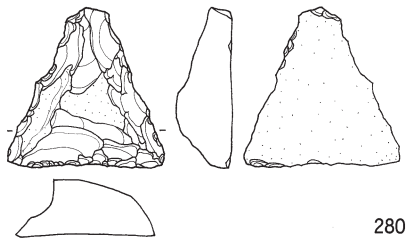
277



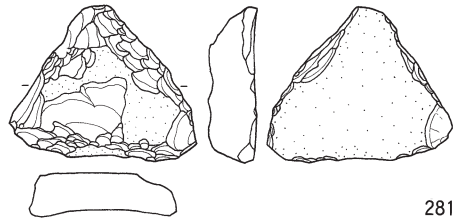
278



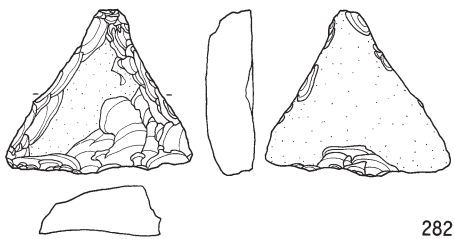
279



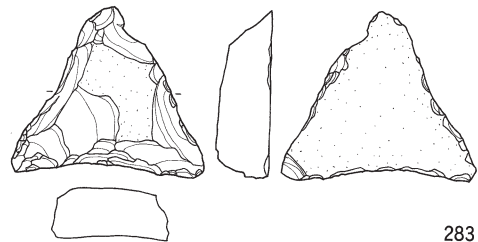
280



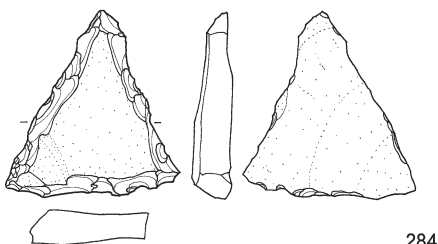
281



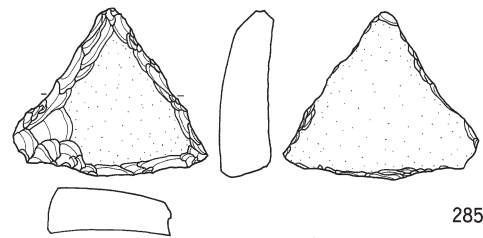
282



283



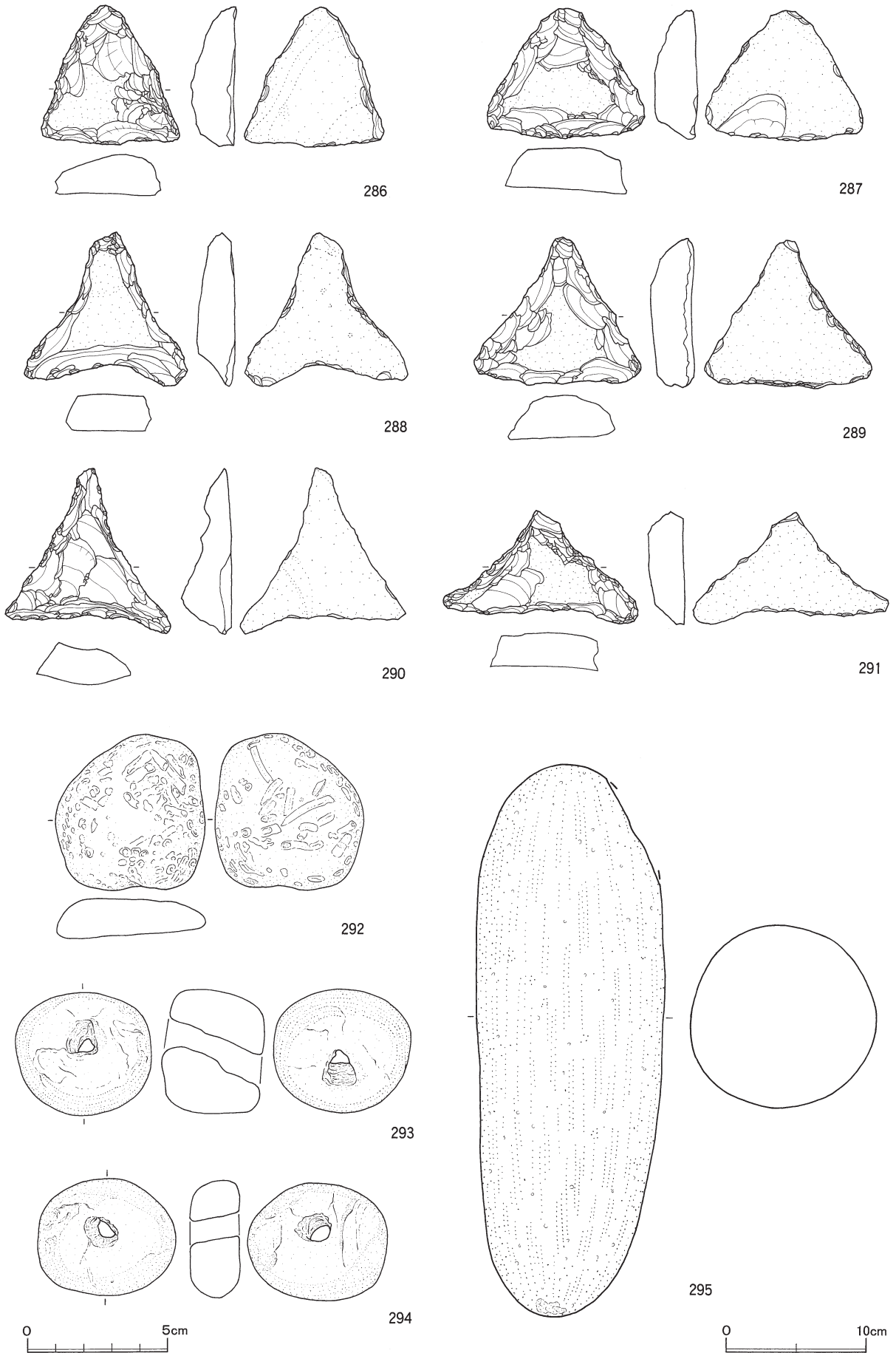
284



285



図IV-52 包含層出土の石製品(1)



図IV-53 包含層出土の石製品ほか(2)

表Ⅳ-1 包含層遺物集計

種別	分類	I層	II層	III層	IV層	V層	合計
土器	IIb	28	267	559	546	2	1402
	IIIa	94	4466	5577	4892		15029
	IIIb	2	276	857	574		1709
	IVa	406	12856	12295	7606	6	33169
	IVb	31	913	1143	939		3026
	IVc	5	95	117	133		350
	Va			3			3
	Vb	40	1588	1283	704	1	3616
	Vc		2	114	1		117
	VI		1	71			72
	不明・その他	16		1			17
土製品	土偶		1	4			5
	土製円盤		1	2			3
	スタンプ形土製品			1			1
	土製品		3	2			5
	ミニチュア土器		1	2	1		4
	焼成粘土塊	1	49	45	42		137
土器等合計		623	20519	22076	15438	9	58665
石器等	石鏃		39	52	28	1	120
	石槍・ナイフ		10	3	7		20
	石錐		10	7	9		26
	両面調整石器		16	14	5		35
	つまみ付きナイフ	1	15	16	13		45
	スクレイパー	5	94	101	106	1	307
	石斧	3	20	11	13	1	48
	石のみ		1	1			2
	たたき石	3	32	20	22		77
	くぼみ石	2	12	15	8		37
	扁平打製石器	4	97	108	113		322
	すり石	1	8	8	10		27
	北海道式石冠・石冠		6	8	4		18
	砥石	1	11	5	10		27
	台石・石皿		5	11	18		34
	ピエス・エスキーユ		1		1		2
	Rフレイク	8	196	165	144		513
	Uフレイク	3	60	59	55	1	178
	フレイク	246	7524	6462	3971	46	18249
	石核	9	34	37	27		107
	擦り切り残片			1	1		2
	加工痕ある礫	2	23	24	26		75
	石製品	大珠			1		
三脚石器		1	6	7	3		17
石製品		1					1
石棒?					1		1
石器等合計		290	8220	7136	4595	50	20291
礫	有孔礫		5	3	1		9
	礫	985	26731	24320	19063	43	71142
礫合計		985	26736	24323	19064	43	71151
遺物合計		1898	55475	53535	39097	102	150107

※「I層」には、試掘・攪乱・表採・排土等を含む。

表IV-2 包含層出土掲載土器一覧(1)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-10	1	図版70	O25	I		1	3	IIb	深鉢	口縁		105①
			O25	III		2						
図IV-10	2	図版70	M22	II		1	2	IIb	深鉢	口~胴		105②
			M22	III		1						
図IV-10	3	図版70	O18	IV		1	3	IIb	深鉢	口縁		515
			O19	IV		2						
図IV-10	4	図版70	O18	IV		1	IIb	深鉢	胴		517	
図IV-10	5	図版70	N23	IV		1	IIb	深鉢	胴		516	
図IV-10	6a	図版70	H22	IV		3	IIb	深鉢	口縁		104①	
図IV-10	6b	図版70	H22	IV		5			胴		104②	
図IV-10	7	図版70	O17	IV		1	IIb	深鉢	口縁		512	
図IV-10	8a	図版70	H22	IV		6	IIb	深鉢	口縁		102①	
図IV-10	8b	図版70	H22	IV		5			胴		102②	
図IV-10	9	図版70	O18	III		2	IIb	深鉢	胴		103	
図IV-10	10	図版70	P18	IV		4	IIb	深鉢	胴		520	
図IV-10	11	図版70	H22	IV		2	IIb	深鉢	底面		522	
図IV-10	12	図版70	O18	III		1	IIb	深鉢	底		521	
図IV-10	13	図版70	N18	IV		2	IIb	深鉢	胴		518	
図IV-10	14	図版70	M16	IV		1	IIb	深鉢	口縁		514	
図IV-10	15	図版70	O18	IV		2	IIb	深鉢	口縁		513	
図IV-11	16	図版70	M16	IV		1	IIIa	深鉢	口縁(突起)		595	
図IV-11	17	図版70	J21	II		1	3	IIIa	深鉢	口縁(突起)		132
			K19	III		1						
			K20	III		1						
図IV-11	18	図版70	K20	IV		2	IIIa	深鉢	口縁(突起)		133	
図IV-11	19	図版70	L22	IV		1	2	IIIa	深鉢	口縁		149
			O18	II		1						
図IV-11	20	図版70	K20	IV		1	IIIa	深鉢	胴		598	
図IV-11	21	図版70	O19	III		4	5	IIIa	深鉢	口縁		154
			O19	IV		1						
図IV-11	22	図版70	K18	II		1	17	IIIa	深鉢	口~胴		134
			K18	III		5						
			K19	III		7						
			L19	III		2						
			H-1	覆土上		1						
			H-1	覆土1		1						
図IV-11	23	図版71	O18	III		4	IIIa	深鉢	口縁(突起)		150	
図IV-11	24	図版71	L17	III		1	2	IIIa	深鉢	口縁		596
			L18	III		1						
図IV-11	25	図版71	I16	III		2	IIIa	深鉢	口縁		597	
図IV-11	26	図版71	L18	II		1	21	IIIa	深鉢	口~胴		137
			L19	II		3						
			L19	III		10						
			L20	II		1						
			O20	III		1						
			遺物集中4	III		2						
			H-1	覆土上	2	3						
図IV-11	27	図版71	O19	IV		1	IIIa	深鉢	胴		635	
図IV-12	28	図版71	I18	III		1	IIIa	深鉢	口縁		610	
図IV-12	29	図版71	L19	II		1	2	IIIa	深鉢	口縁		609
			N18	IV		1						
図IV-12	30	図版71	I19	III		1	IIIa	深鉢	口縁		601	
図IV-12	31	図版71	L19	III		1	2	IIIa	深鉢	口縁(突起)		136
			L19	IV		1						

表IV-3 包含層出土掲載土器一覽(2)

図番号	掲載番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-12	32	図版71	P19	Ⅲ			10	Ⅲa	深鉢	口～胴		158
図IV-12	33	図版71	N17	Ⅳ		2	6	Ⅲa	深鉢	胴		141
			N18	Ⅳ		4						
図IV-12	34	図版71	K17	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	胴		637
図IV-12	35	図版71	N22	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		611
図IV-12	36	図版71	R15	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		750
図IV-12	37	図版71	P18	Ⅲ		2	5	Ⅲa	深鉢	口～胴		159
			P18	Ⅲ		3						
図IV-12	38	図版71	L17	Ⅲ		7	9	Ⅲa	深鉢	口～胴		135
			L17	Ⅳ		1						
			L18	Ⅱ		1						
図IV-12	39a	図版72	P17	Ⅱ		1	7	Ⅲa	深鉢	胴		157①
			P17	Ⅲ		3						
			Q17	Ⅱ		1						
			Q17	Ⅲ		1						
			Q17	Ⅳ		1						
図IV-12	39b	図版72	O20	Ⅲ		1	6			胴		157②
			P16	Ⅲ		2						
			P17	Ⅲ		1						
			Q17	Ⅲ		1						
			Q17	Ⅳ		1						
図IV-13	40	図版72	N19	Ⅳ		2	4	Ⅲa	深鉢	口縁		145
			N20	Ⅱ		1						
			H15	Ⅲ		1						
図IV-13	41	図版72	O18	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		617
図IV-13	42	図版72	I16	Ⅲ		1	2	Ⅲa	深鉢	口縁		614
			J17	Ⅱ		1						
図IV-13	43	図版72	O21	Ⅱ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		612
図IV-13	44	図版72	R14	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		615
図IV-13	45	図版72	P17	Ⅱ		1	2	Ⅲa	深鉢	口縁		144
			N18	Ⅳ		1						
図IV-13	46	図版72	O20	Ⅱ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		608
図IV-13	47	図版72	M20	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		602
図IV-13	48	図版72	K16	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		607
図IV-13	49	図版72	N17	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		606
図IV-13	50	図版72	I16	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		616
図IV-13	51	図版72	N15	Ⅳ			4	Ⅲa	深鉢	口縁		613
図IV-13	52	図版72	H17	Ⅲ			2	Ⅲa	深鉢	口縁		131
図IV-13	53a	図版72	P22	Ⅲ		1	3	Ⅲa	深鉢	口～胴		160①
			P22	Ⅳ		2						
図IV-13	53b	図版72	P22	Ⅲ		2	4			胴		160②
			P22	Ⅳ		2						
図IV-13	54	図版72	K20	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	胴	キャリパー形	599
図IV-13	55	図版72	M20	Ⅲ		1	4	Ⅲa	深鉢	口～胴		146①
			M20	Ⅳ		1						
			N19	Ⅱ		1						
			N20	Ⅲ		1						
		図版72	N20	Ⅲ		1				2		口～胴
N20	Ⅳ		1									
図IV-13	56a	図版72	P20	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁	魚骨回転文	156①
図IV-13	56b	図版72	P19	Ⅳ		1	2			口縁	魚骨回転文	156②
			P20	Ⅱ		1						
図IV-13	57	図版72	H17	Ⅱ		1	2	Ⅲa	深鉢	口縁	魚骨回転文	630
			H19	Ⅳ		1						

表IV-4 包含層出土掲載土器一覧(3)

図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-13	58	図版72	H17	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁	魚骨回転文	631
図IV-14	59	図版72	H19	Ⅲ			2	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		625
図IV-14	60	図版72	M21	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		626
図IV-14	61	図版72	O17	Ⅲ		1	6	Ⅲa	深鉢	口～胴	図Ⅲ-9の8と同一個体	106①
			O18	Ⅲ		2						
			O18	Ⅳ		3						
図IV-14	62	図版73	N18	Ⅱ		1	2	Ⅲa	深鉢	口縁		622
			N18	Ⅲ		1						
図IV-14	63	図版73	M17	Ⅳ			2	Ⅲa	深鉢	口縁		619
図IV-14	64	図版73	P19	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		600
図IV-14	65	図版73	M16	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		627
図IV-14	66	図版73	I18	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		620
図IV-14	67	図版73	Q18	Ⅱ		1	3	Ⅲa	深鉢	口縁		161
			Q20	Ⅳ		1						
			O19	Ⅲ		1						
図IV-14	68	図版73	K20	Ⅳ			2	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		624
図IV-14	69	図版73	N21	Ⅱ		1	2	Ⅲa	深鉢	口縁		623
			N21	Ⅲ		1						
図IV-14	70	図版73	N18	Ⅳ		1	3	Ⅲa	深鉢	口～胴		142
			O18	Ⅳ		1						
			Q18	Ⅳ		1						
図IV-14	71	図版73	K19	Ⅲ		2	3	Ⅲa	深鉢	口縁		629
			L19	Ⅳ		1						
図IV-14	72	図版73	N17	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		605
図IV-14	73	図版73	O19	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		604
図IV-14	74	図版73	N17	Ⅳ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		603
図IV-14	75	図版73	P20	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	口縁(突起)		621
図IV-14	76	図版73	M20	Ⅲ		4	5	Ⅲa	深鉢	口縁		628
			M20	Ⅳ		1						
図IV-14	77	図版73	O19	Ⅲ			6	Ⅲa	深鉢	口縁		148
図IV-14	78	図版73	M21	Ⅱ			1	Ⅲa	深鉢	口縁		618
図IV-15	79a	図版73	L17	Ⅳ			2	Ⅲa	深鉢	口縁		84①
図IV-15	79b	図版74	L17	Ⅳ			19			胴～底		84②
図IV-15	80	図版73	O19	Ⅱ		2	7	Ⅲa	深鉢	口～胴		152
			O19	Ⅲ		5						
図IV-15	81	図版73	N22	Ⅱ		1	8	Ⅲa	深鉢	口～胴		147
			N22	Ⅲ		7						
図IV-15	82a	図版73	P16	Ⅲ			4	Ⅲa	深鉢	口縁		164①
図IV-15	82b	図版73	P16	Ⅲ			1			胴		164②
図IV-15	83	図版73	O17	Ⅲ		2	4	Ⅲa	深鉢	口～胴		153
			H-2	覆土2		2						
図IV-15	84	図版73	N20	Ⅳ			1	Ⅲa	鉢	口縁		633
図IV-15	85a	図版73	Q16	Ⅲ			2	Ⅲa	深鉢	胴		162①
図IV-15	85b	図版73	O18	Ⅲ			1			胴		162②
図IV-15	86	図版74	N20	Ⅲ		9	11	Ⅲa	深鉢	胴～底		143
			N20	Ⅳ		2						
図IV-15	87	図版74	O19	Ⅲ		4	5	Ⅲa	深鉢	胴～底		151
			O19	Ⅳ		1						
図IV-15	88	図版74	H17	Ⅲ			1	Ⅲa	深鉢	底		639
図IV-15	89	図版74	R15	Ⅱ		2	16	Ⅲa	深鉢	胴～底		85
			R15	Ⅲ		14						
図IV-15	90	図版74	O20	Ⅳ		1	5	Ⅲa	深鉢	胴～底		155
			N20	Ⅲ		3						
			N21	Ⅲ		1						

表Ⅳ-5 包含層出土掲載土器一覧(4)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号			
						片	計								
図Ⅳ-15	91	図版74	H17	Ⅲ			2	Ⅲa	小型深鉢	底		638			
図Ⅳ-15	92	図版74	O18	Ⅲ			2	Ⅲa	台付鉢	台		641			
図Ⅳ-16	93	図版74	N19	Ⅱ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		662			
図Ⅳ-16	94	図版74	O16	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		664			
図Ⅳ-16	95	図版74	L18	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		663			
図Ⅳ-16	96	図版74	L18	Ⅳ			7	Ⅲb	深鉢	口～胴		185			
図Ⅳ-16	97	図版74	P19	Ⅳ			2	Ⅲb	深鉢	口縁	図Ⅲ-56の27と同一個体	175①			
図Ⅳ-16	98	図版74	N20	Ⅲ			2	Ⅲb	深鉢	口縁		190			
図Ⅳ-16	99	図版74	N18	Ⅳ		2	3	Ⅲb	深鉢	口縁		189			
			O17	Ⅲ		1									
図Ⅳ-16	100	図版75	O18	Ⅲ			2	Ⅲb	深鉢	口縁		665			
図Ⅳ-16	101	図版75	N18	Ⅲ			4	Ⅲb	深鉢	口縁		191			
図Ⅳ-16	102	図版75	N18	Ⅱ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		666			
図Ⅳ-16	103	図版75	O17	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		667			
図Ⅳ-16	104	図版75	H15	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		632			
図Ⅳ-16	105	図版75	O17	Ⅲ		3	7	Ⅲb	鉢(壺)	口～胴		194			
			O18	Ⅲ		3									
			O18	Ⅳ		1									
図Ⅳ-16	106	図版75	M20	Ⅲ	1		25	Ⅲb	深鉢	口～胴	口径23.1cm・底径12.0cm・器高(26.4)cm	28			
図Ⅳ-16	107	図版75	O17	Ⅱ		9	30	Ⅲb	深鉢	口～底		口径15.8cm・底径8.4cm・器高19.6cm			
			O17	Ⅲ		11									
			O17	Ⅳ		5									
			O18	Ⅲ		3									
			N16	Ⅱ		2									
図Ⅳ-17	108	図版76	K21	Ⅳ			4	Ⅲb	深鉢	口～胴		186			
図Ⅳ-17	109	図版76	M20	Ⅳ			1	Ⅲb	深鉢	口～胴		668			
図Ⅳ-17	110	図版75	N19	Ⅳ		6	10	Ⅲb	深鉢	口～胴		285①			
			N18	Ⅳ		3									
			Q16	Ⅲ		1									
		図版75	L17	Ⅲ		8				10	Ⅲb	深鉢	胴～底		285②
			L17	Ⅳ		2									
図Ⅳ-17	111	図版75	O21	Ⅳ			36	Ⅲb	深鉢	口～底	口径15.1cm・底径6.0cm・器高22.4cm	27			
図Ⅳ-17	112a	図版76	I16	Ⅳ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		741			
図Ⅳ-17	112b	図版76	I16	Ⅲ			1			胴		673			
図Ⅳ-17	113	図版76	J16	Ⅱ			1	Ⅲb	深鉢	胴		672			
図Ⅳ-17	114	図版76	I16	Ⅳ			2	Ⅲb	深鉢	口縁		182			
図Ⅳ-17	115	図版76	H15	Ⅲ			3	Ⅲb	深鉢	口縁		181			
図Ⅳ-17	116	図版76	I16	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		674			
図Ⅳ-17	117	図版76	N15	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		675			
図Ⅳ-17	118	図版76	J17	Ⅳ			1	Ⅲb	深鉢	胴		634			
図Ⅳ-17	119	図版76	L18	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	胴		680			
図Ⅳ-17	120	図版76	P15	Ⅲ			2	Ⅲb	深鉢	胴	図Ⅲ-66の2と同一個体	178①			
図Ⅳ-17	121	図版76	J16	Ⅲ			2	Ⅲb	深鉢	胴		193			
図Ⅳ-18	122	図版76	L17	Ⅲ			4	Ⅲb	深鉢	口縁		184			
図Ⅳ-18	123	図版76	J17	Ⅱ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		677			
図Ⅳ-18	124	図版76	L17	Ⅲ			2	Ⅲb	深鉢	口縁		676			
図Ⅳ-18	125	図版76	I17	Ⅲ	6		1	Ⅲb	深鉢	胴		678			
図Ⅳ-18	126	図版76	O16	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	胴		679			
図Ⅳ-18	127	図版76	O19	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		684			
図Ⅳ-18	128	図版76	H16	Ⅲ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		683			
図Ⅳ-18	129	図版76	K18	Ⅲ			3	Ⅲb	深鉢	口縁		183			
図Ⅳ-18	130	図版76	I16	Ⅳ			1	Ⅲb	深鉢	口縁		681			

表IV-6 包含層出土掲載土器一覧(5)

図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-18	131	図版76	K19	II			1	IIIb	深鉢	口縁		682
図IV-18	132	図版76	H17	II			1	IIIb	深鉢	胴		685
図IV-18	133a	図版76	N17	III	1		1	IIIb	大型深鉢	口縁		188①
図IV-18	133b	図版76	N17	III	1		6			胴		188②
図IV-18	133c	図版76	N17	II		19	68			胴～底		188③
			N17	III	1	49						
図IV-19	134	図版77	K19	III		1	4	IVa	大型深鉢	口～胴		269①
			K20	III		2						
			K20	IV		1						
		図版77	K19	II		4	11			口～胴		269②
			K19	III		6						
K19	IV		1									
図IV-19	135a	図版77	Q18	II		1	2	IVa	深鉢	口～胴		306①
		Q18	IV		1							
図IV-19	135b	図版77	Q17	III		1	4	IVa	深鉢	口～胴		306②
			Q17	IV		1						
			Q18	II		1						
			Q18	III		1						
図IV-19	136	図版77	K18	II			9	IVa	大型深鉢	胴		266
図IV-19	137	図版77	P19	III		3	4	IVa	深鉢	口～胴		302
			P19	IV		1						
図IV-19	138	図版77	O16	II			3	IVa	深鉢	口～胴		294②
図IV-19	139	図版77	I19	IV			3	IVa	深鉢	口～胴		255②
図IV-19	140	図版77	K19	III		1	6	IVa	壺	胴		268
			K20	III		5						
図IV-19	141	図版77	N17	III			5	IVa	深鉢	口～胴		291
図IV-19	142	図版77	N17	III		5	8	IVa	深鉢	口～胴		312
			N17	IV		1						
			N18	III		1						
			Q17	II		1						
図IV-19	143	図版77	O17	II			4	IVa	深鉢	口縁		743
図IV-20	144	図版78	P17	II		6	17	IVa	深鉢	口～胴	口径16.8cm・ 器高(15.0)cm	23
			Q17	III		9						
			Q18	II		1						
			Q18	III		1						
図IV-20	145	図版78	O15	III			6	IVa	深鉢	口～胴		286
図IV-20	146	図版78	M21	III			10	IVa	小型深鉢	口～胴		280
図IV-20	147	図版78	L17	II		8	11	IVa	小型深鉢	口～胴		279
			L17	III		2						
			L18	II		1						
図IV-20	148	図版78	I21	II		2	7	IVa	小型深鉢	口～胴		261
			J21	II		5						
図IV-20	149	図版78	P16	IV		3	4	IVa	小型深鉢	口～胴		299
			P17	II		1						
図IV-20	150	図版78	N19	II		1	2	IVa	小型深鉢	口縁		744
			N19	IV		1						
図IV-20	151	図版78	Q16	III		1	3	IVa	小型深鉢	口～胴		305
			Q16	IV		2						
図IV-20	152	図版78	M17	III			2	IVa	深鉢	口縁		745
図IV-20	153	図版78	K17	IV			2	IVa	鉢	口縁		753
図IV-20	154	図版78	Q17	II			1	IVa	鉢	口縁		755
図IV-20	155	図版78	O16	II		1	3	IVa	壺	口～胴		295
			O16	III		1						
			P15	II		1						

表IV-7 包含層出土掲載土器一覽(6)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-20	156	図版78	L17	Ⅲ			3	IVa	鉢	口縁		763
図IV-20	157	図版78	P18	Ⅱ			2	IVa	鉢	口縁		304
図IV-20	158	図版78	O16	Ⅱ			2	IVa	鉢	胴		773
図IV-20	159	図版78	K17	Ⅳ			1	IVa		蓋?		775
図IV-20	160	図版78	K23	Ⅳ			1	IVa	深鉢	胴		769
図IV-20	161a	図版78	L19	Ⅱ			1	IVa	小型深鉢	口縁		821
図IV-20	161b	図版78	K18	Ⅱ			1	IVa	小型深鉢	胴		826
図IV-20	162	図版78	N19	Ⅳ		1	2	IVa	鉢	口縁		287②
			N19	Ⅲ		1						
		図版78	N19	Ⅲ			4			底		287①
図IV-21	163	図版79	L17	Ⅱ		3	6	IVa	深鉢	口~胴		277
			L17	Ⅲ		3						
図IV-21	164	図版79	K17	Ⅱ		1	12	IVa	深鉢	口~胴		257
			K17	Ⅳ		10						
			J17	Ⅱ		1						
図IV-21	165	図版79	M20	Ⅱ		4	8	IVa	深鉢	口縁		283
			M20	Ⅲ		4						
図IV-21	166	図版79	L16	Ⅳ			3	IVa	鉢	口縁		273
図IV-21	167	図版79	O15	Ⅱ			1	IVa	鉢	口縁		752
図IV-21	168	図版79	O16	Ⅲ		3	6	IVa	鉢	口~胴		293
			O16	Ⅳ		2						
			R16	Ⅲ		1						
図IV-21	169	図版79	O20	Ⅱ			2	IVa	鉢	口縁		751
図IV-21	170	図版79	P17	Ⅳ			5	IVa	鉢	口縁		754
図IV-21	171	図版79	J17	Ⅱ		1	2	IVa	小型深鉢	口縁		258①
			J17	Ⅳ		1						
		図版79	J17	Ⅱ		4	5	IVa	小型深鉢	胴		258②
			J17	Ⅳ		1						
図IV-21	172	図版79	L16	Ⅱ			1	IVa	小型深鉢	口縁		758
図IV-21	173	図版79	P19	Ⅱ			1	IVa	鉢	口縁		757
図IV-21	174a	図版79	K18	Ⅲ			1	IVa	小型深鉢	胴		267①
図IV-21	174b	図版79	J18	Ⅱ		2	3	IVa	小型深鉢	胴		267②
			J18	Ⅳ		1						
図IV-21	175	図版79	Q17	Ⅲ		1	2	IVa	鉢	胴		774
			Q17	Ⅳ		1						
図IV-21	176	図版79	N19	Ⅳ			2	IVa	鉢	口~胴		290
図IV-21	177	図版79	Q19	Ⅱ			8	IVa	小型深鉢	口~胴		307
図IV-21	178	図版79	P18	Ⅲ			2	IVa	鉢	口縁		749
図IV-21	179	図版79	L16	Ⅱ			9	IVa	深鉢	口縁		278
図IV-21	180	図版79	R19	Ⅱ			9	IVa	深鉢	口~胴		313
図IV-22	181	図版80	H21	Ⅱ		1	11	IVa	深鉢	口~胴		311①
			P16	Ⅱ		3						
			Q16	Ⅱ		3						
			Q21	Ⅱ		1						
		R16	Ⅱ		3							
図版80	R16	Ⅱ			3			口~胴		311②		
図IV-22	182	図版80	P19	Ⅱ			3	IVa	壺	口縁		761
図IV-22	183	図版80	K17	Ⅳ			3	IVa	深鉢	口縁		259
図IV-22	184	図版80	K17	Ⅲ		1	4	IVa	深鉢	口縁		262
			K17	Ⅳ		3						
図IV-22	185	図版80	K19	Ⅳ			2	IVa	深鉢	胴		770
図IV-22	186	図版80	Q14	Ⅱ		2	6	IVa	深鉢	口~胴		310
			Q14	Ⅲ		4						
図IV-22	187a	図版80	Q16	Ⅲ		1	2	IVa	深鉢	口縁		317①

表IV-8 包含層出土掲載土器一覧(7)

図番号	掲載番号	写真 図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号	
						片	計						
			R16	Ⅲ		1							
図IV-22	187b	図版80	Q16	Ⅲ		1	3			胴		317②	
			R16	Ⅲ		2							
図IV-22	188	図版80	Q17	Ⅳ			1	Ⅳa	鉢	口縁		759	
図IV-22	189	図版80	L19	Ⅱ			1	Ⅳa	鉢	口縁		768	
図IV-22	190	図版80	J16	Ⅳ	1	24	26	Ⅳa	深鉢	口～胴	口径21.3cm・ 器高(20.9)cm オオバコ文	29	
			J16	Ⅳ		1							
			L16	Ⅱ		1							
図IV-22	191	図版80	P18	Ⅲ		31	35	Ⅳa	深鉢	口～底		298	
			Q18	Ⅲ		4							
図IV-22	192	図版80	Q17	Ⅳ			1	Ⅳa	壺	胴	赤彩	92	
図IV-22	193	図版80	Q19	Ⅱ		6	7	Ⅳa	小型深鉢	胴～底		308	
			Q19	Ⅲ		1							
図IV-23	194	図版81	K17	Ⅱ		6	7	Ⅳa	深鉢	胴		265	
			K17	Ⅲ		1							
図IV-23	195	図版81	K17	Ⅲ		1	3	Ⅳa	深鉢	胴		276	
			L17	Ⅳ		2							
図IV-23	196	図版81	O18	Ⅲ		1	4	Ⅳa	深鉢	胴		303	
			P17	Ⅱ		1							
			P17	Ⅳ		1							
			H-4	覆土1		1							
図IV-23	197	図版81	P18	Ⅱ			4	Ⅳa	深鉢	口～胴		300	
図IV-23	198	図版81	P18	Ⅲ		2	7	Ⅳa	深鉢	胴		301	
			P18	Ⅳ		5							
図IV-23	199	図版81	P18	Ⅲ			1	Ⅳa	深鉢	口縁		765	
図IV-23	200a	図版81	J18	Ⅰ			8	Ⅳa	壺	口～胴		260①	
図IV-23	200b	図版81	J18	Ⅰ			4			胴			260②
図IV-23	201a	図版81	R19	Ⅱ			3	Ⅳa	深鉢	口縁		315①	
図IV-23	201b	図版81	R18	Ⅱ		2	6			胴			315②
			R18	Ⅲ		3							
			R18	Ⅳ		1							
図IV-23	202	図版81	L17	Ⅳ			1	Ⅳa	小型深鉢	口縁		819	
図IV-23	203	図版81	L16	Ⅳ			1	Ⅳa	深鉢	口縁		747	
図IV-23	204	図版81	P17	Ⅱ			2	Ⅳa	深鉢	口縁		748	
図IV-23	205	図版81	L17	Ⅳ			1	Ⅳa	深鉢	口縁		766	
図IV-23	206a	図版81	L16	Ⅱ		1	8	Ⅳa	深鉢	口～胴		275①	
			L16	Ⅳ		7							
図IV-23	206b	図版81	K20	Ⅲ		1	2	Ⅳa	深鉢	口～胴		275②	
			K20	Ⅳ		1							
図IV-23	207	図版81	P19	Ⅱ			1	Ⅳa	鉢	口縁		767	
図IV-23	208	図版81	L16	Ⅳ			1	Ⅳa	深鉢	胴		772	
図IV-23	209	図版81	P20	Ⅲ			3	Ⅳa	小型深鉢	底		780	
図IV-23	210	図版81	P17	Ⅱ			1	Ⅳa	小型深鉢	底		778	
図IV-24	211	図版82	K23	Ⅲ			2	Ⅳa	深鉢	胴		771	
図IV-24	212	図版82	H19	Ⅲ			3	Ⅳa	深鉢	胴		281	
図IV-24	213	図版82	M19	Ⅲ		10	11	Ⅳa	深鉢	胴		282	
			L18	Ⅲ		1							
図IV-24	214	図版82	M21	Ⅲ			4	Ⅳa	深鉢	口～胴		284	
図IV-24	215	図版82	O17	Ⅲ			6	Ⅳa	深鉢	口～胴		292	
図IV-24	216	図版82	H18	Ⅳ			2	Ⅳa	深鉢	口縁		253	
図IV-24	217	図版82	J20	Ⅲ			2	Ⅳa	深鉢	口縁		739	
図IV-24	218a	図版82	O15	Ⅳ			3	Ⅳa	深鉢	口縁		288①	
図IV-24	218b	図版82	O15	Ⅱ		8	10			口～胴			288②
			O15	Ⅲ		2							

表IV-9 包含層出土掲載土器一覧(8)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-24	219a	図版82	Q14	II		3	6	IVa	深鉢	口縁		309①
			Q14	III		3				口~胴		
図IV-24	219b	図版82	Q14	III			3					309②
図IV-24	220	図版82	O18	II		1	10	IVa	深鉢	口~胴		192
			O18	III		9						
図IV-24	221	図版82	Q17	II		1	2	IVa	壺	口縁		762
			Q17	III		1						
図IV-24	222	図版82	M19	IV			24	IVa	鉢	口~底	口径12.5cm・底径5.8cm・器高7.3cm	20
図IV-24	223	図版82	N17	II			7	IVa	小型深鉢	口~底	底径4.7cm・器高(5.6)cm	21
図IV-25	224	図版83	O16	II			8	IVa	深鉢	口縁		296
図IV-25	225	図版83	K17	IV		2	27	IVa	小型深鉢	口~底	口径11.6cm・底径5.8cm・器高14.1cm	19
			L17	II		2						
			L17	III		23						
図IV-25	226	図版83	N19	II		5	11	IVa	深鉢	口~胴		289
			N19	III		6						
図IV-25	227	図版83	H20	IV		2	5	IVa	深鉢	口~胴		254
			I19	IV		3						
図IV-25	228	図版83	O17	III		1	2	IVa	深鉢	口縁		760
			O17	IV		1						
図IV-25	229	図版83	K21	IV			12	IVa	深鉢	底		272
図IV-25	230	図版83	P16	III		1	2	IVa	深鉢	底		318
			Q16	III		1						
図IV-25	231	図版83	M16	IV			1	IIIb	深鉢	底		779
図IV-25	232	図版83	K21	IV		1	6	IVa	深鉢	胴~底		270
			K22	I		1						
			K22	IV		4						
図IV-25	233	図版83	O16	III		3	9	IVa	深鉢	胴~底		297
			O16	IV		6						
図IV-25	234	図版83	H15	III			1	IVa	小型深鉢	底		777
図IV-25	235	図版83	K17	IV			4	IVa	深鉢	底		784
図IV-25	236	図版83	M20	III			1	IVa	深鉢	底		781
図IV-25	237	図版83	K18	III			1	IVa	台付鉢	台		73
図IV-25	238	図版83	O21	IV			1	IVa	台付鉢	台		74
図IV-25	239	図版83	N18	III			2	IVa	台付鉢	台	透かし入り?	75
図IV-26	240	図版84	J18	II			2	IVb	深鉢	口縁		818
図IV-26	241	図版84	Q17	II			1	IVb	深鉢	口縁		817
図IV-26	242	図版84	L17	II			3	IVb	深鉢	口縁		338
図IV-26	243	図版84	K17	II		7	9	IVb	深鉢	口~胴		336
			K17	IV		2						
図IV-26	244	図版84	N20	III			29	IVb	深鉢	口~胴	口径16.7cm・器高(11.8)cm	32
図IV-26	245	図版84	O18	II		2	5	IVb	深鉢	口~胴		352
			O18	III		3						
図IV-26	246a	図版84	L17	III		1	2	IVb	深鉢	口縁		274①
			L17	IV		1						
図IV-26	246b	図版84	L17	III		1	2	IVb	深鉢	口縁		274②
			L19	II		1						
図IV-26	246c	図版84	L16	II		1	4	IVb	深鉢	胴		274③
			L16	IV		3						
図IV-26	247	図版84	M16	II			5	IVb	深鉢	胴		346
図IV-26	248	図版84	J18	I			6	IVb	深鉢	口縁		334
図IV-26	249	図版84	Q15	III			3	IVb	深鉢	口縁		816

表IV-10 包含層出土掲載土器一覧(9)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号
						片	計					
図IV-26	250	図版84	L17	Ⅲ			1	IVb	深鉢	口縁		823
図IV-26	251	図版84	L17	Ⅲ			12	IVb	深鉢	口～胴		339
図IV-26	252	図版84	L16	Ⅳ			9	IVb	深鉢	口～胴		343
図IV-26	253	図版84	L17	Ⅱ		3	4	IVb	小型深鉢	胴		825
			L17	Ⅲ		1						
図IV-27	254	図版85	L17	Ⅲ			1	IVb	深鉢	口縁		822
図IV-27	255	図版85	L16	Ⅰ			5	IVb	深鉢	口縁		342
図IV-27	256a	図版85	N18	Ⅲ		2	10	IVb	大型深鉢	口縁		345①
			N18	Ⅳ		8						
図IV-27	256b	図版85	N18	Ⅲ		2	13			胴		345②
			N18	Ⅳ		11						
図IV-27	257	図版85	L16	Ⅱ		2	6	IVb	深鉢	口～胴		340
			L16	Ⅳ		4						
図IV-27	258	図版85	N16	Ⅱ		6	8	IVb	深鉢	口～胴		348
			N16	Ⅲ		2						
図IV-27	259	図版85	H-1	覆土上		2	6	IVb	深鉢	口～胴		344
			L19	Ⅱ		4						
図IV-27	260a	図版85	M21	Ⅱ			1	IVb	鉢	口縁		347①
図IV-27	260b	図版85	M22	Ⅱ		4	6				胴	
			M22	Ⅲ		2						
図IV-27	261	図版85	K20	Ⅳ			1	IVb	小型深鉢	底		829
図IV-27	262	図版84	N18	Ⅳ	1-1	16	20	IVb	深鉢	口縁	口径18.9cm・ 器高(9.6)cm	31
			N18	Ⅲ		1						
			N18	Ⅳ		1						
			N18	Ⅰ		2						
図IV-27	263	図版85	P21	Ⅱ		2	3	IVb	深鉢	口縁		351
			Q21	Ⅲ		1						
図IV-28	264	図版85	L16	Ⅳ			1	IVb	注口	胴		341①
		図版85	L17	Ⅲ			2			胴	注口基部	341②
		図版85	L17	Ⅲ			4			底		341③
図IV-28	265	図版85	N18	Ⅲ			1	IVb	壺	口縁		828
図IV-28	266	図版85	O17	Ⅱ			1	IVb	注口	注口		71
図IV-28	267	図版85	K17	Ⅱ		1	4	IVb	注口	口～頸		337
			K17	Ⅳ		3						
図IV-28	268a	図版85	K19	Ⅱ		2	3	IVb	注口	口縁		335①
			K19	Ⅲ		1						
図IV-28	268b	図版85	K19	Ⅱ			1	IVb	注口	胴	注口基部	335②
図IV-28	268c	図版85	L16	Ⅱ		1	胴～底				335③	
図IV-28	269	図版85	M19	Ⅲ			1			IVb	注口	口縁
図IV-28	270	図版85	K19	Ⅱ			2	IVb	注口	胴		827
図IV-28	271	図版86	K16	Ⅳ			2	IVc	深鉢	口縁		367
図IV-28	272	図版86	K16	Ⅳ			1	IVc	深鉢	口縁		839
図IV-28	273	図版86	O25	Ⅲ			1	IVc	深鉢	口縁		840
図IV-28	274	図版86	L18	Ⅱ		1	4	IVc	深鉢	口縁		369
			L18	Ⅲ		2						
			M18	Ⅱ		1						
図IV-28	275	図版86	J17	Ⅱ			1	IVc	鉢	口縁		838
図IV-28	276a	図版86	K18	Ⅱ			1	IVc	深鉢	口縁		366②
図IV-28	276b	図版86	K18	Ⅱ		2	胴				366①	
図IV-28	277	図版86	I18	Ⅳ		1	2	IVc	深鉢	口縁		841
			J18	Ⅱ		1						
図IV-28	278	図版86	M16	Ⅱ			2	IVc	深鉢	口縁		824
図IV-28	279	図版86	M23	Ⅳ			4	IVc	注口	口縁		842
図IV-28	280	図版86	J19	Ⅲ			2	IVc	注口	胴		843

表IV-11 包含層出土掲載土器一覽(10)

図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物 No.	点数		分類	器種	部位	計測値・備考	個体 番号	
						片	計						
図IV-28	281	図版86	不明	IV			1	IVc	注口	注口		72	
図IV-28	282a	図版86	L24	IV			2	IVc	深鉢	胴		370①	
図IV-28	282b	図版86	L24	IV			2			胴			370②
図IV-28	282c	図版86	L24	IV			2			底			370③
図IV-28	283	図版86	H20	IV			3	IVc	深鉢	底		844	
図IV-28	284	図版86	K17	II		4	6	IVc	深鉢	底		368	
			K17	IV		2							
図IV-29	285	図版86	L18	III			1	Va	鉢	口縁		852	
図IV-29	286	図版86	P16	III			2	Va	鉢	底		853	
図IV-29	287	図版86	L16	II		1	2	Vb	鉢	口縁		870	
			L16	IV		1							
図IV-29	288	図版86	J18	IV			3	Vb	鉢	口縁		865	
図IV-29	289	図版86	H19	III			1	Vb	鉢	口縁		866	
図IV-29	290	図版86	O16	II		1	4	Vb	鉢	口縁		868	
			O16	III		3							
図IV-29	291	図版86	M16	II			2	Vb	鉢	口縁		867	
図IV-29	292	図版86	M16	IV			1	Vb	鉢	口縁		869	
図IV-29	293	図版86	L18	II		7	8	Vb	壺	口~胴		385	
			L18	III		1							
図IV-29	294a	図版86	K24	III			8	Vb	鉢	口~胴		384①	
図IV-29	294b	図版86	K24	III			2			底			384②
図IV-29	295	図版87	H22	III			63	Vb	大型深鉢	口~胴		382	
図IV-30	296	図版87	L24	III			1	Vb	深鉢	口縁		872	
図IV-30	297	図版87	J18	II		9	12	Vb	深鉢	口縁		383	
			J18	IV		3							
図IV-30	298	図版87	K24	III			1	Vb	深鉢	底		874	
図IV-30	299	図版87	L24	III			15	Vc	鉢	口~胴		387	
図IV-30	300	図版87	K24	III			27	Vc	鉢	口~胴		386	
図IV-30	301a	図版87	O17	III			2	VI	壺	口縁		392①	
図IV-30	301b	図版87	O17	III			3			口縁			392②
図IV-30	302a	図版87	O17	III			2	VI	壺	口~胴		391①	
図IV-30	302b	図版87	O17	III			4			口~胴			391①
図IV-30	302c	図版87	O17	III			5			胴			391②
図IV-30	302d	図版87	O17	III			3			胴			391③
図IV-30	303	図版87	M23	I			11			(現代)	甕	口~底	口径22.5cm・底径13.2cm・器高23.7cm

表IV-12 包含層出土掲載土製品一覽

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	点数	分類	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	実測 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-31	304	図版88	O16	IV		1	土偶	(4.5)	(4.0)	1.9	27.2	H-1付近	51
図IV-31	305	図版88	M23	III		1	土偶	(4.7)	(3.9)	1.2	13.4		54
図IV-31	306	図版88	Q18	III		1	土偶	(4.1)	(2.8)	1.8	17.6		55
図IV-31	307	図版88	J16	IV		1	土偶	(4.2)	(2.8)	2.3	19.5		53
図IV-31	308	図版88	O19	III		1	土製品	4.2	3.7	3.7	46.9	「イモガイ形」類似	56
図IV-31	309	図版88	N17	IV		1	スタンプ形土製品	2.9	3.9	3.5	13.2	H-1付近	57
図IV-31	310	図版88	L17	III		1	土製円盤	3.4	3.5	1.0	11.8		59
図IV-31	311	図版88	P17	II		1	土製円盤	3.6	3.8	0.9	10.2		62
図IV-31	312	図版88	N18	III		1	ミニチュア	4.0	1.6	3.4	9.7		63
図IV-31	313	図版88	L17	IV		1	土製品	3.8		(4.8)	15.0	ろうと形	64

表IV-13 包含層出土掲載石器等一覧(1)

挿図番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	実測 番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-32	1	図版89	O16	IV		石鏃	頁岩	(2.2)	1.5	0.3	0.9		230
図IV-32	2	図版89	M23	III		石鏃	めのう	3.0	1.2	0.4	1.1		220
図IV-32	3	図版89	Q18	III		石鏃	頁岩	3.3	1.5	0.4	1.7		248
図IV-32	4	図版89	J16	IV		石鏃	頁岩	3.1	1.1	0.4	1.3		201
図IV-32	5	図版89	O19	III		石鏃	頁岩	3.1	1.0	0.5	1.2		234
図IV-32	6	図版89	N17	IV		石鏃	頁岩	2.9	1.6	0.3	0.9		223
図IV-32	7	図版89	L17	III		石鏃	頁岩	3.7	1.4	0.5	2.3		210
図IV-32	8	図版89	L21	III		石鏃	頁岩	(3.7)	1.2	0.5	1.8		212
図IV-32	9	図版89	P17	II		石鏃	頁岩	4.2	1.3	0.4	1.9		239
図IV-32	10	図版89	N18	III		石鏃	頁岩	3.4	1.1	0.5	1.6		225
図IV-32	11	図版89	L17	IV		石鏃	頁岩	(3.2)	1.2	0.3	1.4		215
図IV-32	12	図版89	R15	III		石鏃	頁岩	3.2	1.2	0.5	1.7		250
図IV-32	13	図版89	O25	III		石鏃	頁岩	3.4	1.2	0.5	1.3		237
図IV-32	14	図版89	N18	IV		石鏃	頁岩	3.6	1.3	0.4	1.5		226
図IV-32	15	図版89	O18	III		石鏃	頁岩	(4.0)	1.3	0.7	3.5	アスファルト付着	232
図IV-32	16	図版89	M18	III		石鏃	頁岩	(4.2)	1.8	0.6	3.4		219
図IV-32	17	図版89	N20	IV		石鏃	頁岩	4.0	1.5	0.6	2.7		228
図IV-32	18	図版89	N16	II		石鏃	頁岩	3.7	1.5	0.6	2.7		222
図IV-32	19	図版89	L18	III		石鏃	頁岩	4.6	1.7	0.6	3.2		218
図IV-32	20	図版89	L17	IV		石鏃	頁岩	4.5	1.6	0.6	3.3		213
図IV-32	21	図版89	O18	II		石鏃	珪岩	3.4	1.6	0.5	1.9		231
図IV-32	22	図版89	Q15	II		石鏃	頁岩	(3.1)	1.0	0.4	1.3		247
図IV-32	23	図版89	L18	III		石鏃	頁岩	4.4	1.4	0.5	2.1		217
図IV-32	24	図版89	K25	III		石鏃	黒曜石	(3.5)	1.2	0.4	1.3	地割れ	207
図IV-32	25	図版89	N15	III		石鏃	黒曜石	3.0	1.5	0.5	1.4	産地同定	362
図IV-32	26	図版89	P20	II		石鏃	黒曜石	(2.5)	1.4	0.4	1.0		246
図IV-32	27	図版89	O20	III		石鏃	黒曜石	2.9	1.5	0.5	1.5	産地同定	363
図IV-32	28	図版89	Q17	III		石鏃	黒曜石	2.1	1.4	0.4	0.7	産地同定	364
図IV-32	29	図版89	N16	II		石鏃	黒曜石	2.6	1.8	0.5	1.7		221
図IV-32	30	図版89	Q20	II		石鏃	頁岩	3.4	2.4	0.8	5.1		249
図IV-32	31	図版89	N17	IV		石鏃	頁岩	2.9	2.3	0.3	1.2		224
図IV-32	32	図版89	L17	III		石鏃	頁岩	2.5	1.4	0.3	0.7		209
図IV-32	33	図版89	O16	II		石鏃	頁岩	3.1	2.1	0.6	2.2		229
図IV-32	34	図版89	K16	IV		石鏃	頁岩	3.5	2.4	0.7	3.0		203
図IV-32	35	図版89	P18	III		石鏃	頁岩	3.5	2.3	0.7	3.1		243
図IV-32	36	図版89	P17	II		石鏃	頁岩	3.3	2.4	0.9	3.7		240
図IV-32	37	図版89	K17	IV		石鏃	頁岩	3.2	2.2	0.5	2.3		204
図IV-32	38	図版89	L16	V		石鏃	黒曜石	1.7	1.7	0.4	0.6	産地同定	361
図IV-32	39	図版89	K17	IV		石鏃	頁岩	3.0	1.5	0.3	1.0		205
図IV-32	40	図版89	P18	II		石鏃	頁岩	2.9	1.4	0.4	1.3		245
図IV-32	41	図版89	L16	IV		石鏃	頁岩	3.1	1.4	0.3	1.2		208
図IV-32	42	図版89	J19	III		石鏃	頁岩	(5.0)	1.5	0.5	2.5		202
図IV-32	43	図版89	L18	III		石鏃	頁岩	2.7	1.4	0.5	1.3		216
図IV-32	44	図版89	K17	IV		石鏃	頁岩	3.5	(1.8)	0.4	1.2		206
図IV-32	45	図版89	P18	II		石鏃	頁岩	4.1	1.6	0.5	2.2		244
図IV-32	46	図版89	P15	II		石鏃	頁岩	(2.9)	1.3	0.4	1.3	アスファルト付着	238
図IV-32	47	図版89	P17	III		石鏃	頁岩	4.0	1.3	0.4	1.7		241
図IV-32	48	図版89	L17	IV		石鏃	頁岩	4.8	1.5	0.5	3.1		214
図IV-32	49	図版89	N19	III		石鏃	頁岩	3.1	1.4	0.4	1.2		227
図IV-32	50	図版89	O20	II		石鏃	頁岩	2.5	1.2	0.4	0.7		235
図IV-32	51	図版89	O20	IV		石鏃	頁岩	2.5	1.4	0.4	0.8		236
図IV-32	52	図版89	P18	III		石鏃	頁岩	(2.8)	1.5	0.4	1.0		242
図IV-32	53	図版89	L17	III		石鏃	頁岩	3.1	1.3	0.3	0.9		211
図IV-33	54	図版89	P20	IV		石槍	頁岩	(7.5)	(5.0)	1.6	52.7		257
図IV-33	55	図版89	P20	II		石槍	頁岩	(6.5)	(5.4)	1.0	44.5		256

表IV-14 包含層出土掲載石器等一覧(2)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/発掘区	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-33	56	図版89	M19	III		石槍	頁岩	9.0	2.6	1.3	24.0		254
図IV-33	57	図版89	O17	II		石槍	頁岩	6.6	2.9	1.0	13.4		255
図IV-33	58	図版89	Q18	II		石槍	頁岩	7.7	2.3	1.5	27.3		258
図IV-33	59	図版89	K18	IV		石槍	頁岩	6.9	3.0	1.0	16.1		251
図IV-33	60	図版89	K19	II		石槍	黒曜石	6.1	3.1	1.4	19.8	産地同定	366
図IV-33	61	図版89	M18	IV		石槍	頁岩	10.5	3.6	1.5	51.3		253
図IV-33	62	図版89	M17	II		ナイフ	頁岩	9.8	4.4	1.6	64.1		259
図IV-33	63	図版89	N18	IV		ナイフ	頁岩	5.4	2.3	1.2	10.6		252
図IV-33	64	図版90	N28	IV		石錐	頁岩	2.7	0.9	0.5	1.3		265
図IV-33	65	図版90	L17	III		石錐	頁岩	(4.7)	1.1	0.6	2.8		261
図IV-33	66	図版90	L24	IV		石錐	頁岩	4.4	1.4	0.9	4.5		264
図IV-33	67	図版90	O20	III		石錐	頁岩	3.7	1.1	0.4	1.6		268
図IV-33	68	図版90	O19	III		石錐	頁岩	3.6	1.9	0.5	2.6		233
図IV-33	69	図版90	O19	II		石錐	頁岩	3.2	1.8	0.6	3.0		267
図IV-33	70	図版90	Q16	IV		石錐	頁岩	2.9	2.3	0.6	2.8		269
図IV-33	71	図版90	L19	III		石錐	頁岩	4.1	2.2	1.0	6.8		263
図IV-33	72	図版90	L18	III		石錐	頁岩	4.8	2.4	1.0	9.0		262
図IV-33	73	図版90	O16	II		石錐	頁岩	4.8	4.1	0.6	5.7		266
図IV-33	74	図版90	Q17	II		石錐	頁岩	4.8	2.6	0.8	8.8		270
図IV-34	75	図版90	N18	III		両面調整石器	頁岩	2.4	1.5	0.5	2.1		276
図IV-34	76	図版90	K16	IV		両面調整石器	頁岩	3.1	2.0	0.6	3.5		271
図IV-34	77	図版90	R15	II		両面調整石器	頁岩	2.8	2.2	0.7	3.9		280
図IV-34	78	図版90	N18	III		両面調整石器	頁岩	3.1	2.4	0.7	4.6		275
図IV-34	79	図版90	P17	II		両面調整石器	頁岩	3.6	2.3	0.9	6.8		278
図IV-34	80	図版90	L17	III		両面調整石器	黒曜石	3.4	1.9	0.8	3.2	産地同定	365
図IV-34	81	図版90	L20	II		両面調整石器	頁岩	7.0	4.0	1.2	32.4		274
図IV-34	82	図版90	L19	III		両面調整石器	頁岩	4.2	2.8	0.8	8.9		273
図IV-34	83	図版90	L17	IV		両面調整石器	頁岩	4.1	3.5	1.5	28.2		272
図IV-34	84	図版90	N18	IV		両面調整石器	頁岩	4.2	1.8	1.0	7.2		277
図IV-34	85	図版90	Q21	II		両面調整石器	頁岩	5.0	2.1	0.8	9.8		279
図IV-34	86	図版90	K19	IV		つまみ付きナイフ	黒曜石	3.5	4.8	1.2	11.1	産地同定	367
図IV-34	87	図版90	N20	III		つまみ付きナイフ	頁岩	10.4	3.5	1.2	37.5		290
図IV-34	88	図版90	K16	IV		つまみ付きナイフ	頁岩	5.8	4.2	0.9	23.7		283
図IV-34	89	図版90	O17	II		つまみ付きナイフ	頁岩	10.5	3.1	1.0	34.7		291
図IV-34	90	図版90	M19	III		つまみ付きナイフ	頁岩	10.2	3.3	1.2	48.7		287
図IV-34	91	図版90	K17	II		つまみ付きナイフ	頁岩	9.1	3.2	1.2	33.9		282
図IV-35	92	図版90	J19	III		つまみ付きナイフ	頁岩	6.2	1.7	0.7	6.9		281
図IV-35	93	図版90	P16	II		つまみ付きナイフ	頁岩	7.5	2.4	0.7	12.2		295
図IV-35	94	図版90	N17	IV		つまみ付きナイフ	頁岩	8.5	2.0	0.6	12.3	アスファルト付着	288
図IV-35	95	図版90	N18	IV		つまみ付きナイフ	頁岩	10.3	2.3	0.7	18.9		289
図IV-35	96	図版90	R15	II		つまみ付きナイフ	頁岩	7.9	2.5	0.6	13.9		300
図IV-35	97	図版90	Q16	I		つまみ付きナイフ	頁岩	7.0	2.8	0.8	18.0		298
図IV-35	98	図版90	O19	III		つまみ付きナイフ	頁岩	6.2	3.4	0.7	11.4		293
図IV-35	99	図版90	L16	II		つまみ付きナイフ	頁岩	5.0	2.7	0.9	7.8		286
図IV-35	100	図版90	K21	IV		つまみ付きナイフ	頁岩	6.2	3.2	1.2	18.2		285
図IV-35	101	図版90	K19	III		つまみ付きナイフ	頁岩	9.3	2.9	0.7	23.8		284
図IV-35	102	図版90	P18	III		つまみ付きナイフ	頁岩	8.7	3.6	1.2	37.8		297
図IV-35	103	図版90	Q19	II		つまみ付きナイフ	頁岩	7.1	4.9	0.9	29.8		299
図IV-35	104	図版90	O16	III		つまみ付きナイフ	頁岩	6.3	3.3	0.9	9.8		292
図IV-35	105	図版90	P16	III		つまみ付きナイフ	頁岩	3.7	3.9	0.7	6.5	石匙	296
図IV-35	106	図版90	O17	III		つまみ付きナイフ	黒曜石	6.7	2.8	0.9	11.7	石匙・産地同定	368
図IV-35	107	図版90	O23	III		つまみ付きナイフ	頁岩	3.4	5.5	0.7	15.2	石匙	294
図IV-36	108	図版91	O16	IV		スクレイパー	頁岩	6.2	2.8	0.6	11.2	石べら	260
図IV-36	109	図版91	H17	II		スクレイパー	頁岩	6.4	3.5	0.7	18.2		302

表IV-15 包含層出土掲載石器等一覧(3)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/発掘区	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-36	110	図版91	N18	IV		スクレイパー	頁岩	7.1	4.9	1.3	47.8		331
図IV-36	111	図版91	M18	IV		スクレイパー	頁岩	7.5	4.5	1.3	40.9		317
図IV-36	112	図版91	J18	IV		スクレイパー	頁岩	6.4	3.4	0.9	17.7		304
図IV-36	113	図版91	N19	II		スクレイパー	頁岩	6.3	4.2	1.1	26.9		333
図IV-36	114	図版91	Q15	IV		スクレイパー	頁岩	6.6	4.3	1.0	31.1		350
図IV-36	115	図版91	L18	IV		スクレイパー	頁岩	5.7	3.5	0.7	15.2		314
図IV-36	116	図版91	L17	IV		スクレイパー	頁岩	7.4	4.7	0.9	44.0		311
図IV-36	117	図版91	M18	IV		スクレイパー	頁岩	7.5	4.2	0.8	30.0		316
図IV-36	118	図版91	M19	II		スクレイパー	頁岩	6.6	4.1	1.0	30.6		319
図IV-36	119	図版91	P18	III		スクレイパー	頁岩	6.5	4.6	0.7	31.5		344
図IV-36	120	図版91	P16	IV		スクレイパー	頁岩	6.9	4.4	1.0	41.4		343
図IV-36	121	図版91	O18	III		スクレイパー	頁岩	6.9	3.1	0.9	18.5		340
図IV-36	122	図版91	P16	III		スクレイパー	頁岩	6.4	3.2	0.9	20.6		342
図IV-37	123	図版91	M19	III		スクレイパー	頁岩	6.1	4.0	0.6	25.6		320
図IV-37	124	図版91	P21	IV		スクレイパー	珪質頁岩	6.2	3.6	1.0	28.9		349
図IV-37	125	図版91	O19	III		スクレイパー	頁岩	6.2	4.0	1.1	36.3		341
図IV-37	126	図版91	L17	IV		スクレイパー	頁岩	6.9	4.1	1.2	35.6		309
図IV-37	127	図版91	L17	IV		スクレイパー	頁岩	6.4	3.5	0.9	30.5		310
図IV-37	128	図版91	N19	IV		スクレイパー	頁岩	8.5	5.0	1.1	51.3		335
図IV-37	129	図版91	L16	V		スクレイパー	頁岩	8.2	4.6	1.0	53.6		308
図IV-37	130	図版91	N18	IV		スクレイパー	頁岩	6.3	4.4	1.0	40.8		332
図IV-37	131	図版91	L19	II		スクレイパー	頁岩	4.1	2.7	0.6	7.9		315
図IV-37	132	図版91	M19	II		スクレイパー	頁岩	7.4	3.6	0.8	33.6		318
図IV-37	133	図版91	N15	IV		スクレイパー	頁岩	6.9	3.6	0.8	23.3		326
図IV-37	134	図版91	O16	IV		スクレイパー	頁岩	7.7	3.6	1.0	32.5		337
図IV-37	135	図版91	K18	IV		スクレイパー	頁岩	8.5	7.0	1.5	100.6		307
図IV-37	136	図版91	M21	II		スクレイパー	頁岩	7.8	5.9	0.8	53.4		325
図IV-38	137	図版92	L17	IV		スクレイパー	頁岩	7.6	3.2	1.0	22.9		312
図IV-38	138	図版92	N18	III		スクレイパー	頁岩	6.5	4.0	1.2	31.4		330
図IV-38	139	図版92	K17	IV		スクレイパー	頁岩	9.4	4.4	0.6	31.2		305
図IV-38	140	図版92	L17	IV		スクレイパー	頁岩	9.2	3.6	1.0	44.1		313
図IV-38	141	図版92	M19	III		スクレイパー	頁岩	8.4	4.1	1.3	51.0		322
図IV-38	142	図版92	P21	IV		スクレイパー	頁岩	5.7	3.2	0.8	20.0		348
図IV-38	143	図版92	P18	IV		スクレイパー	頁岩	7.0	4.1	0.9	19.6		345
図IV-38	144	図版92	M20	III		スクレイパー	頁岩	9.6	3.2	1.0	36.1		324
図IV-38	145	図版92	N21	II		スクレイパー	頁岩	10.7	3.8	1.1	46.1		336
図IV-38	146	図版92	M19	III		スクレイパー	頁岩	10.3	4.7	2.0	82.1		321
図IV-38	147	図版92	M19	III		スクレイパー	頁岩	7.5	5.4	0.9	38.3		323
図IV-39	148	図版92	K18	III		スクレイパー	頁岩	7.8	5.5	0.9	27.9		306
図IV-39	149	図版92	H16	III		スクレイパー	頁岩	7.5	5.7	1.5	41.3		301
図IV-39	150	図版92	I17	IV		スクレイパー	頁岩	8.2	6.1	1.5	71.6		303
図IV-39	151	図版92	O17	IV		スクレイパー	頁岩	5.6	6.0	1.6	53.1		338
図IV-39	152	図版92	P21	IV		スクレイパー	頁岩	5.7	4.8	1.4	30.5		347
図IV-39	153	図版92	P19	II		スクレイパー	頁岩	4.7	3.8	1.0	20.4		346
図IV-39	154	図版92	O18	II		スクレイパー	頁岩	5.4	4.7	0.9	26.9		339
図IV-39	155	図版92	N16	II		スクレイパー	頁岩	6.8	4.0	1.2	32.4		327
図IV-39	156	図版92	N18	III		スクレイパー	頁岩	4.5	4.2	1.2	18.9		329
図IV-39	157	図版92	N16	III		スクレイパー	頁岩	5.2	5.1	1.7	44.9		328
図IV-39	158	図版92	N19	IV		スクレイパー	頁岩	2.6	3.5	1.3	12.6		334
図IV-40	159	図版92	R21	II		ビエス・エスキュー	頁岩	3.9	2.8	0.9	10.8		353
図IV-40	160	図版92	Q16	IV		ビエス・エスキュー	頁岩	3.9	1.6	0.9	7.1		354
図IV-40	161	図版93	Q16	IV		石核	頁岩	15.9	14.8	6.0	1145.0		351
図IV-40	162	図版93	K21	IV		石核	頁岩	29.2	8.8	5.2	898.0	大型石器未成品?	352
図IV-41	163	図版93	I18	II		石斧	緑色泥岩	8.2	4.4	1.5	108.0		417

表IV-16 包含層出土掲載石器等一覧(4)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/発掘区	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-41	164	図版93	H17	II		石斧	緑色泥岩	8.8	3.9	14.6	92.0		411
図IV-41	165	図版93	K16	IV		石斧	緑色泥岩	8.8	4.1	1.5	790.0		410
図IV-41	166	図版93	K16	IV		石斧	安山岩	8.0	3.2	1.8	620.0		409
図IV-41	167	図版93	K21	IV		石斧	片岩	10.5	3.1	2.5	105.0		408
図IV-41	168	図版93	K15	I		石斧	緑色泥岩	8.8	3.3	2.2	110.0		407
図IV-41	169	図版93	J19	IV		石斧	緑色泥岩	9.5	3.9	2.6	178.0		406
図IV-41	170	図版93	L17	II		石斧	緑色泥岩	10.5	4.0	2.5	198.0		412
図IV-41	171	図版93	P20	II		石斧	泥岩	10.8	4.9	2.6	207.0		405
図IV-41	172	図版93	N20	II		石斧	片岩	12.6	4.69	2.1	200.0		404
図IV-41	173	図版93	O19	IV		石斧	緑色凝灰岩	13.7	4.8	3.2	298.0		403
図IV-41	174	図版93	N20	IV		石斧	安山岩	13.3	5.5	2.9	309.0		402
図IV-41	175	図版93	K19	IV		石斧	緑色泥岩	15.7	6.1	3.2	459.0		401
図IV-42	176	図版93	N24	II		石斧	緑色泥岩	9.0	4.9	1.7	115.0	擦り切り痕あり	416
図IV-42	177	図版93	M16	II		石斧	閃緑岩	8.9	5.1	3.0	225.0		415
図IV-42	178	図版93	Q23	III		石斧	緑色泥岩	5.7	4.2	1.8	64.3		418
図IV-42	179	図版93	L18	II		石斧	緑色泥岩	7.0	3.6	2.2	87.0		413
図IV-42	180	図版93	Q17	III		石斧	緑色泥岩	7.1	3.8	2.0	92.9		414
図IV-42	181	図版93	L22	II		石斧	片岩	5.1	2.7	0.6	14.6		419
図IV-42	182	図版93	N16	II		石のみ	片岩	8.2	1.5	0.8	17.5		420
			O19	III									
図IV-42	183	図版94	J17	II		たたき石	砂岩	7.9	6.6	2.9	225.0		428
図IV-42	184	図版94	K17	IV		たたき石	砂岩	8.6	5.3	3.1	212.0		427
図IV-42	185	図版94	O15	III		たたき石	砂岩	11.4	5.7	4.8	448.0		426
図IV-42	186	図版94	R14	II		たたき石	安山岩	9.1	5.3	4.8	388.0		431
図IV-42	187	図版94	H16	III		たたき石	珪岩	9.1	7.3	4.7	449.0		425
図IV-42	188	図版94	P16	IV		たたき石	頁岩	6.8	6.6	5.0	320.0		421
図IV-42	189	図版94	P18	II		たたき石	頁岩	7.2	6.0	3.3	179.0		422
図IV-42	190	図版94	J18	I		たたき石	砂岩	5.9	4.4	3.8	149.0		429
図IV-42	191	図版94	N18	IV		たたき石	珪岩	4.6	4.2	3.0	88.7		423
図IV-42	192	図版94	R15	III		たたき石	安山岩	6.3	5.6	5.6	232.0		430
図IV-42	193	図版94	J19	III		たたき石	珪岩	5.4	5.4	4.6	167.0		424
図IV-43	194	図版94	P15	II		くぼみ石	凝灰岩	8.1	4.4	2.7	73.9		440
図IV-43	195	図版94	K18	II		くぼみ石	泥岩	9.3	6.1	1.7	94.0		438
図IV-43	196	図版94	P19	III		くぼみ石	泥岩	13.0	6.9	3.5	318.0		433
図IV-43	197	図版94	M20	II		たたき石	安山岩	14.3	8.5	5.2	834.0	くぼみ石	432
図IV-43	198	図版94	Q24	(試掘)		くぼみ石	泥岩	15.7	6.7	3.3	378.0	SP30780L	437
図IV-43	199	図版94	J20	IV		くぼみ石	泥岩	14.0	6.6	3.0	262.0		434
図IV-43	200	図版94	M21	III		くぼみ石	泥岩	14.7	5.9	3.9	304.0		435
図IV-43	201	図版94	N22	III		くぼみ石	泥岩	13.6	5.3	2.9	241.0		436
図IV-43	202	図版94	N15	II		くぼみ石	砂岩	9.6	4.6	5.1	213.0		439
図IV-43	203	図版94	N18	III		扁平打製石器	安山岩	7.3	10.6	1.5	240.0		472
図IV-43	204	図版94	H19	IV		扁平打製石器	安山岩	7.1	11.4	0.9			473
図IV-44	205	図版94	N20	III		扁平打製石器	安山岩	9.0	18.7	3.1	870.0		445
			O16	IV									
図IV-44	206	図版94	L17	IV		扁平打製石器	安山岩	8.0	14.6	3.2	536.0		443
			L19	II									
図IV-44	207	図版94	L17	II		扁平打製石器	安山岩	8.0	15.1	2.6	410.0		444
			N26	IV									
図IV-44	208	図版95	M17	IV		扁平打製石器	安山岩	8.6	16.7	3.0	397.0	2点接合	455
図IV-44	209	図版95	L18	III		扁平打製石器	安山岩	8.9	16.1	4.9	776.0		447
			Q19	III									
図IV-44	210	図版95	O18	II		扁平打製石器	安山岩	8.5	15.9	4.0	686.0		457
			P20	II									
図IV-44	211	図版95	L19	IV		扁平打製石器	安山岩	8.7	15.7	3.7	606.0		442

表IV-17 包含層出土掲載石器等一覧(5)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構／発掘区	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-44	212	図版95	M19	IV		扁平打製石器	安山岩	6.8	14.1	3.9	540.0		446
			N16	II									
			N17	IV									
図IV-44	213	図版95	N18	IV		扁平打製石器	安山岩	9.8	16.1	3.7	642.0		450
			Q20	III									
図IV-44	214	図版95	N17	III		扁平打製石器	安山岩	9.5	17.7	3.8	878.0		441
			N18	III									
図IV-45	215	図版95	K17	IV		扁平打製石器	安山岩	8.3	11.5	3.1	363.0		459
			M16	II									
図IV-45	216	図版95	K17	IV		扁平打製石器	安山岩	8.3	11.8	1.6	213.0		456
			M19	III									
			N17	II									
図IV-45	217	図版95	L20	III		扁平打製石器	安山岩	7.0	12.2	3.5	341.0		468
			O21	II									
図IV-45	218	図版95	N18	IV		扁平打製石器	安山岩	10.2	14.1	3.9	680.0		454
			O16	II									
図IV-45	219	図版95	J20	III		扁平打製石器	安山岩	10.5	14.9	3.7	732.0		467
			M21	III									
図IV-45	220	図版95	K17	III		扁平打製石器	安山岩	8.6	14.1	5.0	712.0		463
			O22	II									
図IV-45	221	図版95	N19	II		扁平打製石器	安山岩	8.2	12.5	3.9	526.0		466
			O19	II									
図IV-45	222	図版95	N20	II		扁平打製石器	安山岩	7.7	13.7	2.7	387.0		458
			N22	III									
図IV-45	223	図版96	R15	II		扁平打製石器	安山岩	7.2	15.7	4.5	451.0	2点接合	451
図IV-45	224	図版96	M20	II		扁平打製石器	安山岩	7.7	16.1	3.5	506.0	2点接合	461
図IV-45	225	図版96	K17	IV		扁平打製石器	安山岩	7.6	14.9	2.3	355.0		460
			L18	II									
図IV-46	226	図版96	N18	IV		扁平打製石器	安山岩	5.9	13.4	1.1	90.0		471
			P17	II									
図IV-46	227	図版96	O18	II		扁平打製石器	安山岩	6.4	13.2	2.4	245.0		452
			O19	III									
図IV-46	228	図版96	N21	II		扁平打製石器	安山岩	7.9	12.7	2.1	247.0		470
			O21	II									
図IV-46	229	図版96	K18	II		扁平打製石器	安山岩	7.0	14.9	2.1	265.0	2点接合	469
図IV-46	230	図版96	M20	III		扁平打製石器	安山岩	7.4	14.2	2.5	286.0		462
			M24	II									
図IV-46	231	図版96	K18	III		扁平打製石器	安山岩	6.4	14.7	2.3	262.0		449
			P19	IV									
図IV-46	232	図版96	N17	III		扁平打製石器	安山岩	8.0	15.4	4.3	610.0		464
			O18	IV									
図IV-46	233	図版96	N19	II		扁平打製石器	安山岩	6.8	16.0	4.0	524.0		465
			O17	III									
図IV-46	234	図版96	I25	IV		扁平打製石器	安山岩	8.4	17.9	5.4	1200.0		448
			K21	IV									
図IV-46	235	図版96	N16	IV		扁平打製石器	安山岩(緑色)	9.2	15.1	4.0	960.0		453
			Q16	III									
図IV-47	236	図版96	M21	III		扁平打製石器	砂岩	5.8	11.9	3.2	322.0		486
図IV-47	237	図版96	M20	III		扁平打製石器	砂岩	7.5	14.5	4.4	636.0		487
図IV-47	238	図版96	Q16	II		扁平打製石器	砂岩	8.9	14.1	3.47	602.0		485
図IV-47	239	図版96	P15	II		扁平打製石器	安山岩	8.5	13.3	3.7	592.0		478
図IV-47	240	図版96	N17	II		扁平打製石器	安山岩(緑色)	5.5	12.4	2.5	269.0		484
図IV-47	241	図版97	P15	IV		扁平打製石器	安山岩	6.3	12.5	2.5	242.0		477
図IV-47	242	図版97	L17	IV		扁平打製石器	安山岩	6.4	10.5	2.5	220.0		479

表IV-18 包含層出土掲載石器等一覧(6)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構/発掘区	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	実測番号
								長さ	幅	厚さ			
図IV-47	243	図版97	Q18	II		扁平打製石器	安山岩(緑色)	11.8	18.5	3.7	1200.0		480
図IV-47	244	図版97	K16	IV		扁平打製石器	安山岩(緑色)	8.5	14.5	2.6	528.0		483
図IV-47	245	図版97	K16	IV		扁平打製石器	安山岩(緑色)	7.9	16.0	3.7	686.0		481
図IV-47	246	図版97	N16	IV		扁平打製石器	安山岩(緑色)	8.4	15.0	3.2	614.0		482
図IV-48	247	図版97	P19	III		扁平打製石器	安山岩	7.1	15.4	3.2	398.0		476
図IV-48	248	図版97	M17	IV		扁平打製石器	片岩	9.3	14.8	3.1	457.0		488
図IV-48	249	図版97	Q21	II		すり石	砂岩	7.3	10.1	2.3	227.0		505
図IV-48	250	図版97	N23	II		すり石	砂岩	6.3	11.1	2.9	268.0		506
図IV-48	251	図版97	R16	IV		すり石	安山岩	7.6	12.6	3.0	341.0		504
図IV-48	252	図版97	N18	III		すり石	安山岩	13.1	15.1	9.0	2390.0		503
図IV-48	253	図版97	K17	IV		すり石	安山岩	6.0	9.7	6.7	408.0		507
図IV-48	254	図版97	L17	IV		すり石	安山岩	13.9	9.1	6.8	1240.0		502
図IV-48	255	図版97	J18	II		すり石	安山岩	10.0	9.0	7.2	910.0		501
図IV-49	256	図版98	N19	III		北海道式石冠	安山岩	5.7	10.4	4.6	328.0		497
図IV-49	257	図版98	N17	III		北海道式石冠	安山岩(緑色)	7.1	12.8	6.4	832.0		495
図IV-49	258	図版98	M16	IV		北海道式石冠	安山岩(緑色)	6.7	10.7	7.2	652.0		494
図IV-49	259	図版98	H16	IV		北海道式石冠	安山岩	10.7	14.8	7.1	1015.0		493
図IV-49	260	図版98	K20	IV		北海道式石冠	安山岩	9.5	12.7	6.1	940.0		492
図IV-49	261	図版98	K19	IV		北海道式石冠	安山岩(緑色)	6.7	8.6	5.2	328.0		496
図IV-49	262	図版98	O21	II		北海道式石冠	安山岩	8.3	10.2	5.9	652.0		491
図IV-49	263	図版98	N19	II		北海道式石冠	安山岩	8.1	10.2	4.9	602.0		490
図IV-50	264	図版98	P18	II		北海道式石冠	安山岩	8.7	11.1	6.7	906.0		489
図IV-50	265	図版98	O19	II		石冠	安山岩	6.4	6.5	6.8	304.0		498
図IV-50	266	図版98	K19	III		北海道式石冠	安山岩	7.5	12.3	6.4	872.0		499
図IV-50	267	図版98	K19	III		北海道式石冠	安山岩	6.5	14.7	6.7	972.0	頂部に*くぼみ	500
図IV-51	268	図版99	O21	II		砥石	砂岩	11.9	12.8	3.6	450.0		508
図IV-51	269	図版99	O24	III		砥石	泥岩	9.6	10.3	2.9	275.0		509
図IV-51	270	図版99	P17	II		砥石	凝灰岩	18.4	12.0	5.0	712.0		510
			P17	III									
図IV-51	271	図版99	R16	II		石皿	安山岩	22.4	11.6	9.1	3180.0		512
図IV-51	272	図版99	H15	IV		石皿	安山岩	26.2	25.6	9.8	8030.0		514
図IV-51	273	図版99	O17	III		石皿	安山岩	20.0	25.7	6.7	5330.0		513
図IV-52	274	図版100	L17	III	11	大珠	緑泥石岩	5.4	5.4	3.2	137.0		400
図IV-52	275	図版100	J21	I		石製品	泥岩	6.5	5.7	0.8	27.4		399
図IV-52	276	図版100	M17	II		三脚石器	泥岩	3.7	4.1	1.3	17.1		393
図IV-52	277	図版100	L17	IV		三脚石器	泥岩	3.9	3.9	1.5	13.7		387
図IV-52	278	図版100	P19	III		三脚石器	泥岩	3.5	4.2	1.5	12.7		395
図IV-52	279	図版100	O17	IV		三脚石器	泥岩	3.4	4.9	1.3	17.3		394
図IV-52	280	図版100	K21	III		三脚石器	泥岩	4.2	4.2	1.5	16.6		386
図IV-52	281	図版100	Q20	III		三脚石器	泥岩	4.1	5.0	1.3	19.9		397
図IV-52	282	図版100	Q20	III		三脚石器	泥岩	4.4	5.0	1.3	19.0		398
図IV-52	283	図版100	Q20	III		三脚石器	泥岩	4.5	5.1	1.5	24.4		396
図IV-52	284	図版100	H18	II		三脚石器	泥岩	5.0	4.7	1.1	15.9		383
図IV-52	285	図版100	M16	II		三脚石器	泥岩	4.4	5.2	1.3	25.5		390
図IV-53	286	図版100	J16	攪乱		三脚石器	泥岩	5.0	5.0	1.7	31.1		384
図IV-53	287	図版100	L18	III		三脚石器	泥岩	4.7	5.6	1.6	34.8		388
図IV-53	288	図版100	M16	II		三脚石器	泥岩	5.5	5.9	1.4	30.7		392
図IV-53	289	図版100	L18	IV		三脚石器	泥岩	5.3	6.0	1.7	34.4		389
図IV-53	290	図版100	J19	III		三脚石器	泥岩	5.9	6.0	1.8	25.0		385
図IV-53	291	図版100	M16	II		三脚石器	泥岩	4.0	7.0	1.7	22.1		391
図IV-53	292	図版100	M20	III		礫	泥岩	5.6	5.3	2.0	53.4	化石入り	380
図IV-53	293	図版100	P16	III		有孔礫	泥岩	4.4	4.9	3.5	96.9		381
図IV-53	294	図版100	Q21	II		有孔礫	泥岩	4.2	4.9	1.9	48.2		382
図IV-53	295	図版100	Q19	IV		石棒?	安山岩	29.3	10.1	9.8	4550.0		511

V 自然科学的分析・鑑定

1 木古内町札苅6遺跡出土黒曜石製石器の原材産地分析

有限会社 遺物材料研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的かつ定量的に推定し、古代の交流・交易および文化圏・交易圏を探るという目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行っている^{1,2,3)}。黒曜石の伝播に関する研究では、伝播距離は千数百キロメートルは（図V-1）一般的で、文系考古学（様式学）では更に広い範囲の様式伝搬が推測されてきた。様式伝搬に石材が伴ったかは、理系考古学（自然科学）の結果を取り入れ、真の考古学研究で先史を明らかにする必要がある。6千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられると思われる。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、先史・古代人が各産地の何処の地点で原石を採取したかが不明であるために、一か所の産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として、理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行う、ホテリングのT2乗検定がある。

ホテリングのT2乗検定法の同定と、クラスター判定法（同定ではなく分類）・元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較する。クラスター判定法は判定基準が曖昧である。クラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、A原石製の遺物とA・B・C産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はA原石とクラスターを作るが、A原石を抜いてD・E産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がE産地とクラスターを作った場合A産地が調査されていないと遺物はE原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。A原石製遺物と分かっているならば、E原石とクラスターを作らないように作為的にクラスターを操作できる。元素散布図法は肉眼で原石群元素散布の中に遺物の結果が入るか図示した方法で、原石の含有元素の違いを絶対定量値を求めて地球科学的に議論するには地質学では最も適した方法であるが、産地分析から見るとクラスター法よりさらに後退した方法で、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現されているのか不明で、分析する原石の数で原石数の少ないときにはA産地とB産地が区別できていたのに、原石数を増やすとA産地・B産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険

性がある) 判定結果に疑問が残る。産地分析としては、地質学の常識的な知識(高校生) さえあればよく、火山学・堆積学など専門知識は必要なく、分析では非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定を行うかである。クラスター法・元素散布図法の欠点を解決するために考え出された方法が、理論的に証明された判定法でホテリングのT2乗検定法である。仮に調査した329個の原石・遺物群について散布図を書くと、各群40個の元素分析結果を元素散布図にプロットすると329群×40個=13,160点の元素散布図になり、これが8元素比では28個の2元素比の散布図となり、この図の中に遺物の分析点をプロットして産地を推測することは想像できても実用的でない。もし散布図で判定するなら、あらかじめ遺物の原石産地を決めて、予想した産地のみで散布図を書き産地を決定する。これでは一致する産地のみを探すのみで、科学的分析のあらゆる可能性を否定することが科学分析であると言うことに反し、科学的産地分析と言えない。ある産地の原石組成と遺物組成が一致すればその産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態・文様、見えない様式として土器・青銅器・ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、産地分析の結果の信頼性は何か所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。

黒曜石・安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値・分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある遺物原材がA産地に10%の確率で必要条件がみたされたとき、この意味はA産地で10個原石を採取すると1個が遺物と同じ成分だと言うことで、現実により得ることであり、遺物はA産地原石と判定する。しかし他の産地について、B産地では0.01%で一万個中に一個の組成の原石に相当し、遺跡人が1万個遺跡に持ち込んだとは考えにくい。従って、B産地ではないと言う十分条件を満足する。またC産地では百万個中に一個、D産地では…一個と各産地毎に十分条件を満足させ、客観的な検定結果から必要条件と十分条件を満たしたA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は北海道木古内町に位置する札苅6遺跡から出土した黒曜石製遺物であり、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、

それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比の値を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は、北海道・東北・北陸・東関東・中信高原・伊豆箱根・伊豆七島の神津島・山陰・九州の各地に分布している。調査を終えている原産地の一部を図V-2に示す。元素組成によってこれら原石を分類し、表V-1に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると、320個の原石群・遺物群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は北海道紋別郡遠軽町白滝に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢・八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った（旧白滝第2群）、また八号沢の黒曜石原石と白土沢・十勝石川沢の転礫は梨肌の黒曜石で、元素組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢からの転礫の中で70%は幌加沢群になり、あじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石であり、その元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。また同町中里地区の露頭の小原石（最大約3cm）は、置戸山群、常呂川の転礫で作った常呂川第5群に一致し、同町安住地区の小原石の中には常呂川第3群に一致する原石がみられた。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石は、ケショマップ第1・第2およびチマキナウシ林道から採取される黒曜石原石から新たにケショマップ第0群（旧ケショマップ第3群に似る）に分類される。また白滝地域、ケショマップ・置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の元素組成分類結果を表V-2に示した。また、中ノ島・北見大橋間の常呂川から採取した658個の円礫の中には独特の元素組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表V-1と表V-3に示した。また、湧別川の上流地域の遠軽町社名淵地域のサナブチ川流域からも独特の元素組成の原石が見られ、表V-1と表V-4に示した。表V-5に示す金華地区から採取した20個の黒曜石円礫は、社名淵群・赤石山群などの他に何処の産地にも一致しない黒曜石があり、金華群を作った。表V-6の生田原川支流支線川から採取した19の黒曜石円礫では、社名淵群・白滝地区産黒曜石および金華群などが見られた。また同支流の大黒沢採取の5個は社名淵群の黒曜石で、表V-7に示す。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股露頭があり、また露頭前の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十勝三股を起点に周辺の河川から転礫として採取され、十三ノ沢・タウシュベツ川・音更川・芽登川・美里別川・サンケオルベ川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の元素組成は、十勝三股産の原石の元素組成と相互に近似している。これら元素組成の近似した原石の原産地は相互に区別できず、もし遺物石材の産地分析でこの遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股を起点にした周辺の河川の複数の採取地点を考えなければならない。しかしこの複数の産地をまとめて十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。釧路・上阿寒地域の礫層から最大3.5cmの大きさの円礫状黒曜石原石が産出し、成分組成は十勝三股産と一致した。また清水町・新得町・鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2つの美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄地域では、朝日川・金沢川・上名寄地区・忠烈布地区・智恵文川・智南地区から円礫状の黒曜石が採取できる。これら名寄地域産出の黒曜石を元素組成で分類すると、名寄第1群と名寄第2群

に分類でき、それぞれ87%と13%の率になる。旭川市の近文台・台場・嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第1群、69%が近文台第2群、11%が近文台第3群にそれぞれ分類され、それから台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒・灰色系円礫も見られ、台場第1・2群を作った。また滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、元素組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第2・3群に元素組成が一致する。滝川群に一致する元素組成の原石は、北竜町恵岱別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から、小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫の状態は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第1群は滝川第1群に元素組成が一致し、第2群も滝川第2群に一致し、さらに近文台第2群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここから採取される原石の中で、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえないもので赤井川第1群を作り、また球果の非常に少ない握り拳半分大の良質なもので赤井川第2群を作った。これら第1・2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、元素組成によって豊泉第1・2群の両群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。北見市教育委員会太田敏量氏による最近の原石産地調査で、上足寄地域から上足寄群、津別町相生から相生群、釧路市埋蔵文化財センターの石川朗氏による釧路空港・上阿寒地域からピッチストーン様の黒曜石が調査され、相互に似た組成を示し、それぞれ相生群・釧路空港群を作った。また雄武地域の音稲府川から名寄第2群に組成の似た音稲府群、鶴居村久著呂川から久著呂川群群を作り原石群に新たに登録した。出来島群は青森県つがる市木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た元素組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また青森市の鶴ヶ坂およびつがる市森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群を作り、また八森山産出の原石で八森山群を作った。これら深浦町の両群と相互に似た群は、青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第2群である。戸門第1群・成田群・青森市浪岡県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第1・2群と弁別は可能であるが、原石の元素組成は比較的似ている。戸門・大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさのものがみられるが、鷹森山群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で、中には5 cm大のものもみられる。また考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計329個の原石群・遺物群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器・石片は、風化に対して安定で表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。縄文時代の黒曜石製遺物は、表面から約3ミクロン程度の厚さで風化層ができていて、分析はこの風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要であり、蛍光X線分析法の中の電子線励起方式のEPMA分析は表面の分析面積1～数百ミクロン分析されているが、深さ約1ミクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になるために、黒曜石遺物は破壊して新鮮面を出して分析する必要がある。従って、非破壊分析された黒曜石製遺物のEPMA測定された産地分析結果は全く信用できない。

X線励起 (50KeV) でマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面からカリウム元素など軽元素で数ミクロンから10ミクロン、鉄元素で約300ミクロン、ジルコニウムで約800ミクロンの深さまで分析され、鉄元素より重い元素では風化層の影響は相当無視できると思われる。風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。また被熱黒曜石の風化層は厚く、表面ひび割れ層に汚染物が入り込んでいるときも分析値に大きく影響する。風化層が厚い場合、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられ、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行う。軽元素比を除いた場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、安山岩製石器・石片は、黒曜石製遺物に比べて風化の進行が早く、非破壊で原石産地が特定される確率は黒曜石製遺物に比べて相当低くなる。サヌカイト製は風化の進行が早く、完全非破壊分析での産地分析ができる確率は黒曜石に比べて相当低くなる。サヌカイト製遺物の表面が白っぽく変色した部分は、新鮮な部分と異なった元素組成になっていると考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行っている。

今回分析した札苅6遺跡出土の黒曜石製遺物の分析はセイコーインスツルメンツ社のSEA2110Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計で行い、分析結果を表V-8に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには、数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表V-8の試料番号118021番の遺物ではRb/Zrの値は1.049であり、十勝三股群に比較すると、十勝三股群の[平均値] ± [標準偏差値] は、 1.097 ± 0.055 である。遺物と原石群の差を十勝三股群の標準偏差値 (σ) を基準にして考えると、遺物は原石群の平均値から 0.87σ 離れている。ところで十勝三股群原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.87\sigma$ のずれより大きいものが38個ある。すなわちこの遺物が十勝三股群の原石から作られていたと仮定しても、 0.87σ 以上離れる確率は38%であると言える。だから、十勝三股群の平均値から 0.87σ しか離れていないときには、この遺物が十勝三股群の原石から作られたものでないとは到底言い切れない。次にこの遺物を所山群に比較すると、所山群の[平均値] ± [標準偏差値] は 0.823 ± 0.023 であるので、上記と同様に所山群の標準偏差値 (σ) を基準にして考えると、この遺物の所山群の平均値からの隔たりは 9.8σ である。これを確率の言葉で表現すると、所山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 9.8σ 以上離れている確率は十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取してこの遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は所山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は十勝三股群に38%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから十勝三股産原石が使用されていると同定され、さらに所山群に一千万分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから、所山群の原石でないと同定される」。遺物が一か所の産地 (十勝三股産地) と一致したからと言って、例え十勝三股群と所山群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形 (非破壊分析) であることから、他の産地に一致しないとは言えない。また同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地 (十勝三股産地) に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表V-1の329個すべての原石群・遺物群について行い十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石

は使用していないとして可能性を消していくことにより、はじめて十勝三股産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので、変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したときCa量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが、相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4,5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製のものについては329個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち十勝三股産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア・北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表V-9に記入した。ここで大切なことは、遺物材料研究所で行った結果で十勝三股群と判定された遺物を使って先史時代の交流を考察するときには、表V-9に記入された十勝三股群以外の表V-1の329個の原石産地と交流がなかったとすることを証明している点である。北海道の先史人は北海道と東北範囲のみでしか交流がなかったと仮定して、遺物と比較する産地を北海道・東北の主な産地だけで十分であると考えて遺物の原材産地を求め、十勝三股産原石が使用されているとの結果は、先史時代の交易を一部の範囲に限定することになる(広い地域の範囲の黒曜石と比較していないから、広い範囲との交流は言えない、即ち日本の限定的地域にのみ有効で、東アジア・極東ロシア地域では通用しない結果である)。考古学者の主観的な石器の様式分類が北海道・東北地域に限定されていたとしても、分析された石器がもつ自然科学的結果が何処までの範囲に通用するかが、考古学の交易を考える上に非常に重要で、自分の主観的考察が満足されれば良いとの狭い見では真の考古学的研究とは言えない。他の広い交易範囲を考えている考古学者にも通用する産地分析結果が必要である。論外は、個人知識による肉眼観察を含め、十勝三股産原石が使用されているとの判定を、比較をしていないロシア産黒曜石・ロシア遺跡で使用されている遺物の肉眼観察とか組成(遺物群)ではないと評価することで、ないと評価するには実際に比較し確認するしかない。また産地分析の結果を評価するときに、比較する原石群は新鮮面であり、また遺物群は風化面を測定し作った群が表V-1に示している。風化の程度の差はあるものの風化していない遺物はなく、遺物を分析して原石産地が同定されない場合は、1:風化の影響で分析値が変動し、新鮮面と分析値が大きくことなったとき。2:遺物の厚さが薄く、厚さの影響が分析値に現れたとき。3:未発見の原石産地の原石が使用されているときなど。風化の影響を受けている遺物は黒曜石は光沢なく表面が曇っていて、分析するとカリウムの分析値が大きく分析される。風化の影響が少ないときは軽元素比を抜くことにより同定が行える。風化が激しく、軽元素以外の他の元素まで風化の影響がおよぶと遺物の産地は同定できなくなったり、また新鮮面分析と異なった原石産地に同定されることがあり注意が必要である。原石群を作った原石試料は直径3cm以上で5mm以上の厚さであるが、細石刃などの小さな遺物試料の分析では、遺物の厚さが1.5mm以下の薄い部分を含んで分析すると、厚さの影響を受けて重い元素は小さく測定され、分析値には大きな誤差範囲が含まれるために、分析値に実験で求めた厚さ補正値を乗じて同定を行わなければならない。分析平均厚さが0.3mm以下になると補正が困難になり同定できない。細石

刃は厚さが薄く、縄文時代の遺物より風化の進んだ遺物もあり、厚さ補正と軽元素を抜いて同定を行っている。

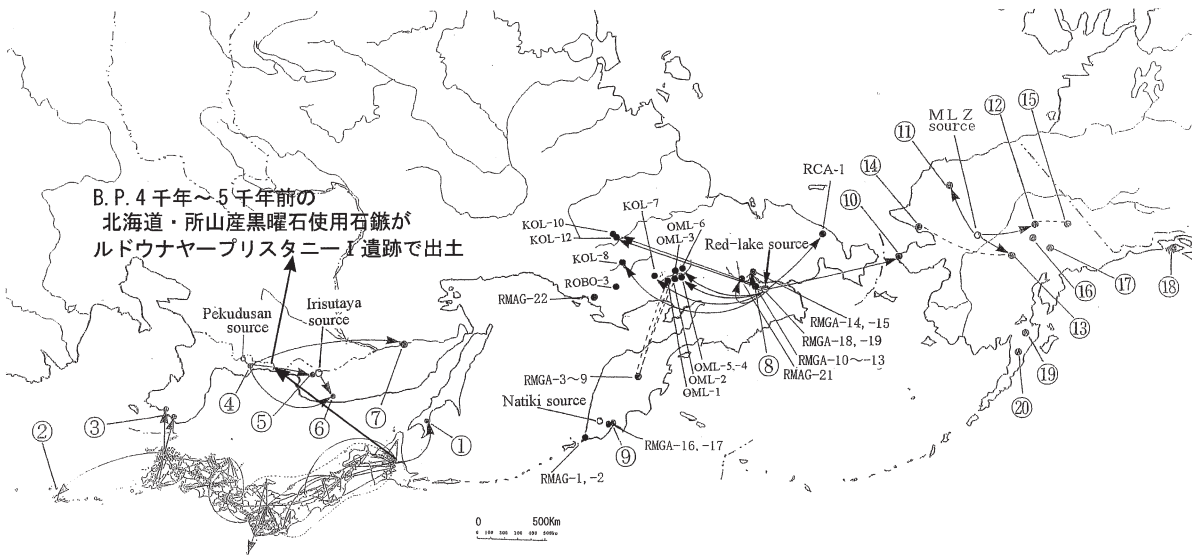
蛍光X線分析では、分析試料の風化による化学的変化（カリウムが大きく観測される）、表面が削られる物理的変化、不定形の試料では薄い部分を完全に避けて分析できないとき、分析面が遺物の極端な曲面しか分析できない場合など、分析値に影響が残り、また装置による分析誤差も加わり、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原産地に同定される時、および信頼限界の0.1%の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて3～12回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。風化・厚さ・不定形など比較原石群分析とは異なる誤差が遺物の分析値に含まれるために、産地分析では一致する産地（必要条件）の結果だけでは信頼性が小さく、他の産地には一致しない（十分条件）ことを満足しなければならない。また判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率（5%以下）の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

ホテリングのT2乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地を判定を行ったとき、石材の成分組成以外の鉱物組成などの特徴を肉眼観察で求めた場合、キラキラ光る鉱物が多い・少ない、また輝石か雲母かなど個人的な知識・経験などの主観が加わり判定される。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝・八号沢・白土沢・幌加沢・十勝石川沢などの群の原石は、あじさい滝・幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢・白土沢・十勝石川産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か梨肌でないかを指標に加えた。また、赤井川および十勝産・上阿寒礫層産原石を使用した遺物の判定は複雑になる場合がある。これは青森市戸門・鷹森山地区、浪岡大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第1・鷹森山・大釈迦の各群の元素組成が赤井川第1・2群・十勝三股群・上阿寒礫層群に比較的似ているために、遺物独特の風化の影響、不定形による影響を受けた分析値は、分析値への受け方の程度により戸門原産地と赤井川または十勝・上阿寒礫層産地、これら複数の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。十勝三股群・上阿寒礫層群・赤井川諸群・大釈迦群・戸門第1群・鷹森山群に同定された遺物を定量的に弁別する目的で元素比の組み合わせを探し、新たにK/Si、Fe/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Sr/Rb、Y/Rb、Ti/Fe、Si/Feの組み合わせによるホテリングのT2乗検定を行う。また、従来の元素比の組み合わせで同定されなかった原石・遺物群は十分条件となる。従って、判定の必要条件と十分条件は新元素比と従来元素比の両ホテリングのT2乗検定結果の組み合わせで判定する。また戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群（50%）と第2群（50%）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。多数分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないときは、戸門産地からの原石は使用されなかったと推定できる。また青森市浪岡大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。新たな元素比の組み合わせでも、十勝三股群と上阿寒礫層群は区別ができず、上阿寒礫層群の原石は最大3.5cm以下のローリング痕のない円礫で、遺物の大きさが3.5cm以上の場合、十勝産と特定できる。また石器作成にロスする原石の長さを考えると、かなり小さな石器でも上阿寒礫層群の原石は使用できない可能性があるなど、元素分析以外の情報をも取り入れて原石産地を絞り込んでいる。分析した札苧6遺跡出土十勝原石使用石鏃は大きさが2.1cmでロスを考慮すると加工前は3.5cm以上あったと推定され、またつまみ付きナイフは6.5cmで上阿寒礫層産地から採取されていないと推定した。使用

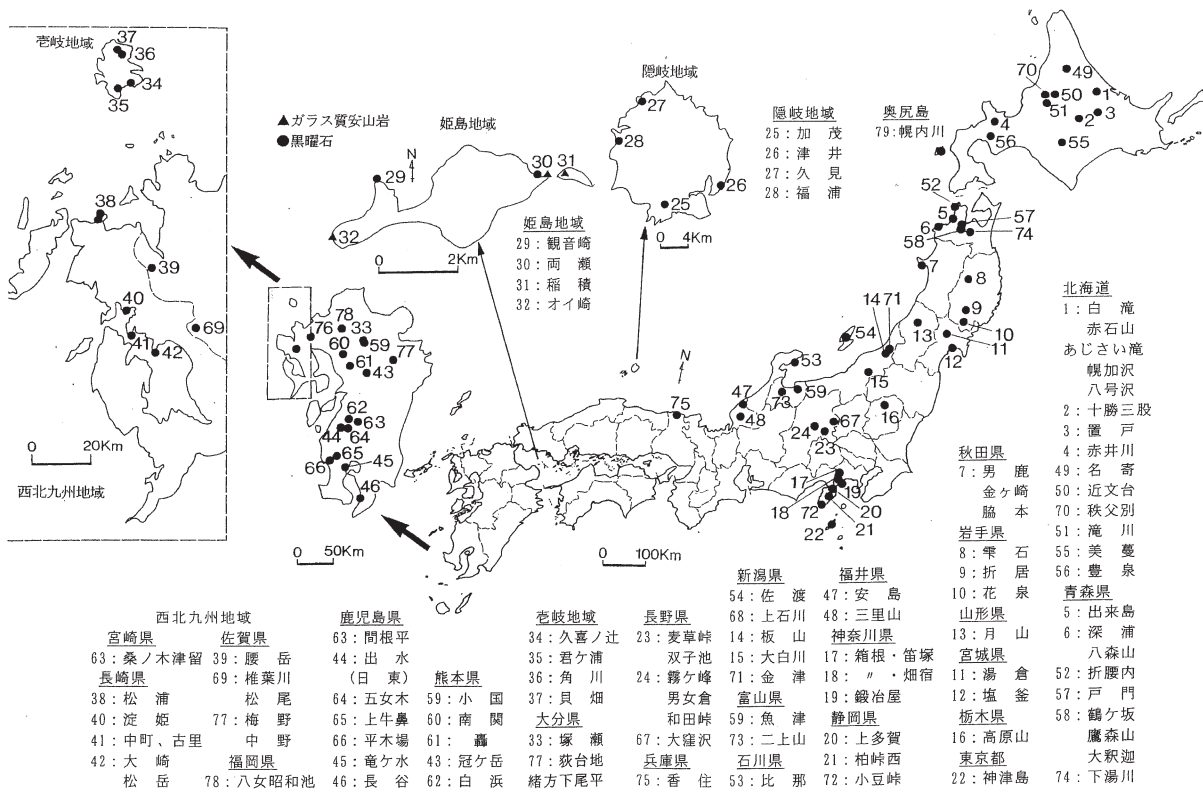
されている十勝産黒曜石は、赤井川産原石および青森市三内丸山遺跡で使用されている戸門第1群・鷹森山・大釈迦産黒曜石など青森市産黒曜石原石と従来元素比による定量的判定で区別された。今回の使用した産地分析方法から言えることは、所山産地・十勝産地との交流が推測され、産地地域との生活・文化情報の交換があったと推測され、日本についてはほぼ全土、外国については表V-1で調査された原石産地と外国遺跡で使用されている黒曜石原材料の範囲内に限定されるが、石器様式が日本に伝搬したと推測されている東アジア・極東ロシアからの伝搬が石器原材料をともなっていなかったことも証明されたと推測しても、産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)。考古学と自然科学, 8 : 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10, 11 : 53-81 : 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材料の産地分析。考古学と自然科学, 16 : 59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9 : 77-90
- 5) 東村武信(1990), 考古学と物理化学。学生社



図V-1 日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラスカ州における表V-1使用の石器原材伝播図



図V-2 黒曜石原産地

表V-1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

Table with columns for '原産地原石群名', '分析個数', and '元素比' (Ca/K, Ti/K, Mn/Zr, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Nb/Zr, Al/K, Si/K). It lists various obsidian sources from Hokkaido, Aomori, Iwate, Ibaraki, Tochigi, Gunma, and Saitama.

表V-1-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名		分析 個数	元素比									
			Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
長野県	男女舎	101	0.223±0.024	0.103±0.009	0.058±0.008	1.164±0.078	0.693±0.101	0.409±0.046	0.126±0.022	0.052±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
	高松沢	53	0.206±0.017	0.090±0.005	0.064±0.008	1.257±0.069	0.850±0.077	0.357±0.034	0.149±0.026	0.056±0.017	0.022±0.002	0.318±0.008
	うっさ沢	81	0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.140±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.340±0.009
	立科	49	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.320±0.077	1.033±0.063	0.362±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011
	妻草峠	97	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013
	双子池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.012	0.027±0.007	0.401±0.011
	冷山	87	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011
	大窪沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012
新潟県	横川	41	3.047±0.066	1.071±0.026	0.115±0.015	7.380±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021
	佐渡第1群	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.012	0.024±0.004	0.338±0.013
	佐渡第2群	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
	上石川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
	板山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
石川県	大臼川	47	0.569±0.006	0.142±0.005	0.033±0.001	1.608±0.034	0.261±0.009	0.332±0.009	0.150±0.008	0.033±0.009	0.036±0.001	0.491±0.014
	金津	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
	羽根川	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.026±0.007	0.340±0.030
福井県	比那	48	0.370±0.009	0.087±0.005	0.060±0.003	2.699±0.088	0.639±0.021	0.534±0.026	0.172±0.011	0.052±0.025	0.032±0.002	0.396±0.016
	安島	42	0.407±0.006	0.123±0.006	0.038±0.002	1.628±0.048	0.643±0.026	0.675±0.023	0.113±0.008	0.061±0.022	0.032±0.001	0.450±0.010
兵庫県	三里山	37	0.295±0.020	0.127±0.008	0.035±0.003	1.411±0.095	0.597±0.021	0.740±0.053	0.114±0.010	0.027±0.012	0.022±0.001	0.324±0.007
	香住第1群	30	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008
	香住第2群	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.012
兵庫県	雨滝(微粒集)	48	0.123±0.004	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006
	雨滝	48	0.287±0.014	0.163±0.007	0.033±0.002	1.292±0.039	0.321±0.028	0.401±0.039	0.075±0.005	0.099±0.006	0.030±0.001	0.223±0.006
鳥取県	加茂	40	0.166±0.002	0.093±0.009	0.014±0.001	0.899±0.019	0.278±0.013	0.009±0.005	0.061±0.005	0.154±0.019	0.020±0.001	0.249±0.016
	津井	40	0.161±0.002	0.132±0.003	0.015±0.001	0.940±0.015	0.301±0.009	0.015±0.005	0.060±0.002	0.144±0.005	0.020±0.001	0.244±0.004
島根県	久見	41	0.145±0.001	0.061±0.003	0.021±0.001	0.980±0.033	0.386±0.015	0.007±0.007	0.109±0.004	0.238±0.008	0.023±0.001	0.315±0.005
	麻畑6松脂岩	48	0.287±0.014	0.163±0.007	0.033±0.002	1.292±0.039	0.321±0.028	0.401±0.039	0.075±0.005	0.099±0.006	0.030±0.001	0.223±0.006
岡山県	津	48	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
	奥池第1群	51	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.666±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011
	奥池第2群	50	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.013
香川県	雄山	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.501±0.012
	神谷・南山	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014
	大麻山南第1群	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.074±0.021	0.041±0.003	0.487±0.016
福岡県	大麻山南第2群	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012
	八女昭和溜池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	7.098±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009
佐賀県	中野第1群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
	中野第2群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008
	梅野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
	藤岳	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.333±0.008
	椎葉川	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
	松尾第1群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008
大分県	松尾第2群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010
	観音崎	42	0.223±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.691±0.878	1.805±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.400±0.011
	高瀬第1群	51	0.226±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.038±0.004	0.401±0.012
	＊高瀬第2群	50	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.610±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.014
	＊高瀬第3群	46	1.038±0.131	0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.668	0.105±0.030	0.094±0.037	0.042±0.007	0.442±0.021
	＊ヤイ崎	50	1.059±0.143	0.214±0.030	0.120±0.043	3.598±1.035	0.355±0.106	4.000±1.162	0.118±0.048	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.018
	＊稲積	45	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.060	0.041±0.005	0.431±0.015
	＊ネ川	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
	坂瀬	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
	緒方下尾平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016
	久喜ノ辻	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
	君ヶ浦	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
角川	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010	
貝畑	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015	
長崎県	松浦第1群	42	0.213±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.545±0.134	1.579±0.079	0.420±0.034	0.292±0.019	0.258±0.037	0.027±0.003	0.341±0.011
	松浦第2群	42	0.190±0.012	0.032±0.006	0.068±0.011	2.371±0.323	1.582±0.199	0.315±0.069	0.276±0.055	0.210±0.056	0.026±0.003	0.336±0.010
	松浦第3群	42	0.244±0.016	0.063±0.010	0.046±0.007	1.880±0.200	0.836±0.121	0.368±0.098	0.145±0.019	0.127±0.030	0.026±0.003	0.329±0.020
	松浦第4群	41	0.288±0.014	0.070±0.006	0.042±0.003	1.833±0.086	0.717±0.179	0.451±0.040	0.111±0.010	0.123±0.022	0.027±0.003	0.341±0.012
	淀姫	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
	中町第1群	42	0.244±0.011	0.060±0.010	0.057±0.004	1.866±0.089	0.810±0.087	0.398±0.039	0.135±0.017	0.146±0.026	0.025±0.001	0.342±0.007
	中町第2群	42	0.319±0.042	0.079±								

表V-1-4 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

各地遺物群名	分析 個数	元素比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
ロシア	カムチャッカ半島	バリツ3遺物群	45	0.260±0.019	0.081±0.007	0.019±0.002	1.198±0.106	0.726±0.078	0.007±0.028	0.228±0.036	0.056±0.015	0.035±0.003	0.502±0.045
		ブリダロジュヤ12-1遺物群	48	0.129±0.004	0.045±0.002	0.012±0.001	0.899±0.071	0.740±0.056	0.008±0.006	0.290±0.021	0.028±0.016	0.023±0.001	0.342±0.007
		ホルギチャン2-3遺物群	48	0.275±0.009	0.137±0.003	0.069±0.002	1.230±0.020	0.412±0.014	0.559±0.026	0.121±0.013	0.165±0.026	0.029±0.001	0.386±0.011
		ヘタクチャン7-3遺物群	45	0.296±0.050	0.048±0.008	0.055±0.012	1.181±0.037	0.1024±0.030	0.025±0.013	0.392±0.014	0.038±0.025	0.020±0.001	0.293±0.007
		バラトウンカー1	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.008	0.041±0.004	0.482±0.022
		バラトウンカー2	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
		バラトウンカー3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.026	0.066±0.026	0.013±0.062	0.017±0.003	0.176±0.009
		バラトウンカー4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
		アパチャ	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
		ミリコガ遺物群	45	0.467±0.009	0.163±0.005	0.045±0.002	1.528±0.047	0.186±0.015	0.490±0.019	0.118±0.011	0.010±0.013	0.032±0.001	0.448±0.010
		Ushiki V 遺物群	44	0.184±0.006	0.074±0.003	0.075±0.004	1.406±0.079	0.756±0.038	0.435±0.045	0.151±0.027	0.281±0.019	0.022±0.001	0.328±0.003
		Ushiki 遺物群	50	0.537±0.015	0.186±0.011	0.061±0.004	1.384±0.082	0.253±0.023	1.423±0.086	0.080±0.018	0.020±0.023	0.030±0.001	0.397±0.012
Ushiki II 遺物群	50	0.281±0.005	0.141±0.003	0.066±0.002	1.250±0.028	0.377±0.017	0.568±0.022	0.114±0.015	0.151±0.032	0.028±0.001	0.386±0.004		
アラスカ	GLUL09 遺物群	40	0.167±0.017	0.074±0.003	0.035±0.002	1.498±0.030	0.975±0.037	0.215±0.023	0.220±0.018	0.139±0.038	0.023±0.001	0.327±0.005	
	XMK02 遺物群	40	2.897±0.065	1.695±0.046	0.078±0.001	4.555±0.074	0.100±0.007	0.831±0.018	0.103±0.006	0.043±0.018	0.047±0.001	0.508±0.014	
	YUK01 遺物群	40	0.155±0.005	0.041±0.002	0.026±0.002	1.530±0.035	1.022±0.027	0.007±0.010	0.253±0.017	0.146±0.043	0.022±0.001	0.311±0.010	
	YUK16 遺物群	40	0.154±0.007	0.066±0.004	0.037±0.002	1.496±0.039	1.046±0.032	0.178±0.017	0.232±0.014	0.146±0.036	0.023±0.001	0.327±0.007	
	YUK34 遺物群	40	0.172±0.003	0.085±0.003	0.032±0.002	1.495±0.041	0.830±0.028	0.312±0.022	0.177±0.017	0.098±0.043	0.022±0.001	0.327±0.004	
	UNL01 遺物群	40	0.427±0.005	0.170±0.002	0.024±0.001	1.162±0.009	0.128±0.005	0.136±0.005	0.129±0.004	0.037±0.010	0.027±0.001	0.361±0.004	
	UNIO7 遺物群	40	0.428±0.027	0.249±0.017	0.020±0.001	1.215±0.032	0.202±0.007	0.208±0.009	0.087±0.006	0.011±0.010	0.025±0.001	0.334±0.004	
	CHK02 遺物群	40	0.606±0.008	0.269±0.029	0.043±0.001	1.774±0.045	0.106±0.007	0.246±0.007	0.106±0.007	0.041±0.015	0.034±0.001	0.359±0.016	
	CRG01 遺物群	40	0.089±0.003	0.153±0.003	0.005±0.000	0.411±0.004	0.074±0.002	0.000±0.001	0.064±0.002	0.219±0.004	0.021±0.001	0.313±0.002	
	MMK03 遺物群	41	0.438±0.007	0.165±0.005	0.027±0.001	1.409±0.029	0.245±0.010	0.560±0.016	0.068±0.010	0.020±0.017	0.029±0.001	0.371±0.007	
	MMK12 遺物群	41	0.126±0.004	0.085±0.003	0.066±0.003	1.091±0.031	0.830±0.030	0.046±0.016	0.211±0.015	0.318±0.037	0.023±0.001	0.335±0.006	
	HEA10 遺物群	41	0.222±0.007	0.130±0.004	0.021±0.001	1.338±0.135	0.454±0.026	0.412±0.018	0.134±0.014	0.052±0.022	0.020±0.001	0.279±0.003	
	HEA26 遺物群	41	0.235±0.005	0.082±0.003	0.028±0.002	1.843±0.089	1.066±0.035	0.207±0.028	0.351±0.021	0.057±0.048	0.026±0.001	0.363±0.005	
	XBD61 遺物群	41	0.073±0.004	0.214±0.004	0.008±0.000	0.721±0.004	0.063±0.002	0.001±0.001	0.067±0.002	0.179±0.004	0.019±0.001	0.322±0.003	
	XBD124 遺物群	41	0.274±0.006	0.170±0.003	0.031±0.001	1.293±0.020	0.409±0.010	0.412±0.017	0.090±0.015	0.103±0.025	0.026±0.001	0.359±0.003	
	XBD131 遺物群	41	0.156±0.004	0.048±0.003	0.131±0.006	1.244±0.041	2.125±0.091	0.031±0.023	0.430±0.024	0.790±0.062	0.024±0.001	0.342±0.002	
	NOA02 遺物群	41	0.149±0.003	0.134±0.004	0.043±0.002	1.075±0.043	0.654±0.032	0.285±0.018	0.142±0.012	0.183±0.035	0.023±0.001	0.323±0.004	
	NOA07 遺物群	41	0.210±0.005	0.176±0.011	0.017±0.001	0.871±0.016	0.221±0.007	0.068±0.006	0.097±0.006	0.065±0.014	0.024±0.001	0.301±0.005	
SIT-E 遺物群	40	0.076±0.010	0.121±0.020	0.006±0.000	0.454±0.005	0.097±0.002	0.001±0.001	0.073±0.002	0.224±0.005	0.022±0.001	0.338±0.009		
SIT-Z-2 遺物群	40	0.098±0.003	0.152±0.003	0.005±0.000	0.449±0.004	0.075±0.002	0.000±0.000	0.063±0.002	0.220±0.004	0.022±0.001	0.316±0.003		
エクアドル	BAEZA 遺物群	45	0.543±0.006	0.289±0.005	0.038±0.001	1.396±0.017	0.464±0.011	1.595±0.024	0.073±0.006	0.095±0.028	0.031±0.001	0.549±0.009	
タンザニア	SEREGETTI-1 遺物群	45	0.204±0.008	0.100±0.007	0.015±0.001	1.004±0.027	0.530±0.013	0.010±0.005	0.158±0.003	1.260±0.021	0.020±0.001	0.423±0.022	
	SEREGETTI-2 遺物群	48	0.152±0.009	0.180±0.047	0.008±0.002	0.611±0.047	0.219±0.033	0.001±0.001	0.083±0.005	0.642±0.064	0.018±0.001	0.443±0.011	
	SEREGETTI-3 遺物群	45	0.210±0.017	0.315±0.053	0.030±0.001	1.468±0.029	0.119±0.002	0.006±0.002	0.085±0.002	0.638±0.006	0.015±0.002	0.395±0.058	
標準試料	JG-1 ^{a)}	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004	

M群=桑ノ木津留第1群、F群=UT遺物群、HS2群=置戸・置戸山群、FR2群=クeshoマップ第一群にそれぞれ一致 平均値±標準偏差値、*:ガラス質安山岩、NK遺物群:中ノ原遺跡、HY遺物群:日和山遺跡、SN遺物群:三内丸山遺跡出土、KN遺物群:此掛沢遺跡、HS遺物群:北進遺跡、KI遺物群:桐木遺跡、UT遺物群:内屋敷遺跡、AI遺物群:相ノ沢遺跡、FS遺物群:房ノ沢遺跡、SD遺物群:下館銅屋遺跡、FR遺物群:東麓第1、2遺跡、FH遺物群:東9線8遺跡、KT遺物群:北区1遺跡、KS遺物群:キウス4遺跡A-R地区、SG遺物群:志風頭遺跡、OK遺物群:奥名野遺跡、TB遺物群:戸平川遺跡、NM遺物群:長柄遺跡、MK遺物群:南方遺跡、YM遺物群:南方、藤尾、岩上遺跡、AC1、2、3遺物群:アチャ平遺跡、NI1、2遺物群:岩野原遺跡、K19遺物群:K39遺跡、KK1、2遺物群:計志加里遺跡、HBI、2(フリント様):八久保第2遺跡、HR遺物群:堀量遺跡、HM遺物群:春ノ山遺跡、KU4(硬質頁岩様):久木野遺跡、ONI、2:大原野遺跡、NI29:穂香遺跡、UH63・UH66:上ノ原遺跡、UN51遺物群:雲南遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。ウラジオストック付近:イリスタヤ遺跡、南カムチャッカ:バラトウンカー、ナチキ、アパチャ遺跡、中部カムチャッカ:Ushiki I、II、V遺跡、コムソリスターナムール:フーミ遺物群、MTR21遺物群:耳取遺跡、FUT3遺物群:八千代村封地遺跡、NTO-6遺物群:仁田尾遺跡、SW4遺物群:沢ノ黒遺跡、原田36遺物群:原田遺跡、NTRS1、2、32、遺物群:西多羅追遺跡、矢野54風化群:矢野遺跡、TJD-A、37遺物群:天神段遺跡、SITNMH2-B遺物群:下市築地ノ釜東通2遺跡。

a):Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

表V-2 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群、幌加沢	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケショマップ第2群	5個	2%	
KS3遺物群	1個	0.04%	

注：8号沢、白土沢、あじさい滝、幌加沢の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表V-3 常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
所山群	321個	49%	常呂川第4群に似る
置戸山群	75個	11%	常呂川第2群、常呂川第5群、HS2遺物群に似る
ケショマップ第1群	65個	10%	FR1、FR2遺物群に似る
ケショマップ第2群	96個	9%	同時にケショマップ第0群に0.5～0.001%に同定、FR1、FR2遺物群に似る
八号沢群	1個	0.2%	割れ面梨肌
常呂川第2群	14個	2%	置戸山群、高原山群、HS2遺物群に似る
常呂川第3群	3個	0.5%	
常呂川第4群	70個	11%	KS1遺物群、所山群に似る
常呂川第5群	10個	2%	置戸山群、HS2遺物群に似る
常呂川第6群	1個	0.2%	FH1遺物群に似る
常呂川第7群	2個	0.3%	FR2遺物群に似る
常呂川第8群	1個	0.2%	名寄第2群に似る
十勝	1個	0.2%	戸門第1群、鷹森山群、大釈迦群に似る
台場第2群	1個	0.2%	美蔓第1群に似る

注：常呂川第2群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

表V-4 サナブチ川から採取した80個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名渕群	69個	86%	
赤石山群	5個	6.3%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	3個	3.8%	割れ面が梨肌の黒曜石
常呂川第5群	1個	1.3%	
ケショマップ第2群	1個	1.3%	
社名渕第2群	1個	1.3%	

表V-5 金華地区から採取した20個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名渕群	13個	65%	サナブチ川の社名渕群に一致
金華群	3個	15%	十勝三股に似るが一致せず
赤石山群	2個	10%	白滝産地赤石山群に一致
置戸山群	1個	5%	常呂川第2群、常呂川第5群、HS2遺物群に似る
常呂川第5群	1個	5%	

表V-6 生田原川支流支線川から採取した19個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名渕群	8個	42%	サナブチ川の社名渕群に一致
赤石山群	6個	32%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	2個	10.5%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群、幌加沢	2個	10.5%	割れ面が梨肌でないもの
金華群	1個	5.3%	十勝三股に似るが一致せず

表V-7 生田原川支流大黒沢川から採取した5個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備 考
社名渕群	5個	100%	サナブチ川の社名渕群に一致

表V-8 木古内町札苅6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析 番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
118016	0.21	0.053	0.082	2.19	0.992	0.45	0.236	0.065	0.019	0.261
118017	0.324	0.132	0.044	1.87	0.815	0.468	0.194	0.066	0.028	0.371
118018	0.258	0.078	0.086	2.247	0.98	0.456	0.253	0.022	0.024	0.357
118019	0.259	0.08	0.085	2.251	1.005	0.415	0.249	0.031	0.024	0.346
118020	0.217	0.053	0.085	2.19	1.02	0.447	0.262	0.033	0.021	0.281
118021	0.256	0.072	0.068	2.275	1.049	0.432	0.33	0.07	0.027	0.376
118022	0.265	0.093	0.081	2.254	0.936	0.427	0.261	0.026	0.019	0.29
118023	0.254	0.075	0.085	2.143	0.93	0.42	0.242	0.08	0.026	0.354
118024	0.257	0.087	0.065	2.239	1.091	0.426	0.333	0.043	0.024	0.339
118025	0.258	0.08	0.082	2.306	1.014	0.432	0.251	0.034	0.023	0.339
JG-1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG-1：標準試料—Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

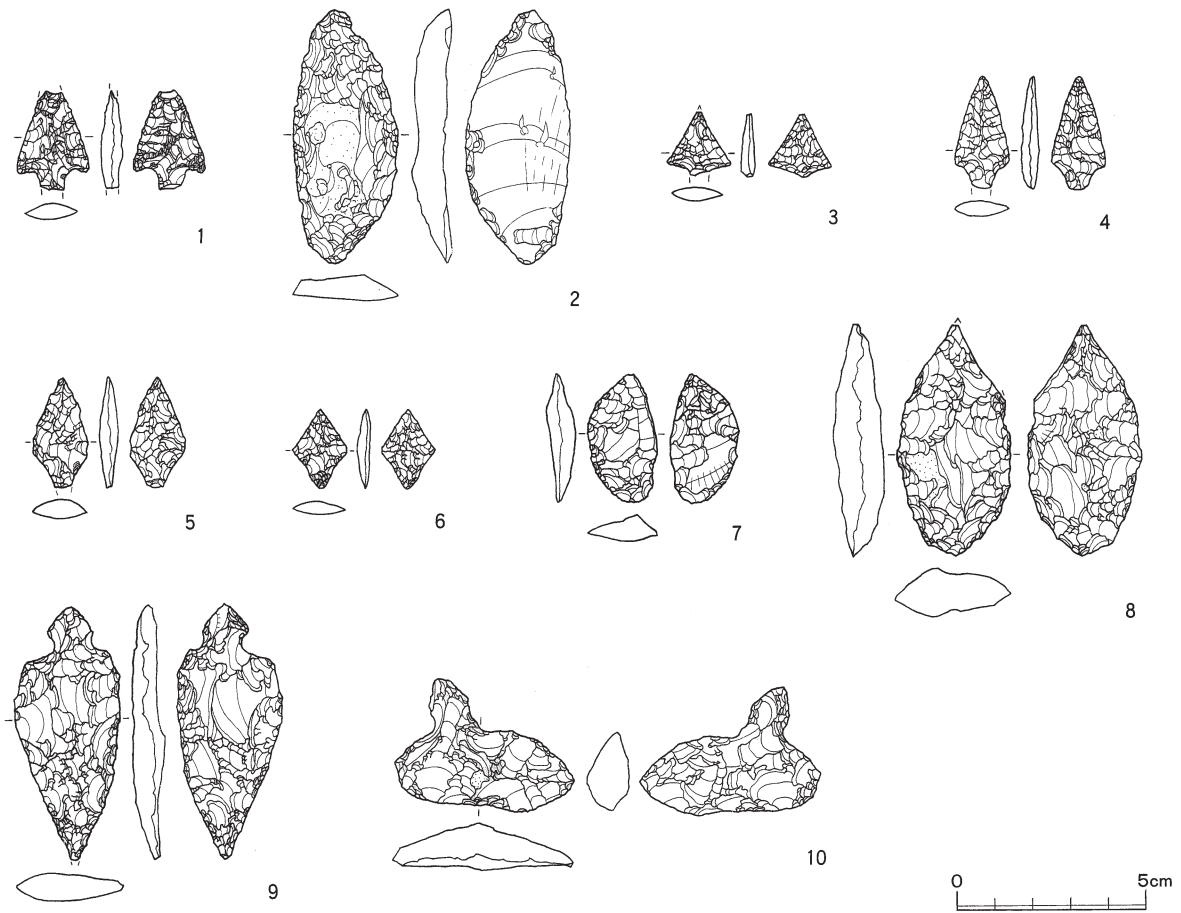
表V-9 木古内町札苅6遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果

番号	遺構/ 発掘区	層位	分類	分析番号	ホテリングのT ² 検定結果	新元素比による ホテリングT ² 検定	判定	備考
サツ6-1	H-2	覆土1	石鏃	118016	【赤井川第1群 (53%), 札幌K19遺物群 (44%), 赤井川第2群 (18%)】		赤井川	
サツ6-2	遺物集中5	IV	つまみ付きナイフ	118017	所山 (63%), 常呂川第4群 (2%)		所山	
サツ6-3	L16	V	石鏃	118018	赤井川第2群 (81%), 赤井川第1群 (25%)		赤井川	
サツ6-4	N15	III	石鏃	118019	赤井川第2群 (63%), 赤井川第1群 (9%)		赤井川	
サツ6-5	O20	III	石鏃	118020	【札幌K19遺物群 (94%), 赤井川第1群 (60%), 赤井川第2群 (48%)】		赤井川	
サツ6-6	Q17	III	石鏃	118021	十勝三股 (99%), 上阿寒礫層 (96%), 芽登川第1群 (82%)	十勝三股 (47%), 上阿寒礫層 (16%), 芽登川第1群 (6%)	十勝	
サツ6-7	L17	III	両面調整石器	118022	【赤井川第1群 (99%), 赤井川第2群 (48%), 札幌K19遺物群 (11%)】		赤井川	
サツ6-8	K19	II	石槍	118023	赤井川第1群 (93%), 赤井川第2群 (62%)		赤井川	
サツ6-9	K19	IV	つまみ付きナイフ	118024	十勝三股 (48%), 上阿寒礫層 (3%), 芽登川第1群 (0.6%), 戸門第1群 (0.5%)	十勝三股 (80%), 上阿寒礫層 (66%), 芽登川第1群 (62%), 芽登川第2群 (2%)	十勝	
サツ6-10	O17	III	つまみ付きナイフ	118025	赤井川第2群 (56%), 赤井川第1群 (11%)		赤井川	

【 】で示された推定確率は風化層の影響を受けやすい軽元素 (Ca/K, Ti/K) の軽元素比を抜いて判定を行った結果で、329個の原石・遺物群の中で0.1%以上の確率で判定された原石産地を記した。

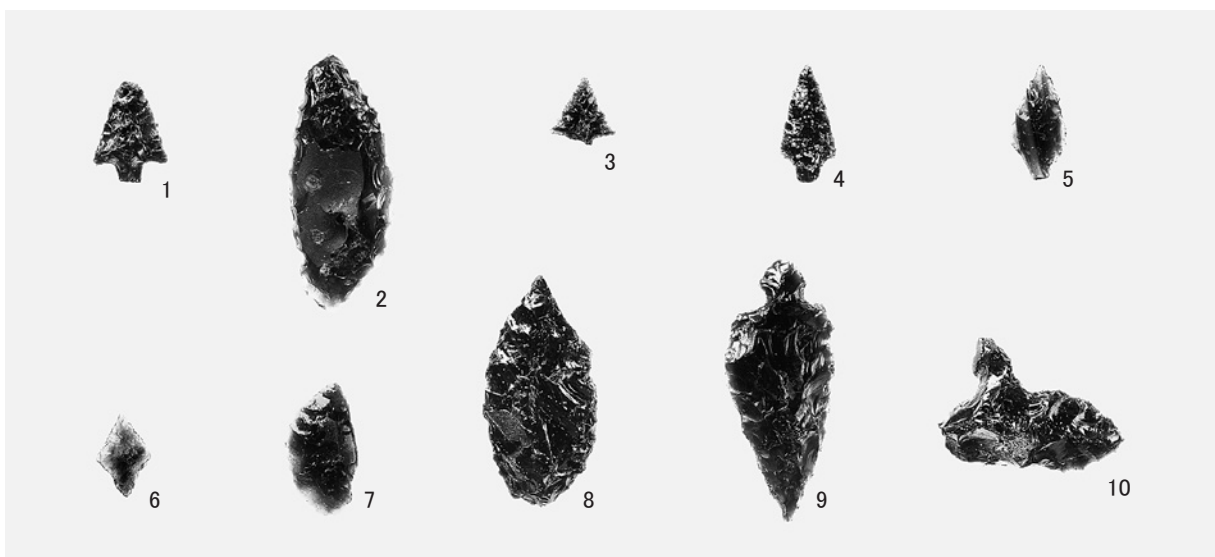
十勝三股・上阿寒礫層産原石と青森県産原石との区別：K/Si, Fe/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Sr/Rb, Y/Rb, Ti/Fe, Si/Feの新元素比による十勝三股・上阿寒礫層・鷹森山・大釈迦・戸門第1群のみでホテリングのT²乗検定を行う。この検定で分析でされた遺物は十勝産原石と上阿寒礫層産原石に一致し必要条件を満たし、十分条件として青森県産原石で無いことを証明した。表V-1に掲載している青森県産原石群を除く他の原石群に一致しないという十分条件は従来元素比によるホテリングのT²乗検定で証明されているため、両ホテリングのT²乗検定結果の組み合わせで総合的に判断し十勝産または上阿寒礫層産原石が使用されていると判定した。上阿寒礫層産は円礫で最大約3.5cmである。遺物が3.5cm以上であれば十勝産と言えるため、全て十勝産原石使用石器と判定した。

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。



図V-3 黒曜石製石器原材産地分析試料

図版V-1



黒曜石製石器原材産地分析試料

2 木古内町札苅6遺跡における炭化種実同定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

本報告では、札苅6遺跡で検出された炭化物（種子）を同定し、当時の植物利用ならびに周辺植生を推定する。

2. 試料

試料は、札苅6遺跡の縄文時代の焼土および覆土より採取された炭化種子であり、すべて水洗選別済み試料である。表V-10に試料の詳細を示す。

表V-10 試料一覧

試料番号	遺構／発掘区	層位
番号1	H-1 HF-1	焼土
番号2	H-3 HF-1	焼土上面
番号3	H-10 HF-1	焼土
番号4	H-11 HF-1	焼土
番号5	P-38	覆土
番号6	P-39	覆土
番号7	F-8	焼土
番号8	F-17	焼土
番号9	F-17	焼土
番号10	F-18	焼土

3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

4. 結果

(1) 分類群

草本3分類群が同定された。学名、和名および粒数を表V-11に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記し、写真に示したもののサイズを記載する。

〔草本〕

スゲ属 *Carex* 果実 カヤツリグサ科 長さ×幅：1.85mm×1.55mm

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実 長さ×幅：1.55mm×1.21mm

黒褐色で倒卵形を呈し、断面は楕円形である。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科 長さ×幅：1.31mm×1.25mm

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

不明種実

種実とは思われるが、炭化の度合いが著しく変形しているため不明である。

炭化物

炭化の度合いが著しく、変形しているため種実であるかどうか不明であるもの。

(2) 種実群集の特徴

1) 番号1 (H-1 HF-1・焼土)

炭化物1が同定された。

2) 番号2 (H-3 HF-1・焼土)

炭化物4が同定された。

3) 番号3 (H-10 HF-1・焼土)

アカザ属1が同定された。

4) 番号4 (H-11 HF-1・焼土)

炭化材微細片1が同定された。

5) 番号5 (P-38・覆土)

炭化物1が同定された。

6) 番号6 (P-39・覆土)

芽の破片1が同定された。

7) 番号7 (F-8・焼土)

炭化物1が同定された。

8) 番号8 (F-17・焼土)

不明種実1が同定された。

9) 番号9 (F-17・焼土)

スゲ属1が同定された。

10) 番号10 (F-18・焼土)

カヤツリグサ科1が同定された。

5. 考察とまとめ

札苅6遺跡で検出された焼土および覆土から選別された炭化物を同定した。その結果、スゲ属、カヤツリグサ科、アカザ属の種実が同定された。スゲ属およびカヤツリグサ科には水湿地に生育する水生植物が多い。アカザ属は人里ないし畑に生育する草本である。いずれも極少数であるため強くは示唆できないが、これらが生育する水湿地の環境あるいは比較的乾燥した集落や畑の分布が推定される。なお、栽培植物は同定されなかった。

参考文献

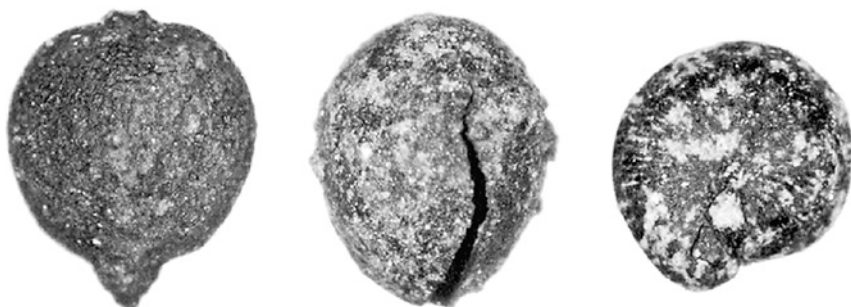
- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 494p.
 笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p. 131-139.
 南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p. 276-283.
 渡辺誠 (1975) 縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p.

表V-11 札苅6遺跡における炭化種実同定結果

分類群		番号1	番号2	番号3	番号4	番号5	番号6	番号7	番号8	番号9	番号10	
		部位	H-1HF-1	H-3HF-1	H-10HF-1	H-11HF-1	P-38	P-39	F-8	F-17	F-17	F-18
学名	和名	焼土	焼土上面	焼土	焼土	覆土	覆土	焼土	焼土	焼土	焼土	
<i>Carex</i>	スゲ属 果実										1	
Cyperaceae	カヤツリグサ科 果実											1
<i>Chenopodium</i>	アカザ属 種子			1								
Total	合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
Unknown seeds	不明種実									1		
	備考	炭化物(1)	炭化物(4)		炭化材(1)	炭化物(1)	芽(1)	炭化物(1)				

図版

札苅6遺跡の炭化種実



1 スゲ属果実 0.5mm
 2 カヤツリグサ科果実 0.5mm
 3 アカザ属種子 0.5mm

3 札苅6遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

札苅6遺跡は、北海道上磯郡木古内町字札苅577-2に所在する。測定対象試料は、H-1 HF-1 焼土出土炭化物（サツ6-1：IAAA-120420）、H-2 HF-1 焼土上面出土炭化物（サツ6-2：IAAA-120421）、H-7床面付近出土炭化物（サツ6-3：IAAA-120422）、H-10 HF-1 焼土出土炭化物（サツ6-4：IAAA-120423）、P-37覆土出土炭化物（サツ6-5：IAAA-120424）の合計5点である（表V-12）。

2 測定の意義

遺構等の年代を測定し、縄文時代の集落変遷を推定する手がかりの一つとする。

3 化学処理工程

- （1）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- （2）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表V-12に記載する。
- （3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- （4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- （5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- （6）グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- （1） $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表V-12）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- （2）¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表12に、補正していない値を参考値として表V-13に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表V-12に、補正していない値を参考値として表V-13に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表V-13に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

炭化物の ^{14}C 年代は、H-1 HF-1 焼土出土のサツ6-1 が $4290\pm 30\text{yrBP}$ 、H-2 HF-1 焼土上面出土のサツ6-2 が $3540\pm 20\text{yrBP}$ 、H-7 床面付近出土のサツ6-3 が $4440\pm 30\text{yrBP}$ 、H-10 HF-1 焼土出土のサツ6-4 が $4220\pm 30\text{yrBP}$ 、P-37覆土出土のサツ6-5 が $4480\pm 30\text{yrBP}$ である。

暦年較正年代 (1σ) は、サツ6-1 が2910~2891cal BCの範囲、サツ6-2 が1924~1782cal BCの間に3つの範囲、サツ6-3 が3309~3023cal BCの間に4つの範囲、サツ6-4 が2895~2765cal BCの間に3つの範囲、サツ6-5 が3327~3096cal BCの間に3つの範囲で示される。古い方から順に、サツ6-3、サツ6-5 が縄文時代中期前葉から中葉頃、サツ6-1 が中期中葉頃、サツ6-4 が中期中葉から後葉頃、サツ6-2 が後期前葉頃に相当する (小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表V-12 測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-120420	サツ6-1	H-1 HF-1 焼土	炭化物	AAA	-27.13 ± 0.33	$4,290\pm 30$	58.64 ± 0.19
IAAA-120421	サツ6-2	H-2 HF-1 焼土上面	炭化物	AAA	-23.46 ± 0.42	$3,540\pm 20$	64.36 ± 0.19
IAAA-120422	サツ6-3	H-7 床面付近	炭化物	AAA	-27.09 ± 0.49	$4,440\pm 30$	57.51 ± 0.18
IAAA-120423	サツ6-4	H-10 HF-1 焼土	炭化物	AAA	-28.09 ± 0.41	$4,220\pm 30$	59.11 ± 0.19
IAAA-120424	サツ6-5	P-37 覆土	炭化物	AAA	-30.41 ± 0.36	$4,480\pm 30$	57.28 ± 0.18

[#5144]

表V-13 暦年較正

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-120420	4,320 \pm 30	58.38 \pm 0.18	4,287 \pm 25	2910calBC-2891calBC (68.2%)	2923calBC-2880calBC (95.4%)
IAAA-120421	3,510 \pm 20	64.56 \pm 0.18	3,539 \pm 23	1924calBC-1877calBC (44.8%) 1842calBC-1822calBC (14.0%) 1796calBC-1782calBC (9.4%)	1946calBC-1865calBC (57.1%) 1850calBC-1773calBC (38.3%)
IAAA-120422	4,480 \pm 20	57.27 \pm 0.17	4,443 \pm 25	3309calBC-3299calBC (3.3%) 3283calBC-3276calBC (2.2%) 3265calBC-3240calBC (13.9%) 3105calBC-3023calBC (48.8%)	3330calBC-3215calBC (33.7%) 3185calBC-3157calBC (4.3%) 3126calBC-3010calBC (55.3%) 2980calBC-2960calBC (1.4%) 2951calBC-2942calBC (0.6%)
IAAA-120423	4,270 \pm 30	58.74 \pm 0.18	4,222 \pm 25	2895calBC-2868calBC (42.5%) 2804calBC-2777calBC (24.1%) 2768calBC-2765calBC (1.6%)	2902calBC-2859calBC (49.8%) 2810calBC-2753calBC (39.4%) 2721calBC-2702calBC (6.2%)
IAAA-120424	4,570 \pm 30	56.65 \pm 0.18	4,475 \pm 25	3327calBC-3219calBC (50.5%) 3175calBC-3160calBC (6.6%) 3120calBC-3096calBC (11.1%)	3338calBC-3208calBC (56.8%) 3194calBC-3148calBC (14.5%) 3141calBC-3086calBC (18.5%) 3061calBC-3029calBC (5.6%)

[参考値]

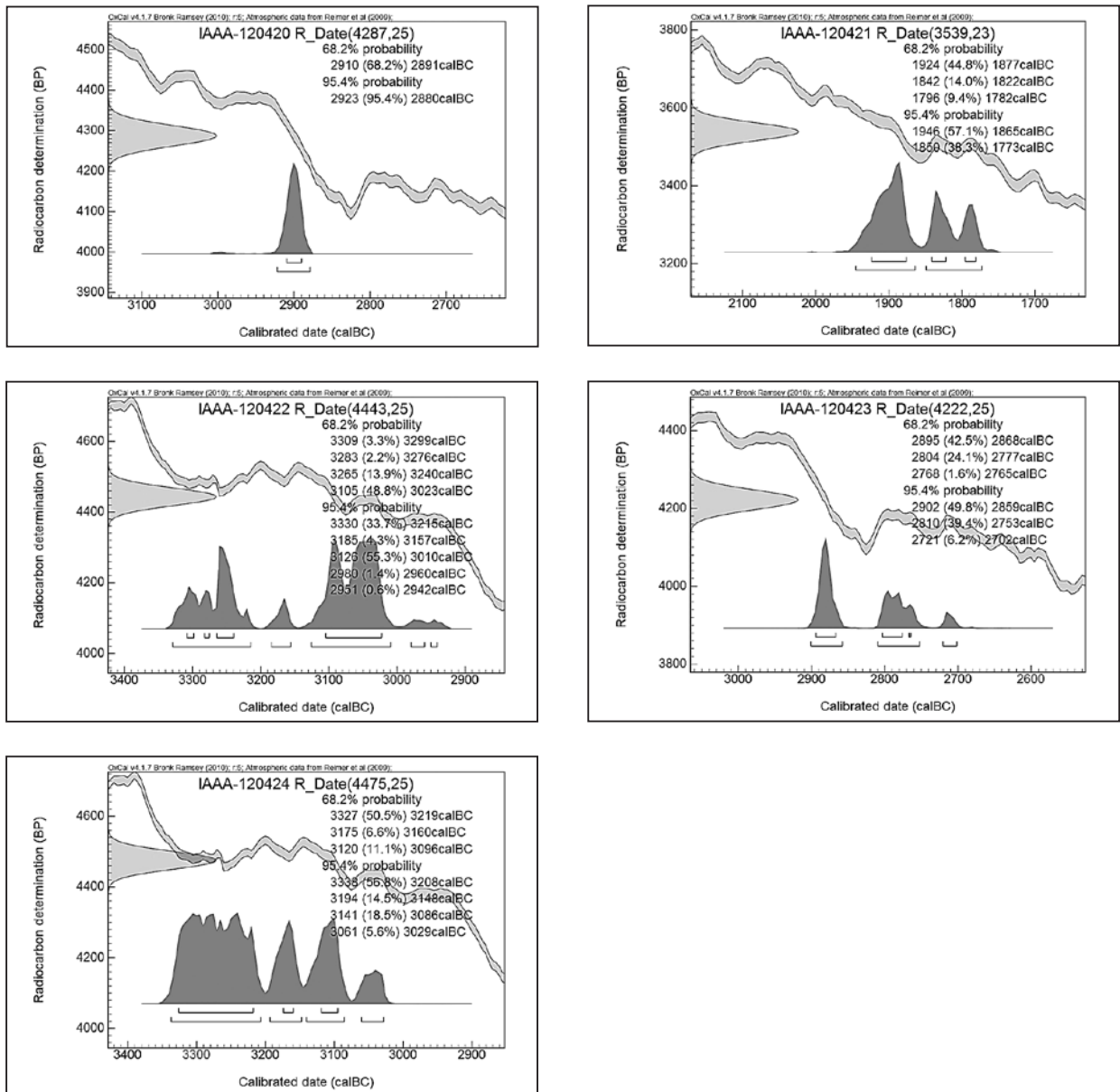
文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363



[参考]

図 V-4 暦年較正年代グラフ

VI まとめ

1. 遺構と遺跡形成過程 [図VI-1・2]

札苅6遺跡では、竪穴住居跡（竪穴状遺構含む）13軒・土坑71基ほか多数の遺構が検出され、土器・石器等約20万点の遺物が出土した。これらの調査成果に基づき時期別の遺構の内容をまとめ、遺跡形成過程をたどることとする。

[縄文時代前期後半]

P-24・41・42・50など一部の土坑がこの時期に属するものみられ、円筒土器下層b式～d式期の遺物が出土している。調査区南西部のP-24・41・42は坑底付近～覆土から該期の土器片、調査区南部のP-50は覆土上面から小型深鉢が1個体出土した。また円筒土器下層b式の埋設土器が、調査区南東部で周囲に遺構を伴わず単独で検出されている。この時期の埋設土器は、津軽海峡沿岸ではしばしば確認されるようで（北斗市館野6遺跡など）、屋外での土器利用の一端がうかがえるものである。一方包含層では、該期の土器は比較的少数ながら調査区北東部や西部に出土数の多い箇所があるものの、まとまった状況ではない。当遺跡周辺では、約300m東の札苅5遺跡で円筒土器下層d式の集落が幸連川支流沿いに検出されており、このような集落から若干離れた位置での派生的な活動が行われたと考えられる。

[縄文時代中期前半]

円筒土器上層b式期は、包含層では調査区中央西部のK・L18～20区付近などに深鉢の大型破片などが見られる。遺構はO21区のP-35が土坑墓の可能性のあるものとしたが、それ以外は不明である。

サイベ沢VII式～見晴町式期は、当遺跡の主体時期の一つである。調査区のほぼ全域に遺物が分布し、数多くの遺構が形成されている。竪穴住居跡H-1・3・5・7・11、土坑P-3・4・10・12・15・16・19・20・25～31、遺物集中1などがこの時期に当たると考えられる。竪穴住居跡と土坑群は近接している。

竪穴住居跡はIV層中からVI層中にかけて掘り込まれ、竪穴の輪郭や壁の立ち上がりは明瞭である。長軸3m前後の隅丸方形に近い形状で、地床炉をもつ。柱穴はわずかに確認できるのみである。H-5では小土坑が住居跡の周囲に確認でき、上部構造の末端の可能性のあるものの不明瞭である。覆土は、中位～下位に焼土がやや厚く堆積している（H-1にF-16、H-5にF-8、H-7にF-14・15）。竪穴の廃絶後、大きな時間差をおかず自然堆積や流入土上に形成されたと考えられる。函館市中野A遺跡（函館市教育委員会1977・道埋文1992）の「P.D.3」に類似する。また縄文時代後期以降に竪穴のくぼみを利用したものがある（H-1など）。

土坑は平面形がほとんど円形で、確認面の径が50～100cm、深さ30～80cm程度でまとまっている。特に調査区南西部にまとまりがあり、ある一時期に形成されたと考えられる。坑底が平坦で急に立ち上がるもの（P-4・12・19・24・26ほか）と、坑底が湾状のもの（P-10・23・29ほか）がある。このほか調査区北西部～中央部から南西部にかけて、中期前半～後期前葉のいずれかの時期に属するとみられる土坑が多数あるが、形状や規模から中期前半が主体であると推測される。

これらの土坑の中で、覆土上位に焼土が形成されているものを8基検出した（P-3にF-3、P-4にF-4、P-16にF-9、P-19にF-10、P-20にF-11、P-24にF-13、P-69にF-17、P-70にF-18）。埋没しきらない土坑の覆土上の利用がうかがえる。

調査区南部の遺物集中1は、複数の個体土器が同一面上で出土し、さらに土偶が出土している。竪

穴住居から離れた屋外での一括廃棄、「送り場」の役割があったものと推察される。また調査区中央部のK19区では、特殊な溝のあるものを含め、ていねいに整形された北海道式石冠が2点(図IV-53の266・267)と付近から土偶および多数の土器等が出土しており、遺物集中1と同様の役割があった可能性がある。

なお該期の遺構の¹⁴C年代測定値(δ¹³C補正值)は、H-1・H-7・P-37の試料で4,290±30~4,480±30yB.P.であり、これまでの概期の他遺跡における測定結果に近似する。

〔縄文時代中期後半ころ〕

榎林期または大安在B式期に、調査区北西部の丘陵斜面に竪穴住居跡(H-10)が構築されている。VI層を掘り込み床面を平坦に削平し、斜面上方の壁が高く下方はわずかに確認できる。小規模な地床炉が1つあり、柱穴は不明である。

H-10に重複するP-40・51・67はH-10より古く、斜面上の周辺の土坑(P-37~39・52~54・58・62~65)は出土遺物などからH-10に近い時期(中期前半含む)と新しい時期(後期前葉含む)がみられる。規模・形状が比較的整っていることから、ある程度まとまって形成された土坑群と考えられる。その中で、土坑墓と積極的に判断できる材料は検出できなかった。H-10および土坑群が斜面に形成されたことが大きな特徴のひとつである。

一方調査区中央~南部の段丘上では、L20区のP-33のほか調査区南西部の一部の土坑・焼土、埋設土器1・2など少数の遺構にとどまる。埋設土器1は、榎林式の口縁~胴上部が口縁部を下にして単独で出土したものである。大安在B式期以降の活動の跡は極めて少ない。

なお該期の遺構の¹⁴C年代測定値(δ¹³C補正值)は、H-10の試料で4,220±30yB.P.であった。

〔縄文時代後期前葉〕

トリサキ式期~白坂3式期は、当遺跡の主体時期の一つである。竪穴住居跡7軒(竪穴状遺構を含む、H-2・4・6・8・9・12・13)のほか、土坑数基(P-5・6・13・14・18ほか)、フレイクチップ集中2・3、遺物集中3~5(遺物集中5はH-13のほぼ覆土上)などが該当する。H-2は後期中葉ウサクマイC式期にかかる可能性がある。また遺物集中3~5は、後期中葉まで継続的に形成されている。P-13・14は中期前半の竪穴住居跡H-5に隣接・重複し、白坂3式土器がまとまって出土している。

竪穴住居跡は、北西丘陵IV層中からV・VI層上面にかけて掘り込まれている。覆土が周辺の包含層と同化して竪穴の輪郭や壁の立ち上がりは不明瞭なものが多い。長軸5m前後の円形で、H-8・9を除き地床炉をもつ。柱穴はわずかに確認できるのみである。H-8は付属遺構が確認できず、住居以外の建物として使用されていた可能性がある。H-9は炉が確認できなかったが、配石など住居内の施設の一部と考えられる棒状の礫が出土している。竪穴住居跡(H-2・4・6・12・13)縁辺部~覆土上位からは、多量の土器片・フレイク類が出土しており、竪穴住居廃絶後しばらくして、竪穴のくぼ地に廃棄したことがうかがえる。

土坑は中期のものに比較してやや小型で浅く、坑底は湾状のものが多い。

なお該期の遺構の¹⁴C年代測定値(δ¹³C補正值)は、H-2の試料で3,540±20yB.P.であり、予想より新しい数値であった。

〔縄文時代後期中葉~後葉〕

手稲式期~堂林式期は、該期の遺構と確認できた竪穴住居跡や土坑はないものの、調査区中央北部の遺物集中3~5付近を主体として活動がみられる。中期の竪穴住居跡(H-1)上面および後期前半の竪穴住居跡(H-2・6・12・13)のくぼみを利用し、遺物が廃棄されている。特に堂林式期は

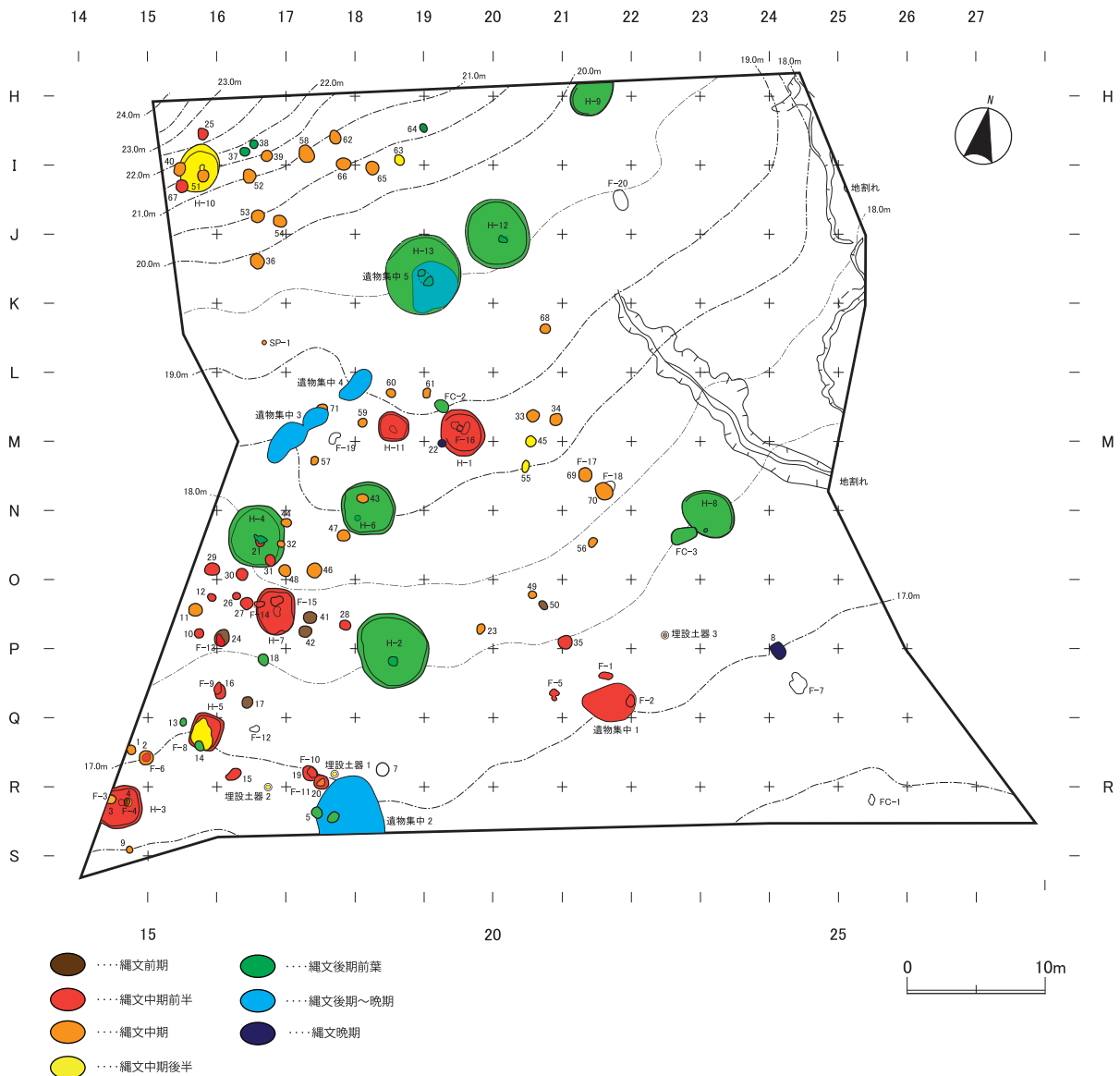
H-13付近に集中している。

〔縄文時代晩期～続縄文期〕

土坑P-8・22などⅢ層付近から掘り込まれた一部の土坑が晩期以降に形成された遺構である。P-8は平面形が隅丸方形をなす。覆土下位に小砂利を多量に含ませていることが特徴であり、埋め戻しが行われている。

また後期同様に、晩期中葉を主体として、廃絶された竪穴住居跡の上面から覆土上位のくぼみに細かく破碎した土器片・フレイク類が廃棄されている。晩期の住居跡は確認できなかったが、遺物は多量に出土することから、調査区内や隣接地に居住域がある可能性が考えられる。ちなみに当遺跡から約500m南西には拠点集落である札苅遺跡があり、何らかの関係をもっていたことが考えられる。

続縄文期前半は、調査区中央部のO17区においてわずかに恵山式の壺の破片が出土した。木古内町内では概期の遺物は希少な例である。



図VI-1 時期別遺構位置図

以上のように、札苜6遺跡では縄文時代前期～晩期・続縄文期前半に断続的・継続的に活動の跡が確認できる。その背景の一つには、典型的な集落地地条件がある点が挙げられる。標高20mほどの台地の南向きの緩斜面上にあり、沢頭の湧水から流下する適度な水量をもつ沢（西側）が隣接する。森林に覆われた（現在は植林が多い）丘陵を背景にもつという環境から、陸上の比較的狭い範囲においても多様な動植物の獲得が期待できる。また津軽海峡の海岸線からは約500mと近く、海産資源の獲得や海上交通にも利する。ただし居住域・墓域や盛土遺構等の廃棄域など集落の明確な区分計画はみられず、大規模な拠点集落ではなく、小規模な集落にとどまっている。

2. 遺物

札苜6遺跡から出土した遺物について、周辺遺跡出土例を示しながら、いくつか特徴的なものを挙げる。

〔土器〕

前期後半～続縄文期前半のものが出土した。出土土器型式が多いことが特徴の一つである。円筒土器下層b式・c式・d式、円筒上層b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式、榎林式、大安在B式、ノダツプⅡ式、天祐寺式、トリサキ式、大津式、白坂3式、手稲式、鯨潤式、堂林式、湯の里3式、上ノ国式、大洞C₂式（または併行）、大洞A式（または併行）、恵山式ほかを確認した。

そのような中で、中期のサイベ沢Ⅶ式は出土点数が最も多い型式の一つであり、新旧に区分した。諸要素があるが特に、古段階は細い粘土紐による文様（一部沈線文様含む）、新段階は沈線による文様を特徴とした。後者には小さな山形突起に粘土紐貼付が施される見晴町式に近いものが含まれる。

中期前半では、魚骨回転文が施された土器が少なくとも5個体出土し、うち1個体を復元した。すべてニシンタイプとみられ、口縁～胴部の大部分に施文している。ニシンの椎骨による回転施文のある土器は、道内では縄文早期後半の東釧路Ⅳ式に伴うものが多いようである（大沼忠春2008 第1表）。中期では木古内町新道4遺跡・松前町大津遺跡・函館市サイベ沢貝塚など少数が注意されていたが、八雲町倉知川右岸遺跡・北斗市館野2遺跡をはじめ道南地域の大規模調査によりその出土例が増加している。

後期前葉はトリサキ式が主体である。無文地で2本一組の沈線による文様がえがかれるものを基本とする。胴部文様帯が2段構成をとり、山形文や弧線文を規則的に配置し整ったものがあるが、多くは渦文を主体とするもの、渦文が乱れたもの、弧線文や蛇行沈線を組み合わせたものなど不規則である。十腰内Ⅰ式あるいはその影響を強く受けた土器が少数含まれている。

後期前葉のうち、オオバコまたはそれに類する植物による回転施文のある大津式の土器を1個体復元した。横位区画および山形の帯状文内に細い涙状文様が充てんされている。オオバコ文は、大沼忠春氏が木古内町新道4遺跡の整理作業で判明・報告（道埋文1985）し、以来注意されるようになった。道内では、縄文中期の例として苫小牧市美沢1遺跡、札幌市T77遺跡などがあり、後期では新道4遺跡、福島町館崎遺跡・吉岡遺跡、登別市川上B遺跡で出土している（大沼2008）ほか、近年の道南地域の調査によりその出土例が増加している。

後期中葉ウサクマイC式は、口縁～胴上部に鋸歯状の多重沈線が密に施されている。沈線がやや太いものも含まれるが、口縁下に1本または2本の沈線が巡るものからこの段階とした。白坂3式と大きな時間差はないものとみられる。

〔土製品〕

土偶が5個体出土した。形状からいずれも中期半ばのものと考えられる。うち4体は脚なしの立身

像で胸部～腹部に突起が付される点が共通する。顔の表現があるものが1体あり、頭頂部の装飾が施されている。2体は沈線により異なる文様がえがかれており、2体は無文である。残りの1体は板状であり土製品の可能性もあるが、文様が脚なしの立身像の一つに類似する。

道内の中期の土偶として、脚の形状は函館市桔梗2遺跡に類例があり、胸部・腹部の突起は函館市サイベ沢貝塚例、板状土偶で横方向に貫通孔のあるものは函館市石川1遺跡に類例がある。いずれも少数であり、道内の中期における土偶の様相を探るうえで好資料となる。

〔石器〕

剥片石器の石材は、圧倒的に頁岩が多用されている。石器製作に適切な素材を得るために生じた多量の大型フレイク類が出土している。スクレイパー類の製作においては、原石面を取り込みながら連続剥離し、側面に原石面の残る「かまぼこ」状のやや大型の剥片を得て調整を行ったものが多いことがうかがえる。黒曜石は出土量が少ないが、産地同定の結果、赤井川産が主体であるものの十勝三股産や所山産といった道東方面からも少ないながら入手していたことが判明した。

扁平打製石器が368点と、定形的石器では最も多く出土した。時期は主に円筒土器下層d式～上層式であり、当遺跡出土のものはサイベ沢VII式期が大部分とみられることから、その末期にあたる。また当遺跡でのもう一つの特徴として、半割された状態で出土するものが多い点が挙げられ、出土点数の半数以上にのぼる。またそれらが発掘区をまたいで接合し、30m以上離れたものもある。近年調査した木古内町木古内2遺跡（道埋文2011）では、円筒土器下層d式の複数の堅穴住居跡から出土した扁平打製石器のほぼすべてが半割状態で、それらのほとんどが接合している。このような例は多数あり、使用後に意図的に半割して廃棄する行為が各時期に行われていたようである。

〔石製品〕

調査区中央西部のL17区から出土した大珠は、径5cm・厚さ3cmを超え、重量感がある。扁平形の根付形大珠（鈴木2005）である。周辺遺跡で同様の形状の出土例としては、ヒスイ製の函館市（旧戸井町）浜町A遺跡出土例があるが、側面が丸みをもつ。

石製品で数多く出土したものには、三脚石器がある。19点という点数は、道内では最も多い遺跡の一つである。森町三次郎川右岸遺跡（道埋文2006）や北斗市館野遺跡（道埋文2012）のほか、木古内町大平4遺跡（道埋文2012年調査・未刊行）などで複数出土している。また形状について、秋田県北部をはじめとする東北北部のものは下面がやや大きく内湾し、側面のえぐりが大きく、「脚」の先端部が膨らむ。当遺跡のものは、三角形石製品と呼称すべきものかもしれない。

（阿部）

引用・参考文献

(1) 報告書

- 木古内町教育委員会 (1974) 『札苺遺跡』
- 木古内町教育委員会 (1991) 『釜谷4遺跡』
- 木古内町教育委員会 (1995) 『釜谷5遺跡』
- 木古内町教育委員会 (1998) 『亀川3遺跡』
- 木古内町教育委員会 (1999) 『釜谷遺跡』
- 木古内町教育委員会 (2003) 『泉沢2遺跡A地点』
- 知内町教育委員会 (1972) 『涌元遺跡』
- 七飯町教育委員会 (1979) 『峠下聖山遺跡』
- 函館市教育委員会 (1979) 『見晴町B遺跡発掘調査報告書』
- 函館市教育委員会 (1991) 『函館市中野A遺跡』
- 北海道開拓記念館 (1976) 『札苺』
- 北海道第四紀研究会 (1974) 『西股』
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1985) 『木古内町建川1・新道4遺跡』北埋調報33
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1986) 『木古内町札苺遺跡』北埋調報34
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1986) 『木古内町建川2・新道4遺跡』北埋調報43
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1988) 『木古内町新道4遺跡』北埋調報52
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2002) 『八雲町山越3遺跡・山越4遺跡』北埋調報166
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2006) 『森町三次郎川右岸遺跡』北埋調報233
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2006) 『北斗市矢不來6遺跡・矢不來11遺跡・館野4遺跡』北埋調報235
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2004) 『木古内町木古内2遺跡』北埋調報278
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2011) 『木古内町大平遺跡・大平4遺跡』北埋調報280
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2011) 『木古内町蛇内2遺跡』北埋調報281
- (公財)北海道埋蔵文化財センター (2012) 『木古内町大平4遺跡(2)・蛇内2遺跡(2)』北埋調報292
- (公財)北海道埋蔵文化財センター (2012) 『木古内町札苺5遺跡』北埋調報294
- 松前町教育委員会 (1974) 『松前町大津遺跡発掘報告書』
- 松前町教育委員会 (1981) 『白坂』

(2) 論文・報文

- 大沼忠春 (2008) 「特殊な施文具—魚骨文とオオバコ文—」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 鈴木克彦 (2005) 「緒縮形、根付形、三角形大珠の研究—硬玉製大珠に関する研究・1—」『玉文化』第2号
- 鈴木正語 (2004) 「木古内町における河川の川原礫について」『土・酒・海・山—故 石本省三氏追悼論集—』
- 坪井正五郎 (1888) 「石器時代の遺物遺蹟は何者の手に成たか」『東京人類学会雑誌』3巻31号

(3) 単行本・その他

- 大泰司統 (2003) 「渡島半島の縄文時代後期前葉」『第1回 東北・北海道の十腰内I式再検討』海峽土器編年研究会
- 小山正忠・竹原秀雄 (1994) 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 木古内町 (1982) 『木古内町史』
- 北海道開拓記念館 (1981) 『熊野喜蔵氏資料目録・II』北海道開拓記念館一括資料目録第13集
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2004) 『遺跡が語る北海道の歴史—(財)北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌—』
- 南北海道考古学情報交換会 (2002) 「情報交換2 渡島半島における縄文時代中期末から後期初頭の土器様相」第23回南北海道考古学情報交換会資料

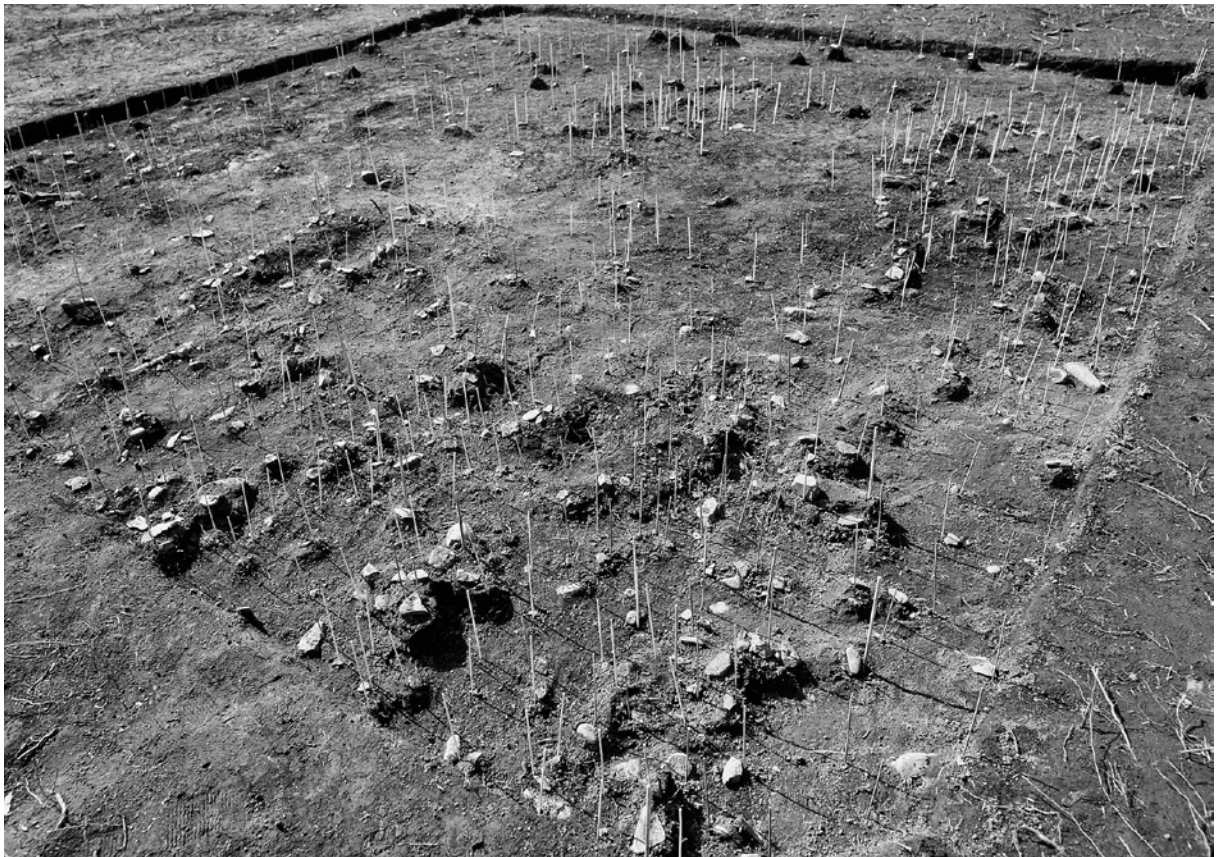
写真図版



札苺 6 遺跡全景



1. 調査状況



2. 包含層遺物出土状況

図版 2



1. 調査区南壁土層



2. 20ライン土層



3. 調査区北壁土層



4. 17ライン土層



1. H-1 調査状況



2. H-1 覆土遺物出土状況



3. H-1 覆土フレイクチップ集中 (FC-2)



4. H-1 東西断面



5. H-1 南北断面

图版 4



1. H-1HF-1 断面



2. H-1HF-2 断面



3. H-1HP-1 断面



4. H-1 土器出土状况



5. H-1 完掘



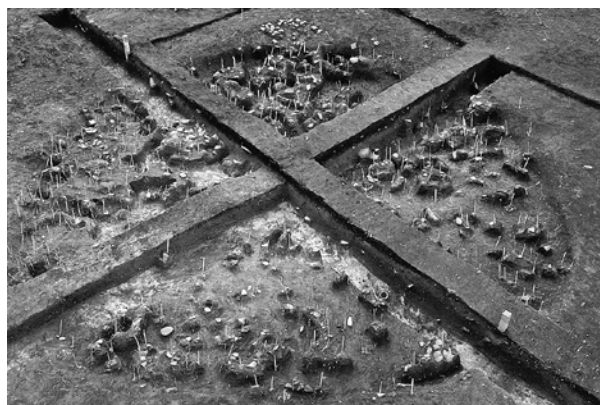
1. H-2 検出



2. H-2 遺物出土状況



3. H-2 覆土 1 層遺物出土状況



4. H-2 覆土 2 層遺物出土状況



5. H-2 南北断面



6. H-2 東西断面

図版 6



1. H-2HF-1 断面



2. H-2HP-1・2 断面



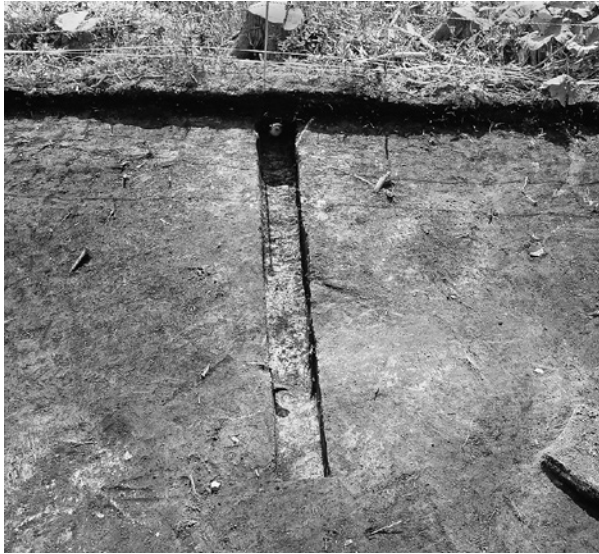
3. H-2HP-6 断面



4. H-2HP-8 断面



5. H-2 完掘



1. H-3 検出



2. H-3 調査状況



3. H-3 東西断面



4. H-3 南北断面



5. H-3HP-1 断面



6. H-3HP-3 断面



7. H-3 完掘

図版 8



1. H-4 検出



2. H-4 調査状況



3. H-4 東西断面



4. H-4 南北断面



5. H-4 遺物出土状況



6. H-4 土器出土状況



1. H-4 床面検出



2. H-4HF-1 検出



3. H-4HP-1 断面



4. H-4HP-5 断面



5. H-4 完掘

図版 10



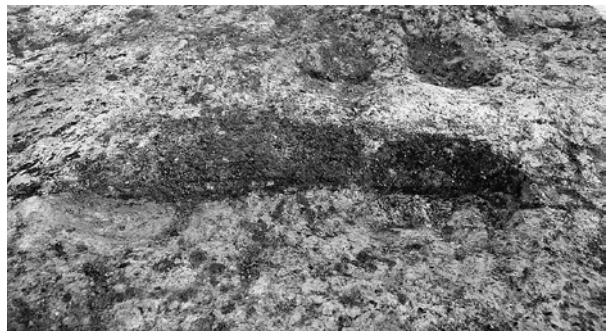
1. H-5 検出



2. H-5 調査状況



3. H-5 断面



4. H-5HF-1 断面



5. H-5 完掘



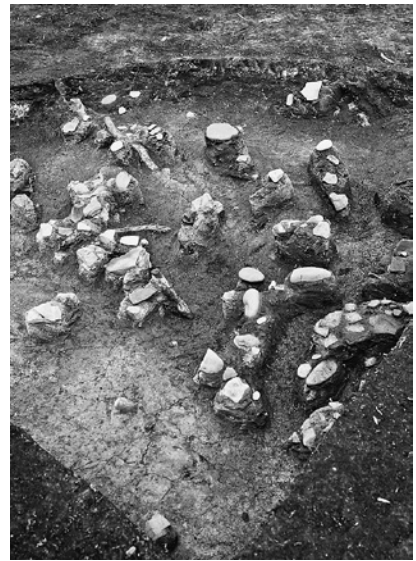
1. H-6 検出



2. H-6 調査状況



3. H-6 東西断面



5. H-6 遺物出土状況



4. H-6 南北断面



6. H-6HF-1 断面



7. H-6HP-1 断面

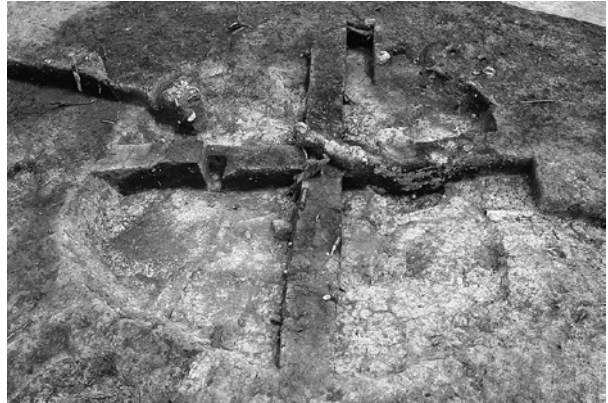


8. H-6 完掘

図版 12



1. H-7 検出



2. H-7 調査状況



3. H-7 南北断面



4. H-7 東西断面



5. H-7 遺物出土状況 (1)



6. H-7 遺物出土状況 (2)



7. H-7HF-1 断面



8. H-7HP-2 断面



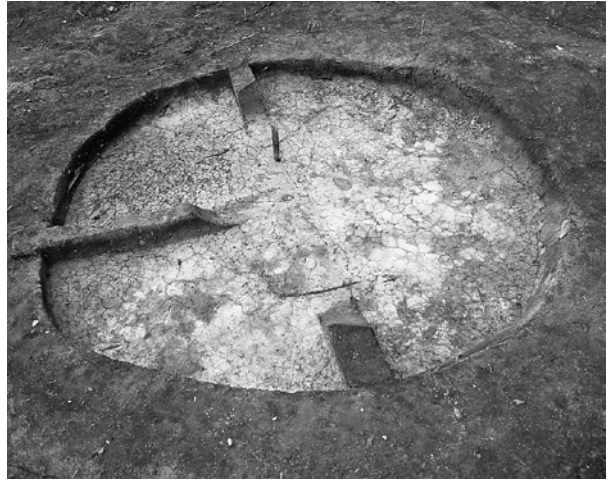
9. H-7 完掘



1. H-8 断面 (1)



2. H-8 断面 (2)



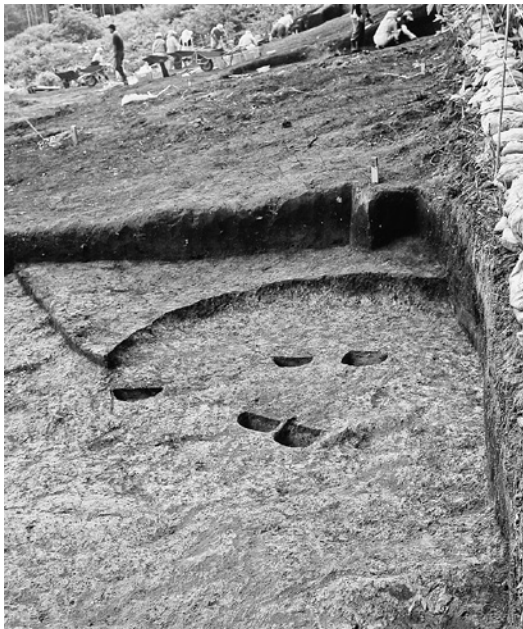
3. H-8 完掘



4. H-9 南北断面



5. H-9 東西断面



6. H-9HP 調査状況



7. H-9 完掘

図版 14



1. H-10 東西断面



1. H-10 南北断面



3. H-10HF-1 断面



4. H-10 完掘



5. H-11 南北断面



6. H-11 東西断面



7. H-11HF-1 断面



8. H-11 完掘



1. H-12 調査状況



2. H-12 土器出土状況



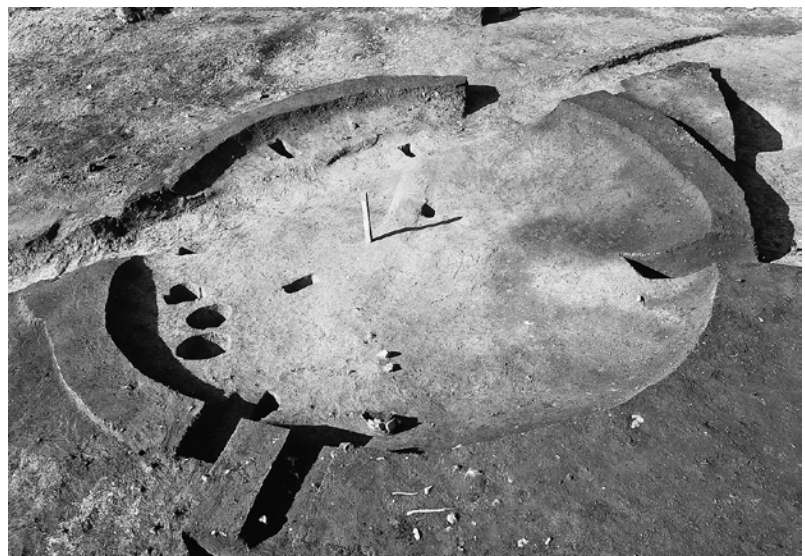
3. H-12 南北断面



4. H-12 東西断面



5. H-12HF-1 断面



6. H-12 完掘

図版 16



1. H-13 調査状況



2. H-13HF-1 検出



3. H-13 断面 (1)



4. H-13 断面 (2)



5. H-13 完掘



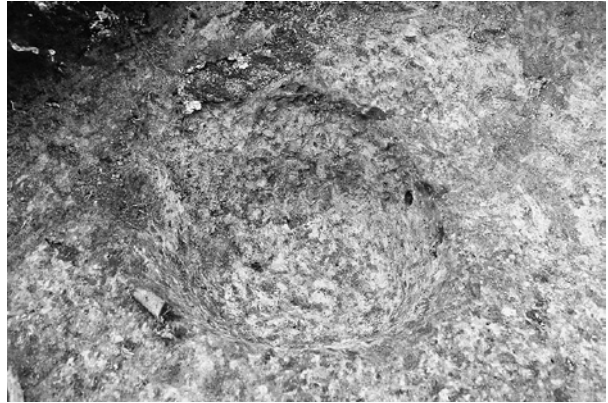
1. P-1 断面



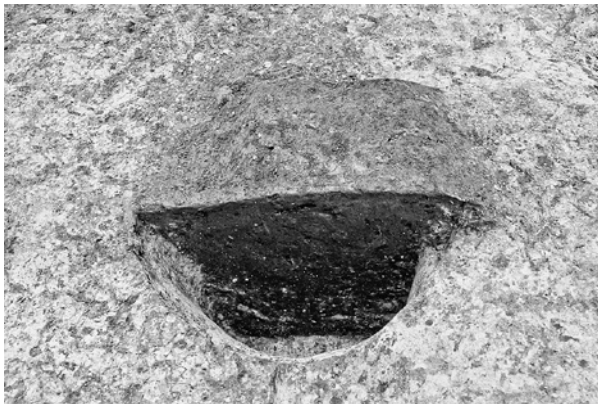
2. P-2 断面



3. P-1・2 完掘



4. P-3 完掘



5. P-4 断面



6. P-4 完掘



7. P-5・6 検出



8. P-5 断面

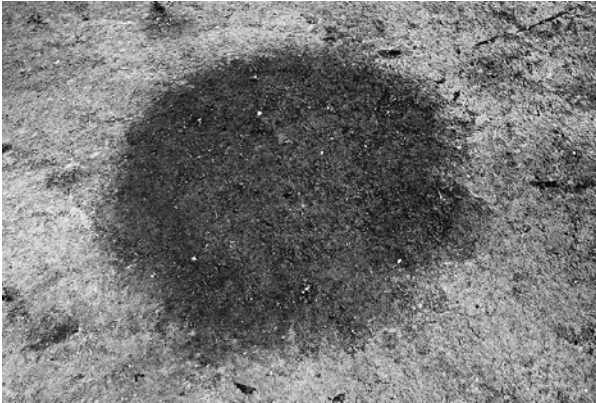
图版 18



1. P-6 断面



2. P-5・6 完掘



3. P-7 検出



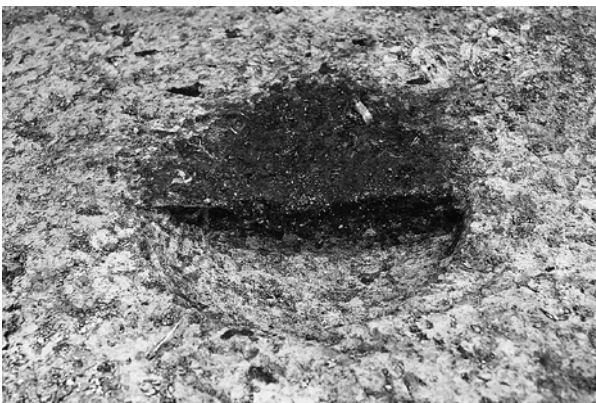
4. P-7 断面



5. P-8 断面



6. P-8 完掘



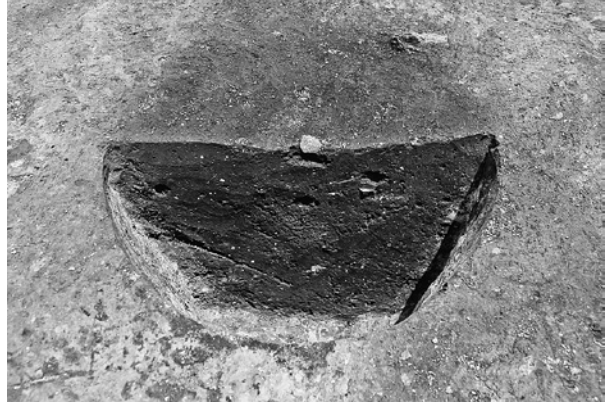
7. P-9 断面



8. P-9 完掘



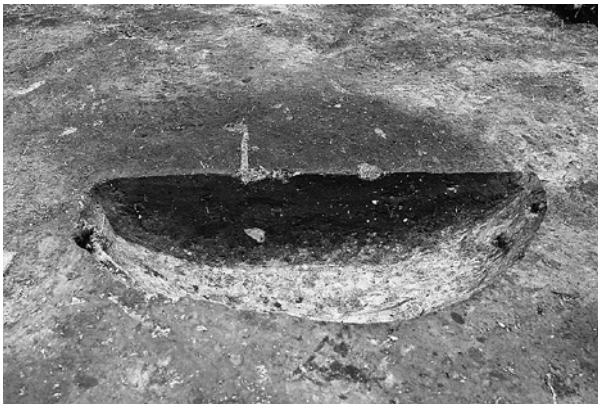
1. P-10・11 検出



2. P-10 断面



3. P-10 完掘



4. P-11 断面



5. P-11 完掘



6. P-12 断面



7. P-12 完掘

图版 20



1. P-13 断面



2. P-14 断面



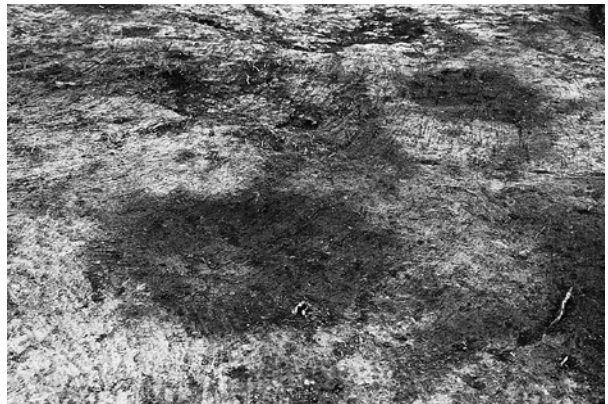
3. P-14 完掘



4. P-15 断面



5. P-15 完掘



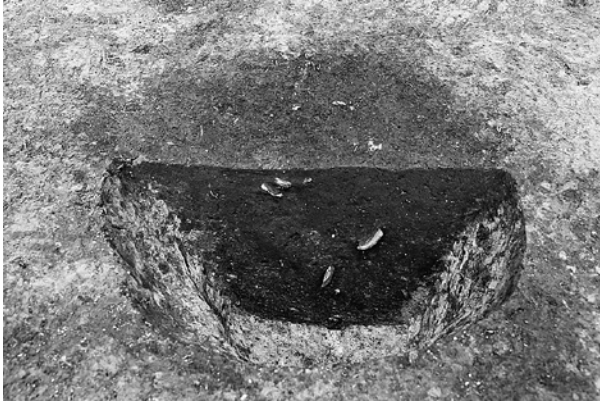
6. P-16 · 17 検出



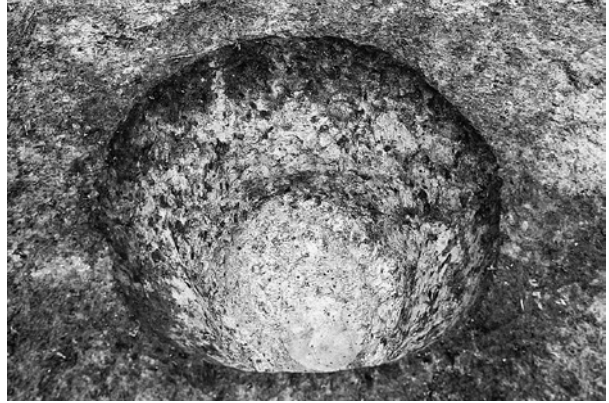
7. P-16 断面



8. P-16 完掘



1. P-17 断面



2. P-17 完掘



3. P-18 断面



4. P-19 断面



5. P-20 断面



6. P-19 · 20 完掘



7. P-21 断面



8. P-21 完掘

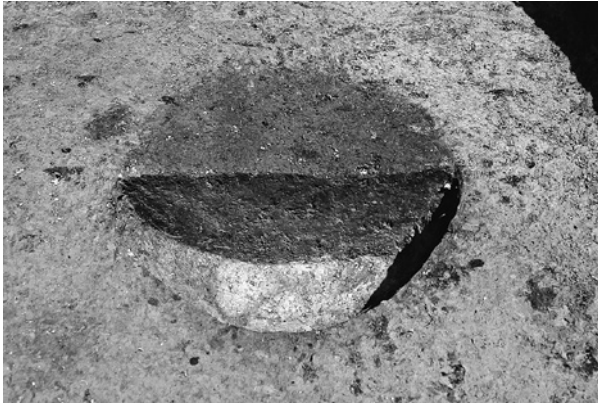
图版 22



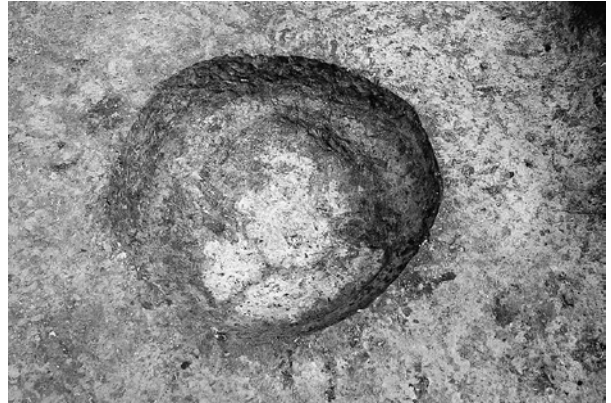
1. P-22 断面



2. P-22 完掘



3. P-23 断面



4. P-23 完掘



5. P-24 断面



6. P-24 完掘



7. P-25 断面



8. P-25 完掘



1. P-26 断面



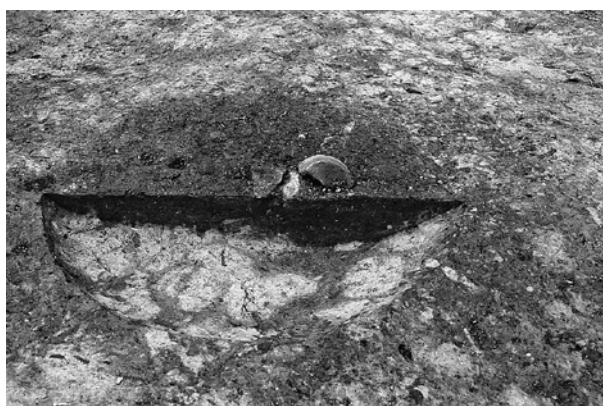
2. P-26 完掘



3. P-27 断面



4. P-27 完掘



5. P-28 断面



6. P-28 完掘



7. P-29 断面



8. P-29 完掘

图版 24



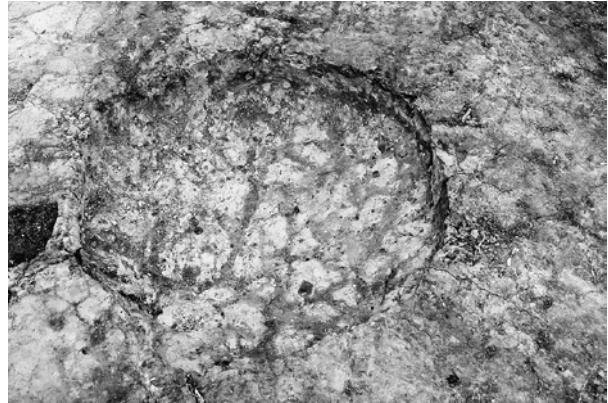
1. P-30 断面



2. P-30 完掘



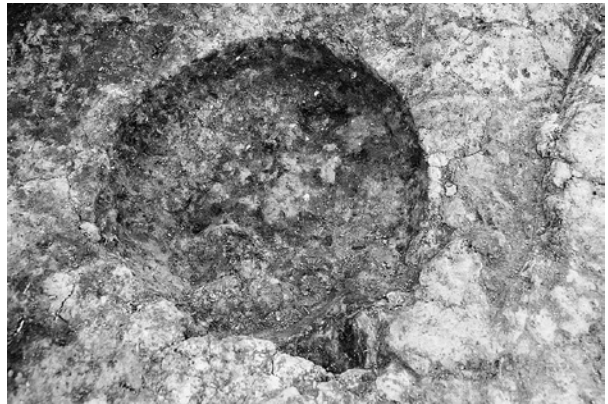
3. P-31 断面



4. P-31 完掘



5. P-32 断面



6. P-32 完掘



7. P-33 断面



8. P-33 完掘



1. P-34 断面



2. P-34 完掘



3. P-35 断面



4. P-35 断面



5. P-36 断面



6. P-36 完掘



7. P-37 ~ 39 検出



1. P-37 断面



2. P-38 · 39 断面



3. P-37 ~ 39 完掘



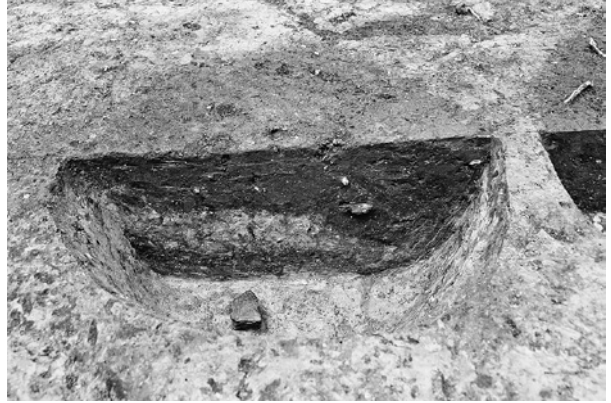
4. P-40 断面



5. P-40 完掘



1. P-41 断面



2. P-42 断面



3. P-41 · 42 完掘



4. P-43 砂岩礫出土状况



5. P-43 断面



6. P-43 完掘



7. P-44 断面



8. P-44 完掘



1. P-45 断面



2. P-45 完掘



3. P-46 断面



4. P-46 完掘



5. P-47 断面



6. P-48 完掘



7. P-49 完掘



8. P-50 完掘



1. P-51 断面



2. P-51 完掘



3. P-52 断面



4. P-52 完掘



5. P-53 断面



6. P-53 完掘

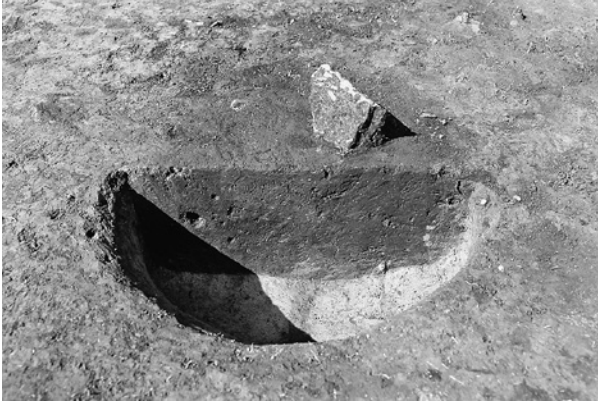


7. P-54 完掘



8. P-55 完掘

图版 30



1. P-56 断面



2. P-56 完掘



3. P-57 完掘



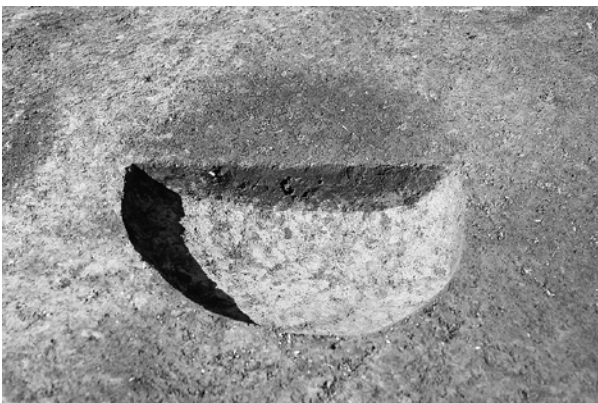
4. P-58 完掘



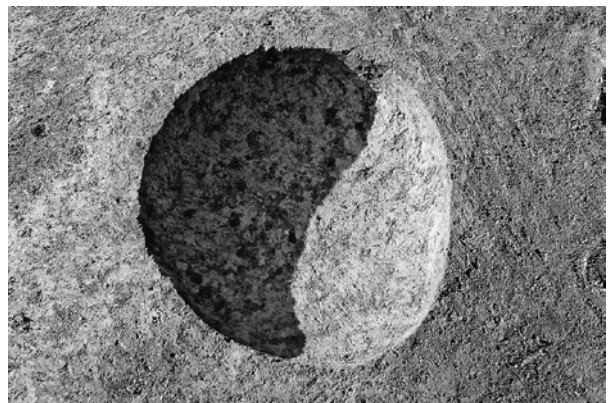
5. P-59 完掘



6. P-60 断面



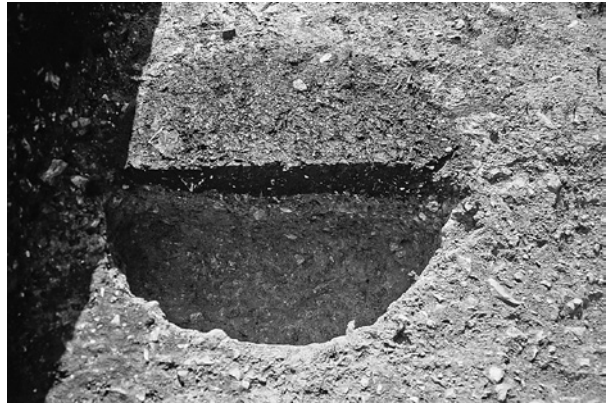
7. P-61 断面



8. P-61 完掘



1. P-62 完掘



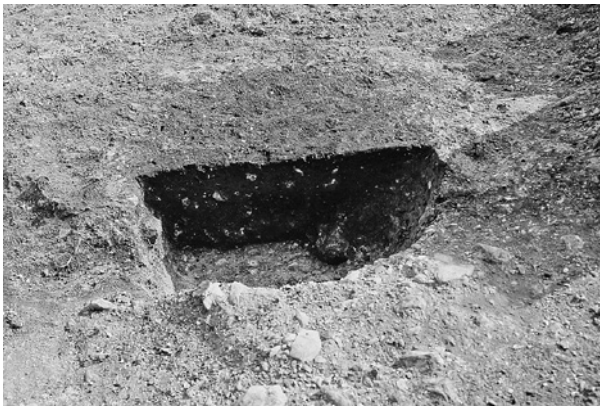
2. P-63 断面



3. P-64 断面



4. P-64 完掘



5. P-65 断面



6. P-65 完掘



7. P-66 断面



8. P-66 完掘

图版 32



1. P-67 断面



2. P-67 完掘



3. P-68 断面



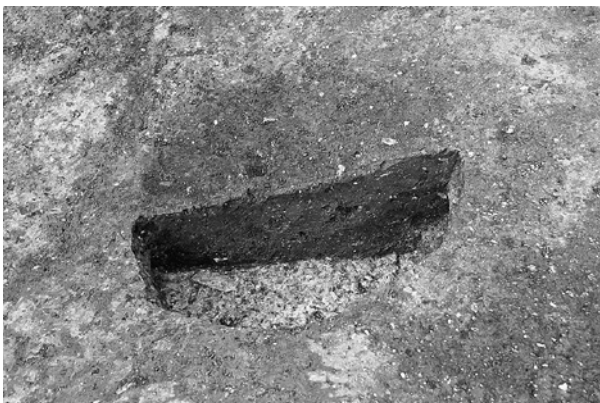
4. P-68 完掘



5. P-69 完掘



6. P-70 完掘



7. P-71 断面



8. P-71 完掘



1. F-1 断面



2. F-2 断面



3. F-3 断面



4. F-5 断面



5. F-7 検出



6. F-8 検出



7. F-12 断面



8. F-13 断面

図版 34



1. F-14・15 検出



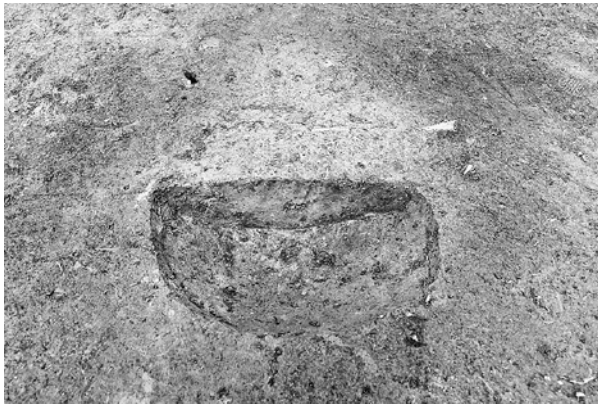
2. F-14 断面



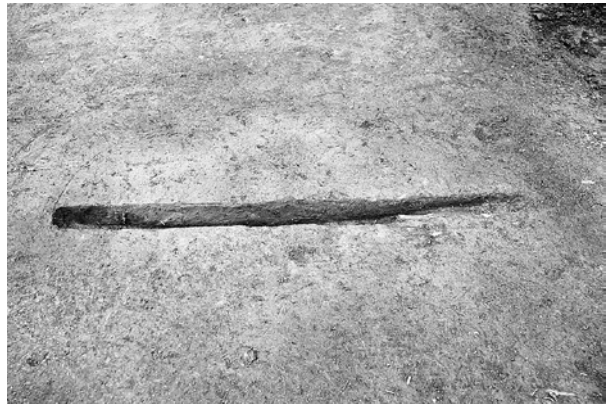
3. F-15 断面



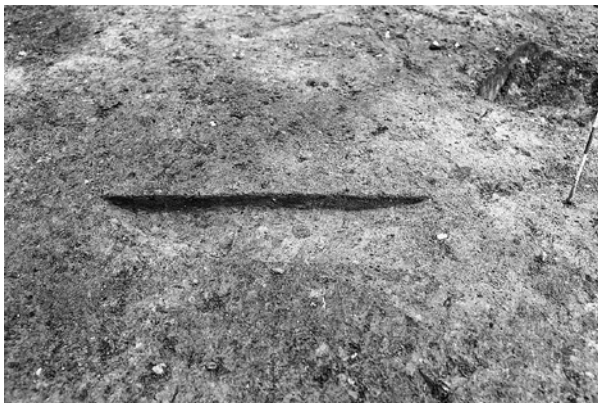
4. F-16 検出



5. F-17 断面



6. F-18 断面



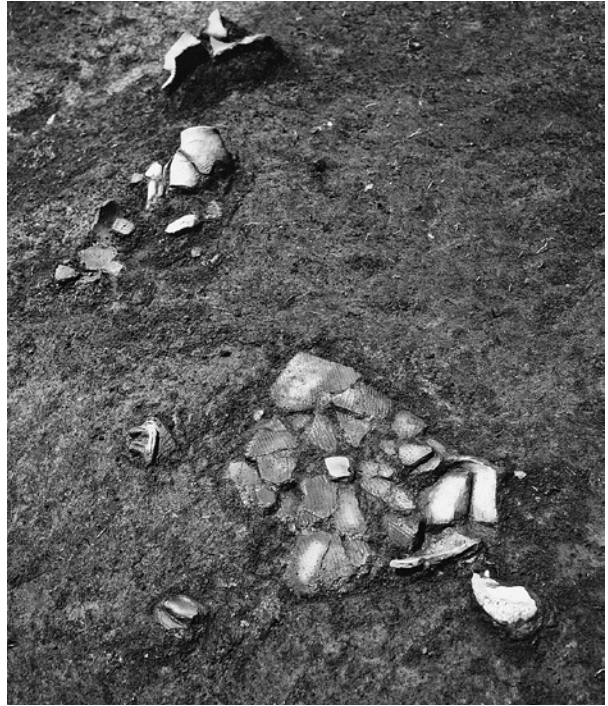
7. F-19 断面



8. F-20 断面



1. 遺物集中 1 検出



2. 土器出土状況



3. 遺物集中 1 付近断面 (1)



4. 遺物集中 1 付近断面 (2)



5. 遺物集中 2



6. 遺物集中 2 付近断面



1. 遺物集中 3 検出



2. 遺物集中 4 検出



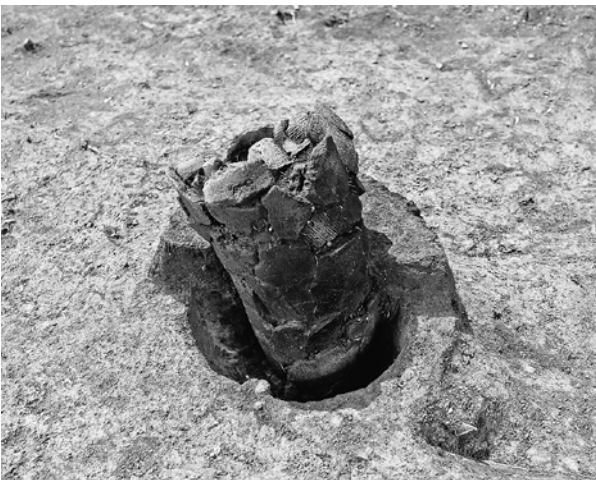
1. 遺物集中 5 検出



2. 埋設土器 1



3. 埋設土器 2



4. 埋設土器 3 (1)



5. 埋設土器 3 (2)



1. 土偶出土状况



2. 土製品出土状况



3. 大珠出土状况



4. 石斧出土状况



5. 石槍出土状况



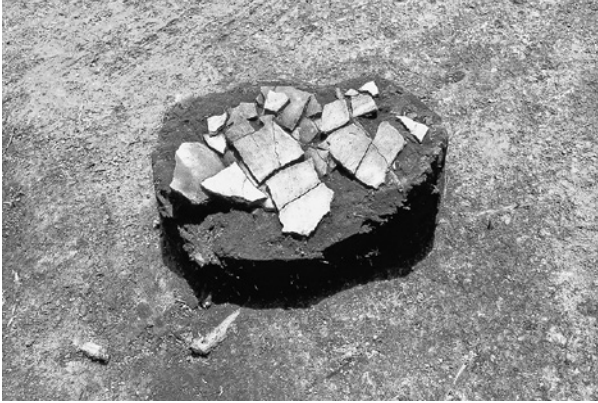
6. 土器底部出土状况



7. 土器出土状况 (L17区遺物No. 2)



8. 小型鉢出土状况



1. H22 区土器出土状况



2. J16 区遺物出土状况



3. J18 区遺物出土状况



4. J21 区遺物出土状况



5. M17 区土器出土状况



6. N18・19 区遺物出土状况



7. P18 区遺物出土状况



8. Q18 区遺物出土状况



1. 地割れ



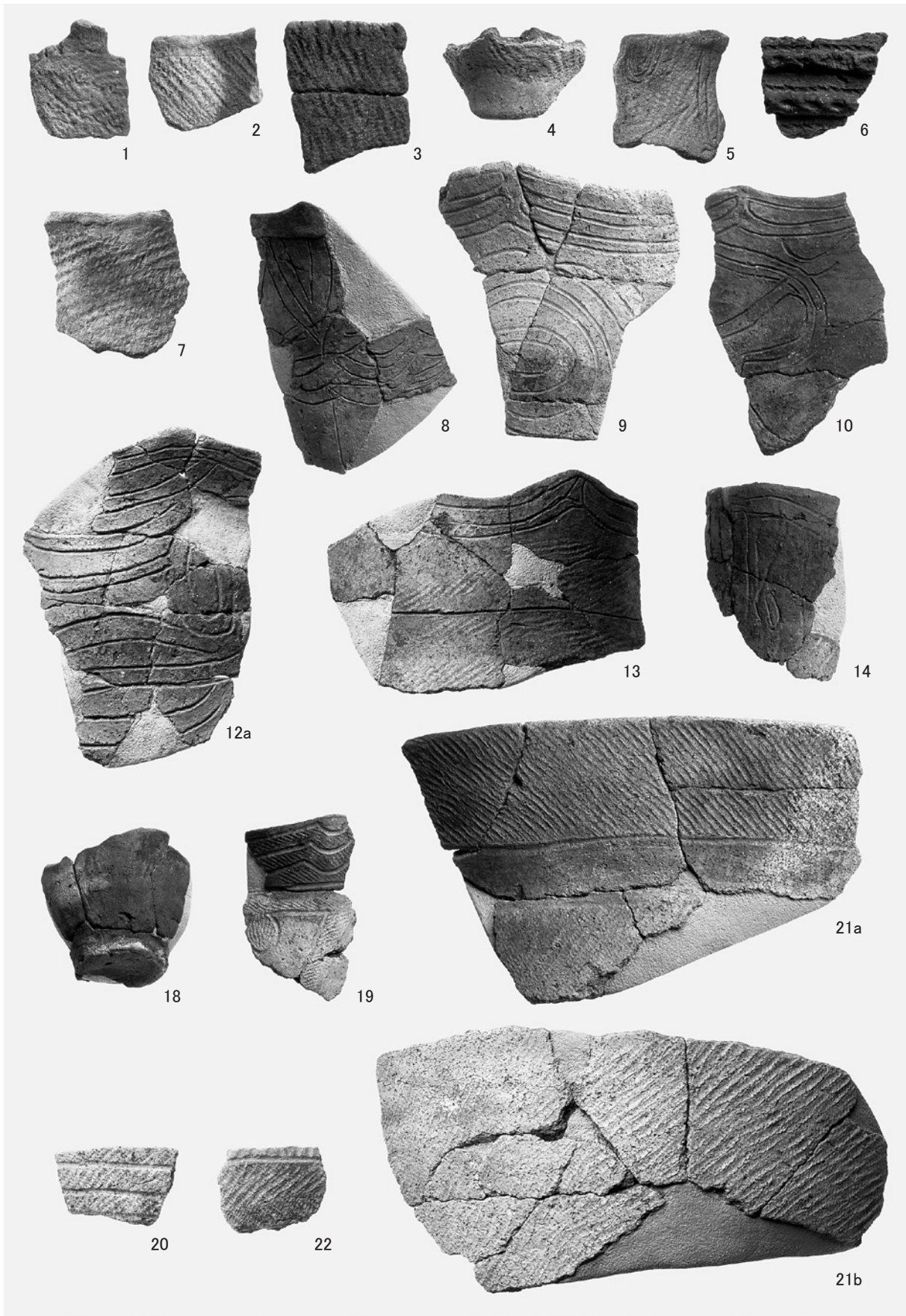
2. 地割れ断面 (1)



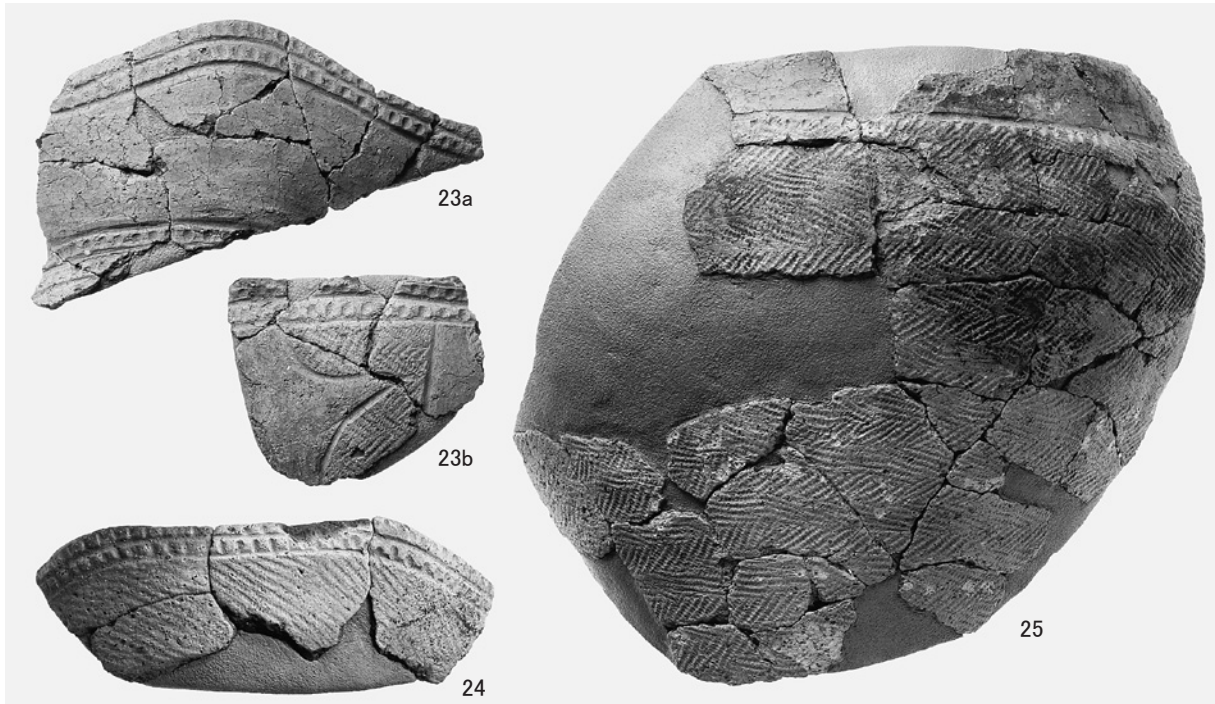
3. 地割れ断面 (2)



4. 完掘



1. H-1 出土の土器 (1)



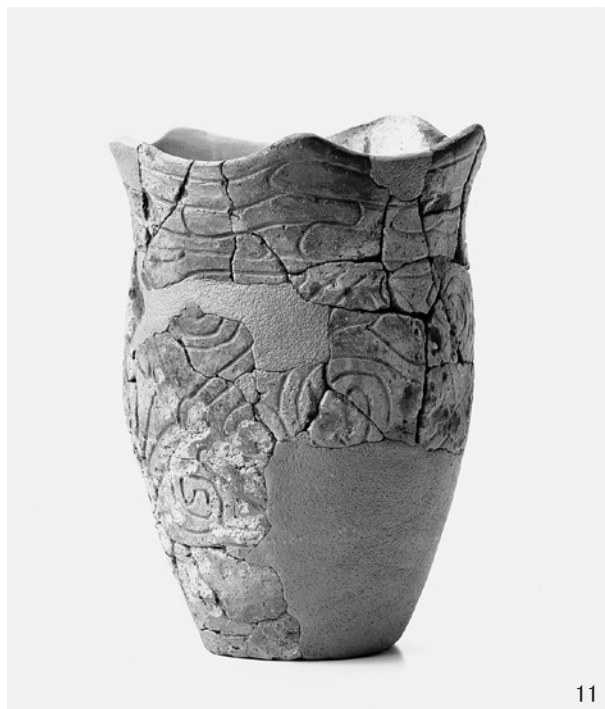
1. H-1 出土の土器 (2)



2. H-1 出土の土器 (3)



4. H-1 出土の土器 (5)



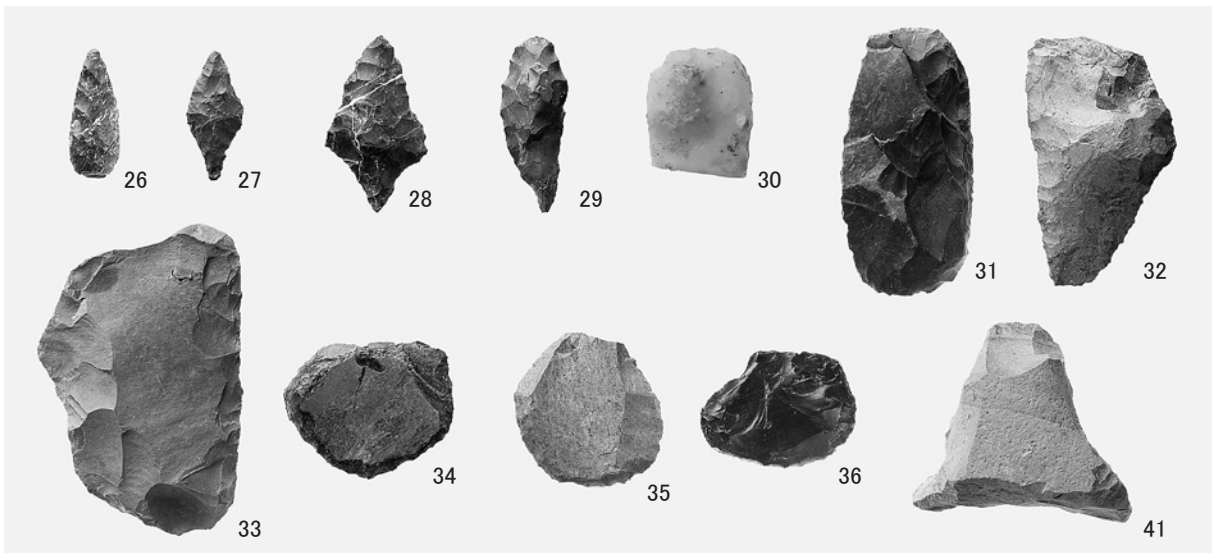
3. H-1 出土の土器 (4)



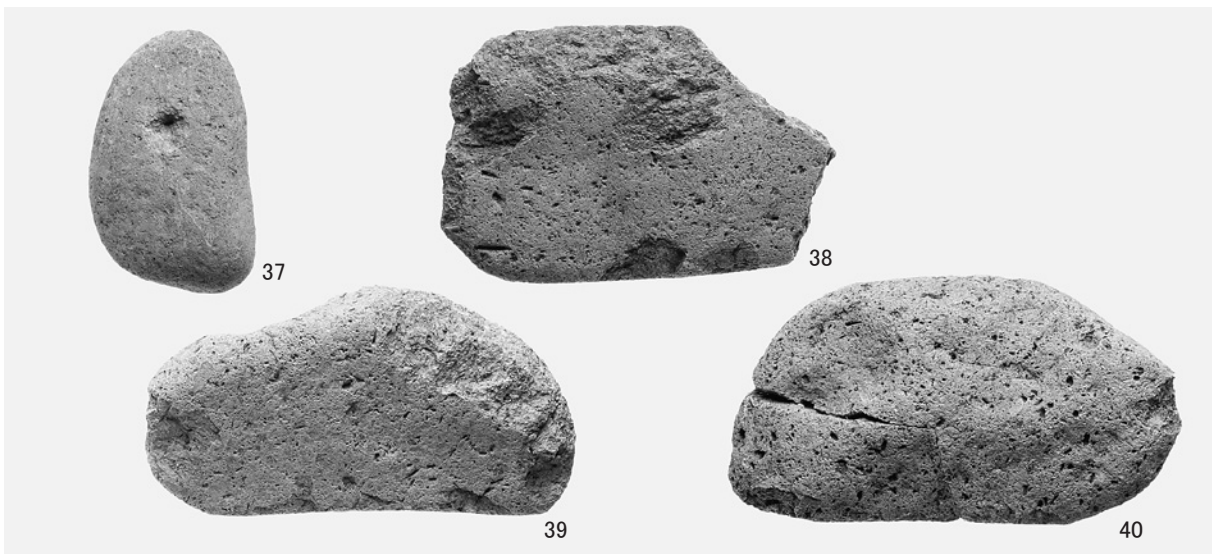
1. H-1 出土の土器 (6)



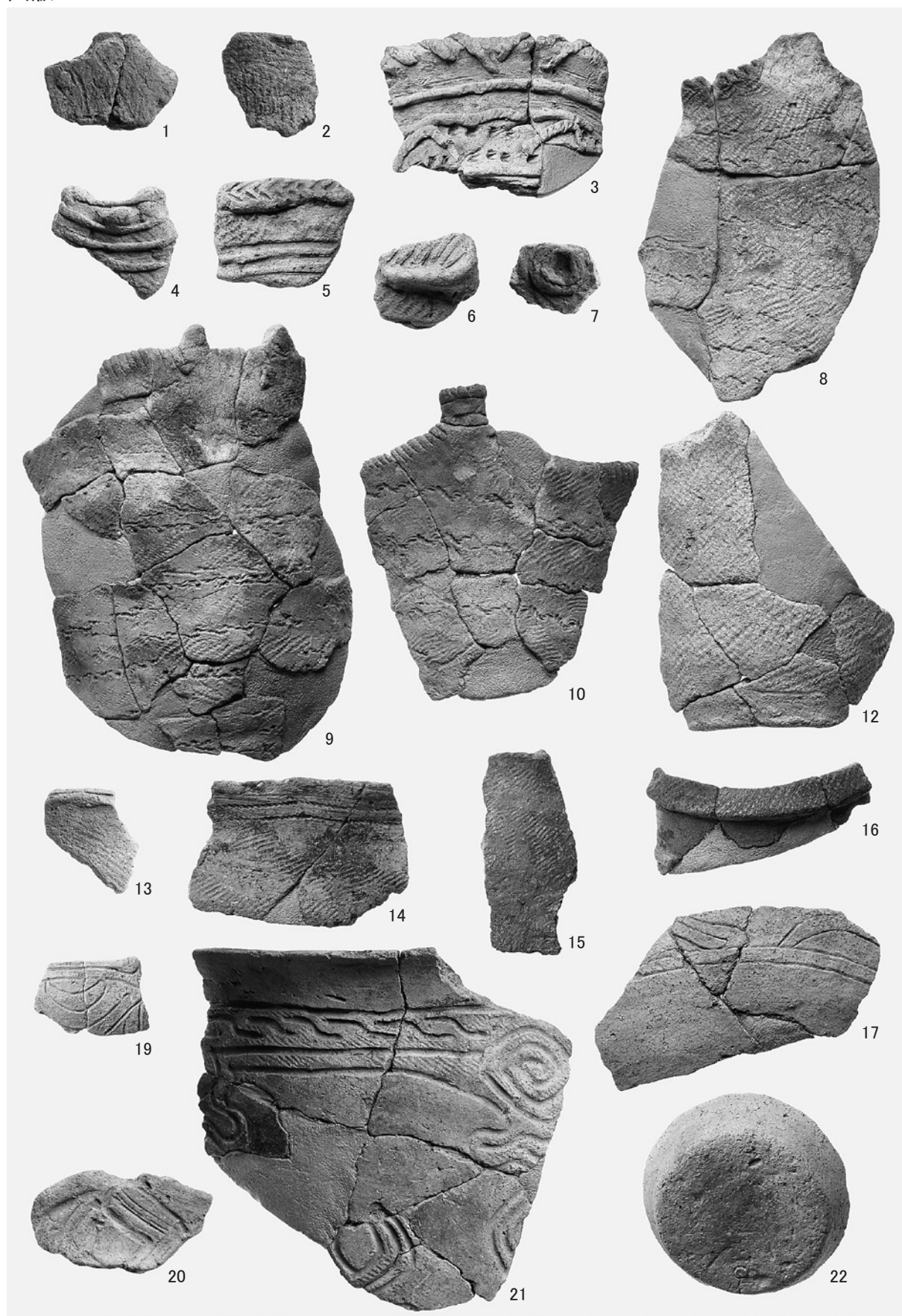
2. H-1 出土の土器 (7)



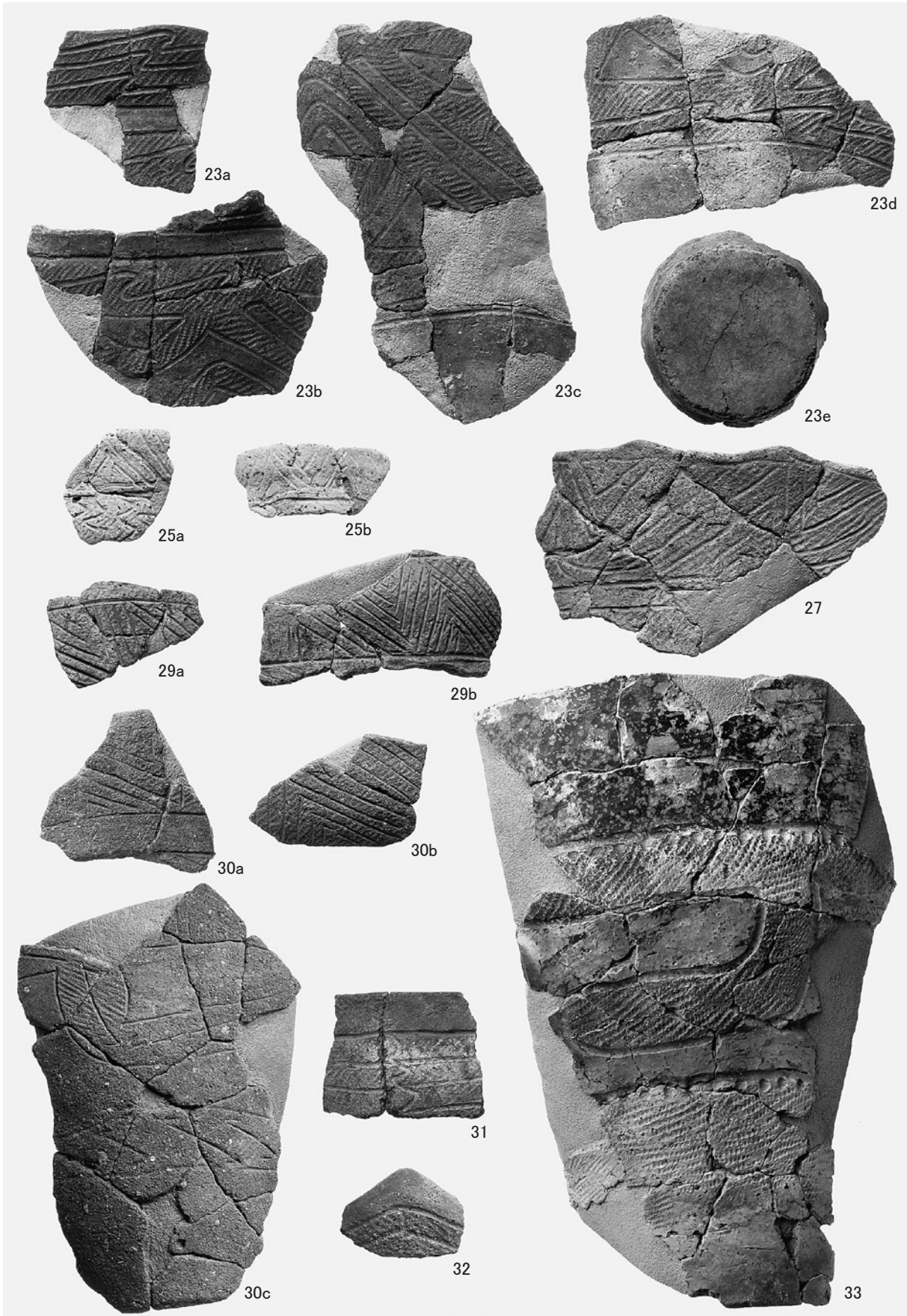
3. H-1 出土の石器等 (1)



4. H-1 出土の石器 (2)



1. H-2 出土の土器 (1)



1. H-2 出土の土器 (2)



11

1. H-2 出土の土器 (3)



18

2. H-2 出土の土器 (4)



24

3. H-2 出土の土器 (5)



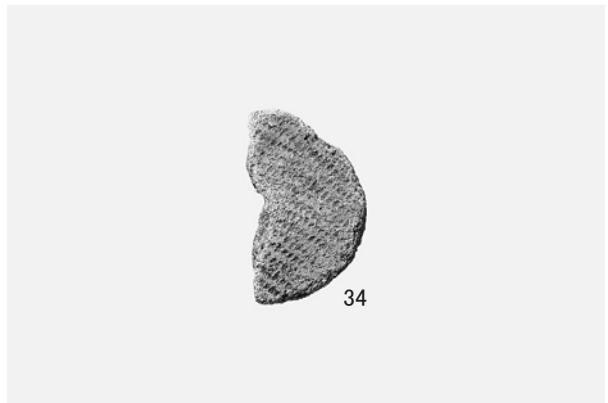
26

4. H-2 出土の土器 (6)



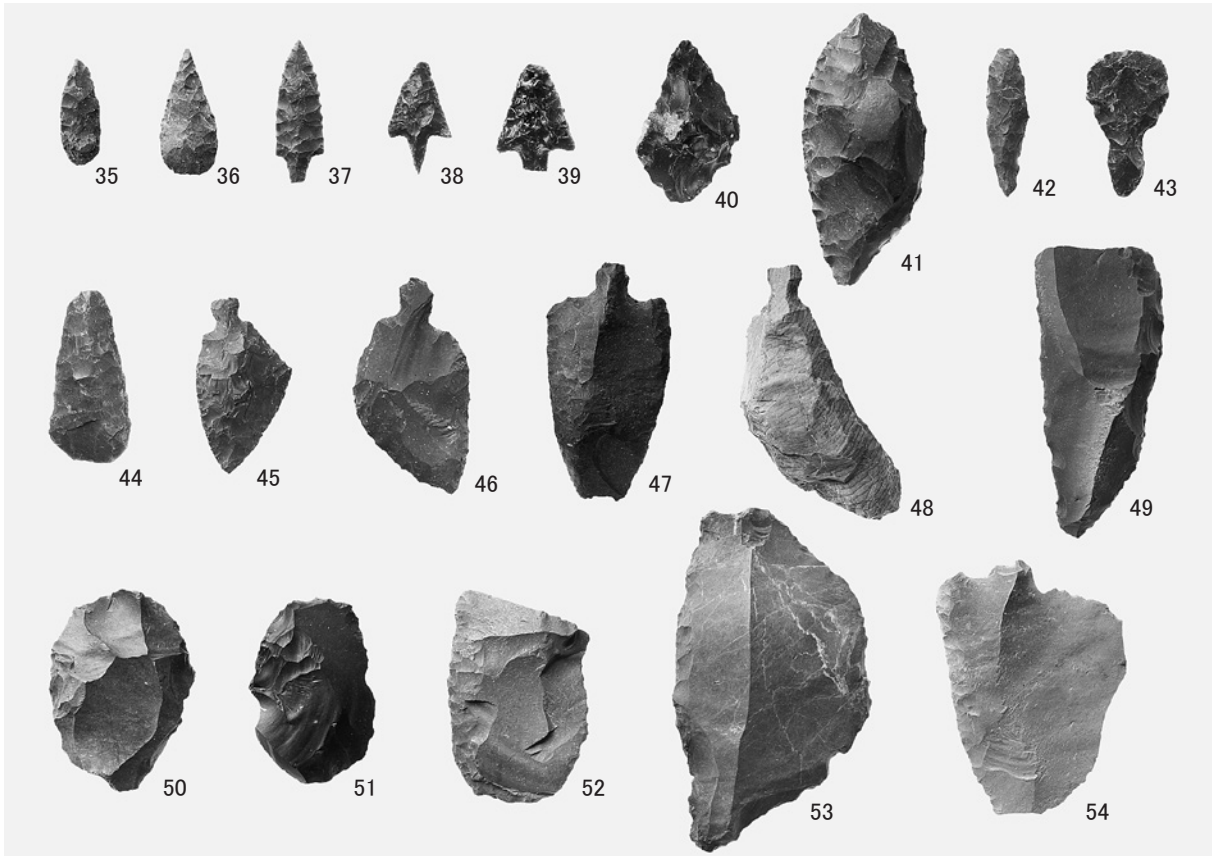
28

5. H-2 出土の土器 (7)

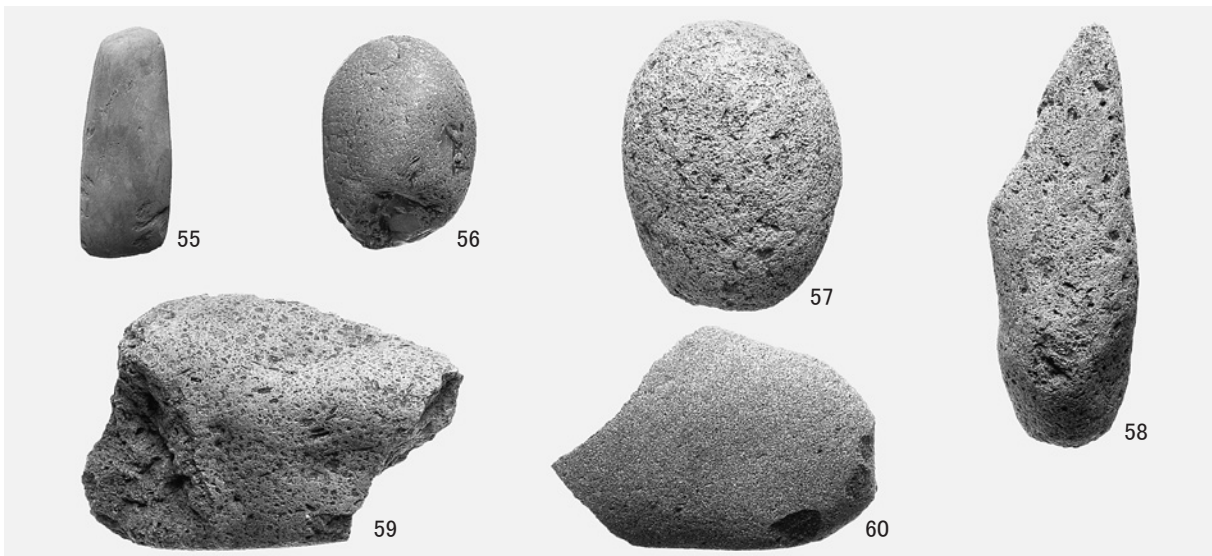


34

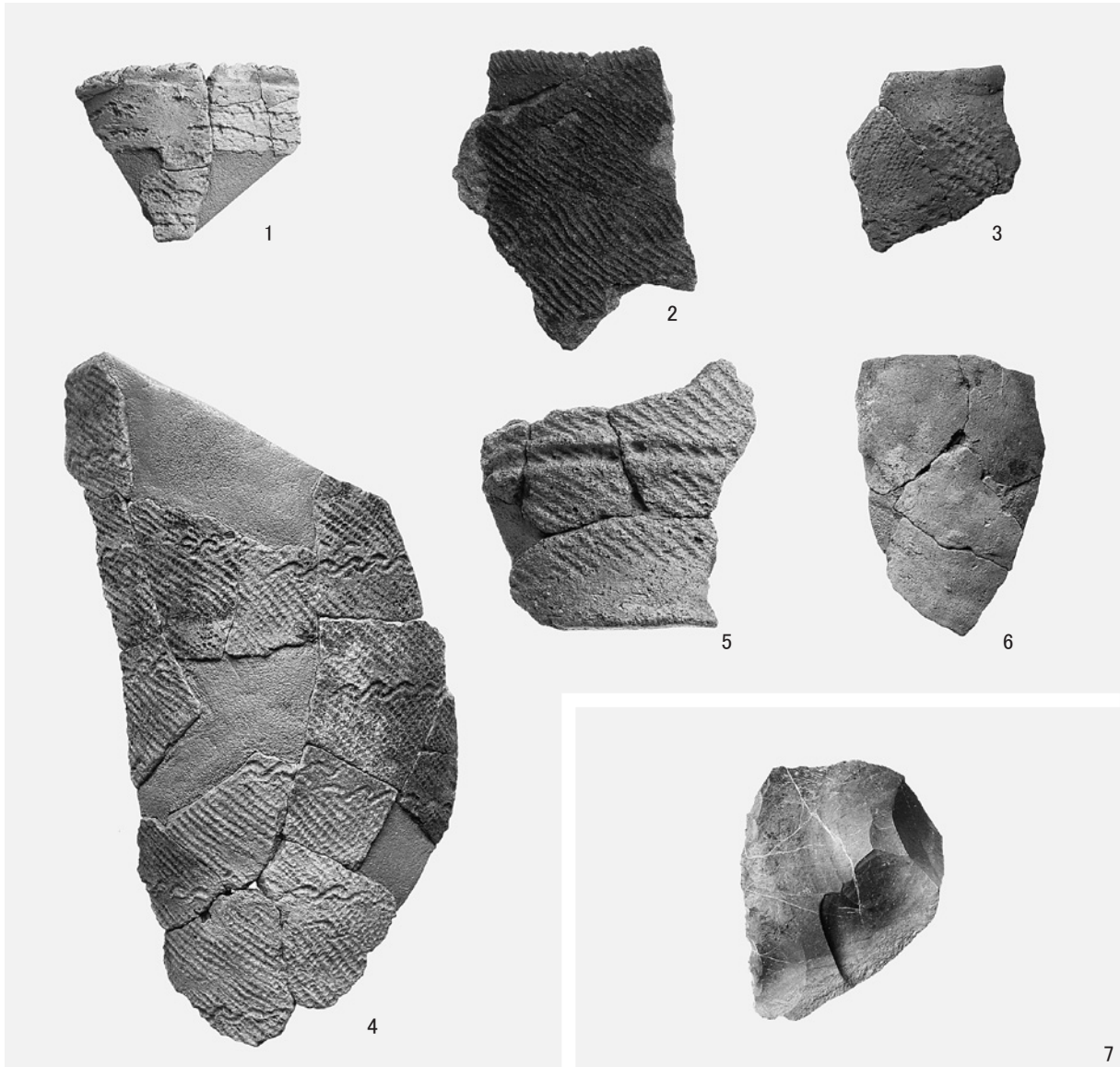
6. H-2 出土の土製品



1. H-2 出土の石器 (1)

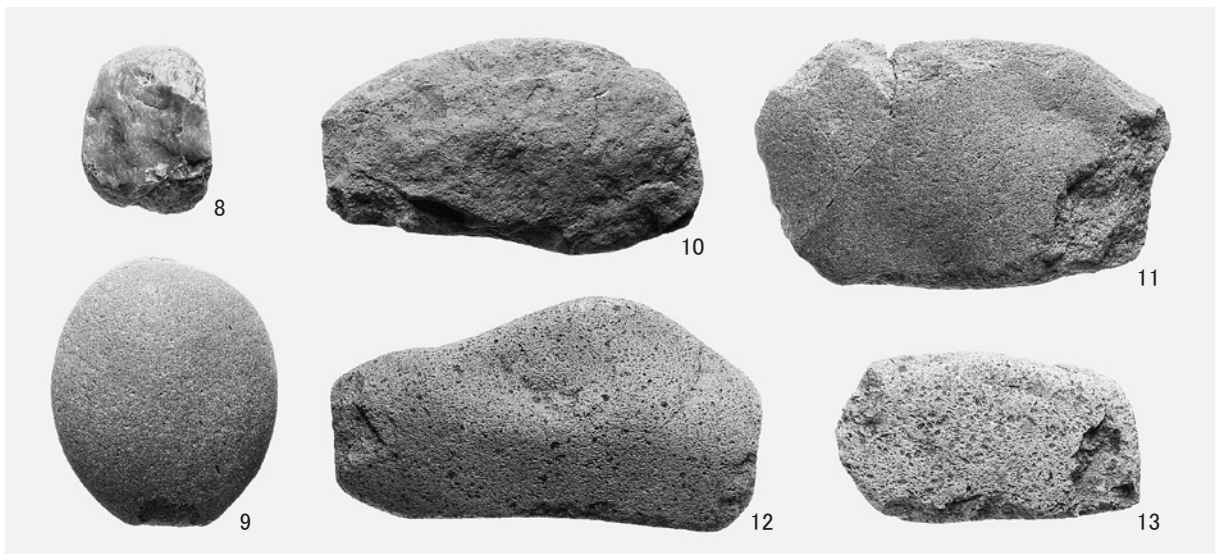


2. H-2 出土の石器 (2)

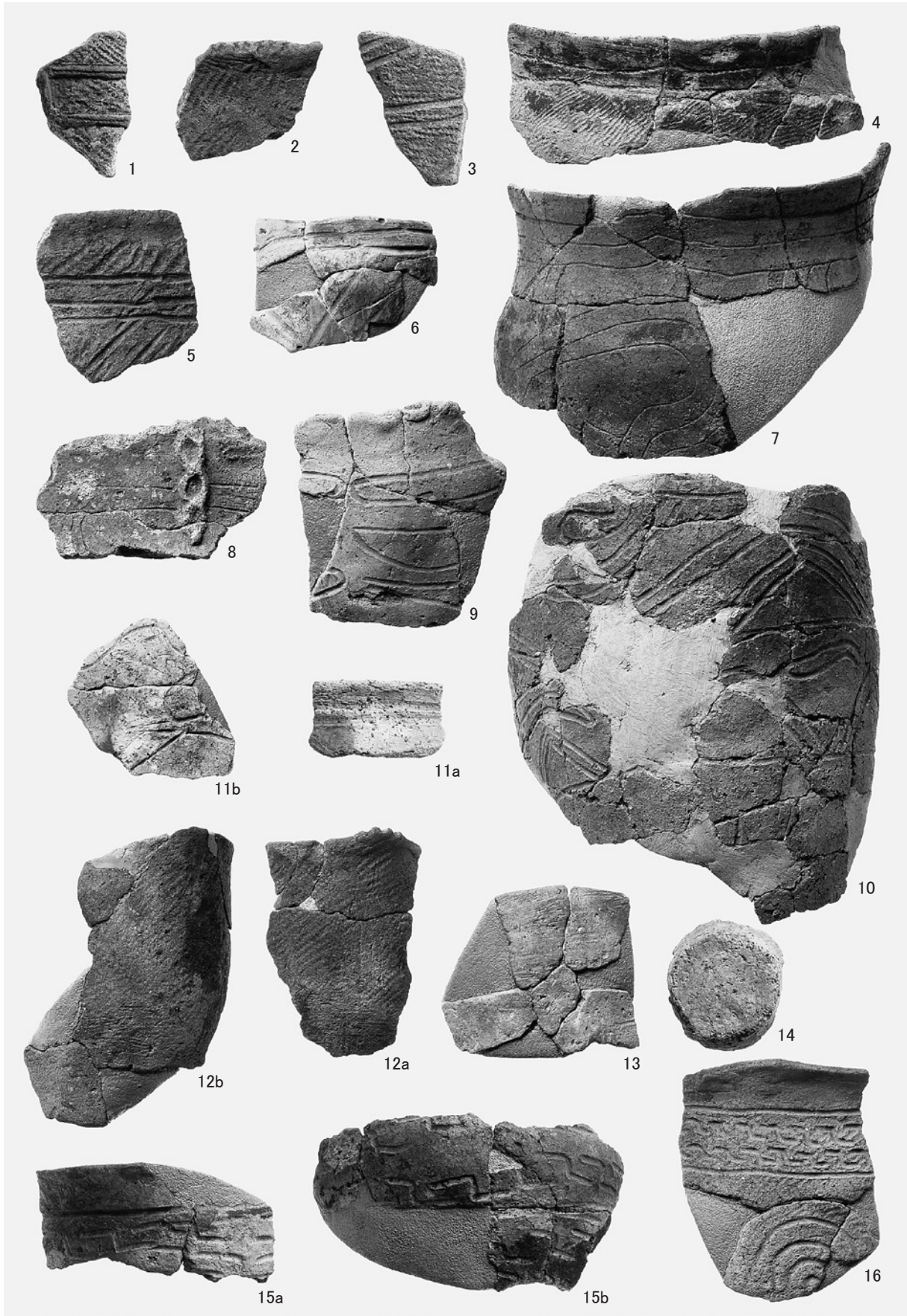


1. H-3 出土の土器

2. H-3 出土の石器(1)

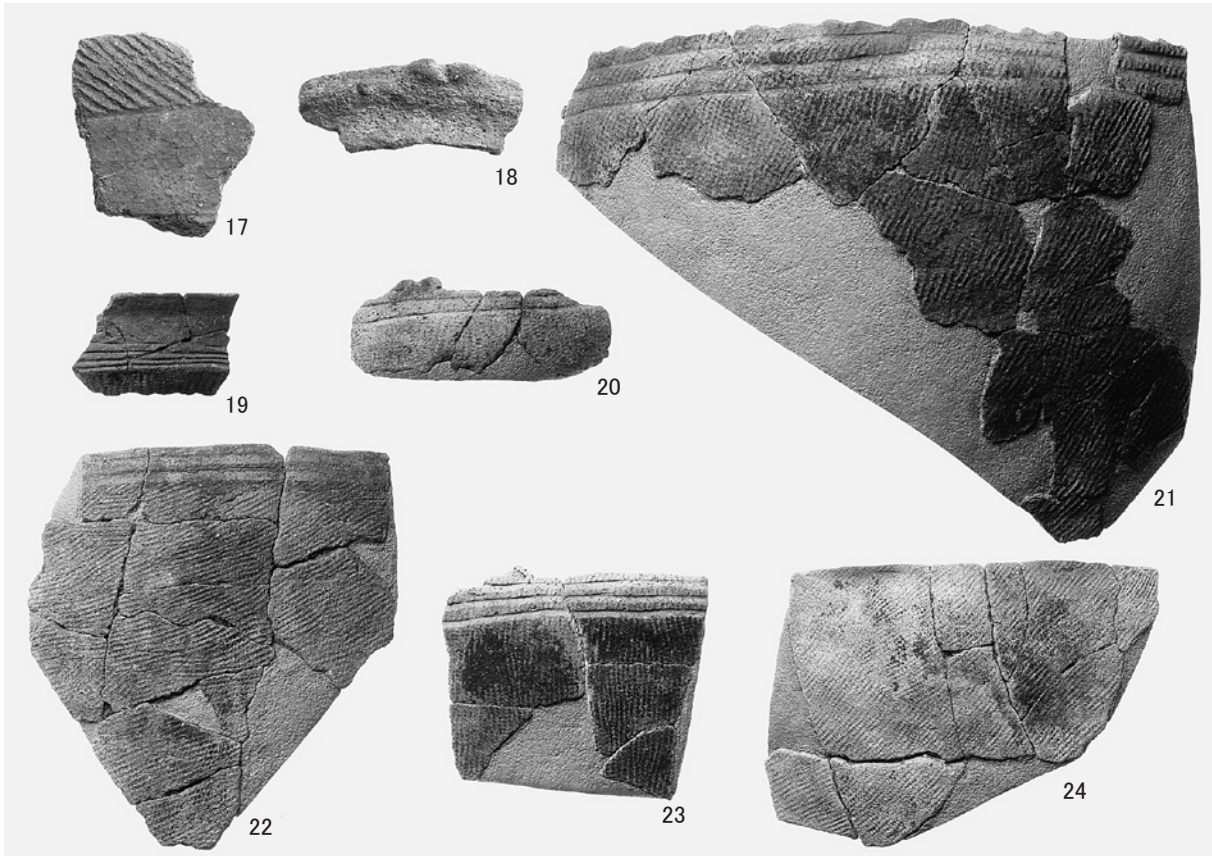


3. H-3 出土の石器(2)

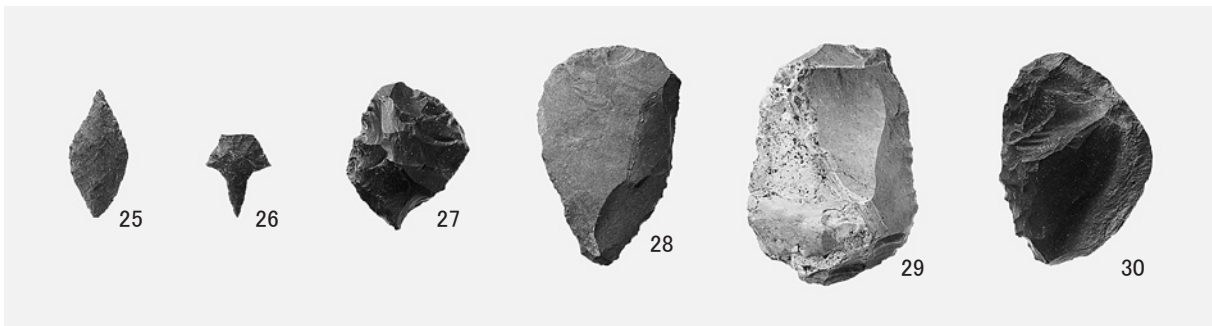


1. H-4 出土の土器 (1)

図版 50



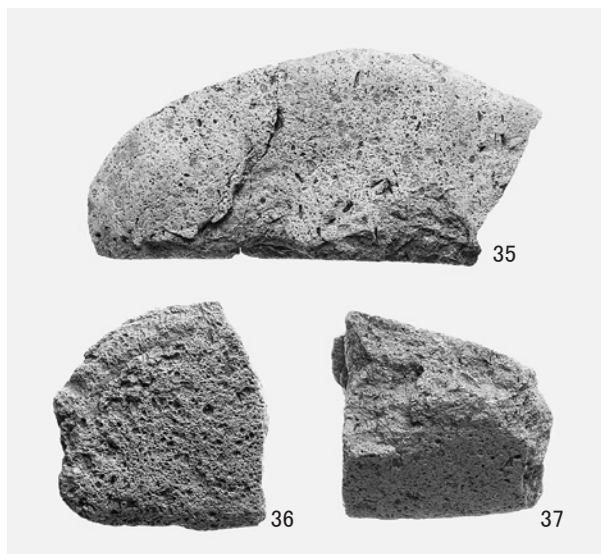
1. H-4 出土の土器 (2)



2. H-4 出土の石器 (1)



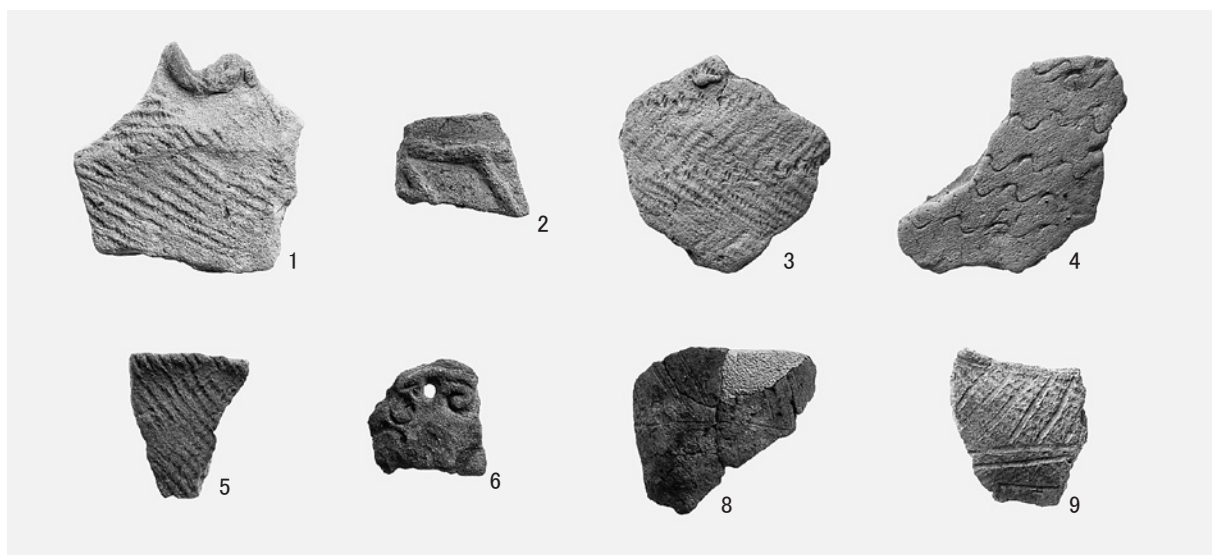
3. H-4 出土の石器 (2)



1. H-4 出土の石器 (3)



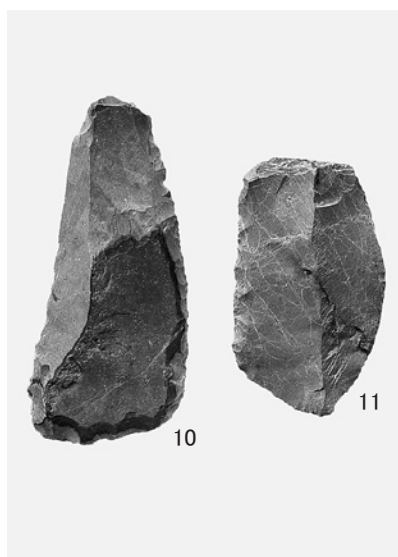
2. H-4 出土の石器 (4)



3. H-5 出土の土器 (1)



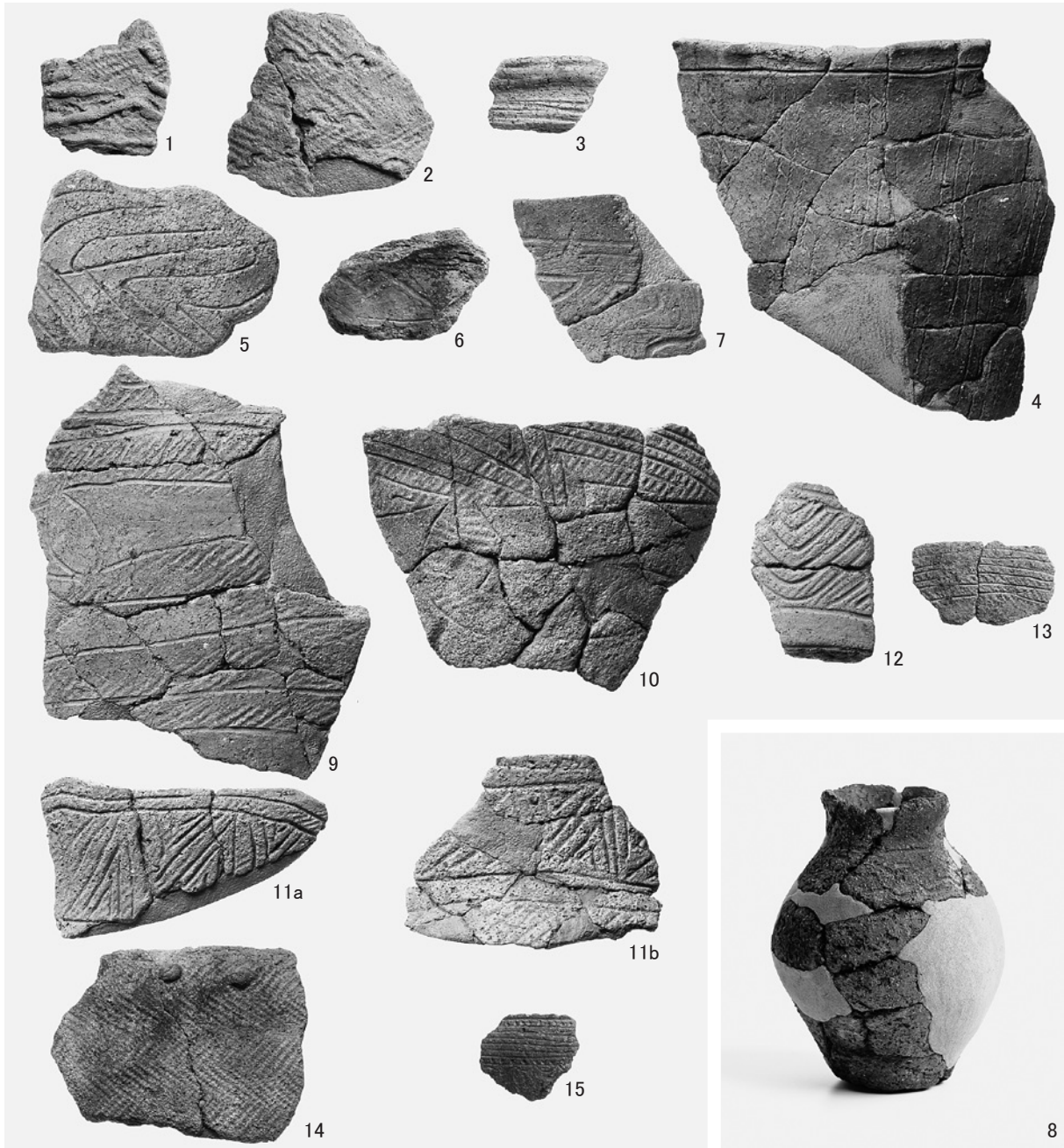
4. H-5 出土の土器 (2)



5. H-5 出土の石器 (1)

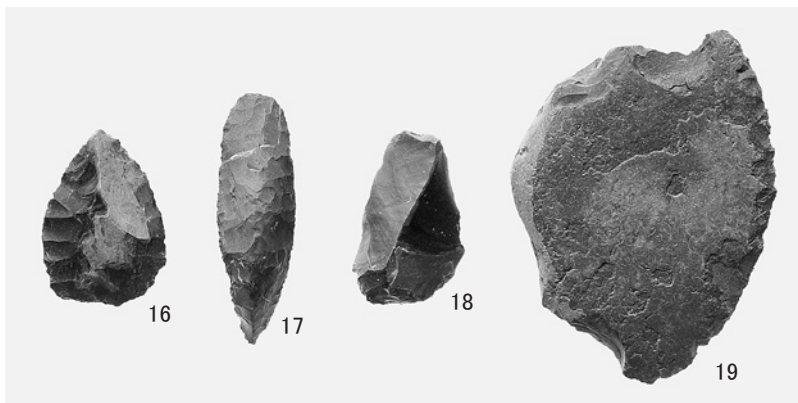


6. H-5 出土の石器 (2)

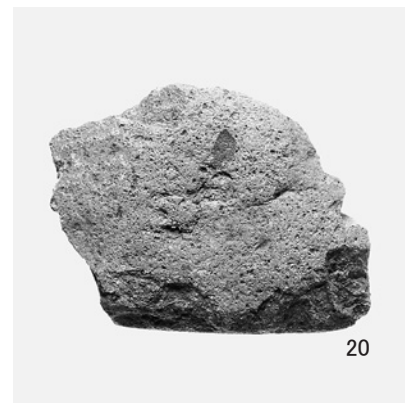


1. H-6 出土の土器 (1)

2. H-6 出土の土器 (2)



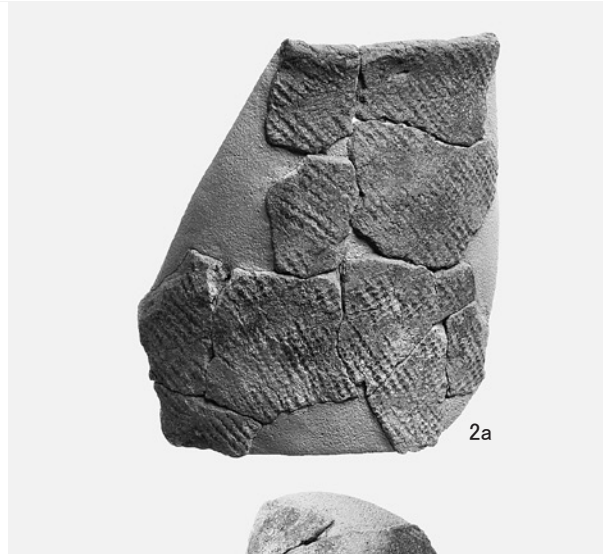
3. H-6 出土の石器 (1)



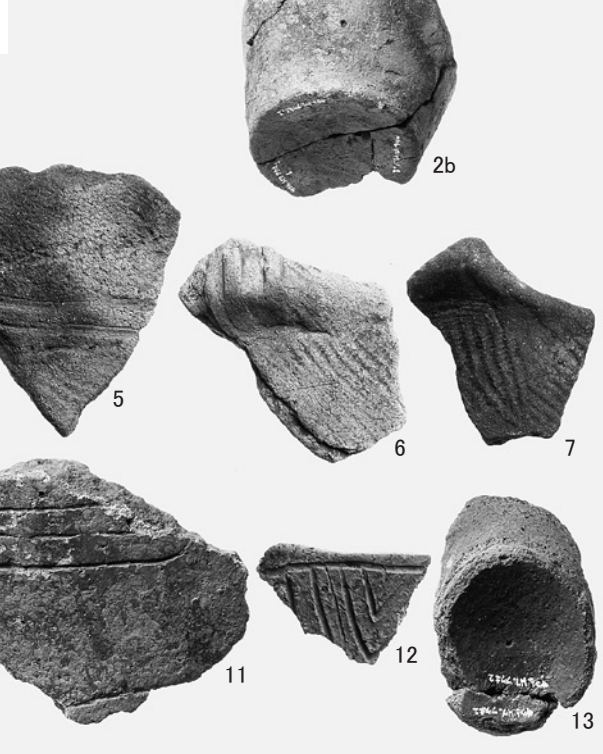
4. H-6 出土の石器 (2)



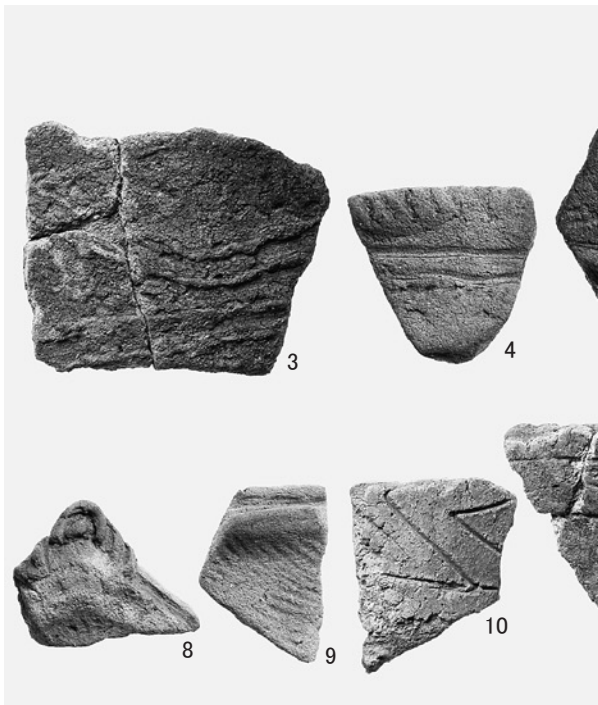
1. H-7 出土の土器 (1)



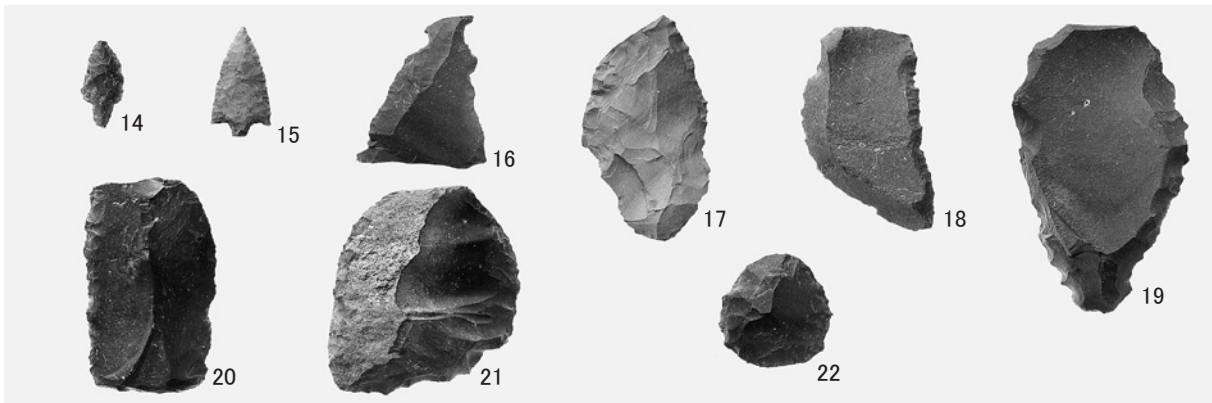
2a



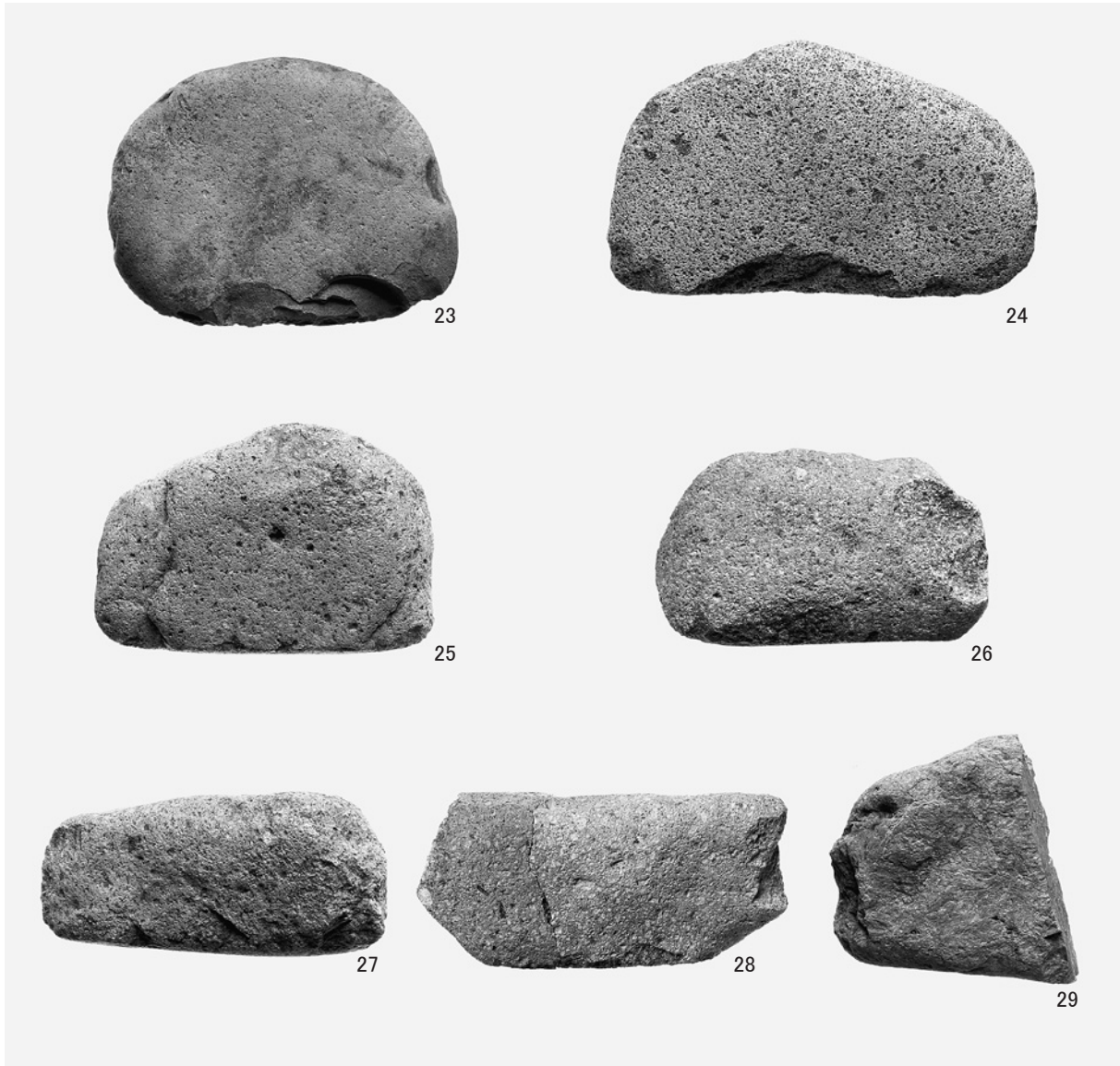
2b



2. H-7 出土の土器 (2)



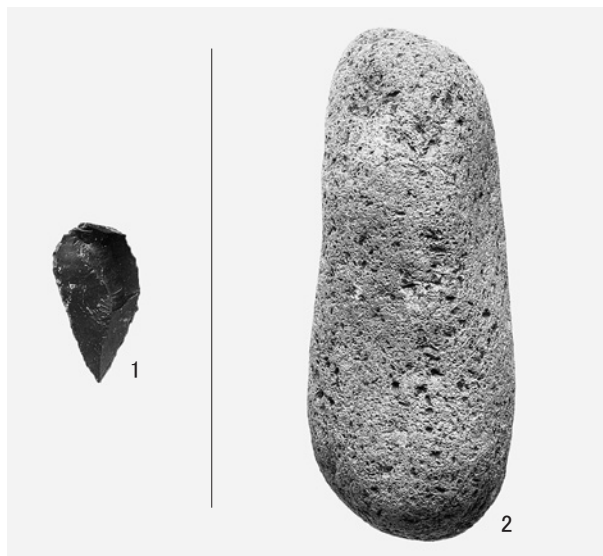
3. H-7 出土の石器 (1)



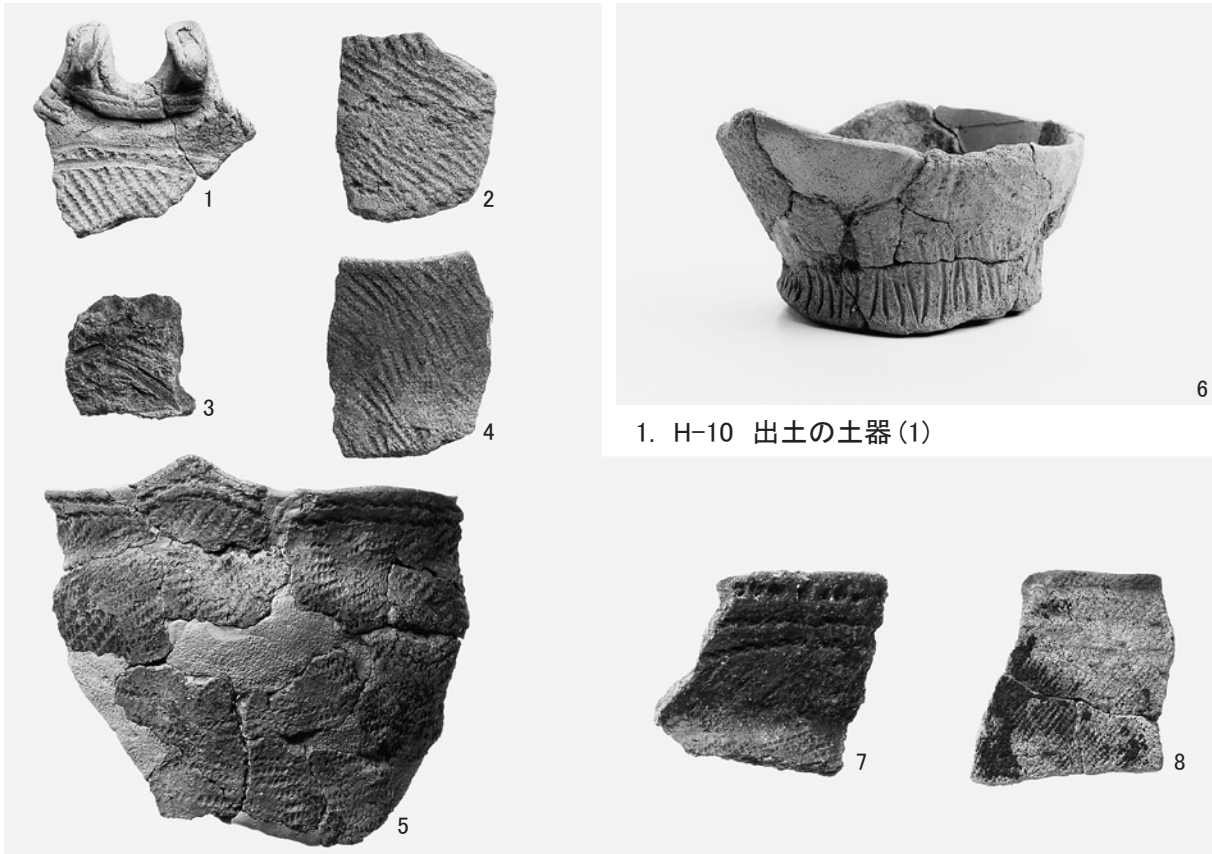
1. H-7 出土の石器 (2)



2. H-7 出土の石器 (3)

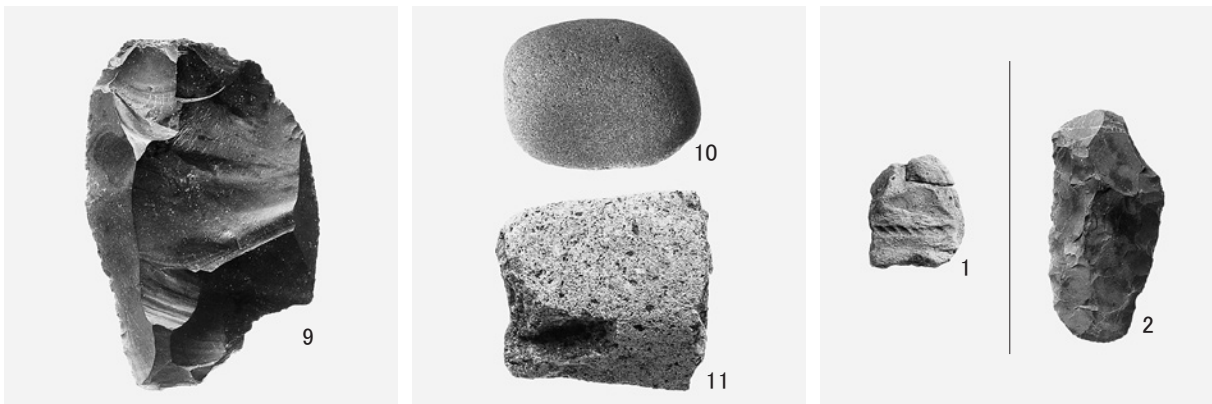


3. H-9 出土の石器



1. H-10 出土の土器 (1)

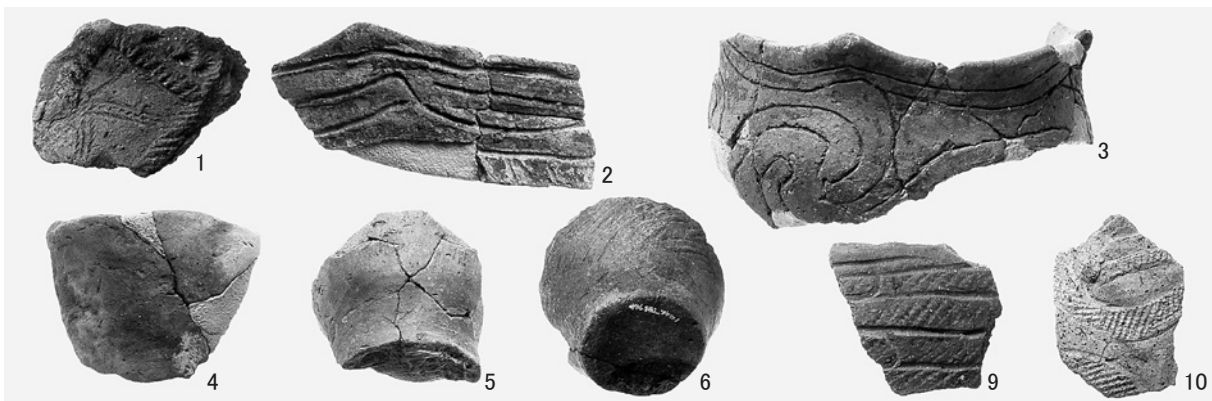
2. H-10 出土の土器 (2)



3. H-10 出土の石器 (1)

4. H-10 出土の石器 (2)

5. H-11 出土の遺物



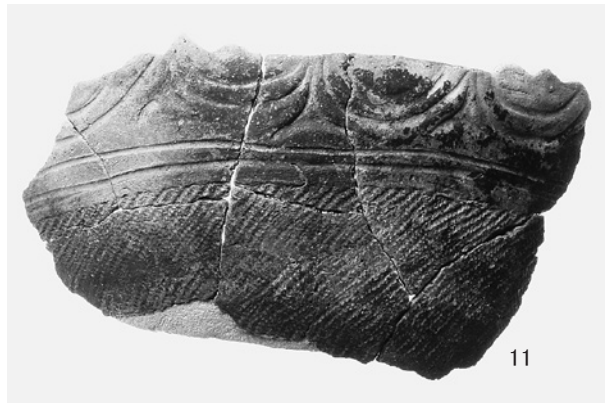
6. H-12 出土の土器 (1)



1. H-12 出土の土器(2)



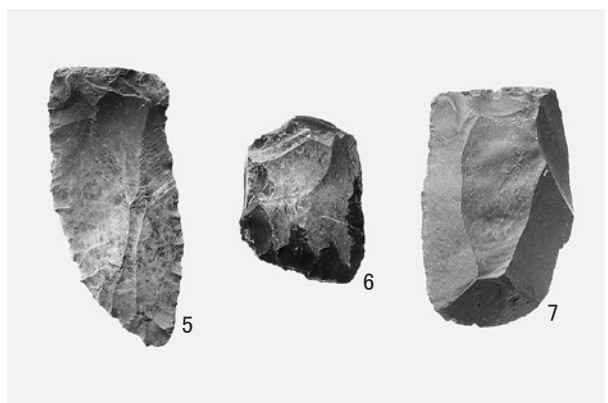
2. H-12 出土の土器(3)



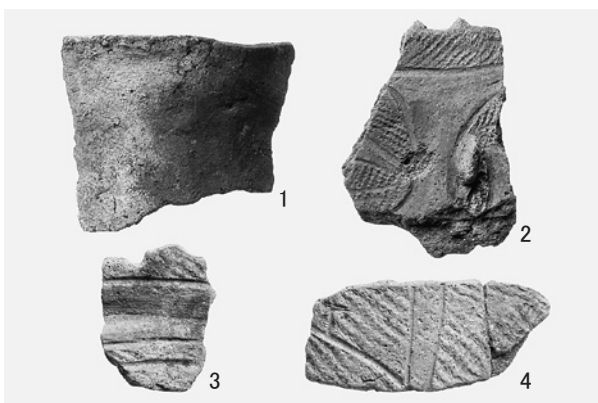
3. H-12 出土の土器(4)



4. H-12 出土の石器



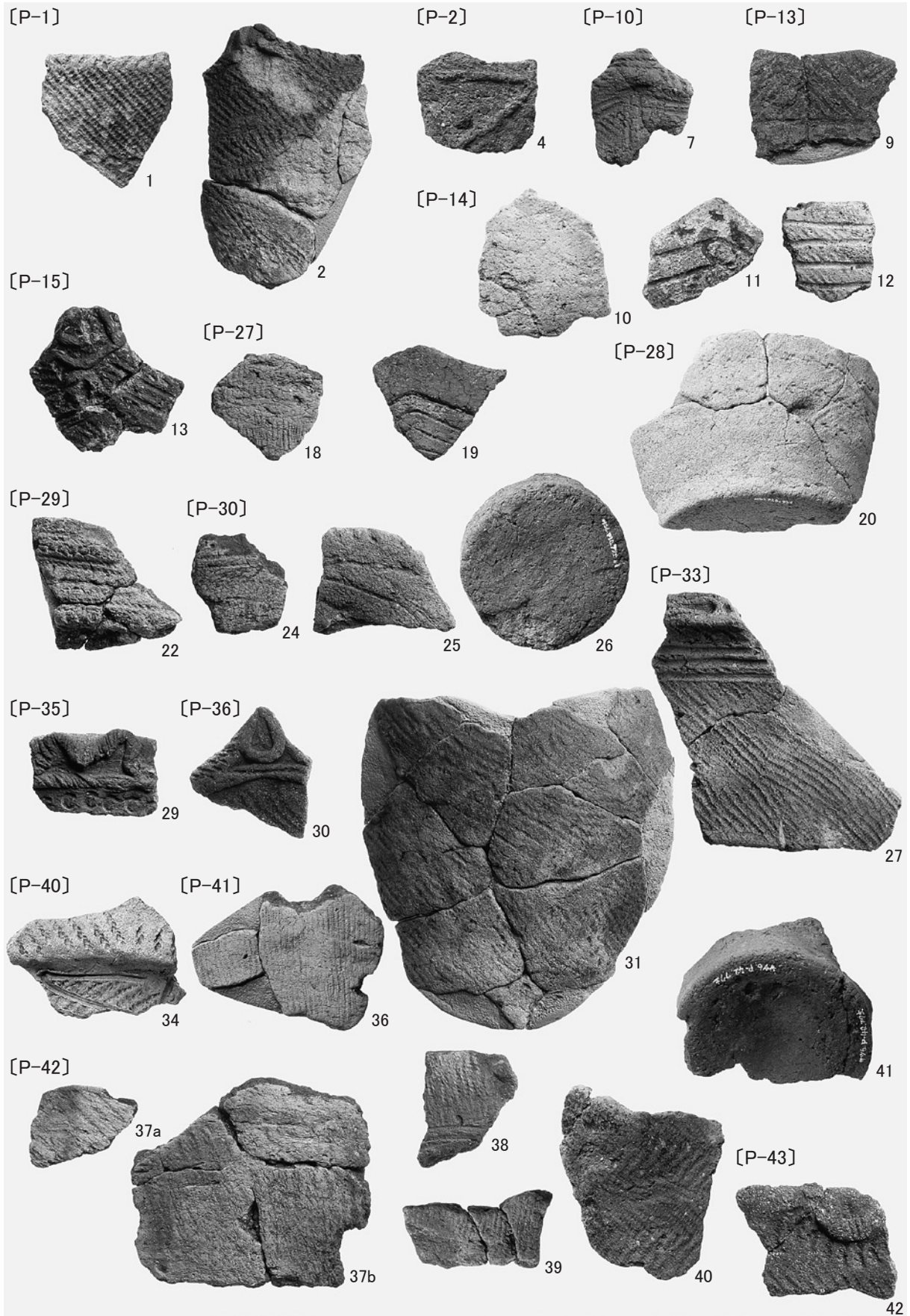
6. H-13 出土の石器(1)



5. H-13 出土の土器

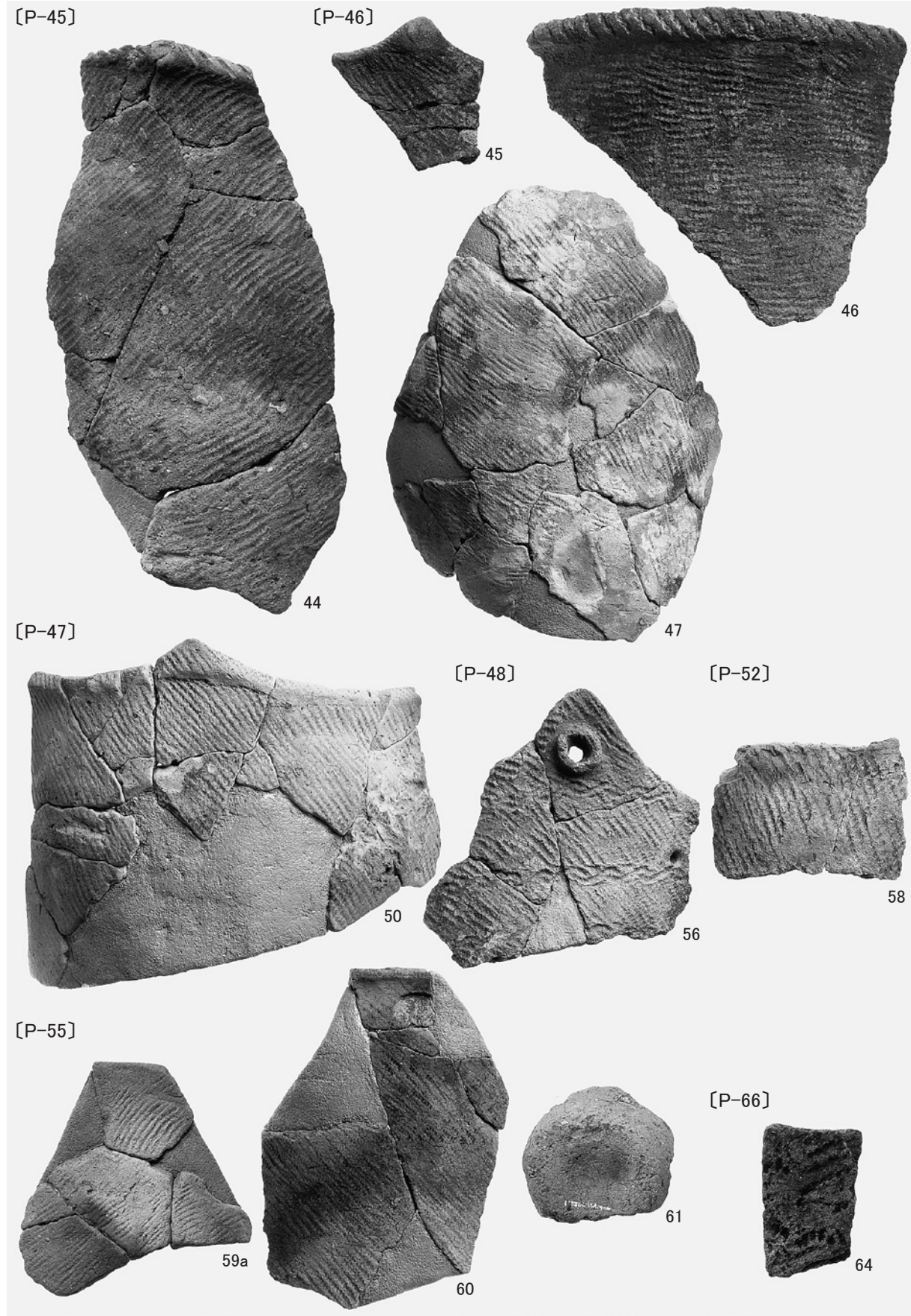


7. H-13 出土の石器(2)



1. 土坑出土の土器(1)

図版 58



1. 土坑出土の土器(2)



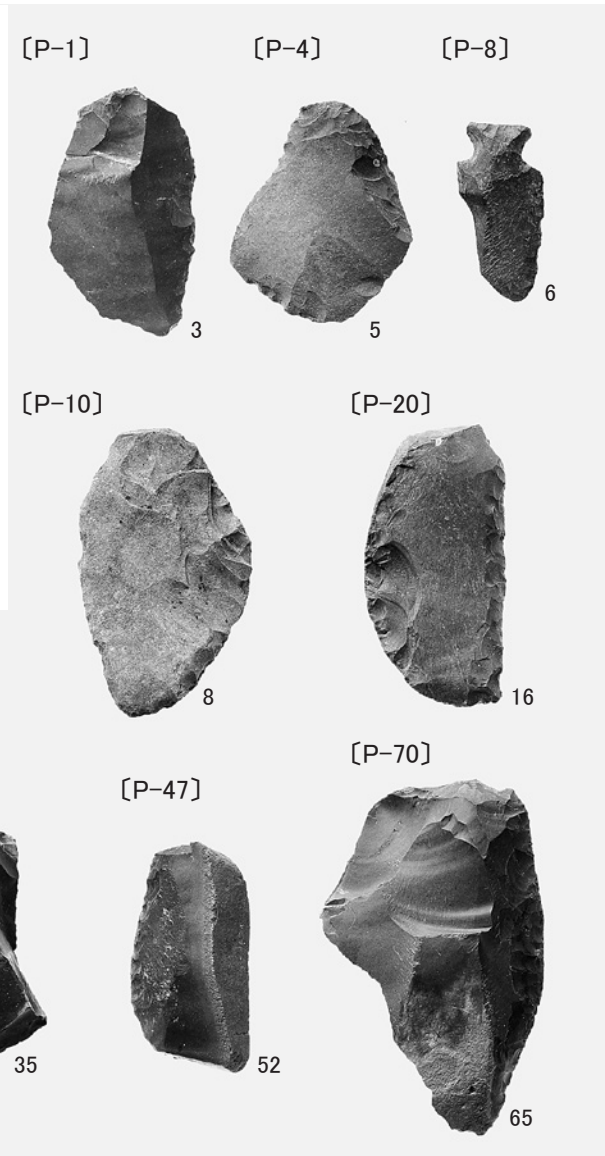
1. 土坑出土の土器 (3)



2. 土坑出土の土器 (4)

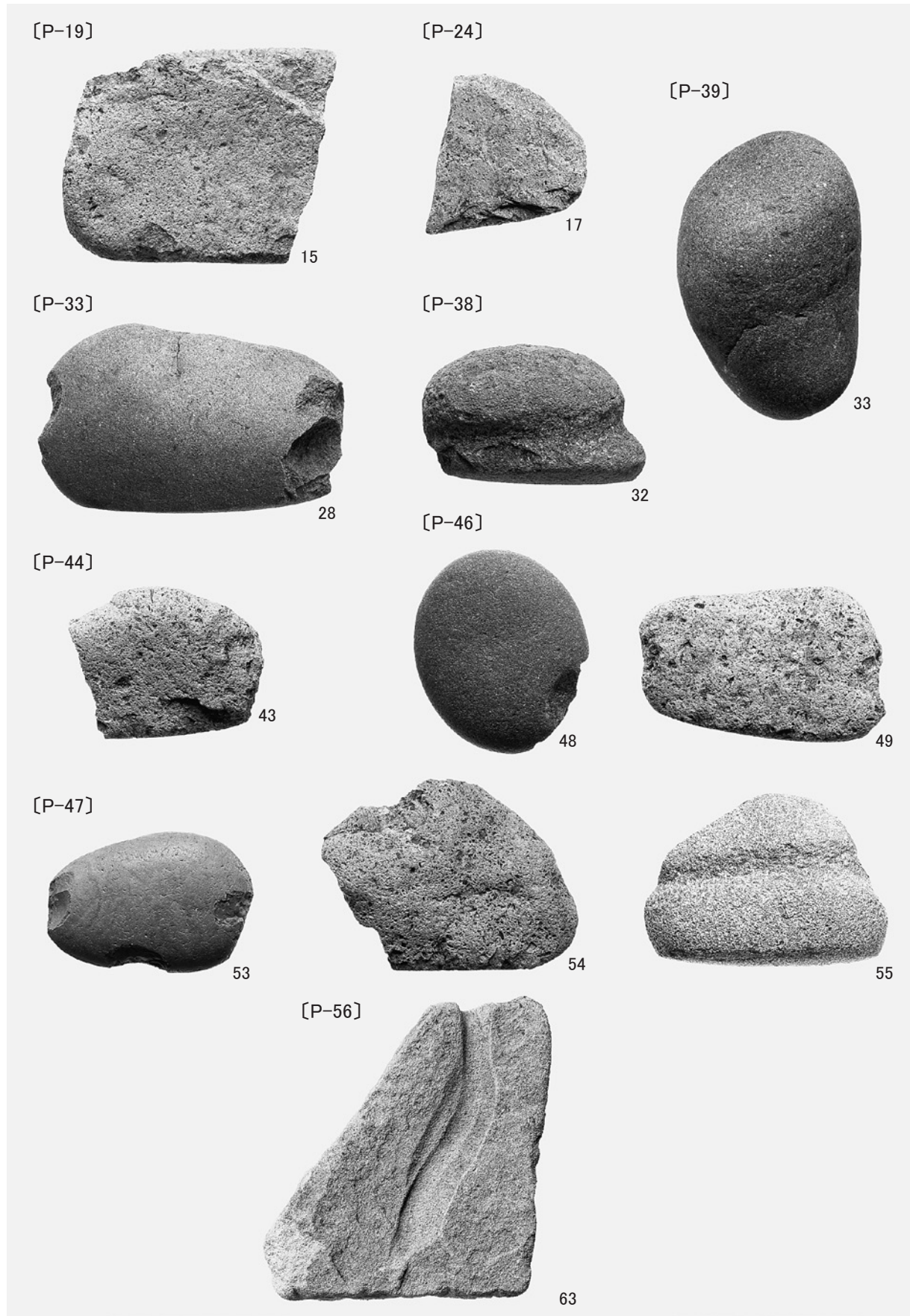


3. 土坑出土の土器 (5)



4. 土坑出土の石器 (1)

図版 60



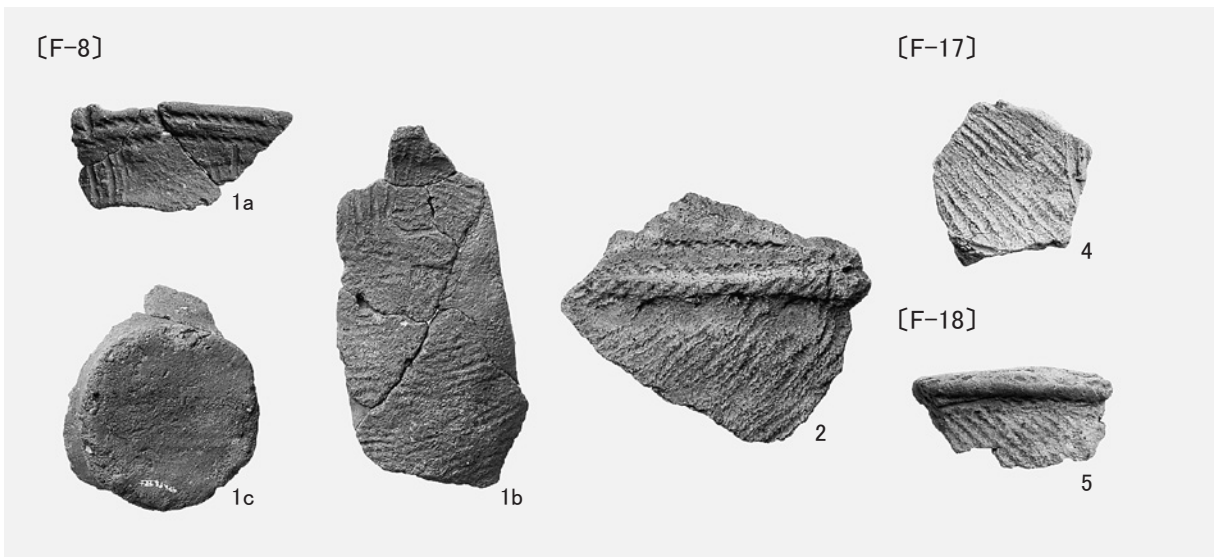
1. 土坑出土の石器 (2)



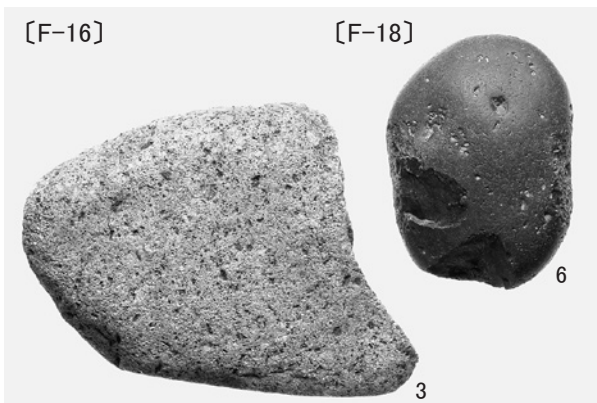
1. 土坑出土の石器 (3)



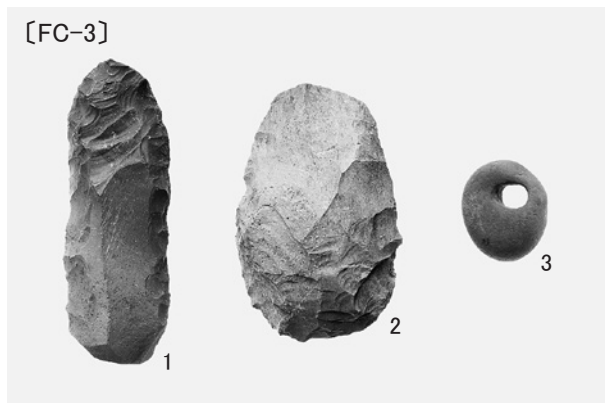
2. 土坑出土の石器 (4)



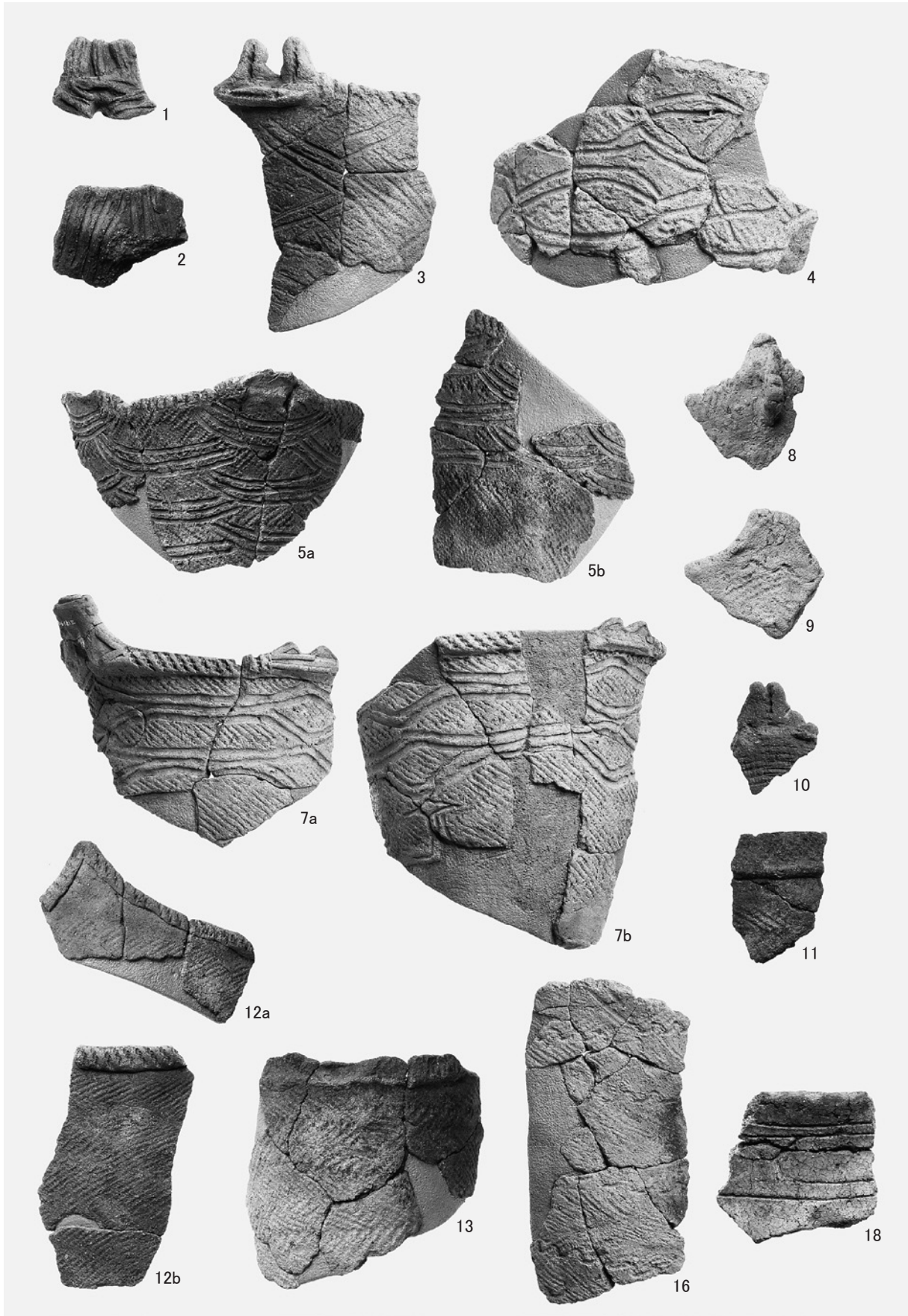
3. 焼土出土の土器



4. 焼土出土の石器



5. フレイクチップ集中出土の石器等



1. 遺物集中1 出土の土器(1)



6

1. 遺物集中 1 出土の土器 (2)



14

2. 遺物集中 1 出土の土器 (3)



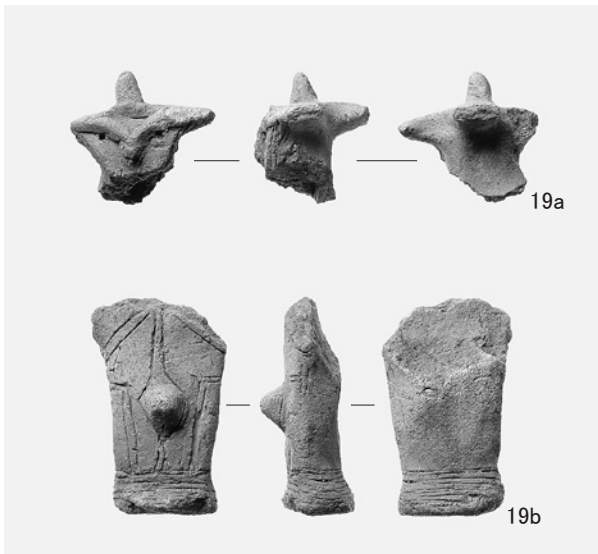
15

3. 遺物集中 1 出土の土器 (4)



17

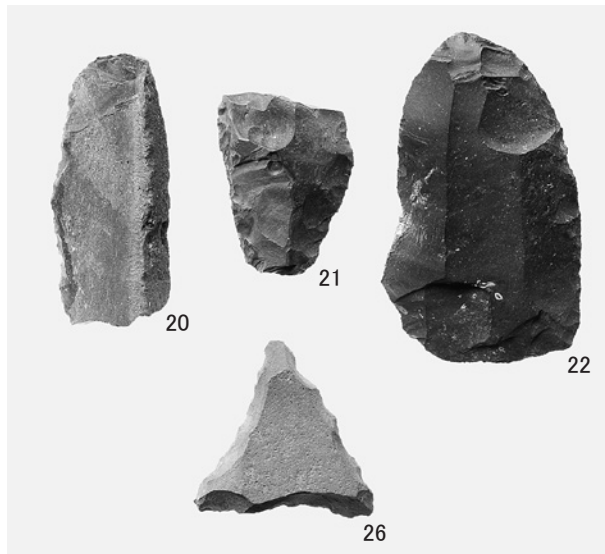
4. 遺物集中 1 出土の土器 (5)



19a

19b

5. 遺物集中 1 出土の土製品



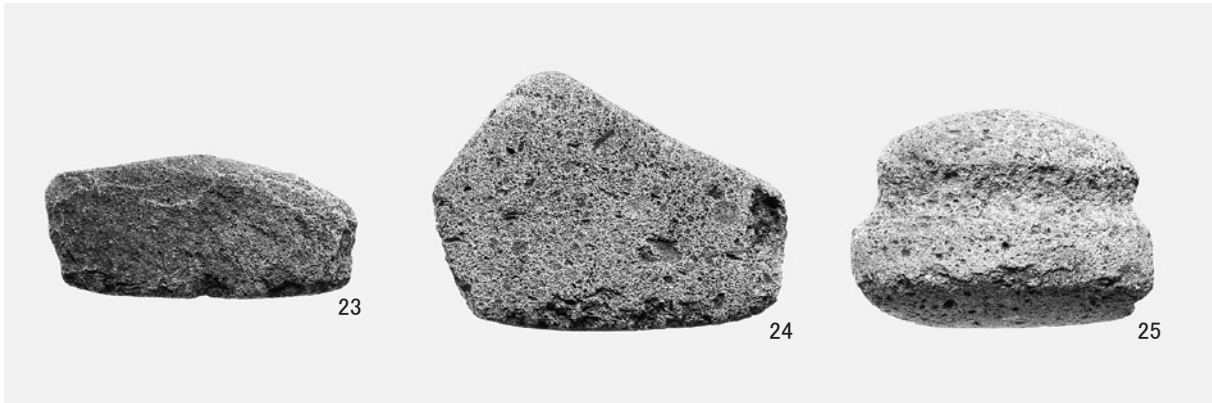
20

21

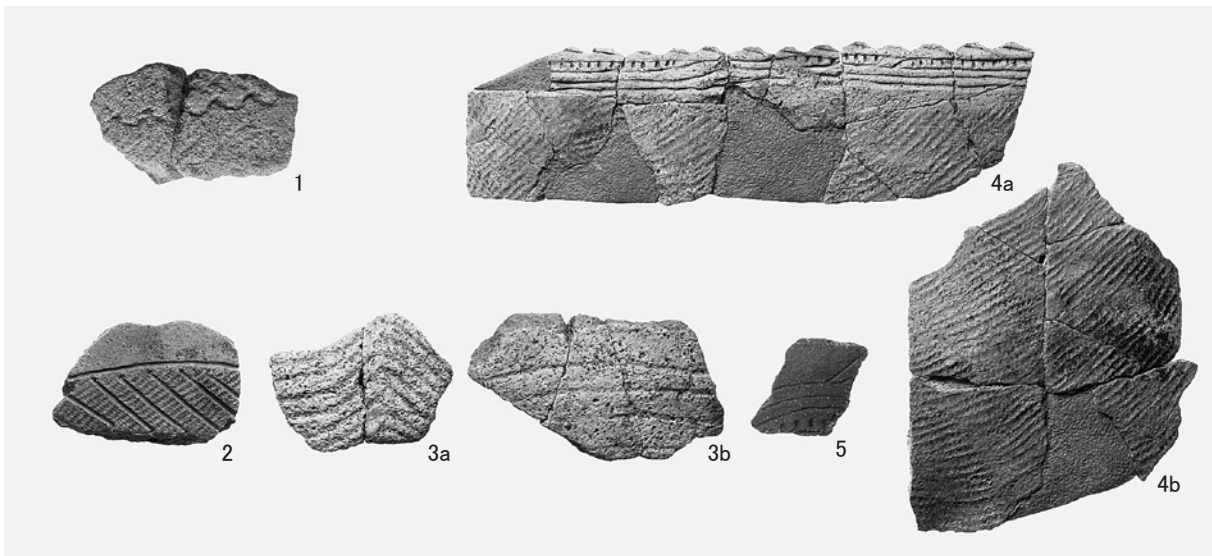
22

26

6. 遺物集中 1 出土の石器等 (1)



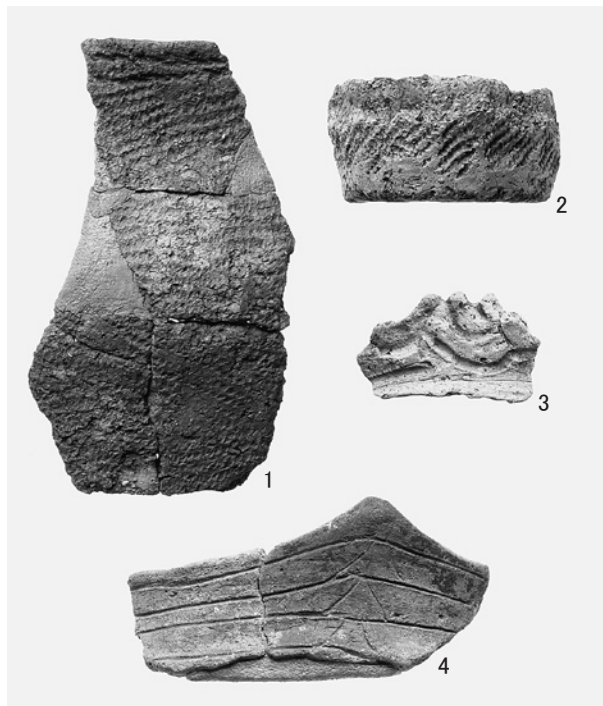
1. 遺物集中 1 出土の石器 (2)



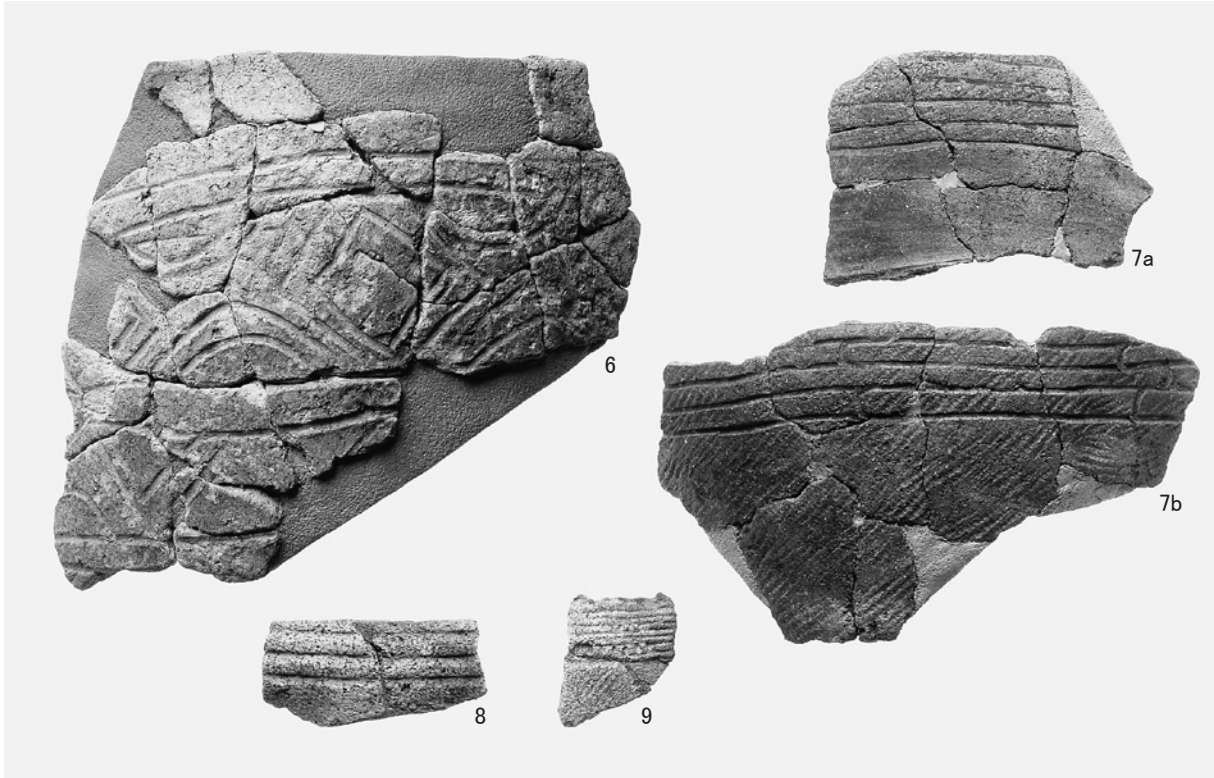
2. 遺物集中 2 出土の土器



3. 遺物集中 3 出土の土器 (1)



4. 遺物集中 3 出土の土器 (2)

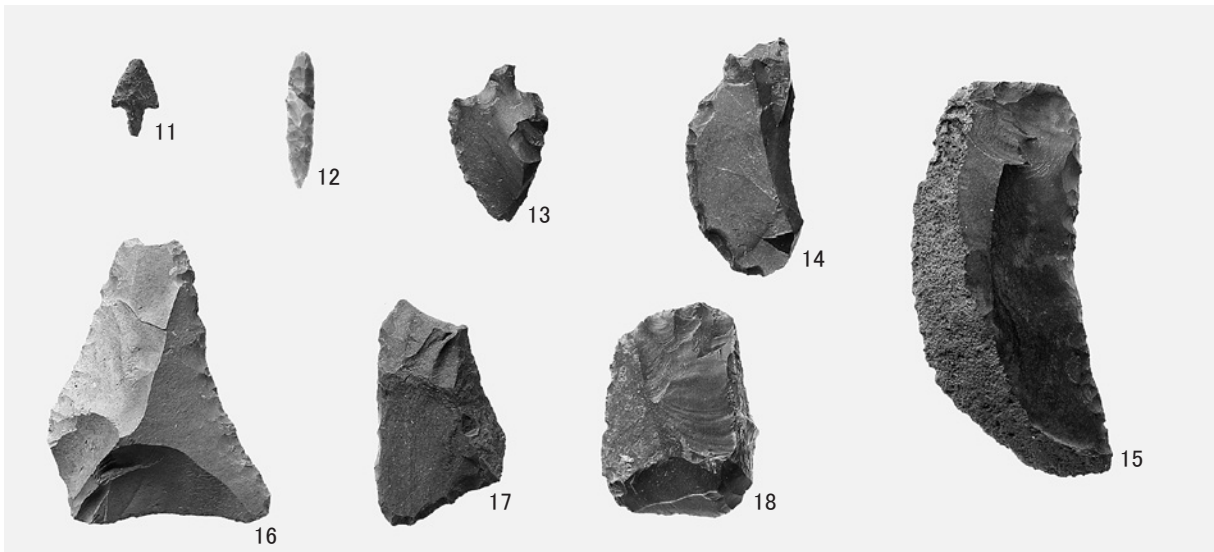


1. 遺物集中 3 出土の土器 (3)

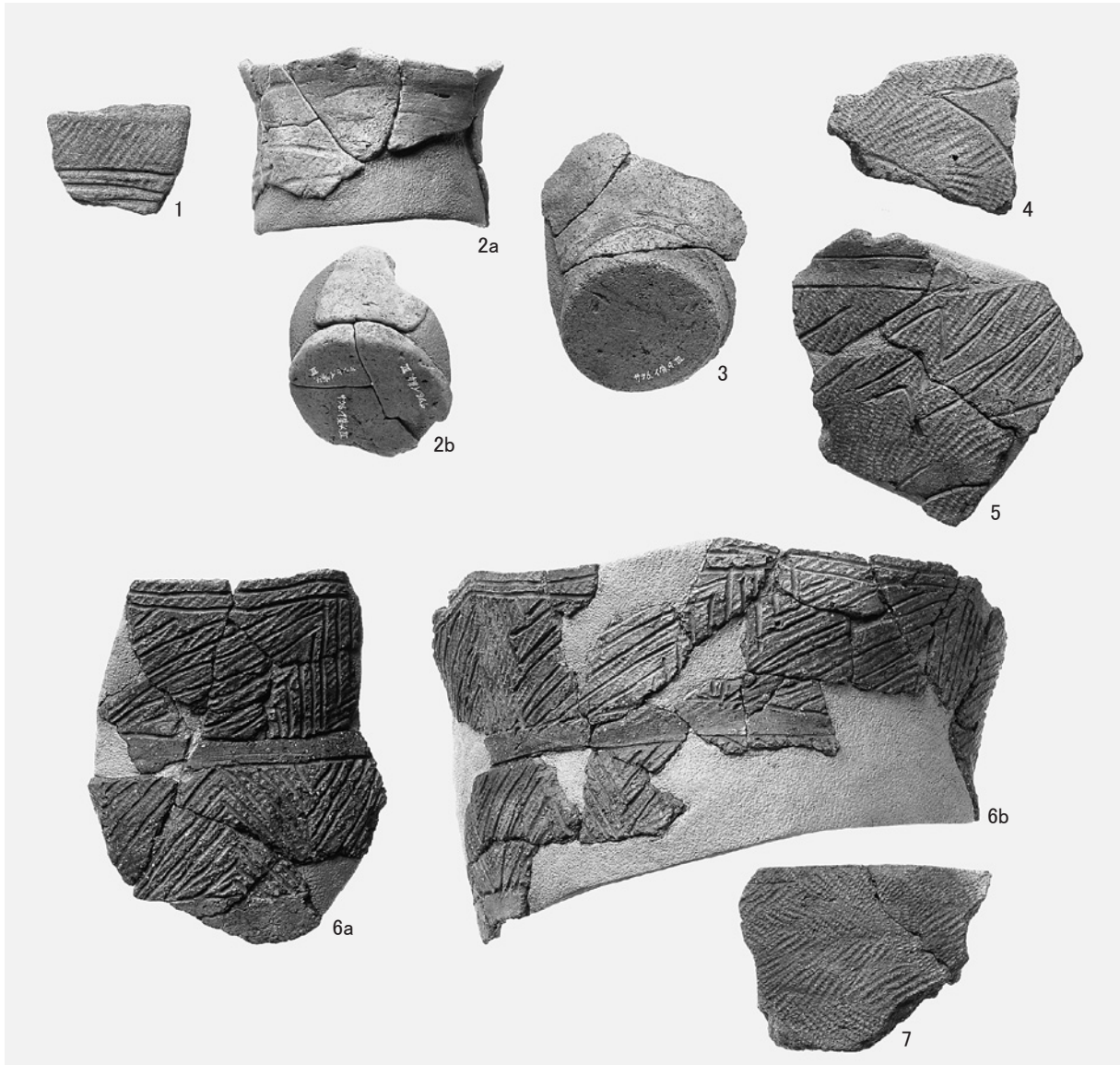


2. 遺物集中 3 出土の土製品

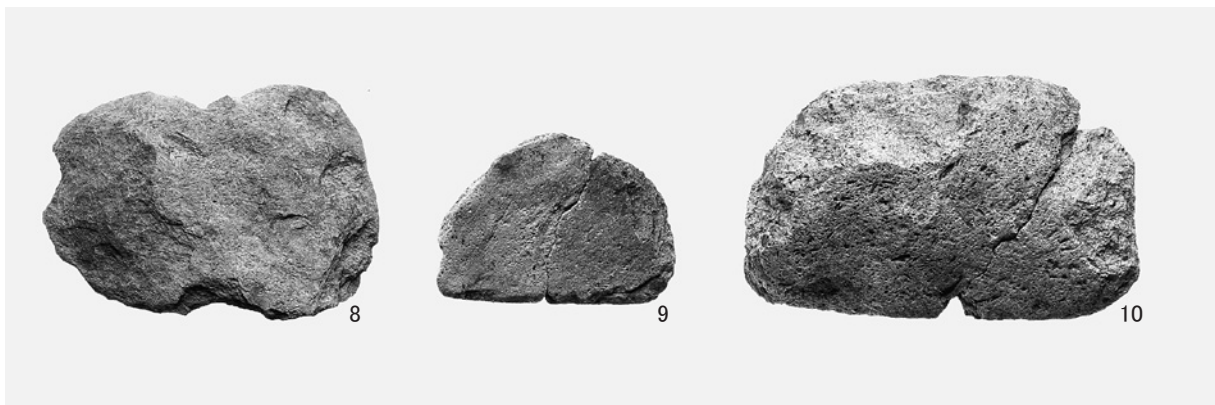
3. 遺物集中 3 出土の石器 (1)



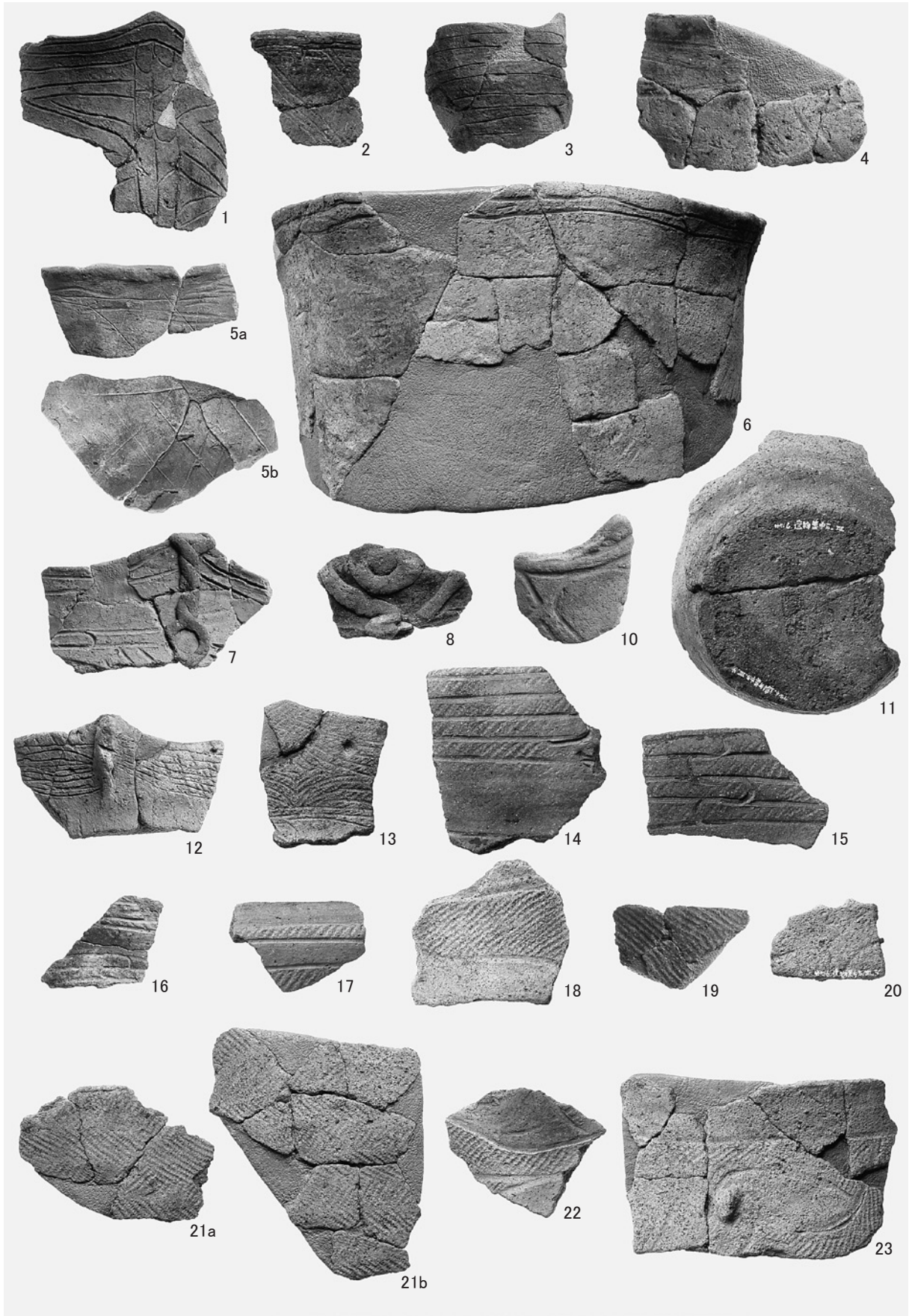
4. 遺物集中 3 出土の土器 (2)



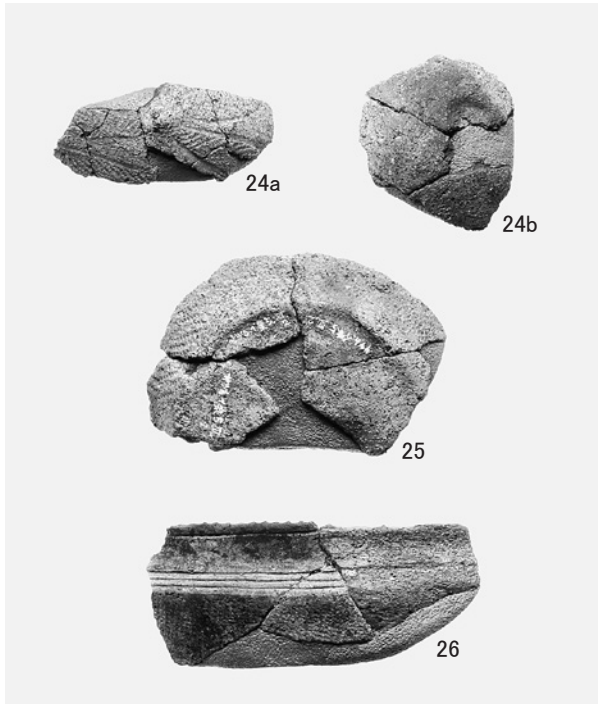
1. 遺物集中 4 出土の土器



2. 遺物集中 4 出土の石器



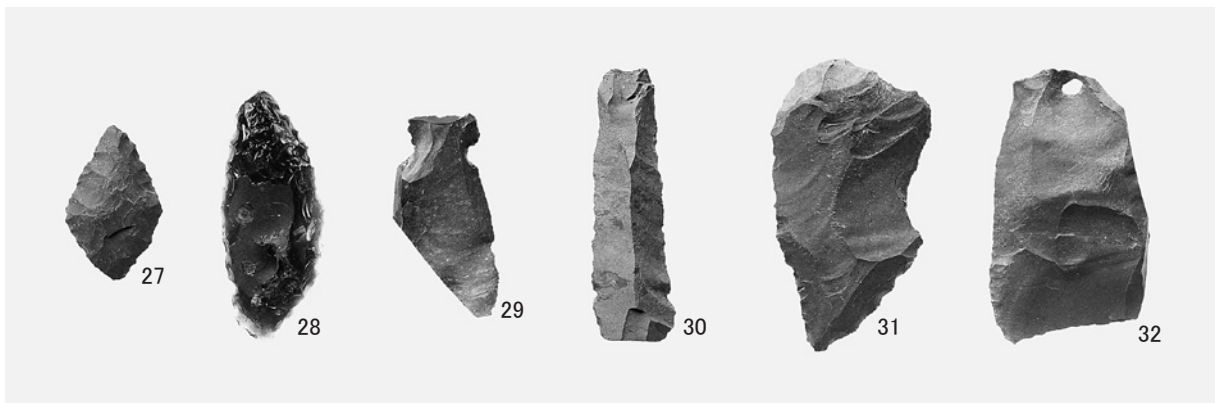
1. 遺物集中 5 出土の土器 (1)



1. 遺物集中 5 出土の土器 (2)



2. 遺物集中 5 出土の土器 (3)



3. 遺物集中 5 出土の石器 (1)



4. 遺物集中 5 出土の石器 (2)



1. 埋設土器 1

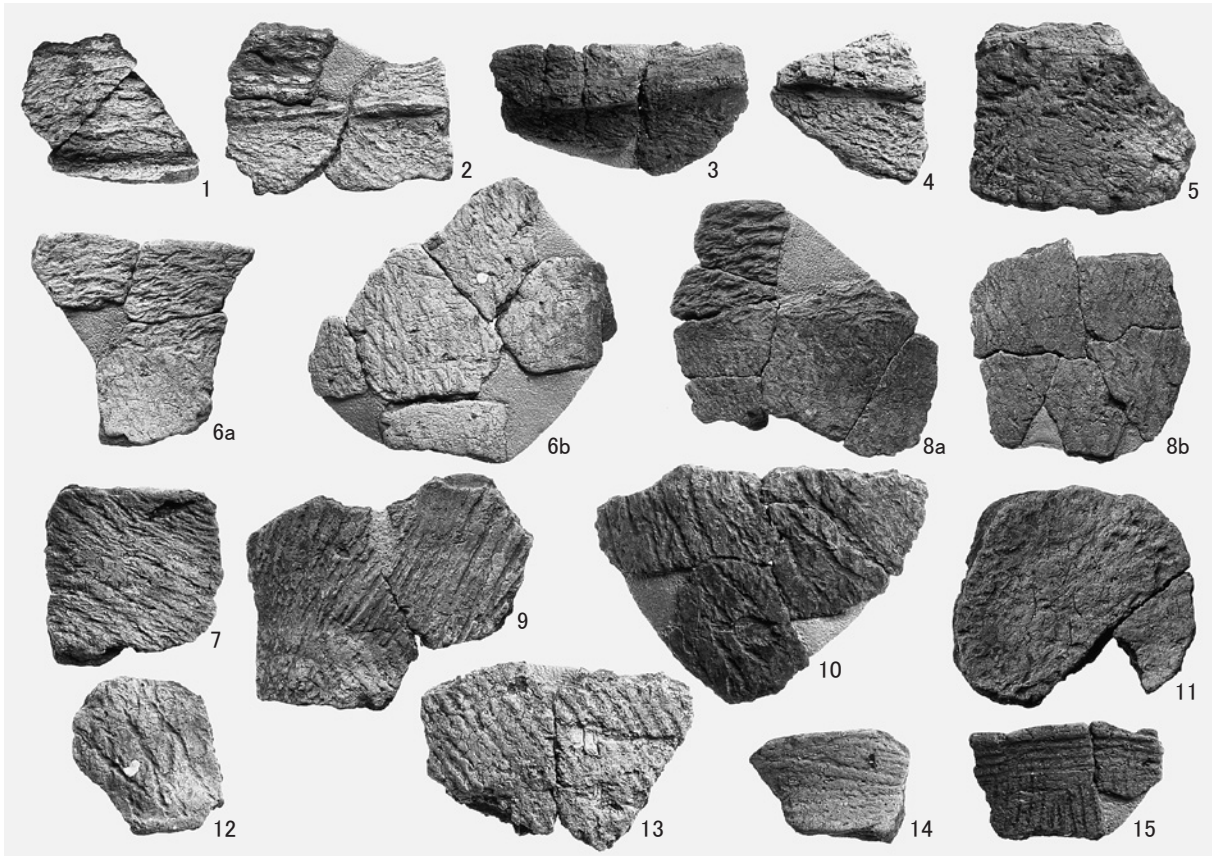


2. 埋設土器 2

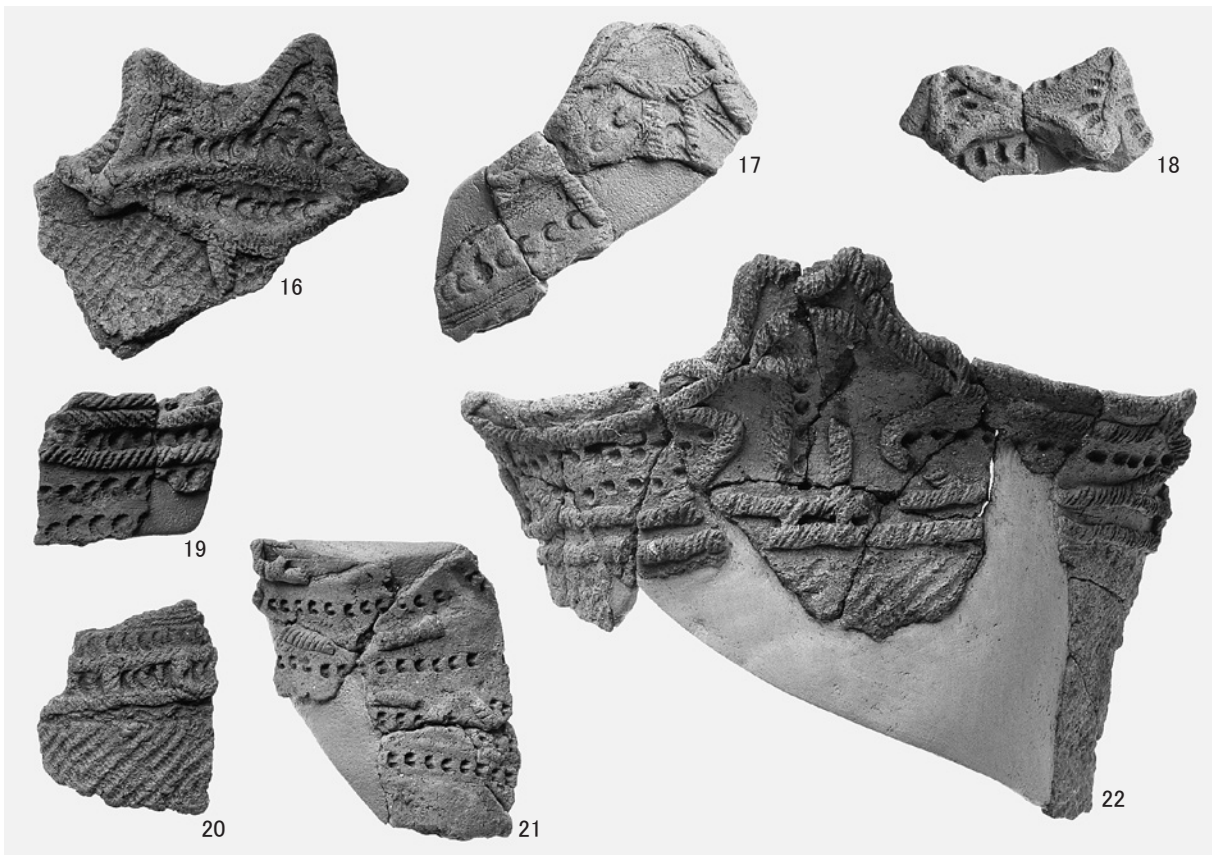


3. 埋設土器 3

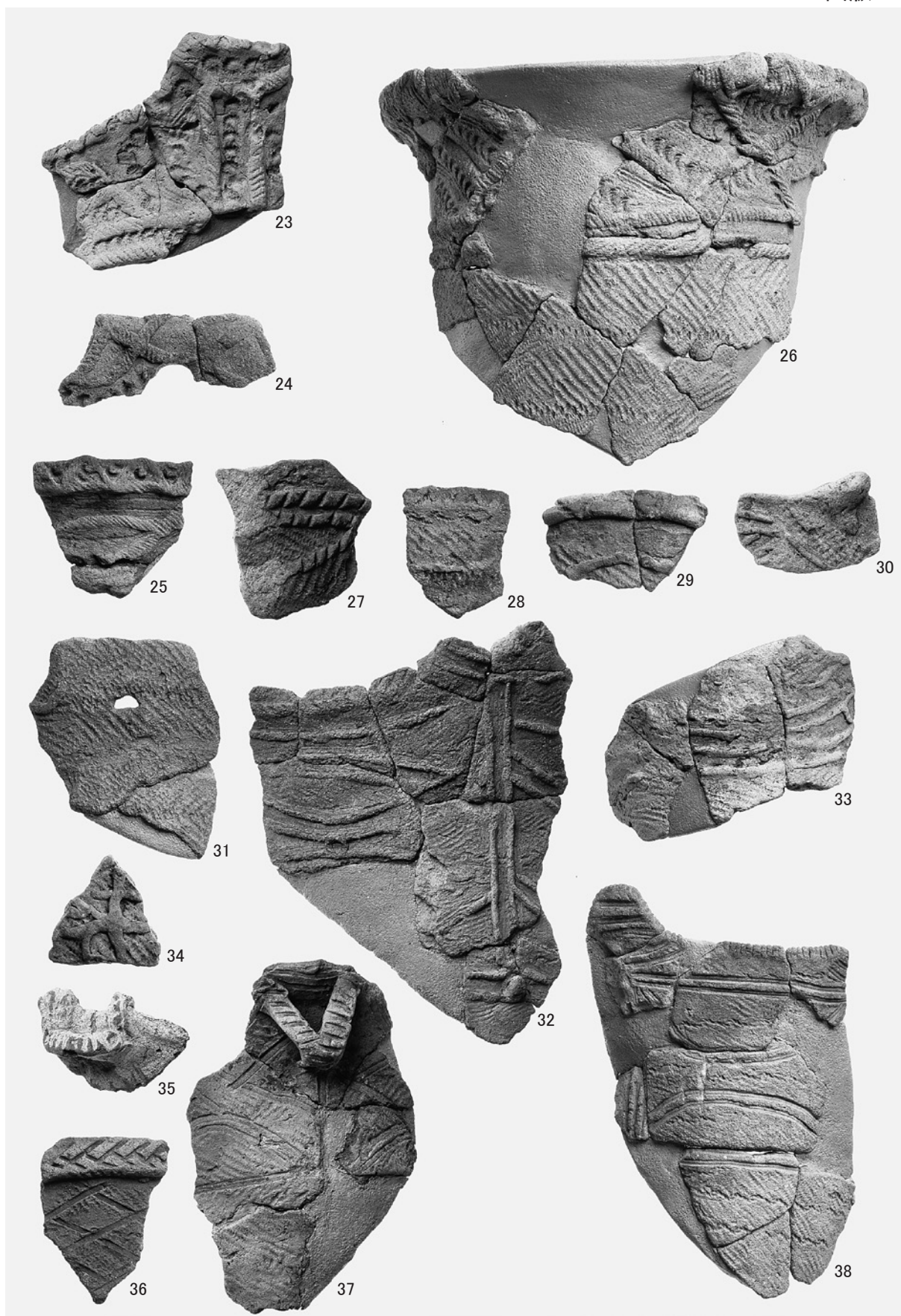
図版 70



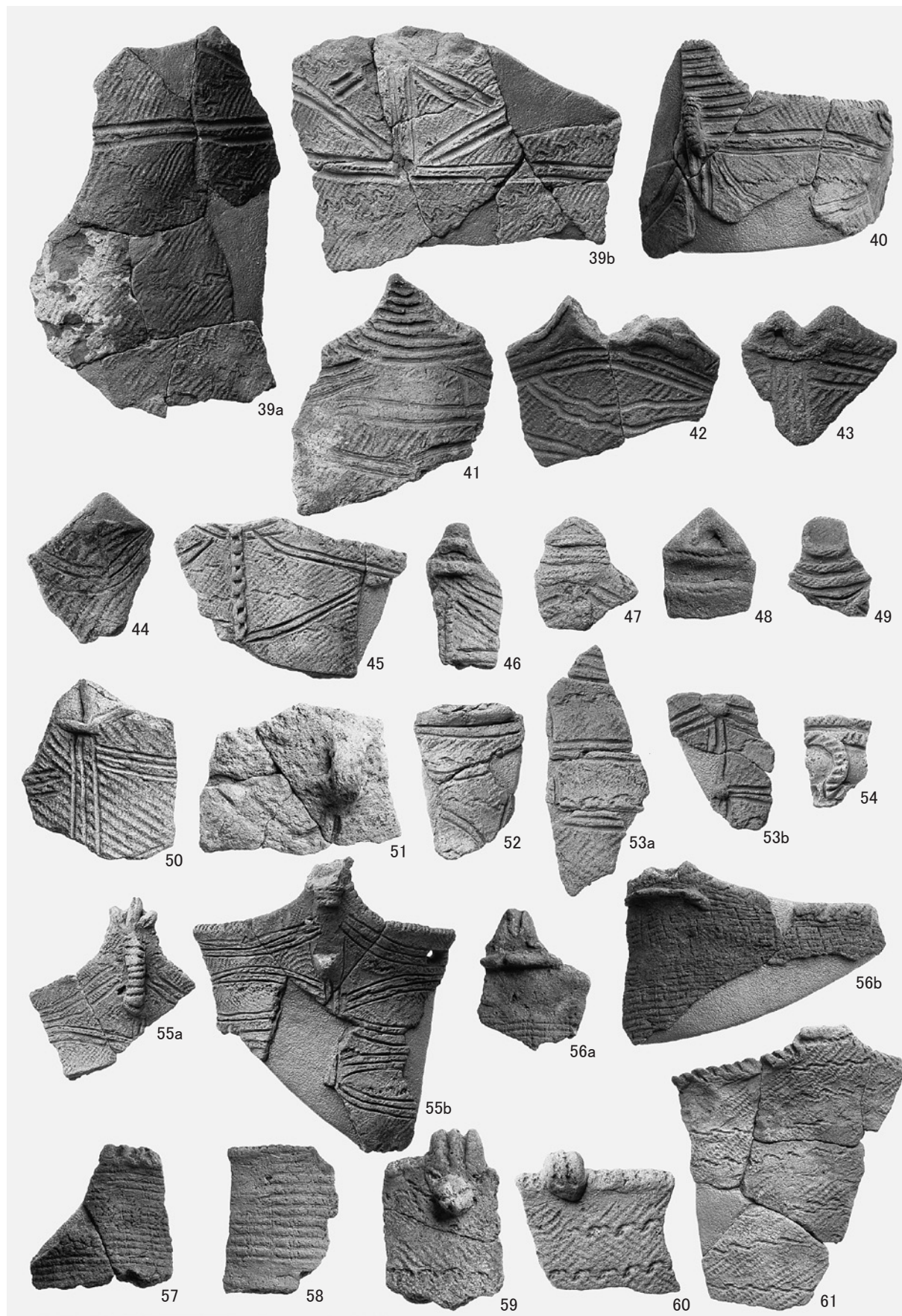
1. 包含層出土の土器 (1)



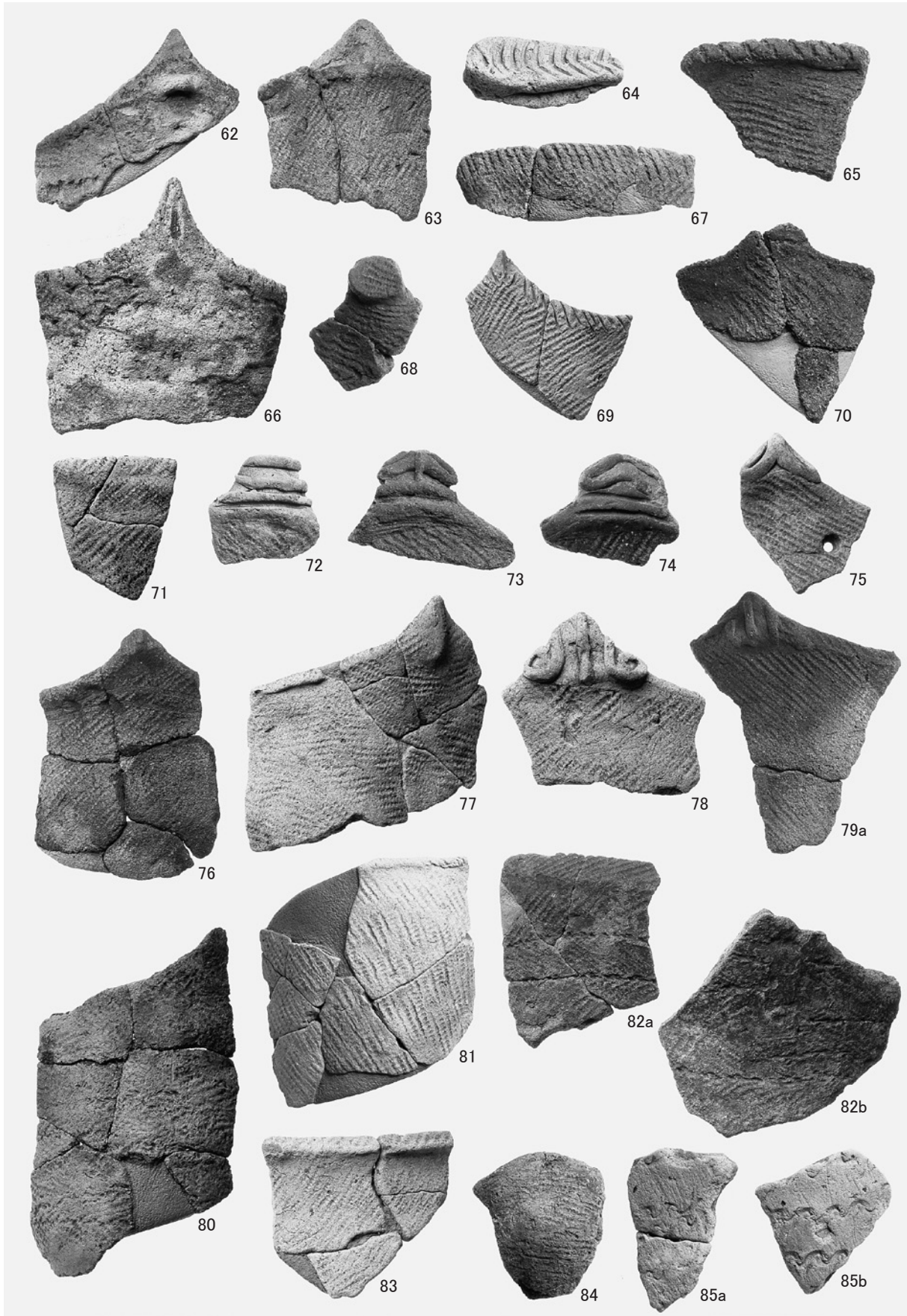
2. 包含層出土の土器 (2)



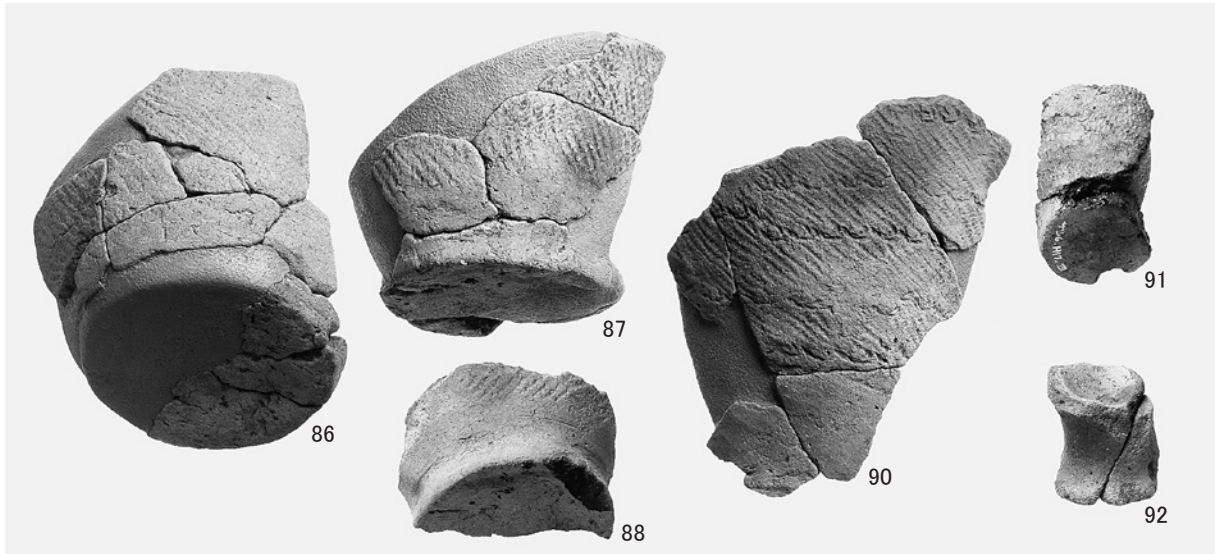
1. 包含層出土の土器 (3)



1. 包含層出土の土器(4)



1. 包含層出土の土器 (5)

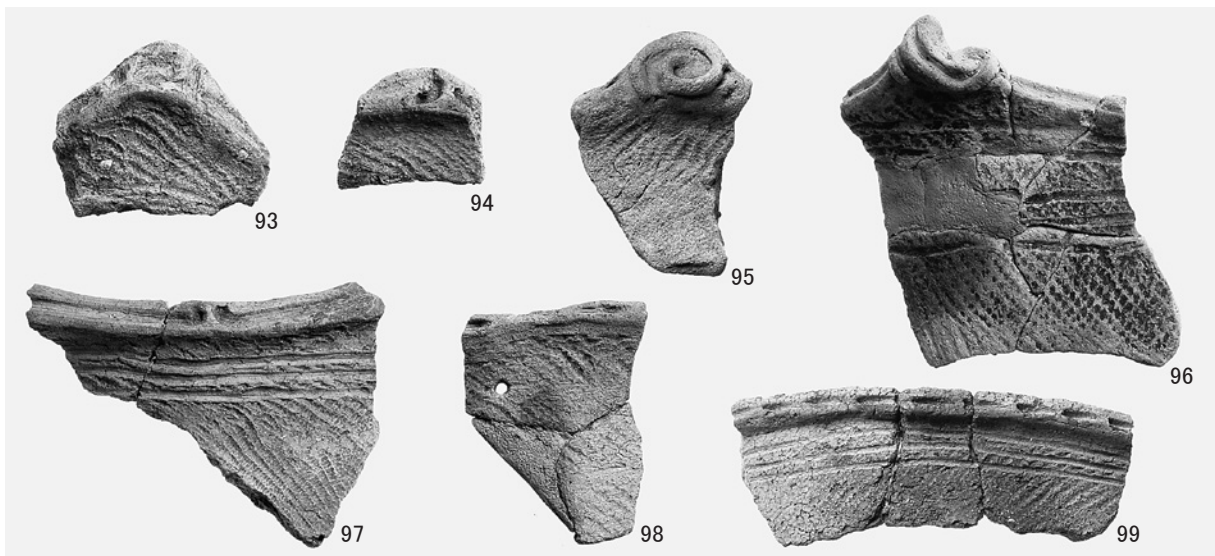


1. 包含層出土の土器 (6)

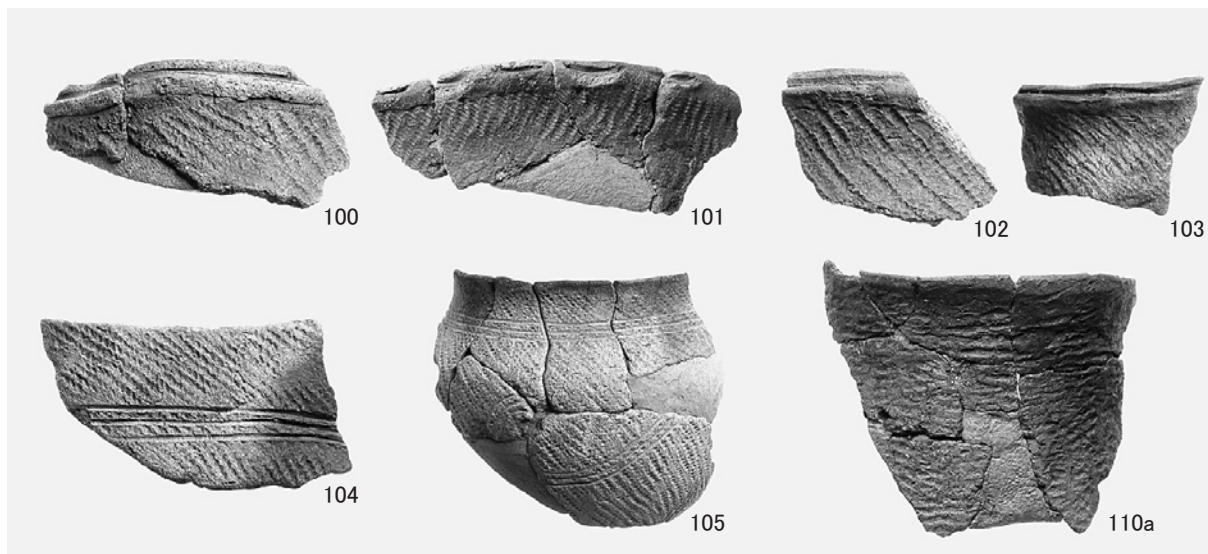


2. 包含層出土の土器 (7)

3. 包含層出土の土器 (8)



4. 包含層出土の土器 (9)



1. 包含層出土の土器 (10)



2. 包含層出土の土器 (11)



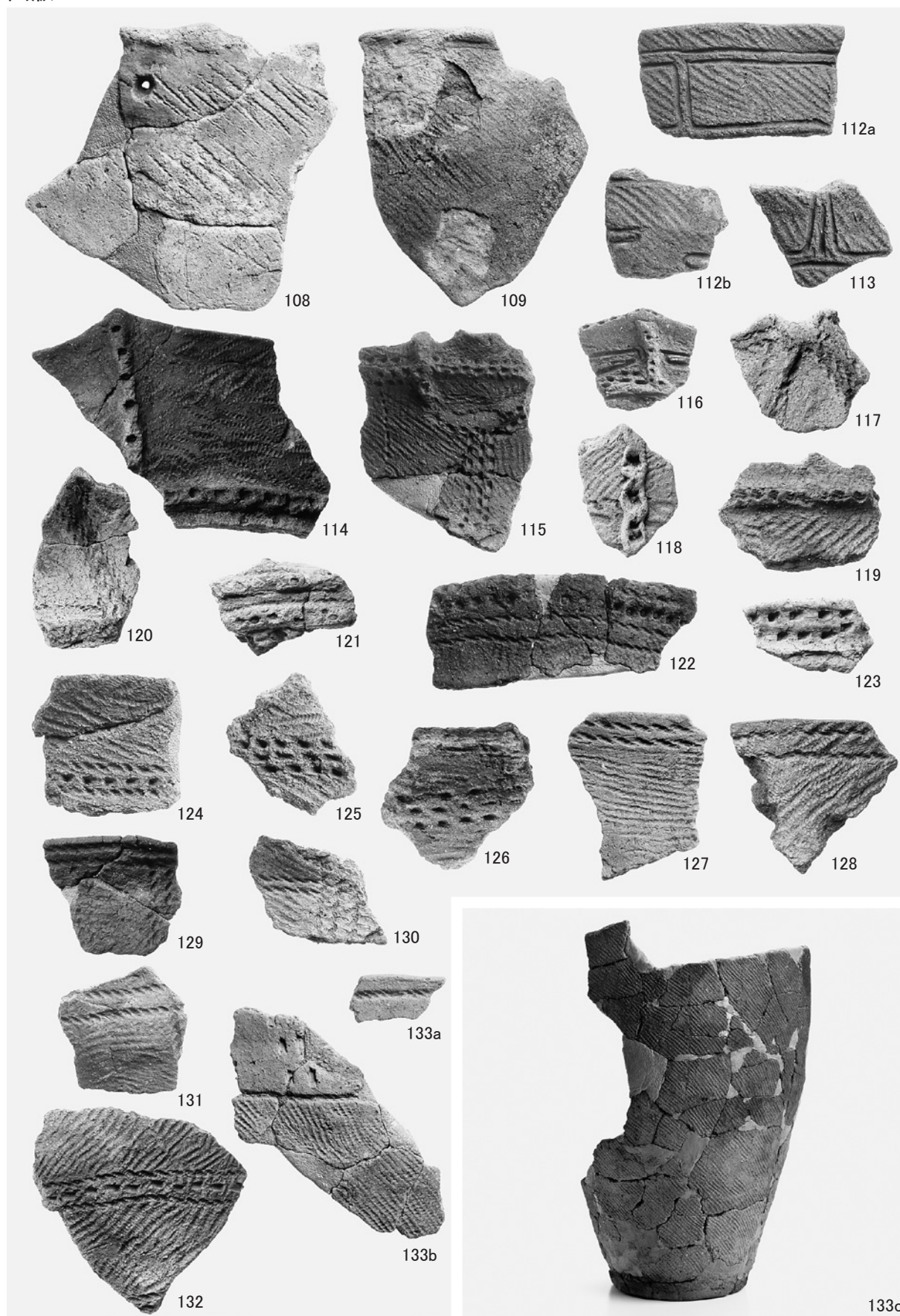
3. 包含層出土の土器 (12)



4. 包含層出土の土器 (13)

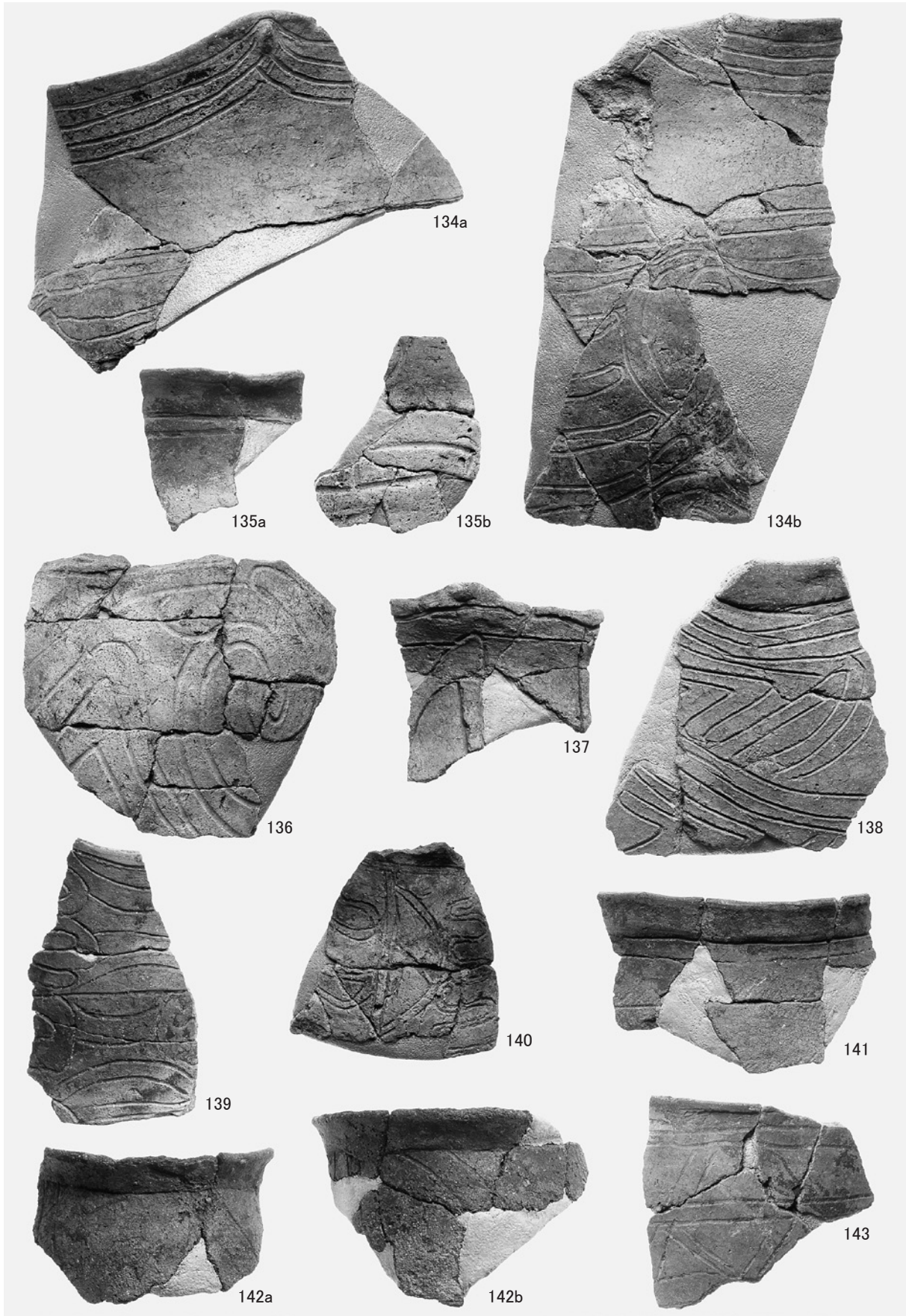


5. 包含層出土の土器 (14)



1. 包含層出土の土器 (15)

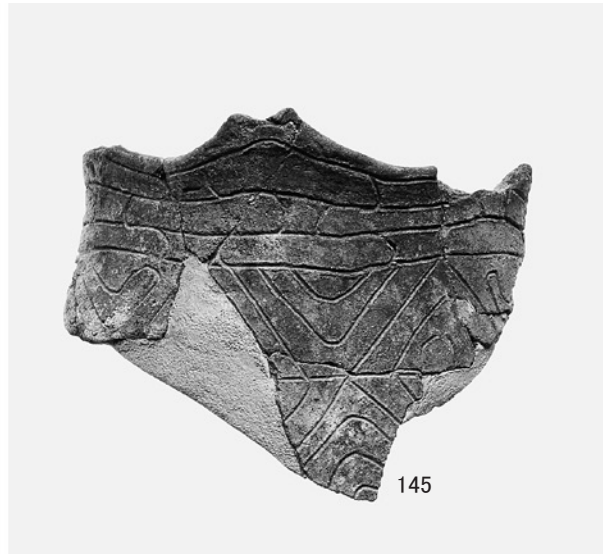
2. 包含層出土の土器 (16)



1. 包含層出土の土器 (17)

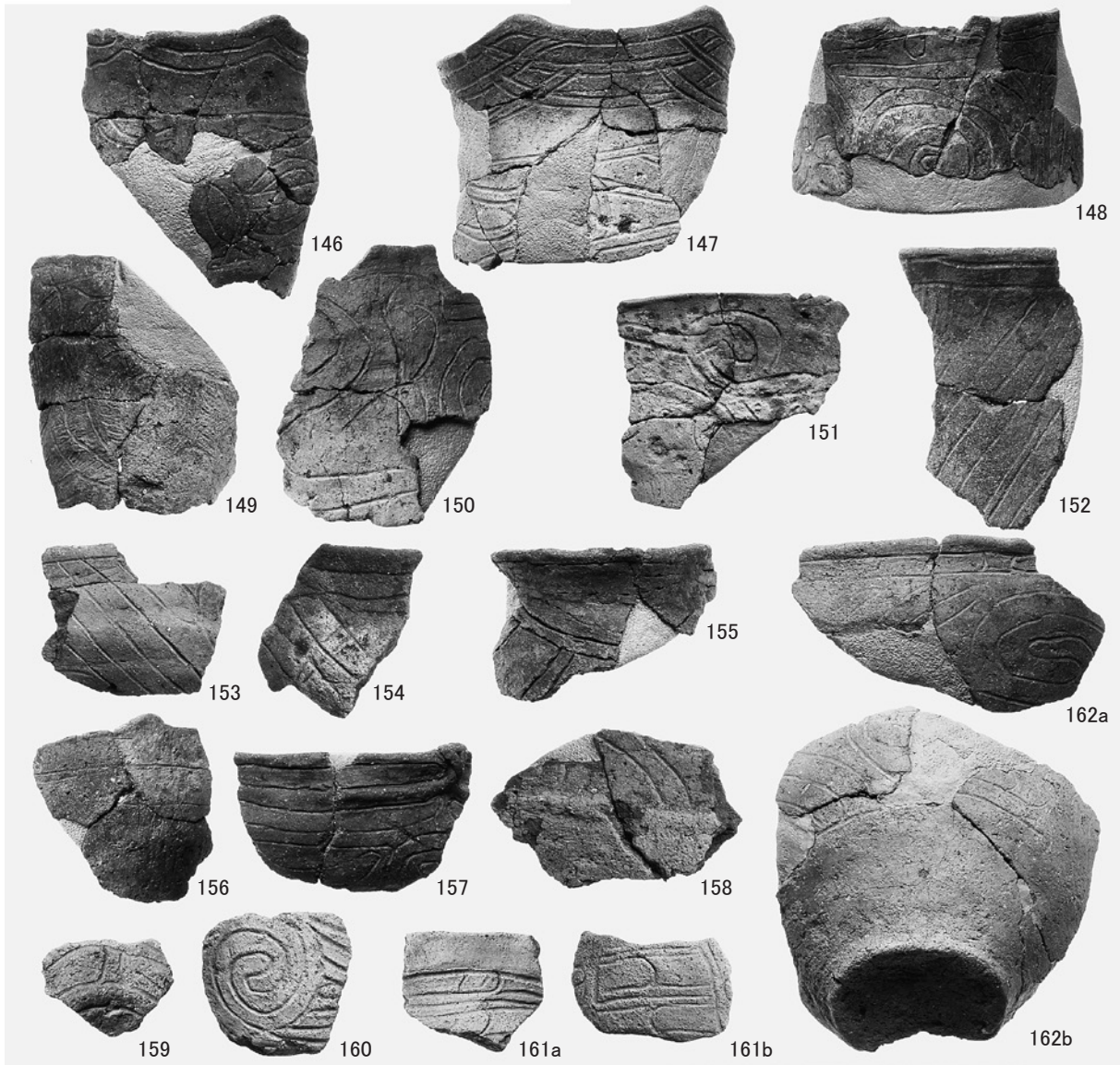


144

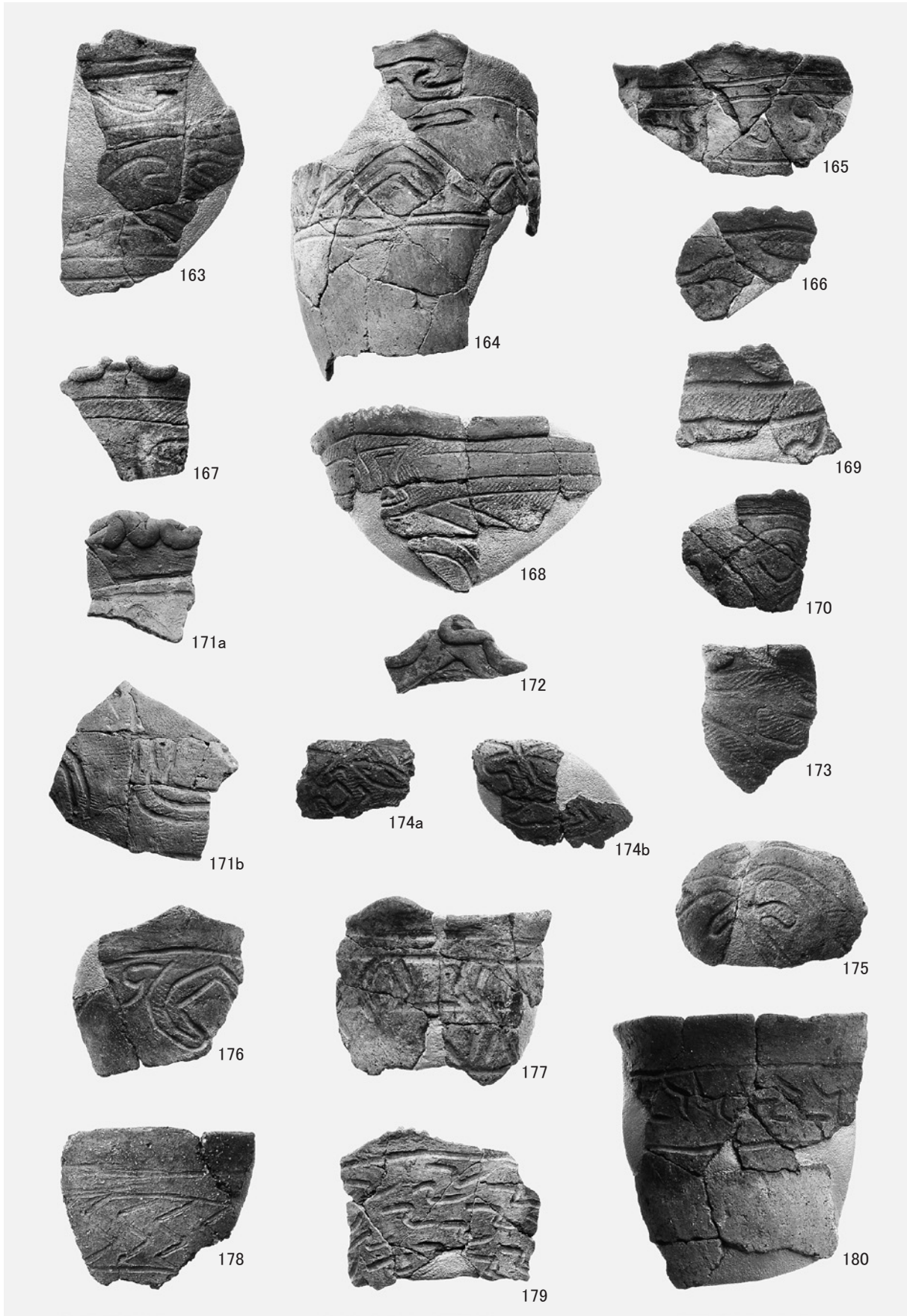


145

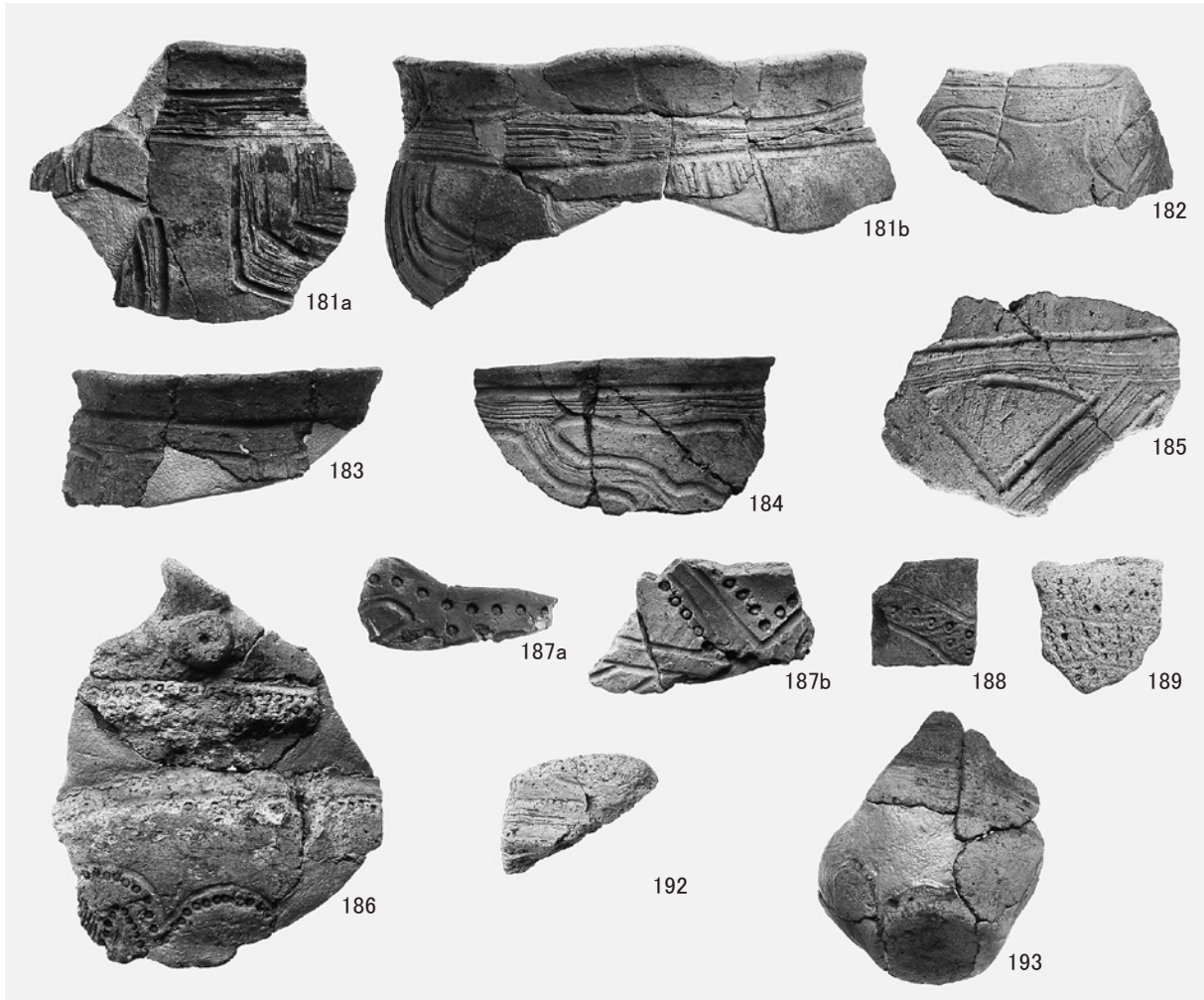
1. 包含層出土の土器 (18)



2. 包含層出土の土器 (19)



1. 包含層出土の土器 (20)



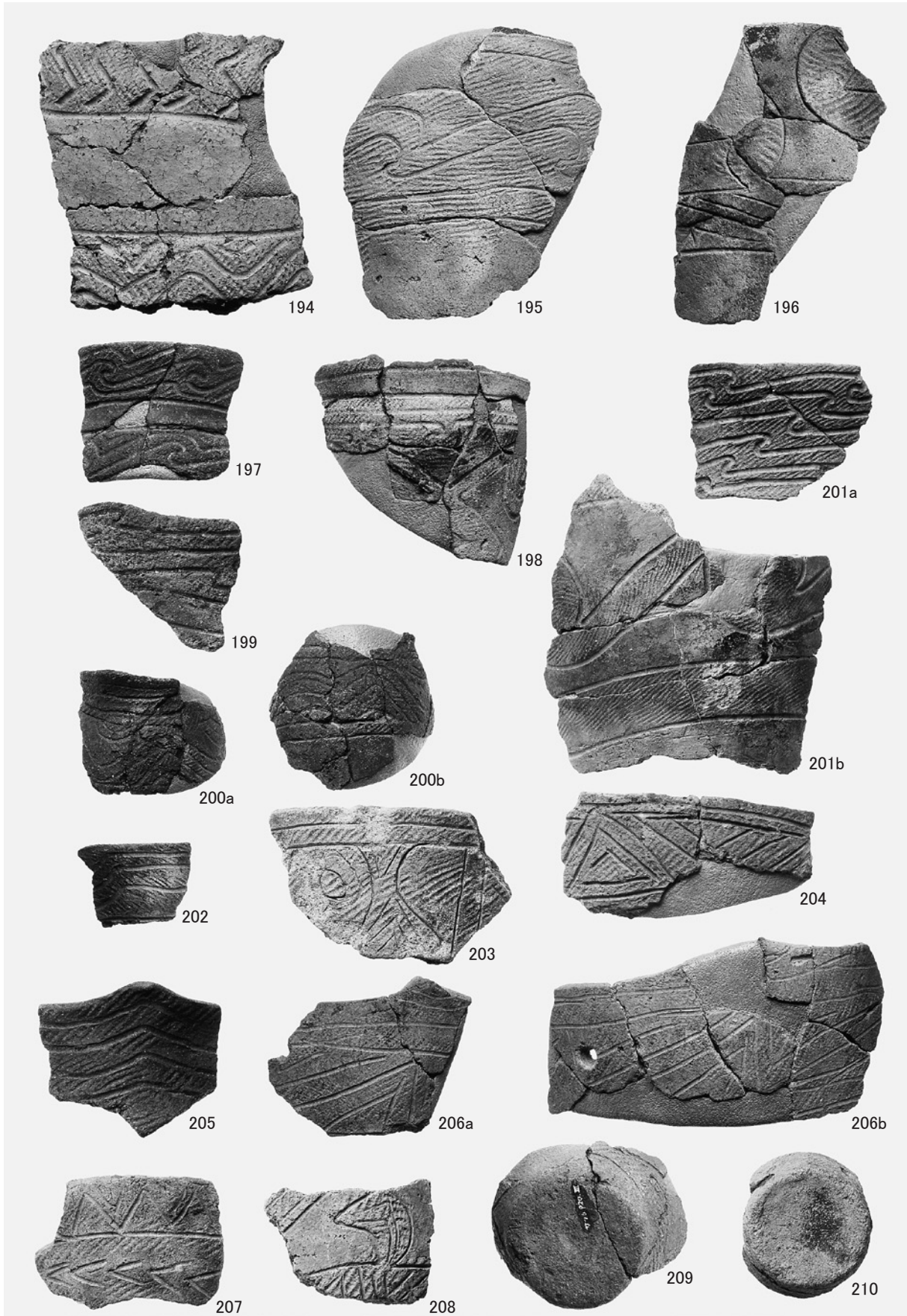
1. 包含層出土の土器 (21)



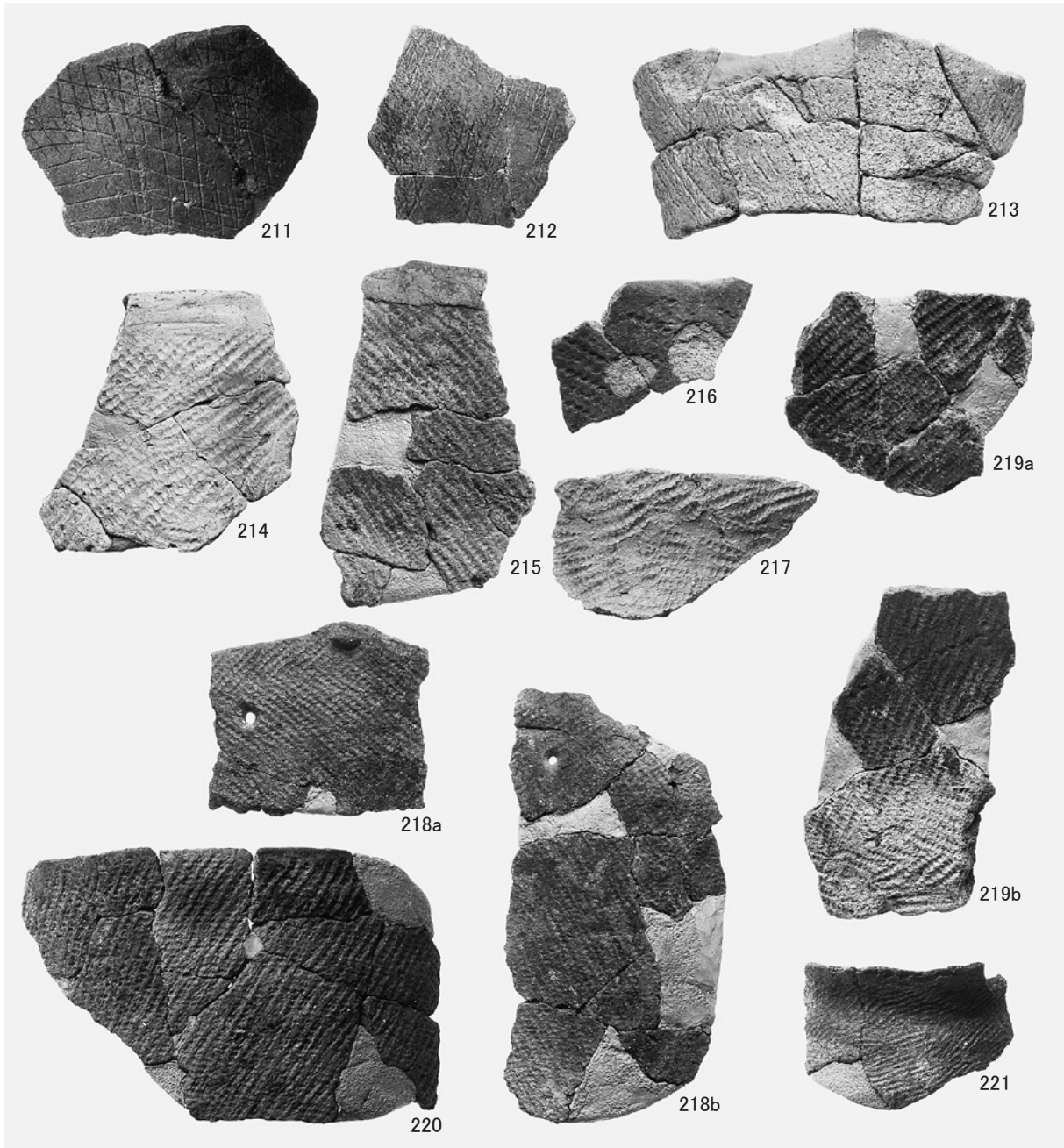
2. 包含層出土の土器 (22)



3. 包含層出土の土器 (23)



1. 包含層出土の土器 (24)



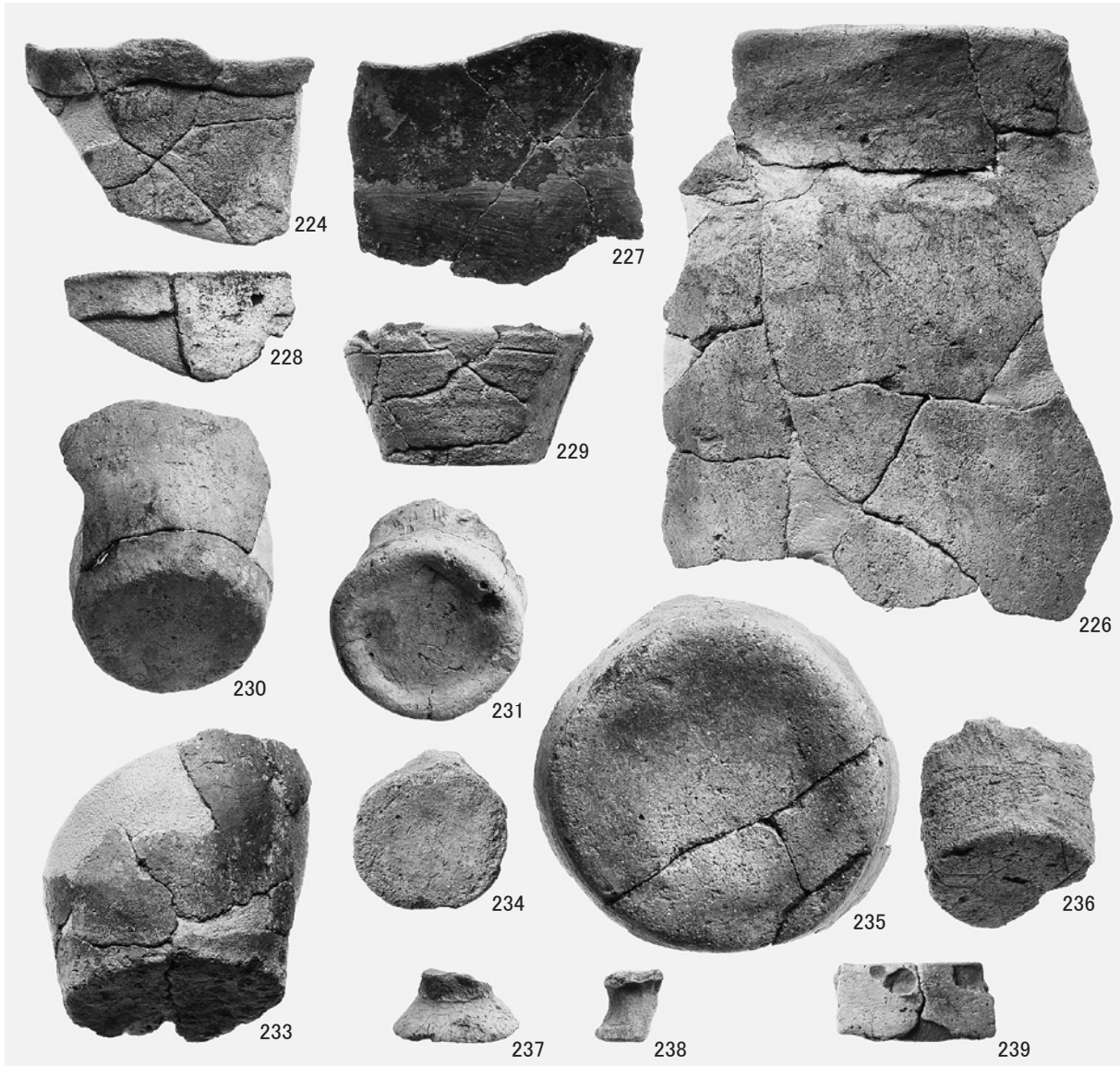
1. 包含層出土の土器 (25)



2. 包含層出土の土器 (26)



3. 包含層出土の土器 (27)



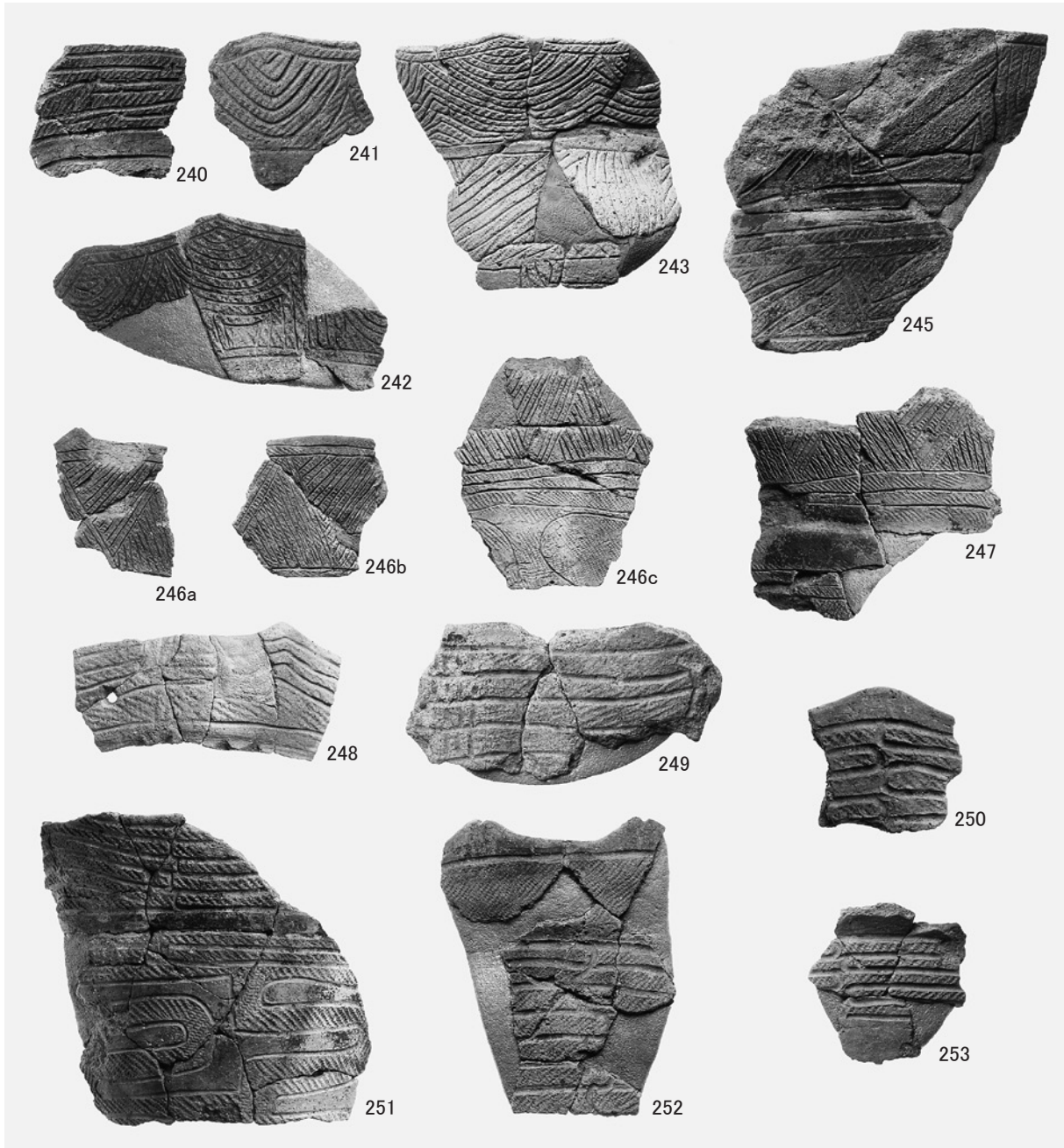
1. 包含層出土の土器 (28)



2. 包含層出土の土器 (29)



3. 包含層出土の土器 (30)



1. 包含層出土の土器 (31)



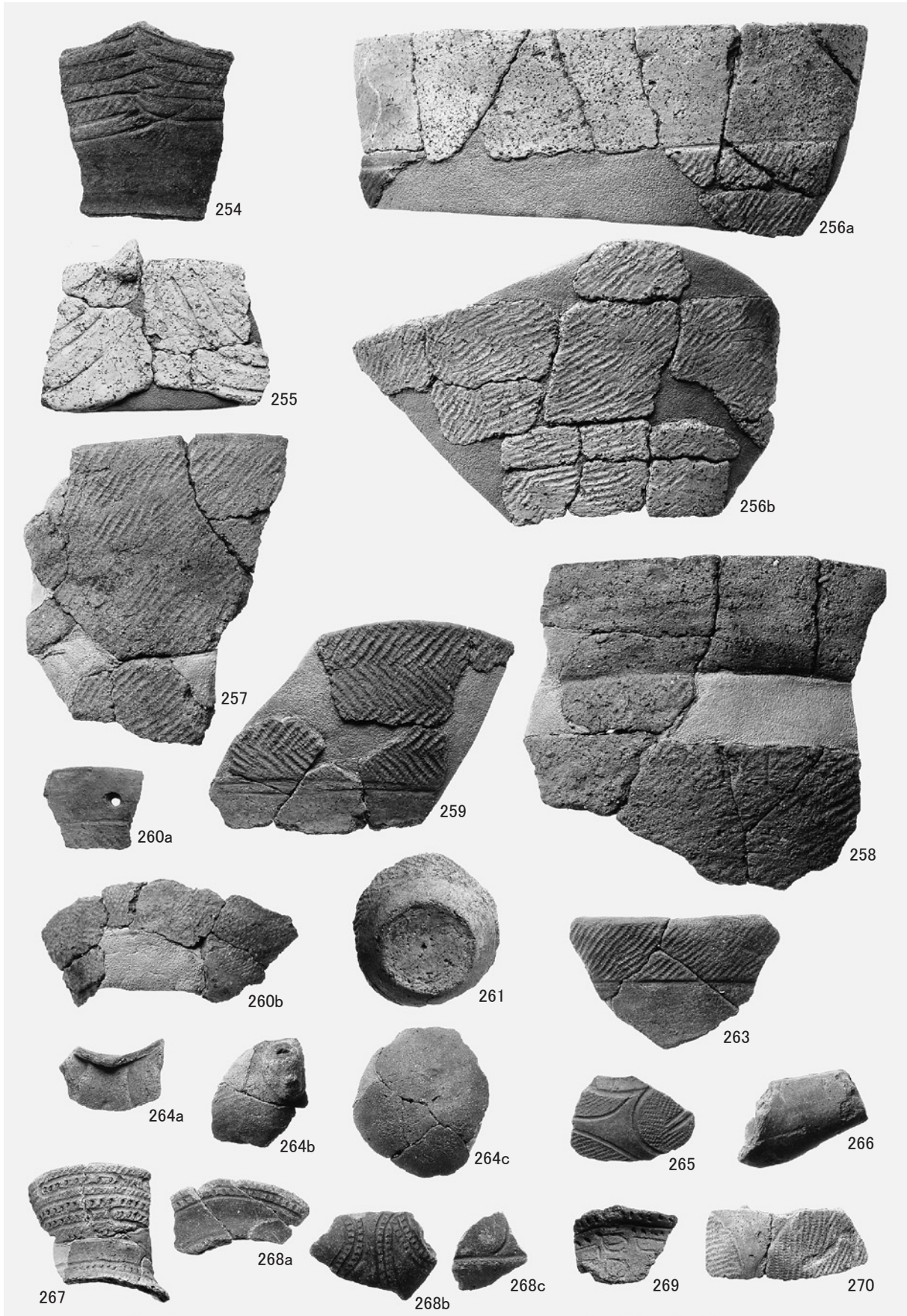
244

2. 包含層出土の土器 (32)

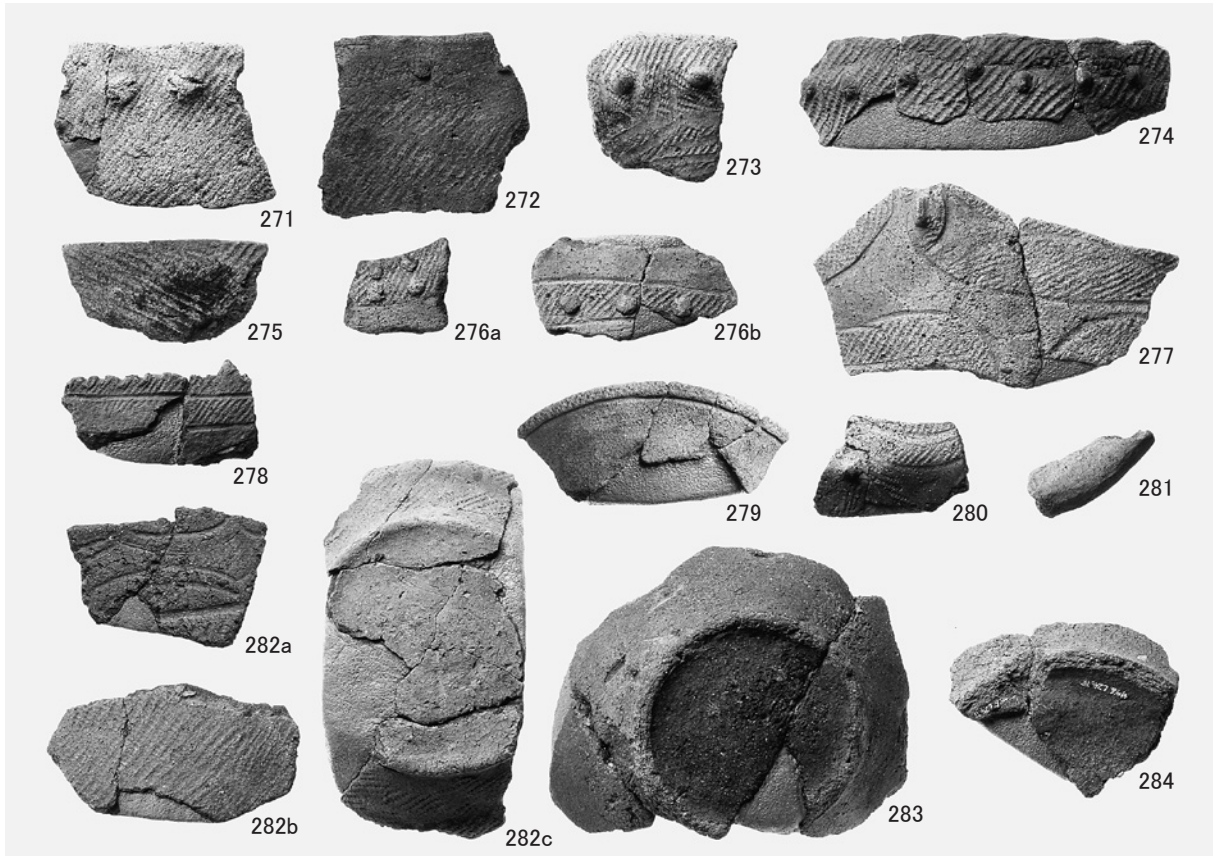


262

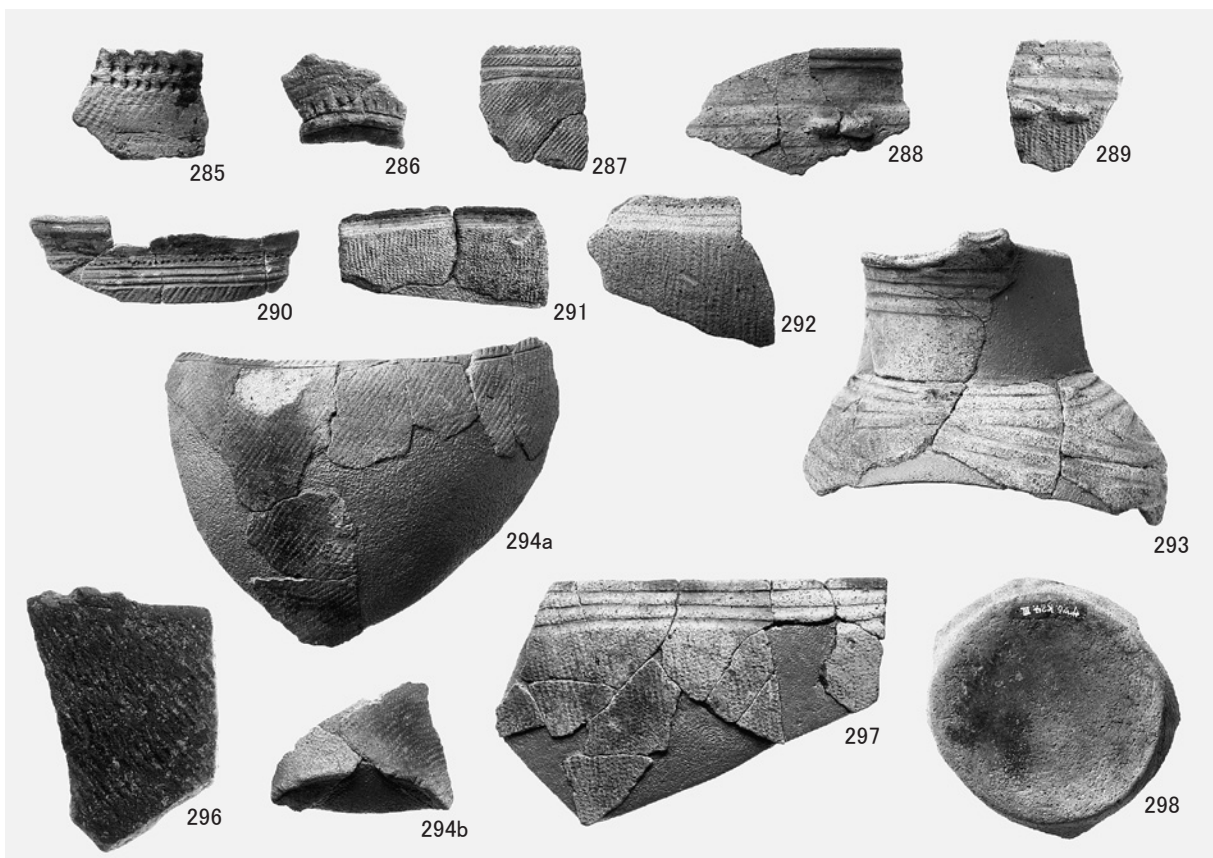
3. 包含層出土の土器 (33)



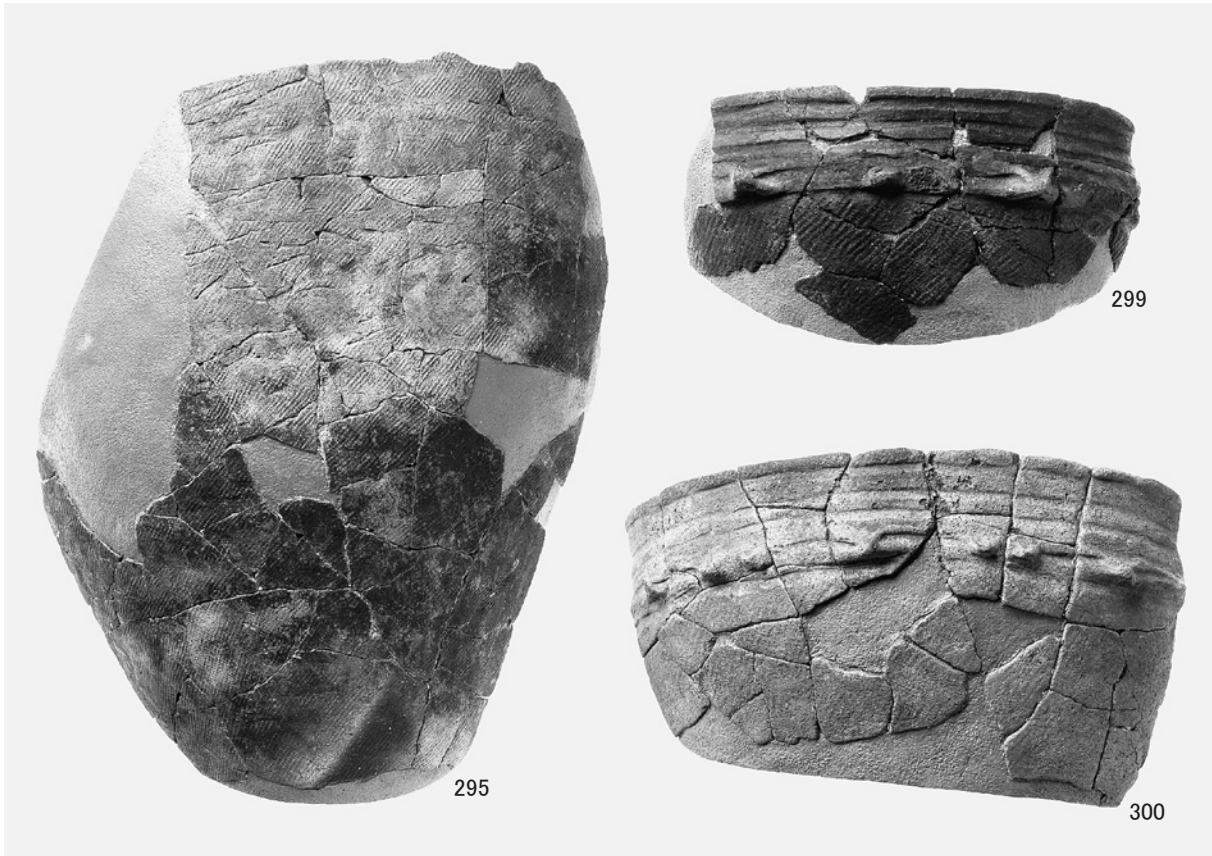
1. 包含層出土の土器 (34)



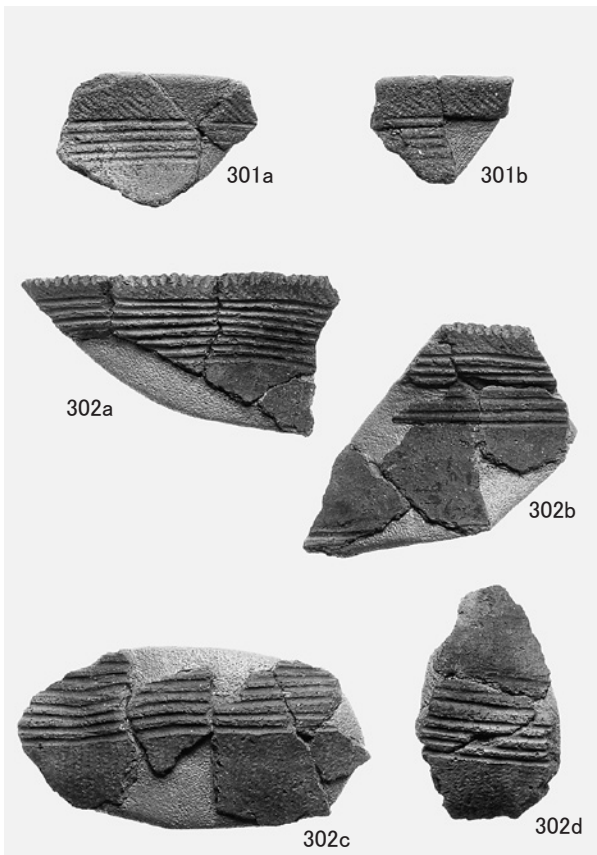
1. 包含層出土の土器 (35)



1. 包含層出土の土器 (36)



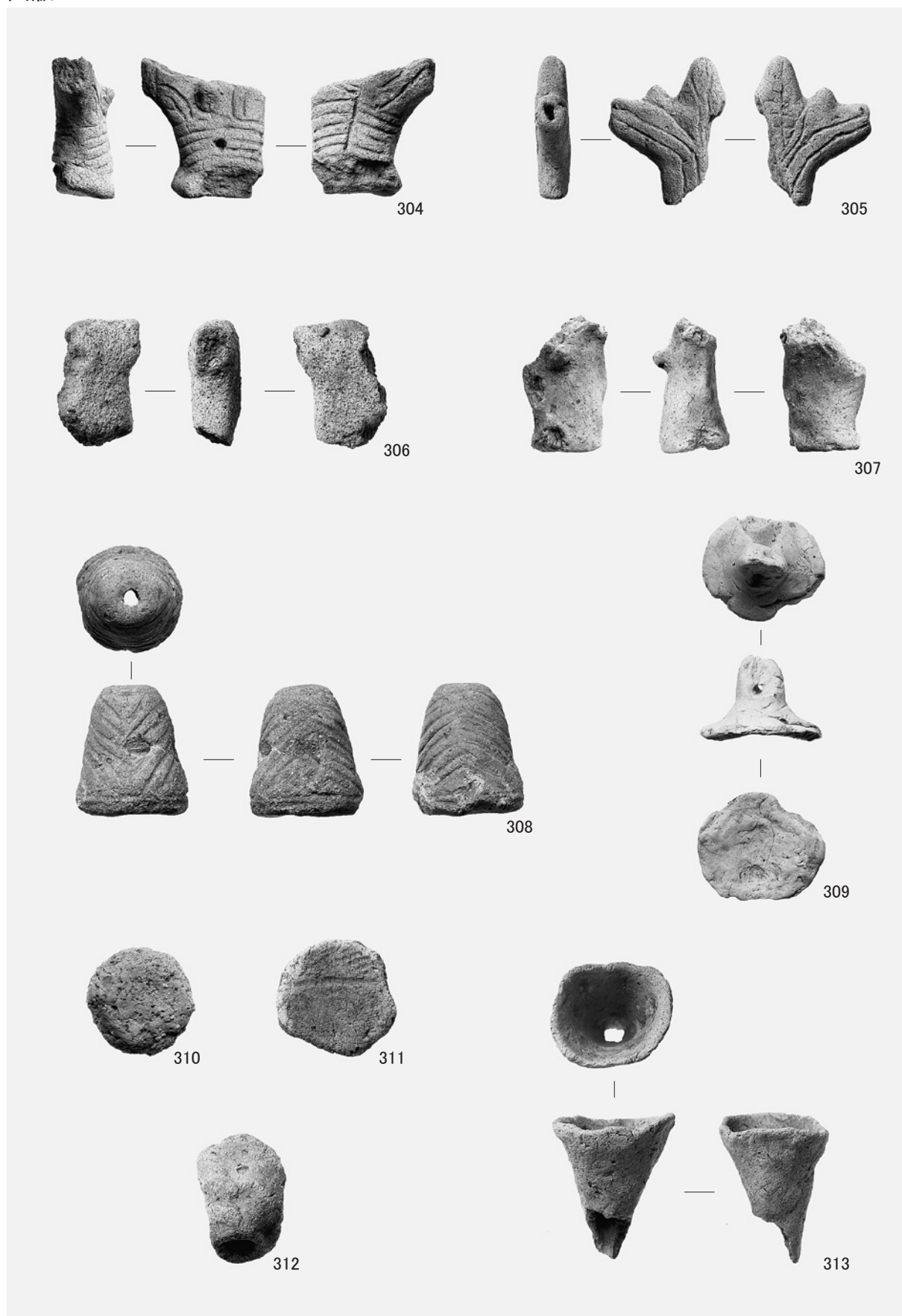
1. 包含層出土の土器 (37)



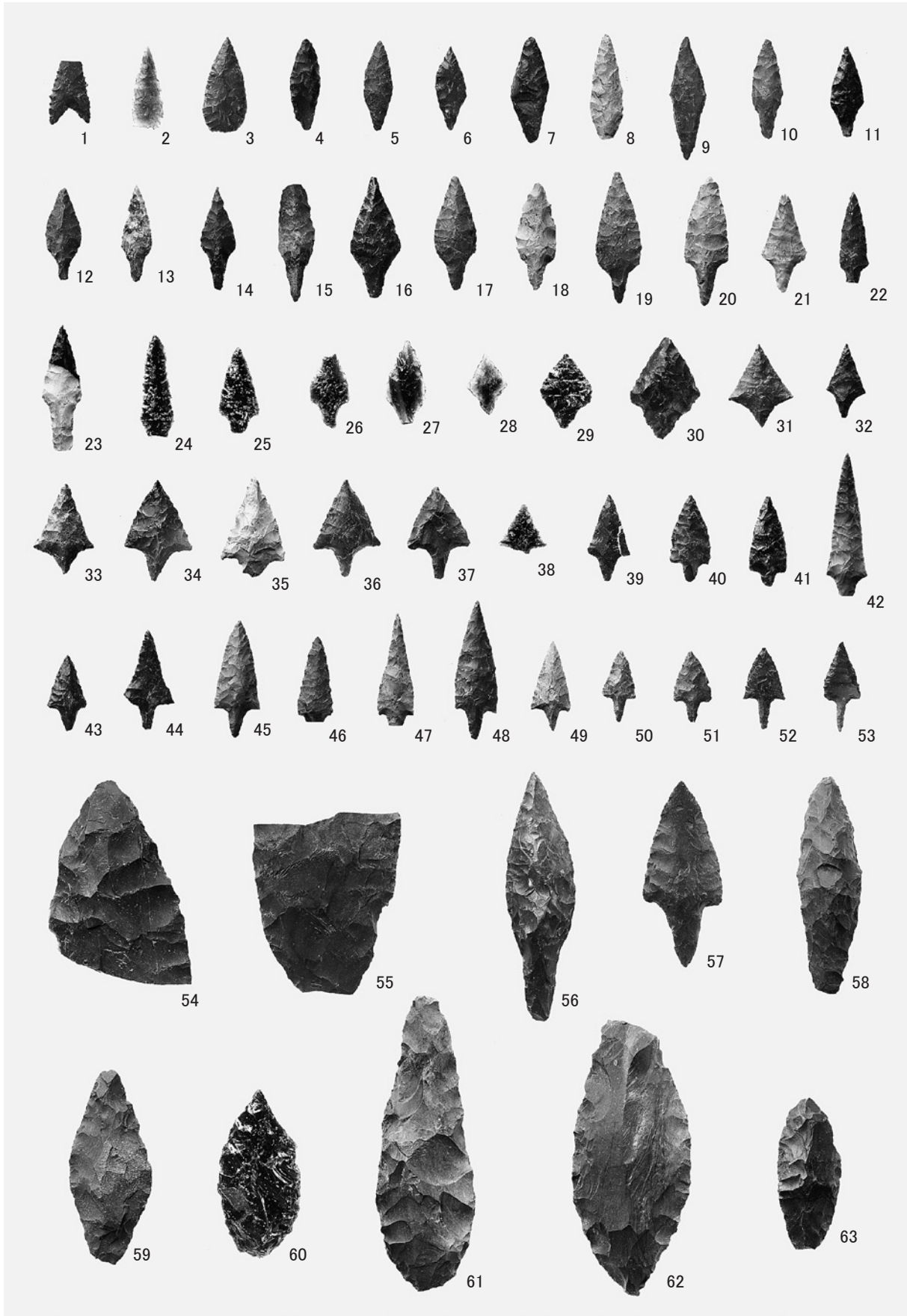
2. 包含層出土の土器 (38)



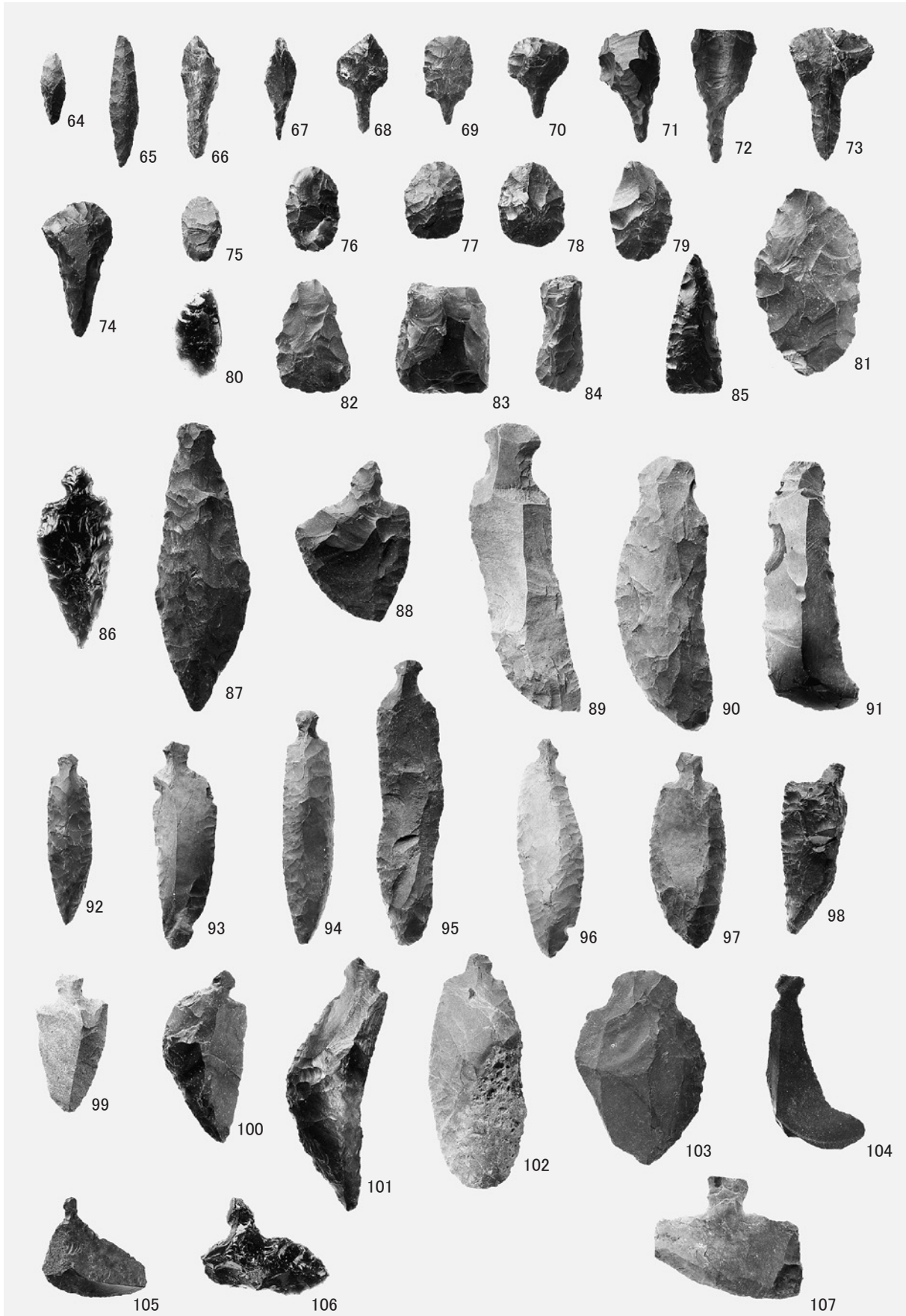
3. 現代遺物



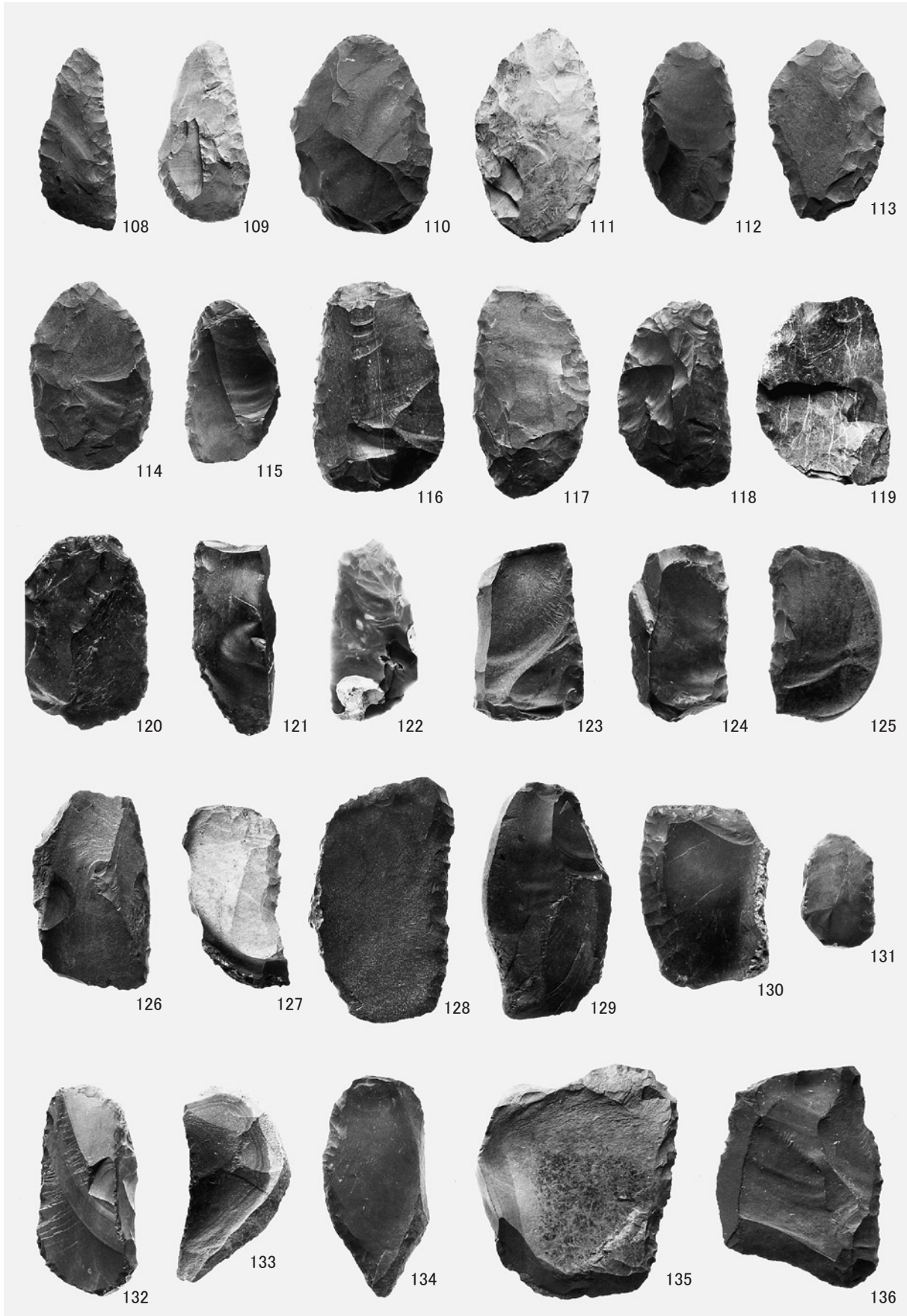
1. 包含層出土の土製品



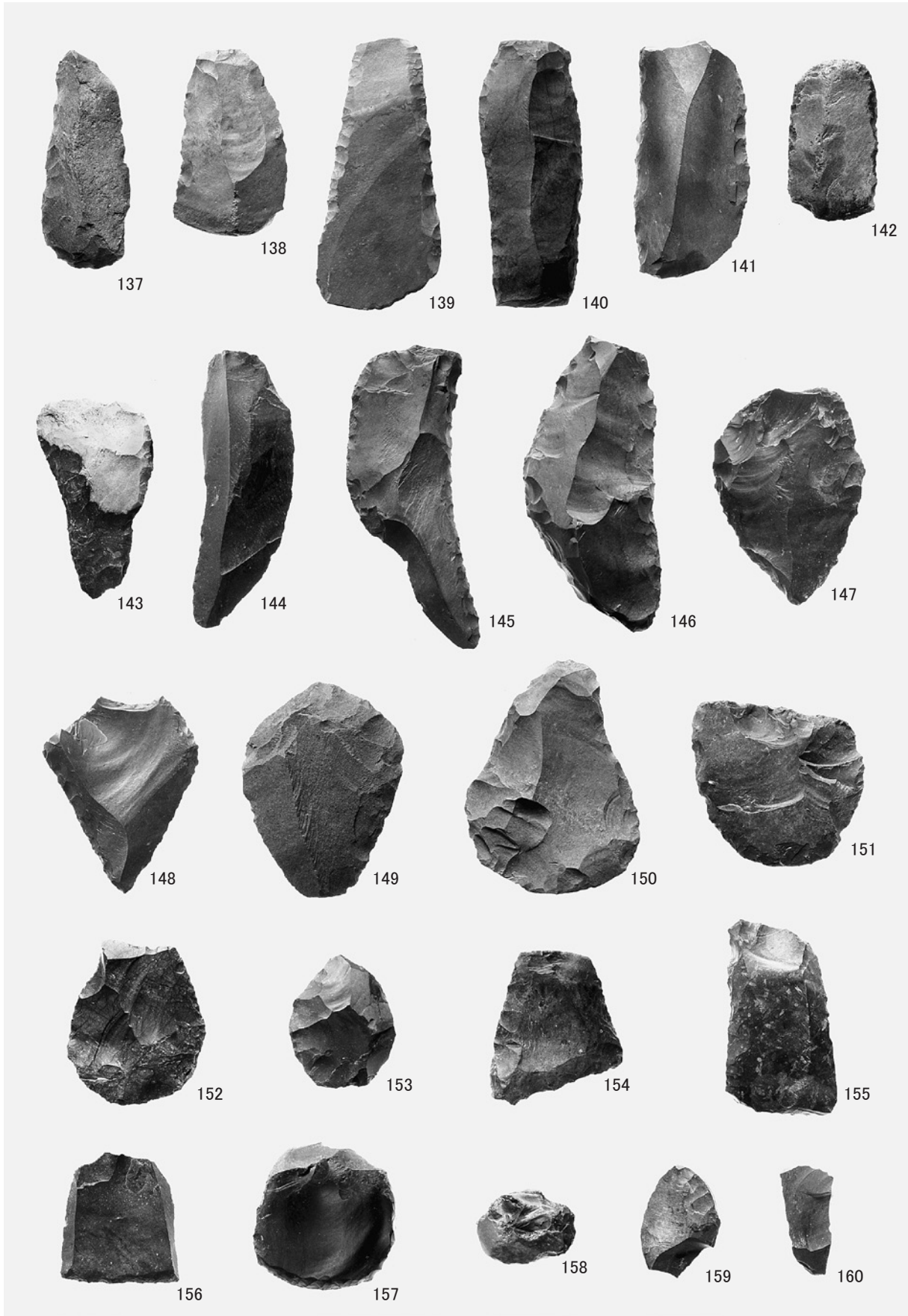
1. 包含層出土の石器 (1)



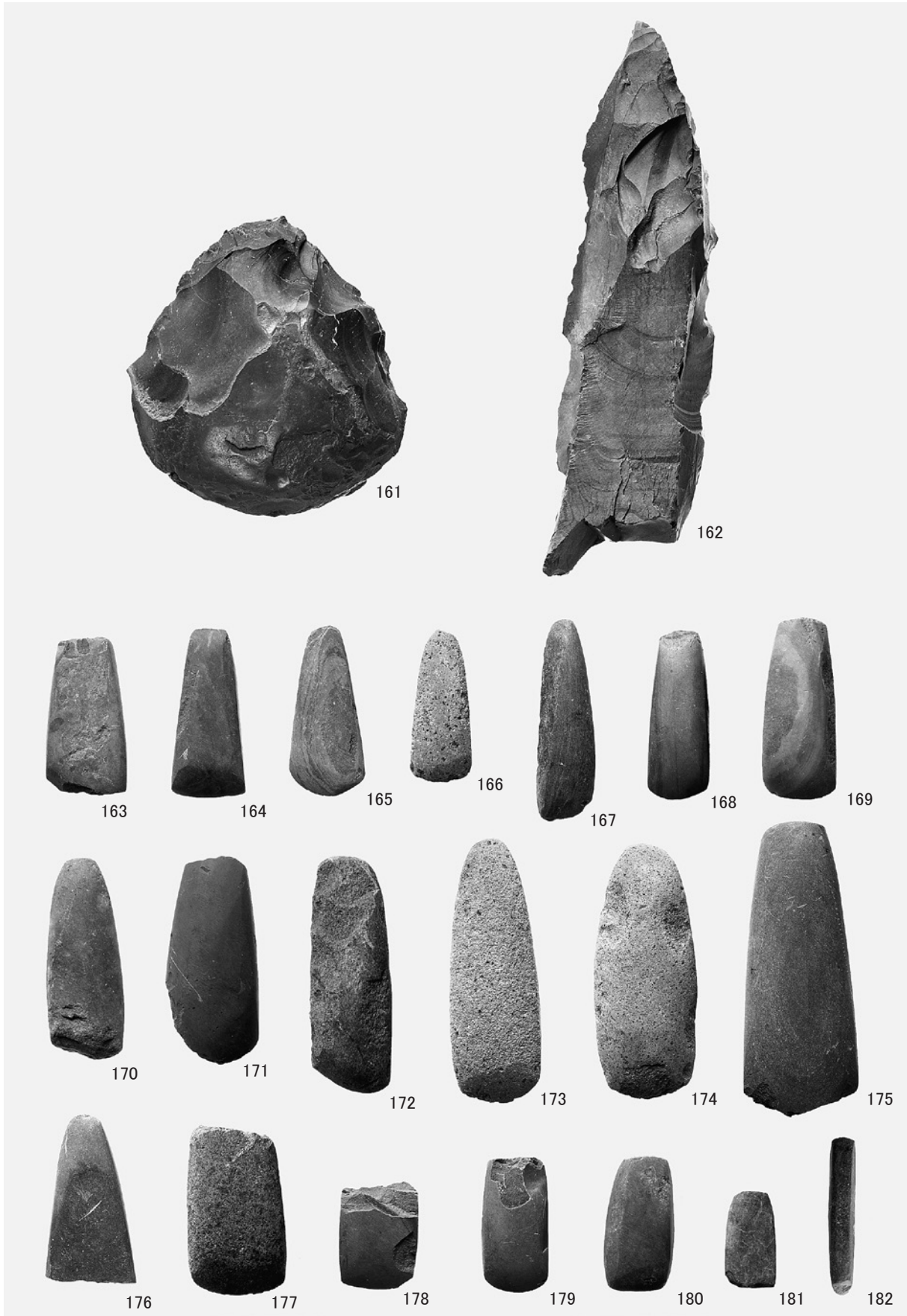
1. 包含層出土の石器 (2)



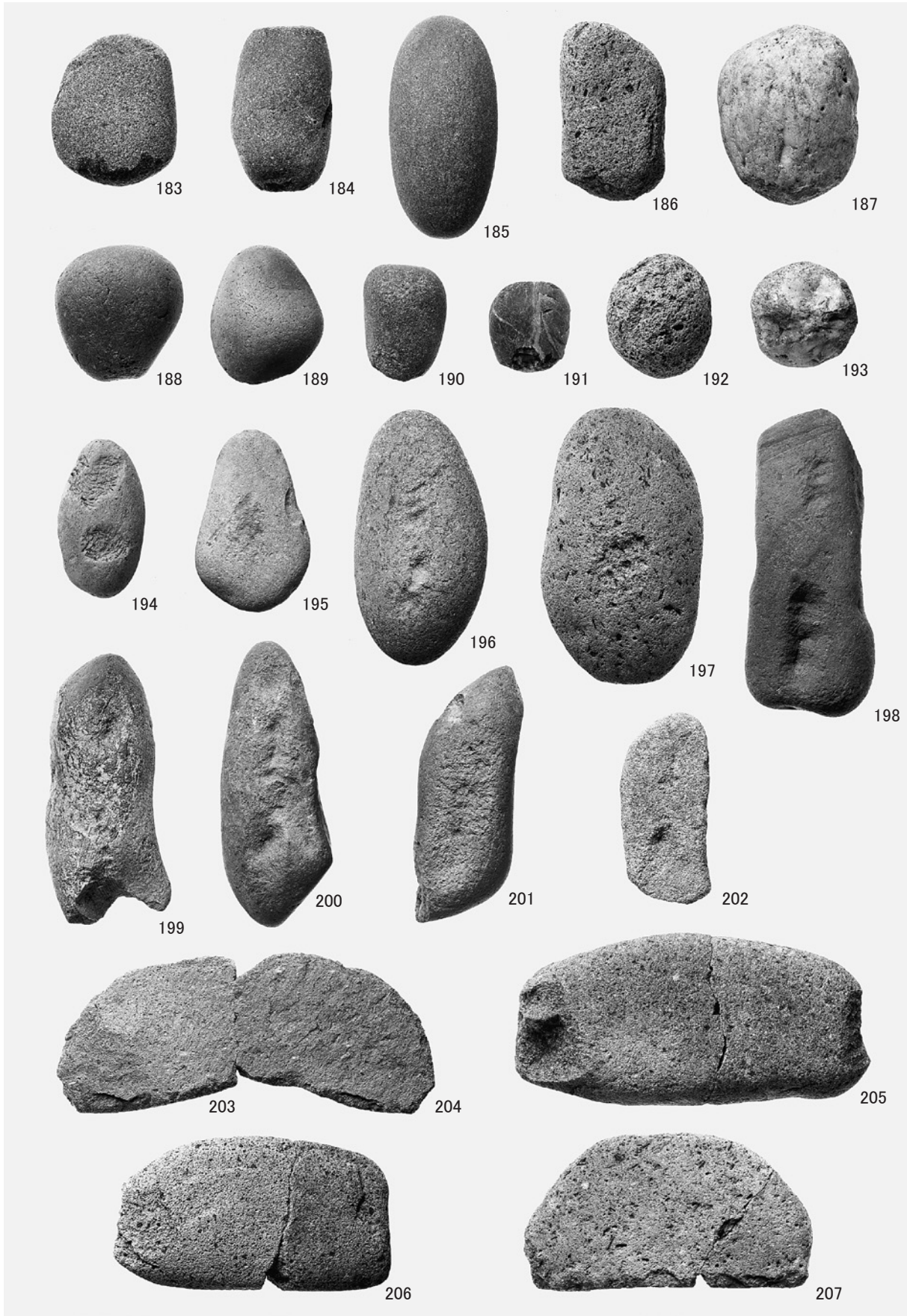
1. 包含層出土の石器 (3)



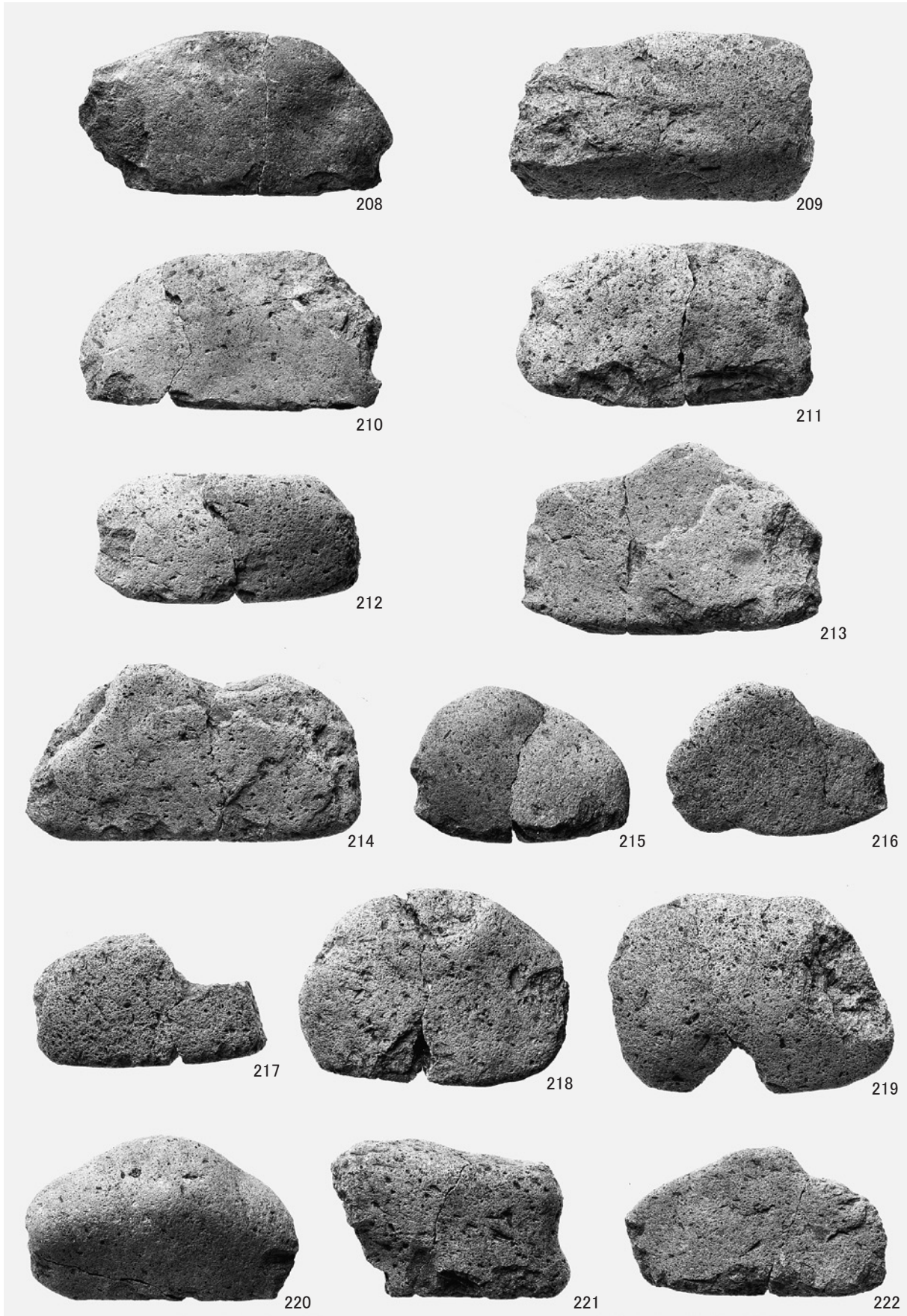
1. 包含層出土の石器 (4)



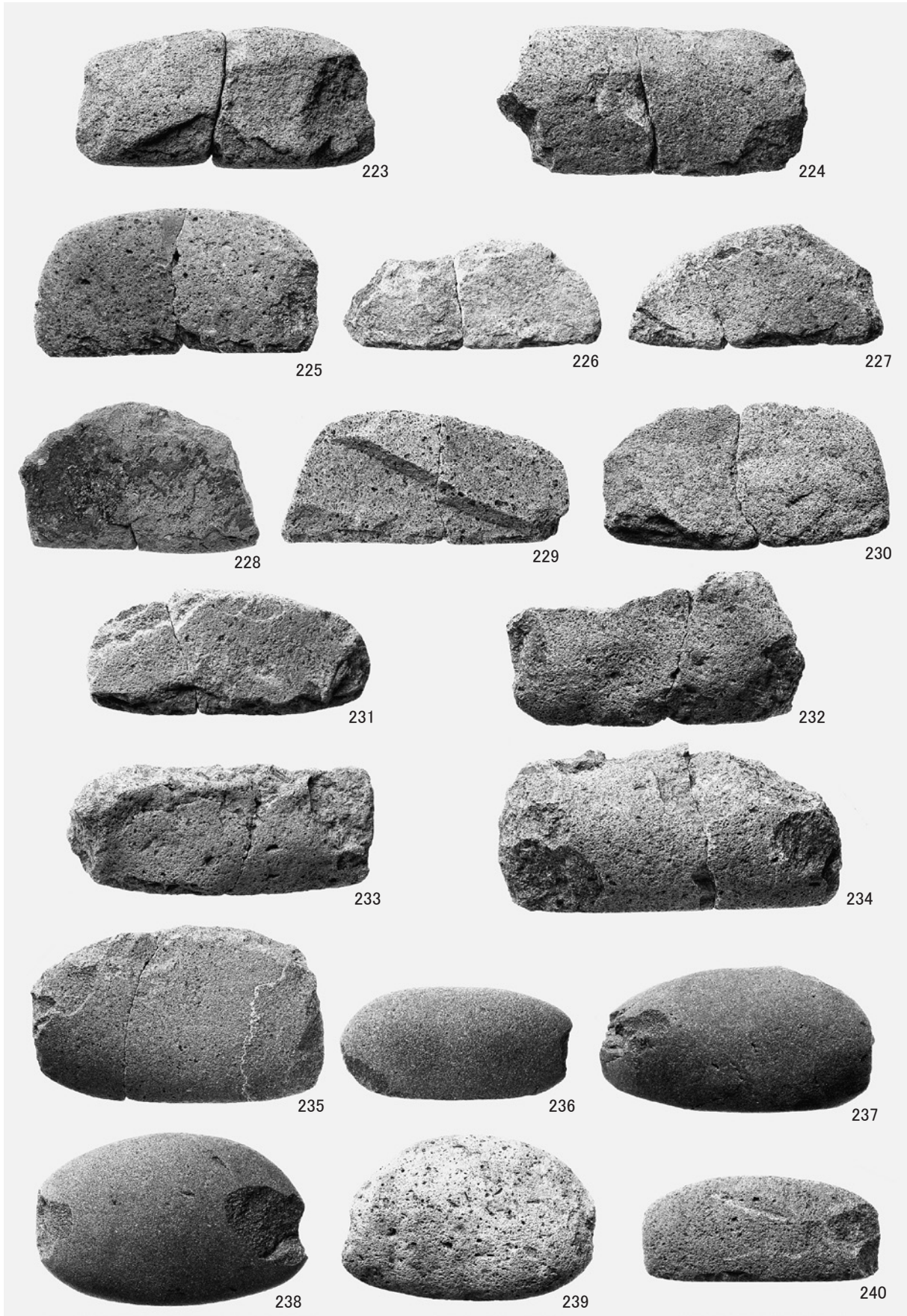
1. 包含層出土の石器 (5)



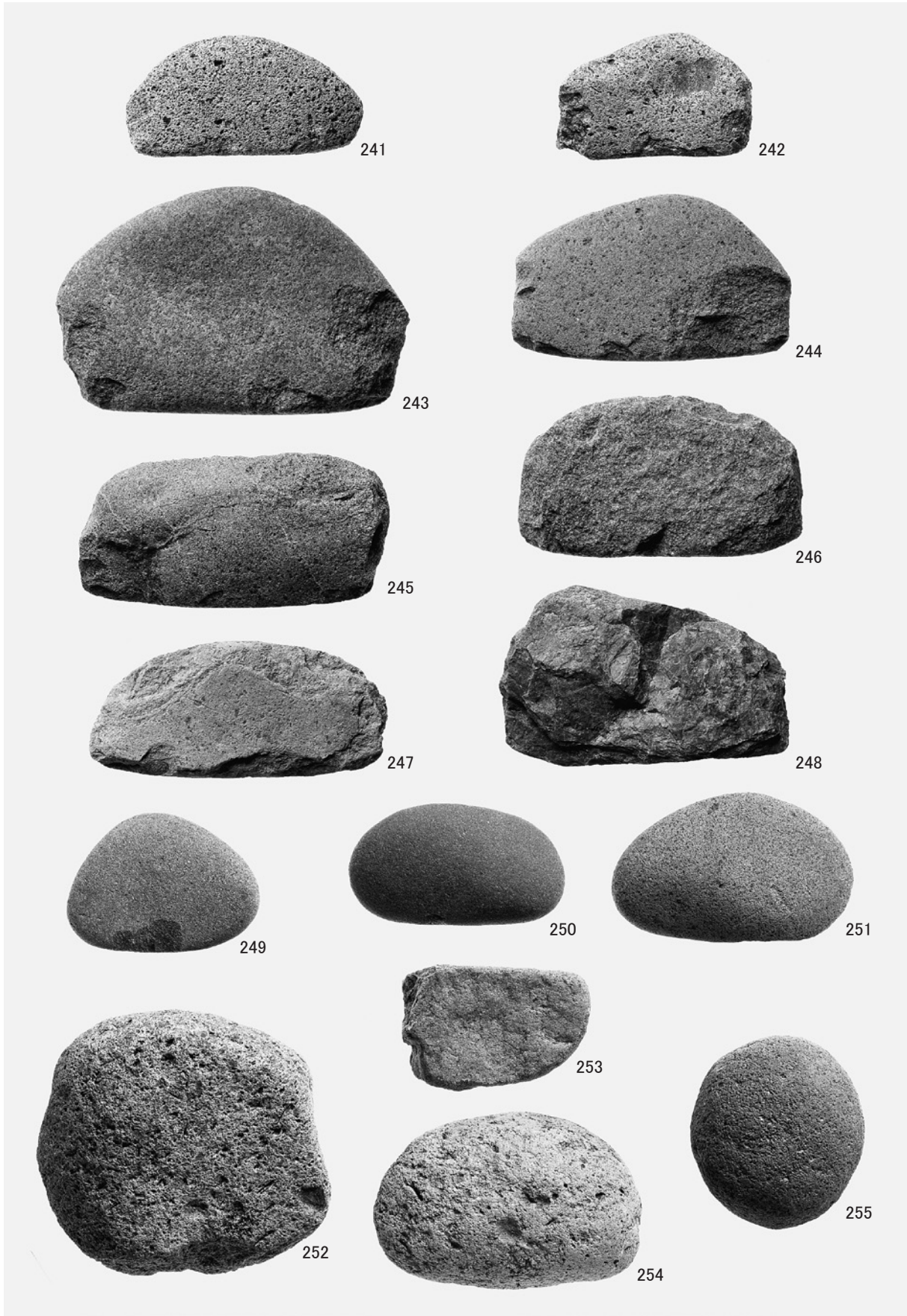
1. 包含層出土の石器 (6)



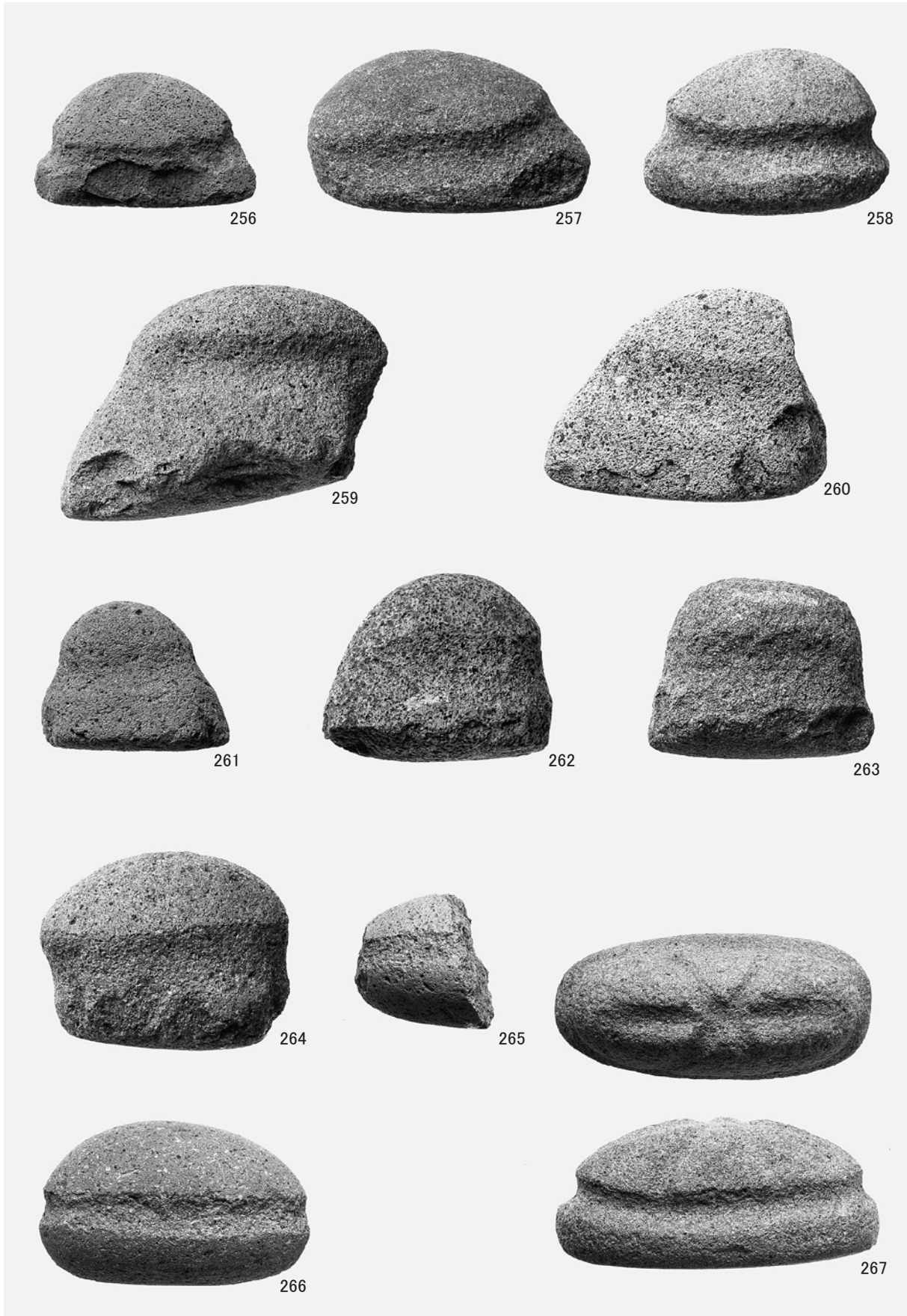
1. 包含層出土の石器 (7)



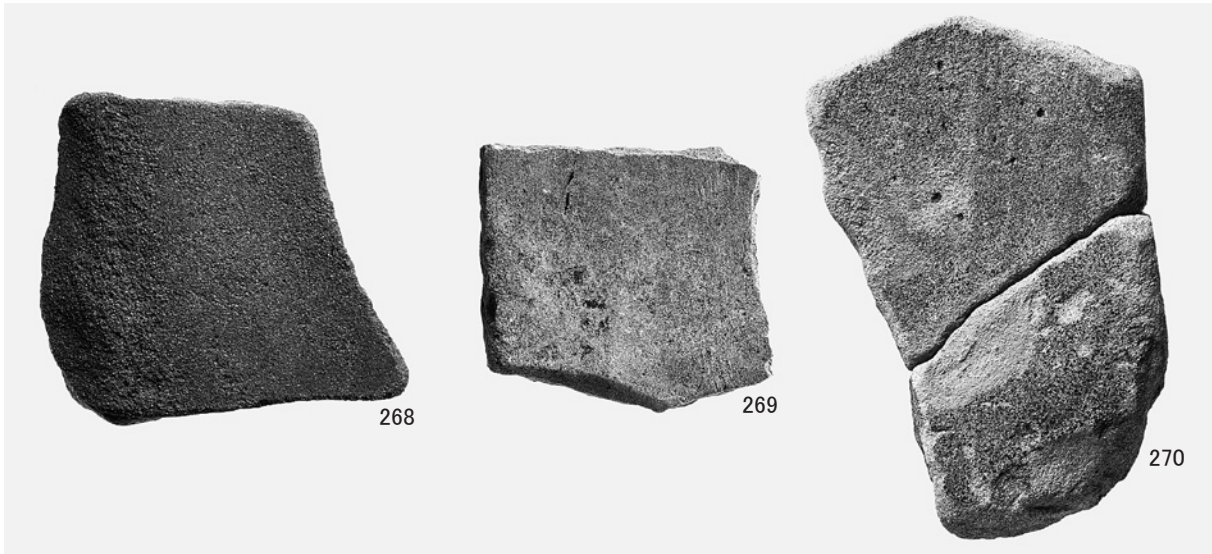
1. 包含層出土の石器 (8)



1. 包含層出土の石器 (9)



1. 包含層出土の石器 (10)



1. 包含層出土の石器 (11)



271

2. 包含層出土の石器 (12)



272

3. 包含層出土の石器 (13)



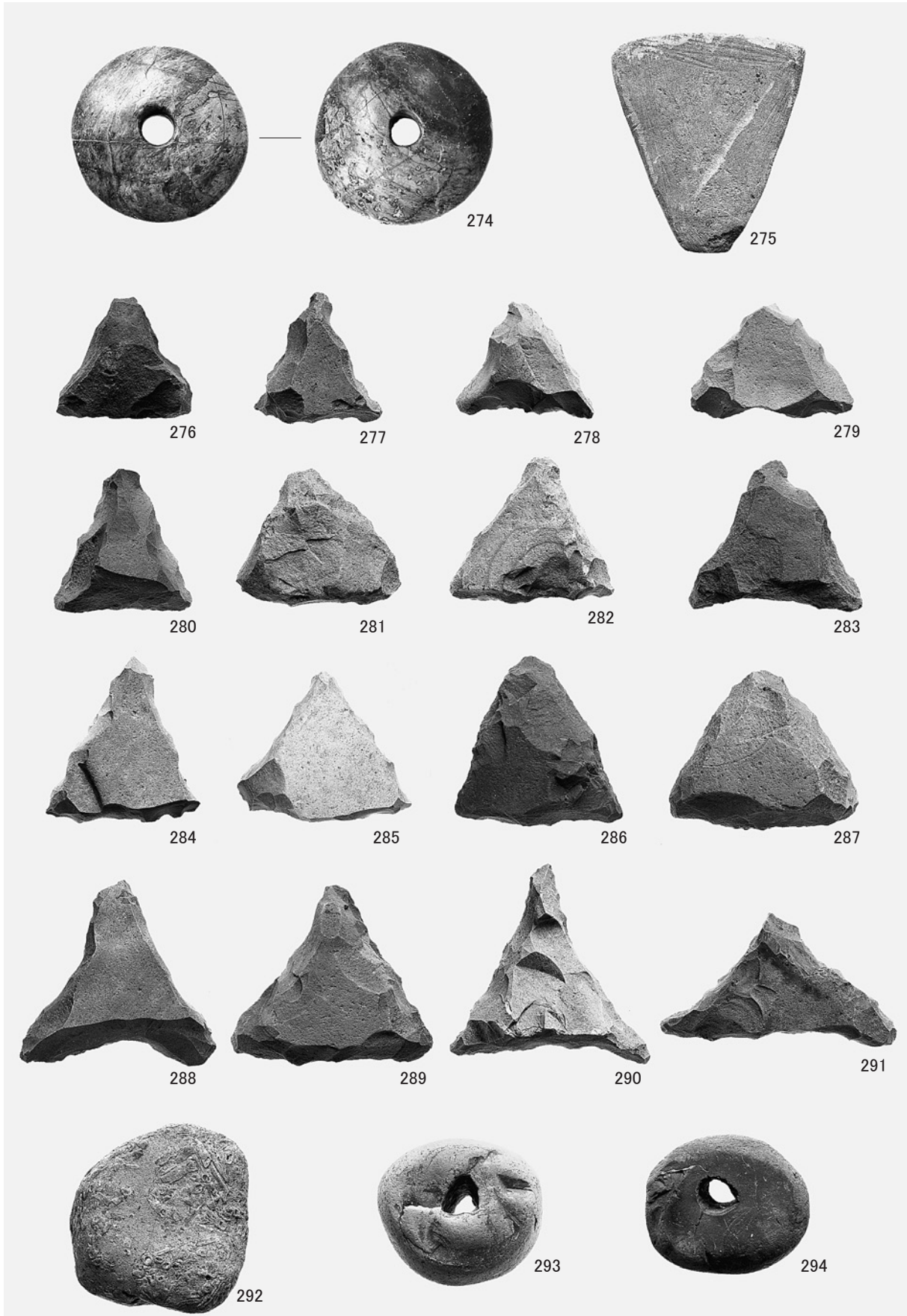
273

4. 包含層出土の石器 (14)



295

5. 包含層出土の石器 (15)



1. 包含層出土の石製品ほか

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう さつかりろくいせき							
書名	木古内町 札苺6遺跡							
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第301集							
編著者名	土肥研晶、阿部明義、富永勝也							
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	西暦 2014年1月31日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さつかり いせき 札苺6遺跡	ほっかいどう 北海道 かみいそぐん 上磯郡 きこないちょう 木古内町 あどさつかり 字札苺 577-2ほか	01334	49	41° 42' 11"	140° 28' 7"	20110509 ～ 20111028	2,758㎡	高規格道路建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
札苺6遺跡	集落跡	縄文時代中期 ～後期	竪穴住居跡 土坑 焼土 遺物集中	土器(サイベ沢Ⅶ式・見晴町式・トリサキ式・大津式ほか) 土製品(土偶・土製円盤ほか) 石器(石鏃・石槍・ナイフ類・スクレイパー類・石斧・砥石・たたき石・扁平打製石器・すり石・台石ほか) 石製品(大珠・三脚石器ほか)			縄文時代晩期以降の地割れ検出	
要約	<p>札苺6遺跡は木古内町市街地の北東約4kmに位置する。標高約17～20mの海成段丘上および標高約20～24mの丘陵斜面(崖錐地形)に立地し、東西に小沢がある。調査の結果、縄文時代中期半ばと後期前葉の集落跡を確認した。</p> <p>遺構は調査区西側を主体に分布し、竪穴住居跡13軒・土坑71基・焼土20か所などが検出された。縄文中期半ばの竪穴住居は長径2～3mの楕円形で掘り込みが深く、縄文後期前葉のものは径4～5mの円形で掘り込みが浅い。総じて、地床炉は確認できるが柱穴は不明確である。土坑は径60～100cmの円形で、深さが50cm前後の定形的なものが多い。覆土の上位に焼土を伴うものが多数見られる。また北海道式石冠などの礫石器や大型の礫を内包するものも複数ある。土坑の時期は縄文前期～晩期であるが、中期半ばが主体とみられる。</p> <p>遺物は土器・石器等約20万点が出土した。土器は縄文前期～晩期、特に中期半ばと後期前葉のものが多く出土している。石器の中では特に扁平打製石器が数多く出土している。また土製品では縄文中期の土偶、石製品では三脚石器のほか、大珠が出土した。</p>							

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第301集

木古内町 札苅6遺跡

—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 平成26(2014)年1月31日
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
E-mail mail@domaibun.or.jp
URL <http://www.domaibun.or.jp>

印刷 山藤三陽印刷株式会社
〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1
TEL (011)661-7161(代) FAX (011)661-9570(代)